ふじみ野市埋蔵文化財調査報告　第 26 集

埼玉県ふじみ野市

市内遺跡群 25

2021 年 3 月

ふじみ野市教育委員会

はじめに

ふじみ野市は、都心から３０km 圏内という立地条件にあるため、昭和３０年代ごろから急激な開発の波が押し寄せ、企業の工場や研究所の進出、住宅の建設ラッシュ、大規模都市基盤整備事業が計画・実施され、人口の増加も伴って周辺の自然・社会の環境は大きく変化しています。

市内には、権現山古墳群や福岡河岸記念館、復元大井戸跡や旧大井村役場など、多くの文化財が存在し、２万数千年前の旧石器時代から現代までの永い歴史をみることができます。

本報告書は、国・県からの補助金と民間開発に伴い各事業者の皆様からの費用負担を受けて実施した、「市内遺跡発掘調査」の成果を記録した報告書です。

今回、市内で発掘調査された成果を一冊の冊子にまとめることが出来ました。その成果は、店舗や住宅建設などの開発に伴い発掘されたものです。永い歴史の中で繰り返し住まいの地として利用されるということは、いつの時代でも、ふじみ野の地が住み良い土地であることの証明ともいえます。

こうして発見された新たな歴史の一部である貴重な文化財を、「人がつながる　豊かで住み続けたいまち　ふじみ野」の実現のため、将来にわたって保存・継承し、地域の皆様や子供たちが、生涯にわたって地域の歴史や文化を学び続けられるよう目指してまいります。貴重な文化財と共に、本書が将来にわたって活用されれば幸いです。

おわりに、土地所有者、開発関係者の皆様には多大なご負担とご協力を賜りました。地域の文化財保護・保存についてのご理解をいただいたことに対し、深甚なる敬意と感謝を申し上げます。また、調査から本書刊行に至るまで、文化庁、埼玉県教育委員会文化資源課、市関係各課、調査関係者、そして各事業者の多くの皆様から、ご指導やご協力をいただきました。誌上をもって厚くお礼を申し上げます。

ふじみ野市教育委員会
教 育 長　朝 倉　孝

例　言

1．本書は、埼玉県ふじみ野市内に所在する遺跡群の 2018（平成 30）・2019（平成 31・令和元）年度の試掘調査と発掘調査の報告書である。

2．2018（平成 30）年度に行った試掘調査、発掘調査および整理作業は総経費 7,201,485 円に対し国庫補助金（3,600,000 円）、県費（1,800,000 円）の補助金の交付を受け、2018（平成 30）年 4 月 1 日～ 2019（平成 31）年 3 月 29 日まで実施したものである。-

2019（平成 31・令和元）年度に行った試掘調査、発掘調査および整理作業は総経費 7,920,069 円に対し国庫補助金（3,960,000 円）、県費（1,980,000 円）の補助金の交付を受け、2019（平成 31・令和元）年 4 月 1 日～ 2020（令和２）年 3 月 29 日まで実施したものである。

3．調査組織

調査主体者	ふじみ野市教育委員会				
担当課	社会教育課文化財保護係				
教育長	朝倉　孝	（2014.4.1 ～）			
部長	土屋　浩	（2017.4.1 ～ 2019.3.31）			
	皆川　恒晴	（2019.4.1 ～）			
課長	髙﨑　直成	（2018.4.1 ～ 2019.3.31）			
	岩崎　明央	（2019.4.1 ～ 2020.3.31）			
			社会教育課副課長兼文化財保護係長（2016.4.1 から兼務）		
				永倉　秀雄	（2020.4.1 ～）
				小林　久美	（2018.4.1 ～）
			文化財保護係調査担当者		
				長谷川義行	（2017.4.1 ～）
				岡崎　裕子	（2015.4.1 ～）
			庶務担当	橋本祐可子	（2015.4.1 ～）
			発掘調査員補	坪田　幹男	（2018.7.2 ～）
			臨時的任用職員	高橋　京子	（2005.4.1 ～）

4.　本書作成において、調査に至る経過の執筆は岡崎と長谷川で分担した。本書作成全般にわたり、笹森健一氏・田中信氏（ふじみ野市発掘調査・整理作業指導者）のご教示を賜った。

石器実測及び本村遺跡第 136 地点遺構図については、有限会社アルケーリサーチに委託した。亀久保堀遺跡第 33 地点と川崎遺跡第 53 地点の土壌サンプル分析及び、松山遺跡第 100 地点の炭化物分析はパリノサーヴェイ株式会社に委託した。

遺物接合・復元：川中ひろみ。

土器実測・拓本：岩城英子、坂本民子、佐竹里佳、鈴木千恵子、深谷美奈子、山内康代。

遺構・遺物図トレース：小林登喜江。

図版作成：青山奈保美、大久保明子、齋藤有紀、須藤さち子、高橋けい子、丹治つや子。

遺構写真：岡崎、坪田。レイアウト・遺物写真：大久保、岡崎。

5.　各遺跡の調査から報告書刊行にいたるまで下記の諸氏・機関より御指導・ご協力を賜った。（敬称略）

天ヶ嶋岳、上田寛、越前谷理、岡田賢治、加藤秀之、神木繁嘉、久津間文隆、隈本健介、酒井智晴、笹森健一、佐藤一也、佐藤啓子、塩野敏和、清水理史、鈴木清、高木文夫、田中信、中村愛、鍋島直久、原口雅樹、早坂廣人、比嘉洋子、平野寛之、藤波啓容、堀善之、松尾鉄城、三上栄一、水口由紀子、　柳井章宏、柳川俊男、吉野公一、和田晋治、埼玉県教育委員会市町村支援部文化資源課。

6.　発掘調査ならびに整理作業参加者は下記の皆様である。記して厚く感謝の意を表したい。（敬称略）

青山奈保美、明石千とせ、新井和枝、飯塚恵津子、飯塚泰子、壹岐久子、井上麻美子、岩城英子、臼井孝、大久保明子、岡良子、川中ひろみ、小林登喜江、齋藤有紀、坂本民子、佐竹里佳、鈴木勝弘、鈴木千恵子、須藤さち子、関田成美、高橋けい子、丹治つや子、野岡由紀子、比嘉洋子、深谷美奈子、福田美枝子、増澤勝実、山内康代、矢作梓、若林紀美代。

凡　例

1．本書の遺構・遺物挿図の指示は以下のとおりである。

（1）縮尺は原則として、遺構配置図 1：300、遺構平面図・遺物出土状況図 1：60、1：30、炉などの詳細図 1：30、土器実測図 1：4、土器拓影図 1：4、石器実測図 1：4、2：3、銭 1：1 である。

（2）遺構断面図の水糸高は海抜高を示す。明記していないものは同図版中の前遺構の海抜高に同じ。

（3）遺構図における screen-tone の指示、遺物出土状況のドットの指示は、

撹乱　地山 (ローム)　焼土　煤・炭化物・タール範囲

被熱範囲　赤色塗彩　黒色塗彩　釉

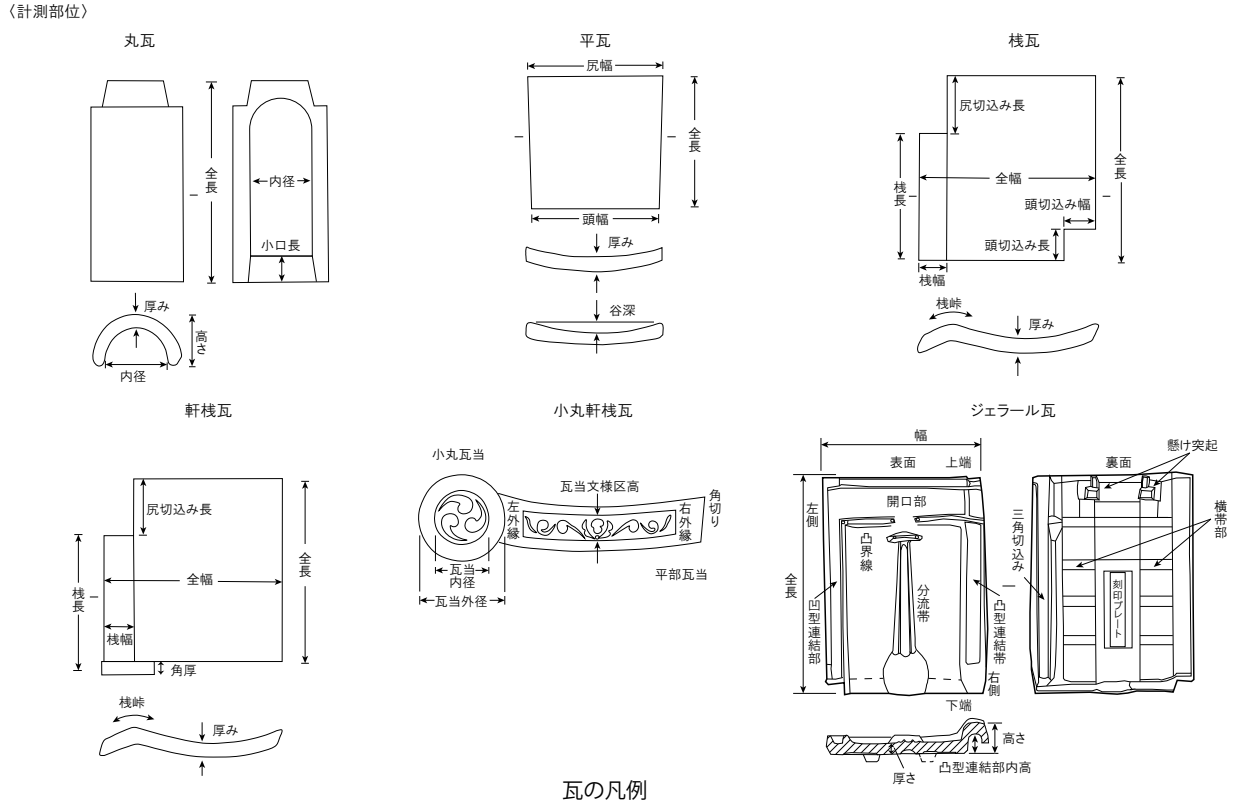
土器 ●　石器 ★　黒曜石▲　チャート□　礫 ○　炭■

（4）土器断面図は、■が繊維含有、●が雲母粒を含有する縄文土器を表している。

（5）遺構・遺物実測図中の▲▼マークは、図の接続、結合を示す。

2．住居跡名は、遺跡内の通し番号である。

3．本報告にかかる出土品及び記録図面・写真等は一括してふじみ野市教育委員会に保管してある。



瓦の凡例

埼玉県ふじみ野市

市内遺跡群 25　目次

はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ i
例　　言・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ ii
凡　　例・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ iii
目　　次・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ iv
挿図目次・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ vi
表 目 次・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ viii
写真図版目次・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ ix

第１章　遺跡と調査の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
　Ⅰ　調査に至る経過・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
　Ⅱ　立地と環境・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6
　Ⅲ　市内の遺跡・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6
第２章　北野遺跡の調査・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 11
　Ⅰ　遺跡の立地と環境・・・・・・・・・・・・・・・・ 11
　Ⅱ　北野遺跡第 45 地点・・・・・・・・・・・・・・・ 13
　Ⅲ　北野遺跡第 46 地点・・・・・・・・・・・・・・・ 13
　Ⅳ　北野遺跡第 47 地点・・・・・・・・・・・・・・・ 14
　Ⅴ　北野遺跡第 48 地点・・・・・・・・・・・・・・・ 14
　Ⅵ　北野遺跡第 49 地点・・・・・・・・・・・・・・・ 17
第３章　川崎遺跡の調査・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 18
　Ⅰ　遺跡の立地と環境・・・・・・・・・・・・・・・・ 18
　Ⅱ　川崎遺跡第 48 地点・・・・・・・・・・・・・・・ 22
　Ⅲ　川崎遺跡第 49 地点・・・・・・・・・・・・・・・ 25
　Ⅳ　川崎遺跡第 51 地点・・・・・・・・・・・・・・・ 26
　Ⅴ　川崎遺跡第 52 地点・・・・・・・・・・・・・・・ 27
　Ⅵ　川崎遺跡第 53 地点・・・・・・・・・・・・・・・ 57
　Ⅶ　川崎遺跡第 54 地点・・・・・・・・・・・・・・・ 60
　Ⅷ　川崎遺跡第 55 地点・・・・・・・・・・・・・・・ 61
第４章　ハケ遺跡の調査・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 63
　Ⅰ　遺跡の立地と環境・・・・・・・・・・・・・・・・ 63
　Ⅱ　ハケ遺跡第 25 地点・・・・・・・・・・・・・・・ 66
　Ⅲ　ハケ遺跡第 26 地点・・・・・・・・・・・・・・・ 67
　Ⅳ　ハケ遺跡第 27 地点・・・・・・・・・・・・・・・ 70
第５章　権現山遺跡の調査・・・・・・・・・・・・・・・・・ 72
　Ⅰ　遺跡の立地と環境・・・・・・・・・・・・・・・・ 72
　Ⅱ　権現山遺跡第 28 地点・・・・・・・・・・・・・・ 73
第６章　滝遺跡の調査・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 76
　Ⅰ　遺跡の立地と環境・・・・・・・・・・・・・・・・ 76
　Ⅱ　滝遺跡第 33 地点・・・・・・・・・・・・・・・・ 79
　Ⅲ　滝遺跡第 34 地点・・・・・・・・・・・・・・・・ 81
　Ⅳ　滝遺跡第 35 地点・・・・・・・・・・・・・・・・ 83
第７章　長宮遺跡の調査・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 95
　Ⅰ　遺跡の立地と環境・・・・・・・・・・・・・・・・ 95
　Ⅱ　長宮遺跡第 58 地点・・・・・・・・・・・・・・・ 97
第８章　亀居遺跡の調査・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 100
　Ⅰ　亀居遺跡の立地と環境・・・・・・・・・・・・・・ 100
　Ⅱ　亀居遺跡第 79 地点・・・・・・・・・・・・・・・ 103
　Ⅲ　亀居遺跡第 80 地点・・・・・・・・・・・・・・・ 103
第９章　鶴ケ舞遺跡の調査・・・・・・・・・・・・・・・・・ 104
　Ⅰ　遺跡の立地と環境・・・・・・・・・・・・・・・・ 104
　Ⅱ　鶴ケ舞遺跡第 30 地点・・・・・・・・・・・・・・ 104
　Ⅲ　鶴ケ舞遺跡第 31 地点・・・・・・・・・・・・・・ 106
　Ⅳ　鶴ケ舞遺跡第 32 地点・・・・・・・・・・・・・・ 106
　Ⅴ　鶴ケ舞遺跡第 33 地点・・・・・・・・・・・・・・ 107
　Ⅵ　鶴ケ舞遺跡第 34 地点・・・・・・・・・・・・・・ 107
　Ⅶ　鶴ケ舞遺跡第 36 地点・・・・・・・・・・・・・・ 107
　Ⅷ　鶴ケ舞遺跡第 35 地点・・・・・・・・・・・・・・ 108
　Ⅸ　鶴ケ舞遺跡第 37 地点・・・・・・・・・・・・・・ 108
第 10 章　松山遺跡の調査・・・・・・・・・・・・・・・・・ 109
　Ⅰ　遺跡の立地と環境・・・・・・・・・・・・・・・・ 109
　Ⅱ　松山遺跡第 95 地点・・・・・・・・・・・・・・・ 109
　Ⅲ　松山遺跡第 96 地点・・・・・・・・・・・・・・・ 116
　Ⅳ　松山遺跡第 97 地点・・・・・・・・・・・・・・・ 117
　Ⅴ　松山遺跡第 98 地点・・・・・・・・・・・・・・・ 118
　Ⅵ　松山遺跡第 99 地点・・・・・・・・・・・・・・・ 119
　Ⅶ　松山遺跡第 100 地点・・・・・・・・・・・・・・ 119
　Ⅷ　松山遺跡第 101 地点・・・・・・・・・・・・・・ 124
　Ⅸ　松山遺跡第 102 地点・・・・・・・・・・・・・・ 126
第 11 章　江川南遺跡の調査・・・・・・・・・・・・・・・・ 127
　Ⅰ　遺跡の立地と環境・・・・・・・・・・・・・・・・ 127
　Ⅱ　江川南遺跡第 28 地点・・・・・・・・・・・・・・ 129
第 12 章　江川東遺跡の調査・・・・・・・・・・・・・・・・ 130
　Ⅰ　遺跡の立地と環境・・・・・・・・・・・・・・・・ 130
　Ⅱ　江川東遺跡第 25 地点・・・・・・・・・・・・・・ 130
　Ⅲ　江川東遺跡第 26 地点・・・・・・・・・・・・・・ 131
第 13 章　東久保遺跡の調査・・・・・・・・・・・・・・・・ 132
　Ⅰ　遺跡の立地と環境・・・・・・・・・・・・・・・・ 132
　Ⅱ　東久保遺跡第 76 地点・・・・・・・・・・・・・・ 136
　Ⅲ　東久保遺跡第 77 地点・・・・・・・・・・・・・・ 137
第 14 章　亀久保堀跡遺跡の調査・・・・・・・・・・・・・ 138
　Ⅰ　遺跡の立地と環境・・・・・・・・・・・・・・・・ 138
　Ⅱ　亀久保堀跡遺跡第 33 地点・・・・・・・・・・・・ 138
第 15 章　東久保西遺跡の調査・・・・・・・・・・・・・・・ 142
　Ⅰ　遺跡の立地と環境・・・・・・・・・・・・・・・・ 142
　Ⅱ　東久保西遺跡第 24 地点・・・・・・・・・・・・・ 144
　Ⅲ　東久保西遺跡第 25 地点・・・・・・・・・・・・・ 145
第 16 章　駒林遺跡の調査・・・・・・・・・・・・・・・・・ 146
　Ⅰ　遺跡の立地と環境・・・・・・・・・・・・・・・・ 146

Ⅱ 駒林遺跡第 38 地点・・・・・・・・・・・・・・ 150
Ⅲ 駒林遺跡第 39 地点・・・・・・・・・・・・・・ 150
Ⅳ 駒林遺跡第 40 地点・・・・・・・・・・・・・・ 151
Ⅴ 駒林遺跡第 41 地点・・・・・・・・・・・・・・ 153
第 17 章　福岡新田遺跡の調査・・・・・・・・・・・・・・・・ 154
Ⅰ 遺跡の立地と環境・・・・・・・・・・・・・・・・ 154
Ⅱ 福岡新田遺跡第 7 地点・・・・・・・・・・・・・・ 154
第 18 章　東久保南遺跡の調査・・・・・・・・・・・・・・・・ 157
Ⅰ 遺跡の立地と環境・・・・・・・・・・・・・・・・ 157
Ⅱ 東久保南遺跡第 44 地点・・・・・・・・・・・・・ 159
第 19 章　西ノ原遺跡の調査・・・・・・・・・・・・・・・・ 160
Ⅰ 遺跡の立地と環境・・・・・・・・・・・・・・・・ 160
Ⅱ 西ノ原遺跡第 175 地点・・・・・・・・・・・・・・ 166
Ⅲ 西ノ原遺跡第 176 地点・・・・・・・・・・・・・・ 178
Ⅳ 西ノ原遺跡第 177 地点・・・・・・・・・・・・・・ 178
Ⅴ 西ノ原遺跡第 178 地点・・・・・・・・・・・・・・ 178
第 20 章　中沢前遺跡の調査・・・・・・・・・・・・・・・・ 180
Ⅰ 遺跡の立地と環境・・・・・・・・・・・・・・・・ 180
Ⅱ 中沢前遺跡第 32 地点・・・・・・・・・・・・・・ 180
Ⅲ 中沢前遺跡第 33 地点・・・・・・・・・・・・・・ 182
第 21 章　神明後遺跡の調査・・・・・・・・・・・・・・・・ 183
Ⅰ 遺跡の立地と環境・・・・・・・・・・・・・・・・ 183
Ⅱ 神明後遺跡第 56 地点・・・・・・・・・・・・・・ 185
Ⅲ 神明後遺跡第 57 地点・・・・・・・・・・・・・・ 186
第 22 章　苗間東久保遺跡の調査・・・・・・・・・・・・・・ 188
Ⅰ 遺跡の立地と環境・・・・・・・・・・・・・・・・ 188
Ⅱ 苗間東久保遺跡第 34 地点・・・・・・・・・・・・ 188
第 23 章　浄禅寺跡遺跡の調査・・・・・・・・・・・・・・・ 190
Ⅰ 遺跡の立地と環境・・・・・・・・・・・・・・・・ 190
Ⅱ 浄禅寺跡遺跡第 51 地点・・・・・・・・・・・・・ 192
Ⅲ 浄禅寺跡遺跡第 52 地点・・・・・・・・・・・・・ 194
Ⅳ 浄禅寺跡遺跡第 53 地点・・・・・・・・・・・・・ 195
Ⅴ 浄禅寺跡遺跡第 54 地点・・・・・・・・・・・・・ 196
第 24 章　小田久保遺跡の調査・・・・・・・・・・・・・・・ 198
Ⅰ 遺跡の立地と環境・・・・・・・・・・・・・・・・ 198
Ⅱ 小田久保遺跡第 13 地点・・・・・・・・・・・・・ 199
Ⅲ 小田久保遺跡第 14 地点・・・・・・・・・・・・・ 200
第 25 章　大井宿遺跡の調査・・・・・・・・・・・・・・・・ 201
Ⅰ 遺跡の立地と環境・・・・・・・・・・・・・・・・ 201
Ⅱ 大井宿遺跡第 19 地点・・・・・・・・・・・・・・ 201
Ⅲ 大井宿遺跡第 20 地点・・・・・・・・・・・・・・ 205
第 26 章　本村遺跡の調査・・・・・・・・・・・・・・・・ 206
Ⅰ 遺跡の立地と環境・・・・・・・・・・・・・・・・ 206
Ⅱ 本村遺跡第 135 地点・・・・・・・・・・・・・・ 208
Ⅲ 本村遺跡第 136 地点・・・・・・・・・・・・・・ 208
Ⅳ 本村遺跡第 137 地点・・・・・・・・・・・・・・ 209
第 27 章　大井戸上遺跡の調査・・・・・・・・・・・・・・・ 211
Ⅰ 遺跡の立地と環境・・・・・・・・・・・・・・・・ 211
Ⅱ 大井戸上遺跡第 8 地点・・・・・・・・・・・・・・ 212
Ⅲ 大井戸上遺跡第 9 地点・・・・・・・・・・・・・・ 213
Ⅳ 大井戸上遺跡第 10 地点・・・・・・・・・・・・・ 213
第 28 章　東京第一陸軍造兵廠川越製造所 (火工廠) に関する調査
・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 214
Ⅰ 遺跡の立地と環境・・・・・・・・・・・・・・・・ 214
Ⅱ 東京第一陸軍造兵廠川越製造所 (火工廠) 跡の概略
・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 215
Ⅲ 旧上野台給食センター解体に伴う工事立会・・・・ 216
Ⅳ 福岡二丁目地内ガス管新設に伴う工事立会・・・・ 218
第 29 章　まとめ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 220

附　　編　　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 225
写真図版　　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 239
抄　　録　　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 293

挿 図 目 次

第 1 図　ふじみ野市の位置と周辺の地形・・・・・・・・・・ 7
第 2 図　ふじみ野市遺跡分布図・・・・・・・・・・・・・・ 9
第 3 図　北野遺跡の地形と調査区・・・・・・・・・・・・・ 11
第 4 図　北野遺跡第 45・46 地点調査区域図、土層・・・・ 13
第 5 図　北野遺跡第 47 地点調査区域図、第 48 地点遺構配置図、土層、第 48 地点土坑・・・・・・・・・・・・・・ 14
第 6 図　北野遺跡第 48 地点出土遺物・・・・・・・・・・・ 15
第 7 図　北野遺跡第 49 地点遺構配置図、土層、土坑・・・・ 17
第 8 図　川崎遺跡の地形と調査区・・・・・・・・・・・・・ 18
第 9 図　川崎遺跡遺構分布図・・・・・・・・・・・・・・・ 21
第 10 図　川崎遺跡第 48 地点遺構配置図、土層・・・・・・・ 22
第 11 図　川崎遺跡第 48 地点 J26 号住居跡・溝状遺構・・・・ 23
第 12 図　川崎遺跡第 48 地点出土遺物・・・・・・・・・・・ 24
第 13 図　川崎遺跡第 49 地点遺構配置図、土層、出土遺物・・ 25
第 14 図　川崎遺跡第 51 地点調査区域図、土層・・・・・・・ 26
第 15 図　川崎遺跡台地最南部の縄文時代前期住居跡分布図、住居跡・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 29
第 16 図　川崎遺跡で完掘に近い縄文前期 (関山～黒浜期) 住居跡・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 30
第 17 図　川崎遺跡第 52 地点遺構配置図・・・・・・・・・・ 31
第 18 図　川崎遺跡第 52 地点 J27 号住居跡・・・・・・・・・ 32
第 19 図　川崎遺跡第 52 地点 J27 号住居内ピット・・・・・・ 33
第 20 図　川崎遺跡第 52 地点 J27 号住居跡土層・・・・・・・ 34
第 21 図　川崎遺跡第 52 地点 J27 号住居跡炉・・・・・・・・ 35
第 22 図　川崎遺跡第 52 地点 J27 号住居跡遺物出土状況・・・ 36
第 23 図　川崎遺跡第 52 地点出土遺物①・・・・・・・・・・ 39
第 24 図　川崎遺跡第 52 地点出土遺物②・・・・・・・・・・ 40
第 25 図　川崎遺跡第 52 地点出土遺物③・・・・・・・・・・ 41
第 26 図　川崎遺跡第 52 地点出土遺物④・・・・・・・・・・ 42
第 27 図　川崎遺跡第 52 地点出土遺物⑤・・・・・・・・・・ 43
第 28 図　川崎遺跡第 52 地点出土遺物⑥・・・・・・・・・・ 44
第 29 図　川崎遺跡第 52 地点 H73 号住居跡・・・・・・・・ 45
第 30 図　川崎遺跡第 52 地点 H73 号住居跡出土遺物・・・・ 46
第 31 図　川崎遺跡第 52 地点土坑・・・・・・・・・・・・・ 48
第 32 図　川崎遺跡第 52 地点出土遺物⑦・・・・・・・・・・ 49
第 33 図　川崎遺跡第 52 地点出土遺物⑧・・・・・・・・・・ 50
第 34 図　川崎遺跡第 52 地点出土遺物⑨・・・・・・・・・・ 51
第 35 図　川崎遺跡第 52 地点出土遺物⑩・・・・・・・・・・ 52
第 36 図　川崎遺跡第 52 地点出土遺物⑪・・・・・・・・・・ 53
第 37 図　川崎遺跡第 53 地点遺構配置図、土層・・・・・・・ 57
第 38 図　川崎遺跡第 53 地点堀跡、出土遺物・・・・・・・・ 58
第 39 図　川崎遺跡第 54 地点調査区域図、土層、出土遺物・・ 60
第 40 図　川崎遺跡第 55 地点遺構配置図、溝、出土遺物・・・ 62
第 41 図　ハケ遺跡の地形と調査区・・・・・・・・・・・・・ 63
第 42 図　ハケ遺跡遺構分布図・・・・・・・・・・・・・・・ 65
第 43 図　ハケ遺跡第 25 地点調査区域図、土層・・・・・・・ 66
第 44 図　ハケ遺跡第 26 地点遺構配置図、土坑・・・・・・・ 67
第 45 図　ハケ遺跡第 26 地点溝・・・・・・・・・・・・・・ 68
第 46 図　ハケ遺跡第 26 地点出土遺物・・・・・・・・・・・ 69
第 47 図　ハケ遺跡第 27 地点調査区域図、土層・・・・・・・・ 70
第 48 図　ハケ遺跡第 27 地点旧石器時代遺物出土状況、出土遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 71
第 49 図　権現山遺跡の地形と調査区・・・・・・・・・・・・ 72
第 50 図　権現山遺跡第 28 地点遺構配置図、土層、ピット・・ 74
第 51 図　権現山遺跡第 28 地点出土遺物・・・・・・・・・・ 75
第 52 図　滝遺跡の地形と調査区・・・・・・・・・・・・・・ 76
第 53 図　滝遺跡遺構分布図・・・・・・・・・・・・・・・・ 78
第 54 図　滝遺跡第 33 地点遺構配置図、土層・ピット・・・・ 79
第 55 図　滝遺跡第 33 地点出土遺物・・・・・・・・・・・・ 80
第 56 図　滝遺跡第 34 地点調査区域図、土層、出土遺物・・・ 81
第 57 図　滝遺跡第 35 地点遺構配置図、土層・・・・・・・・ 83
第 58 図　滝遺跡第 35 地点土坑・・・・・・・・・・・・・・ 85
第 59 図　滝遺跡第 35 地点土坑 5(井戸)・土坑 12(地下式坑)・ 87
第 60 図　滝遺跡第 35 地点出土遺物・・・・・・・・・・・・ 88
第 61 図　滝遺跡第 35 地点及び滝三丁目市道ガス管工事立会板碑出土地・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 90
第 62 図　滝遺跡第 35 地点出土遺物・・・・・・・・・・・・ 91
第 63 図　滝三丁目市道ガス管工事立会出土遺物、長宮遺跡第 36 地点井戸 13、出土遺物・・・・・・・・・・・・・・ 93
第 64 図　長宮遺跡の地形と調査区・・・・・・・・・・・・・ 95
第 65 図　長宮遺跡遺構分布図・・・・・・・・・・・・・・・ 98
第 66 図　長宮遺跡第 58 地点遺構配置図、土層、溝、出土遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 99
第 67 図　亀居遺跡の地形と調査区・・・・・・・・・・・・・100
第 68 図　亀居遺跡第 79・80 地点調査区域図、土層・・・・103
第 69 図　鶴ケ舞遺跡の地形と調査区・・・・・・・・・・・・104
第 70 図　鶴ケ舞遺跡第 30 地点調査区域図、土層・・・・・・105
第 71 図　鶴ケ舞遺跡第 31・32 地点調査区域図、土層・・・・106
第 72 図　鶴ケ舞遺跡第 33・34・36 地点調査区域図、土層・107
第 73 図　鶴ケ舞遺跡第 35・37 地点調査区域図、土層・・・・108
第 74 図　松山遺跡第 95 地点調査区域図、土層・・・・・・・109
第 75 図　松山遺跡の地形と調査区・・・・・・・・・・・・・110
第 76 図　松山遺跡遺構分布図・・・・・・・・・・・・・・・114
第 77 図　松山遺跡第 96 地点遺構配置図、土層、堀跡・・・・116
第 78 図　松山遺跡第 97 地点調査区域図、土層・・・・・・・117
第 79 図　松山遺跡第 98 地点調査区域図、土層、出土遺物・・118
第 80 図　松山遺跡第 100 地点遺構配置図・・・・・・・・・・119
第 81 図　松山遺跡第 100 地点 H53 号住居跡・・・・・・・・120
第 82 図　松山遺跡第 100 地点 H53 号住居跡炉、遺物出土状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・121
第 83 図　松山遺跡第 100 地点出土遺物・・・・・・・・・・122
第 84 図　松山遺跡第 101 地点遺構配置図・・・・・・・・・・124
第 85 図　松山遺跡第 101 地点土坑、溝・・・・・・・・・・125
第 86 図　松山遺跡第 102 地点調査区域図、土層、第 101・102 地点出土遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・126
第 87 図　江川南遺跡の地形と調査区・・・・・・・・・・・・127
第 88 図　江川南遺跡第 28 地点調査区域図、土層・・・・・・129
第 89 図　江川東遺跡の地形と調査区・・・・・・・・・・・・130

第 90 図　江川東遺跡第 25・26 地点調査区域図、土層・・・・131
第 91 図　東久保遺跡の地形と調査区・・・・・・・・・・・・132
第 92 図　東久保遺跡遺構分布図・・・・・・・・・・・・・・135
第 93 図　東久保遺跡第 76 地点調査区域図、土層、ピット、溝
・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・136
第 94 図　東久保遺跡第 77 地点調査区域図、土層・・・・・・137
第 95 図　亀久保堀跡遺跡の地形と調査区・・・・・・・・・・138
第 96 図　亀久保堀跡遺跡遺構分布図・・・・・・・・・・・・140
第 97 図　亀久保堀跡遺跡第 33 地点遺構配置図、土層、堀跡・141
第 98 図　東久保西遺跡の地形と調査区・・・・・・・・・・・142
第 99 図　東久保西遺跡第 24 地点遺構配置図、土層、焼土・・144
第 100 図 東久保西遺跡第 25 地点調査区域図、土層・・・・・145
第 101 図 駒林遺跡の地形と調査区・・・・・・・・・・・・・146
第 102 図 駒林遺跡遺構分布図・・・・・・・・・・・・・・・149
第 103 図 駒林遺跡第 38・39 地点調査区域図、土層・・・・150
第 104 図 駒林遺跡第 40 地点遺構配置図、土層、堀跡・・・・151
第 105 図 駒林遺跡第 40 地点出土遺物・・・・・・・・・・・152
第 106 図 駒林遺跡第 41 地点調査区域図、土層、出土遺物・・153
第 107 図 福岡新田遺跡の地形と調査区・・・・・・・・・・・154
第 108 図 福岡新田遺跡第 7 地点遺構配置図、土層、ピット・155
第 109 図 福岡新田第 7 地点出土遺物・・・・・・・・・・・・156
第 110 図 東久保南遺跡の地形と調査区・・・・・・・・・・・157
第 111 図 東久保南遺跡第 44 地点調査区域図、土層、出土遺物
・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・159
第 112 図 西ノ原遺跡の地形と調査区・・・・・・・・・・・・160
第 113 図 西ノ原遺跡縄文時代遺構分布図・・・・・・・・・・163
第 114 図 西ノ原遺跡第 175 地点遺構配置図・・・・・・・・166
第 115 図 西ノ原遺跡第 175 地点 68 号住居跡・・・・・・・167
第 116 図 西ノ原遺跡第 175 地点 68 号住居跡、炉、ピット・168
第 117 図 西ノ原遺跡第 175 地点 217 号住居跡・・・・・・・169
第 118 図 西ノ原遺跡第 175 地点溝・・・・・・・・・・・・・170
第 119 図 西ノ原遺跡第 175 地点溝配置図・・・・・・・・・171
第 120 図 西ノ原遺跡第 175 地点出土遺物①・・・・・・・・・172
第 121 図 西ノ原遺跡第 175 地点出土遺物②・・・・・・・・・173
第 122 図 西ノ原遺跡第 175 地点出土遺物③・・・・・・・・・174
第 123 図 西ノ原遺跡第 175 地点出土遺物④・・・・・・・・・175
第 124 図 西ノ原遺跡第 176 地点調査区域図、土層・・・・・178
第 125 図 西ノ原遺跡第 177・178 地点調査区域図、土層、第 177
地点出土遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・179
第 126 図 中沢前遺跡の地形と調査区・・・・・・・・・・・・180
第 127 図 中沢前遺跡第 32・33 地点調査区域図、土層・・・182
第 128 図 神明後遺跡の地形と調査区・・・・・・・・・・・・183
第 129 図 神明後遺跡第 56 地点調査区域図、土層・・・・・・185
第 130 図 神明後遺跡第 57 地点調査区域図、土層・・・・・・186
第 131 図 神明後遺跡第 57 地点出土遺物・・・・・・・・・・187
第 132 図 苗間東久保遺跡の地形と調査区・・・・・・・・・・188
第 133 図 苗間東久保遺跡第 34 地点調査区域図、土層・・・・189
第 134 図 浄禅寺跡遺跡の地形と調査区・・・・・・・・・・・190
第 135 図 浄禅寺跡遺跡第 51 地点調査区域図、土層・・・・・192
第 136 図 浄禅寺跡遺跡遺構分布図・・・・・・・・・・・・・193
第 137 図 浄禅寺跡遺跡第 52 地点遺構配置図、土層、ピット・194
第 138 図 浄禅寺跡遺跡第 53 地点遺構配置図、土層・・・・・195
第 139 図 浄禅寺跡遺跡第 54 地点遺構配置図、土層・・・・・196
第 140 図 浄禅寺跡遺跡第 54 地点土坑、出土遺物・・・・・・197
第 141 図 小田久保遺跡の地形と調査区・・・・・・・・・・・198
第 142 図 小田久保遺跡第 13 地点調査区域図、土層・・・・・199
第 143 図 小田久保遺跡第 14 地点調査区域図、土層・・・・・200
第 144 図 大井宿遺跡の地形と調査区・・・・・・・・・・・・201
第 145 図 大井宿遺跡第 19 地点遺構配置図、土層・・・・・・202
第 146 図 大井宿遺跡第 19 地点出土遺物・・・・・・・・・・203
第 147 図 大井宿遺跡第 20 地点遺構区域図、土層、出土遺物・205
第 148 図 本村遺跡の地形と調査区・・・・・・・・・・・・・207
第 149 図 本村遺跡第 135 地点調査区域図、土層、出土遺物・208
第 150 図 本村遺跡第 137 地点遺構配置図、土層・・・・・・209
第 151 図 本村遺跡第 137 地点ピット・・・・・・・・・・・・210
第 152 図 大井戸上遺跡の地形と調査区・・・・・・・・・・・211
第 153 図 大井戸上遺跡第 8 地点遺構配置図、土層、ピット・212
第 154 図 大井戸上遺跡第 9・10 地点調査区域図、土層・・・213
第 155 図 東京第一陸軍造兵廠川越製造所 (火工廠) 跡の地形と
調査区・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・214
第 156 図 東京第一陸軍造兵廠川越製造所 (火工廠) 跡構内配置図
・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・217
第 157 図 東京第一陸軍造兵廠川越製造所 (火工廠) 関連工事立会
出土遺物・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・219

表　目　次

第 1 表　過去 3 年間の調査件数と面積一覧表・・・・・・・・ 1
第 2 表　2018(平成 30) 年度埋蔵文化財調査一覧表・・・・ 2
第 3 表　2018(平成 30) 年度立会調査一覧表 1(埋蔵文化財包蔵地内)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
第 4 表　2018(平成 30) 年度立会調査一覧表 2(埋蔵文化財包蔵地外)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
第 5 表　2019(平成 31・令和元) 年度埋蔵文化財調査一覧表・ 4
第 6 表　2019(平成 31・令和元) 年度立会調査一覧表 1(埋蔵文化財包蔵地内)・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
第 7 表　2019(平成 31・令和元) 年度立会調査一覧表 2(埋蔵文化財包蔵地外)・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
第 8 表　ふじみ野市遺跡一覧表・・・・・・・・・・・・・・・ 10
第 9 表　北野遺跡調査一覧表・・・・・・・・・・・・・・・・ 12
第 10 表　北野遺跡第 48 地点出土遺物観察表・・・・・・・・ 16
第 11 表　川崎遺跡調査一覧表・・・・・・・・・・・・・・・・ 19
第 12 表　川崎遺跡第 48 地点出土遺物観察表・・・・・・・・ 24
第 13 表　川崎遺跡第 49 地点出土遺物観察表・・・・・・・・ 25
第 14 表　川崎遺跡縄文時代住居跡一覧表・・・・・・・・・・ 28
第 15 表　川崎遺跡第 52 地点 J27 号住居内ピット一覧表・・・ 34
第 16 表　川崎遺跡第 52 地点炉一覧表・・・・・・・・・・・ 35
第 17 表　川崎遺跡第 52 地点出土石器観察表・・・・・・・・ 38
第 18 表　川崎遺跡第 52 地点 H73 号住居跡出土遺物観察表・ 47
第 19 表　川崎遺跡第 52 地点土坑一覧表・・・・・・・・・・ 48
第 20 表　川崎遺跡第 52 地点出土遺物観察表・・・・・・・・ 54
第 21 表　川崎遺跡第 53 地点出土遺物観察表・・・・・・・・ 59
第 22 表　川崎遺跡第 55 地点出土遺物観察表・・・・・・・・ 61
第 23 表　ハケ遺跡調査一覧表・・・・・・・・・・・・・・・・ 64
第 24 表　ハケ遺跡第 26 地点出土遺物観察表・・・・・・・・ 69
第 25 表　ハケ遺跡第 27 地点出土遺物観察表・・・・・・・・ 71
第 26 表　権現山遺跡調査一覧表・・・・・・・・・・・・・・ 73
第 27 表　権現山遺跡第 28 地点ピット一覧表・・・・・・・・ 75
第 28 表　権現山遺跡第 28 地点出土遺物観察表・・・・・・・ 75
第 29 表　滝遺跡調査一覧表・・・・・・・・・・・・・・・・ 77
第 30 表　滝遺跡第 33 地点ピット一覧表・・・・・・・・・・ 80
第 31 表　滝遺跡第 33 地点出土遺物観察表・・・・・・・・・ 80
第 32 表　滝遺跡第 34 地点出土遺物観察表・・・・・・・・・ 82
第 33 表　滝遺跡第 35 地点土坑一覧表・・・・・・・・・・・ 87
第 34 表　滝遺跡第 35 地点出土遺物観察表・・・・・・・・・ 89
第 35 表　滝遺跡出土板碑観察表・・・・・・・・・・・・・・ 94
第 36 表　長宮遺跡調査一覧表・・・・・・・・・・・・・・・ 96
第 37 表　長宮遺跡第 58 地点出土遺物観察表・・・・・・・・ 99
第 38 表　亀居遺跡調査一覧表・・・・・・・・・・・・・・・101
第 39 表　鶴ケ舞遺跡調査一覧表・・・・・・・・・・・・・・105
第 40 表　松山遺跡調査一覧表・・・・・・・・・・・・・・・111
第 41 表　松山遺跡古代住居跡一覧表・・・・・・・・・・・・115
第 42 表　松山遺跡第 100 地点 H53 号住居内ピット一覧表・・120
第 43 表　松山遺跡第 100 地点出土遺物観察表・・・・・・・123
第 44 表　松山遺跡第 101 地点土坑一覧表・・・・・・・・・126
第 45 表　松山遺跡第 101 地点出土遺物観察表・・・・・・・126
第 46 表　江川南遺跡調査一覧表・・・・・・・・・・・・・・128
第 47 表　江川東遺跡調査一覧表・・・・・・・・・・・・・・131
第 48 表　東久保遺跡調査一覧表・・・・・・・・・・・・・・133
第 49 表　東久保遺跡第 76 地点ピット一覧表・・・・・・・・136
第 50 表　亀久保堀跡遺跡調査一覧表・・・・・・・・・・・・139
第 51 表　東久保西遺跡調査一覧表・・・・・・・・・・・・・143
第 52 表　駒林遺跡調査一覧表・・・・・・・・・・・・・・・147
第 53 表　駒林遺跡第 40 地点出土遺物観察表・・・・・・・・152
第 54 表　福岡新田遺跡調査一覧表・・・・・・・・・・・・・155
第 55 表　福岡新田遺跡第 7 地点ピット一覧表・・・・・・・156
第 56 表　福岡新田遺跡第 7 地点出土遺物観察表・・・・・・156
第 57 表　東久保南遺跡調査一覧表・・・・・・・・・・・・・158
第 58 表　西ノ原遺跡調査一覧表・・・・・・・・・・・・・・161
第 59 表　西ノ原遺跡住居跡一覧表・・・・・・・・・・・・・164
第 60 表　西ノ原遺跡第 175 地点 68 号住居内ピット一覧表・166
第 61 表　西ノ原遺跡第 175 地点 217 号住居内ピット一覧表・169
第 62 表　西ノ原遺跡第 175 地点出土遺物観察表・・・・・・175
第 63 表　中沢前遺跡調査一覧表・・・・・・・・・・・・・・181
第 64 表　神明後遺跡調査一覧表・・・・・・・・・・・・・ 184
第 65 表　神明後遺跡第 57 地点出土遺物観察表・・・・・・ 187
第 66 表　苗間東久保遺跡調査一覧表・・・・・・・・・・・・189
第 67 表　浄禅寺跡遺跡調査一覧表・・・・・・・・・・・・・191
第 68 表　浄禅寺跡遺跡第 54 地点出土遺物観察表・・・・・・197
第 69 表　小田久保遺跡調査一覧表・・・・・・・・・・・・・199
第 70 表　大井宿遺跡調査一覧表・・・・・・・・・・・・・・202
第 71 表　大井宿遺跡第 19 地点出土遺物観察表・・・・・・・204
第 72 表　本村遺跡調査一覧表・・・・・・・・・・・・・・・206
第 73 表　本村遺跡第 137 地点ピット一覧表・・・・・・・・210
第 74 表　大井戸上遺跡調査一覧表・・・・・・・・・・・・・211
第 75 表　東京第一陸軍造兵廠川越製造所 (火工廠) 跡調査一覧表・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・216

写真図版目次

写真図版 1　北野遺跡第 45 ～ 48(1) 地点・・・・・・・・・・239
写真図版 2　北野遺跡第 48(2)・49(1) 地点・・・・・・・・・240
写真図版 3　北野遺跡第 49 地点 (2)、川崎遺跡第 48 地点・・241
写真図版 4　川崎遺跡第 49・51 地点・・・・・・・・・・・242
写真図版 5　川崎遺跡第 52 地点 (1)・・・・・・・・・・・・243
写真図版 6　川崎遺跡第 52 地点 (2)・・・・・・・・・・・・244
写真図版 7　川崎遺跡第 52 地点 (3)・・・・・・・・・・・・245
写真図版 8　川崎遺跡第 52 地点 (4)・・・・・・・・・・・・246
写真図版 9　川崎遺跡第 52 地点 (5)・・・・・・・・・・・・247
写真図版 10 川崎遺跡第 52 地点 (6)・・・・・・・・・・・・248
写真図版 11 川崎遺跡第 52 地点 (7)・・・・・・・・・・・・249
写真図版 12 川崎遺跡第 53 地点・・・・・・・・・・・・・・250
写真図版 13 川崎遺跡第 54・55 地点・・・・・・・・・・・251
写真図版 14 ハケ遺跡第 25・26 地点・・・・・・・・・・・・252
写真図版 15 ハケ遺跡第 27 地点、権現山遺跡第 28 地点 (1)・253
写真図版 16 権現山遺跡第 28 地点 (2)、滝遺跡第 33 地点 (1)・254
写真図版 17 滝遺跡第 33(2)・34(1) 地点・・・・・・・・・・255
写真図版 18 滝遺跡第 34(2)・35(1) 地点・・・・・・・・・・256
写真図版 19 滝遺跡第 35 地点 (2)・・・・・・・・・・・・・257
写真図版 20 滝遺跡第 35 地点 (3)・・・・・・・・・・・・・258
写真図版 21 滝遺跡第 35 地点 (4)・・・・・・・・・・・・・259
写真図版 22 長宮遺跡第 58 地点、亀居遺跡第 79 地点・・・・260
写真図版 23 亀居遺跡第 80 地点、鶴ケ舞遺跡第 30 ～ 32 地点・261
写真図版 24 鶴ケ舞遺跡第 33 ～ 35(1) 地点・・・・・・・・・262
写真図版 25 鶴ケ舞遺跡第 35(2) ～ 37 地点・・・・・・・・・263
写真図版 26 松山遺跡第 95 ～ 98 地点・・・・・・・・・・・264
写真図版 27 松山遺跡第 100 地点 (1)・・・・・・・・・・・265
写真図版 28 松山遺跡第 100 地点 (2)・・・・・・・・・・・266
写真図版 29 松山遺跡第 100 地点 (3)・・・・・・・・・・・267
写真図版 30 松山遺跡第 101 地点 (1)・・・・・・・・・・・268
写真図版 31 松山遺跡第 101(2)・102 地点、江川南遺跡第 28 地点、
江川東遺跡第 25 地点・・・・・・・・・・・・・269
写真図版 32 江川東遺跡第 26 地点、東久保遺跡第 76 地点 (1) 270
写真図版 33 東久保遺跡第 76(2)・77 地点・・・・・・・・・271
写真図版 34 亀久保堀跡遺跡第 33 地点、東久保西遺跡第 24・25
(1) 地点・・・・・・・・・・・・・・・・・・・272
写真図版 35 東久保西遺跡第 25 地点 (2)・・・・・・・・・・273
写真図版 36 駒林遺跡第 38 ～ 40(1) 地点・・・・・・・・・・274
写真図版 37 駒林遺跡第 40(2)・41 地点・・・・・・・・・・275
写真図版 38 福岡新田遺跡第 7 地点、東久保南遺跡第 44 地点・・276
写真図版 39 西ノ原遺跡第 175 地点 (1)・・・・・・・・・・277
写真図版 40 西ノ原遺跡第 175 地点 (2)・・・・・・・・・・278
写真図版 41 西ノ原遺跡第 175 地点 (3)・・・・・・・・・・279
写真図版 42 西ノ原遺跡第 175 地点 (4)・・・・・・・・・・280
写真図版 43 西ノ原遺跡第 176 ～ 178 地点、中沢前遺跡第 32 地点
・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・281
写真図版 44 中沢前遺跡第 33 地点、神明後遺跡第 56・57(1)・282
写真図版 45 神明後遺跡第 57 地点 (2)、苗間東久保遺跡第 34 地点、
浄禅寺跡遺跡第 52 地点・・・・・・・・・・・・283
写真図版 46 浄禅寺跡遺跡第 53・54(1) 地点・・・・・・・・284
写真図版 47 浄禅寺跡遺跡第 54 地点 (2)、小田久保遺跡第 13・14
地点・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・285
写真図版 48 大井宿遺跡第 19 地点・・・・・・・・・・・・・286
写真図版 49 大井宿遺跡第 20 地点、本村遺跡第 135 地点・・287
写真図版 50 本村遺跡第 137 地点 (1)・・・・・・・・・・・288
写真図版 51 本村遺跡第 137 地点 (2)・・・・・・・・・・・289
写真図版 52 本村遺跡第 137 地点 (3)、大井戸上遺跡第 8 地点 (1)
・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・290
写真図版 53 大井戸上遺跡第 8(2) ～ 10 地点・・・・・・・・291
写真図版 54 東京第一陸軍造兵廠川越製造所 (火工廠)・・・・292

第 1 章　遺跡と調査の概要

Ⅰ　調査に至る経過

埼玉県ふじみ野市では平成 17 年から国庫・県費の補助を受けて、「市内遺跡群発掘調査事業」(旧上福岡市、旧大井町では昭和 53 年度から合併まで) として試掘・確認調査及び個人住宅建設に伴う発掘調査を実施してきた。また民間の開発に伴う本調査も原因者と協議の上、協定書並びに契約書を締結し原因者負担のもと、市教育委員会が主体となって本調査を実施している。

埋蔵文化財の調査は庁内関係各課と連絡調整を行い、農業委員会事務局からの農地転用許可申請段階、建設課 (民間の指定確認検査機関含む) への建築確認申請段階、都市整備課からの開発行為の事前申請段階等でそれぞれチェックされる。その後、教育委員会では開発主体者または土地所有者から「埋蔵文化財包蔵地の開発事前協議書」(以下「埋蔵文化財事前協議書」) の提出を受けて事前協議を行う。埋蔵文化財包蔵地内及びその縁辺部の申請に対して遺跡地図と照合のうえ現地踏査及び現況確認を実施、遺跡に影響を及ぼすとみなされる開発行為に対して申請者と協議を行った。

協議後、文化財保護法第 99 条第 4 項にもとづき、民間・公共事業を問わず確認調査については全て公費で対応し、埋蔵文化財包蔵地の詳細な範囲の把握を積極的に実施している。またその個人の用に供する住宅 (個人住宅) の建設に伴う発掘調査についても、教育委員会が発掘調査主体者となって調査を実施した。

2018 年度の試掘及び発掘調査は第 2 表のとおりで、国庫・県費補助事業対象の調査 37 件である。また、試掘調査の結果、個人住宅建設に伴う本調査 2 件、公共事業に伴う本調査 0 件、民間開発に伴う本調査 1 件を行った。開発面積は 15,441.74 ㎡で、そのうち実質調査面積は試掘 2,240.02(本調査面積 77.685) ㎡である。過去 2 年間の調査件数と調査面積を第 1 表に掲載する。

2019 年度の試掘及び発掘調査は第 2 表のとおりで、国庫・県費補助事業対象の調査 28 件である。また、試掘調査の結果、個人住宅建設に伴う本調査 3 件、公共事業に伴う本調査 0 件、民間開発に伴う本調査 1 件を行った。開発面積は 12,194.64 ㎡で、そのうち実質調査面積は試掘 1,982.45(本調査面積 222.5) ㎡である。過去 3 年間の調査件数と調査面積を第 1 表に掲載する。

今後、中小規模の再開発を含む民間開発の増加が見込まれる中で、埋蔵文化財の保存及び活用と、調査体制の強化が求められるところである。

第 1 表　過去 3 年間の調査件数と面積一覧表

	試掘件数	個人住宅 本調査件数	原因者負担 本調査件数	調査原因の内訳
	開発面積 (㎡)	開発面積 (㎡)	開発面積 (㎡)	
2017(平成 29 年度)	48 件	3 件	5 件	個人住宅 24、分譲住宅 11、共同住宅 4、宅地造成 3、店舗 1、資材置場 1、自治会館 1、消防団車庫 1、道路拡張 1、物置 1
	22,380.17	694.8	7,256.5	
2018(平成 30 年度)	39 件	2 件	1 件	個人住宅 13、分譲住宅 13、共同住宅 2、宅地造成 1、店舗 3、診療所兼住宅 2、寄宿舎 1、福祉施設 1、駐車場 1、道路拡幅 1、建物解体 1
	15,441.74	43.885	33.8	
2019(平成 31・令和元年度)	38 件	3 件	1 件	個人住宅 16、分譲住宅 18、共同住宅 3、診療所兼住宅 1
	12,194.64	162.5	60	

第 2 表　2018（平成 30）年度埋蔵文化財調査一覧表

No.	遺跡・地点名	申請地住所	開発面積（㎡）	試掘面積（㎡）	個人住宅等本調査面積（㎡） 民間開発本調査面積（㎡）	原　因	試掘期間 本調査期間	調査措置
1	北野遺跡第 45 地点	大原 1-2049-7	119.04	7.5		個人住宅	4/16	試掘調査
2	北野遺跡第 46 地点	北野 1-3065-18	103.00	0.49		個人住宅	3/12	試掘調査
3	川崎遺跡第 48 地点	川崎字宅地添 234-1	266.00	41		個人住宅	8/27 ～ 30	試掘調査
4	川崎遺跡第 49 地点	川崎 1-1-5	509.00	106.41		分譲住宅	2/7・8	試掘調査
5	ハケ遺跡第 25 地点	福岡 3-1184-5･6	297.00	68.27		分譲住宅	6/12	試掘調査
6	権現山遺跡第 28 地点	滝 1-3-3	624.00	131.99		分譲住宅	2/25・26	試掘調査
7	滝遺跡第 33 地点	滝 1-1-9 の一部	187.00	38.15		個人住宅	12/14	試掘調査
8	滝遺跡第 34 地点	滝 1-1-8	333.00	52.54		個人住宅 兼診療所	2/20・21、 4/12(2019 年)	試掘調査
9	長宮遺跡第 58 地点	長宮 1-1-7	360.00	58.7		寄宿舎	7/2	試掘調査
10	鶴ケ舞遺跡第 30 地点	福岡武蔵野 1398-1	265.92	28.11		宅地造成	6/28	試掘調査
11	鶴ケ舞遺跡第 31 地点	鶴ヶ舞 1-69-94	297.00	30.45		個人住宅	9/10	試掘調査
12	鶴ケ舞遺跡第 32 地点	南台 2-793-2 の一部・17	99.00	20.88		個人住宅	3/25	試掘調査
13	松山遺跡第 95 地点	松山 2-1-12	353.00	38.96		分譲住宅	8/1・2、9/13	試掘調査
14	松山遺跡第 96 地点	仲 1-1-34	165.43	31.95		分譲住宅	8/20	試掘調査
15	松山遺跡第 97 地点	築地 3-1-5 の一部、7 の一部	253.00	61.93		個人住宅	10/30	試掘調査
16	松山遺跡第 98 地点	松山 2-2-4	1,291.34	54.46		店舗	11/1	試掘調査
17	松山遺跡第 99 地点	仲 2-4-2	673.35	201.25	 33.8	分譲住宅	1/11・15 1/21・22	試掘調査・ 民間開発本調査
18	江川南遺跡第 28 地点	ふじみ野 2-1-8・9	436.17	76.89		建物解体	3/18・19	試掘調査
19	江川東遺跡第 25 地点	東久保 1-16-21	63.40	9.4		分譲住宅	3/12	試掘調査
20	亀久保堀跡遺跡第 33 地点	ふじみ野 2-15-24	138.00	28.6	15.4 	個人住宅	12/10 12/19 ～ 21	試掘調査・ 本調査
21	東久保西遺跡第 24 地点	ふじみ野 2-12-2	1,585.51	60.32		貸店舗	10/2 ～ 4	試掘調査
22	駒林遺跡第 38 地点	駒林元町 2-1-3	396.06	79.8		店舗兼 住宅	5/8	試掘調査
23	福岡新田遺跡第 7 地点	駒林字寺脇 883-1	412.00	27.2		個人住宅	3/14・26	試掘調査
24	東久保南遺跡第 44 地点	ふじみ野 4-10-2	289.00	19.36		個人住宅	4/23	試掘調査
25	西ノ原遺跡第 175 地点	旭 1-15-7	121.00	34.35	28.485 	個人住宅	4/9 4/10 ～ 20	試掘調査・ 本調査
26	西ノ原遺跡第 176 地点	旭 1-11-2	238.11	40.93		分譲住宅	7/3	試掘調査
27	西ノ原遺跡第 177 地点	苗間 1-2-6	620.00	87.98		診療所兼住宅	12/7	試掘調査
28	西ノ原遺跡第 178 地点	苗間 1-14-5	418.84	37.2		共同住宅	2/4	試掘調査
29	中沢前遺跡第 32 地点	うれし野 2-7-1・9	312.00	85.58		共同住宅	1/30	試掘調査
30	中沢前遺跡第 33 地点	うれし野 2-7-2	388.00	51.88		分譲住宅	3/8	試掘調査
31	苗間東久保遺跡第 34 地点	苗間字東久保 649-20	123.86	24.3		分譲住宅	5/16	試掘調査
32	浄禅寺跡遺跡第 51 地点	苗間字神明前 510-12･13	112.58	5.1		分譲住宅	4/26	試掘調査
33	浄禅寺跡遺跡第 52 地点	苗間字神明前 564-1	1,186.00	233.61		老人ホーム・ デイサービス	2/12・13	試掘調査
34	小田久保遺跡第 13 地点	大井字西原 1032-27	203.12	49.2		個人住宅	10/9	試掘調査
35	大井宿遺跡第 19 地点	大井字西原 1069-3	428.00	18		個人住宅	1/23	試掘調査
36	本村遺跡第 135 地点	大井 1-4-9、10 の一部	698.00	52.52		分譲住宅	9/19	試掘調査
37	本村遺跡第 136 地点	市沢 2-4-7	651.00	140.7		分譲住宅	10/17 ～ 19	試掘調査
38	大井戸上遺跡第 8 地点	大井字東台 798-4、799-3	200.01	43.4		駐車場	5/11	試掘調査
39	大井戸上遺跡第 9 地点	大井 229-2、232-8・9・10	225.00	60.66		道路拡幅	8/6 ～ 13	試掘調査
合　計			15,441.74	2,240.02	43.885 33.8			

第 3 表　2018(平成 30) 年度立会調査一覧表 1　（埋蔵文化財包蔵地内）

No.	遺跡・地点	申請地住所	開発面積 (㎡)	原　　因	立会日	備　　考
1	北野	北野 2-1827-8	1.00	土地利用に伴う支線撤去	立会なし	撤去のみのため立会なし、慎重工事
2	北野	北野 2-6-28	0.34	ガス管新設工事	11/1 立会	立会済
3	川崎	川崎 2-14	2.00	電力設備取替	5/2 立会	掘削面積極めて狭く調査不可、工事立会
4	上福岡貝塚	福岡 2-1500-74	50,438.59	店舗		上福岡郵便局解体時工事立会
5	長宮	西原 2-6 付近	75.92	ガス管新設工事		立会日程連絡待ち (3/1 ～工事予定)
6	鶴ヶ舞	鶴ヶ舞 1-72-2	1.00	土地利用に伴う小柱・小柱支線新設	調査済	2017/11/16 調査済、慎重工事
7	鶴ヶ舞	南台 2-1745-1･11・12、1746-9･10	409.77	分譲住宅	始末書	無届で建設済で調査できず、始末書受理
8	鶴ヶ舞	鶴ヶ舞 1-57-5(住居表示：2-43)	240.00	分譲住宅	7/5 立会	基礎撤去時立会、遺構遺物なし、慎重工事
9	鶴ヶ舞	鶴ヶ舞 1-73-8	72.00	個人住宅	7/18・25 立会	基礎撤去時立会、遺構遺物なし、慎重工事
10	富士見台横穴墓群	富士見台 619-1	152.77	個人住宅	7/9 立会	基礎撤去立会時一部試掘、地表面下 70 ～ 80 ㎝でも地山ﾛｰﾑ層確認できず、工事立会
11	松山	仲 1-4-4	202.72	個人住宅	11/19 立会	基礎撤去立会、保護層有工事立会
12	松山	松山 2-2-4	2.00	土地利用に伴う支線撤去	11/1 立会	立会済、遺構遺物なし
13	松山	仲 1-2-13 の一部	158.00	個人住宅	12/3 立会	既存建物撤去時一部試掘、確認面まで 80 ～ 90 ㎝、保護層有、工事立会
14	松山	松山 2-1-12	4.47	ガス管新設工事	12/11 立会	立会済、遺構遺物なし
15	松山	仲 2-4	8.37	ガス管新設工事	3/7 立会	立会済
16	松山	仲 1-2-25	99.00	個人住宅	3/23 基礎撤去立会	基礎撤去時一部試掘、地表面下 100 ㎝でも遺構面確認できず、保護層有工事立会
17	江川東	東久保 1-141	1,113 の内、2.56	UQ 無線基地局新設	3/25 立会	掘削面積狭いため調査不可、工事立会
18	東中学校西	ふじみ野 1-1-21・22	1,014.00	店舗	1/28 立会	包蔵地内に影響がないため工事立会
19	西ノ原	うれし野 2-15-2	1.00	土地開発に伴う本柱移設	5/1 立会	掘削面積極めて狭く調査不可、工事立会
20	神明後	苗間 251-6	2.00	土地利用に伴う支線撤去	未実施	場所が違った為立会未実施
21	浄禅寺跡	苗間 511-2	2.00	土地利用に伴う支線移設	調査済	1982/4 月調査済、立会なし、慎重工事
22	浄禅寺跡	苗間神明前 507-49	165.42	個人住宅	調査済	2017/4 月基礎解体立会済、慎重工事
23	大井戸上	大井字東台 797-2	3620.44	工場	4/26・27、6/4 立会	基礎撤去時立会時一部試掘、遺構遺物なし、慎重工事

第 4 表　2018(平成 30) 年度立会調査一覧表 2　（埋蔵文化財包蔵地外）

No.	遺跡・地点	申請地住所	開発面積 (㎡)	原　　因	立会日	備　　考
1	鶴ヶ岡外隣接	亀久保 1670-2･3･7･100･101･102･104、1673-1･8	4.00	土地利用に伴う本柱・支線移設	立会なし	包蔵地外、立会なし
2	上福岡貝塚近接	福岡 1-1500-1・81 の各一部	21,878.76	小学校増築	立会済	解体時立会済、基礎図後日提出
3	長宮隣接	滝 2-3-25・9	928.09	長屋住宅・共同住宅	7/27 基礎撤去立会	基礎撤去時立会
4	亀居近接	鶴ヶ岡 2-27-1	1,015.00	分譲住宅	7/19 立会	基礎工事立会
5	江川南隣接	鶴ケ舞 1-110-1･6･7	687.00	分譲住宅	立会なし	110-1 は 1992/3 月試掘済
6	江川東隣接	丸山 538-4	59.73	建売住宅	6/4 立会	6/4 立会済
7	東久保南隣接	ふじみ野 4-7-5	554.00	駐車場	立会なし	掘削がないため、調査・立会なし
8	大井宿隣接	大井 1-3-4 の一部、3-5	412.15	個人住宅	9/6 立会	基礎工事立会
9	西台隣接	大井 904-105	1.00	土地利用に伴う小柱新設	10/17 立会	立会済
10		新田 1-537	5,250.70	分譲住宅	未立会	(工事予定 5/1 ～ 8/31) 日程連絡なし
11		緑ヶ丘 2-1906-139	1,787.32	宅地造成	5/7 立会	立会済
12		苗間字神明前 485-1	1,432.34	店舗		基礎工事立会、日程連絡待ち (予定 5/30 ～ 9/10)
13		上福岡 5-1118-1 の一部、1118-11	1,624.06	有料老人ホーム	7/18 立会	基礎掘削深度 2 m程度、基礎工事立会
14		亀久保字大野原 1623-3・8、1621-3、1624-2、1619-3・6	8,714.32	工場増築	9/18 立会	基礎工事立会
15		中福岡字上六反田 271、272	1,998.13	店舗	12/11･17･21 立会	浸透トレンチ掘削時立会
16		大井武蔵野 1276-1	5,096.00	資材置き場及び駐車場	未立会	樹木伐採の際立会、日程連絡なく立会できず
17		駒林北谷 1033-1、駒林伏尾 1066-1	15,178.26	汚物処理及びごみ処理施設	立会なし	2017/5 立会済 、立会なし

第 5 表　2019（平成 31・令和元）年度埋蔵文化財調査一覧表

No.	遺跡・地点名	申請地住所	開発面積（㎡）	試掘面積（㎡）	個人住宅等本調査面積（㎡） 民間開発本調査面積（㎡）	原　因	試掘期間 本調査期間	調査措置
1	北野遺跡第 47 地点	北野 1-3127-12	74.46	4.83		分譲住宅	7/8	試掘調査
2	北野遺跡第 48 地点	北野 2-2130-1	275.23	55.5		共同住宅	8/28	試掘調査
3	北野遺跡第 49 地点	北野 1-3109-8・15	492.64	71.96		分譲住宅	1/29	試掘調査
4	川崎遺跡第 51 地点	川崎 1-1-6	394.00	97.14		分譲住宅	5/8・9	試掘調査
5	川崎遺跡第 52 地点	川崎字宮前 99-1	321.00	172.4	82.50	個人住宅	5/22 ～ 24 5/28 ～ 6/19	試掘調査・本調査
6	川崎遺跡第 53 地点	川崎字宮後 166-1・9・10・11	212.00	47.5		分譲住宅	11/5・6	試掘調査
7	川崎遺跡第 54 地点	川崎字宮脇 155-6	313.62	23.25		共同住宅	2/20・21	試掘調査
8	川崎遺跡第 55 地点	川崎字宅地添 232-4、233-1 の各一部	235.00	22.35		個人住宅	3/16・17	試掘調査
9	ハケ遺跡第 26 地点	福岡 3-1228-48	135.00	41.13		分譲住宅	6/25・26	試掘調査
10	ハケ遺跡第 27 地点	福岡 3-2061-2	226.22	61.8		個人住宅	3/25 ～ 27	試掘調査
11	滝遺跡第 34 地点	滝 1-1-8	333.00	52.54		個人住宅兼診療所	2/20・21（再提出）	試掘調査
				42.75			4/12	試掘調査
12	滝遺跡第 35 地点	滝 1-6-3	320.00	85.5	35	個人住宅	2/17 2/18 ～ 21	試掘調査・本調査
13	亀居遺跡第 79 地点	亀久保 3-990-16	120.05	11.5		分譲住宅	10/3	試掘調査
14	亀居遺跡第 80 地点	亀久保 2-9-2	93.58	18.4		個人住宅	12/19	試掘調査
15	鶴ケ舞遺跡第 33 地点	南台 2-1746-1	112.19	8		個人住宅	7/11	試掘調査
16	鶴ケ舞遺跡第 34 地点	鶴ケ舞 1-69-52	88.59	6.71		分譲住宅	7/24	試掘調査
17	鶴ケ舞遺跡第 35 地点	鶴ケ舞 1-106-4	117.99	37.1		分譲住宅	8/5	試掘調査
18	鶴ケ舞遺跡第 36 地点	鶴ケ舞 1-62-3 の一部	130.00	10.5		個人住宅	3/19	試掘調査
19	鶴ケ舞遺跡第 37 地点	鶴ケ舞 1-106-6	125.56	12.75		個人住宅	3/19	試掘調査
20	松山遺跡第 100 地点	築地 3-1-5 の一部	327.00	21	45	個人住宅	8/8 8/9 ～ 23	試掘調査・本調査
21	松山遺跡第 101 地点	仲 1-2-52・54	1,219.00	222		分譲住宅	10/30 ～ 11/1	試掘調査
22	松山遺跡第 102 地点	築地 2-3-14・15	91.00	5		分譲住宅	3/17	試掘調査
23	江川東遺跡第 26 地点	東久保 1-176-6	72.00	13.2		分譲住宅	11/7	試掘調査
24	東久保遺跡第 76 地点	ふじみ野 2-15-7	228.00	37.13		分譲住宅	5/16	試掘調査
25	東久保遺跡第 77 地点	ふじみ野 2-15-9	320.00	15.76		分譲住宅	7/2	試掘調査
26	東久保西遺跡第 25 地点	ふじみ野 2-9-5・6 の各一部	904.96	87.73		共同住宅	7/3 ～ 8	試掘調査
27	駒林遺跡第 39 地点	駒林元町 2-1-19	200.00	22.5		個人住宅	6/3	試掘調査
28	駒林遺跡第 40 地点	駒林元町 1-3-17･18	285.81	41.2		分譲住宅	8/26	試掘調査
29	駒林遺跡第 41 地点	新駒林 3-723-2	226.00	30.75		個人住宅	3/23・24	試掘調査
30	神明後遺跡第 56 地点	苗間字神明後 374-34	255.58	30.3		個人住宅	11/11	試掘調査
31	神明後遺跡第 57 地点	苗間字神明後 310-9	146.00	15.46		個人住宅	1/21	試掘調査
32	浄禅寺跡遺跡第 53 地点	苗間字東久保 572-2	515.00	28.71		分譲住宅	7/30・31	試掘調査
33	浄禅寺跡遺跡第 54 地点	苗間 584	800.09	140.13		分譲住宅	10/16 ～ 21	試掘調査
34	小田久保遺跡第 14 地点	大井字西原 1040-1	321.00	14.8		個人住宅	4/16	試掘調査
35	大井宿遺跡第 20 地点	大井字西原 1081-8・9	170.32	13.84		個人住宅	10/24	試掘調査
36	本村遺跡第 136 地点	市沢 2-4-7	652.17	140.7		分譲住宅	調査済 (H30/10)	民間開発本調査
					60		4/11 ～ 23	
37	本村遺跡第 137 地点	市沢 2-9-1・8・9	843.00	181.99		分譲住宅	4/8・9	試掘調査
38	大井戸上遺跡第 10 地点	大井字東台 798-1 の一部	497.58	36.64		個人住宅	2/4	試掘調査
合　計			12,194.64	1,982.45	162.5 60			

第 6 表 2019(平成 31・令和元) 年度立会調査一覧表 1　(埋蔵文化財包蔵地内)

No.	遺跡・地点	申請地住所	開発面積 (㎡)	原　　因	立会日	備　　考
1	鶴ヶ岡外	亀久保字大野原 1694-47・70・71	100.00	個人住宅	1/17 立会	基礎撤去立会、削平されていて遺構なし、慎重工事
2	鶴ヶ岡	鶴ヶ岡 3-16-5	1.00	接地極新設		掘削面積狭く調査不可、工事立会
3	北野	北野 1-3129-1	2.00	電柱移設工事	6/14 立会	立会済、遺構遺物なし
4	北野	大原 2-2080-24	147.00	解体工事	10/2 立会時一部試掘	基礎撤去立会時一部試掘、遺構遺物なし、慎重工事
5	北野	北野 1-3129-22	54.13	建売住宅	10/21 立会	根切り掘削時工事立会
6	北野	大原 2-2080-23	146.90	建物解体工事	12/23 立会	建物解体工事立会
7	北野	北野 1-3129-22・1	0.88	電柱移設工事		掘削面積狭く調査不可、工事立会
8	川崎	川崎 166-1	2.20	ガス管新設工事	12/5 立会	掘削面積狭く調査不可、工事立会
9	川崎	川崎字宮脇 155-9 ～ 155-6	6.00	ガス管新設工事	3/27 立会	立会済
10	滝	滝 3-3-37	165.34	建売住宅	3/26 立会	立会済
11	西原	上ノ原 1-2-60	1.04	支線改修工事		掘削面積狭く調査不可、工事立会
12	長宮	西原 2-6 付近	75.92	ガス管新設工事	4/25・26 立会	立会済
13	鶴ケ舞	鶴ケ舞 1-99-1	78.53	分譲住宅	2/20 立会	基礎撤去時立会時一部試掘、遺構遺物確認なし、慎重工事
14	松山	仲 1-2-9	385.18	分譲住宅	9/24・25 立会	基礎撤去立会、現地表面下 70 ～ 80 ㎝で地山ローム層確認、保護層有工事立会
15	松山	仲 1-2-1	9.52	ガス管新設工事		立会済
16	江川東	東久保 1-137-11	87.56	建売住宅	4/25 基礎撤去立会	4/25 基礎撤去立会
17	東久保	ふじみ野 2-15-9	0.89	電柱移設工事	10/3 立会	掘削面積狭く調査不可、工事立会
18	東中学校西	ふじみ野 4-1-4	1.00	接地極新設		掘削面積狭く調査不可、工事立会
19	東中学校西	ふじみ野 4-3-8	756.00	駐車場	4/6 確認	立会
20	浄禅寺跡	苗間東久保 591-1・4 ～ 8	576.00	分譲住宅	7/31 立会時一部試掘	基礎撤去時立会時一部試掘、遺構遺物確認なし、慎重工事 (追加図面で後日変更)
21	浄禅寺跡	苗間字東久保 718-9･10･11･12	86.10	幼稚園	12/6 立会時一部試掘	基礎撤去立会時一部試掘、慎重工事
22	浄禅寺跡	苗間 578-8 ～ 591-10 他	169.40	ガス管新設工事	12/12 立会	立会済
23	浄禅寺跡	苗間東久保 591-1	2.00	土地利用に伴う支線撤去	11/28 立会	立会済
24	浄禅寺跡	苗間字神明前 510-9	105.84	個人住宅	3/13 立会	立会済
25	浄禅寺跡 53	苗間 572-2	1.00	土地利用に伴う支線撤去	11/8 立会	掘削面積狭く調査不可、工事立会
26	西台	大井西台 901-1	1.00	道路拡幅工事に伴う本柱移設		立会済
27	大井戸上	大井 797-4	1.00	電柱移設工事	8/29 立会	立会済

第 7 表 2019(平成 31・令和元) 年度立会調査一覧表 2　(埋蔵文化財包蔵地外)

No.	遺跡・地点	申請地住所	開発面積 (㎡)	原　　因	立会日	備　　考
1	松山隣接	本新田 407-1	666.97	共同住宅	7/11 立会	基礎掘削時立会
2	松山隣接	仲 3-2-10	909.72	建売住宅	12/6 立会	12/6 根切立会
3	城山隣接	福岡字天神廻 225-5	221.97	個人住宅	1/24 立会	立会済
4	江川南隣接	東久保 1-130-3	114.87	建売住宅		隣接地、立会
5	東久保西隣接	ふじみ野 3-1-2･10	1474.34	店舗事務所	10/2 立会	根切り掘削時工事立会
6	駒林隣接	新駒林 4-777-1 の一部	1,711.08 の一部	個人住宅	3/30 立会	立会済
7	駒林隣接	新駒林 4-777-1 の一部	1,711.08 の一部 (709)	基礎解体工事	3/30 立会	立会済
8	本村隣接地	大井 2-2-1	687.00	分譲住宅・賃貸住宅	10/16・18 立会	南側 2 筆の根切時立会
9		苗間字神明前 485-1	1432.34	店舗	4/22・23 立会	基礎工事立会
10		亀久保 4 丁目 448-1・2・3	3465.02	店舗	5/31 立会	立会済
11		西鶴ケ岡 1218-4、2158-4	1900.00	グループホーム	10/30 立会	立会済
12		亀久保字三角 1823-1 の一部	1077.38	個人住宅	7/10 立会	基礎撤去時立会
13		亀久保字大野原 1670-105・107・110	2919.00	工場・倉庫	2/14 立会	2/14 柱状改良工事立会
14		中福岡字百目木 148	1160.60	分譲住宅	4/6 立会	浸透トレンチ掘削時立会

Ⅱ　立地と環境

ふじみ野市は、首都圏 30 ㎞圏内の県南西部に位置する。2005(平成 17) 年 10 月 1 日に、上福岡市と大井町が合併して誕生した。面積 14.64 ㎢、人口は 2019(平成 30) 年 7 月現在 113,297 人である。

旧上福岡市地域では明治・大正時代頃までは畑作と稲作、旧大井町地域では畑作を中心とする農村地帯であった。また、近世以降は川越街道 (大井宿) や新河岸川 (福岡河岸)、東武東上線 (上福岡駅) などの交通網が発達した交通の要所でもあった。現在も市内には国道 254 号バイパス、東武東上線、川越街道 (国道 254 号線)、関越自動車道といった、交通の幹線が北西から南東方向に平行して存在する。市内の開発はこうした幹線沿いや、東武東上線上福岡駅周辺、ふじみ野駅周辺を中心に進んでいるが、郊外には畑地や田園風景も多くみられる。

昭和初期の太平洋戦争時には、旧福岡村に通信施設や旧日本陸軍造兵廠東京工廠福岡工場 (火工廠) が建設され、戦後の昭和 30 年代以降には各市町で中・小の宅地開発や大規模な団地が誕生し人口が急増した。また企業の工場や研究所も多数進出してきた。昭和 60 年代以降、旧大井町地域では大規模な土地区画整理事業が進み、埋蔵文化財の発掘調査も行われた。現在は上福岡駅周辺の再開発と、ふじみ野駅周辺の民間開発が活発に行われている。

ふじみ野市を地形的にみると、武蔵野台地と荒川低地に大きく分かれ、旧大井町域は武蔵野台地縁辺部に位置し、旧上福岡市域は台地縁辺部から荒川低地の沖積地に広がる。

武蔵野台地は古多摩川が形成した扇状地で、扇頂部で標高 180 m、扇端部は標高 15 ～ 20 mで比高差 10 m前後の急斜面となって荒川低地と接している。台地には柳瀬川、黒目川、石神井川等の中河川が荒川低地へ向かって流れ、深い谷と沖積地を形成し、河川に沿って多くの遺跡が分布している。他にも多数の小河川が流れ、台地縁辺を鋸歯状に開析することが多いが、中には急崖もなく、緩斜面のまま低地に接していくことがある。この緩斜面はもともと低位の段丘面で、低位台地と呼ばれる。旧大井町地域を南北方向の断面図で見ると、北と南に高台が続き、その中間に低位台地 (大井台) がある。この大井台の中を 3 本の河川が東流し、河川の流域に遺跡が集中している。中でも砂川堀は狭山丘陵に流れを発する中河川で、本来大井台はこの砂川の段丘面と捉えることができる。また、福岡江川や富士見市との境を流れるさかい川、浄禅寺川などの小河川は市内に湧水源をもつ。湧水源は浅い窪地から発しており、こうした窪地の形成は従来から伏流水が再湧出したことによるものと、宙水からの流出によるものとの二通りが考えられている。

荒川低地は、荒川により形成された沖積地で、ふじみ野市の北東部から東部にかけて広がる。荒川の支流であった新河岸川は川越市周辺に水源を発しその流れはふじみ野市、富士見市、志木市、朝霞市を経て東京都にまたがる。武蔵野台地縁辺部を縫うように流れ、不老川、九十川、福岡江川、砂川堀、柳瀬川、黒目川、越戸川、白子川などの支川と合流し、現在は東京都北区で隅田川に合流する。低地部は平坦にみえるが、荒川や新河岸川の河川改修等で取り残された沼や、氾濫でできた旧河道 (埋没河川)、自然堤防、後背湿地などの地形が存在する。

Ⅲ　市内の遺跡

ふじみ野市の遺跡分布をみると、台地上の中小河川沿いと荒川低地部を望む縁辺部、低地部分に分かれる。

市内の主な遺跡を時代順に河川ごとに概観する。

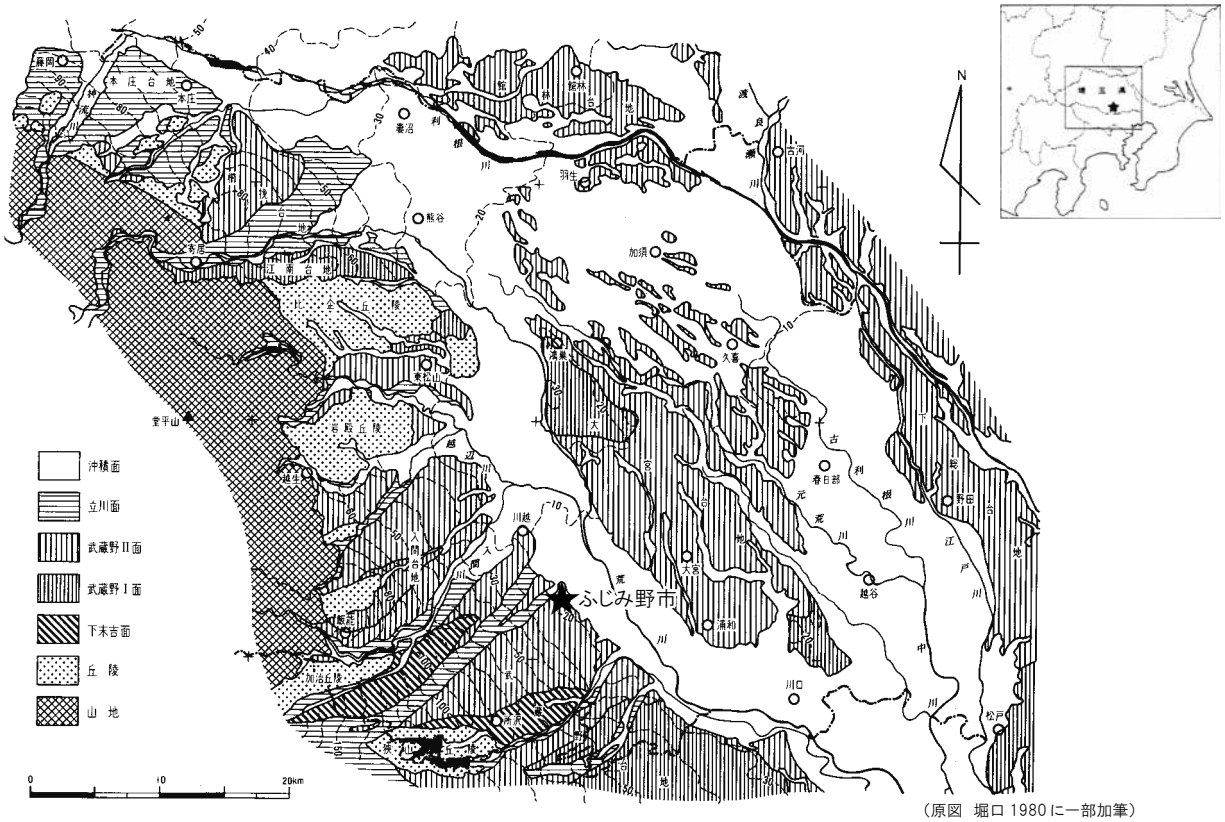
【旧石器時代・縄文時代】　市の北側を流れる川越江川では、右岸高台に鶴ケ岡外遺跡、鶴ケ岡遺跡、八幡神社遺跡 (川越市) が位置し、縄文時代中期の集落である西遺跡へ続く。鶴ケ岡外遺跡では旧石器時代の石器群と礫群が出土し、八幡神社遺跡では縄文時代中期の住居跡などが検出されている。

藤間江川・川越江川が新河岸川に合流する部分、荒川低地に張り出した舌状台地上に、川崎貝塚として著名な川崎遺跡が立地する。本遺跡ではローム層中からではないが旧石器時代の石器が出土し、縄文時代早期から後期の住居跡などを検出する。新河岸川は川崎遺跡を回り込み、低地部で台地東縁を沿うように流れる。台地東端は急峻を成し、崖線上には縄文時代中期のハケ遺跡、学史上著名な前期集落の上福岡貝塚が形成され権現山遺跡へと続く。台地の南端、市立福岡中学校周辺はかつて「熊野山」と呼ばれ、湧出した水が丘上から流れ落ち滝となっていたため「滝地区」の名称が付いたとされる。清水は長宮氷川神社の裏手 (北側) を北に流れていたが現在は道路となっており、新河岸川との合流部でその面影を残すのみである。滝遺跡、長宮遺跡はこの小河川に対峙して立地し、滝遺跡では前期の遺構と遺物を、長宮遺跡では前期関山期の集落跡が確認されている。

川越江川の 1 ㎞南には福岡江川が流れ、新河岸川へ注ぐ。福岡江川の湧水地周辺域に縄文時代中期前半の集落である亀居遺跡が存在し、対岸にも中期前半の江川南遺跡がある。この 2 遺跡と鶴ケ舞遺跡では、旧石器時代立川ローム第Ⅳ層の礫群と石器群を検出している。さらに市立亀久保小学校周辺では福岡江川に注ぐ埋没谷がみられ、東久保遺跡、亀久保堀跡遺跡、東久保西遺跡、東中学校西遺跡で旧石器時代から縄文時代中期の遺構と遺物が確認されている。川越江川最下流の新河岸川との合流部域には、前期集落の鷺森遺跡が存在する。

福岡江川の 900 m南には、富士見市との境にさかい川が流れ、 3 ㎞下流で砂川堀と合流する。流域には縄文時代中期の拠点集落である西ノ原遺跡の他、10 遺跡が存在する。旧石器時代の遺跡は西ノ原遺跡、中沢前遺跡、中沢遺跡・外記塚遺跡 (富士見市) で立川ロームⅢ層～Ⅹ層の遺物が確認されている。縄文時代中期～後期の集落は時代を追うごとに、上流から下流域へ集落の拠点を移していく傾向がみられる。

さかい川の 800 m南に、都市下水道と化した砂川堀が流れる。砂川流域は大きく 3 ヶ所の地域で遺跡分布がみられる。砂川最上流域の狭山丘陵裾部、伏流水となりはじめる中流域、一旦地中に姿を消したあ



（原図　堀口 1980 に一部加筆）

第 1 図　ふじみ野市の位置と周辺の地形

と再び湧水してくる下流域である。下流域のふじみ野市地域では、砂川右岸が段丘となり５～６ｍの急崖を形成する。この高台上には縄文時代中期の拠点集落である東台遺跡があり、旧石器時代の遺跡も西台遺跡から東台遺跡まで連綿と続く。 一方砂川左岸の低位台地では、市内で最古の時期であるＡＴ降灰前 (立川ローム第Ⅶ層) の石器を本村遺跡の微高地上から検出する。縄文時代中期には上流の小田久保遺跡で小規模な集落がみられ、本村遺跡では炉穴、落とし穴が散在する。

【弥生・古墳時代】 荒川低地を流れる新河岸川の自然堤防上に、弥生時代後期の環濠集落である伊佐島遺跡が立地する。新河岸川右岸、舌状台地崖線上の東端に立地する権現山遺跡は、縄文時代から中世までの複合遺跡で、縄文時代の住居跡も存在するが、主体は遺跡北東部と北西端に築造された古墳群と、古墳時代前期から奈良・平安時代にかけての集落跡である。北東部に築造された古墳時代前期の古墳群 (埼玉県指定史跡権現山古墳群) は、方墳 11 基の他に古墳時代初期の前方後方墳 (2 号墳)1 基である。また権現山古墳群北西端の台地縁辺部には、古墳時代中期の古墳群 (通称権現山北古墳群) ３基がある。ハケ遺跡第 16 地点の調査 (2014) で、古墳の周溝から、6 世紀後半頃とみられる複数の人物埴輪と、円筒埴輪が新たに発見されたが、古墳の形態や主体部については不明である。また第 19 地点の調査 (2015) では 6 世紀代の円墳３基が新たに発見され、群集墳であることが判明した。

他に古墳時代の集落は川崎遺跡と上福岡貝塚、滝遺跡で確認されている。

【飛鳥・奈良・平安時代】 7 世紀には、前述の舌状台地の西側、川崎遺跡の南西隣に川崎横穴墓群、さらに南約 1.5 ㎞の台地南側の崖線に、富士見台横穴墓群が存在する。集落は川崎遺跡、滝遺跡、松山遺跡、長宮遺跡など一段低い段丘面に展開し、川崎遺跡は 10 世紀前半まで、滝遺跡、松山遺跡は 9 世紀後半ごろまで続く。

8 世紀代には前述の他、ハケ遺跡、上福岡貝塚、権現山遺跡、神明後遺跡、東久保南遺跡などで住居跡を検出する。8 世紀中葉～ 9 世紀前半まで、砂川堀右岸の台地縁辺部に東台遺跡の大規模な製鉄遺跡が現われ、周辺の遺跡でも木炭窯などが確認されている。さらに 9 世紀以降 10 世紀までは伊佐島遺跡、東台遺跡、西ノ原遺跡などで住居跡を検出している。またハケ遺跡からは銙帯金具が、川崎遺跡からは瓦塔片と布目瓦などが出土しており注目される。

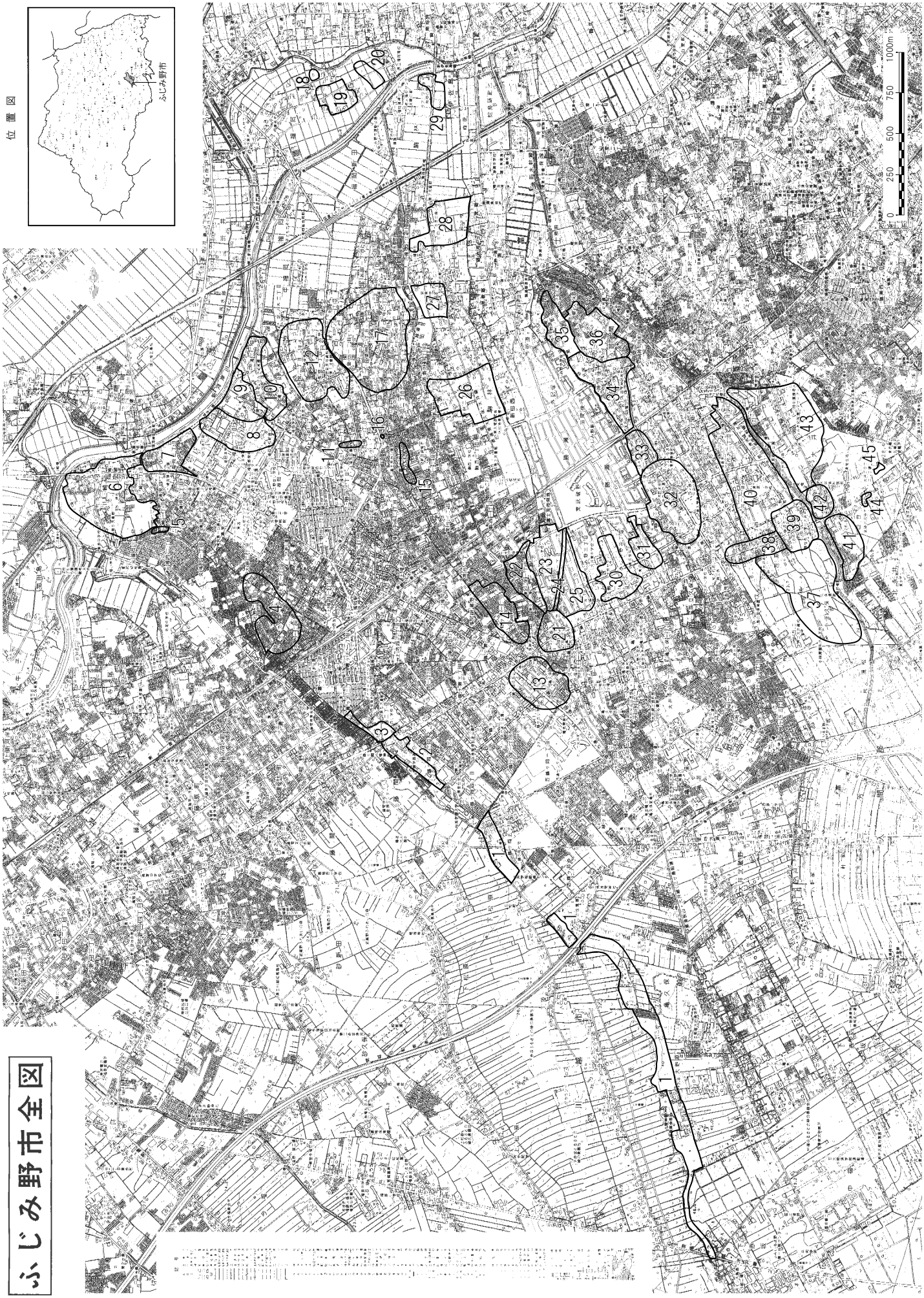
【中世】 駒林遺跡では 14 世紀代に造立された板碑の下に、蔵骨器が埋納された葺石墳墓を検出した。また本遺跡を囲む堀跡状の溝覆土層中から、茶毘跡などが確認されている。長宮遺跡、松山遺跡、本村遺跡などでは 13 ～ 16 世紀代の遺物を伴う遺構を検出する。特に本村遺跡では遺構を多数検出し、15 世紀以降中世集落が発展したと思われる。

16 世紀後半～ 17 世紀前半では川崎遺跡、長宮遺跡、松山遺跡、神明後遺跡、浄禅寺跡遺跡などで屋敷地とみられる遺構を検出し、「新田」といった地名と共に開発の歴史を偲ばせる。特に城山遺跡は荒川低地の自然堤防上に立地し、周囲を方形に堀跡で囲む中世から近世の居館跡と思われる。

また、松山遺跡、駒林遺跡、亀久保堀跡遺跡、神明後遺跡では時期不詳の長大な堀跡が検出されている。

【近世】 近世以降の遺跡は、多数の遺跡で遺物などが確認されている。主な近世遺跡の分布は中世村落から続く集落跡や、街道沿いの宿場や新河岸川の河岸跡、寺院跡などにみられる。中でも、川越街道沿い大井宿の範囲にある大井氏館跡遺跡、大井戸上遺跡や大井宿遺跡、亀久保村地蔵院の江川南遺跡、旧苗間村の寺院跡である浄禅寺跡遺跡、長宮氷川神社周辺の長宮遺跡、新河岸舟運で栄えた福岡河岸の福田屋などでまとまった遺構と遺物が確認されている。また鷺森遺跡で、近・現代の盛り土の中から陶磁器が多数出土しているが、埋め立ての為に他から持ち込まれた可能性がある。

近世以降では、昭和初期の旧日本陸軍の軍需工場である東京第一陸軍造兵廠川越製作所 (通称造兵廠「火工廠」) の跡地で、防爆土塁・防空壕・水溜・消火栓・排水枡などの遺構や遺物が、近年の調査で確認されている。



第２図　ふじみ野市遺跡分布図（1/30,000）

第 8 表　ふじみ野市遺跡一覧表

No.	遺跡名	主な時代	遺跡番号
1	鶴ケ岡外遺跡	旧石器、縄文早期の集落跡	30-036
2	鶴ケ岡遺跡	旧石器、縄文早期・中期の集落跡	30-047
3	西遺跡	縄文中期の集落跡	25-001
4	北野遺跡	縄文中期、奈良・平安の集落	25-002
5	川崎横穴墓群	古墳後期の横穴墓	25-004
6	川崎遺跡	旧石器、縄文前期・中期、古墳前期・中期、奈良・平安の集落跡	25-003
7	ハケ遺跡	縄文中期の集落跡、奈良・平安の集落跡、6 世紀代の古墳群	25-005
8	上福岡貝塚	縄文前期、古墳前期、奈良・平安の集落跡	25-006
9	権現山遺跡群（古墳群）	古墳前期の集落跡・古墳群、縄文中期、奈良・平安の集落	25-007
10	滝遺跡	縄文時代、古墳前期・中期、奈良・平安、近世の集落跡	25-008
11	西原遺跡	縄文の散布地	25-025
12	長宮遺跡	縄文前期、中・近世の集落跡	25-009
13	亀居遺跡	旧石器、縄文前期・中期の集落跡	30-030
14	鶴ケ舞遺跡	旧石器、縄文中期、奈良・平安の集落跡	30-046
15	富士見台横穴墓群	古墳後期の横穴墓	25-011
16	福遺跡	古墳後期の横穴墓	25-023
17	松山遺跡	奈良・平安、中・近世の集落跡	25-010
18	天神廻遺跡	古墳中期の散布地	25-018
19	城山遺跡	中・近世の館跡	25-019
20	川袋遺跡	奈良・平安の散布地	25-020
21	江川南遺跡	旧石器、縄文中期、中・近世の集落跡	30-007
22	江川東遺跡	奈良・平安、近世の集落跡	30-045
23	東久保遺跡	旧石器、縄文中期、近世の集落跡	30-009
24	亀久保堀跡遺跡	中世の堀跡	30-006
25	東久保西遺跡	旧石器、縄文早期・中期、近世の集落跡	30-042
26	駒林遺跡	近世の堀跡・中世の墳墓	25-013
27	福岡新田遺跡	縄文時代の散布地、中・近世寺院	25-015
28	鷺森遺跡	縄文前期の集落跡	25-017
29	伊佐島遺跡	古墳前期、平安の集落跡	25-021
30	東中学校西遺跡	縄文早期・中期、近世の集落跡	30-008
31	東久保南遺跡	旧石器、縄文早期・中期、近世の集落跡	30-032
32	西ノ原遺跡	旧石器、縄文早期・中期・後期、奈良・平安～近世の集落跡	30-001
33	中沢前遺跡	旧石器、縄文早期・中期、近世の集落跡	30-044
34	神明後遺跡	旧石器、縄文早期～後期、奈良・平安～近世の集落跡	30-041
35	苗間東久保遺跡	旧石器、縄文早期～後期	30-020
36	浄禅寺跡遺跡	旧石器、縄文早期・中期、中・近世の集落跡、近世寺院跡	30-022
37	小田久保遺跡	旧石器、縄文早期～中期、中・近世の集落跡	30-040
38	大井宿遺跡	近世～近代の宿場跡	30-010
39	大井氏館跡遺跡・大井戸遺跡	旧石器、縄文前期・中期、中・近世の集落跡	30-037
40	本村遺跡	旧石器、縄文早期～後期、中・近世の集落跡	30-034
41	西台遺跡	旧石器、縄文中期、奈良・平安、近世の集落跡	30-039
42	大井戸上遺跡	旧石器、縄文前期・中期、近世の集落跡	30-014
43	東台遺跡	旧石器、縄文早期～後期、奈良・平安～近世の集落跡、製鉄遺跡	30-024
44	大井宿木戸跡	近世～近代の宿場跡	30-048
45	石塔畑	中世の散布地	30-027

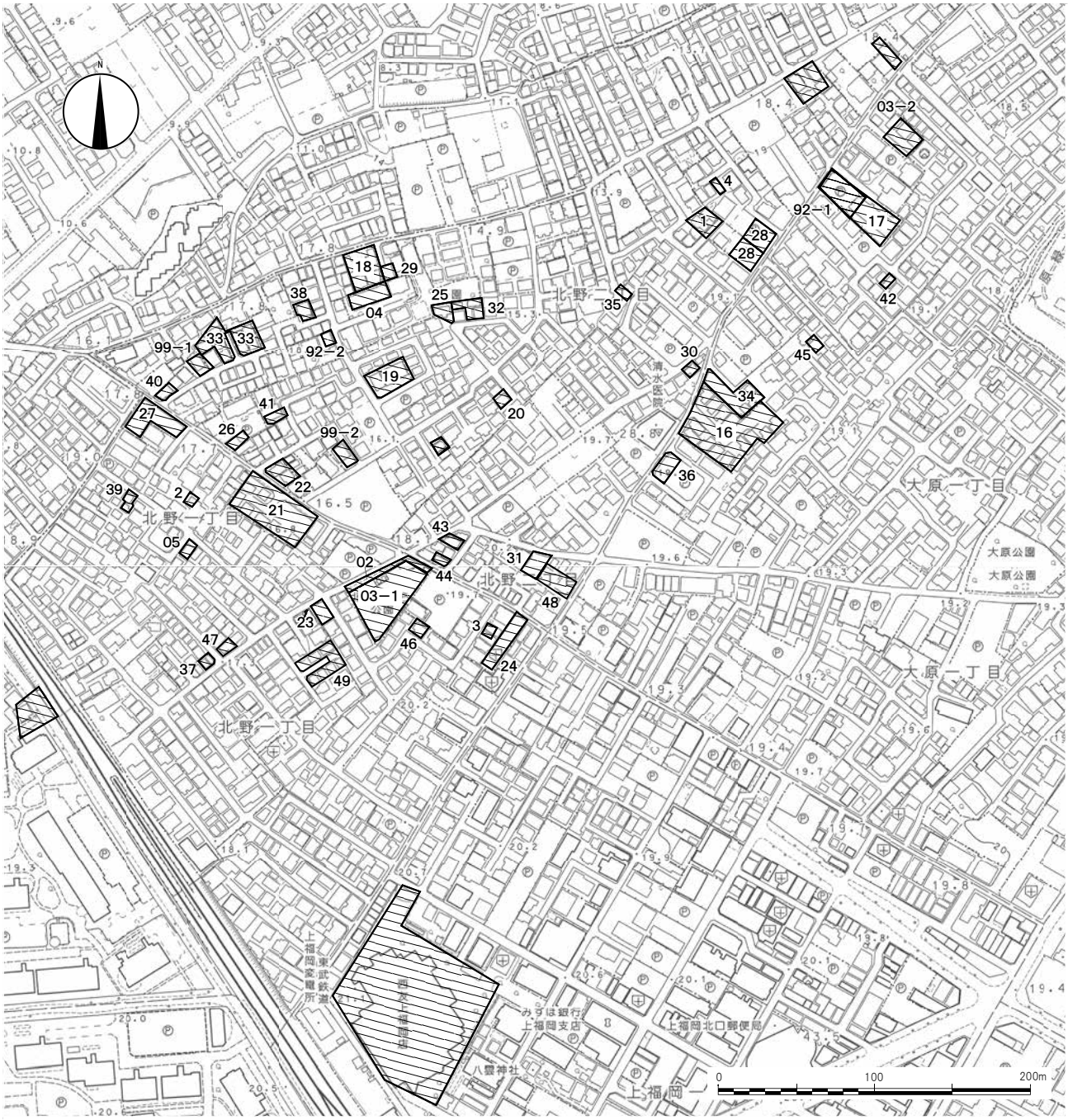
第 2 章　北野遺跡の調査

Ⅰ　遺跡の立地と環境

北野遺跡は、藤間江川に面した標高 17 ～ 18m の台地縁辺にあり、開析した小支谷を囲うように立地する南北 250 m、東西 650 m以上の遺跡である。上福岡駅まで 600 mに位置する利便性のため、昭和 30 年代から宅地開発され、ほとんど空き地は残っていない。

周辺の遺跡は、1km 上流に縄文集落の西遺跡、下流に旧石器時代から縄文、古代、中近世にわたる複合遺跡の川崎遺跡、川崎横穴墓群がある。

1965 年の分布調査、1970 年代後半の宅地開発で縄文時代早～中期の土器片が採集され、1980 年以来 2020 年 4 月現在、49 ヶ所で試掘調査が行われている。縄文時代中期と平安時代の住居跡各 1 軒、中世以前とみられる溝等を検出、縄文時代中期深鉢土器の顔面把手等も採集されている。



第 3 図　北野遺跡の地形と調査区（1/4,000）

第９表　北野遺跡調査一覧表

地区 地点	所在地	調査期間 ( ) は試掘調査	開発面積 (㎡)	調査面積 ( ) は試掘	調査原因	確認された遺構と遺物	備考	所収報告書
1	北野 2-2110-1 の一部、2112-1	(2006.4.7)	408	(44)	分譲住宅	遺構遺物なし		市内 3
2	北野 1-3119-11	(2006.8.4)	131		個人住宅	遺構遺物なし		H18 ふ生、市内 3
3	北野 1-3061-4	(2006.4.28)	148		分譲住宅	遺構遺物なし		市内 3
4	北野 2-8-3	(2006.8.24)	58		個人住宅	遺構遺物なし		H18 ふ生
92-1	大原 2-2079-1	(1992.6.19 ～ 22)	617		駐車場	遺構なし、土師器片		上埋 15
92-2	北野 2-1809-1	(1992.8.6)	138		個人住宅	遺構遺物なし		上埋 15
99-1	北野 2-1797-5	(1999.7.2)	157.4		個人住宅	遺構なし、縄文土器片		上埋 22
99-2	北野 2-1787-1	(1999.8.9 ～ 12)	179.1		個人住宅	遺構なし、縄文土器片		上埋 22
02	北野 1-3058-1、3114-1 の一部	(2002.11.28・29)	100		公園歩道	遺構遺物なし		上埋 25
03-1	北野 1-3058-1、3114-1 の一部	(2003.7.1 ～ 11)	1,484		公園	遺構遺物なし		上埋 26
03-2	大原 2-2081-6	(2003.8.8・11)	350		宅地造成	土坑、縄文土器片		上埋 26
04	北野 2-1827-1 ～ 3	(2004.4.16・19)	435		共同住宅	遺構遺物なし		上埋 27
05	北野 1-3129-3・20	(2005.12.2)	101		個人住宅	遺構遺物なし		H17 ふ生
16	大原 1-2070-1、2071-1	(2009.4.8 ～ 10)	1,888	(296)	宅地造成	ピット、縄文土器 等		市内 8
17	大原 1-2079-1・6	(2009.10.13 ～ 17)	412	(122.5)	共同住宅	土坑、縄文土器		市内 8
18	北野 2-1828-2・12、1829-1・2	(2009.3.9 ～ 18)	507.9	(178)	分譲住宅	縄文時代住居跡 1、古代住居跡 1、土坑、ピット、縄文土器 等		市内 8
19	北野 2-1821-1・2、1820-4	(2010.12.1・2)	476.3	(74)	共同住宅	ピット、遺物なし		市内 10
20	北野 2-1835-11	(2011.8.11)	61.3	(4)	個人住宅	遺構遺物なし		市内 14
21	北野 1-3117-3、3118-1	(2011.12.8 ～ 20)	830	(281)	分譲住宅	堀跡、縄文土器 等		市内 14
22	北野 2-1788-8 の一部	(2012.2.6 ～ 8)	207.1	(48)	分譲住宅	遺構なし、須恵器		市内 14
23	北野 1-3111-4(1-4-9)	(2012.8.28)	140.8	(1)	個人住宅	遺構遺物なし		市内 15
24	北野 1-3063-1	(2012.9.13・14)	335	(60)	分譲住宅	土坑、縄文土器		市内 15
25	北野 2-1833-3(2-6-6)	(2012.12.10)	142.7	(25)	分譲住宅	遺構遺物なし		市内 15
26	北野 2-1795-3	(2012.12.14)	117	(23)	分譲住宅	遺構遺物なし		市内 15
27	北野 1-3119-11	(2014.5.7)	481	(50.25)	共同住宅	遺構なし、縄文土器		市内 20
28	北野 2-2110-9	(2014.5.27・28)	100.6	(17.25)	分譲住宅	遺構遺物なし		市内 20
28	北野 2-2110-8	(2014.5.27) 2014.5.28	101.4	(14) 3.5	個人住宅	集石土坑、溝、縄文土器		市内 20
29	北野 2-1830-8	(2014.10.14・15)	83.7	(16.5)	分譲住宅	土坑、遺物なし		市内 20
30	北野 2-2067-8	(2014.10.30・11.5)	75.9	(12.8)	分譲住宅	溝、遺物なし		市内 20
31	北野 2-2130-4・9	(2015.8.18)	179	(21.5)	分譲住宅	遺構なし、縄文土器		市内 22
32	北野 2-1841-7 他	(2015.8.27)	209	(4.5)	分譲住宅	遺構遺物なし		市内 22
33	北野 2-1801-3・4・42・43	(2015.12.1 ～ 8) 2015.12.15 ～ 21	627.69	(169.55) 30	分譲住宅	集石土坑、縄文土器		市内 19
34	大原 2073-1	(2015.12.7・8)	276.13	(24)	共同住宅	遺物なし、縄文土器		市内 22
35	北野 2-2116-4	(2015.12.8)	53	(4)	個人住宅	遺構遺物なし		市内 22
36	大原 1-2058-10・11 の各一部	(2016.2.15・16)	212	(31.16)	共同住宅	遺構なし、縄文土器		市内 22
37	北野 1-3127-23・25	(2016.3.25)	70.25	(2.76)	個人住宅	遺構遺物なし		市内 22
38	北野 2-1807-6・7・8、1808-3・5	(2016.7.29)	106.9	(9.5)	個人住宅	遺構なし、縄文土器		市内 24
39	北野 1-3129-27・28	(2016.12.5)	119	(21)	分譲住宅	遺構遺物なし		市内 24
40	北野 2-5-27	(2017.1.30・31)	65	(12.42)	分譲住宅	遺構遺物なし		市内 24
41	北野 2-1794-2 の一部	(2017.2.20・21)	157.49	(13)	分譲住宅	遺構遺物なし		市内 24
42	大原 2-5692-9	(2017.7.6)	63.83	(7.6)	分譲住宅	溝、土器片		市内 24
43	北野 2-2129-11	(2017.8.4)	86.67	(7.7)	個人住宅	遺構なし、縄文土器		市内 24
44	北野 2-2129-7	(2017.12.14)	68.59	(2)	分譲住宅	遺構遺物なし		市内 24
45	大原 1-2049-7	(2018.4.16)	119.04	(7.5)	個人住宅	遺構遺物なし		市内 25
46	北野 1-3065-18	(2019.3.12)	103	(0.49)	個人住宅	遺構遺物なし		市内 25
47	北野 1-3127-12	(2019.7.8)	74.46	(4.83)	分譲住宅	遺構遺物なし		市内 25
48	北野 2-2130-1	(2019.8.28)	275.23	(55.5)	共同住宅	土坑、縄文土器		市内 25
49	北野 1-3109-8・15	(2020.1.29)	429.64	(71.96)	分譲住宅	土坑、遺物なし		市内 25

Ⅱ　北野遺跡第 45 地点

（1）調査の概要

調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者より 2018 年 1 月 17 日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の東部に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため 2018 年 4 月 16 日に試掘調査を実施した。

試掘調査は幅 1m のトレンチ 1 本を設定し、人力による表土除去、表面精査を行った。現地表面から地山ローム層までの深さは約 30 ～ 40 ㎝である。

調査の結果、遺構・遺物は確認されなかったため、写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえで埋戻し、調査を終了した。

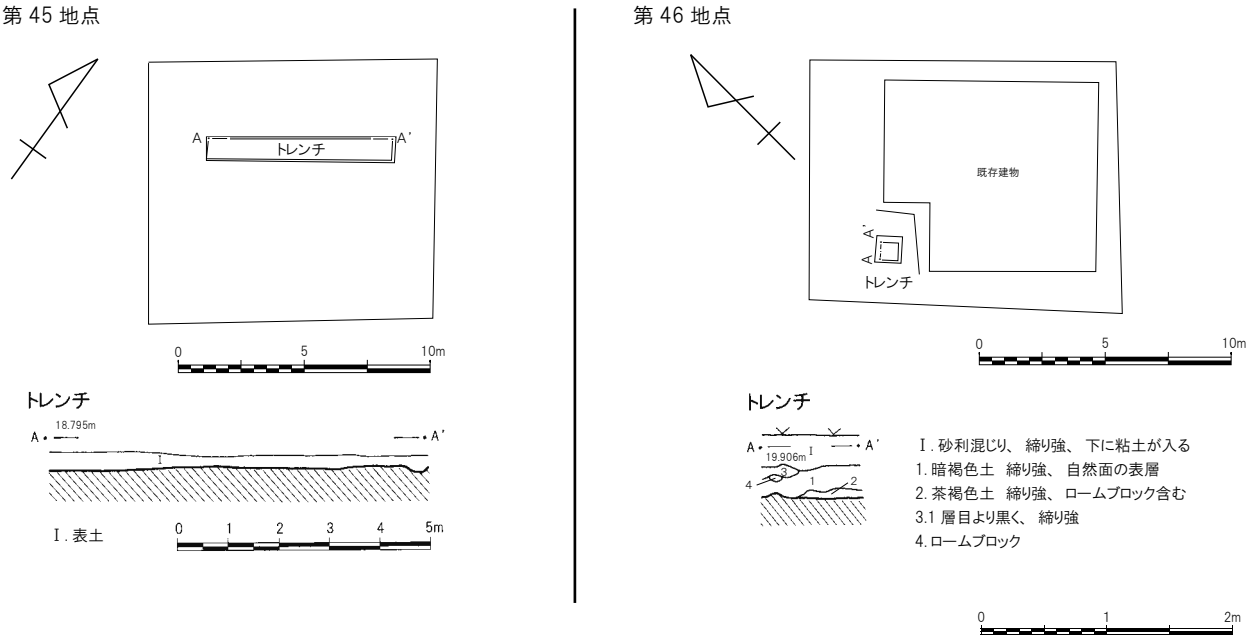
Ⅲ　北野遺跡第 46 地点

（1）調査の概要

調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者より 2018 年 12 月 17 日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の南部に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため 2019 年 3 月 12 日に試掘調査を実施した。

試掘調査は 1m 四方のグリッドを設定し、人力による表土除去、表面精査を行った。現地表面から地山ローム層までの深さは約 60 ㎝である。

調査の結果、遺構は確認されなかったため、写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえで埋戻し、調査を終了した。



第 4 図　北野遺跡第 45・46 地点調査区域図 (1/300)、土層（1/150・1/60）

Ⅳ　北野遺跡第 47 地点

（１）調査の概要

調査は分譲住宅建設に伴うもので、原因者より 2019 年 7 月 2 日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の西部に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため 2019 年 7 月 8 日に試掘調査を実施した。

試掘調査は幅 1m のトレンチ 1 本を設定し、人力による表土除去、表面精査を行った。現地表面から約 90 ㎝下でも地山ローム層は確認されず、覆土の様子と現地の状況を踏まえると埋没谷に位置することがわかる。

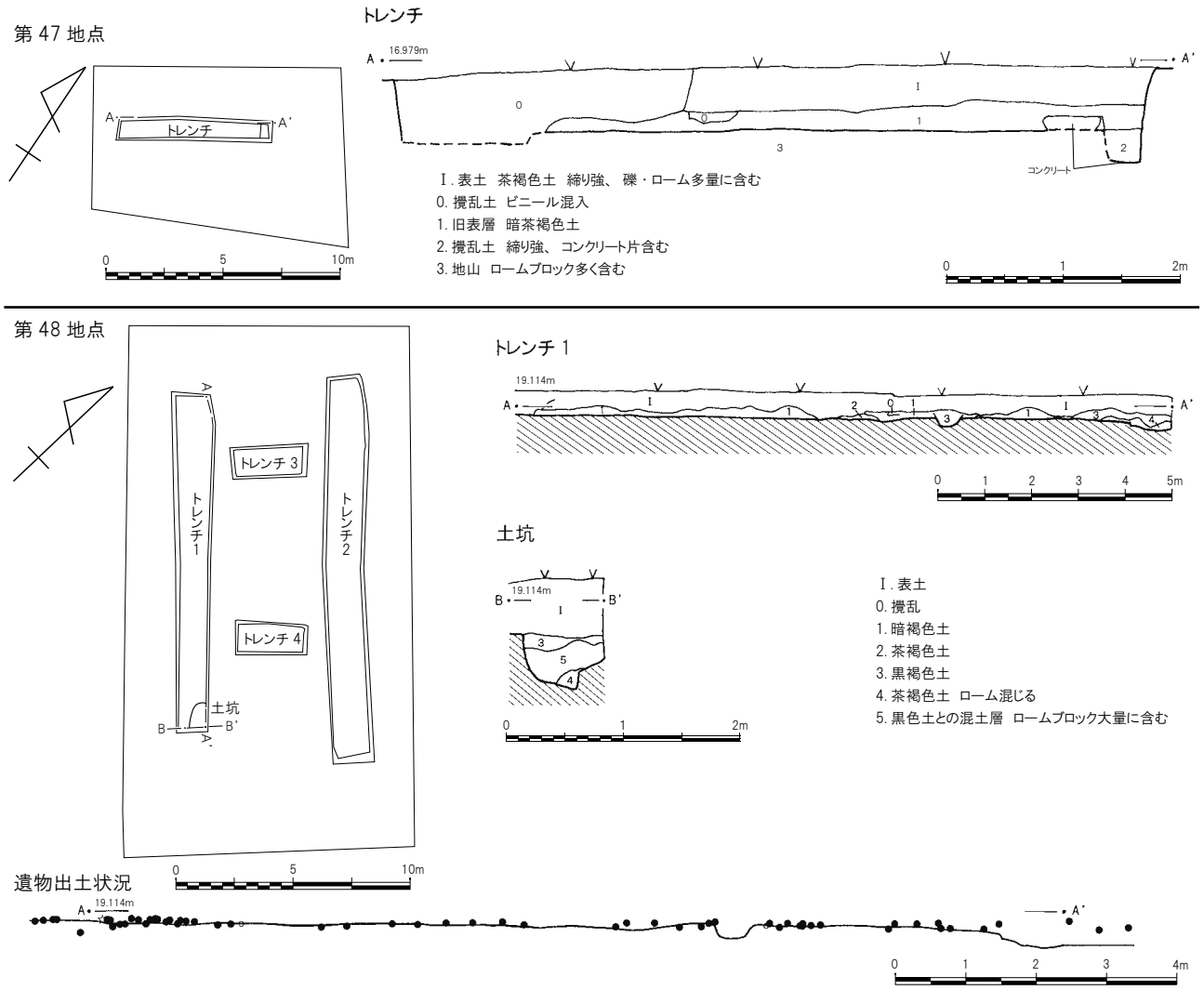
調査の結果、遺構・遺物は確認されなかったため、写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえで埋戻し、調査を終了した。

Ⅴ　北野遺跡第 48 地点

（１）調査の概要

調査は共同住宅建設に伴うもので、原因者より 2019 年 8 月 9 日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の中央部に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため 2019 年 8 月 28 日に試掘調査を実施した。

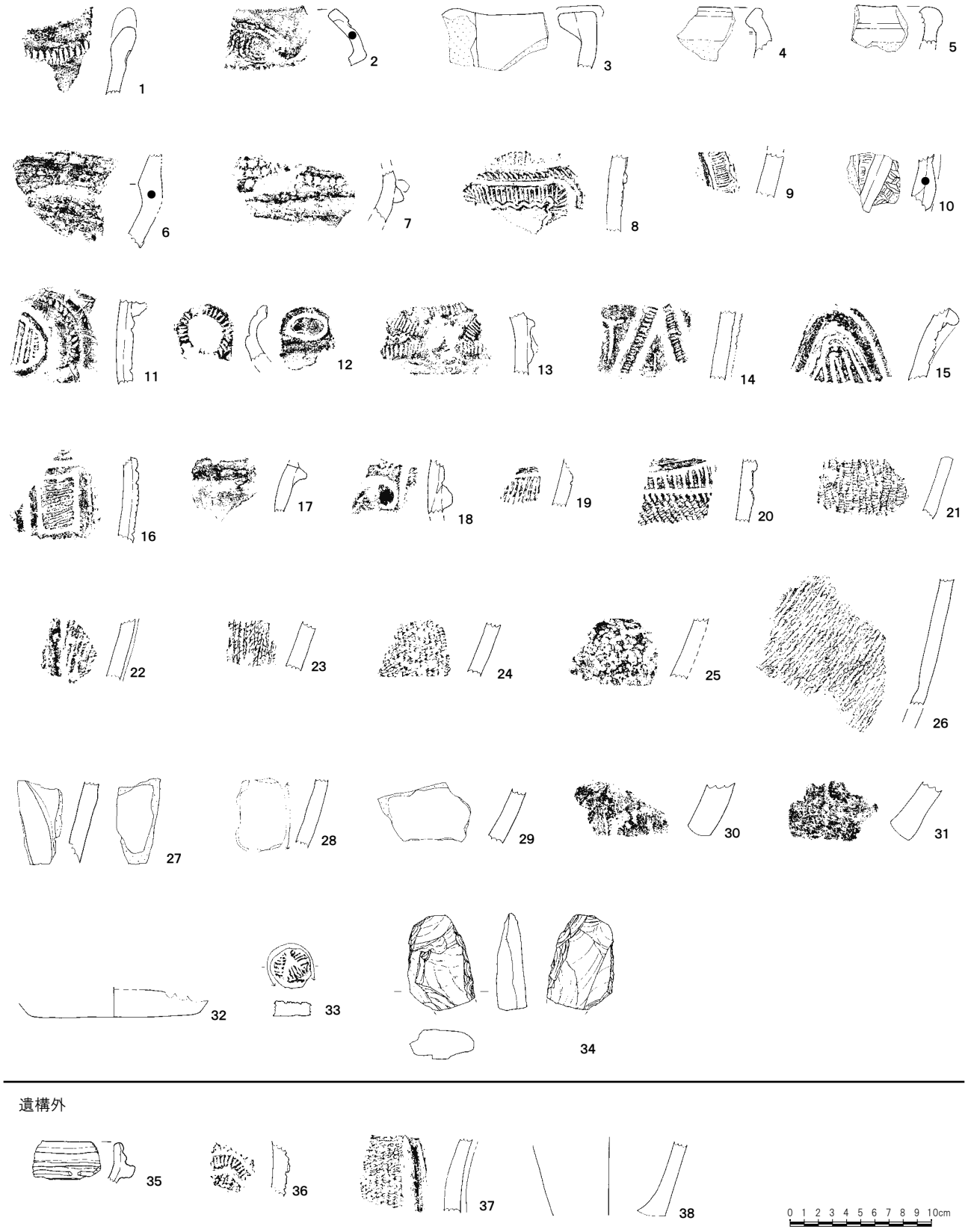
試掘調査は幅 1.5m のトレンチを 4 か所設定し、重機による表土除去後人力による表面精査を行った。



第 5 図　北野遺跡第 47 地点調査区域図、第 48 地点遺構配置図 (1/300)、土層（1/150・1/100・1/60)、第 48 地点土坑 (1/60)

現地表面から地山ローム層までの深さは約 40 ～ 50 ㎝である。

調査の結果、土坑状の落ち込みと縄文時代の包含層を確認した。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえで埋戻し、調査を終了した。



第 6 図　北野遺跡第 48 地点出土遺物（1/4）

（２）遺構と遺物

①土坑

土坑は調査区南西側、トレンチ１内で検出した。トレンチ外に広がるため、平面形態は不明である。確認面径 (105) × 70 ㎝、深さ 44.9 ㎝を測る。出土遺物はない。上層に遺物包含層を含む。

②出土遺物

遺物はすべて包含層からの出土である。現地表より 30 ～ 40 ㎝下で縄文土器を多量に含む包含層をすべてのトレンチで確認した。遺物の詳細については第６図及び第 10 表に掲載した。

第 10 表　北野遺跡第 48 地点出土遺物観察表 (単位 g・cm)

図版番号	出土遺構	種別・器種	技法・文様・備考	時期・型式
第６図 -1	遺構外	縄文・深鉢	口縁部、波状口縁・口縁に沿って連続爪形文・内外面黒色化、胎土に白色粒子を多く含む	中期・勝坂３
第６図 -2		縄文・深鉢	口縁部・角押文による施文、屈折部に刻み目・胎土に金雲母と白色粒子を含む	中期
第６図 -3		縄文・深鉢	内折する口縁部・無文、突起部貼付か・内外面赤化、胎土に白色粒子を多く含む	中期
第６図 -4		縄文・深鉢	口縁部・無文・外面に僅かにタール付着、胎土に白色粒子を含む	中期
第６図 -5		縄文・深鉢	口縁部・無文・口唇部に黒斑、胎土に白色粒子を多く含む	中期
第６図 -6		縄文・深鉢	口縁部・無文・胎土に金雲母と白色粒子を多く含む、外面一部剥離	中期・阿玉台式
第６図 -7		縄文・深鉢	胴部・隆帯貼付、上部に角押文・外面ハジケによる剥離、胎土に白色粒子を含む	中期・勝坂
第６図 -8		縄文・深鉢	胴部・隆帯貼付後脇に沈線、連続爪形文と沈線による綾杉文施文、隆帯上に刻み目・胎土に赤色粒子を含む	中期・勝坂２～３
第６図 -9		縄文・深鉢	胴部・半截竹管状工具による施文、連続爪形文と沈線による綾杉文施文・外面黒色化、胎土に白色粒子を含む	中期・勝坂２～３
第６図 -10		縄文・深鉢	胴部・縦位隆帯貼付、沈線と刻み目による施文・内外面赤化、胎土に金雲母を含む	中期・阿玉台式
第６図 -11		縄文・深鉢	胴部・隆帯による区画、区画内沈線による施文、隆帯上部に刻み目・内面被熱の痕跡有、胎土に砂礫を多く含む	中期・勝坂３
第６図 -12		縄文・深鉢	口縁円形状突起部・外面円形に窪み、周辺に刻み目、内面沈線による円形施文・胎土に白色粒子を多量に含む	中期・勝坂
第６図 -13		縄文・深鉢	胴部・隆帯貼付、連続刺突文、沈線による山型文・内外面に被熱の痕跡有、内面ハジケ、胎土に白色粒子を含む	中期・勝坂３
第６図 -14		縄文・深鉢	胴部・隆帯貼付による山型文、隆帯上部に刻み目、沈線による施文・内面ハジケ、胎土に砂礫を多く含む	中期・勝坂２
第６図 -15		縄文・深鉢	胴部・隆帯貼付、半截竹管状工具による施文・内面黒色化、外面赤化、胎土に白色粒子を多量に含む	中期・勝坂３
第６図 -16		縄文・深鉢	胴部・半截竹管状工具による方形区画、区画内沈線による施文・内面被熱か、胎土に白色粒子を含む	中期・勝坂３
第６図 -17		縄文・有孔鍔付土器	胴部・孔径：６㎜、内外面黒色化、胎土に砂礫を多く含む	中期・加曽利ＥⅡ
第６図 -18		縄文・深鉢	胴部・沈線による施文、円形突起貼付・外面に僅かにタール付着、胎土に白色粒子を含む	中期
第６図 -19		縄文・深鉢	胴部・半截竹管状工具による施文、沈線・内外面赤化、胎土に白色粒子と砂礫を多く含む	中期・勝坂
第６図 -20		縄文・深鉢	胴部・半截竹管状工具、沈線による施文後 RL 縄文施文・内面に煤付着、胎土に白色粒子を含む	中期・加曽利ＥⅠ
第６図 -21		縄文・深鉢	胴部・地文 LR 縄文・内面に僅かに煤付着、胎土に砂礫を多く含む	中期
第６図 -22		縄文・深鉢	胴部・地文 Lr 撚糸か、縦位隆帯貼付・内外面ハジケ、胎土に白色粒子を多く含む	中期
第６図 -23		縄文・深鉢	胴部・Lr 撚糸・外面ハジケ、内面黒色化、胎土に砂礫を多く含む	中期
第６図 -24		縄文・深鉢	胴部・Lr 撚糸・内外面ハジケ、内面黒色化、胎土に白色粒子を多く含む	中期
第６図 -25		縄文・深鉢	胴部・内外面ハジケ、内面に煤、タール付着、胎土に砂礫を多く含む	中期
第６図 -26		縄文・深鉢	胴部・地文 LR 縄文・内面僅かにハジケ、外面に煤付着、白色粒子を多く含む	中期
第６図 -27		縄文・深鉢	胴部・無文・内外面赤化、胎土に白色粒子を含む	中期
第６図 -28		縄文・深鉢	胴部・無文・内面一部黒色化、胎土に白色粒子、片岩を多く含む、割れ口の１面を磨く	中期
第６図 -29		縄文・深鉢	胴部・無文・外面赤化、胎土に白色粒子を含む	中期
第６図 -30		縄文・深鉢	底部付近・無文・内面ハジケ	中期
第６図 -31		縄文・深鉢	底部付近・無文・内面ハジケ、外面にタール付着	中期
第６図 -32		縄文・深鉢	底部・内面ハジケ、一部赤化、胎土に白色粒子、片岩を含む	中期
第６図 -33		縄文・土製品	土製円盤・径 2.8 ㎝、沈線と刻み目を施す、胎土に白色粒子と片岩を含む	中期
第６図 -34		石器・打製石斧	長さ：6.8 ㎝、幅：4.7 ㎝、厚さ：2 ㎝、重量：71.16g、石材：ホルンフェルス	-
第６図 -35		縄文・深鉢	口縁部・隆帯貼付後沈線による施文・内外面に被熱の痕跡有、胎土に白色粒子を含む	中期・加曽利ＥⅠ～Ⅱ
第６図 -36		縄文・深鉢	胴部・隆帯貼付、縦位角押文、隆帯上部に刻み目・内外面黒色化、細かい白色粒子を含む	中期・勝坂
第６図 -37		縄文・深鉢	胴部・地文 Lr 撚糸・、隆帯貼付・内面僅かにハジケ、一部黒色化、胎土に白色粒子を多く含む	中期
第６図 -38		縄文・深鉢	底部付近・無文・内面煤付着、胎土に白色粒子を含む	中期

Ⅵ　北野遺跡第 49 地点

（1）調査の概要

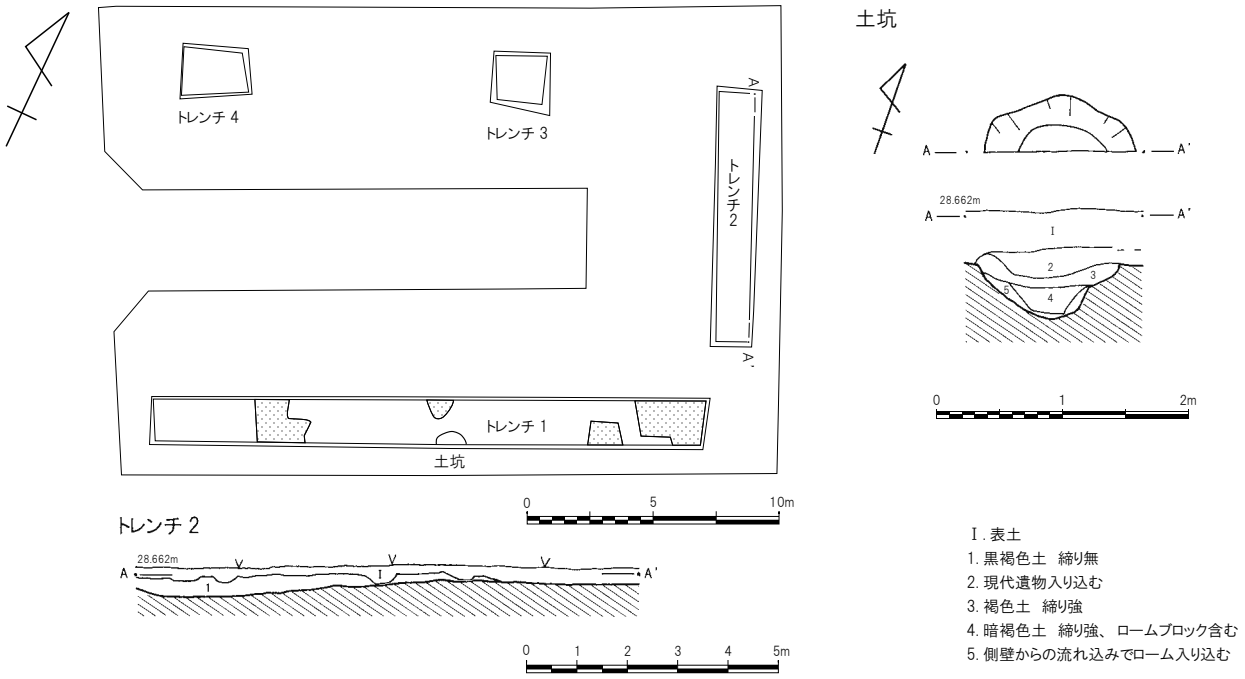
調査は分譲住宅建設に伴うもので、原因者より 2020 年 1 月 17 日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の南西部に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため 2020 年 1 月 29 日に試掘調査を実施した。

試掘調査は幅約 1.5 ～ 2m のトレンチを 4 ケ所設定し、重機による表土除去後人力による表面精査を行った。現地表面から地山ローム層までの深さは約 30 ～ 80 ㎝である。

調査の結果、土坑 1 基を検出したが遺物を伴わないため、写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえで埋戻し、調査を終了した。

（2）遺構と遺物

土坑は調査区南側、トレンチ 1 の中央部で検出した。トレンチ外に広がるため正確な平面形態は不明であるが、おそらくは円形を呈するものと思われる。確認面径 119 × (43) ㎝、底径 70 × (20) ㎝、深さ 42.5 ㎝を測る。出土遺物はないが、土層の観察から縄文時代のものと考えられる。



第 7 図　北野遺跡第 49 地点遺構配置図 (1/300)、土層 (1/150)、土坑 (1/60)

第３章　川崎遺跡の調査

Ⅰ　遺跡の立地と環境

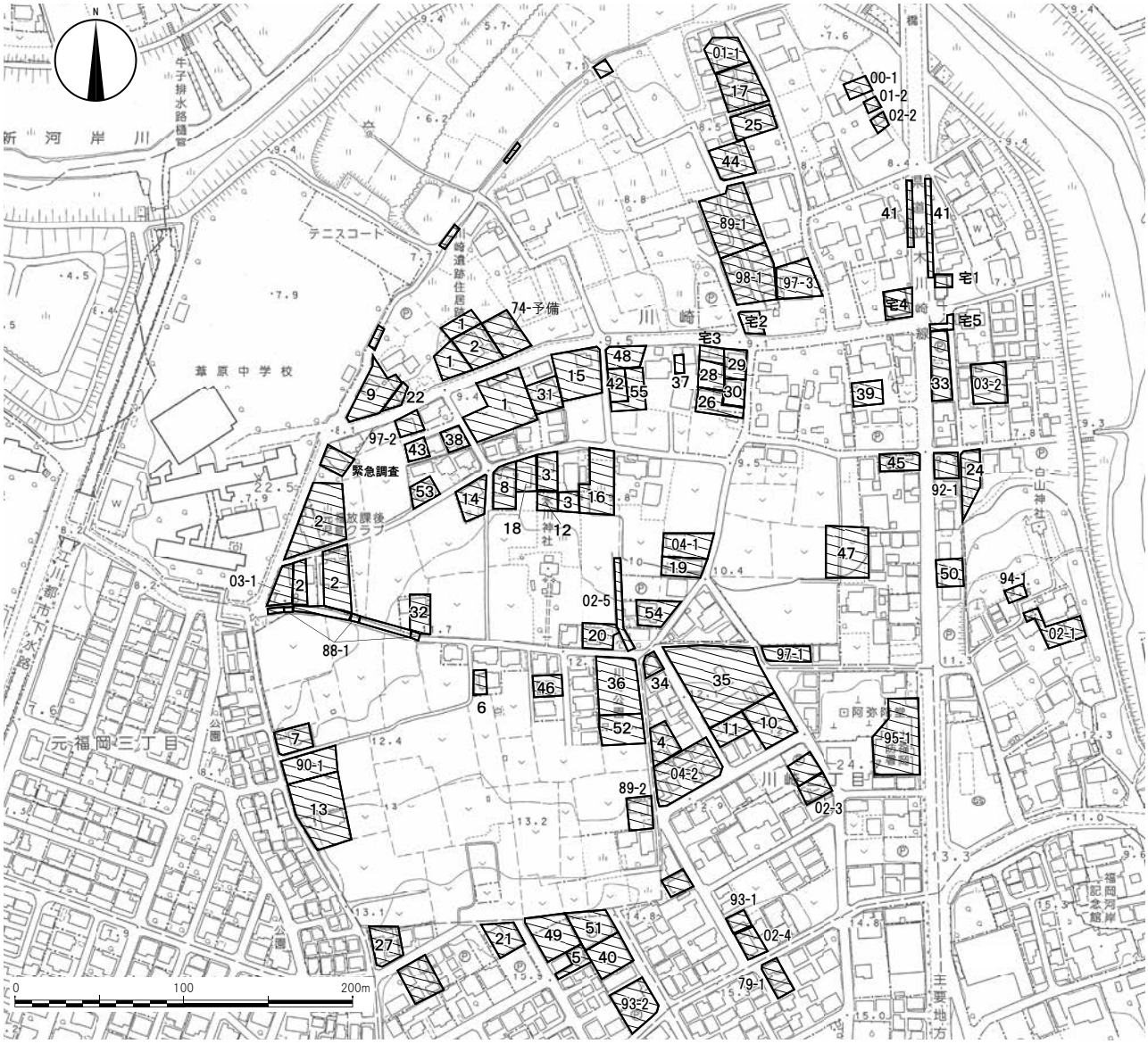
川崎遺跡は、武蔵野台地の北東端、荒川低地に舌状に突き出た武蔵野段丘面の、いわゆる川崎台に立地している。台地の北側を東流してきた藤間江川は舌状台地の西側で新河岸川に合流し、かつては台地の先端より北東方向へ大きく蛇行していた新河岸川は、現在は台地東縁をなめるように流れる。

台地の幅は 400 ～ 500 m、台地の基部から先端へ 1 km にわたり緩やかに傾斜しており、標高は最南部で 18 m、最北部では 8 mを測る。遺跡の範囲は南北 600 m、東西 500 m以上ある。虫食い状に宅地開発されるが、畑も良く残っている。

周辺の遺跡は、舌状台地の西側基部の急斜面上部に川崎横穴墓群が隣接し、東側に縄文時代、古墳、奈良・平安時代のハケ遺跡がある。

1917(大正 6) 年頃、台地の先端部で貝層が確認され 1928(昭和 3) 年の調査では川崎貝塚として報告された。1967 年以降宅地開発等に伴う緊急調査が増加し、2020 年 4 月現在 88 ヶ所で調査を行っている。

主たる時代と遺構は、縄文時代早期の炉穴、早期から前期及び後期の住居跡、古墳時代住居跡、飛鳥時代住居跡、奈良時代住居跡、平安時代住居跡・掘立柱建物跡、中世以降の溝跡、地下式坑、縄文時代と中世以降の貝塚等である。またローム層中からではないが、旧石器時代の遺物も出土している。



第８図　川崎遺跡の地形と調査区 (1/4,000)

第 11 表　川崎遺跡調査一覧表

地区地点	所在地	調査期間 ( ) は試掘調査	開発面積 (㎡)	調査面積 ( ) は試掘	調査原因	確認された遺構と遺物	備考	所収報告書
74- 予備	川崎 160	(1974.3.25 ～ 4.4)	84		事前調査	炉穴、土坑、ピット、縄文土器 等		上遺調
1 次	川崎 162 ～ 176	1974.7.20 ～ 9.19	1,800		事前調査	縄文時代住居跡 3、古墳時代住居跡 1、古代住居跡 7、焼土、集石、土坑、堀跡、溝、井戸、地下式坑、縄文土器、土師器 等		川崎 1 次
緊急調査	大字川崎字宮後 168-3	1975.3.30 ～ 5.10	198		個人住宅	溝、縄文土器 等		上遺調
宅 1	大字川崎字宅地添 122	1975.6.8 ～ 29	50		個人住宅	縄文時代住居跡 1、貝塚、縄文土器 等	宅地添 1 次 A 地区	上遺調
2 次	川崎 137 ～ 174	1975.9.4 ～ 12.5	3,055		事前調査	縄文時代住居跡 9、古墳時代住居跡 6、古代住居跡 10、炉穴、土坑、ピット、堀跡、溝、井戸、縄文土器、土師器、等		川崎 2 次
3 次	川崎 149-6	1977.11.1 ～ 12.3	300		宅地造成	縄文時代住居跡 2、古代住居跡 6、柱穴、溝、縄文土器、土師器 等		川崎 3 次
宅 2	川崎 198	1978.5.15 ～ 25	170		宅地造成	土坑、ピット、遺物なし	宅地添 2 次 B 地区	上埋 I
宅 3	川崎 230	1978.5.23 ～ 31	130		宅地造成	井戸、溝、地下式抗、遺物なし	宅地添 3 次 C 地区	上埋 I
4 次	川崎 2-5-2	1979.4.19 ～ 5.11	304		宅地造成	縄文時代住居跡 1、ピット、溝、縄文土器 等		上埋 II ・Ⅳ
5 次	川崎 1-1-4	1979.9.26 ～ 10.10	152		宅地造成	溝状遺構、遺物なし		上埋 II
79-1	清見 4-3-11	(1979.11.12 ～ 19)	260		宅地造成	溝、縄文土器		上埋 II
6 次	川崎 102-5	1979.12.3 ～ 8	30		プレハブ家屋	縄文時代住居跡 2、古代住居跡 2、縄文土器、須恵器 等		上埋 II
7 次	川崎宮前	1981.11.27 ～ 30	316		個人住宅	遺構なし、平安土器		上埋Ⅳ
8 次	大字川崎字宮脇 148-1	1984.1.17 ～ 26	400		住宅建設	溝、縄文土器		上埋Ⅵ
宅 4	川崎宅地添 219-2・3	1984.9.25 ～ 10.9	301		住宅建設	縄文時代住居跡 1、古代住居跡 1、縄文土器、須恵器 等		上埋Ⅶ
9 次	川崎字宮後口 172-1・2	1986.9.11 ～ 20	495		個人住宅	溝、縄文土器 等		上埋Ⅸ
10 次	川崎 224-1	1987.11.24 ～ 30	603		個人住宅	溝、石斧		上埋Ⅹ
11 次	川崎 2-6-2	1988.5.10 ～ 17	289		住宅建設	遺構遺物なし		上埋 11
88-1	市道 402 号線	(1988.9.19 ～ 21)	60		下水道設置	遺構遺物なし		上埋 11
89-1	川崎字宅地添 196-1	(1989.4.10 ～ 18)	1,045		住宅建設	遺構遺物なし		上埋 12
89-2	川崎字宮前 98-2	(1989.10.3 ～ 6)	264		住宅建設	遺構遺物なし		上埋 12
12 次	川崎字宮脇 149-4・5	1990.4.20 ～ 27	311		住宅建設	溝、遺物なし		上埋 13
13 次	川崎字宮前 122	1990.5.1 ～ 17	480		住宅建設	古代住居跡 1、土師器		上埋 13
90-1	川崎字宮前 122	(1990.5.18 ～ 23)	530		範囲確認	遺構遺物なし		上埋 13
14 次	川崎字宮脇 145-2	1990.10.1 ～ 31	499		個人住宅	縄文時代住居跡 1、古代住居跡 1、貝塚、須恵器 等		上埋 13
15 次	川崎字宮後口 160-1	1991.10.23 ～ 11.20	499		個人住宅	古代住居跡 7、土坑、緑釉陶器、墨書土器、石製紡錘車 等		上埋 14
92-1	川崎字山向 9-5	(1993.2.18・19)	168		店舗併用住宅	遺構遺物なし		上埋 15
93-1	川崎 2-2-10・11	(1993.8.24)	131		個人住宅	遺構遺物なし		上埋 16
93-2	川崎 1-1-1 の一部	(1993.9.10 ～ 13)	422		共同住宅	遺構遺物なし		上埋 16
94-1	川崎字台 258 外 1 筆	(1994.11.17 ～ 24)	230		機材置場	遺構遺物なし		上埋 17
95-1	川崎 2-7-2・3	(1995.10.13 ～ 16)	1,126		消防署	遺構遺物なし		上埋 18
16 次	川崎字宮脇 150-2・3	(1995.12.4 ～ 8) 1995.12.11 ～ 1996.3.8	828		駐車場 資材置場	縄文時代住居跡 3、古代住居跡 4、古代掘立柱建物跡 6、竪穴状遺構、土坑、井戸、縄文土器		H7 上社、上埋 18、説明会資料「私たちの埋蔵文化財」
17 次	川崎字宅地添 204 の一部	(1996.7.8 ～ 12) 1996.7.15 ～ 23	779	(779) 130	宅地造成 個人住宅	古代住居跡 1、墨書土器、須恵器 等		上埋 19
18 次	川崎字宮脇 148-3	(1996.11.11・12) 1996.11.18 ～ 25	198		個人住宅	古代住居跡 3、土師器 等		上埋 19
97-1	川崎字山向 21	(1997.4.14)	367		宅地造成	溝、遺物なし		上埋 20
97-2	川崎字宮後口 165-6	(1997.10.20)	204		個人住宅	遺構なし、縄文土器片		上埋 20
97-3	川崎字宅地添 199-1・2・5	(1998.2.12 ～ 16)	780		個人住宅	遺構遺物なし		H9 上社
98-1	川崎字宅地添 197-1	(1998.10.27 ～ 11.6)	996		宅地造成	土坑、縄文土器 等		上埋 21
市道 402 号線 2 次	川崎字宮前 , 宮脇地内	2000.2.21 ～ 25	496		道路敷設	縄文時代住居跡 1		H11 上社
00-1	川崎字宅地添 209 の一部	(2000.6.19 ～ 22)	123.3		個人住宅	遺構なし、貝殻、縄文土器 等		上埋 23
01-2	川崎字宅地添 209 の一部	(2001.6.12 ～ 25)	100		車庫	溝、土坑、縄文土器 等		上埋 24
19 次	川崎字宮脇 157 の一部	2001.9.18 ～ 10.4	289		個人住宅	古代住居跡 1、土坑、土師器 等		上埋 24
01-1	川崎字宅地添 204-1	(2001.10.29・30)	825		宅地造成	遺構なし、縄文土器片 等		上埋 24
02-1	川崎 249-1 の一部	(2002.5.13)	341		倉庫	遺構なし、縄文土器 等		上埋 25
02-2	川崎 210-1・2 の一部	(2002.10.28・29)	551		共同住宅	溝		H14 上社
02-3	川崎 2-4-16	(2002.12.24)	228		個人住宅	遺構遺物なし		H14 上社
02-4	川崎 2-2-12	(2003.3.13)	165		個人住宅	遺構遺物なし		H14 上社
02-5	川崎字宮脇 155 先	(2003.3.26)	164		市道 401 号線	遺構遺物なし		H14 上社

地区地点	所在地	調査期間 ( ) は試掘調査	開発面積 (㎡)	調査面積 ( ) は試掘	調査原因	確認された遺構と遺物	備考	所収報告書
03-1	川崎 137-1 の一部	(2003.8.6・7)	257		個人住宅	遺構なし、縄文土器片		上埋 26
03-2	川崎字宅地添 226-16	(2003.12.8・19)	381		個人住宅	遺構遺物なし		上埋 26
宅 5	川崎字宅地添 222-3 先	2004.2.16 ～ 18	88		市道 381 号線	古墳時代住居跡 1、壷型土器		H15 上社
04-1	川崎字宮脇 157-1 の一部	(2004.6.14・15)	421		個人住宅	竈、土師器 等		上埋 27
04-2	川崎 2-5-1	(2004.11.1 ～ 4)	881		宅地造成	遺構遺物なし		上埋 27
20 次	川崎字宮脇 153-5	(2005.11.22 ～ 27) 2005.11.28 ～ 12.2	257		個人住宅	古墳時代住居跡 1、土師器		市内 1
21	川崎 1-6-10 の一部	(2006.4.11) 2006.4.14 ～ 20	298	(124)	個人住宅	古代住居跡 1、溝、縄文土器 等		市内 3
22	川崎 171-1、174-10	(2007.4.16 ～ 23) 2007.4.24 ～ 5.22	104	(104) 104	消防分団車庫	炉穴、土坑、溝、地下式坑、穴蔵、墨書土器、瓦塔、花瓶 等		市内 4
24	川崎字宅地添 225-3	(2007.10.4)	319	(26)	共同住宅	溝、土師器片		市内 4
25	川崎字宅地添 203-1 の一部、203-3 の一部	(2008.4.14) 2008.4.15 ～ 17	1,033	(55)	個人住宅	古代掘立柱建物跡 1、土坑、ピット、溝、地下室、灰釉陶器、縄文土器 等		市内 6
26	川崎字宅地添 230-5	(2008.4.21) 2008.4.22 ～ 5.17	228		個人住宅	古代住居跡 4、土坑、ピット、井戸、墨書土器 等		市内 6
27	川崎 1-7-1	(2008.5.15 ～ 21)	350	(112)	分譲住宅	土坑、溝、縄文土器 等		市内 6
28	川崎字宅地添 230-7	(2008.7.4 ～ 9) 2008.7.10 ～ 8.8	434	(160)	個人住宅	古代住居跡 3、土坑、溝、土師器 等		市内 6
29	川崎字宅地添 230-1	(2008.7.9 ～ 11) 2008.7.14 ～ 8.22	203	(108)	個人住宅	古代住居跡 2、土坑、ピット、溝、墨書土器、土師器 等		市内 6
30	川崎字宅地添 230-6	(2008.7.17) 2008.7.18 ～ 9.5	200		個人住宅	古代住居跡 4、土坑、ピット、溝、井戸、灰釉陶器、墨書土器 等		市内 6
31	川崎字宮後 161-1・5・6	(2009.10.28) 2009.10.28 ～ 11.27	304	(103)	個人住宅	縄文時代住居跡 2、古代住居跡 2、ピット、縄文土器、須恵器 等		市内 8
32	川崎字宮脇 140 の一部	(2011.2.24 ～ 3.2) 2011.3.4 ～ 25	396	(166.5)	個人住宅	古代住居跡 3、土坑、ピット、須恵器 等		市内 10
33	川崎字宅地添 226-5	(2011.4.14 ～ 21)	438	(135)	共同住宅	遺構遺物なし		市内 14
34	川崎 2-5-4	(2011.7.25 ～ 26)	117.8	(23)	分譲住宅	遺構遺物なし		市内 14
35	川崎 2-6-4 ～ 7・9	(2011.9.27 ～ 11.24)	1,924	(668)	分譲住宅	縄文時代住居跡 1、古代住居跡 1、土坑、ピット、溝、縄文土器、須恵器 等		市内 14
36	川崎字宮前 100-1	(2011.12.15 ～ 26) 2012.1.10 ～ 17	1,096	(439) 22	公園整備	古代住居跡 6、土坑、ピット、墨書土器、須恵器 等		市内 14
37	川崎字宅地添 232-1	(2012.9.3)	1,298	(15)	個人住宅	遺構なし、須恵器		市内 15
38	川崎字宮後 165-3	(2013.2.25) 2013.2.26・27	176	(25) 5	個人住宅	焼土、ピット、縄文土器 等		市内 15
39	川崎字宅地添 227-1	(2013.3.4・5)	1,121.33	(34)	個人住宅	遺構なし、縄文土器 等		市内 15
40	川崎 1-1-7	(2013.10.11 ～ 17)	447	(172.5)	共同住宅	遺構なし、陶器		市内 18
41	川崎 218-1 他	2014.8.1 ～ 10.31	419		道路	縄文時代住居跡 3、古代住居跡 3、炉穴、土坑、ピット、溝、畝跡、縄文土器、須恵器 等		県埋文 420
42	川崎字宅地添 233-3	(2015.6.26・7.2)	200	(39)	集会所	古代住居跡 1、土師器 等		市内 22
43	川崎字宮後 165-5・8・9	(2015.6.26)	175.21	(20)	個人住宅	焼土、縄文土器		市内 22
44	川崎字宅地添 202-1・8	(2015.11.24 ～ 12.10) 2016.1.5 ～ 20	273.56	(124)	分譲住宅	縄文時代住居跡 2、古代住居跡 1、貝塚、土坑、ピット、溝、地下式坑、縄文土器、須恵器 等		市内 19
45	川崎字山向 8-4、7-7・8	(2017.2.22 ～ 24)	254.72	(55.65)	個人住宅	溝、縄文土器 等		市内 24
46	川崎字宮前 101-5、103-8	(2017.3.13)	199	(4)	個人住宅	掘り込み遺構、須恵器		市内 24
47	川崎字山向 15-1、16-1	(2017.12.19)	749	(5)	資材置場	遺構遺物なし		市内 24
48	川崎字宅地添 234-1	(2018.8.27 ～ 30)	266	(41)	個人住宅	縄文時代住居跡 1、ピット、溝状遺構、縄文土器 等		市内 25
49	川崎 1-1-5	(2019.2.7・8)	509	(106.41)	分譲住宅	根切り溝、縄文土器 等		市内 25
50	川崎字山向 10-4 の一部	(2014.9.8)	120	(20)	個人住宅	遺構遺物なし		市内 20
51	川崎 1-1-6	(2019.5.8・9)	394	(97.14)	分譲住宅	遺構遺物なし		市内 25
52	川崎字宮前 99-1	(2019.5.22 ～ 24) 2019.5.28 ～ 6.19	635	(172.4) 82.5	個人住宅	縄文時代住居跡 1、古代住居跡 1、瓦片		市内 25
53	川崎字宮後 166-1・9 ～ 11	(2019.11.5・6)	212	(47.5)	分譲住宅	堀跡、縄文土器、陶磁器片		市内 25
54	川崎字宮脇 155-6	(2020.2.20・21)	313.62	(23.25)	個人住宅	遺構なし、泥面子		市内 25
55	川崎字宅地添 232-4、233-1 の各一部	(2020.3.16・17)	235	(22.35)	個人住宅	溝、須恵器片		市内 25

第９図　川崎遺跡遺構分布図 (1/2,500)

Ⅱ　川崎遺跡第 48 地点

（１）調査の概要

調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者より 2018 年 8 月 10 日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の中央部に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため 2018 年 8 月 27 ～ 30 日にかけて試掘調査を実施した。

試掘調査は幅 1.5m のトレンチ 4 本を設定し、重機による表土除去後人力による表面精査を行った。現地表面から地山ローム層までの深さは約 70 ～ 90 ㎝である。

調査の結果、縄文時代住居跡 1 軒と溝 1 条を検出した。保護層の確保が可能なため、写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえで埋戻し、調査を終了した。

（２）遺構と遺物

① J26 号住居跡

【位置・検出状況】調査区中央部に位置する。保護層の確保が可能であったため、一部分のみの検出。

【形状・規模】円形または隅丸方形を呈するものと推測される。

【構造】柱穴と考えられるピットを住居内北側で 1 基検出した。平面形態は円形を呈し、確認面径 37 × 33 ㎝、底径 21 × 13 ㎝、深さ 25.2 ㎝を測る。また、上幅 15 ～ 25 ㎝、下幅 5 ～ 10 ㎝、深さ 10 ～ 15 ㎝を測る壁溝を伴い、壁溝内にピットが認められる。炉については、今回の調査範囲内では検出されなかった。

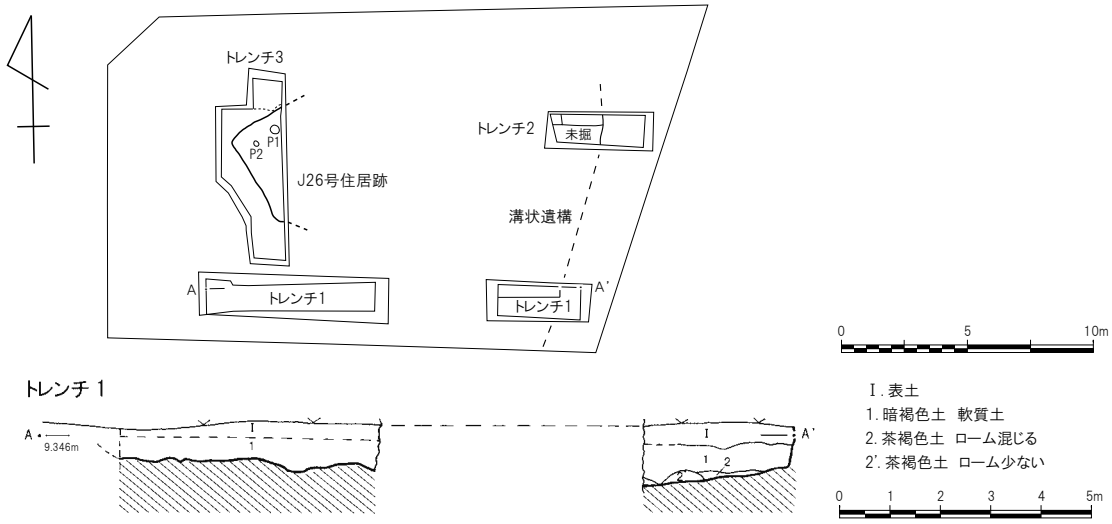
【遺物出土状況】遺物は、縄文土器片が僅かに覆土中より出土したのみである。

②ピット

ピットは J26 号住居跡の床面より下で検出した。平面形態は円形を呈し、確認面径 21 × 20 ㎝、底径 12 × 90 ㎝、深さ 24.6 ㎝を測る。出土遺物がないため時期は不明だが、切り合い関係から J26 号住居跡より古いと考えられる。

③溝状遺構

溝状遺構は調査区東側のトレンチ 1 及びトレンチ 2 で検出した。南北方向に走行し、調査区外へ延伸する。部分的な調査のため全容については不明だが、断面形態は逆台形を呈するものと考えられる。確認面からの深さは 152.3 ㎝を測る。覆土中より須恵器碗の破片が出土したが、遺構の時期を決定するものではない。



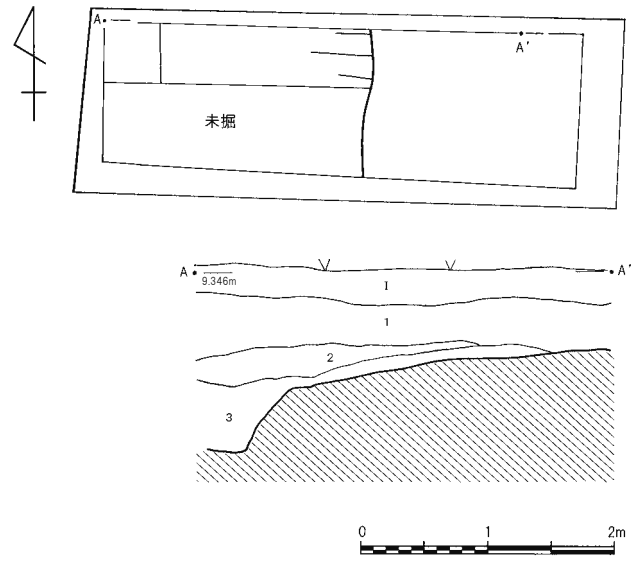
第 10 図　川崎遺跡第 48 地点遺構配置図 (1/300)、土層 (1/150)

J26 号住居跡

掘方

J26 号住居跡
Ⅰ. 表土
1. 暗褐色土　締り強
2. 暗褐色土　比較的軟質
3. 暗褐色土　小ロームブロック多量に含む
4. 茶褐色土　床直上を覆う
5. 黒褐色土　軟質、間層に入る
6. 茶褐色土　締り強、ローム混じりが少ない
7. 黄褐色土（流れ込み）締り強、ロームブロック含む

溝状遺構

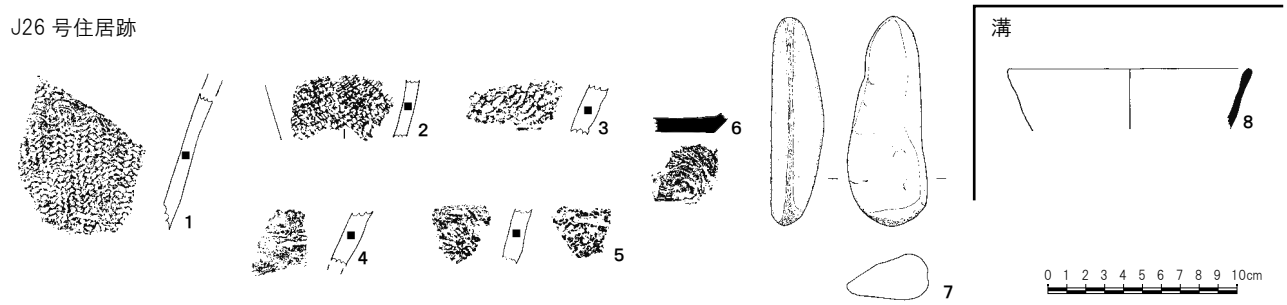


溝状遺構
Ⅰ. 表土
1. 茶褐色土　軟質土
2. 褐色土　粘土ブロック含む
3. ボロボロの褐色土

第 11 図　川崎遺跡第 48 地点 J26 号住居跡・溝状遺構 (1/60)

④出土遺物

出土遺物については第 12 図及び第 12 表に詳細を掲載した。



第 12 図　川崎遺跡第 48 地点出土遺物 (1/4)

第 12 表　川崎遺跡第 48 地点出土遺物観察表 (単位 cm・g)

図版番号	出土遺構	種別・器種	技法・文様・備考	時期・型式
第 12 図 -1	J26 号住居跡	縄文・深鉢	胴部、組紐施文後コンパス文 / 内面に煤付着、胎土に繊維と白色粒子を含む	前期・関山 II
第 12 図 -2		縄文・深鉢	胴部、0 段 3 条 LR0 と RL の羽状 / 胴部径 (8.0) ㎝、内面に煤付着、胎土に繊維と白色粒子を含む	前期・関山
第 12 図 -3		縄文・深鉢	地文 RL 縄文 / 内面に僅かに煤付着、胎土に繊維と白色粒子を含む	前期
第 12 図 -4		縄文・深鉢	条痕文 / 内面に煤付着、胎土に繊維とチャートなどの小礫を含む	早期か
第 12 図 -5		縄文・深鉢	条痕文 / 胎土に繊維と小礫を含む	早期か
第 12 図 -6		須恵器・坏	轆轤成形、底部糸切り未調整 / やや焼成不良 (7.5YR 5/3 にぶい褐色)、僅かに白色針状物質を含む	9 世紀代
第 12 図 -7		石器・敲き石	長さ：11.1 ㎝、幅：4.2 ㎝、厚さ：2.4 ㎝、材質・砂岩	―
第 12 図 -8	溝状遺構	須恵器・坏 ? 碗 ?	轆轤成形・口径 (13.0) ㎝、焼成不良 (7.5YR 7/6 橙色)、僅かに小礫を含む	8 世紀後半～9 世紀前半

Ⅲ　川崎遺跡第 49 地点

（1）調査の概要

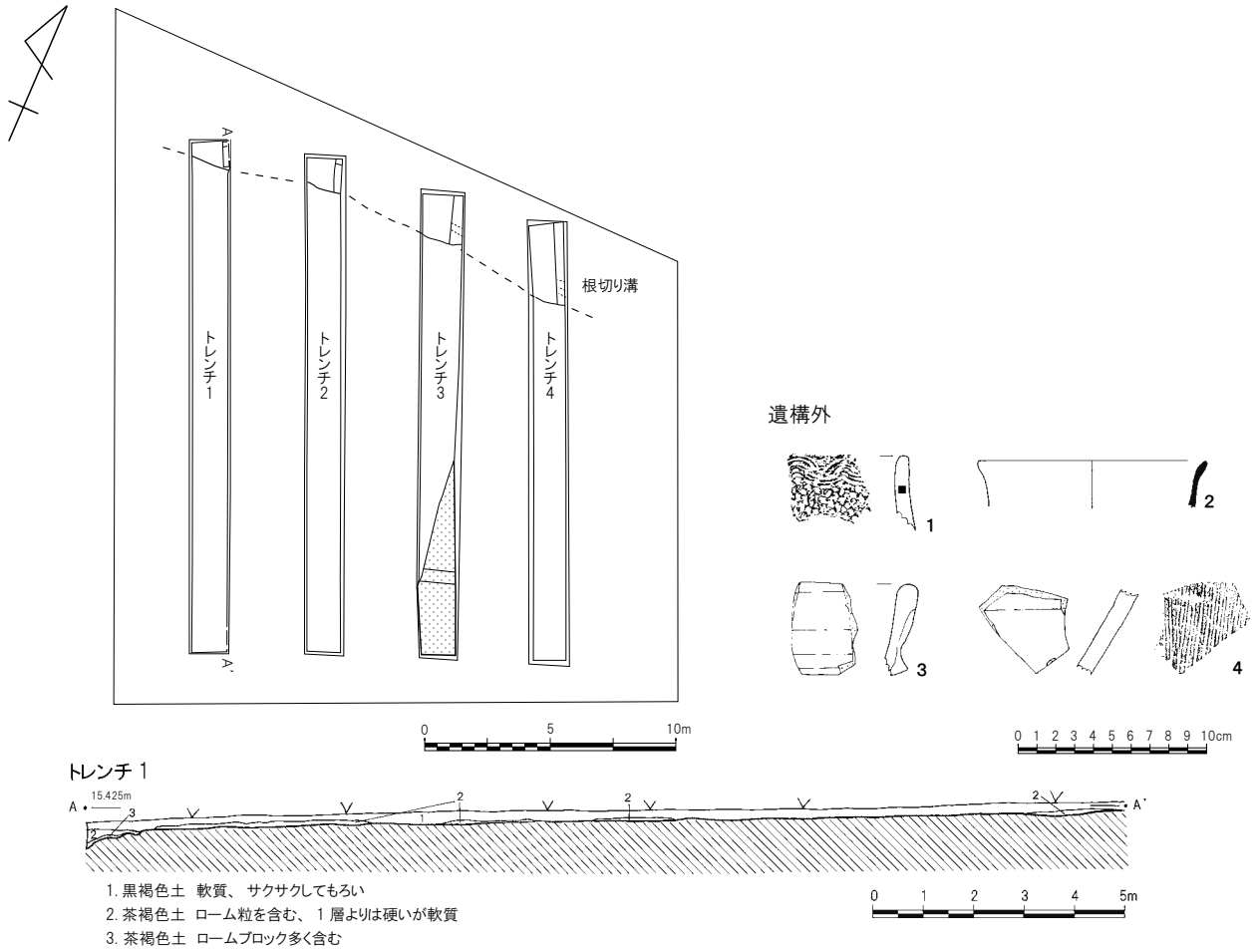
調査は分譲住宅建設に伴うもので、原因者より 2019 年 1 月 22 日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の南部に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため 2019 年 2 月 7・8 日に試掘調査を実施した。

試掘調査は幅 1.5m のトレンチ 4 本を設定し、重機による表土除去後人力による表面精査を行った。現地表面から地山ローム層までの深さは約 20 ～ 40 ㎝である。

調査の結果、近代以降の根切り溝を検出した。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえで埋戻し、調査を終了した。

（2）遺構と遺物

遺物はすべて表土中からの出土である。詳細については第 13 図及び第 13 表に掲載した。



第 13 図　川崎遺跡第 49 地点遺構配置図 (1/300)、土層 (1/150)、出土遺物 (1/4)

第 13 表　川崎遺跡第 49 地点出土遺物観察表 (単位 cm・g)

図版番号	出土遺構	種別・器種	技法・文様・備考	時期・型式
第 13 図 -1	遺構外	縄文・深鉢	口縁部、組紐 + コンパス文、胎土に繊維を含む、内外面の一部に煤付着	前期・関山 II
第 13 図 -2		須恵器・坏	轆轤成形 / 口径 (12.0) ㎝、焼成不良 (10YR 7/3 にぶい黄橙色)、白色針状物質を含む、南比企産	8 ～ 9 世紀代
第 13 図 -3		土器・焙烙	口縁部、轆轤成形 / 底部剥離	中近世
第 13 図 -4		陶器・擂鉢	轆轤成形 / 内面に 4 ㎜で沈線、内外面に透明釉	近世

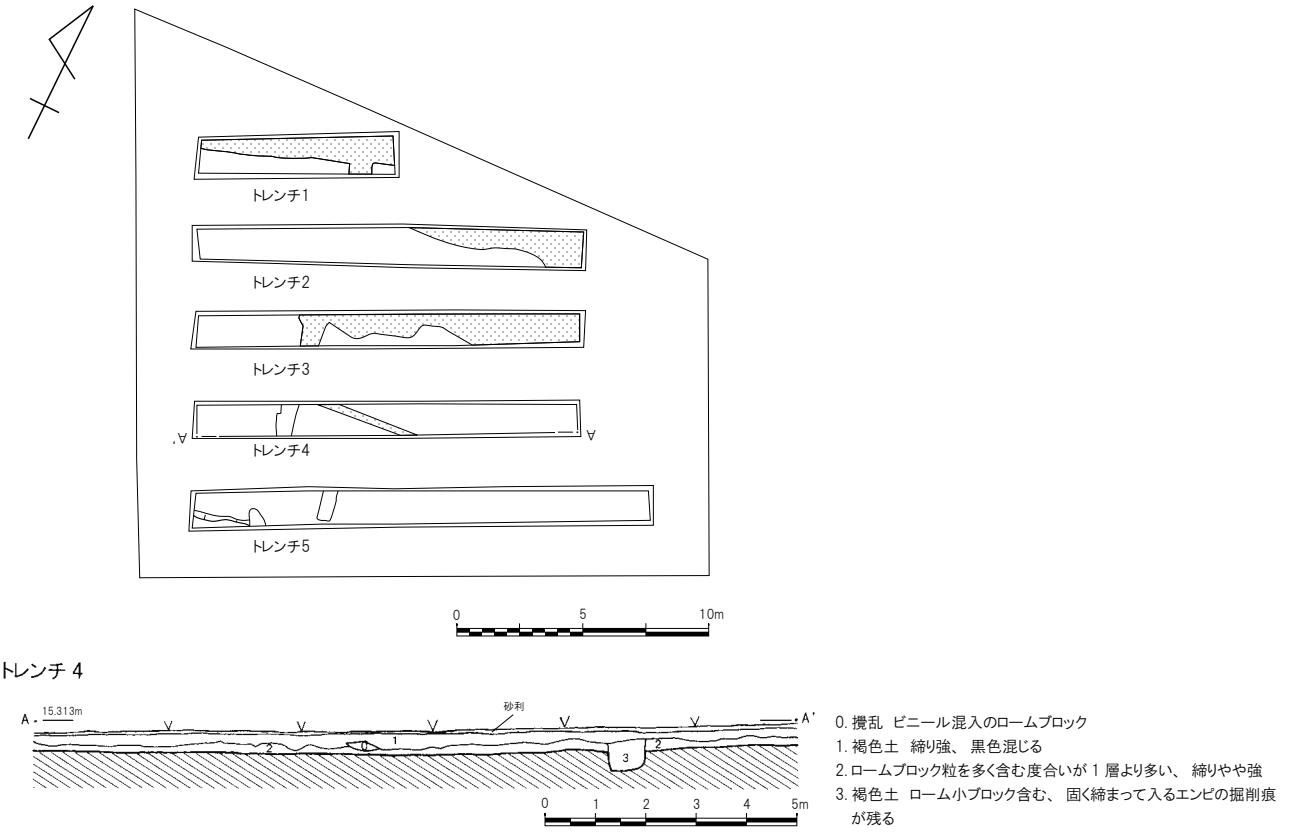
Ⅳ　川崎遺跡第 51 地点

（１）調査の概要

調査は分譲住宅建設に伴うもので、原因者より 2019 年 4 月 25 日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の南部に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため 2019 年 5 月 8・9 日に試掘調査を実施した。

試掘調査は幅 1.5m のトレンチ 5 本を設定し、重機による表土除去後人力による表面精査を行った。現地表面から地山ローム層までの深さは約 30 ～ 40 ㎝である。

調査の結果、遺構・遺物は確認されなかったため、写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえで埋戻し、調査を終了した。



第 14 図　川崎遺跡第 51 地点調査区域図 (1/300)、土層 (1/150)

Ⅴ　川崎遺跡第 52 地点

（1）調査の概要

調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者より 2019 年 5 月 13 日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の南部に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため 2019 年 5 月 22 ～ 24 日に試掘調査を実施した。

試掘調査は幅 1.5 ～ 2m のトレンチ 3 本を設定し、重機による表土除去後人力による表面精査を行った。現地表面から地山ローム層までの深さは約 40 ～ 50 ㎝である。調査の結果、縄文時代住居跡 1 軒、古代住居跡 1 軒を検出した。保護層の確保が難しいため原因者と再協議の結果、建物にかかる縄文時代住居跡について本調査を実施した。

本調査は 2019 年 5 月 28 日～ 6 月 19 日まで実施した。該当箇所を重機で拡張、写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえで埋戻し、調査を終了した。

（2）遺構と遺物

川崎遺跡の縄文時代住居について

遺跡の範囲は 500 × 500 m程度の広がりをもち北側の荒川低地に 500 m、幅 400 m程舌状に突き出た立川面上に遺跡全体が位置する。地点貝塚である川崎貝塚が所在する台地先端は標高 8 m程で南方に向かって高くなり、台地最南部の本調査地点の標高は現地表面で 13 m代を測る。

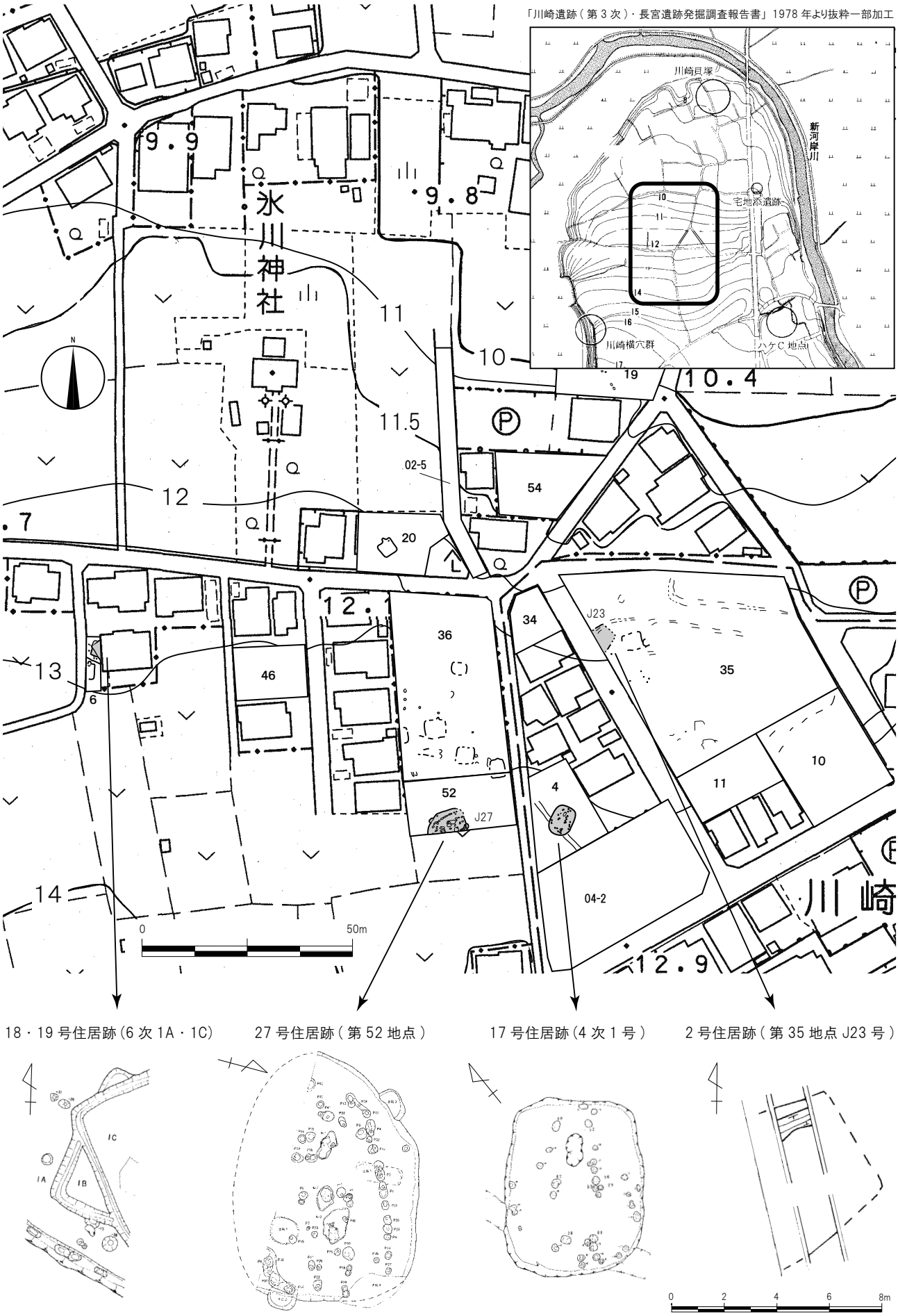
川崎遺跡は台地北西側で発掘調査が集中し、50 ヶ所以上での調査が進んできている (第 9 図)。これまでに縄文時代の住居跡は 35 軒が確認されている。早期の 1 軒、中期～後期の 3 軒以外の 31 軒は縄文時代前期前葉～中葉にかけての住居である。これら縄文時代の住居占地は、①台地の中央から北西側で 23 軒。②舌状先端部に近い北東部で 7 軒。③最も内陸側になる台地南中部で 5 軒である (第 15 図及び第 14 表)。17 号、27 号住居は台地先端の川崎貝塚から約 450 m、内陸に入った位置で確認された。

縄文時代前期の住居、とりわけ黒浜式期の住居は 15 軒を数え、市内遺跡でも上福岡貝塚遺跡の 17 軒に次いで多い。上福岡貝塚遺跡では環状集落の形成が認められ密度濃く分布し全ての住居跡で地点貝層が知られるのと比較して、川崎遺跡では関山・黒浜式期で小規模な貝層をもつのが各 1 軒あるのみで、さらに完掘された住居は 2 例のみで部分発掘、及び他時期遺構との重複が大半を占めている。そして住居の分布も散在的である。

第 16 図は川崎遺跡で調査された関山期及び黒浜期の内、完掘もしくは全容が把握できた調査 7 例を図示した。このなかで注目されるのは未報告ではあるが 34 号住居 (第 16 次 7 号住居) である。古代の掘立柱建物跡 2 棟によって北東部を壊されてはいたが、長径 12 m、短径 8 mの長方形で床面積は 96 ㎡に及ぶ大形住居である。ちなみに 17 号住居の床面積 30.8 ㎡の 3 倍以上の面積をもつ。主柱は 6 本で深さは 0.9 mに及ぶ。炉は東西に 2 ヶ所確認され、空間を二分割して利用したと思われる。遺物は全て床面から浮き投棄された状態の出土であった。その量は復元土器で 40 数個体分、土器片はコンテナで約 90 箱分が出土した。

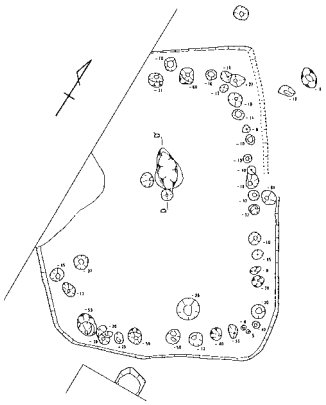
第 14 表　川崎遺跡縄文時代住居跡一覧表

住居番号	調査年度	調査名	調査率	平面形 ( ) は推定	規　模	炉 地床	炉 炉体	炉 石囲	埋甕	拡張	周溝	主軸方位	時　期	備　考	所収報告書
1	1974	第 1 次 LN03	2/3	方形	430 × 380	○						N-16-E	諸磯 a		川崎 1 次、市史資 I
2		第 1 次 LN19	2/3	長方形	－× 550	○				④	○	N-42-E	黒浜		
3		第 1 次 LN20	2/3	長方形	560 × 420	○					○	N-59-E	黒浜		
4	1975	第 2 次 LN70	1/2	隅丸長方形	－× 330								黒浜		川崎 2 次、市史資 I
5		第 2 次 LN73		隅丸長方形	350 × 260	○						N-6-W	花積下層？	LN73・74・76・77 の順で構築	
6		第 2 次 LN74		隅丸方形	820 × 810	○						N-80-W	前期		
7		第 2 次 LN76		不整形	390 × 290	○						N-10-E	前期		
8		第 2 次 LN77		隅丸長方形		○							前期		
9		第 2 次 LN08	1/2	隅丸長方形	－× 570	○						N-88-E	関山		
10		第 2 次 LN34		不整形	520 × 480							N-15-W	黒浜？	H19 住・LN35 と重複	
11		第 2 次 LN35				未検出							前期	10J 住・H19 住と重複	
12		第 2 次 LN25	大部分	長方形	－× 450	未検出						N-68-W	関山	H24 住と重複	
13		第 2 次 LN50	1/2 以上	長方形	620 × 460	○						N-35-W	関山		
14		宅地添 1 次	完掘	不整台形	390 × 410	○						N-22-W	早期未葉～前期初頭	貝層伴う	上遺調
15	1977	第 3 次 J7		不明									花積下層		川崎 3 次、市史資 I
16		第 3 次 J8		不整形									花積下層		
17	1979	第 4 次 1 号住居	完掘	隅丸長方形	645 × 505	○						N-36-E	黒浜		上埋 II・IV、市史資 I
18		第 6 次 1A									○		黒浜	1B・1C と重複	上埋 II、市史資 I
19		第 6 次 1C											黒浜	1A・1C と重複	
20	1984	宅地添第 4 次 2 号住居	完掘	柄鏡形	円径 3 ～ 4m	○			①		○		加曽利		上埋VII
31	1990	第 14 次 1 号住居	完掘									N-52-E	関山 I	貝層を伴う	上埋 13、市史資 I
32	1995	第 16 次 3 号住居											黒浜	炉跡のみ	H7 上社、説明会資料「私たちの埋蔵文化財」
33		第 16 次 4 号住居											黒浜	炉跡のみ	
34		第 16 次 7 号住居	完掘	長方形	1200 × 800							N-45-E	黒浜	大型住居	
35	2000	市道 402 号線 2 次											関山		H11 上社
21	2009	第 31 地点 J21 号住居	75%	柄鏡形	(500) × 420				②				称名寺 I		市内 8
22		第 31 地点 J22 号住居	25%					○			○		加曽利 E IV		
23	2011	第 35 地点 J23 号住居	一部	台形か長方形	520 ×－								黒浜	未検出	市内 14
24	2015	第 44 地点 J24 号住居	一部	円形か方形		○				○	○		黒浜	H80 住と重複	市内 19
25		第 44 地点 J25 号住居	一部	円形か隅丸方形							○		黒浜	地下式坑と重複	
26	2018	第 48 地点	一部	円形か隅丸方形									前期？		市内 25
27	2019	第 52 地点	75%	隅丸長方形	940 × (600)	○						N-72-E	黒浜		市内 25
28	2014	第 41 地点 2 号住居		楕円形	(430 × 110)							N-0	黒浜		県埋文 420
29		第 41 地点 4 号住居		隅丸方形	(490 × 200)							N-7-E	関山	3 号住と重複	
30		第 41 地点 5 号住居		方形	(370 × 350)							N-7-E	茅山上層	土坑・炉穴と重複	

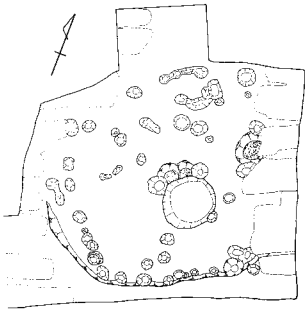


第 15 図　川崎遺跡台地最南部の縄文時代前期住居跡分布図 (1/1,250)、住居跡 (1/200)

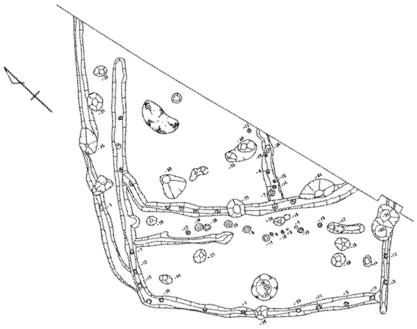
13 号住居跡（第 2 次 LN50）〈関山〉



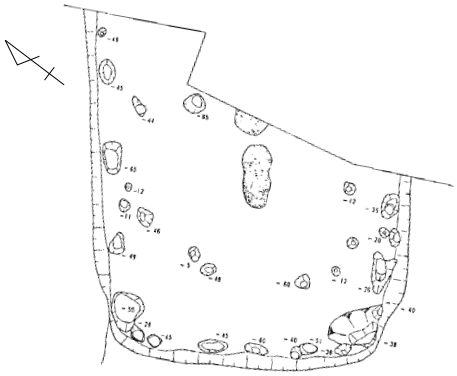
31 号住居跡（第 14 次 1 号）〈関山〉



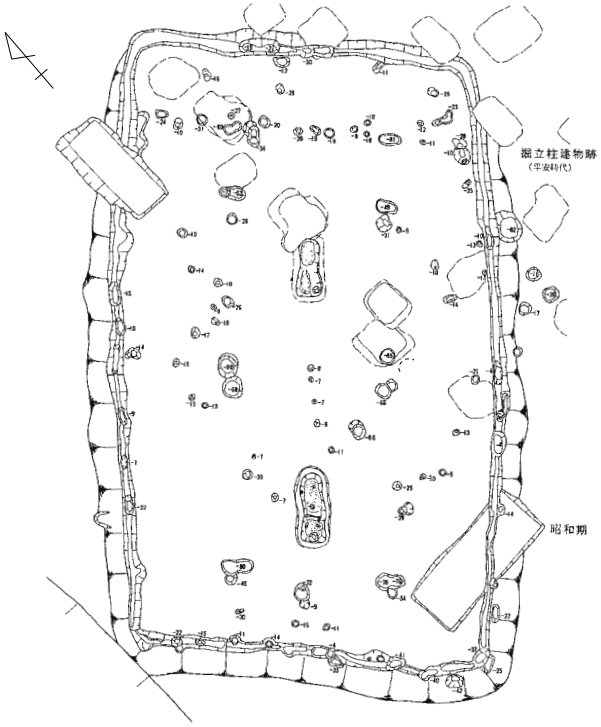
2 号住居跡（第 1 次 LN19）〈黒浜〉



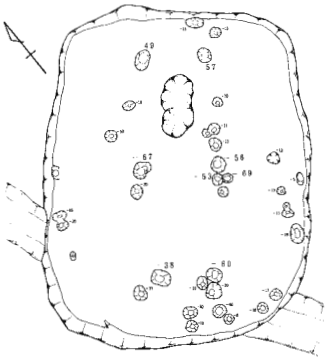
3 号住居跡（第 1 次 LN20）〈黒浜〉



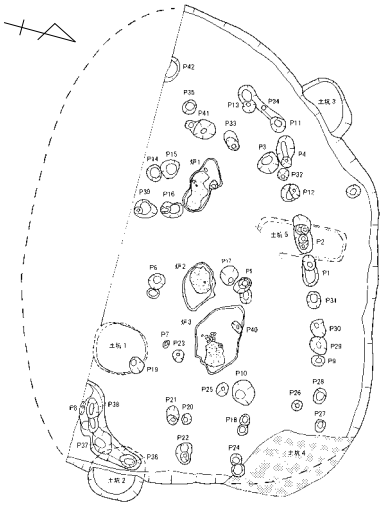
34 号住居跡（第 16 次 7 号）〈黒浜〉



17 号住居跡（第 4 次 1 号）〈黒浜〉



27 号住居跡（第 52 地点）〈黒浜〉



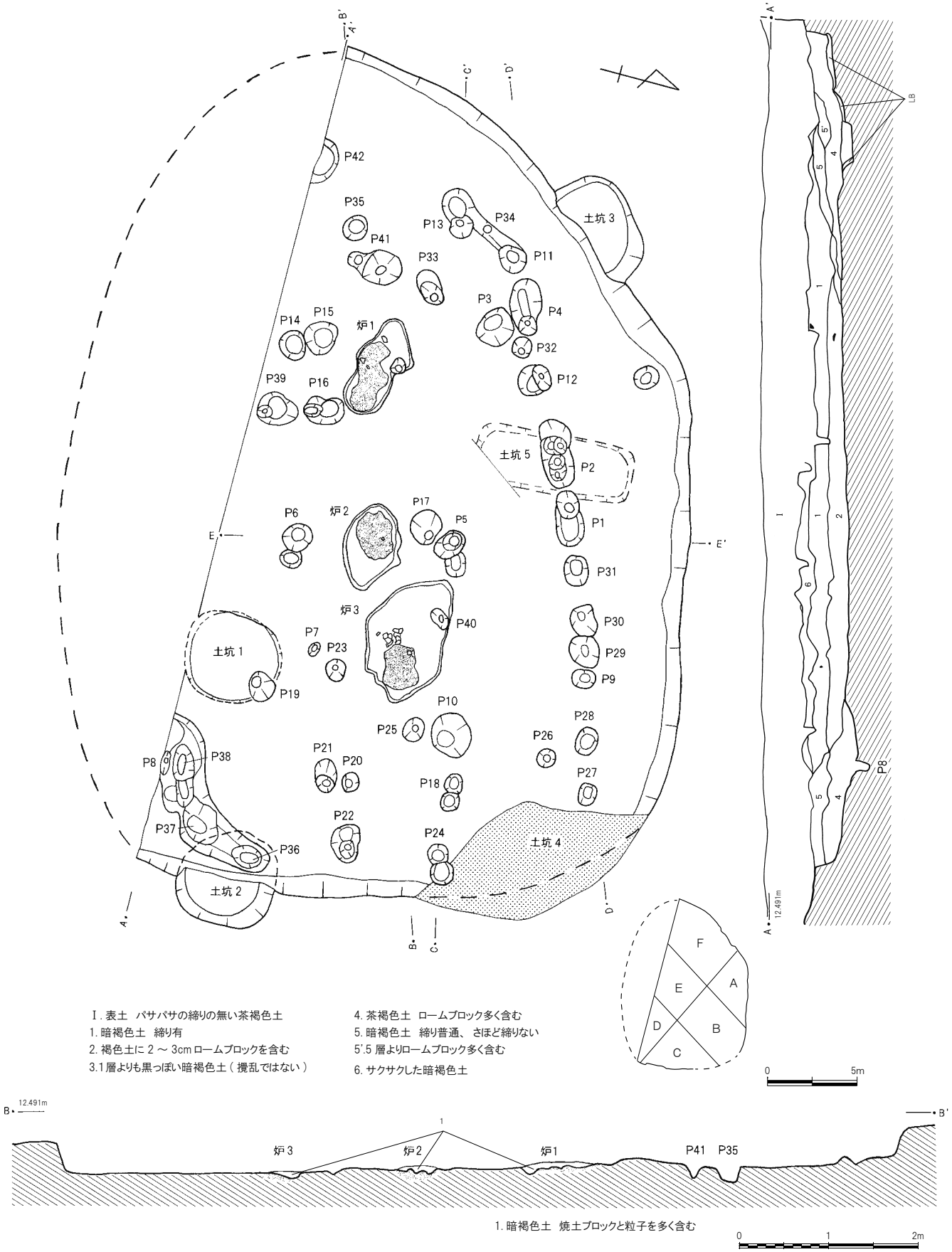
0　1　2　3　4　5m

第 16 図　川崎遺跡で完掘に近い縄文前期（関山～黒浜期）住居跡 (1/150)

第 17 図　川崎遺跡第 52 地点遺構配置図 (1/300)

J27 号住居跡（第 18 ～ 22 図）

【位置】 J27 号住居は、同じ黒浜期の J17 号住居 (第 4 次 1 号住) と市道を挟んだ西側で 19 m余の間隔をおいた位置にある。最も内陸部に位置する。調査区の南西部から確認された。試掘調査時のトレンチ 3(幅約 1.5 m) がほぼ中央を東西に縦断し、試掘段階で住居跡の可能性が伺われた。



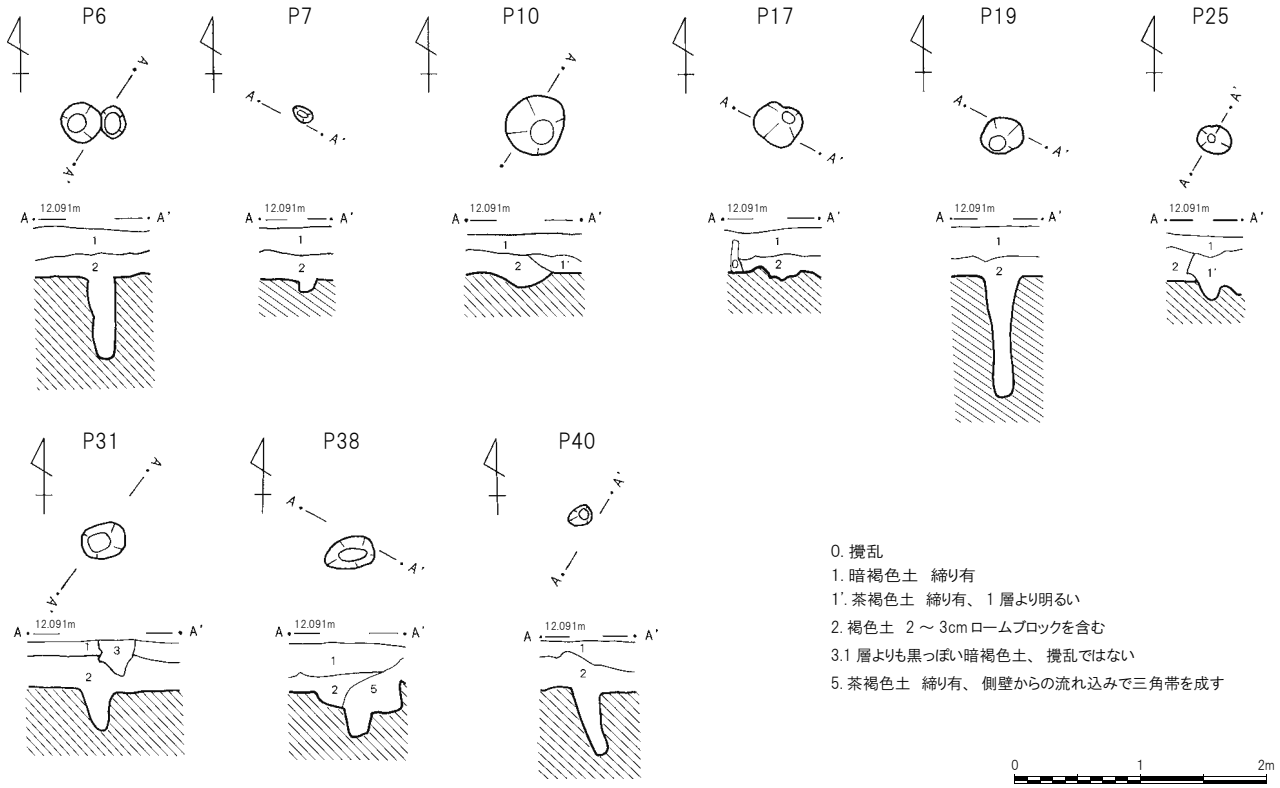
第 18 図　川崎遺跡第 52 地点 J27 号住居跡 (1/60)

【形状と規模】 住居南西側は調査区域外にかかるが、住居全体の 4 分 3 以上の調査は得ることができた。南西隅がやや突き出たような不整の隅丸長方形のようである。長軸 9 m 40 ㎝、短軸は推定で 6 mを超える比較的大形の住居である。試掘調査から本調査に移行する際にプラン確認段階ではより高いレベルでの遺構確認に努めた。確認地山はソフトロームではなく暗褐色土である。プラン面で中近世以降と思われる土坑を 5 ヶ所確認した。特に北東側の土坑 4(ゴミ穴) は 3.8 × 1.9 mと規模も大きく、隅丸長方形部の北東コーナー壁面を壊すように入り込んでいた。併せて北側の壁面調査での地山は包含層との差が顕著でないため、明確な遺構形状の確認が困難で壁面の露出には苦慮した。結果として当初プランより一回り大きな規模の住居となった。

【覆土】 土層観察用のベルトは、プラン確認時での設定となり結果として必ずしも主軸に沿う設定ではなかったが、土層は自然な埋没状況の様相を示している。覆土の主体をなす層は上下 2 層からなり、比較的締まりの強い褐色土～暗褐色土で､細かいロームブロックを下層で含む。壁の立ち上がりは比較的急で、壁溝は確認されなかったが南東隅に長さ 170 ㎝程の壁溝状のものを確認した。深さは 10 ㎝程度。底面に 3 本のピット状のものが穿たれている。壁は緩いカーブをもち北側で 45 ㎝前後と高く、平均 30 ～ 35 ㎝程の高さで立ち上がる。主軸方位は N-75°-E と西の方向をとっている。

【床面】 総じて中央部が平坦で硬く締まり良好に踏み固められ、周辺部は軟弱で壁際に向けて高まりを持つ。貼り床等は認められなかった。床面積は約 55 ㎡であった。

【ピット】 床面からは、浅深合わせて 40 本以上のピットが確認された。これらのうち P5・P6・P18・P19 の 4 本は主柱穴と考えられる。炉を通る主軸を中心にして左右対象に配列されているものと考えられる。深さは 40 ㎝を越え円筒状形態をとるようである。北側には主軸に平行するように 16 本のピットが連続する。主軸からは西で 190 ㎝、東で 205 ㎝ほどの間隔があく。深さは 25 ～ 30 ㎝前後である。また入口はピットの配列から東壁側に認められよう。

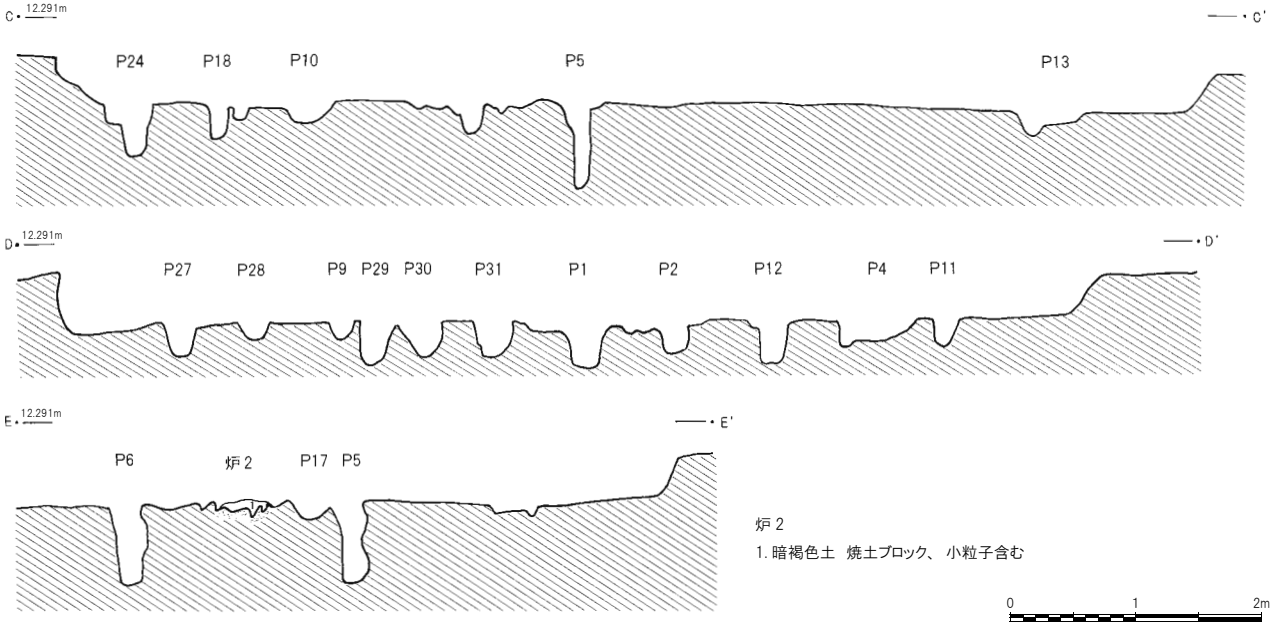


第 19 図　川崎遺跡第 52 地点 J27 号住居内ピット (1/60)

【炉】　床面上に３ヶ所の炉跡が存在した。すべて地床炉で３基の焼土跡は住居の主軸線上にあり、西から炉１・炉２・炉３とした。炉１は最奥壁寄りで長径 118 ㎝、短径 45 ㎝、深さ５～ 10 ㎝掘り込んでいる不整楕円形。主軸方向は N-80°-W を指す。焼土の範囲は 80 × 30 ㎝の不整楕円形で良好に焼けてバリバリの状態が確認できた。焼土は厚さ３㎝程堆積し、底面のロームも全体的に過熱をうけていた。P40 が脇から確認された。炉２は住居センターより 100 ㎝程南に位置し、炉１とは 110 ㎝の間をおく。長径 100 ㎝、短径 60 ㎝、深さ５～８㎝掘り込んでいる不整楕円形。主軸方向は N-72°-E を指す。焼土の範囲

第 15 表　川崎遺跡第 52 地点 J27 号住居内ピット一覧表 (単位 cm)

No.	平面形態	確認面径	底径	深さ	備考
1	隅丸方形	61 × 29	13 × 9	37.8	
2	隅丸方形	76 × 34	10 × (7)	35.0	
3	円形	43 × 38	22 × 16	15.2	
4	楕円形	64 × 35	6 × 6	17.1	
5	楕円形	38 × 25	12 × 11	67.2	主柱穴
6	ひょうたん形	49 × 32	14 × 14	64.9	主柱穴
7	楕円形	16 × 11	8 × 4	11.4	
8	楕円形	26 × 9	5 × 4	20.4	
9	円形	24 × 21	11 × 9	15.3	
10	円形	49 × 45	20 × 17	17.0	
11	円形	30 × 28	16 × 13	21.8	
12	円形	37 × 33	6 × 4	36.0	
13	ひょうたん形	57 × 34	(24) × 17	19.2	
14	円形	32 × 26	21 × 16	7.3	
15	円形	38 × 35	24 × 21	12.0	
16	ひょうたん形	47 × 32	13 × 8	34.4	
17	円形	36 × 33	11 × 8	10.5	
18	ひょうたん形	41 × 19	12 × 11	26.1	主柱穴
19	円形	32 × 29	12 × 12	94.0	主柱穴
20	円形	21 × 19	9 × 8	18.3	
21	楕円形	36 × 25	9 × 7	33.8	
22	楕円形	44 × 31	7 × 5	70.0	
23	円形	24 × 22	5 × 5	19.5	
24	ひょうたん形	46 × 25	13 × 13	41.8	
25	円形	28 × 23	8 × 6	16.8	
26	円形	20 × 19	10 × 7	20.1	
27	方形	24 × 19	12 × 9	24.4	
28	楕円形	31 × 22	14 × 14	27.0	
29	円形	34 × 33	12 × 8	27.2	
30	方形	36 × 27	10 × 8	26.2	
31	楕円形	34 × 26	17 × 13	26.7	
32	円形	23 × 20	7 × 6	43.4	
33	楕円形	41 × 26	7 × 7	33.1	
34	不明	16 ×―	8 × 7	27.2	
35	円形	29 × 26	16 × 15	18.2	
36	楕円形	32 × 20	19 × 11	24.8	
37	不明	(58) × 38	25 × 15	34.1	
38	楕円形	40 × 24	23 × 8	29.8	
39	ひょうたん形	44 × 37	6 × 4	19.4	
40	円形	17 × 16	8 × 7	53.3	
41	ひょうたん形	61 × 37	12 × 8	14.3	
42	不明	51 × (21)	34 × (18)	13.9	



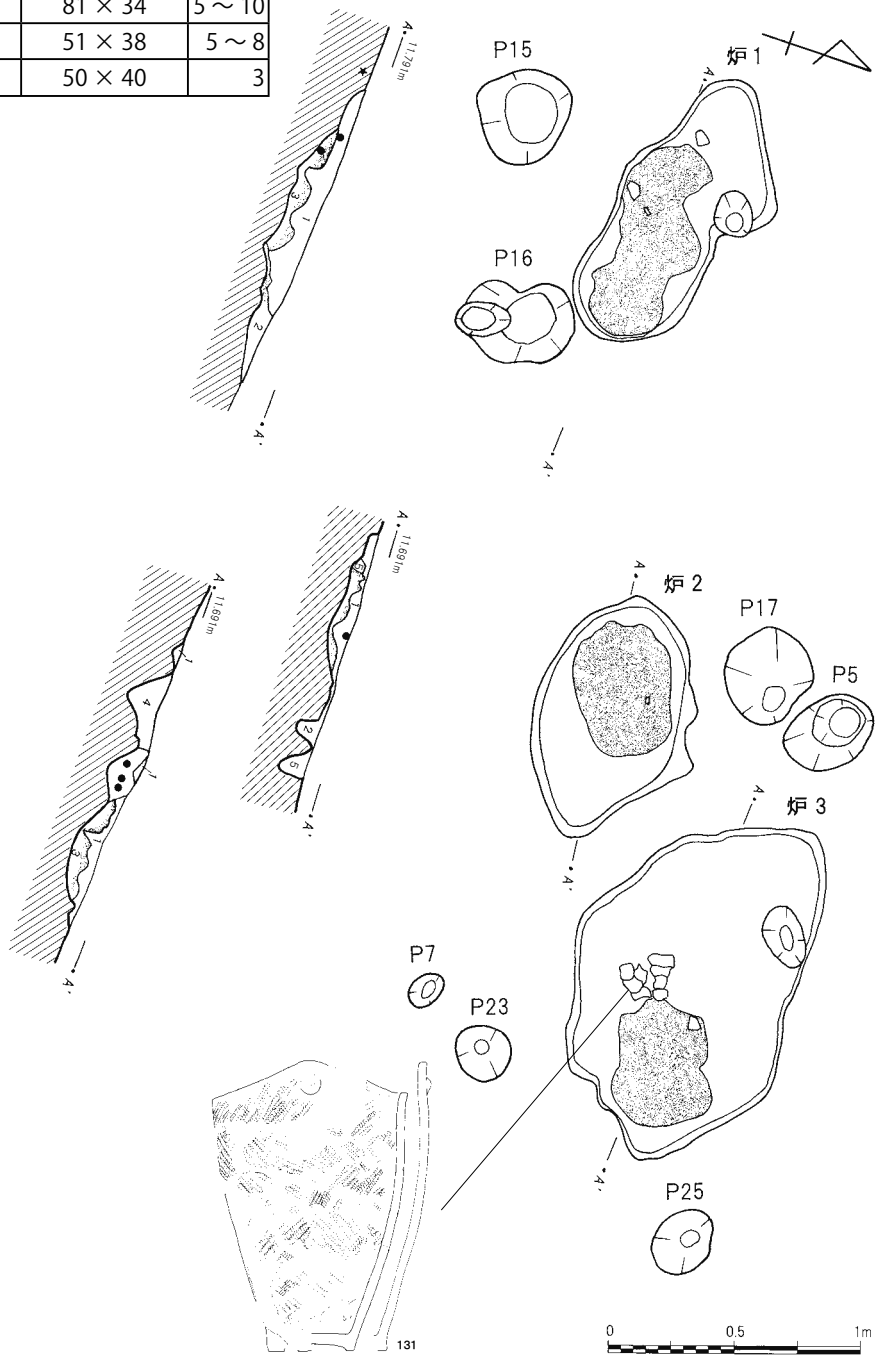
第 20 図　川崎遺跡第 52 地点 J27 号住居跡土層 (1/60)

は 55 × 40 ㎝の楕円形をなす。焼土が良好に焼けてバリバリの状態が確認できた。焼土厚は 3 ㎝程堆積し、底面のロームも過熱をうけ凸凹をなす。炉 3 は炉 2 の 20 ㎝東側で近接する。長径 150 ㎝、短径 90 ～ 98 ㎝、深さは 3 ㎝と浅い。やはり不整楕円形を呈する。主軸方向は N-82°-E を指す。焼土の範囲は 51 × 35 ㎝の楕円形をなし掘り込みの東側に偏る。焼土は良好に焼けて確認された。焼土厚は 3 ㎝程堆積し、底面のロームも過熱をうける。炉底より 3 ㎝程度の間層を挟みやや浮いた状態で比較的まとまった土器が出土した (第 21 図)。炉の新旧関係は不明。重複関係もないところから同時存在した可能性もある。

【遺物出土状況】 第 22 図の遺物の垂直分布図からも明らかなように、ブロック状にまとまった出土状況

第 16 表　川崎遺跡第 52 地点炉一覧表 (単位 cm)

No.	平面形態	確認面径	底径	深さ
1	不整楕円形	118 × 45	81 × 34	5 ～ 10
2	不整楕円形	100 × 60	51 × 38	5 ～ 8
3	不整楕円形	150 × 90	50 × 40	3



第 21 図　川崎遺跡第 52 地点 J27 号住居跡炉 (1/30)

は少ない。床面上の薄い間層と側壁からの流れ込みで三角帯を形成する部分以外は、上層から中層まで小破片が遺構全体にほぼ万遍なく出土する傾向が見られた。壁面側からの遺物出土は少ない。遺物は、コンテナ (40 ㎝× 30 ㎝× 15 ㎝) に 10 箱、細片も含め約 1200 点余が出土した。主体は縄文時代前期中葉に属する土器がほとんど、他時期の遺物の混入は少なく縄文時代中期、土師器・須恵器片等が数点混入する程度。まとまった出土は炉３直上から出土した。所属時期は縄文時代前期中葉の黒浜式期と考えられる。出土遺物の大半は本遺構に伴うものではなく、住居廃絶後の廃棄等によるものであろう。

第 22 図　川崎遺跡第 52 地点 J27 号住居跡遺物出土状況 (1/60)

J27 号住居跡出土遺物（第 23 図 1 ～ 265）

J27 号住居跡出土の縄文土器はすべて黒浜式土器で、いずれも繊維を含む。

１は、波状口縁の深鉢型土器。口径 20.8 ㎝、器高 30.6 ㎝。口縁部の波状は向かい合いで大きな波が 2 単位、小さな波が 2 単位の 4 単位。大きな波の中部付近に一つの半球状の粘貼文が付く。施文は器面全体に単節縄文の羽状縄文が施される。

２～ 24 は、口縁部または口縁部文様帯の土器片。2 ～ 6 は、半裁竹管による平行沈線。4 は、地文 LR。6 は、２段の羽状縄文が地文。 7 ～ 18 は、巾狭で疎らな爪形文を施す。 7 ～ 13 は、波状口縁。14 ～ 18 は、口縁部文様帯。19 ～ 23 は、巾狭で爪形文がキャタピラ文状に狭い。24・25 は、やや巾広で爪形文がキャタピラ文状に狭い。

26 ～ 201 は胴部片。26・27 は、Lr の 0 段 3 条。28・29 は、1 段 R と 0 段多条の組み合わせ。30 ～ 65 は無節縄文。30 ～ 54 は 1 段 L。55 ～ 65 は、1 段 R。66 ～ 124 は単節縄文。66 ～ 93 は、2 段 LR。94 ～ 123 は 2 段 RL。なお、無節、単節としたものの中には小片のため羽状縄文が含まれている可能性は否定できない。125 ～ 201 は羽状縄文。125 ～ 145 は無節の羽状縄文。146 ～ 197 は単節の羽状縄文。198 ～ 201 は無節と単節を結束した羽状縄文。

202 ～ 243 は、附加条の羽状縄文。202 ～ 235 は、1 段 R に 2 本の 1 段 l を反対に巻き付けた附加条とその逆撚りで羽状に施文。236 ～ 243 は、1 段 R に 1 本の 0 段 r を反対方向に巻き付けた附加条と 1 段 L に 1 本の 0 段 l を巻き付けた附加条で羽状に施文。244 ～ 247 は絡条体による網目状文。原体の先が太く元が細い 0 段 l を軸に交差させて巻き付ける。巻き付け方向は 2 度変えている。244・246 及び 247 は同一個体か。

248 ～ 251 は、原体が判別できない破片。

252 ～ 263 は、上記の深鉢形土器の底部片。ほとんどが平底を呈するが、256 及び 257 は上げ底と推測できる。

264 は突起を伴う波状口縁部片。265 は口縁部の装飾把手か。縁に連続突起を配し、外面には 3 段の押引文を施す。

なお、出土石器の詳細については第 28 図及び第 17 表に掲載した。

土坑出土遺物（第 28 図 266）

黒浜式土器の胴部片。無節の羽状縄文。

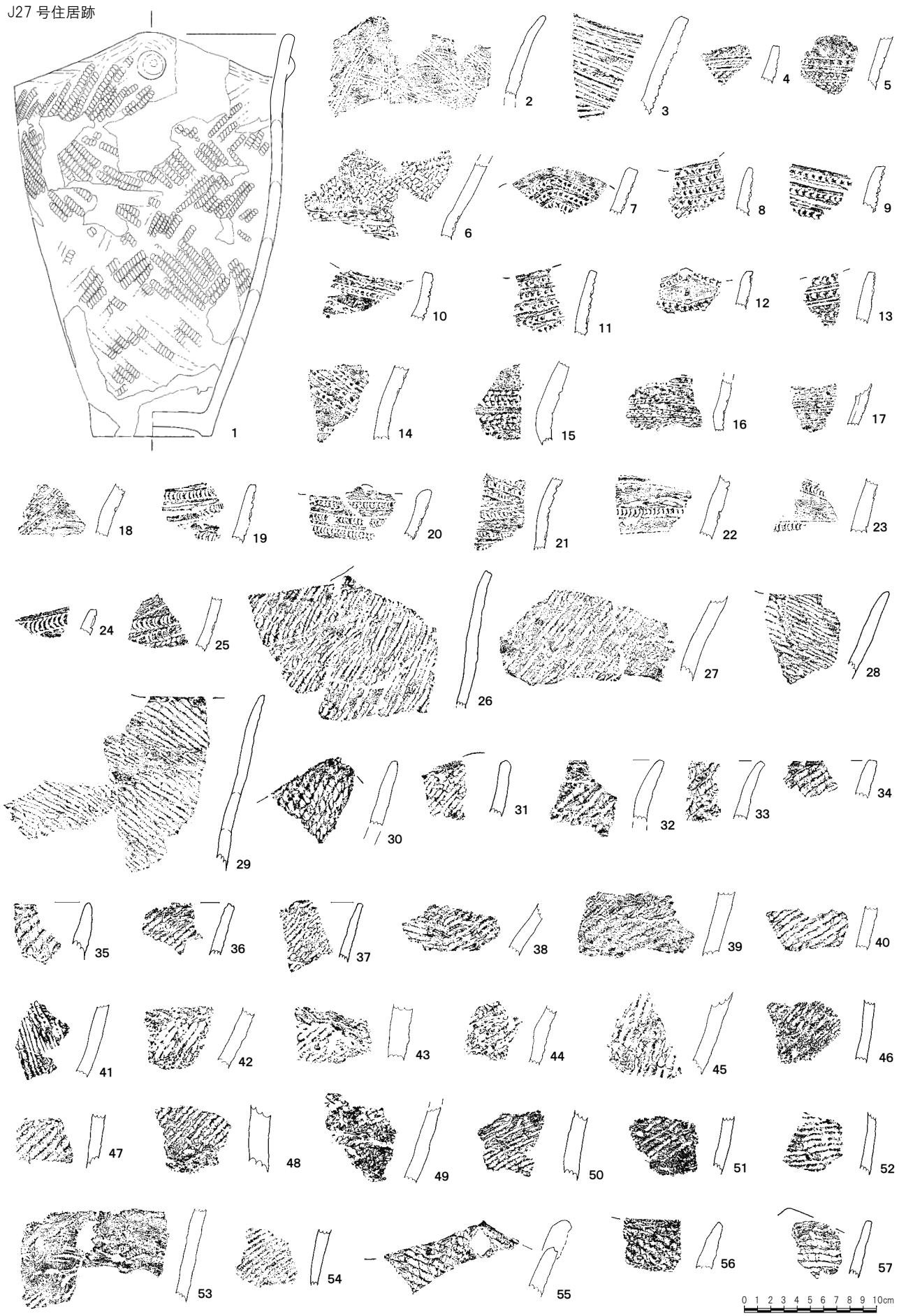
遺構外出土遺物（第 28 図　267 ～ 279）

267・268 は黒浜式土器。267 は地文 2 段 LR の口縁部片。268 は地文 RL の胴部片。269 は阿玉台式土器の胴部片。地文 LR 縄文、半截竹管状工具による横位沈線、脇にキャタピラー文と刻み目を施す。胎土に金雲母を含む。270 ～ 278 は加曾利 E 4 式土器。地文は 2 段 LR。271 ～ 273 は波状口縁部。274・275 は 2 本の磨消沈線文。278 は無文の底部片である。279 は、縄文後期と思われる土器の装飾把手片。外面と側面 2 面に RL 縄文を施し、径約 6 ㎜の孔を片面穿孔する。外面の穿孔部周辺は、ナデによって磨消す。

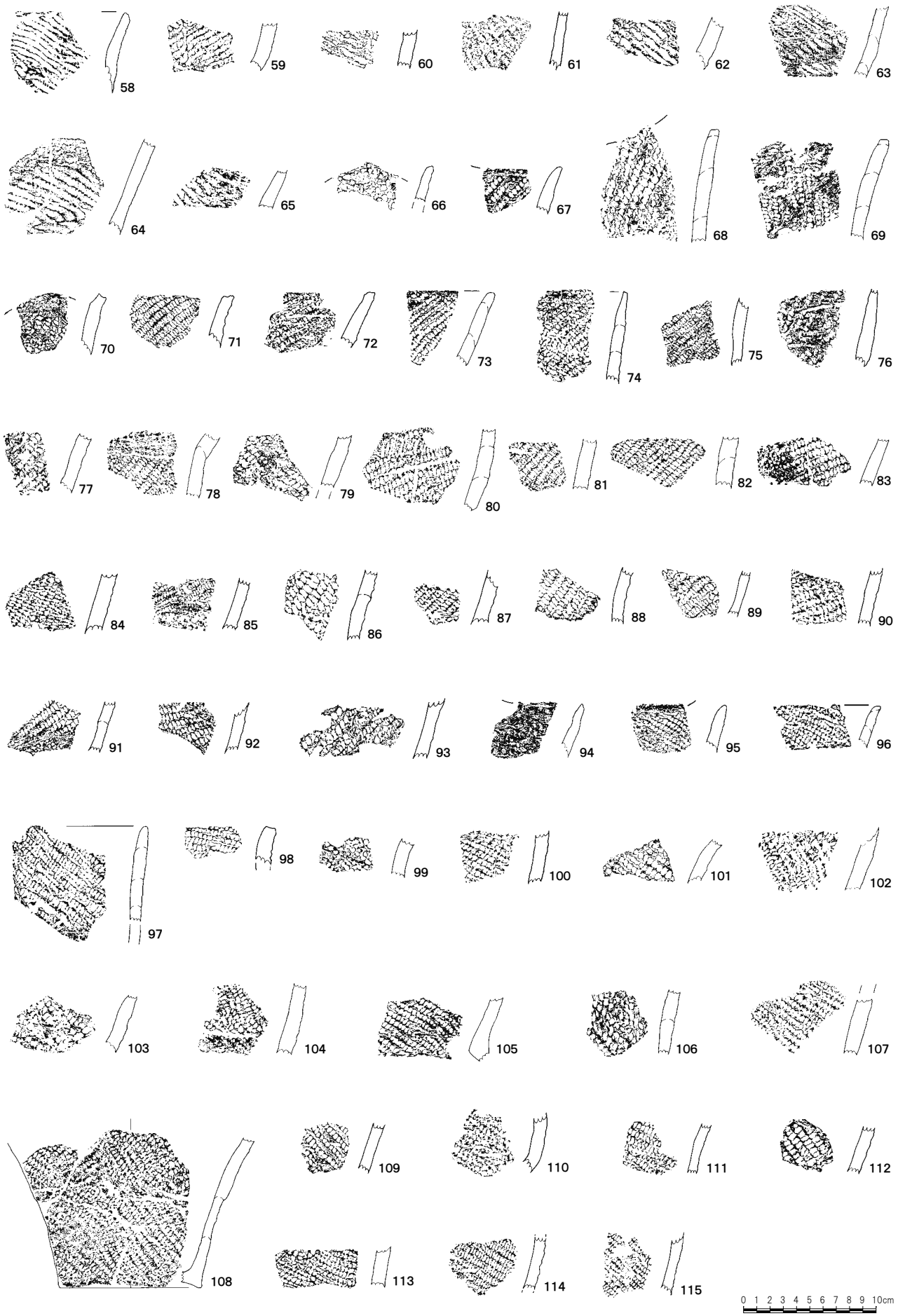
（田中　信）

第 17 表　川崎遺跡第 52 地点出土石器観察表 (単位 cm・g)

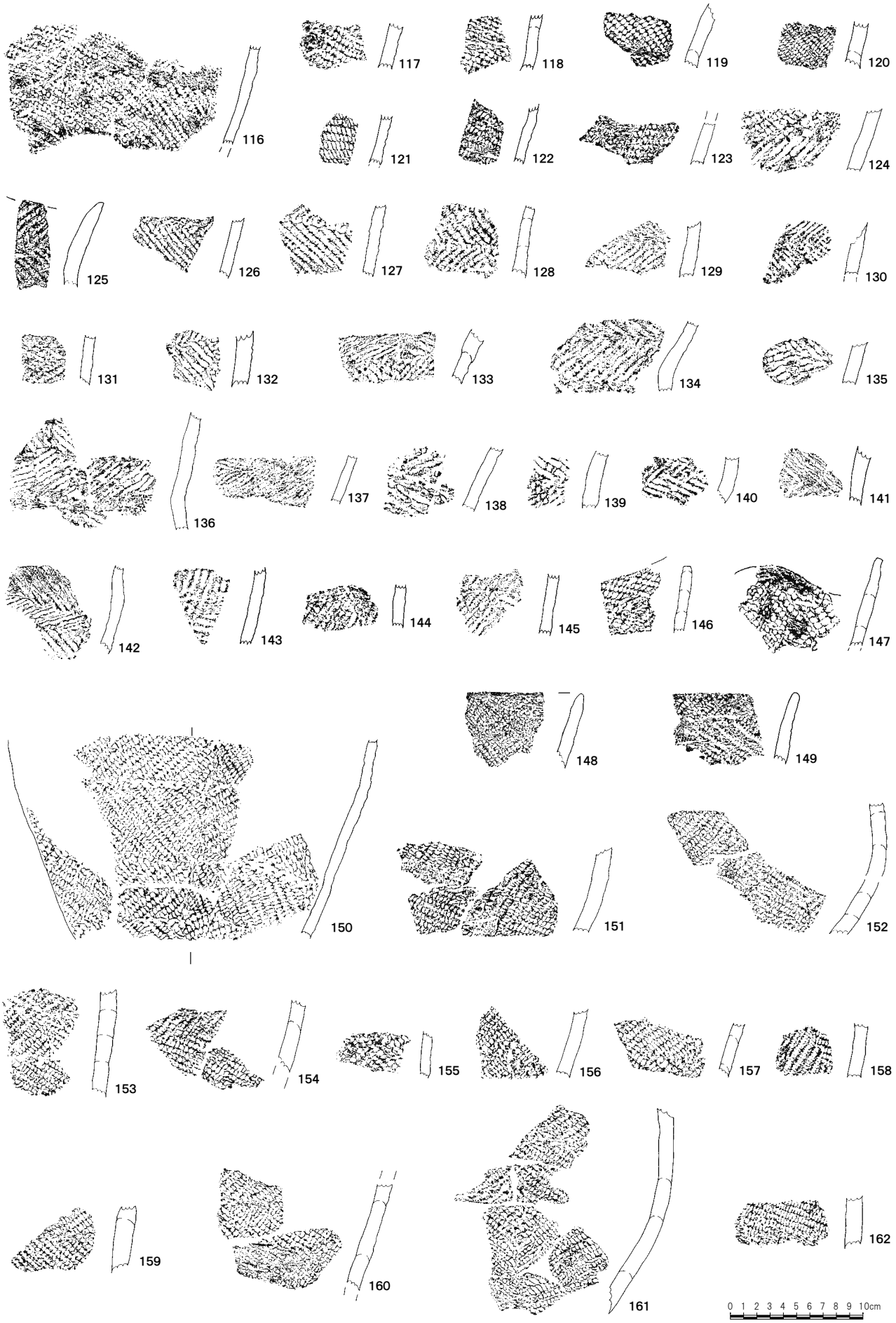
図版番号	出土遺構	種別・器種	口径・長さ	底径・幅	高さ・厚さ	重量	技法・文様・備考	時期・型式
第 28 図 -1	J27 号住居跡	磨き石	98.97	29.45	10.59	50.51	完形、全面に手擦れに近い磨痕、石材：粘板岩	―
第 28 図 -2		凹石	9.7	6.2	2.5	219.55	完形、両面に凹痕、両側面に磨痕、敲き痕、石材：砂岩	―
第 28 図 -3		敲き石	13.9	6	4.2	377.10	片面一部欠損、両側面に磨痕、石材:フォルンフェルス	―
第 28 図 -4		磨り石	10.5	6.1	4	384.12	完形、片面に磨痕、石材：砂岩	―
第 28 図 -5		磨り石	8.2	3.7	2	108.19	完形、一側面以外磨痕有、石材：砂岩	―
第 28 図 -6		磨り石	6.7	8.2	3	201.15	完形、ぼぼ全面に磨痕、石材：砂岩	―
第 28 図 -7		磨り石	4.9	8.9	4.8	234.46	完形、ほぼ全面に磨痕、石材：砂岩	―
第 28 図 -8		磨り石	6	7	2.9	162.39	完形、片面に磨痕、石材：砂岩	―
第 28 図 -9		磨り石	6.9	7	2.7	155.96	片面一部欠損、欠損部以外ほぼ全面に磨痕、石材：砂岩	―
第 28 図 -10		剝片	21.49	35.07	12.29	8.13	横長剝片、石材：黒曜石	―



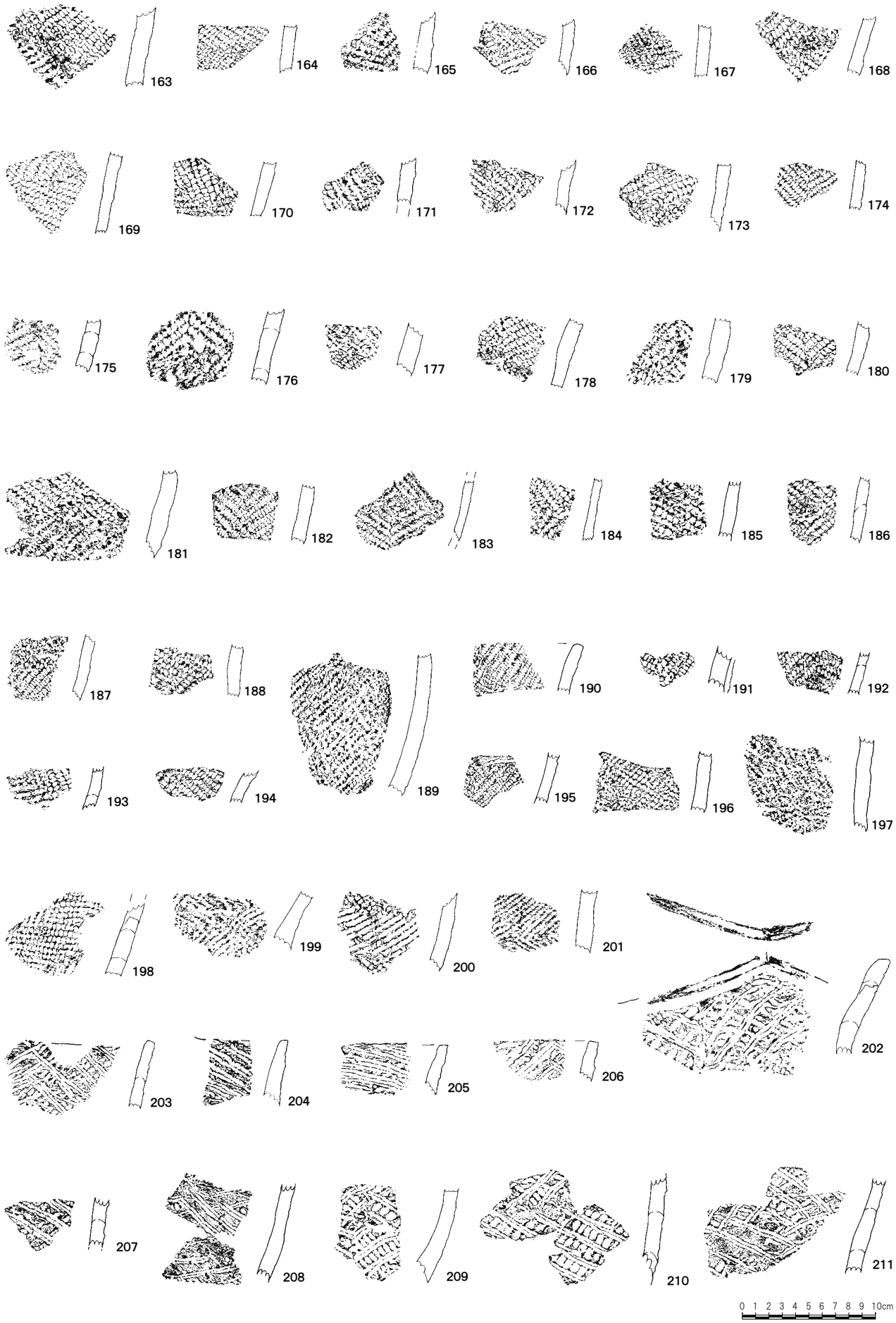
第 23 図　川崎遺跡第 52 地点出土遺物① (1/4)



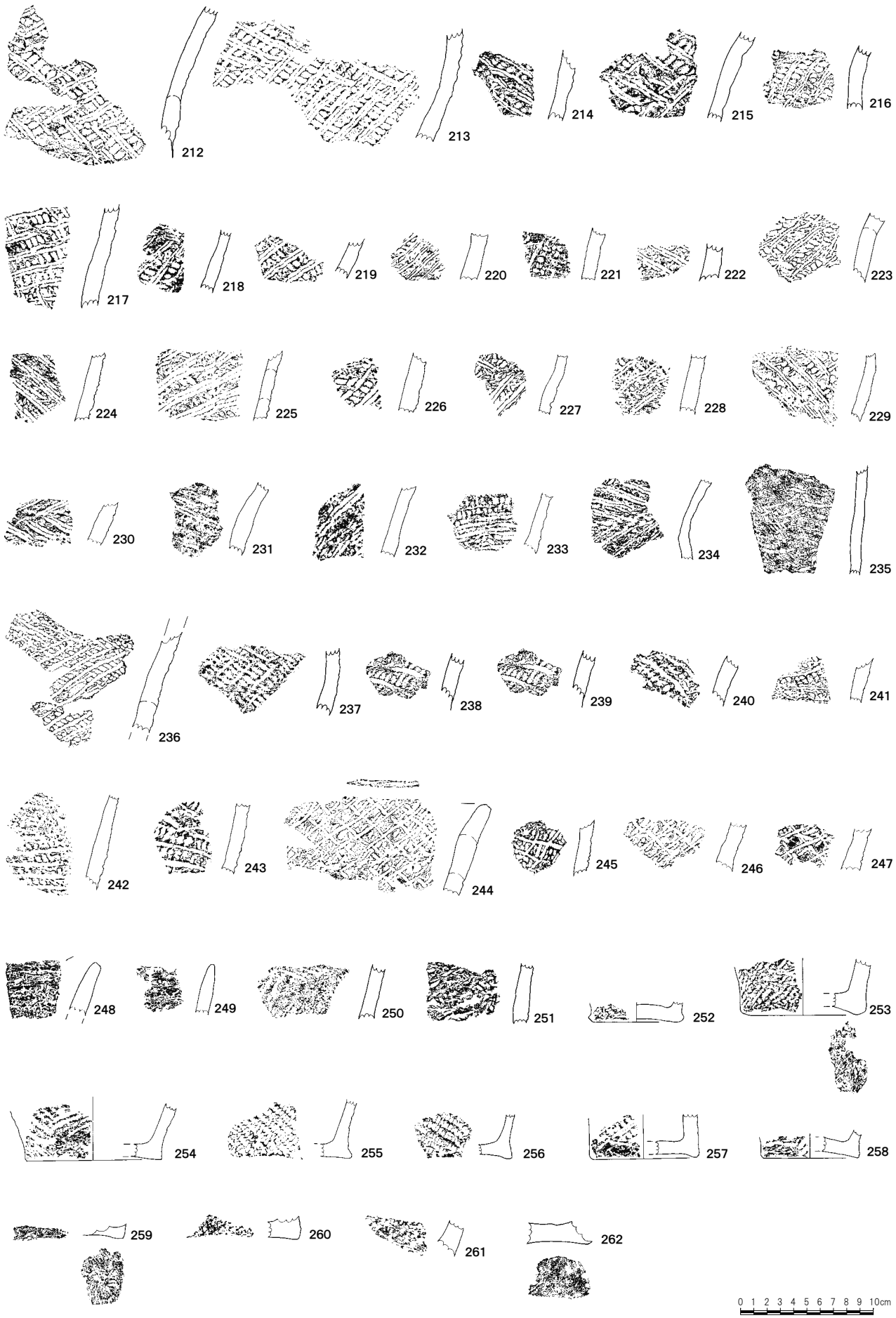
第 24 図　川崎遺跡第 52 地点出土遺物② (1/4)



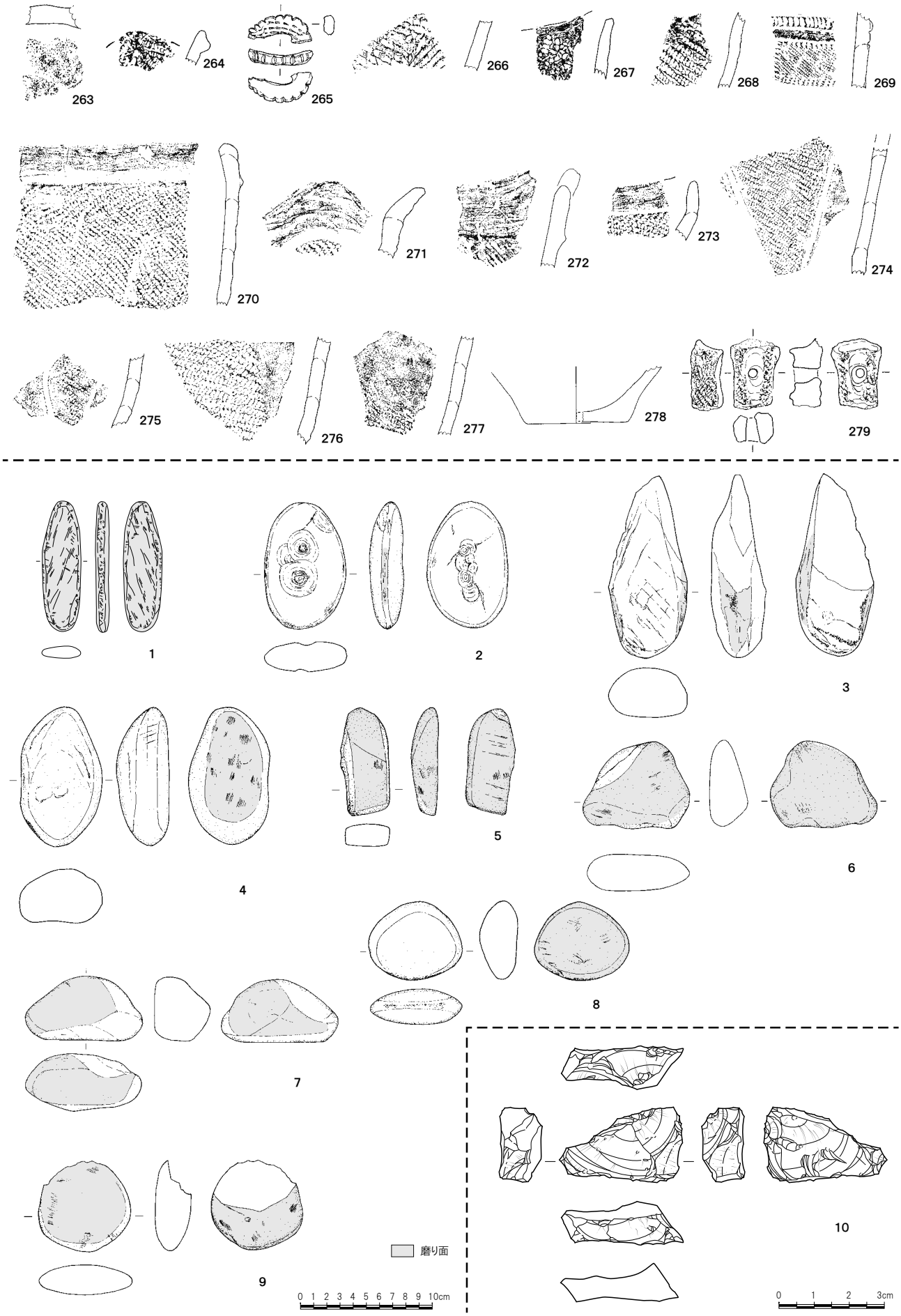
第 25 図　川崎遺跡第 52 地点出土遺物③ (1/4)



第 26 図　川崎遺跡第 52 地点出土遺物④ (1/4)



第 27 図　川崎遺跡第 52 地点出土遺物⑤ (1/4)



第 28 図　川崎遺跡第 52 地点出土遺物⑥ (1/4・2/3)

② H73 号住居跡

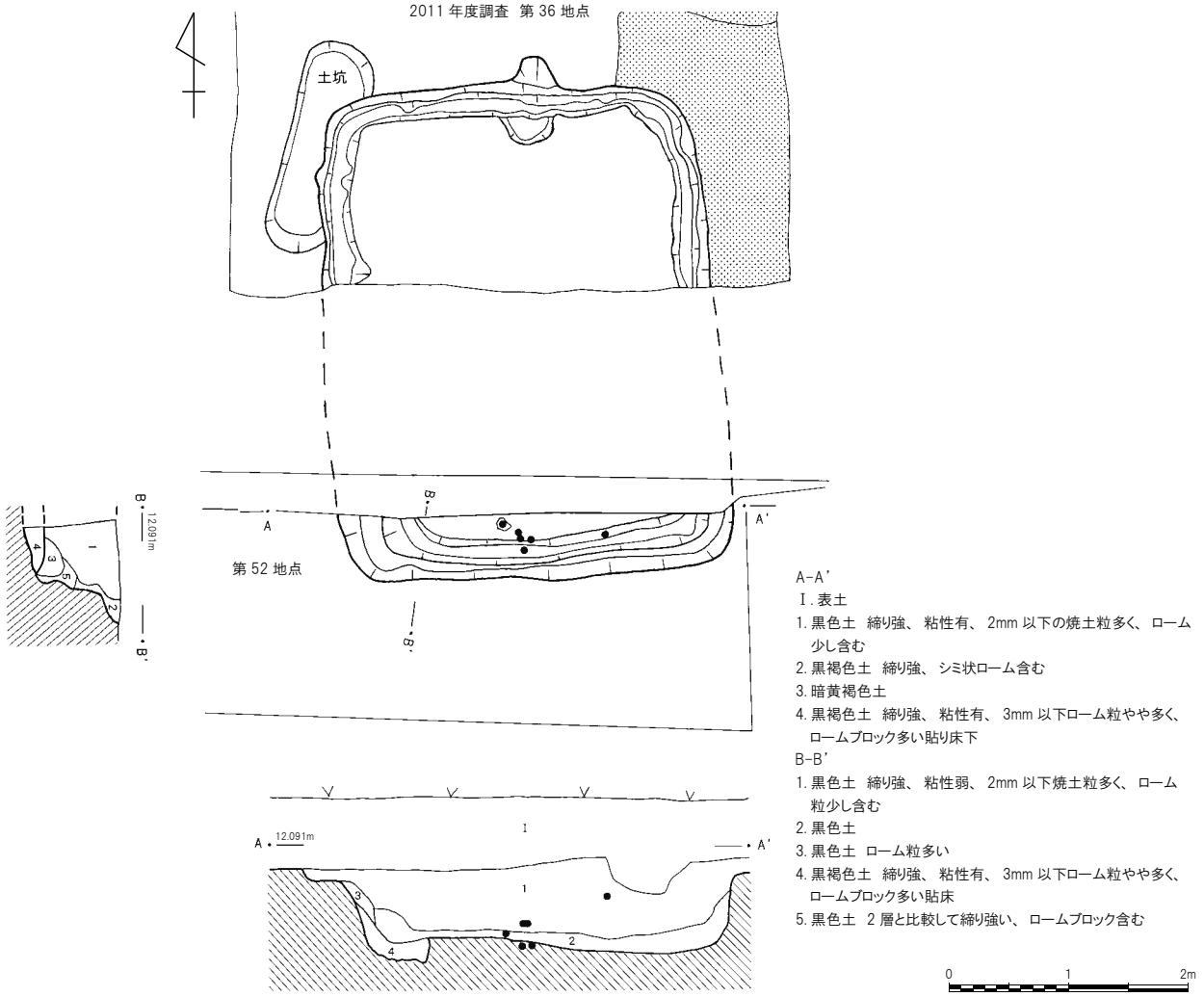
【位置・検出状況】 調査区北東部に位置する。2011 年度調査の第 36 地点で検出した住居跡の南端部である。

【形状・規模】平面形態は隅丸長方形を呈する。主軸方向は N-2°-E でほぼ南北方向を指向する。規模は南北 415 ×東西 320 ㎝、確認面からの深さは約 60 ㎝である。

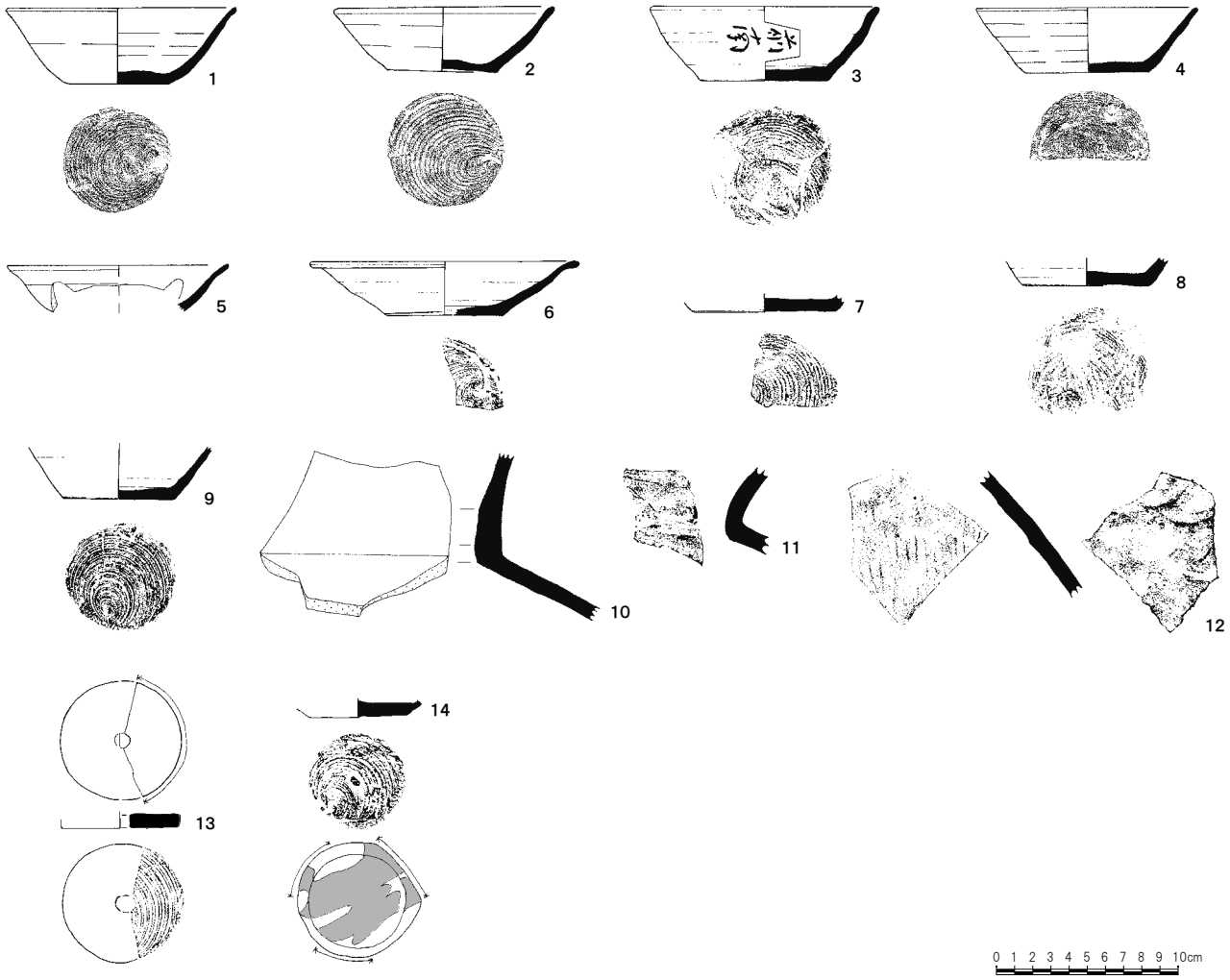
【構造】 今回の調査では柱穴と判断できるピットは検出されなかった。また、第 36 地点の調査でも明確な柱穴痕は確認されていないため、詳細は不明である。周溝については前回調査同様、全体を巡るように検出した。規模は上幅約 20 ㎝、下幅 5 ～ 10 ㎝、深さ 5 ～ 15 ㎝を測る。

【遺物出土状況】 遺物は床面直上及び周溝内より出土した。遺物の詳細については第 30 図及び第 18 表に掲載した。また、本報告書の刊行にあたり、前回調査の出土遺物の再検討を行ったところ、新たに墨書土器 1 点の存在が明らかとなったため、併せて報告する。

【時期】 出土遺物より 9 世紀中頃に帰属するものと考えられる。



第 29 図　川崎遺跡第 52 地点 H73 号住居跡 (1/60)



第 30 図　川崎遺跡第 52 地点 H73 号住居跡出土遺物 (1/4)

第 18 表　川崎遺跡第 52 地点 H73 号住居跡出土遺物観察表 (単位 cm・g)

図版番号	出土遺構	種別・器種	口径・長さ	底径・幅	高さ・厚さ	重量	技法・文様・備考	時期・型式
第 30 図 -1	H 73 号住居跡	須恵器坏	12.6	5.8	4.2	―	轆轤成形、右回転、底部糸切離痕を残す、焼成良好、胎土色調青灰色、東金子窯産、口縁部一部欠失 (意図的欠損カ)	9 世紀中頃
第 30 図 -2		須恵器坏	12.2	6.4	3.5	―	轆轤成形、右回転、底部糸切離痕を残す、焼成良好、胎土色調青灰色、海綿骨針を含む、南比企窯産、口縁部一部欠失 (意図的欠損カ) 胎土色調灰色・赤褐色、使用による摩耗著しい、口縁部一部欠損 (意図的欠損カ)	9 世紀中頃
第 30 図 -3		須恵器坏	12.6	7.0	4.1	―	轆轤成形、右回転、底部糸切離痕を残す、焼成不良、胎土に海綿骨針を含む、南比企窯産、体部から底部にかけて煤付着、体部外面に横位に墨書「前南」	9 世紀中頃
第 30 図 -4		須恵器坏	12.2	(6.5)	3.6	―	轆轤成形、右回転、底部糸切離痕を残す、焼成やや不良、胎土に海綿骨針含む、南比企窯産、内外面使用による摩耗有り	9 世紀中頃
第 30 図 -5		須恵器坏	12.5	―	―	―	体部片、轆轤成形、右回転、底部糸切離痕を残す、胎土色調暗灰色、東金子窯産	9 世紀中頃
第 30 図 -6		須恵器皿	14.8	6.4	3.0	―	轆轤成形、右回転、底部糸切離痕を残す、内面に煤付着、東金子窯産	9 世紀中頃
第 30 図 -7		須恵器坏	―	7.6	(0.9)	―	底部片、轆轤成形、右回転、底部糸切離痕を残す、胎土灰青色、胎土に海綿骨針を含む、南比企窯産	9 世紀中頃
第 30 図 -8		須恵器坏	―	7.0	(1.5)	―	底部片、轆轤成形、右回転、底部糸切離痕を残す、焼成不良	9 世紀中頃
第 30 図 -9		須恵器坏	―	6.0	(3.0)	―	体部下半から底部片、轆轤成形、右回転、底部糸切離痕を残す、焼成良好、胎土色調赤褐色、内面煤付着、内面摩耗	9 世紀中頃
第 30 図 -10		須恵器甕	―	―	―	―	頸部片、肩に降灰、焼成良好、胎土に海綿骨針を含む、南比企窯産	9 世紀中頃
第 30 図 -11		須恵器甕	―	―	―	―	頸部片、胎土に海綿骨針を含む、南比企窯産	9 世紀中頃
第 30 図 -12		須恵器甕	―	―	―	―	肩部片、外面は平行叩、降灰、内面は当具痕をナデ消す	9 世紀中頃
第 30 図 -13		須恵器坏転用紡錘車	6.5	―	―	―	轆轤右回転の須恵器坏を円盤形に端部を丁寧に磨き径 6.5 ㎝の円盤に成形、中央に径８㎜の穿孔	9 世紀中頃
第 30 図 -14		須恵器坏	―	5.5	―	―	底部片 (円盤形、意図的カ)、轆轤成形、右回転、底部糸切離痕を残す、胎土に海綿骨針を含む、南比企窯産、底部に煤付着	9 世紀中頃

③ J27 号住居を壊す土坑群 (第 31 図)

J27 号住居の調査段階で、5 基の土坑が重複していた。いずれも住居を壊す土坑で、住居プラン面で確認した。以下、概略を示す。

土坑 1

住居の南側で調査区境にくいこむ。東西 100 ㎝、南北 110 ㎝のほぼ円形を呈する。確認面からの深さは概ね 30 ㎝程度で住居跡覆土の 2 層目で掘り込みがとまり、住居床面までには及んでいない。断面は鍋底状を呈する。覆土は締まりのない暗褐色土でローム粒子を含む層が主体をなす。遺物の出土なし。時期不詳。

土坑 2

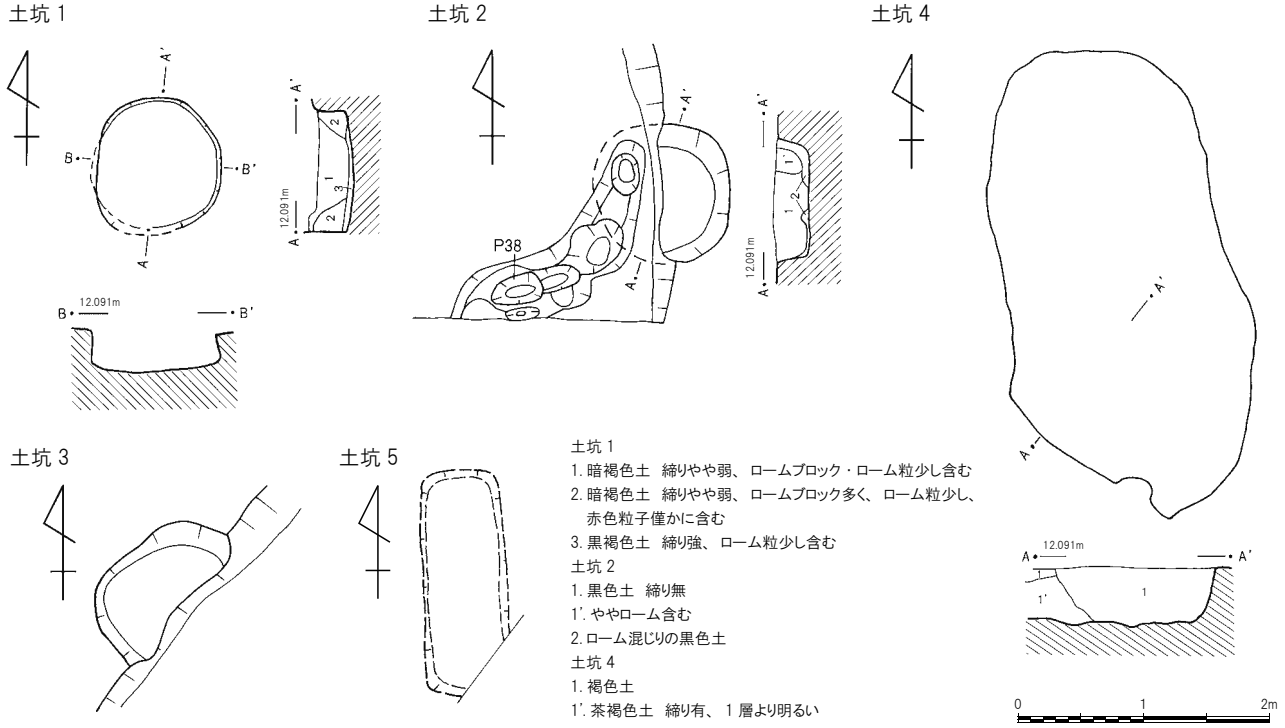
住居の南東側壁の一部を壊して存在。土坑 1 と規模・覆土・断面形ともほぼ同一のものである。深さも 30 ㎝で住居床までは達していない。住居調査の段階で壁面露出の作業で最終的に東側のみが残存するだけとなった。遺物の出土なし。時期不詳。

土坑 3

土坑 1 と対局の住居跡北西コーナーを壊すように掘られ西北側の掘り込みのみ残存していた。一辺 125 ㎝、深さ 20 ㎝で覆土は縄文特有の茶褐色土でやや締まりがある。覆土上層から加曽利 E Ⅳ期の遺物が出土している。縄文時代中期の土坑の可能性がある。

第 19 表　川崎遺跡第 52 地点土坑一覧表 (単位 cm)

No.	平面形態	確認面径	底径	深さ
1	円形	110 × 100	98 × 97	30
2	不明	108 × (53)	―	30
3	不明	125 × ―	―	20
4	長楕円形	380 × 190	―	60
5	長方形	180 × 65	―	15 ～ 18



第 31 図　川崎遺跡第 52 地点土坑 (1/60)

土坑 4

試掘段階のトレンチ 2 で確認された掘り込み。上端で長径 380 ㎝、短径 190 ㎝、深さは最も深い部分で 60 ㎝ほどの長楕円形を呈する。結果としては J27 号住居跡北東隅を破壊し、深さも住居床面を 5 ㎝前後掘り込んでいた。底面、壁面ともに比較的凹凸が少ない。壁面は急傾斜角をもって立ち上がる。覆土は褐色土が主体である。明らかに掘り窪めて遺物を一括投棄するもので、種々雑多な遺物が含まれていることから、ゴミ穴的な性格を想定した。

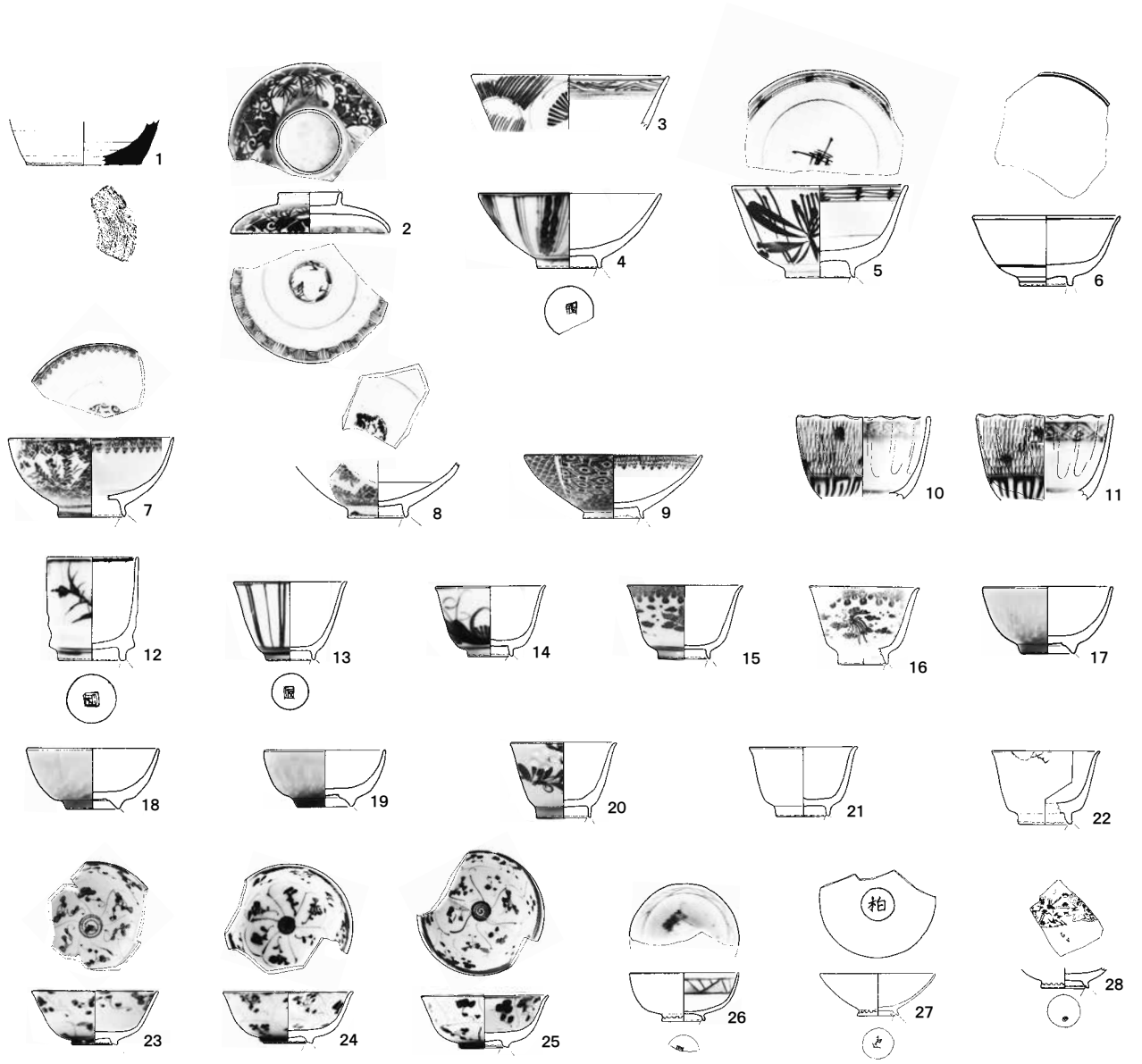
遺物　陶磁器・瓦・甕・貝 (巻貝が最多)・礫・ガラス瓶・鳥骨・銭・泥メンチなどコンテナ (40 ㎝× 30 ㎝× 15 ㎝) で 10 箱分が出土した。なかでも瓦片が最も多い。

時期　出土遺物から幕末～大正期。

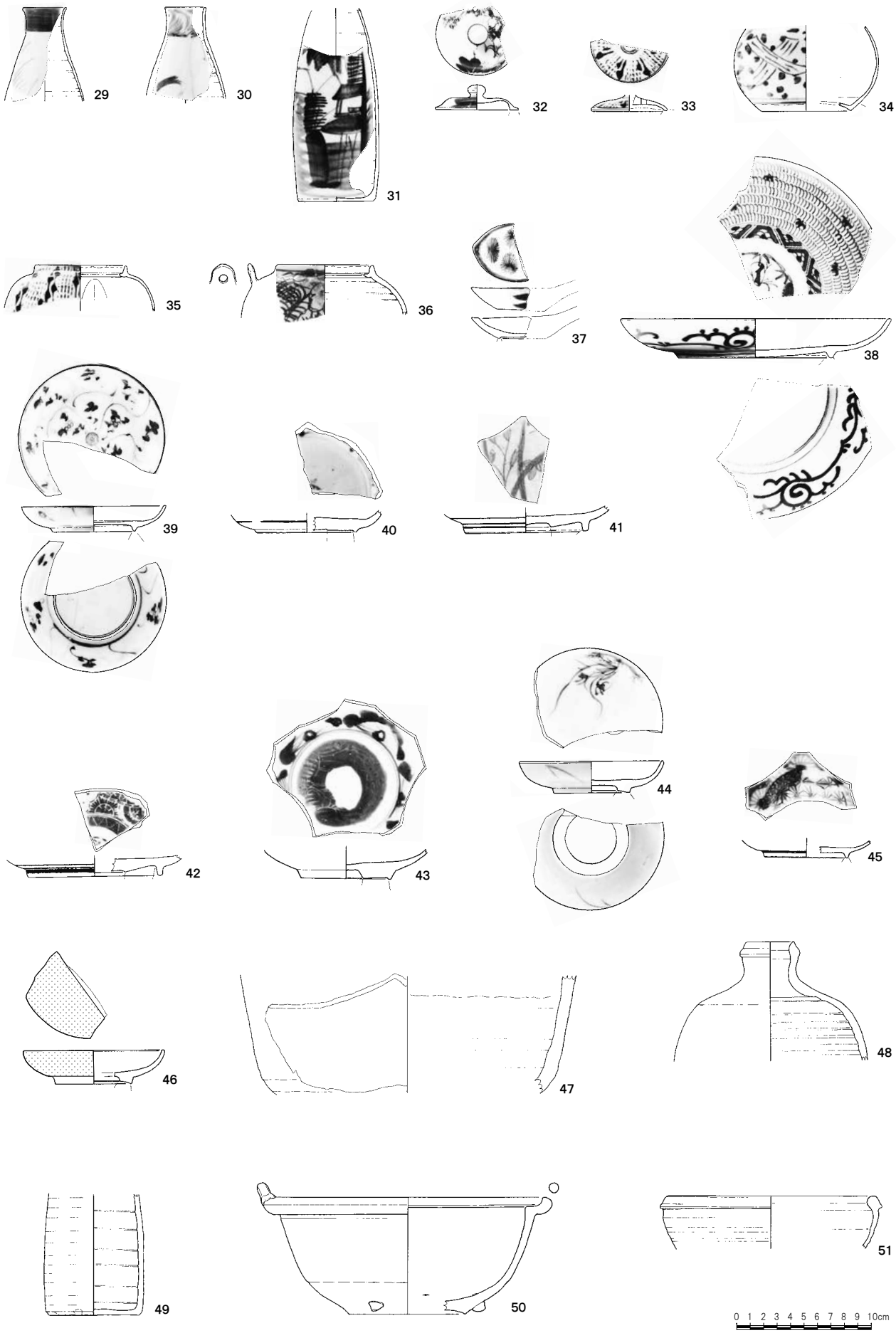
遺構の性格　廃棄物の処理穴。ごみ穴。

土坑 5

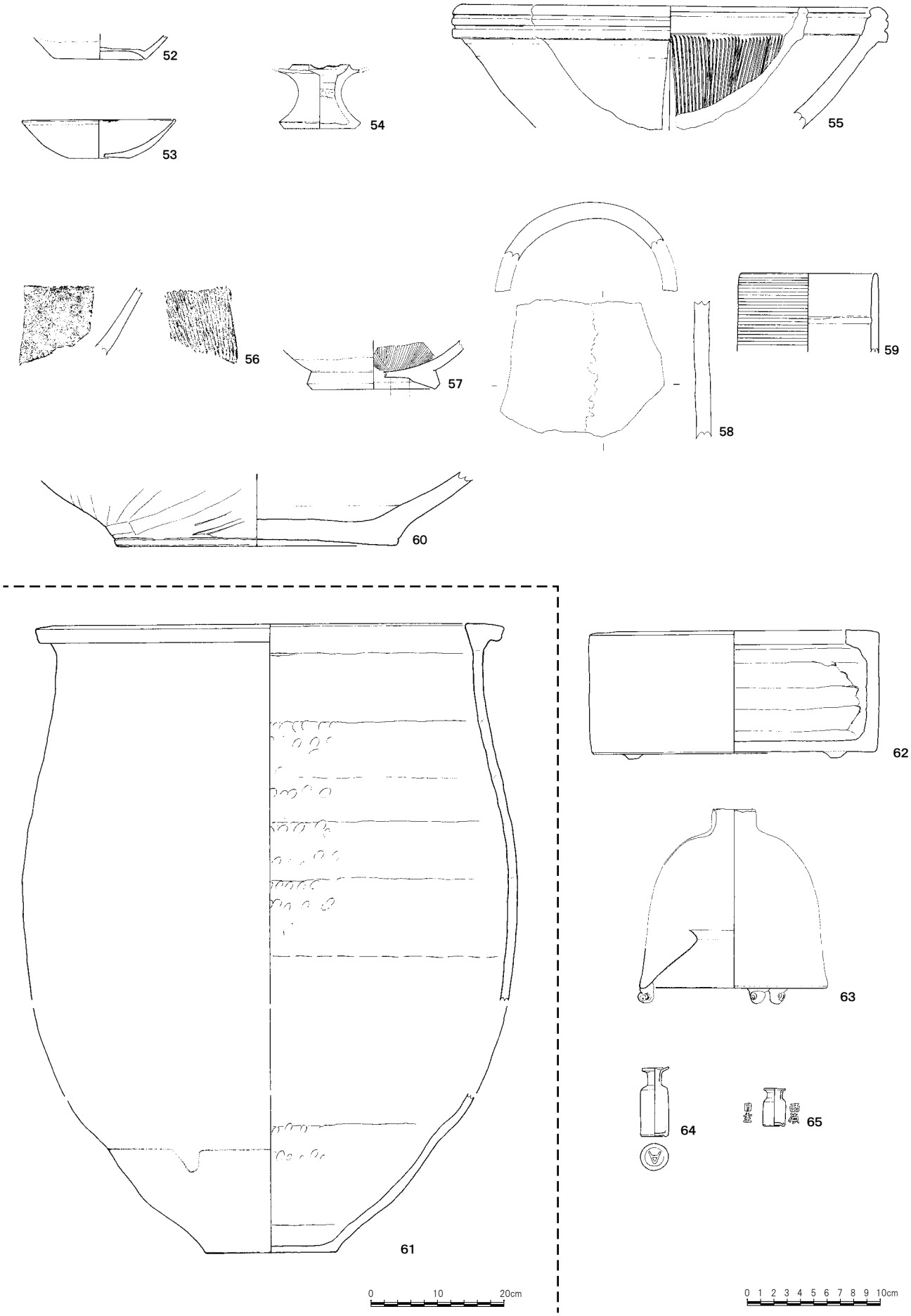
住居の北側のやや西寄りに長径 180 ㎝、短径 65 ㎝の長方形をなす掘り込みが住居跡の覆土から確認された。深さは 15 ～ 18 ㎝と浅く住居跡覆土の上層部で底面が留まっていた。覆土はロームブロックを含む黒褐色土が入り込む。時期不詳。



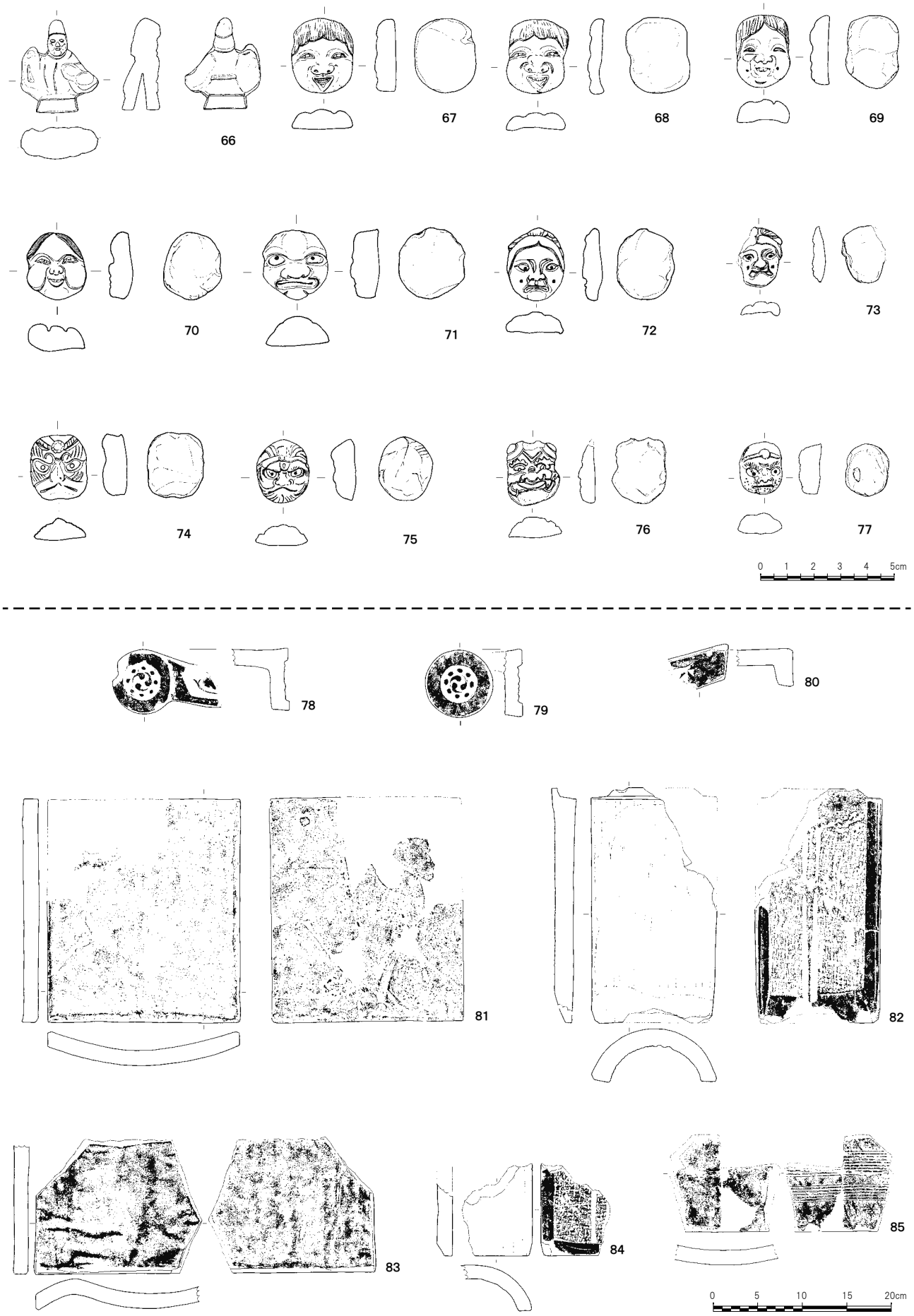
第 32 図　川崎遺跡第 52 地点出土遺物⑦ (1/4)



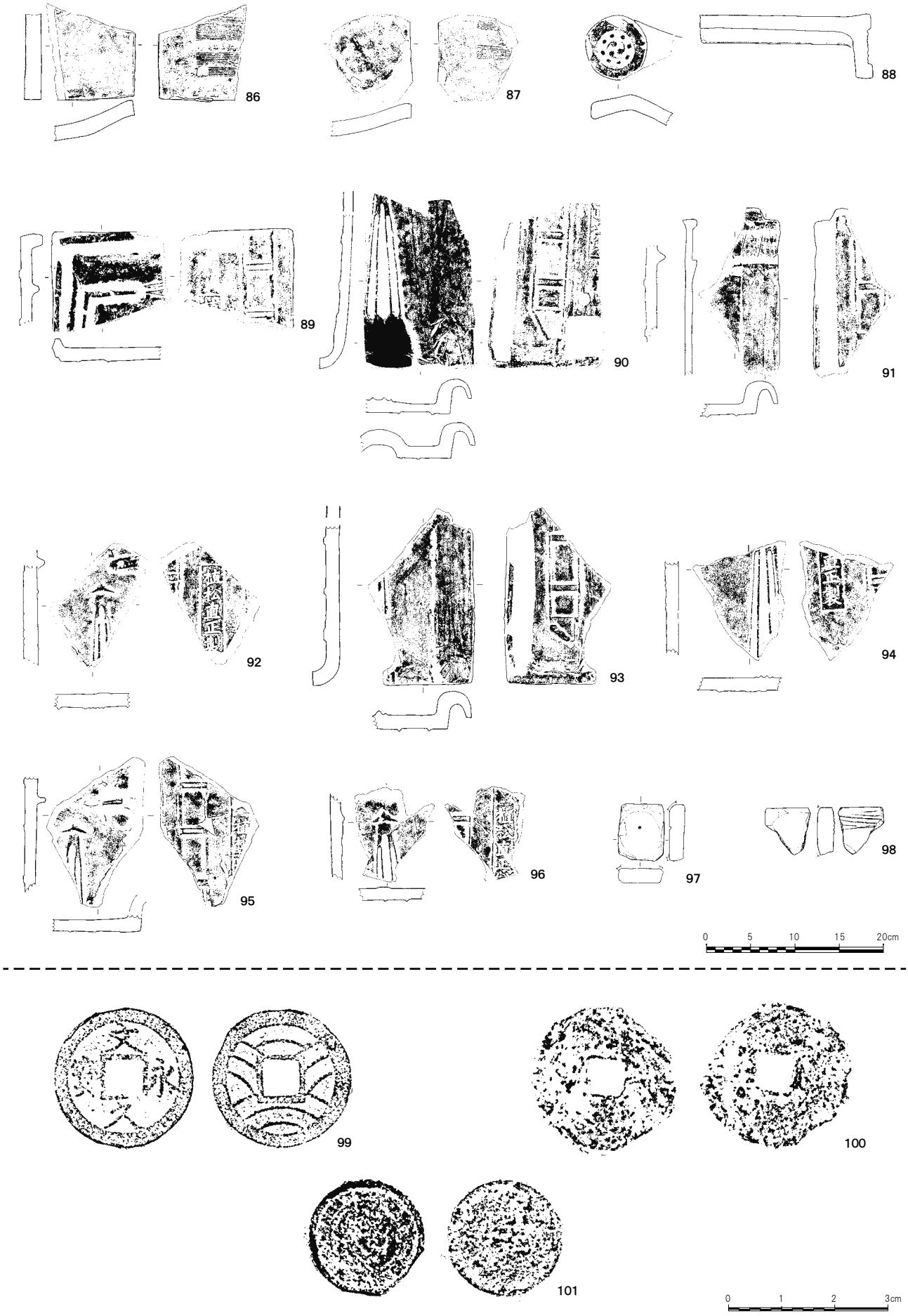
第 33 図　川崎遺跡第 52 地点出土遺物⑧ (1/4)



第 34 図　川崎遺跡第 52 地点出土遺物⑨ (1/8・1/4)



第 35 図　川崎遺跡第 52 地点出土遺物⑩ (1/6・1/2)



第 36 図　川崎遺跡第 52 地点出土遺物⑪ (1/6・1/1)

第 20 表　川崎遺跡第 52 地点出土遺物観察表 (単位 cm・g)

図版番号	出土遺構	種別・器種	口径・長さ	底径・幅	高さ・厚さ	重さ	技法・文様・備考	時期・型式
第 32 図 -1	土坑４	須恵器小甕	―	6.8	(2.7)	―	轆轤成形、底部糸切離痕を残す	9 世紀中頃
第 32 図 -2		瀬戸美濃系磁器碗蓋	9.4	3.8	2.4	―	轆轤成形、コバルト、手描、外面草花文、内面変形雷文・一重圏線内に松竹梅繋文	1870 年代～
第 32 図 -3		瀬戸美濃系磁器碗	11.8	―	(3.3)	―	轆轤成形、端反、コバルト、手描、外面素描唐草文、内面口縁部波濤文	1870 年代～
第 32 図 -4		瀬戸美濃系磁器碗	11.0	3.8	4.5	―	轆轤成形、コバルト、手描、外面放射状文、高台内圏線内に一重角に「岐」カ、畳付釉剥	1870 年代～
第 32 図 -5		瀬戸美濃系磁器碗	10.4	4.2	5.5	―	轆轤成形、コバルト、手描、外面植物文、内面帯文、畳付釉剥	1870 年代～
第 32 図 -6		瀬戸美濃系磁器碗	8.8	3.2	8.2	―	轆轤成形、コバルト、外面口縁に一重・腰部に二重圏線、畳付釉剥	1870 年代～
第 32 図 -7		瀬戸美濃系磁器碗	9.8	4.0	4.6	―	轆轤成形、コバルト、型紙刷、外面青海波に唐草・宝の枠文、内面口縁部に瓔珞文、見込みに松竹梅繋文、畳付釉剥	1880 年代～
第 32 図 -8		瀬戸美濃系磁器碗	―	3.5	(3.3)	―	轆轤成形、コバルト、型紙刷、外面腰に連弁文、見込松竹梅繋文、	1880 年代～
第 32 図 -9		瀬戸美濃系磁器碗	10.6	3.6	3.8	―	轆轤成形、コバルト、型紙刷、外面青海波・菱形に菊の連続文、内面口縁部瓔珞文、畳付釉剥	1880 年代～
第 32 図 -10		瀬戸美濃系磁器向付	8.1	―	(5.0)	―	輪花の型作、コバルト、手描、外面鹿の子に松文散し・腰部連弁文、内面口縁部四方襷文	1870 年代～
第 32 図 -11		瀬戸美濃系磁器向付	8.0	―	(4.9)	―	輪花の型作、コバルト、手描、外面鹿の子に松文散し・腰部連弁文、内面口縁部四方襷文	1870 年代～
第 32 図 -12		瀬戸美濃系磁器碗	5.4	3.9	6.2	―	轆轤成形、筒形、コバルト、手描、外面草花文、高台内一重圏線に一重角「岐」カ、畳付釉剥	1870 年代～
第 32 図 -13		瀬戸美濃系磁器小碗	6.8	2.9	4.6	―	轆轤成形、コバルト・緑絵具、外面鎬文、高台内一重圏線に一重角「岐」、畳付釉剥	1890 年代～
第 32 図 -14		瀬戸美濃系磁器小碗	6.6	2.6	(4.2)	―	轆轤成形、コバルト、手描、外面草花文、畳付釉剥	1870 年代～
第 32 図 -15		瀬戸美濃系磁器小碗	6.8	3.0	4.4	―	轆轤成形、コバルト、銅版転写、外面瓔珞文に飛雲・鳳凰・桐文	1890 年代～
第 32 図 -16		瀬戸美濃系磁器小碗	6.5	2.9	4.6	―	轆轤成形、コバルト、銅版転写、外面瓔珞文に飛雲・鳳凰・桐文	1890 年代～
第 32 図 -17		瀬戸美濃系磁器小碗	7.7	3.1	4.0	―	轆轤成形、外面クロム青磁・ヘラで松皮文、蛇の目高台内無釉	1890 年代～
第 32 図 -18		瀬戸美濃系磁器小碗	7.8	3.2	3.7	―	轆轤成形、外面クロム青磁・ヘラで松皮文、蛇の目高台内無釉	1890 年代～
第 32 図 -19		瀬戸美濃系磁器小碗	7.2	3.2	3.4	―	轆轤成形、外面クロム青磁・ヘラで松皮文、蛇の目高台内無釉	1890 年代～
第 32 図 -20		瀬戸美濃系磁器小碗	6.3	3.1	4.2	―	轆轤成形、外面クロム青磁、手描、外面白土の点描と緑・茶絵具による草花文、畳付釉剥	1890 年代～
第 32 図 -21		瀬戸美濃系磁器小碗	6.2	3.2	4.5	―	轆轤成形、外面クロム青磁、畳付釉剥	1890 年代～
第 32 図 -22		瀬戸美濃系磁器小碗	6.4	3.0	4.4	―	轆轤成形、外面クロム青磁、手描、外面茶絵具による草花文、畳付釉剥	1890 年代～
第 32 図 -23		瀬戸美濃系磁器小碗	7.5	2.7	3.3	―	轆轤成形、コバルト、手描、内外目に仏芝祝寿文、畳付釉剥	1870 年代～
第 32 図 -24		瀬戸美濃系磁器小碗	7.6	2.8	3.1	―	轆轤成形、コバルト、手描、内外目に仏芝祝寿文、畳付釉剥	1870 年代～
第 32 図 -25		瀬戸美濃系磁器小碗	7.5	2.8	3.1	―	轆轤成形、コバルト、手描、内外目に仏芝祝寿文、畳付釉剥	1870 年代～
第 32 図 -26		瀬戸美濃系磁器盃	6.4	2.4	2.9	2.4	轆轤成形、手描、内面は青絵具の上絵付、櫛高台、高台内に文字、畳付釉剥	20 世紀前半
第 32 図 -27		瀬戸美濃系磁器盃	6.4	2.4	2.5	―	轆轤成形、手描、見込みに金彩で「柏」、櫛高台、高台内にコバルトで「同氏」、畳付釉剥	20 世紀前半
第 32 図 -28		瀬戸美濃系磁器盃	―	2.8	(1.3)	―	轆轤成形、手描、見込みに上絵付で金・黒絵具による山水文、櫛高台、高台内に文字「岐」カ、畳付釉剥	20 世紀前半

図版番号	出土遺構	種別・器種	口径・長さ	底径・幅	高さ・厚さ	重さ	技法・文様・備考	時期・型式
第 33 図 -29	土坑４	瀬戸美濃系磁器燗徳利	3.2	―	(7.0)	―	轆轤成形、コバルト、手描、内面釉は口縁部まで	1870 年代～
第 33 図 -30		瀬戸美濃系磁器燗徳利	3.2	―	(7.0)	―	轆轤成形、コバルト、手描、内面釉は口縁部まで	1870 年代～
第 33 図 -31	遺構外	瀬戸美濃系磁器燗徳利	―	5.3	(14.4)	―	轆轤成形、コバルト、手描、内面釉は口縁部まで、外面は山水文	1870 年代～
第 33 図 -32	土坑４	瀬戸美濃系磁器急須蓋	6.2	―	1.9	―	轆轤成形、コバルト、手描、外面草花文、畳付釉剥	1870 年代～
第 33 図 -33		瀬戸美濃系磁器急須蓋	5.6	―	(1.1)	―	轆轤成形、コバルト、手描、放射状文、畳付釉剥	1870 年代～
第 33 図 -34		瀬戸美濃系磁器急須身	―	6.7	(6.3)	―	轆轤成形、コバルト、手描、腰から底部は無釉	1870 年代～
第 33 図 -35		瀬戸美濃系磁器急須身	6.7	―	(3.4)	―	轆轤成形後型作、コバルト、手描	1870 年代～
第 33 図 -36		瀬戸美濃系磁器急須身	7.0	―	(4.1)	―	轆轤成形、コバルト、手描、草花文	1870 年代～
第 33 図 -37		瀬戸美濃系磁器蓮華	(4.4)	(4.4)	(1.6)	―	型作、コバルト、手描、松葉文	1870 年代～
第 33 図 -38		瀬戸美濃系磁器皿	22.0	11.6	2.9	―	轆轤成形、コバルト、手描、内面鹿の子文に松葉散し・中央松竹梅繋文、外面唐草文、畳付釉剥、底裏にピン痕	1870 年代～
第 33 図 -39		瀬戸美濃系磁器皿	10.8	6.2	1.9	―	轆轤成形、コバルト、手描、内外面に仏芝祝寿文、畳付釉剥	1870 年代～
第 33 図 -40		肥前系磁器皿	―	7.4	(1.6)	―	轆轤成形、呉須、手描、蛇の目凸高台、凸部釉剥	幕末～明治初年
第 33 図 -41		瀬戸美濃系磁器皿	―	9.1	(1.9)	―	轆轤成形、呉須、手描、内面草花文、蛇の目凸高台、凸部釉剥	1870 年代～
第 33 図 -42		瀬戸美濃系磁器皿	―	10.0	(1.5)	―	轆轤成形、コバルト、型紙刷、蛇の目凸高台、凸部釉剥	1880 年代～
第 33 図 -43		瀬戸美濃系磁器皿	―	6.8	(2.3)	―	轆轤成形、コバルト、手描、蛇の目凸高台、凸部釉剥	1870 年代～
第 33 図 -44		瀬戸美濃系磁器皿	10.8	5.5	2.4	―	轆轤成形、コバルト、手描、内面から外面に連続して草花文、蛇の目高台、畳付釉剥	1870 年代～
第 33 図 -45		瀬戸美濃系磁器皿	―	6.2	(2.4)	―	轆轤成形、コバルト、見込み菱形花弁文の型押、畳付無釉	1870 年代～
第 33 図 -46		瀬戸美濃系磁器皿	―	10.6	5.7	2.5	轆轤成形、鉄釉の掛け分け、蛇の目高台、畳付釉剥	―
第 33 図 -47		瀬戸美濃系陶器甕	―	―	(8.9)	―	紐作轆轤整形、外面鮫肌釉・腰部錆釉、内面灰釉	幕末～明治初年
第 33 図 -48		瀬戸美濃系陶器徳利	3.6	―	(9.0)	―	轆轤成形、灰釉	19 世紀前半
第 33 図 -49		瀬戸美濃系磁器燗徳利	―	6.6	(9.1)	―	轆轤成形、口縁部から肩部に銅緑釉の流掛、灰釉、内面無釉	幕末～明治初年
第 33 図 -50		伊賀系土鍋	20.6	8.6	8.8	―	轆轤成形、耳紐作り粘付、鉄釉、三足、内面に目痕、胴下半煤付着	19 世紀前半
第 33 図 -51		瀬戸美濃系陶器片口	16.6	―	(3.9)	―	轆轤成形、灰釉、釉は失透し侘茶色	18 世紀後半
第 34 図 -52		陶器土瓶	―	7.0	(1.9)	―	底部片、轆轤成形、底部は内外面無釉、外面に煤付着	幕末～明治初年
第 34 図 -53		信楽系陶器灯明皿	11.6	4.5	2.9	―	轆轤成形、灰釉、外面無釉、口唇部に若干煙煤付着	幕末～明治初年
第 34 図 -54		信楽系灯明受台	―	5.2	(4.9)	―	轆轤成形、灰釉、底部内外面無釉、皿受け部に若干煙煤付着	幕末～明治初年
第 34 図 -55		堺系擂鉢	33.0	―	(9.3)	―	摺り目は 10 本単位	18 世紀後半
第 34 図 -56		堺系擂鉢	―	―	―	―	体部片、摺り目あり	18 世紀後半
第 34 図 -57		益子系陶器擂鉢	―	10.1	(3.7)	―	轆轤成形、摺り目は 8 本単位、鉄釉、腰から高台内無柚、底裏釉剥、腰から高台にかけて赤色顔料付着	幕末～明治前半
第 34 図 -58		常滑系土管	(10.4)	(12.3)	―	―	紐づくり、外面自然釉、内面灰釉	19 世紀後半
第 34 図 -59		筒形陶器	10.4	―	(6.0)	―	器形不明、胎土やや軟質、口縁部外面に 22 本の条線、外面から内面口縁部まで銅緑色の釉、作り丁寧	―
第 34 図 -60		常滑焼甕	―	21.3	(5.5)	―	底部片、紐づくり、底部砂底、底部内面は摩耗により滑らか	19 世紀前半
第 34 図 -61		常滑焼甕	70.6	20.0	96.0	―	紐づくり、胴下半に環状痕跡、野壷、内面に尿石	19 世紀前半
第 34 図 -62		土製方形火鉢	21.8	21.3	9.7	―	型作り、内面ナデ著しい、外面刺突の後磨き、外面黒色仕上	幕末～明治
第 34 図 -63		ガラス製ハエ取器	3.2	14.2	(14.5)	―	3 か所に猫足	明治～大正
第 34 図 -64		ガラス小瓶	2.1	2.0	5.2	―	目薬瓶、底部に「A」	明治～大正

図版番号	出土遺構	種別・器種	口径・長さ	底径・幅	高さ・厚さ	重さ	技法・文様・備考	時期・型式
第 34 図 -65	土坑４	ガラス小瓶	1.6	1.6	2.8	―	目薬瓶、側面に「目ハエ (薬)」「西 (徳？)」	明治～大正
第 35 図 -66		土人形	3.5	3.0	1.3	―	型合わせ、天神？、底部から垂直に円錐形の穿孔	幕末～明治
第 35 図 -67		泥面子	2.8	2.3	0.8	―	芥子面、唐子？、面模	幕末～明治
第 35 図 -68		泥面子	2.8	2.3	0.6	―	芥子面、唐子？、面模	幕末～明治
第 35 図 -69		泥面子	2.8	2.1	0.7	―	芥子面、おかめ、面模	幕末～明治
第 35 図 -70		泥面子	2.6	2.2	1.0	―	芥子面、おかめ、面模型作り	幕末～明治
第 35 図 -71		泥面子	2.7	2.4	1.1	―	芥子面、外道、面模	幕末～明治
第 35 図 -72		泥面子	2.8	2.2	0.8	―	芥子面、弁財天？、面模	幕末～明治
第 35 図 -73		泥面子	2.2	(1.7)	0.5	―	芥子面、弁財天？、面模	幕末～明治
第 35 図 -74		泥面子	2.5	2.1	0.8	―	芥子面、烏天狗、面模	幕末～明治
第 35 図 -75		泥面子	2.4	2.0	0.8	―	芥子面、烏天狗、面模	幕末～明治
第 35 図 -76		泥面子	(2.4)	2.0	0.8	―	芥子面、鬼、面模	幕末～明治
第 35 図 -77		泥面子	2.0	1.7	0.8	―	芥子面、山伏、面模	幕末～明治
第 35 図 -78		軒桟瓦	―	(12.5)	1.8	―	左巻三巴＋珠文、珠文 8 個、瓦当内径 4.3 ㎝	幕末～明治
第 35 図 -79		軒桟瓦	―	7.4	(1.6)	―	左巻三巴＋珠文、珠文 8 個、接着面に櫛目状痕、瓦当内径 4.3 ㎝	幕末～明治
第 35 図 -80		軒桟瓦	―	―	1.8	―	左軒桟瓦の右端部、表・側面ヘラナデ仕上	幕末～明治
第 35 図 -81		平瓦	25.2	21.8	1.7	―	表・側面ナデ仕上、裏面ケズリ痕を残す、谷深 2.2 ㎝	幕末～明治
第 35 図 -82		丸瓦	26.5	14.1	2.1	―	内径 10.1 ㎝、高さ 6.0 ㎝、	幕末～明治
第 35 図 -83		桟瓦	(15.2)	(18.8)	1.6	―	表・側・裏面ナデ仕上、裏面はケズリ痕を残す	幕末～明治
第 35 図 -84		丸瓦	(10.4)	(8.0)	1.6	―	凸面はヘラナデ、凹面は布目・刺し子・棒状刺突痕、端部に漆喰付着	幕末～明治
第 35 図 -85		平瓦	(11.0)	(12.2)	1.7	―	裏面は太い条線 8 本・6 本、被熱により土師質	幕末～明治
第 35 図 -86		桟瓦	(10.9)	(10.0)	1.8	―	裏面に条線 14 本、表面ナデ・左右側面ナデ仕上、木口面未調整	幕末～明治
第 35 図 -87		桟瓦	(10.0)	(9.5)	1.6	―	裏面に条線 10 本	幕末～明治
第 35 図 -88		軒桟瓦	19.5	(9.9)	1.9	―	表･側面ナデ仕上、左巻三巴＋珠文、珠文 8 個、瓦当裏面に櫛目状痕残す、瓦当内径 4.4 ㎝	幕末～明治
第 35 図 -89		ジェラール瓦	(11.2)	(13.2)	1.3	―	左側上端部、表面・凸界線、凹型連結部、裏面・横帯部、製作者名「植」	明治 10 年～
第 35 図 -90		ジェラール瓦	(19.9)	(13.2)	1.1	―	右側下端部、表面・分流帯、凸型連結部、裏面・横帯部、製作者名「植松直正製」	明治 10 年～
第 35 図 -91		ジェラール瓦	―	―	1.3	―	右側上端部、表面･凸型連結部 (内高 3.3 ㎝)、裏面・横帯部	明治 10 年～
第 35 図 -92		ジェラール瓦	(13.5)	(10.5)	1.4	―	中央部、表面・分流帯、裏面・製作者名「植松直正製」(明治 10 年創建の工部大学校に同范あり)	明治 10 年～
第 35 図 -93		ジェラール瓦	(20.1)	(12.0)	1.4	―	右側下端部、表面・分流帯、凸型連結部 (内高 2.9 ㎝)、裏面・横帯部	明治 10 年～
第 35 図 -94		ジェラール瓦	(13.5)	(10.6)	1.4	―	中央部､表面･分流帯､裏面･製作者名「〇直正製」	明治 10 年～
第 35 図 -95		ジェラール瓦	(17.0)	(10.8)	1.3	―	中央部、表面･分流帯、凸界線、裏面･横帯部、製作者名「植松〇」	明治 10 年～
第 35 図 -96		ジェラール瓦	(10.7)	(9.0)	1.3	―	中央部、表面・分流帯、裏面・製作者名「植松直正製」	明治 10 年～
第 35 図 -97		瓦転用砥石	5.3	5.2	1.9	―	軒桟瓦片を転用	幕末～明治
第 35 図 -98		瓦転用砥石	6.4	5.2	1.6	―	平瓦の転用カ	幕末～明治
第 35 図 -99		銅銭	2.7	―	―	―	文久永宝、波銭、初鋳年	幕末～明治
第 35 図 -100		鉄銭	2.8	―	―	―	寛永通宝カ	1765 年～
第 35 図 -101		銅貨	2.2	―	―	―	半銭	明治 10 年

Ⅵ　川崎遺跡第 53 地点

（1）調査の概要

調査は分譲住宅建設に伴うもので、原因者より 2019 年 8 月 27 日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の西部に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため 2019 年 11 月 5・6 日に試掘調査を実施した。

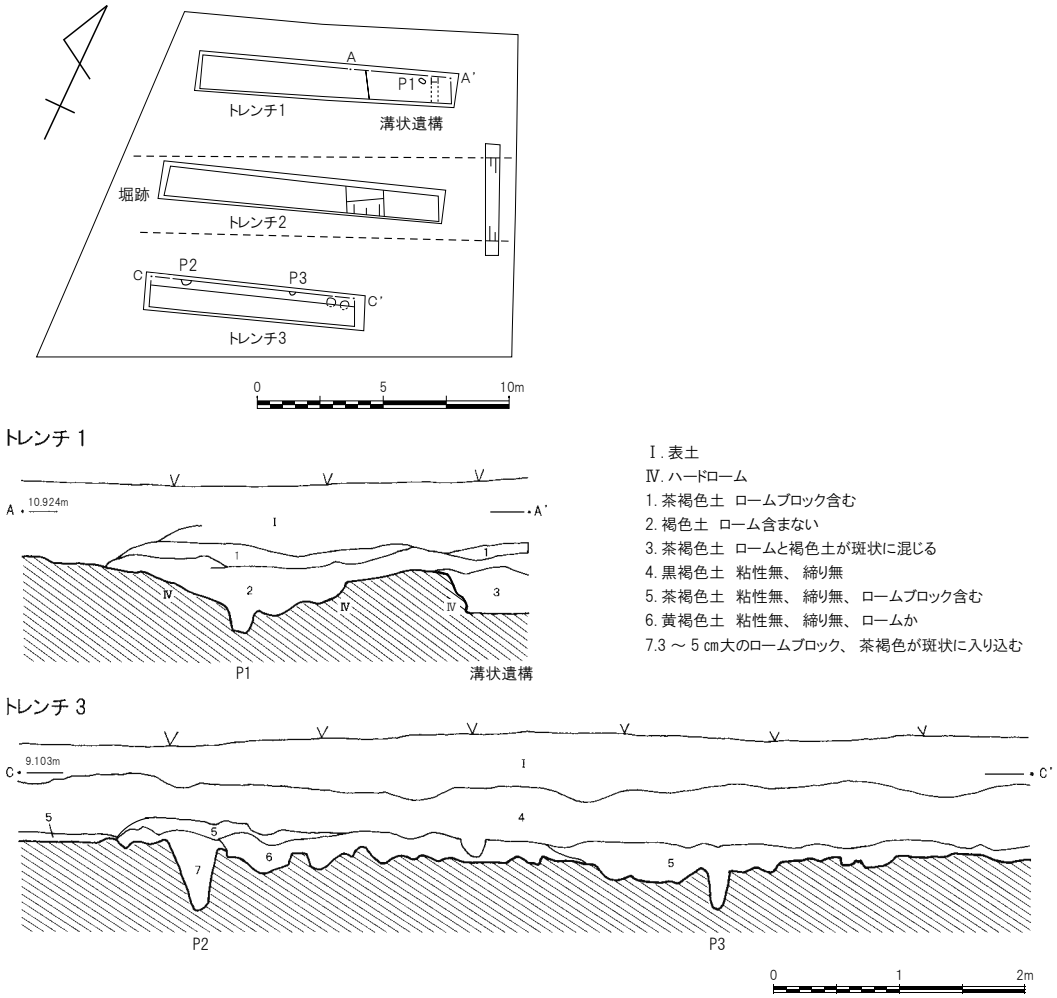
試掘調査は幅 1.5m のトレンチ 3 本を設定し、重機による表土除去後人力による表面精査を行った。現地表面から地山ローム層までの深さは約 70 ～ 90 ㎝である。

調査の結果、中世以降と考えられる堀跡 1 本を検出した。保護層の確保が可能なため、写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえで埋戻し、調査を終了した。

（2）遺構と遺物

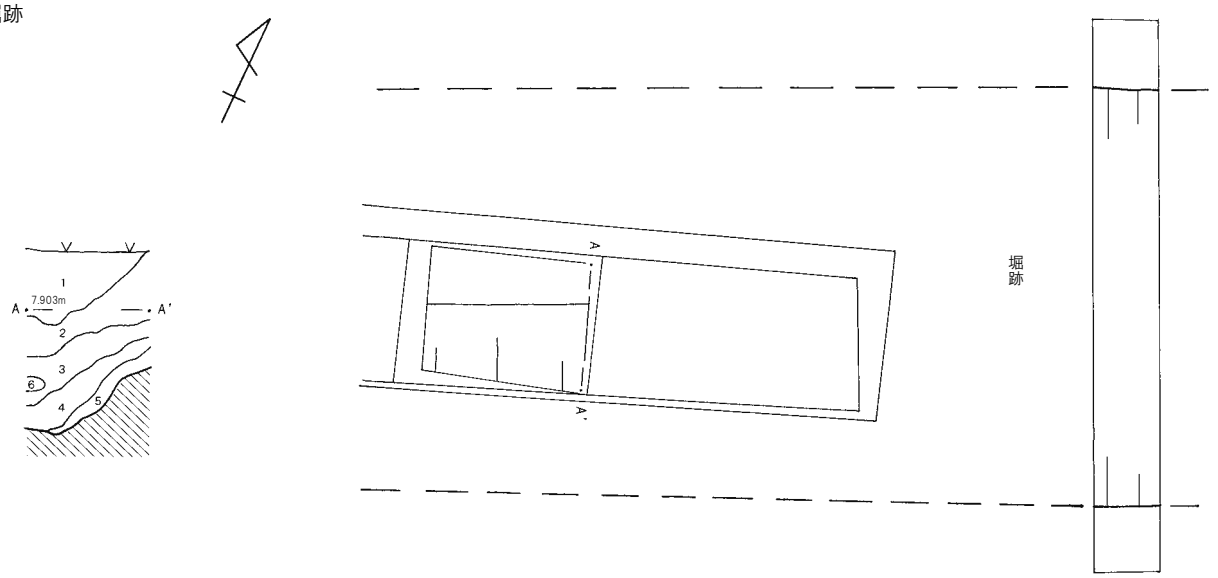
①堀跡

堀跡は調査区中央部のトレンチ 2 で検出した。東西方向に走行し、両端とも調査区外へ延伸する。保護層の確保が可能であるため全容は不明であるが、断面形態が薬研を呈する堀であったと考えられる。確認された遺構の規模は、上幅 330 ㎝、深さ 142 ㎝を測る。覆土の土壌分析については、附編に記載した。



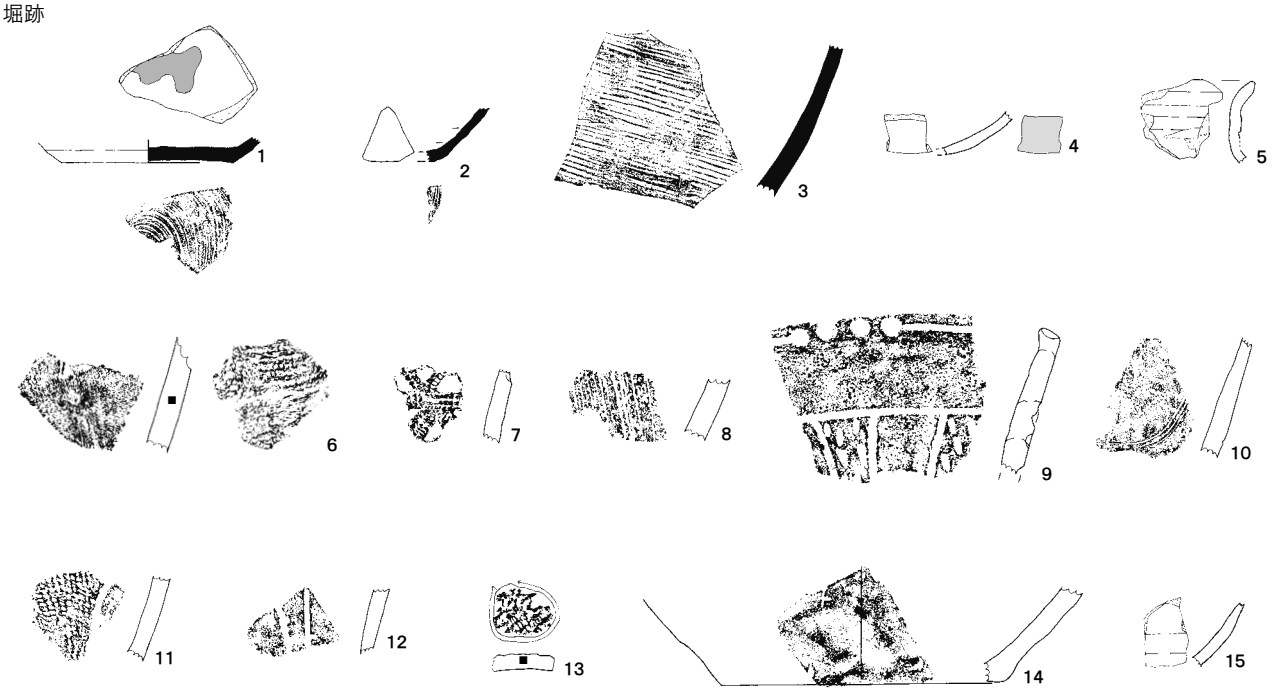
第 37 図　川崎遺跡第 53 地点遺構配置図 (1/300)、土層 (1/60)

堀跡

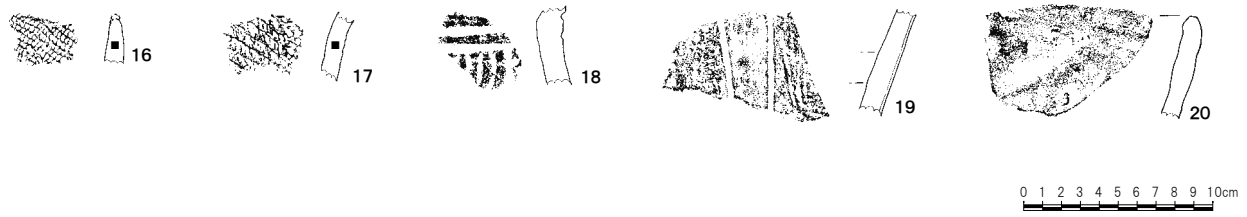


1. 茶褐色土　2 層とほとんど変化ない
2. 茶褐色土　ロームブロック含む
3. 暗茶褐色土
4. 黒褐色土　小石、 礫、 土器を含む、 特に床面際での出土が多い
5. 黒褐色土　ローム小粒子含む、 側壁からの流れ込みか
6. 茶褐色土　ローム粒ブロック塊含む

堀跡



遺構外



第 38 図　川崎遺跡第 53 地点堀跡 (1/60)、出土遺物 (1/4)

②出土遺物

遺物は堀跡の覆土中並びに遺構外からの出土である。堀跡出土遺物は縄文土器から陶器片まで時期幅広く確認されており、堀の使用時期を決定するものではない。詳細については第 38 図及び第 21 表に掲載した。

第 21 表　川崎遺跡第 53 地点出土遺物観察表 (単位 cm・g)

図版番号	出土遺構	種別・器種	技法・文様・備考	時期・型式
第 38 図 -1	堀跡	須恵器・坏	轆轤成形、回転糸切り未調整・底径：9.0 ㎝、色調：5YR 6/6 橙色、内面に煤付着	9 世紀代
第 38 図 -2		須恵器・坏	轆轤成形・回転糸切り未調整・色調：10YR 6/4 にぶい黄橙色、焼成不良	9 世紀代
第 38 図 -3		須恵器・甕	外面：平行タタキ、内面：ナデ、色調：7.5Y 5/1 灰色、胎土に白色粒子を含む	9 世紀代
第 38 図 -4		土師器・坏	外面：ヘラケズリ、内面：ナデ、内面に赤彩、外面にも赤彩の痕跡有、胎土に白色粒子を含む	古代
第 38 図 -5		土師器・甕	頸部破片、内外面ナデ、胎土に黒色粒子を多く含む	8 世紀後半～9 世紀
第 38 図 -6		縄文・深鉢	胴部破片、内外面貝殻条痕文・胎土に繊維、白色粒子を含む	早期・茅山式期
第 38 図 -7		縄文・深鉢	胴部破片、半截竹管状工具による角押文・内面ハジケ、胎土に白色粒子を含む	中期初頭
第 38 図 -8		縄文・深鉢	胴部破片、地文条線文・内面ハジケ、胎土に白色粒子を多く含む	中期
第 38 図 -9		縄文・深鉢	口縁部破片、沈線による施文、縦位沈線間に列点文、口唇部に沈線と 4 つの円形刺突・内外面とも帯水による影響を受ける、胎土にチャート等砂礫を多く含む	後期・称名寺 II 式期
第 38 図 -10		縄文・深鉢	胴部破片、集合沈線による施文・内面僅かにハジケ、胎土にチャート等砂礫を多く含む	後期・称名寺式期
第 38 図 -11		縄文・深鉢	胴部破片、地文 RL 縄文、沈線間磨消・内面僅かにハジケ、胎土に砂礫を多く含む	後期
第 38 図 -12		縄文・深鉢	胴部破片、2 本の縦位沈線・内面ハジケ、胎土に白色粒子、砂礫を多く含む	後期
第 38 図 -13		縄文・土製円盤	Rl、Lr 羽状・側面 2/3 を加工、胎土に繊維を含む	―
第 38 図 -14		土器・鉢	底部～胴部破片、推定底径：15.0 ㎝、内外面共に摩耗が激しい、胎土に長石等 5 ～ 7 ㎜大の礫を多く含む	中世以降
第 38 図 -15		陶器・碗	轆轤成形、透明釉・瀬戸・美濃産	近世以降
第 38 図 -16	遺構外	縄文・深鉢	地文 RL 縄文、波状口縁・内外面共に黒色化、胎土に繊維と白色粒子を含む	前期・関山期
第 38 図 -17		縄文・深鉢	胴部破片、地文 RL 縄文、末端環付か・断面黒色化、胎土に繊維と白色粒子を含む	前期・黒浜期
第 38 図 -18		縄文・深鉢	胴部破片、2 本の横位沈線下に複数の縦位沈線・内外面の摩耗が激しい、内面ハジケ、胎土に砂礫を多く含む	中期
第 38 図 -19		縄文・深鉢	胴部破片、2 本の縦位沈線・胎土に白色粒子を含む	中期
第 38 図 -20		土器・鉢	こね鉢口縁部、轆轤成形・内外面共に摩耗が激しい、胎土に長石等 2 ～ 4 ㎜の砂礫を多く含む	中世以降

Ⅶ　川崎遺跡第 54 地点

（１）調査の概要

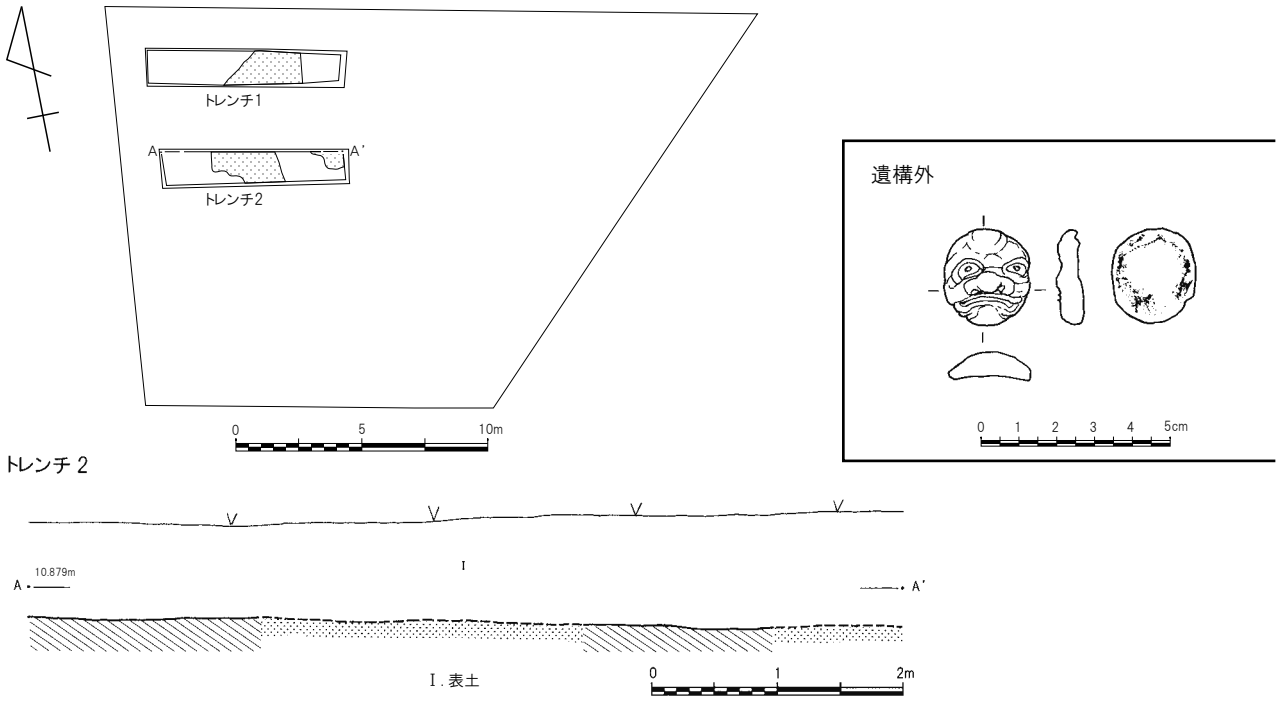
調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者より 2020 年 1 月 15 日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の南部に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため 2020 年 2 月 20・21 日に試掘調査を実施した。

試掘調査は幅約 1.5m のトレンチ 2 本を設定し、重機による表土除去後人力による表面精査を行った。現地表面から地山ローム層までの深さは 40 ～ 50 ㎝である。

調査の結果、遺構は確認されなかったため、写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえで埋戻し、調査を終了した。

（２）遺構と遺物

表土中より出土した泥面子は、芥子面で達磨をモチーフとする。長さ 3.5 ㎝、幅 2.3 ㎝、厚さ 0.6 ㎝を測る。裏面には指頭痕が残る。19 世紀後半以降。



第 39 図　川崎遺跡第 54 地点調査区域図 (1/300)、土層 (1/60)、出土遺物 (1/2)

Ⅷ　川崎遺跡第 55 地点

（1）調査の概要

調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者より 2020 年 3 月 5 日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の中央部に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため 2020 年 3 月 16・17 日に試掘調査を実施した。

試掘調査は幅 1.5m のトレンチ 2 本を設定し、重機による表土除去後人力による表面精査を行った。現地表面から地山ローム層までの深さは約 80 ～ 90 ㎝である。

調査の結果、溝 2 条を検出したが、保護層の確保が可能なため、写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえで埋戻し、調査を終了した。

（2）遺構と遺物

①溝

【溝 1】トレンチ 1 で確認した。トレンチ 2 では検出されなかったため､おおよそ N-30 ～ 35°-E を指向し、両端とも調査区外へ延伸する。断面形態が U 字状を呈し、上幅推定 140 ～ 145 ㎝、下幅 40 ～ 43 ㎝、深さ 65.9 ㎝を測る。土層の観察から近世以降の溝であると考えられる。また、底面にピット 1 基が確認された。幅が狭いため、完掘は出来ていない。平面形態は不正円形を呈し、確認面径 54 × 53 ㎝、深さ 66 ㎝以上を測る。土層の観察から、溝の埋没と同時期であることがわかる。

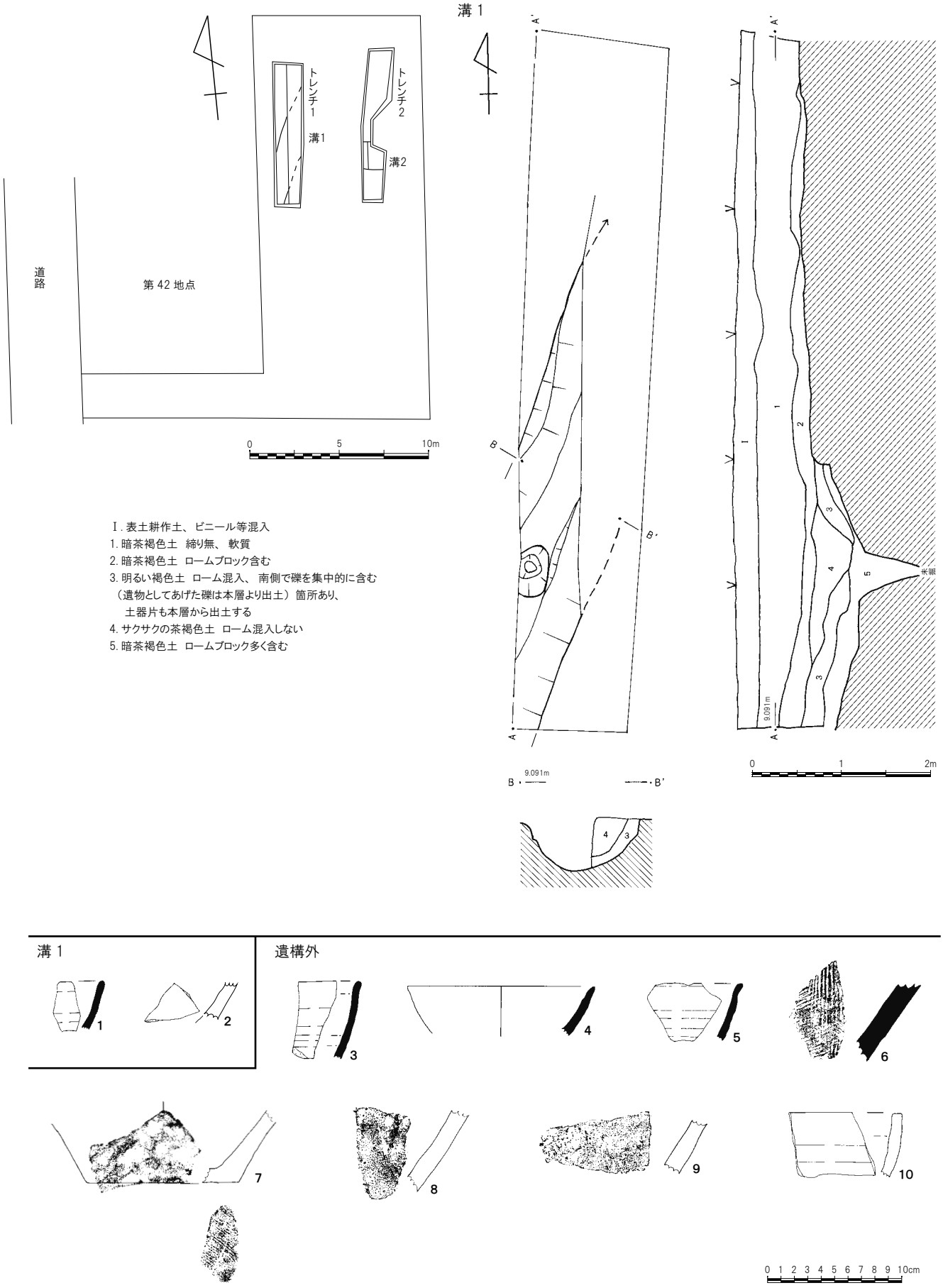
【溝 2】トレンチ 2 で検出した。ほぼ東西方向に走行し、調査区外へ延伸する。土層の観察から溝 1 より古いものと考えられる。保護層の確保が可能であるため、完掘はしていない。

②出土遺物

溝 1 から須恵器片 2 点が出土しているが、溝の時期を決定付けるものではない。他はすべて遺構外からの出土である。詳細については第 40 図及び第 22 表に掲載した。

第 22 表　川崎遺跡第 55 地点出土遺物観察表 (単位 cm・g)

図版番号	出土遺構	種別・器種	技法・文様・備考	時期・型式
第 40 図 -1	溝 1	須恵器・坏	轆轤成形・色調：5Y 5/1 灰色、僅かに白色針状物質を含む、南比企産	8 世紀以降
第 40 図 -2		陶器・甕？	轆轤成形・甕胴部片か	中近世以降
第 40 図 -3	遺構外	須恵器・坏	轆轤成形・色調：2.5Y 7/2 灰黄色、胎土に砂礫を多く含む	8 世紀後半以降
第 40 図 -4		須恵器・坏	轆轤成形･復元口径：14.0 ㎝、色調：2.5Y 6/1 黄灰色、白色針状物質を含む、南比企産	8 世紀後半以降
第 40 図 -5		須恵器・坏	轆轤成形・色調：2.5Y 6/2 灰黄色、白色針状物質を含む、南比企産	8 世紀後半以降
第 40 図 -6		須恵器・甕	轆轤成形、外面平行タタキ / 色調：2.5Y 6/1 黄灰色、胎土に白色粒子を含む	—
第 40 図 -7		陶器・甕	底部、軟質陶器、輪積み成形・復元底径：11.4 ㎝、残存高：4.6 ㎝、胎土に長石や石英等の砂礫を多く含む	中近世以降
第 40 図 -8		陶器・甕	常滑焼甕胴部、輪積み成形・胎土に 2 ～ 5 ㎜大の礫を含む	中近世以降
第 40 図 -9		陶器・甕	常滑焼甕胴部、輪積み成形・胎土に 2 ～ 5 ㎜大の礫を多量に含む	中近世以降
第 40 図 -10		土器・焙烙	轆轤成形・外面に煤付着	中世以降



第 40 図　川崎遺跡第 55 地点遺構配置図 (1/300)、溝 (1/60)、出土遺物 (1/4)

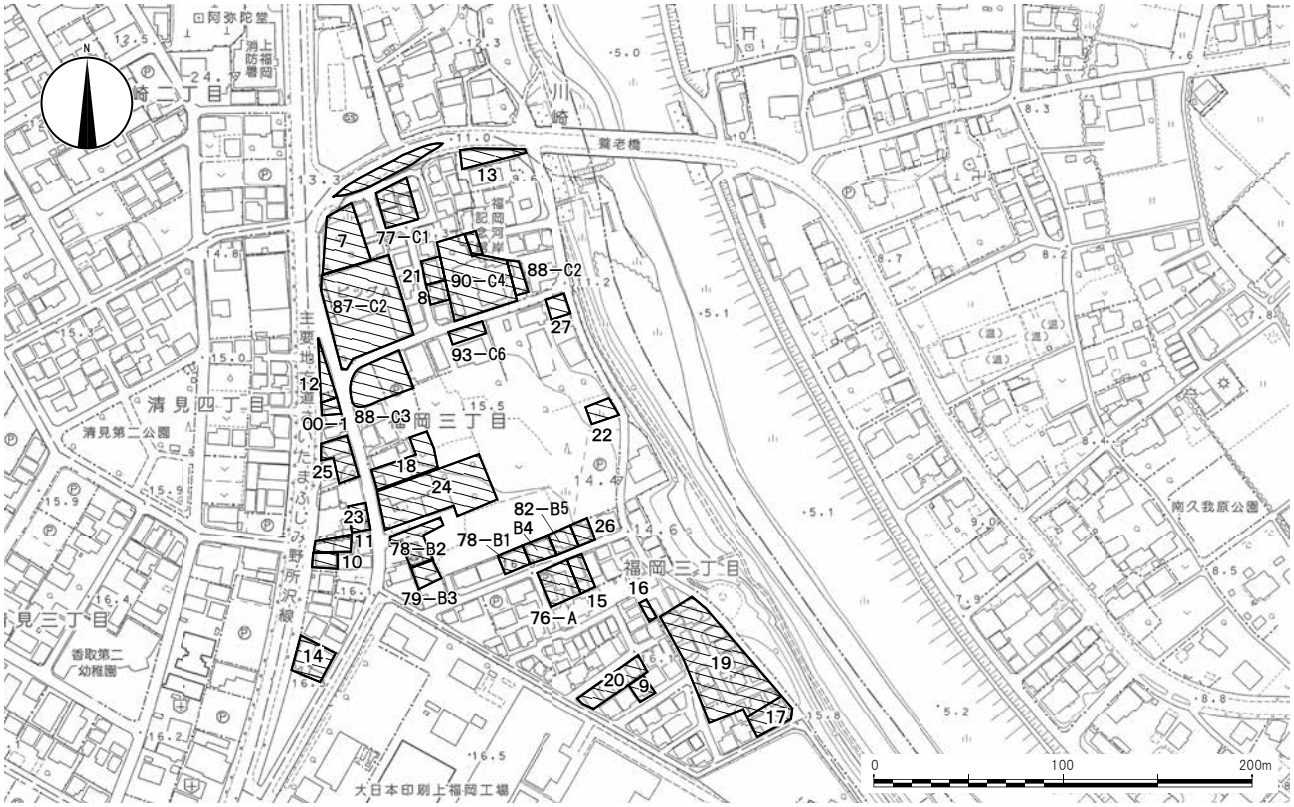
第 4 章　ハケ遺跡の調査

Ⅰ　遺跡の立地と環境

ハケ遺跡は、武蔵野台地の北東端、荒川低地に舌状に突き出た武蔵野段丘面のいわゆる川崎台の東側付け根に立地している。遺跡の東側を新河岸川が台地東縁をなめるように流れ、東方は新河岸川に臨む急峻な崖が形成されている。遺跡の北側は落差 2 m程度のゆるい斜面を形成し、小支谷が入る。標高は 14 ～ 16 mで、遺跡の範囲は南北 360 m、東西 160 m以上ある。宅地開発される遺跡中央に畑が残る。

周辺の遺跡は、舌状台地の北側に旧石器、縄文、古墳～奈良・平安時代、中近世の川崎遺跡が隣接し、台地続きの南東側に縄文時代前期、中期、晩期、古墳時代の著名な上福岡貝塚、権現山遺跡がある。

1976 年以降、宅地開発等に伴う緊急調査が増加し、2020 年 4 月現在 33 ヶ所で調査が行われている。主たる時代と遺構は縄文時代前期から後期の住居跡、古墳時代から奈良・平安時代の住居跡・掘立柱建物跡、近世鍛冶遺構 (旧福田屋跡) と、2014 年に第 16 地点の発掘調査で、古墳の周溝から 6 世紀の人物埴輪と円筒埴輪多数が出土し、2015 年の第 19 地点でも 新たに 3 基の円墳を検出した。本遺跡は便宜上東西に走る道路によって南側からハケ遺跡Ａ、ハケ遺跡Ｂ、ハケ遺跡Ｃと呼称していたが、現在はハケ遺跡に統一している。



第 41 図　ハケ遺跡の地形と調査区 (1/4,000)

第 23 表　ハケ遺跡調査一覧表

地区 地点	所在地	調査期間 ( ) は試掘調査	開発面積 (㎡)	調査面積 ( ) は試掘	調査原因	確認された遺構と遺物	備考	所収報告書
76-A	大字中福岡字遠見 1228 ～ 2021	1976.9.11 ～ 16	306		個人住宅	古墳時代住居跡 1、竪穴状遺構、土師器 等	A-1 次	上遺調、市史資
77-C1	大字中福岡字清見 1480	1977.8.2 ～ 27	1,794		宅地造成	縄文時代住居跡 5、古代住居跡 2、竪穴状遺構、炉跡、土坑、墨書土器 等	C-1 次	ハケ C、市史資
78-B1	中福岡 1228-40	1978.8.28 ～ 9.10	165		個人住宅	遺構なし、縄文土器	B-1 次	上埋Ⅰ、市史資
78-B2	中福岡 1181-2	1978.9.11 ～ 25	360		貸家	炉跡、土坑、縄文土器	B-2 次	上埋Ⅰ、市史資
79-B3	中福岡 1228-37	1979.7.20 ～ 31	166			土坑、縄文土器	B-3 次	上埋Ⅱ、市史資
82-B5	大字中福岡字遠見 1228-46	1982.5.10 ～ 17	165			溝、縄文土器	B-5 次	上埋Ⅴ
87-C2	福岡 3-2068-1・2	1987.4.16 ～ 5.29	1,900		倉庫付住宅 改築	縄文時代住居跡 11、古代住居跡 4、古代掘立柱建物跡 1、土坑、縄文土器、土師器 等	C-2 次	上埋Ⅹ、市史資
88-C3	福岡 2-2-1	1988.8.15 ～ 20	627		駐車場	縄文時代住居跡 4、古代住居跡 2、縄文土器 等	C-3 次	上埋 11、市史資
88-C2	福岡 3-4-2	1988.10.24 ～ 28	60		擁壁改修	縄文時代住居跡 2	C- 試	上埋 11、市史資
90-C4	福岡 3-2069-1 の一部 (旧福田屋敷地内)	1990.6.20 ～ 9.6 H3.1 月末	500		河岸記念館 管理棟・ 庭造成	旧福田屋柱礎石跡、鍛冶屋建物跡、(礎石・火処・物置跡・粘土遺構)、縄文時代住居跡 8、古代住居跡 3、土坑、溝、縄文土器、土師器 等	C-4 次	H2 上社、市史資、上埋 17
		1994.6.10 ～ 1.31	54					
93-C6	福岡 3-1189、2065-2	1993.5.6 ～ 18	141.91		個人住宅	土坑、縄文土器	C-6 次	上埋 16
00-1	福岡 3-1184-8	2000.1.26	100		個人住宅	遺構遺物なし	C- 試 (2)	上埋 22
7	福岡 3-2	(2006.7.10 ～ 22)	666	(130)	宅地造成	縄文時代住居跡 3、古代住居跡 4、集石土坑、土坑、溝、井戸、縄文土器、須恵器 等	C-7 次	市内 3・13
	福岡 3-1479-1	(2013.8.10・11) 2013.8.21 ～ 11.11	712.35	(34.7) 520	分譲住宅			
8	福岡 3-2069-9	(2009.3.17)	99	(11)	個人住宅	縄文時代住居跡 1、溝、縄文土器 等	C-8 次	市内 6
9	福岡 3-1257-7、 1259-1	(2010.2.2 ～ 4)	120	(30)	個人住宅	土坑、縄文土器	C-9 次	市内 8
10	福岡 3-1363-14	(2011.4.22)	122.1	(37)	個人住宅	溝、遺物なし		市内 14
11	福岡 3-1363-11	(2011.4.21・22)	157.7	(30)	分譲住宅	屋外埋甕、縄文土器		市内 14
12	福岡 3-1472-1	(2012.9.24)	122	(22)	分譲住宅	ピット、縄文土器 等		市内 15
13	福岡 3-1484-1	(2013.10.3)	183	(2.5)	個人住宅	遺構遺物なし		市内 18
14	福岡 3-1363-15	(2013.11.22)	144	(15.5)	個人住宅	遺構遺物なし		市内 18
15	福岡 3-1228-19	(2014.4.8・9)	184.09	(64.7)	分譲住宅	土坑、縄文土器片		市内 20
16	福岡 3-1254-7・14・ 17	(2014.8.11 ～ 9.2) 2014.9.3 ～ 9	68	(26.25) 19.36	分譲住宅	古墳 1、人物・円筒埴輪、縄文土器 等		市内 20・21
17	福岡 3-1219-1・2	(2014.9.26 ～ 30)	98.58	(50.4)	分譲住宅	溝、縄文土器 等		市内 20
18	福岡 3-1182、2066-5	(2014.12.4 ～ 10) 2015.1.6 ～ 16	510.67	(107.85) 64	分譲住宅	縄文時代住居跡 1、土坑、溝、縄文土器		市内 16・20
19	福岡 3-1222-1、1223 ～ 1225、1255	(2015.4.2 ～ 5.11・ 10.13) 2015.6.2 ～ 9.19	2,296	(572.6) 885	宅地造成	古墳 3、礎石建物跡 1、溝、ピット、象形・円筒埴輪、縄文土器 等		市内 21・22
20	福岡 3-1252-1	(2015.10.14 ～ 16) 2015.10.29・30	375	(90.4) 33	分譲住宅	堀跡、土坑、火工廠境界杭、ピット、土師器		市内 21
21	福岡 3-1193-4・15、 2069-10	(2016.1.5)	101	(20.2)	個人住宅	遺構遺物なし		市内 22
22	福岡 3-2061-3 の一部	(2016.12.26 ～ 2017.1.19・9.11) 2017.1.25 ～ 2.8	249.32	(116.65) 40.5	はけ自治会 集会施設	古代住居跡 1、土坑、ピット、縄文土器 等		市内 24
23	福岡 3-1183-1 の一部	(2017.7.18)	137	(14.27)	個人住宅	ピット、縄文土器		市内 24
24	福岡 3-1178-1、 1179-1、1180-1、 1181-1、2066-2、 2067	(2017.7.19 ～ 27) 2017.7.28 ～ 8.7	1,702.15	(446) 63.75	宅地造成	縄文時代住居跡 1、竪穴遺構、土坑、集石土坑、ピット、縄文土器 等		市内 23
25	福岡 3-1184-5・6	(2018.6.12)	297	(68.27)	分譲住宅	遺構遺物なし		市内 25
26	福岡 3-1228-48	(2019.6.25・26)	135	(41.13)	分譲住宅	土坑、溝、須恵器、墨書土器、紡錘車		市内 25
27	福岡 3-2061-2	(2020.3.25 ～ 27)	226.22	(61.8)	共同住宅	遺構なし、縄文土器 等		市内 25

第 42 図　ハケ遺跡遺構分布図 (1/1,500)

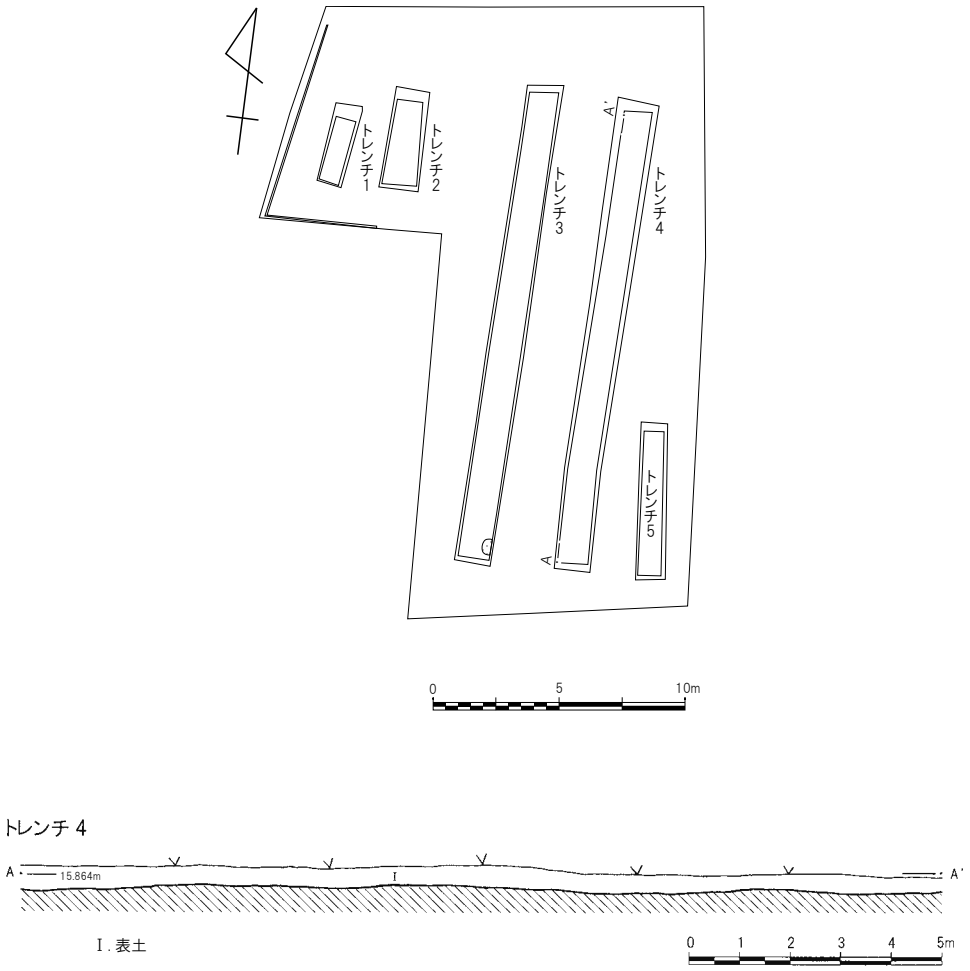
Ⅱ　ハケ遺跡第 25 地点

（1）調査の概要

調査は分譲住宅建設に伴うもので、原因者より 2018 年 5 月 29 日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の西部に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため 2018 年 6 月 12 日に試掘調査を実施した。

試掘調査は幅 1 ～ 1.5m のトレンチ 5 本を設定し、重機による表土除去後人力による表面精査を行った。現地表面から地山ローム層までの深さは約 25 ～ 50 ㎝である。

調査の結果、遺構・遺物は確認されなかったため、写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえで埋戻し、調査を終了した。



第 43 図　ハケ遺跡第 25 地点調査区域図 (1/300)、土層 (1/150)

Ⅲ　ハケ遺跡第 26 地点

（1）調査の概要

調査は分譲住宅建設に伴うもので、原因者より 2019 年 5 月 27 日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の中央部やや南寄りに位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため 2019 年 6 月 25・26 日に試掘調査を実施した。

試掘調査は幅約 1.5m のトレンチ 3 本を設定し、重機による表土除去後人力による表面精査を行った。現地表面から地山ローム層までの深さは約 40 ～ 50 ㎝である。

調査の結果、溝 1 条と土坑 3 基を検出した。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえで埋戻し、調査を終了した。

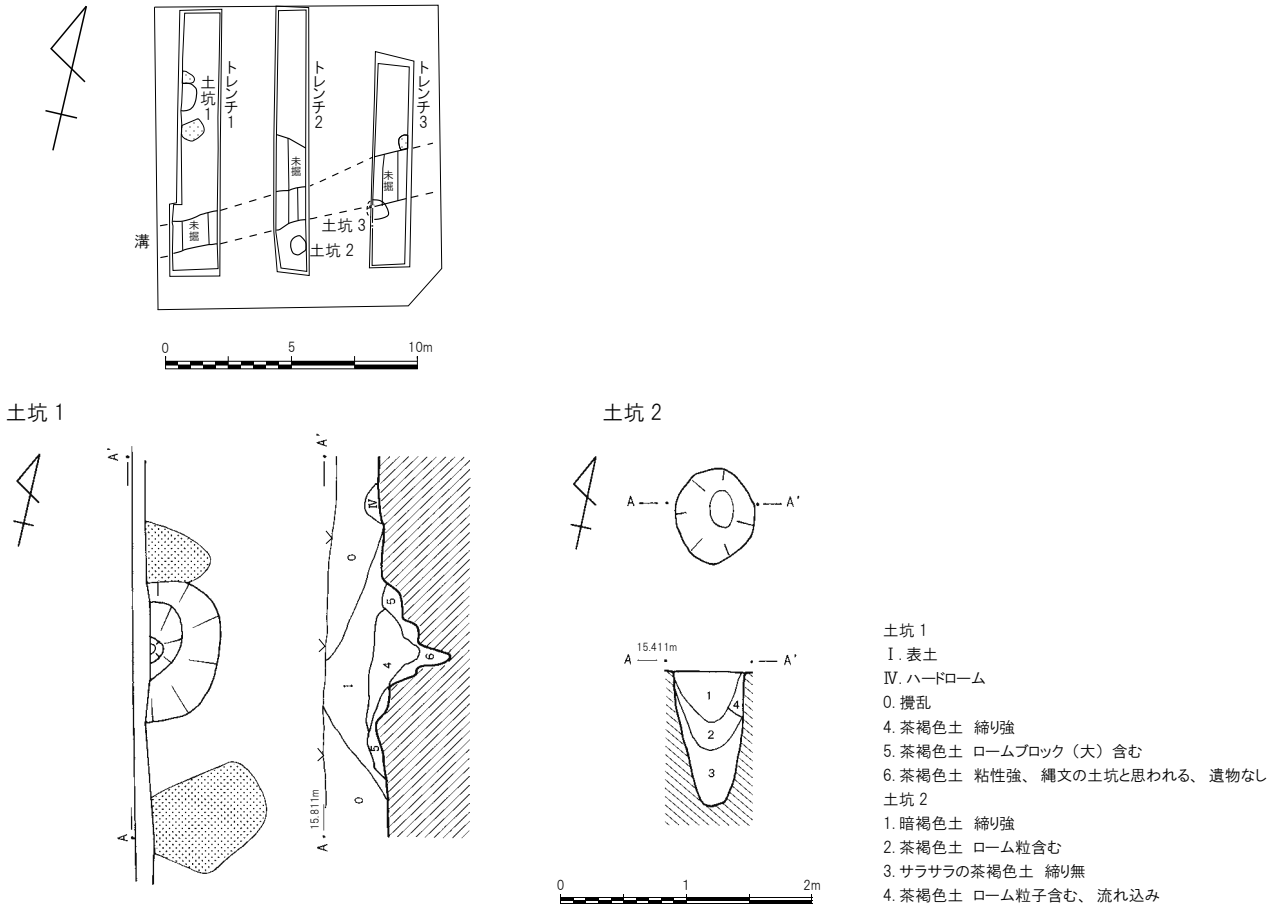
（2）遺構と遺物

①土坑

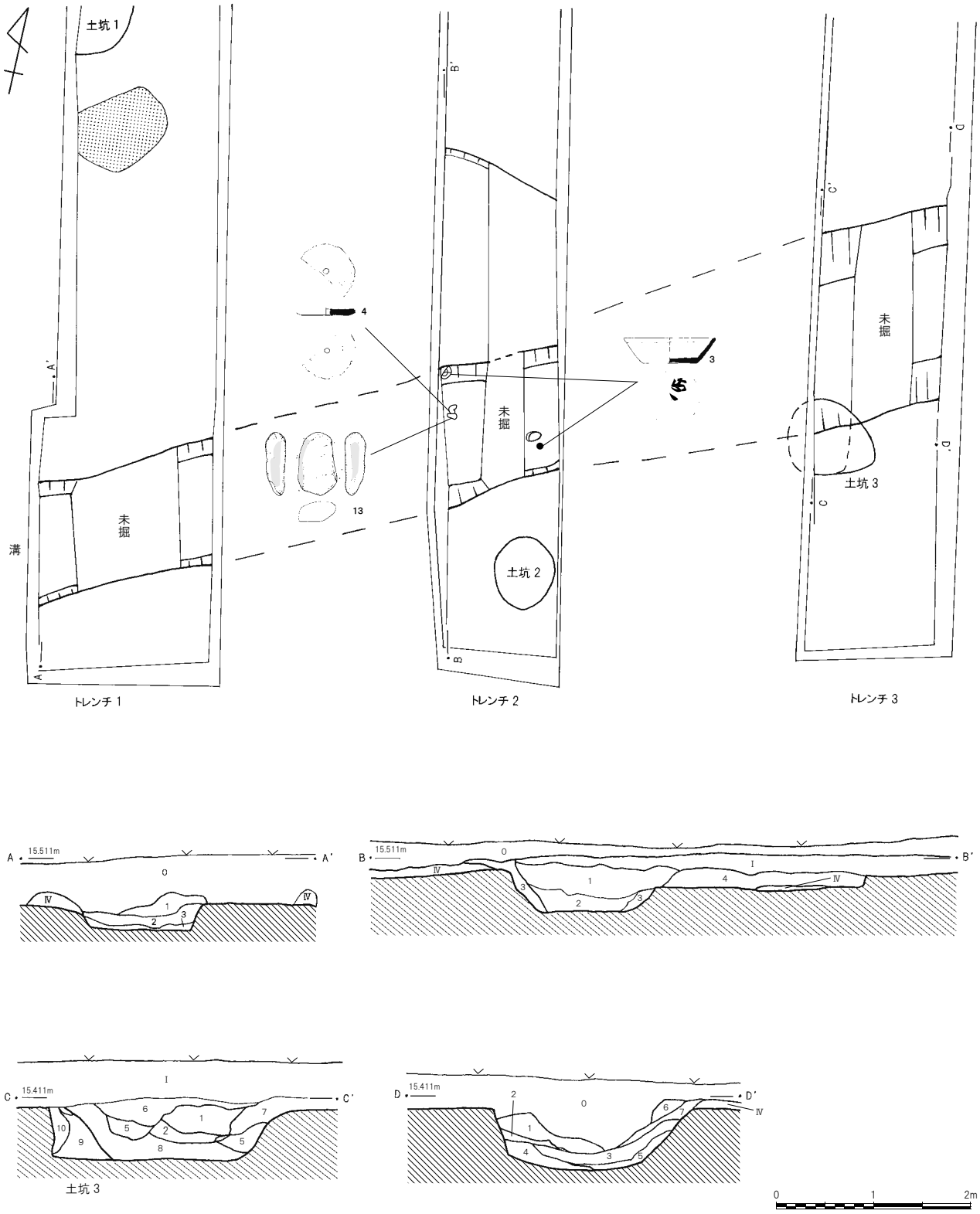
【土坑 1】　土坑 1 は調査区北西部で確認した。平面形態は不明である。遺構の規模は確認面径 110 × (56) ㎝、底径 7 × (4) ㎝、深さ 55.6 ㎝を測る。遺物はないが、土層の観察から縄文時代のものと推定される。

【土坑 2】　調査区南部、トレンチ 2 内で検出した。平面形態は円形を呈し、確認面径 76 × 63 ㎝、深さ 115.4 ㎝を測る。出土遺物はないが、土層の観察から縄文時代のものと推定される。

【土坑 3】　調査区南東部、トレンチ 3 で検出した。溝に切られているため、平面形態は不明。土層より確認面の深さが 50 ㎝を測る。出土遺物はないが、土層の観察から縄文時代のものと推定される。



第 44 図　ハケ遺跡第 26 地点遺構配置図 (1/300)、土坑 (1/60)



A-A'
Ⅳ. ハードローム
0. 攪乱
1. 黒色土　締り有
2. 暗褐色土　締り有
3. 黒色土　締り強、ロームブロック混じる

B-B'
Ⅰ. 表土
Ⅳ. ハードローム
0. 攪乱
1. 黒褐色土
2. 黒色土ベースでローム粒入る
3. ローム粒混じる
4. 黒色土　ローム粒・ブロック混入

C-C'・D-D'
Ⅰ. 表土
Ⅳ. ハードローム
0. 攪乱
1. 黒褐色と灰褐色の混土層　締り有
2. 暗黒色土　ローム小ブロック含む
3.2 層より暗い黒色土
4. 黒褐色土　締り強
5. ローム小ブロックの流れ込み
6. 暗褐色土　ローム小ブロック多量に含む
7. 褐色土　6 層よりロームブロック含まない
8. 滞水のような粘土質を含む
9. 暗褐色土　締り強
10. 茶褐色土　ローム粒が混入する

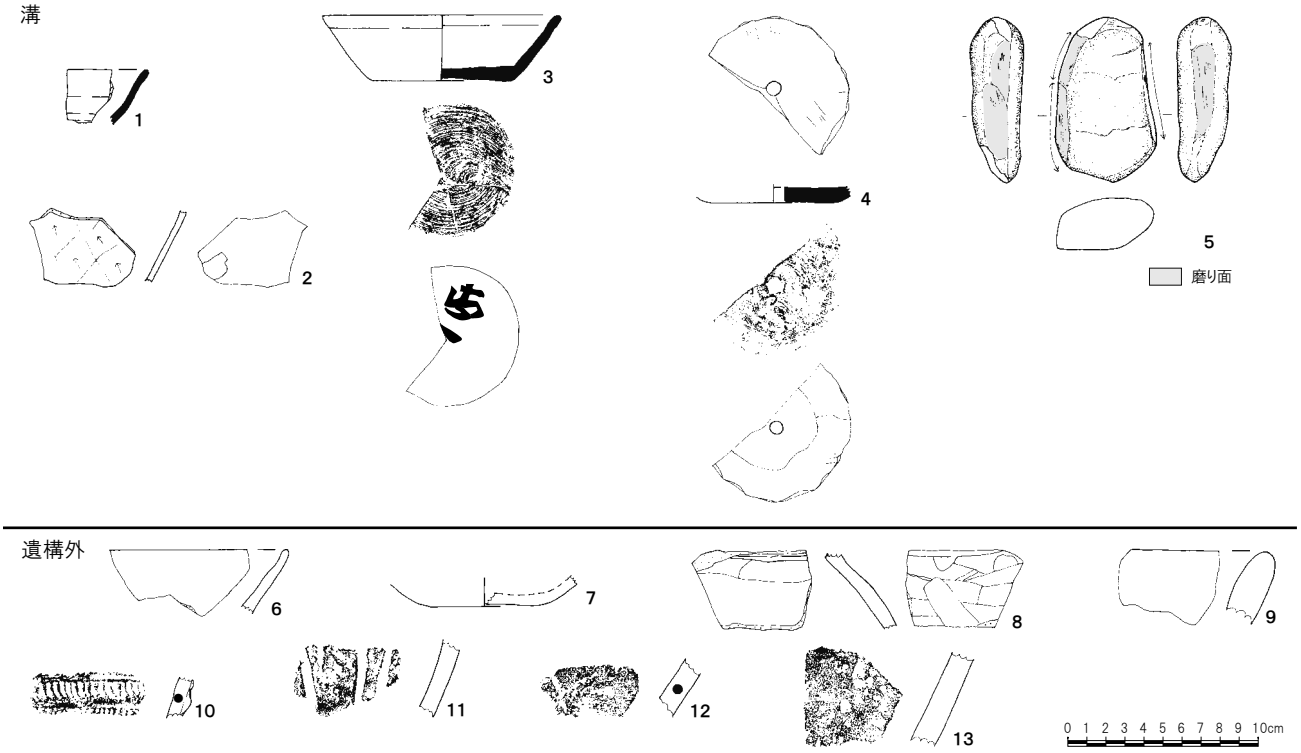
第 45 図　ハケ遺跡第 26 地点溝 (1/60)

②溝

調査区南側に位置する。N-63°-E を指向し、両端は調査区外へ延伸する。遺構の規模は上幅 116 ～ 203 ㎝、下幅 95 ～ 117 ㎝、深さ 63.2 ㎝を測る。土層の最下層の一部に滞水由来と考えられる粘土質の土が認められることから、排水等の機能を有していた時期があった可能性が考えられる。

③出土遺物

溝の覆土中より須恵器坏や須恵器転用紡錘車等が出土したが、溝の時期を決定するものではない。詳細については第 46 図及び第 24 表に掲載した。



第 46 図　ハケ遺跡第 26 地点出土遺物 (1/4)

第 24 表　ハケ遺跡第 26 地点出土遺物観察表 (単位 cm・g)

図版番号	出土遺構	種別・器種	技法・文様・備考	時期・型式
第 46 図 -1	溝	須恵器・坏	口縁部、轆轤成形・胎土に白色針状物質を含む、南比企産、色調：5Y 6/1 灰色	古代
第 46 図 -2		須恵器・坏	轆轤成形、底部回転糸切り未調整・口径（12.6）㎝、底径（7.2）㎝、器高 3.5 ㎝、口唇部に煤付着の痕跡有、胎土に僅かに白色針状物質を含む、底部に墨書「馬」か、色調：5Y 6/1　灰色	9 世紀
第 46 図 -3		土師器・甕	胴部破片、外面ヘラケズリ、内面ナデ・外面黒色化、胎土に細かい白色粒子を含む	7 世紀後半～8 世紀
第 46 図 -4		須恵器・転用紡錘車	底部 1/2 残存、轆轤成形、底部回転糸切り後回転ヘラケズリ・周辺を丁寧に打ち欠いた後に中央に径 7 ㎜の孔を開ける、胎土に僅かに白色針状物質を含む、色調：5Y 6/2　灰オリーブ色	8 世紀中～
第 46 図 -5		石器・磨り石	長さ：8.7 ㎝、幅：5.4 ㎝、厚さ：2.7 ㎝、重量：176.07g、石材：粘板岩	縄文
第 46 図 -6	遺構外	土師器・高坏	口縁部、ヘラケズリ後ナデ・外面黒色化、胎土に黒色粒子を多く含む	古墳時代後半
第 46 図 -7		土師器・壷？	底部、外面ヘラケズリ・底径（5.0）㎝、内面が剥離しているが赤彩の痕跡有	古墳～古代
第 46 図 -8		土師器・壷	肩部・内外面ナデ・胎土に細かい雲母を含む	古代
第 46 図 -9		縄文・深鉢	口縁部・無文・外面赤化、胎土に砂礫を多く含む	中期
第 46 図 -10		縄文・深鉢	胴部、横位角押文・胎土に金雲母を含む	中期・阿玉台
第 46 図 -11		縄文・深鉢	胴部、竹管状工具による 2 本の縦位沈線・胎土に黒色粒子を含む	中期
第 46 図 -12		縄文・深鉢	胴部、無文・胎土に金雲母を含む	中期・阿玉台
第 46 図 -13		縄文・深鉢	胴部、無文・内外面ハジケ有、外面煤付着、胎土に白色粒子を含む	中期

Ⅳ　ハケ遺跡第 27 地点

（1）調査の概要

調査は共同住宅建設に伴うもので、原因者より 2020 年 3 月 17 日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の中央部に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため 2020 年 3 月 25 ～ 27 日に試掘調査を実施した。

試掘調査は幅約 2m のトレンチ 2 本を設定し、重機による表土除去後人力による表面精査を行った。現地表面から地山ローム層までの深さは約 15 ～ 100 ㎝である。

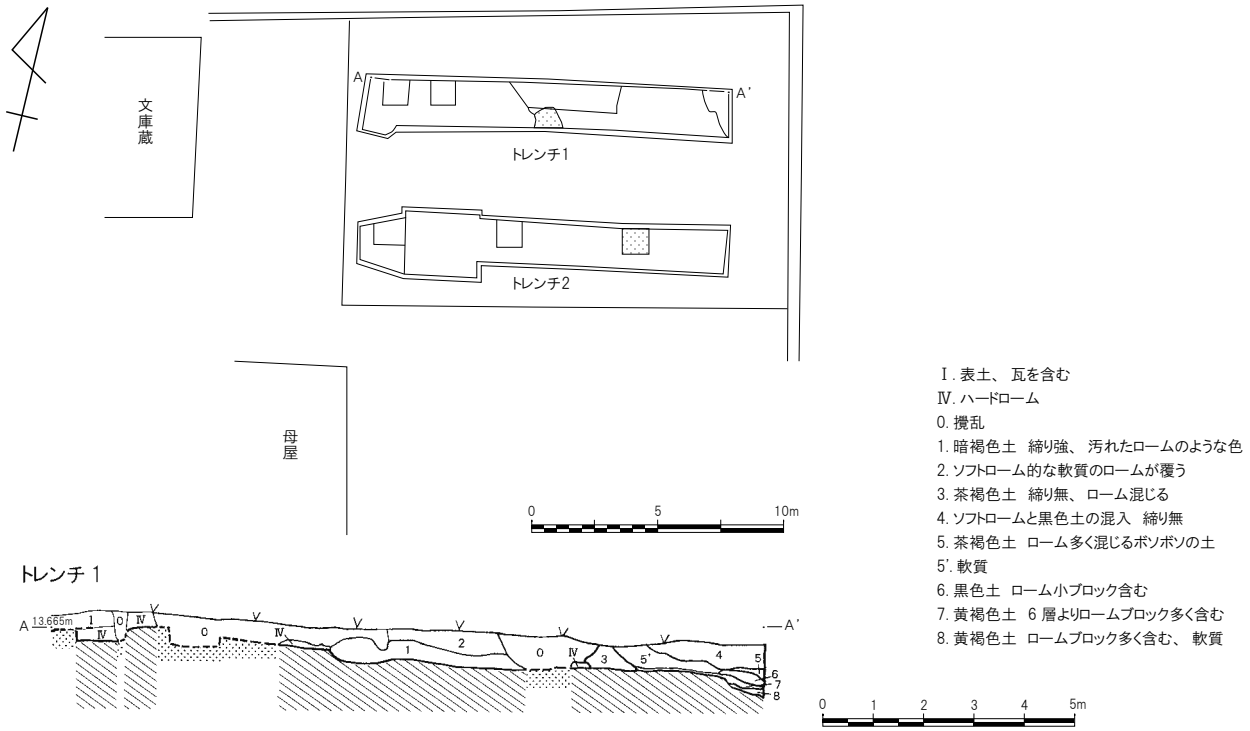
調査の結果、遺構は確認されなかったが、旧石器時代の調査を実施したところ、石器 1 点が出土した。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえで埋戻し、調査を終了した。

（2）遺構と遺物

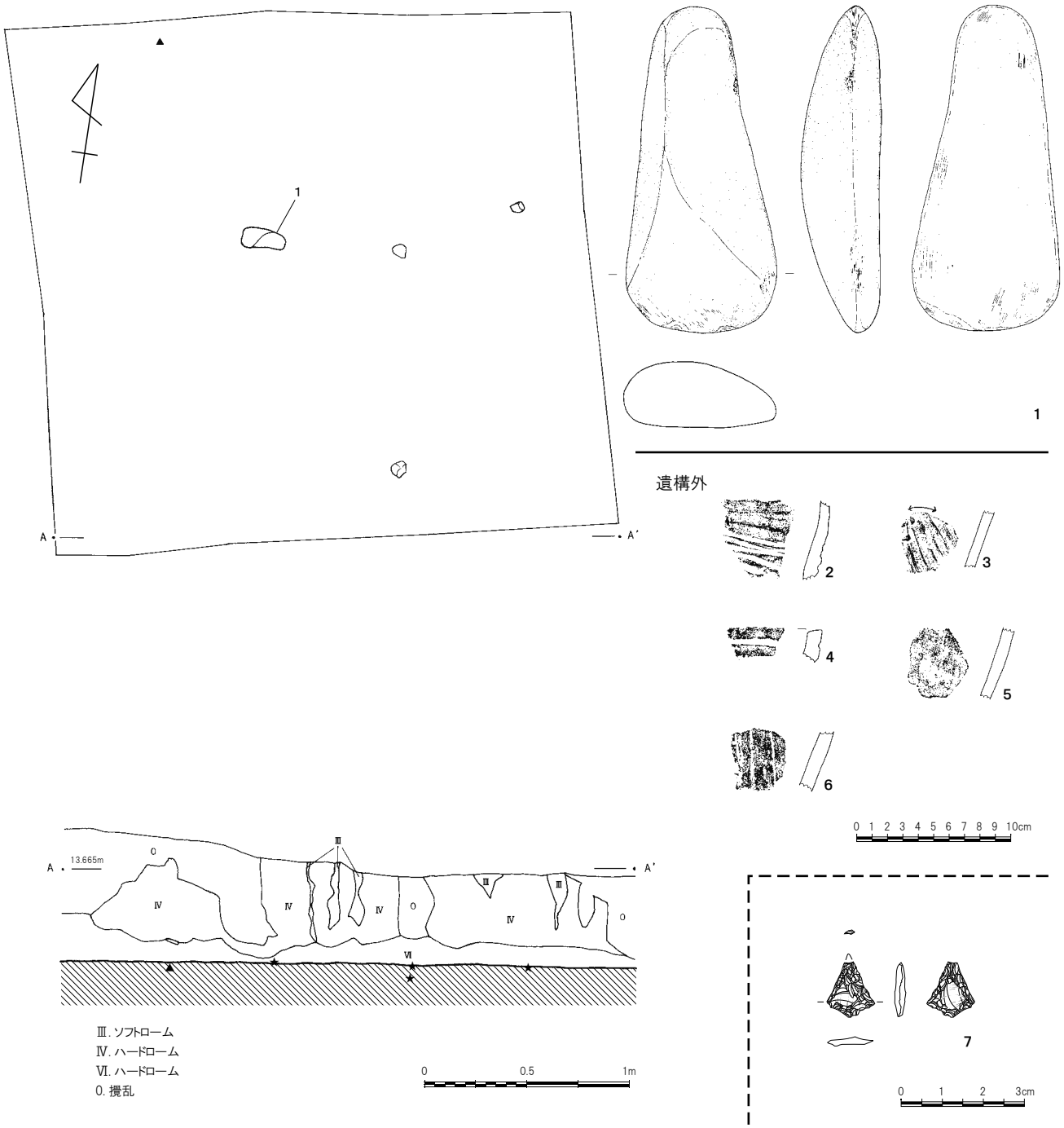
旧石器時代の調査は、台地落ち込み際で調査区西側 5 ヶ所の深掘りを実施した。そのうちトレンチ 2 の最西寄りから 4 点の礫が出土した。出土した区画を中心に 2.5 m四方の範囲を拡張し旧石器時代の調査を行った。関東ローム層の堆積は当該地域では 380 ㎝と厚く、ローム層の状況はやや汚れた感がある。基本層位は耕作土が削平されていたため、いきなりⅢ層のソフトローム層がⅣ層に入り込むハードローム層であった。第Ⅴ層の第 1 暗色帯は確認できなかった。礫の出土層位は、第Ⅳ層である。他でも深掘区の拡張を行い分布の広がりを確認したが、他には出土しなかった。

出土した石器は砂岩製の大形磨石である。磨面は両面や側面で観察された。特に左側面で顕著である。また長軸上端、下端部には敲打痕が残り認められる。大形のハンマー、敲石としても使用されていたと思われる。

他の 3 点は人工品なのか疑問でもある。イモ石等自然礫と考えられる。台地の形成過程でローム層に礫が含まれる場合のあり方などを含めて、検討する必要がある。



第 47 図　ハケ遺跡第 27 地点調査区域図 (1/300)、土層 (1/150)



第 48 図　ハケ遺跡第 27 地点旧石器時代遺物出土状況 (1/30)、出土遺物 (1/4・2/3)

第 25 表　ハケ遺跡第 27 地点出土遺物観察表 (単位 cm・g)

図版番号	出土遺構	種別・器種	技法・文様・備考	時期・型式
第 48 図 -1	旧石器時代確認トレンチ	石器・大形磨石	長さ：21.4 ㎝、幅：9.8 ㎝、厚さ：5.0 ㎝、重量：1372.15g、石材：砂岩	旧石器
第 48 図 -2	遺構外	縄文・深鉢	胴部、半截竹管状工具による沈線文・胎土に雲母、砂礫を含む	中期
第 48 図 -3		縄文・深鉢	胴部、内外面貝殻条痕文・内面黒色化、胎土に白色粒子を含む	早期か
第 48 図 -4		縄文・深鉢	口縁部、横位沈線・胎土に砂礫を多く含む	中期
第 48 図 -5		縄文・深鉢	胴部、内外面貝殻条痕文・内面一部黒色化、胎土に砂礫を多く含む	早期
第 48 図 -6		縄文・深鉢	胴部、外面条線文・内面に煤付着、胎土に砂礫を多く含む	中期
第 48 図 -7		石器・石鏃	長さ：1.349 ㎝、幅：1.164 ㎝、厚さ：0.271 ㎝、重量：0.32g、石材：チャート・周辺加工の小型有基鏃	—

第 5 章　権現山遺跡の調査

Ⅰ　遺跡の立地と環境

権現山遺跡は、武蔵野台地の北東端、荒川低地に舌状に突き出た武蔵野段丘面のいわゆる川崎台の南東端部に立地している。遺跡の東側を新河岸川が台地東縁をなめるように流れ、東方は新河岸川に臨む急峻な崖が形成されている。また、南側は旧清水という小川が流れる低地で、やはり急傾斜の斜面を形成する。標高は 16 ～ 18m を測る。遺跡の範囲は南北 300m、東西 300m 以上ある。

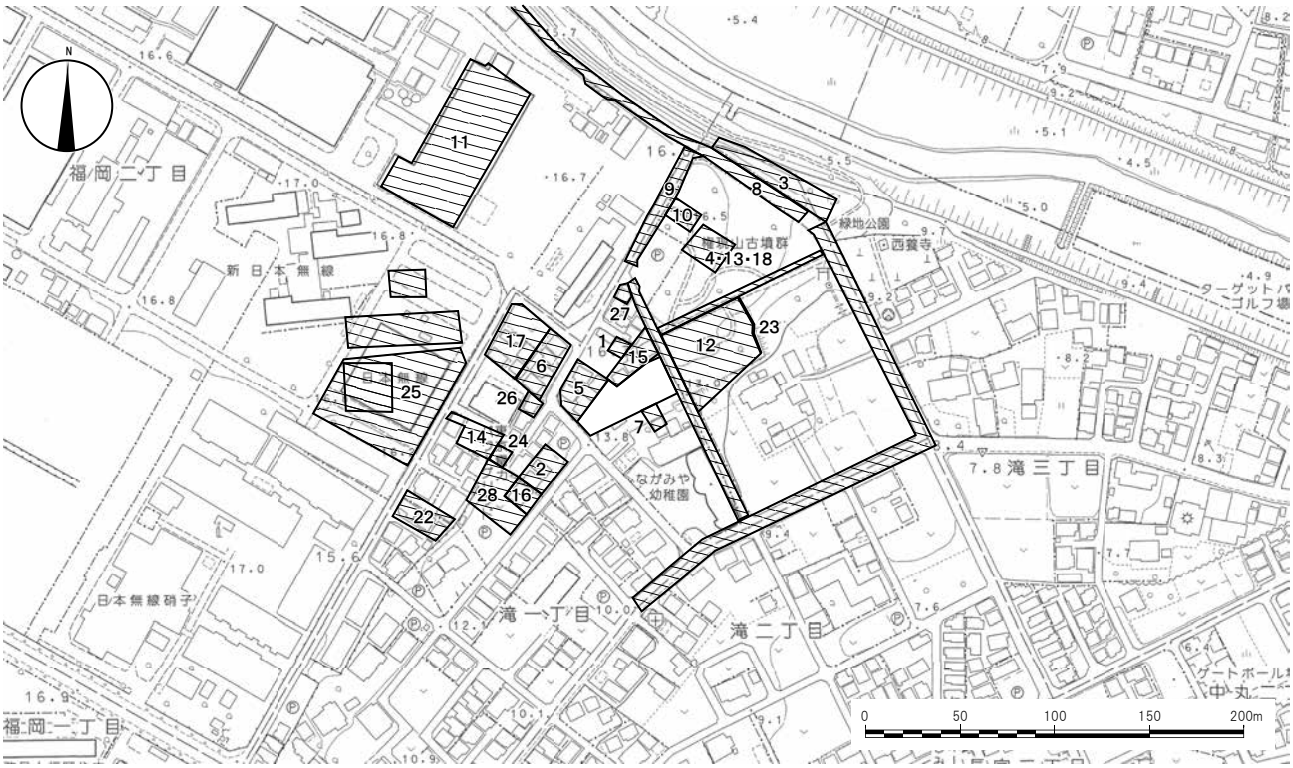
周辺の遺跡は、台地続きの北側に縄文時代前期・中期・晩期、古墳時代の集落がある著名な上福岡貝塚、台地下の低地面に縄文時代早期・前期、古墳から奈良・平安時代の集落跡である滝遺跡がある。

権現山遺跡は大正 6 年に安部立郎氏により「権現山といふ円形古墳」(安部 1917) として紹介された。その後、1937 年 (昭和 12 年) に山内清男、関野克によって上福岡貝塚が調査された折に作成された遺構配置図には、新河岸川沿いに 3 群 6 基の古墳が記述されている。(山内 1937) 戦後は『埼玉縣史』(1951)、『古墳調査報告書－入間地区－』(1961) 等に古墳の記載がある。しかし、1965 年に行われた通称「厄病塚」(権現山北古墳群 2 M・3 M) の調査では古墳の確証が得られず、十三塚の可能性が考察されている。

一方、通称「権現山」(権現山古墳群 2 M) は徳川家康が鷹狩りに訪れたという伝承から、1963 年に市指定文化財 (上福岡市) に指定された。資料上の初見は元禄 12(1699) 年の「武州入間郡福岡村除地水帳」に「権現　社地」の記載があり、塚の上には天保 11(1840) 年 2 月造立の「東照神祖命」の石造物が安置される。

その後 1982 年～ 1993 年までの 6 次にわたる発掘調査により、古墳時代前期の古墳群 (11 基) が発見され、「権現山」はいわゆる前方後方墳であることが判明し、2002 年 3 月 22 日県指定文化財に指定された。

1982 年以来 2020 年 4 月現在、28 ヶ所で調査が行われている。主たる時代と遺構は縄文時代中期の集落、古墳時代前期の方形周溝墓群、古墳時代の集落、奈良・平安時代の集落である。なお、滝遺跡の第 3・5・9・10 次調査および、1995 年と 2002 年の試掘は権現山遺跡の範囲に入っているため、権現山遺跡第 1・2・5 ～ 7・14・17 地点へ変更した。



第 49 図　権現山遺跡の地形と調査区 (1/4,000)

Ⅱ　権現山遺跡第 28 地点

（1）調査の概要

調査は分譲住宅に伴うもので、原因者より 2019 年 2 月 22 日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の南部に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため 2019 年 2 月 25・26 日に試掘調査を実施した。

試掘調査は幅 1.5m のトレンチ 5 本を設定し、重機による表土除去後人力による表面精査を行った。現地表面から地山ローム層までの深さは約 50 ～ 100 ㎝である。

調査の結果、時期不明のピット 5 基を検出した。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえで埋戻し、調査を終了した。

第 26 表　権現山遺跡調査一覧表

地区 地点	所在地	調査期間 ( ) は試掘調査	開発面積 (㎡)	調査面積 ( ) は試掘	調査原因	確認された遺構と遺物	備考	所収報告書
1	滝 1-4-15	1980.6.27 ～ 7.3	76		個人住宅	古墳時代住居跡 1、甕	旧滝遺跡 3 次	上埋Ⅲ
2	滝 1-3-21	1980.7.25 ～ 29	330		住宅建設	遺構遺物なし	旧滝遺跡 5 次	上埋Ⅲ
3	滝 3-4-7	1982.1.20 ～ 2.6	50		自転車置場 (公共事業)	方形周溝墓、縄文時代住居跡 1、縄文土器 等		S56 上社
4	滝 1-5-4	1982.12.8 ～ 28	200		範囲確認	方形周溝墓 6、縄文時代住居跡 1、古墳時代住居跡 1、土坑、溝、縄文土器 等		上埋Ⅴ、市史資 1
		1983.5.18 ～ 6.28	100			方形周溝墓 1、古墳時代住居跡 1、縄文土器 等	旧 83-2 次	上埋Ⅵ
5	滝 1-4-4	1984.5.11 ～ 22	466		住宅建設	溝、土師器	旧滝遺跡 9 次	上埋Ⅶ、市史資 1
6	滝 1-3-17	1984.6.1 ～ 12	363		住宅建設	古墳時代住居跡 1、土坑、ピット、溝、土師器 等	旧滝遺跡 10 次	上埋Ⅶ、市史資 1
7	滝 1-4-2	1984.6.28 ～ 30	33		物置	集石、土坑、ピット、陶磁器 等	旧滝遺跡 11 次	上埋Ⅶ、市史資 1
8	大字福岡 1500	1985.1.20 ～ 2.25			道路築造	方形周溝墓 2、古墳 3、壷形土器 等		S59 上社、市史資 1
9	滝 1-4-8	1985.8.9 ～ 9.9	430		範囲確認	古墳時代住居跡 2、古代住居跡 1、土坑、土師器、土製紡錘車 等	旧 85-4 次	上埋Ⅷ
10	滝 1-5-9・10	1986.2.10 ～ 22	202		範囲確認	方形周溝墓 1、古墳時代住居跡 1、土坑、ピット、土師器 等	旧 85-5 次	上埋Ⅷ
11	福岡 3-1187-4	1988.6.7 ～ 14	3,200		工場増築	古墳 1、古代住居跡 4		
12 次	滝 1-6-6	1989.2.20 ～ 3.6	2,000		農地改善	方形周溝墓 4、古墳時代住居跡 3、溝		上埋 11、市史資 1
12	滝 1-6-1	1989.5.8 ～	1,724		農地改善	方形周溝墓 4、古代住居跡 1		H1 上社
13	滝 1-5-4	1993.7 ～ 8			範囲確認	古墳 2、高坏 等		市史資 1
14	滝 1-3-13	1995.11.27 ～ 30	462		共同住宅	遺構遺物なし	旧滝遺跡 95-1	上埋 18
15	滝 1-4-3	1996.4.15 ～ 5.7	396		個人住宅	古墳時代住居跡 1、溝、土師器	旧 96-9 次	上埋 19
16	滝 1-3-49	2002.5.29 ～ 30	165		個人住宅	遺構なし、縄文土器 等	旧滝遺跡 02-1	上埋 25
17	滝 2-6-2	2004.5.17 ～ 27	856		範囲確認	古代住居跡 2、土師器 等		上埋 27
18	滝 1-5-4	2006.4.25 ～ 27			古墳整備			
19 20 21	字福岡 2-1500-23 (工場内)				工場増築		立会のみ	
22	滝 1-3-58 ～ 60				住宅建設			
23	滝 1-6-7	(2008.10.23 ～ 29)	1,576	(12)	古墳整備	土坑、集石、須恵器 等		市内 6
24	滝 1-3-25	(2013.5.17)	90	(5.7)	個人住宅	遺構なし、土師器 等		市内 18
25	福岡 2-1-1	(2014.6.2 ～ 7.18) 2014.7.22 ～ 9.2	3,588	(996.75) 86	事務所	古代住居跡 3、炉穴、土坑、溝、土師器 等		市内 16
26	滝 1-3-23	(2015.11.30)	97	(9)	個人住宅	遺構遺物なし		市内 22
27	滝 1-4-6	(2017.7.3・4)	63	(25)	分譲住宅	ピット、縄文土器 等		市内 24
28	滝 1-3-3	(2019.2.25・26)	624	(131.99)	分譲住宅	ピット、縄文土器 等		市内 25

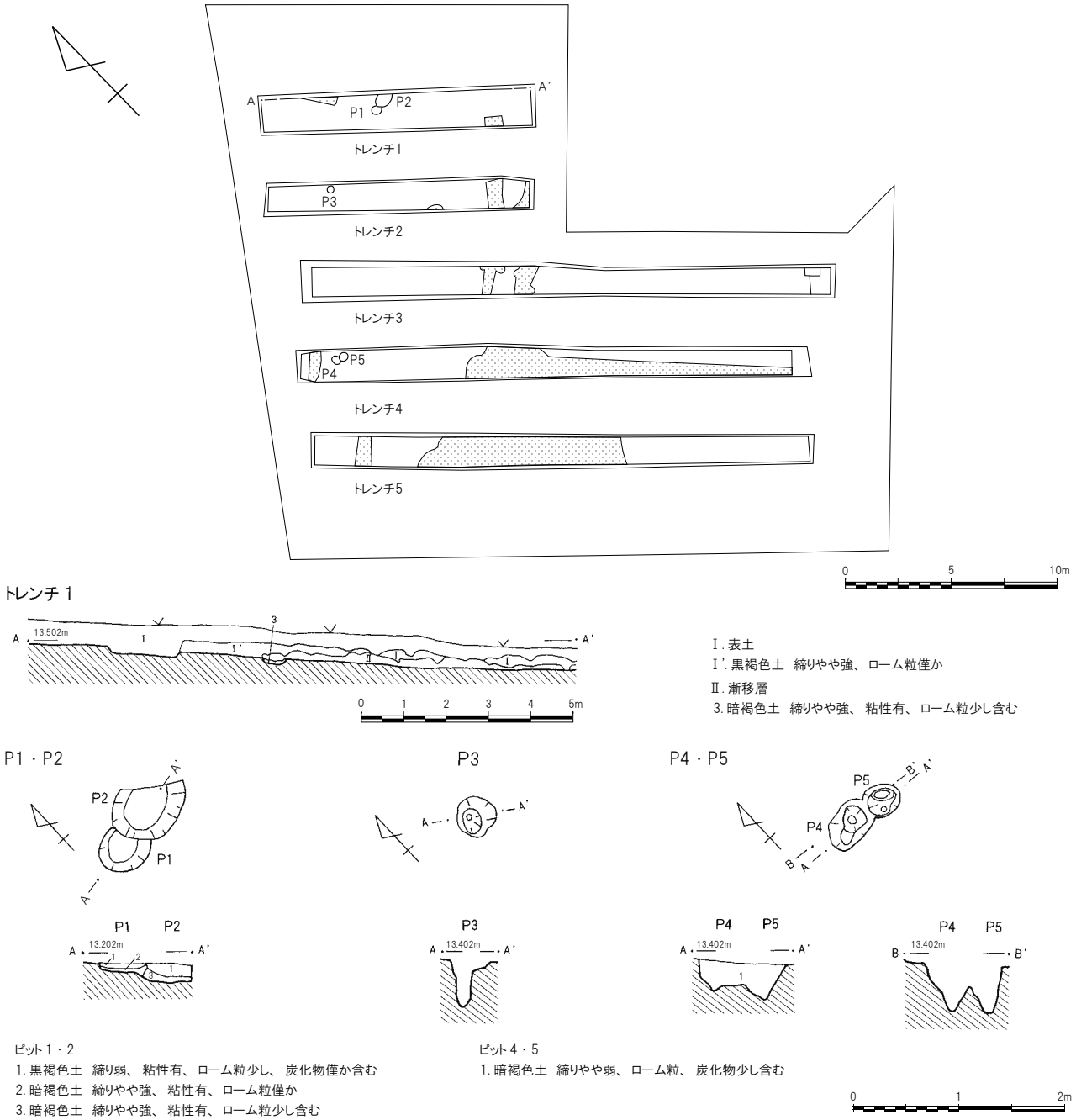
（２）遺構と遺物

①ピット

ピットはいずれも調査区の北西部に位置し、トレンチ１で２基、トレンチ２で１基、トレンチ４で２基の計５基を検出した。規模等の詳細については第 27 表に掲載した。

②出土遺物

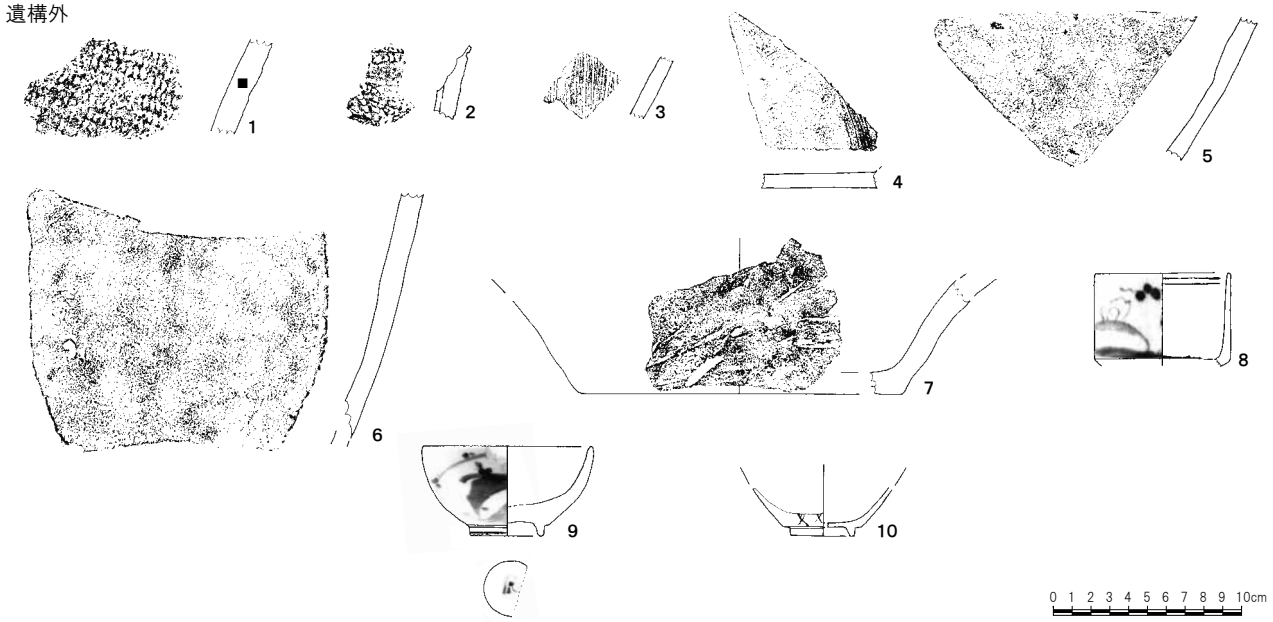
遺物はすべて遺構外からの出土である。詳細については第 51 図及び第 28 表に掲載した。



第 50 図　権現山遺跡第 28 地点遺構配置図 (1/300)、土層 (1/150)、ピット (1/60)

第 27 表　権現山遺跡第 28 地点ピット一覧表 (単位 cm)

No.	平面形態	確認面径	底径	深さ
1	不明	43 × (38)	26 × (26)	13.8
2	不明	(67) × 59	(41) × 37	19.4
3	円形	39 × 37	6 × 5	43.9
4	(楕円形)	51 × 33	9 × 9	46.4
5	(円形)	(34) × 32	15 × 7	47.1



第 51 図　権現山遺跡第 28 地点出土遺物 (1/4)

第 28 表　権現山遺跡第 28 地点出土遺物観察表 (単位 cm・g)

図版番号	出土遺構	種別・器種	技法・文様・備考	時期・型式
第 51 図 -1	遺構外	縄文・深鉢	横位 LR 縄文 / 胎土に繊維を含む	前期・黒浜
第 51 図 -2		縄文・深鉢	半截竹管状工具による結節沈線 / 胎土に白色粒子を多量に含む	中期・勝坂期か
第 51 図 -3		縄文・深鉢	櫛歯状工具による条線文 / 胎土に白色粒子を多量に含む	中期・加曽利 E Ⅱ～Ⅲ
第 51 図 -4		土器・焙烙	焙烙底部 / 胎土に白色粒子を含む	中近世以降
第 51 図 -5		陶器・甕	焼締陶器、粘土紐巻き上げ成形 / 外面に焼きムラ	近世以降・常滑
第 51 図 -6		陶器・甕	焼締陶器、粘土紐巻き上げ成形、内面に指頭痕有 / 胎土に白色粒子、チャートを含む	18 世紀後半以降
第 51 図 -7		陶器・甕	焼締陶器、底部、轆轤成形 // 底径：(17.2) ㎝、胎土に砂礫を多く含む	18 世紀後半以降
第 51 図 -8		磁器・半筒碗	轆轤成形 / 染付、雪輪梅樹文か、内面口縁部に二重圏文 / 口径 7.2 ㎝	18 世紀後半・肥前
第 51 図 -9		磁器・厚手碗	轆轤成形 / 染付、雪輪梅樹文、高台に二重圏文、高台内面に崩し銘 / 口径 9.0 ㎝、底径 3.8 ㎝、高さ 4.8 ㎝	18 世紀後半・肥前
第 51 図 -10		陶器・端反碗	轆轤成形 / 鉄絵、小杉碗、底径 3.4 ㎝	19 世紀前半・信楽

第 6 章　滝遺跡の調査

Ⅰ　遺跡の立地と環境

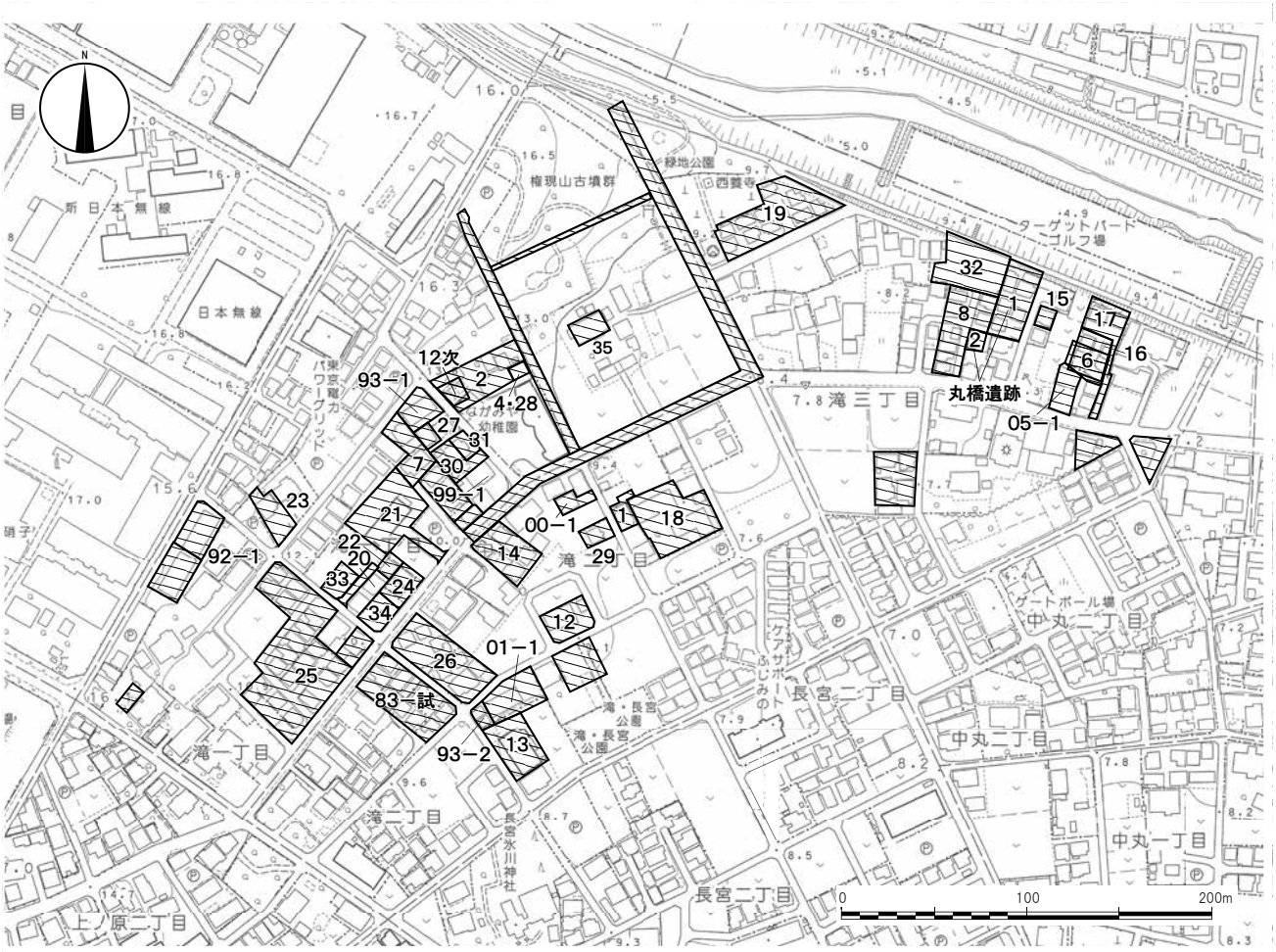
滝遺跡は武蔵野台地の北東端、荒川低地に舌状に突き出た武蔵野段丘面の台地東側の一段低い立川段丘面の縁に立地している。

「滝」の地名は、近年までこの段丘上から滝が落ちていたことに由来する。北西側は段丘面、北東側は新河岸川を挟んで荒川低地の沖積地と接し、南側は排水溝として利用される緩やかな小支谷を流れる旧清水に挟まれ、標高 9 ～ 12 m前後の微高地を形成する。遺跡の範囲は南北 250 m、東西 500 m以上ある。宅地開発が進むが部分的に畑が残っている。

周辺の遺跡は、北西側の段丘上に縄文時代前期、中期、晩期、古墳時代の遺跡である著名な上福岡貝塚と権現山遺跡群が新河岸川沿いに並び、旧清水を挟んだ南側には、縄文時代、飛鳥時代、中近世の長宮遺跡が広がる。

1976 年以降宅地開発等に伴う緊急調査が増加し、遺跡の谷口に当たる旧丸橋遺跡 (1981 年の変更増補で滝遺跡と合併) で古墳時代前期と後期の住居跡を検出以来 2020 年 4 月現在、41 ヶ所で調査を行っている。なお、本遺跡の第 3・5・9 ～ 11 次調査、1995 年度試掘調査・2002 年度試掘調査 (1) は権現山遺跡の範囲に入っているため、今後は本遺跡では欠番とし、権現山遺跡 1・2・5 ～ 7・14・17 地点とする。

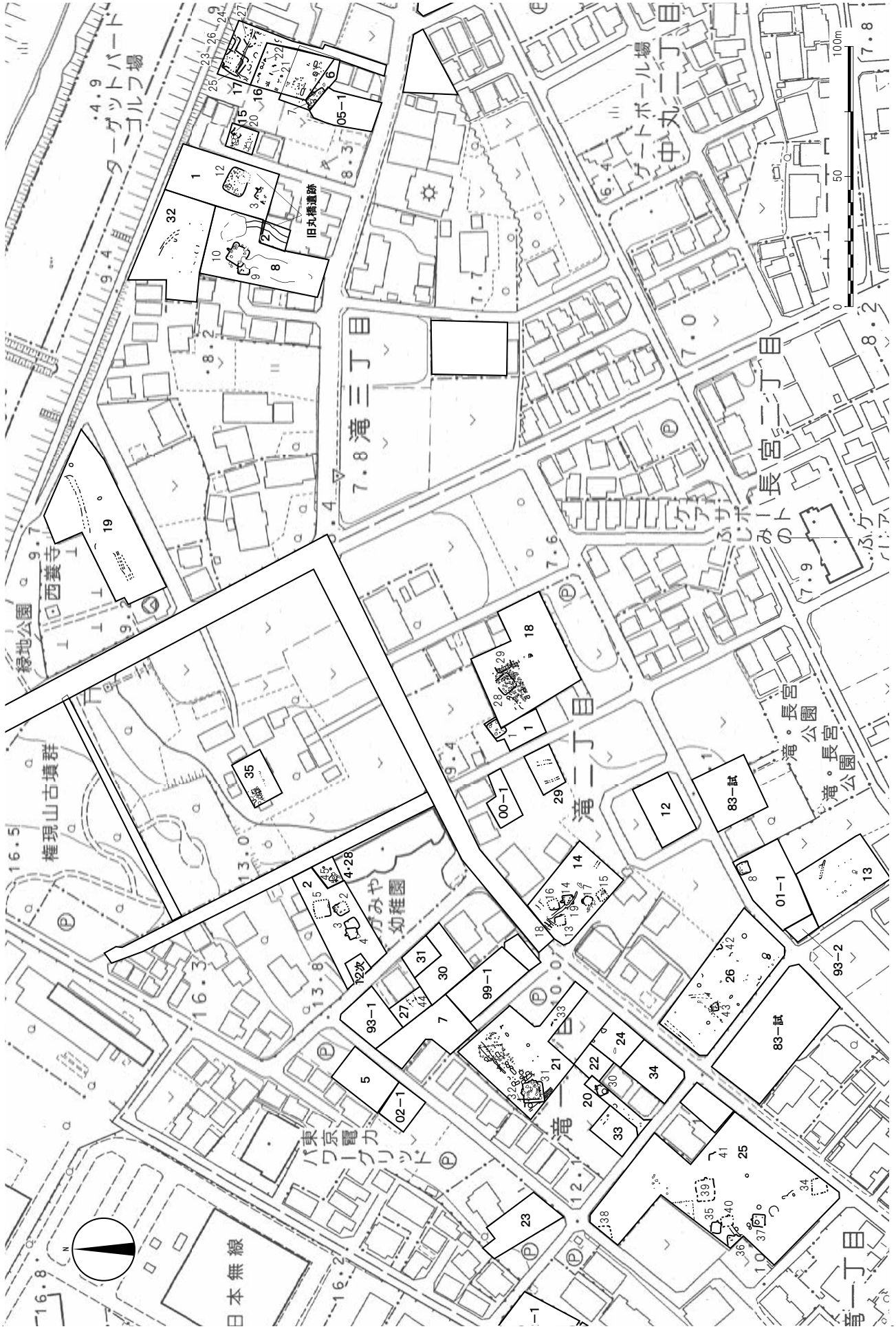
遺跡の主たる時代と遺構は、縄文時代早期・前期の土坑、古墳時代から奈良・平安時代の住居跡、近世の段切り遺構 (集石を伴う) である。



第 52 図　滝遺跡の地形と調査区 (1/4,000)

第 29 表　滝遺跡調査一覧表

地区地点	所在地	調査期間 ( ) は試掘調査	開発面積 (㎡)	調査面積 ( ) は試掘	調査原因	確認された遺構と遺物	備考	所収報告書
丸橋 1 次	滝 3-3-77 ～ 81	(1976.6.26・27) 1976.7.24 ～ 8.12	533.73		分譲住宅	古墳時代住居跡 2、土師器	丸橋遺跡は滝遺跡へ統合	上調
丸橋 2 次	滝 3-3-13	1978.7.26 ～ 8.6	210		住宅建設	土坑、縄文土器		上埋 I
1 次	滝 2-6-11	1978.10.2 ～ 13	129		住宅建設	古墳時代住居跡 1、土師器		上埋 I
2 次	滝 1-4-2	1979.4.15 ～ 5.7	278		幼稚園プール	古墳時代住居跡 1、古代住居跡 3、土坑、墨書土器 等		上埋 II
3 次	滝 1-4-15	1980.6.27 ～ 7.3	76		個人住宅	古墳時代住居跡 1、甕	権現山 1 地点へ変更	上埋 III
4 次	滝 1-4-1	1980.7.7 ～ 10	105		住宅建設	遺構なし、土師器		上埋 III
5 次	滝 1-3-21	1980.7.25 ～ 29	330		住宅建設	遺構遺物なし	権現山 2 地点へ変更	上埋 III
6 次	滝 3-3-6	1980.11.19 ～ 11.30	166		住宅建設	古代住居跡 1、ピット、縄文土器 等		上埋 III
7 次	滝 1-1-19	1981.7.30・31	400		個人住宅	遺構なし、土師器 等		上埋 IV
8 次	滝 3-3-15 他	1983.11.14 ～ 26	990		住宅建設	古墳時代住居跡 2、土坑、溝、土師器 等		上埋 VI
83- 試							試掘詳細不明	上埋 VI
9 次	滝 1-4-4	1984.5.11 ～ 22	466		住宅建設	溝、土師器 等	権現山 5 地点へ変更	上埋 VII
10 次	滝 1-3-17	1984.6.1 ～ 12	363		住宅建設	古墳時代住居跡 1、土坑、ピット、溝、土師器 等	権現山 6 地点へ変更	上埋 VII
11 次	滝 1-4-2	1984.6.28 ～ 30	33.12		物置	集石、土坑、ピット、陶磁器 等	権現山 7 地点へ変更	上埋 VII
12 次	滝 1-4-2	1984.12.22 ～ 24	94		住宅建設	遺構なし、土師器 等		上埋 VII
92-1	滝 1-2-14 の一部	(1992.7.6 ～ 8)	400		倉庫	遺構遺物なし		上埋 15
93-1	滝 1-1-4	(1993.4.23 ～ 28)	313.08		共同住宅	遺構遺物なし		上埋 16
93-2	滝 2-2-7	(1993.8.25)	99		個人住宅	遺構遺物なし		上埋 16
95-1	滝 1-3-13	(1995.11.27 ～ 30)	462		共同住宅	遺構遺物なし	権現山 14 地点へ変更	上埋 18
99-1	滝 1-1-6	(1999.10.21 ～ 26)	511.09		宅地造成	遺構なし、土師器片 等		上埋 22
00-1	滝 2-5-20	(2001.1.23・24)	154.7		個人住宅	遺構なし、土師器片		上埋 23
01-1	滝 2-2-8	(2001.4.17 ～ 20)	519.64		共同住宅	古代住居跡 1、土師器		上埋 24
02-1	滝 1-3-49	(2002.5.29・30)	165		個人住宅	遺構なし、縄文土器片	権現山 16 地点へ変更	上埋 25
05-1	滝 3-3-5・143	(2005.6.24 ～ 27)	350		個人住宅	遺構遺物なし		市内 1
12	滝 2-5-3・4 の一部	(2007.2.6)	472	(80)	個人住宅	遺構遺物なし		市内 3
13	滝 2-2-6	(2007.10.24 ～ 11.1)	737.7	(113)	共同住宅	焼土、土坑、ピット、溝		市内 4
14	滝 2-5-11・17	(2007.11.8 ～ 19) 2007.11.20 ～ 12.6	692	(254) 92	分譲住宅	古代住居跡 7、焼土、土坑、溝、井戸、土師器 等		市内 4
15	滝 3-3-84	(2009.9.2 ～ 14) 2009.10.23 ～ 11.6	100	(50) 52.5	分譲住宅	古代住居跡 1、土坑、ピット、井戸、土師器 等		市内 7
16	滝 3-3-145	(2009.12.2 ～ 14)	434	(129)	宅地造成	古代住居跡 2、土坑、ピット、溝、井戸、土師器 等		市内 8
17	滝 3-3-6・144	(2010.5.6 ～ 6.18)	331	(197)	分譲住宅	古代住居跡 5、掘立柱建物跡 1、集石、土坑、ピット、溝、井戸、土師器 等		市内 10
18	滝 2-6-4・6	(2011.6.6 ～ 13) 2011.6.14 ～ 7.14	1,164	(124.3) 195.2	個人住宅	古墳時代住居跡 2、掘立柱建物跡 3、土坑、ピット、溝、井戸、土師器 等		市内 14
19	滝 3-4-2	(2011.10.17 ～ 24)	1,277.16	(369)	分譲住宅	溝、陶磁器 等		市内 14
20	滝 1-8・9	(2012.5.9 ～ 11) 2012.5.14 ～ 25	124.45	(65) 20	道路築造	古代住居跡 1、土坑、ピット、井戸、須恵器 等		市内 12
21	滝 1-1-7・26・31	(2012.5.11 ～ 21) 2012.7.17 ～ 8.25	1,176.25	(226) 340	共同住宅	古代住居跡 3、掘立柱建物跡 1、土坑、ピット、溝、井戸、土師器 等		市内 12
22	滝 1-1-40	(2013.7.30)	114	(19)	個人住宅	遺構遺物なし		市内 18
23	滝 1-3-5 の一部	(2014.2.12)	371	(38)	個人住宅	遺構遺物なし		市内 18
24	滝 1-1-8 の一部	(2014.7.16 ～ 18)	222.8	(85)	分譲住宅	土坑、ピット、土師器 等		市内 20
25	滝 1-2-4・32	(2014.7.17 ～ 8.26) 2014.9.8 ～ 10.31	2,804	(1115.8) 362	宅地造成	古代住居跡 8、古代掘立柱建物跡 1、土坑、ピット、溝、井戸、須恵器 等		市内 16
26	滝 2-5-6・8	(2015.10.19 ～ 27) 2015.11.9・10	368.92	(242) 19.2	個人住宅	古代住居跡 2、落とし穴、土坑、ピット、溝、井戸、縄文土器 等		市内 22
	滝 2-5-39・40・41・42	(2016.8.24 ～ 9.9)	862.92	(131.87)	分譲住宅			
27	滝 1-1-25	(2015.11.27 ～ 12.1)	155	(29)	個人住宅	古代住居跡 1、ピット、土師器 等		市内 22
28	滝 1-4-1・26・27	(2016.9.3 ～ 6)	2,492.15	(25)	幼稚園	古代住居跡 1、ピット、土師器 等		市内 24
29	滝 2-5-46	(2016.11.10)	150.41	(34.95)	個人住宅	溝、縄文土器 等		市内 24
30	滝 1-1-3 の一部	(2017.2.13 ～ 15)	303	(104.5)	分譲住宅	遺構なし、縄文土器		市内 24
31	滝 1-1-3 の一部	(2017.2.13 ～ 15)	109	(26.1)	個人住宅	遺構遺物なし		市内 24
32	滝 3-3-14	(2017.6.26 ～ 29)	784.54	(176.1)	分譲住宅	ピット、溝、井戸、陶磁器 等		市内 24
33	滝 1-1-9 の一部	(2018.12.14)	187	(38.15)	個人住宅	ピット群、須恵器 等		市内 25
34	滝 1-1-8	(2019.2.20・21、4.12)	333	(95.29)	個人住宅 兼診療所	遺構なし、須恵器 等		市内 25
35	滝 1-6-3	(2020.2.17) 2020.2.18 ～ 21	171.83	(85.5) 35	個人住宅	土坑、井戸、地下式坑、板碑、カワラケ 等		市内 25



第 53 図　滝遺跡遺構分布図 (1/2,000)

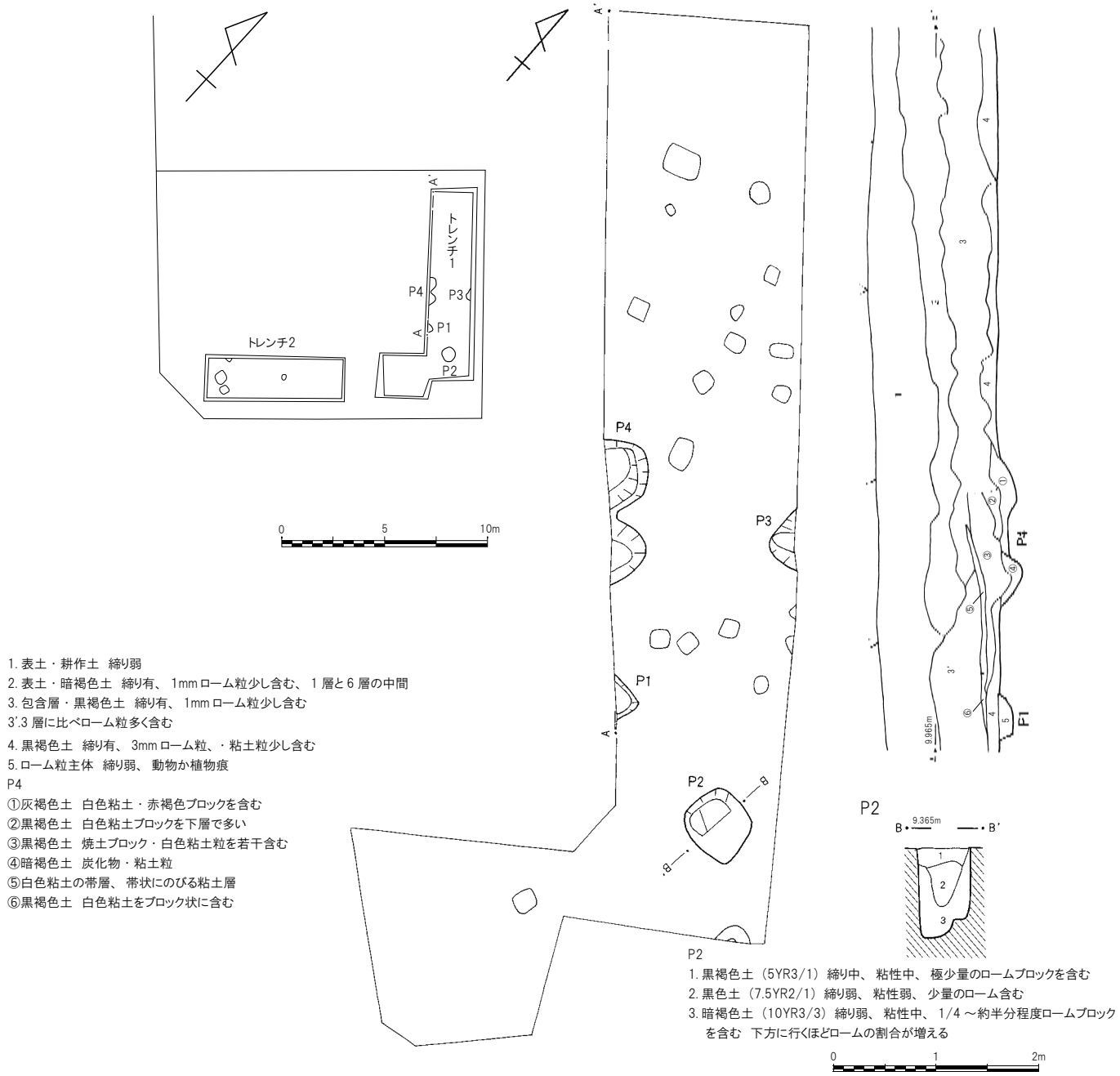
Ⅱ　滝遺跡第 33 地点

（1）調査の概要

調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者より 2018 年 11 月 28 日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の西部に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため 2018 年 12 月 14 日に試掘調査を実施した。

試掘調査は幅 2 ～ 2.5m のトレンチ 2 本を設定し、重機による表土除去後人力による表面精査を行った。現地表面から地山ローム層までの深さは約 120 ㎝である。

調査の結果、ピットを複数検出した。保護層の確保が可能なため、写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえで埋戻し、調査を終了した。



第 54 図　滝遺跡第 33 地点遺構配置図 (1/300)、土層・ピット (1/60)

（2）遺構と遺物

①ピット

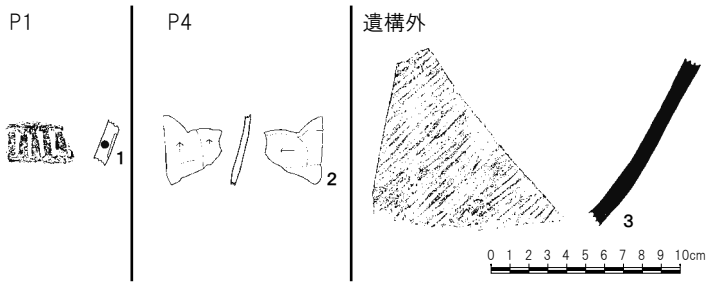
ピットは両トレンチで全面的に認められるが、特に東側のトレンチ 1 に集中して確認された。今回の調査では保護層の確保が可能であったため、すべては完掘していない。調査に至ったピットの詳細については第 30 表に掲載した。ピット 2 については、平面形態が方形を呈し、深さ 87 ㎝を測ることから、掘立柱建物の柱穴である可能性も考えられる。また、ピット 4 からは白色の粘土層が確認された。平面形態は双円状であり、粘土層中には焼土ブロックを含んでいる。破壊された竈のようにも見受けられるが、周辺から住居跡は確認できず、詳細は不明である。

②出土遺物

遺物はピット 1 から縄文土器片 1 点、ピット 4 から土師器片 1 点、遺構外から須恵器片 1 点が出土した。詳細については第 55 図及び第 31 表に掲載した。

第 30 表　滝遺跡第 33 地点ピット一覧表 (単位 cm)

No.	平面形態	確認面径	底径	深さ
1	不明	43 × (21)	29 × (15)	13.5
2	方形	65 × 57	(28) × (23)	87
3	不明	60 × (24)	(21) × 18	19.5
4	双円状	142 × (41)	30 × (20)	22.2



第 55 図　滝遺跡第 33 地点出土遺物 (1/4)

第 31 表　滝遺跡第 33 地点出土遺物観察表 (単位 cm・g)

図版番号	出土遺構	種別・器種	技法・文様・備考	時期・型式
第 55 図 -1	P1	縄文・深鉢	胴部 / 縦位角押文、胎土に金雲母を含む	阿玉台式
第 55 図 -2	P4	土師器・甕	胴部、外面：ヘラケズリ、内面：ヘラナデ / 内面に煤付着、胎土に黒色粒子を少量含む	7 世紀代
第 55 図 -3	遺構外	須恵器・甕	胴部、外面：平行タタキ、内面ナデ / 外面に自然釉、内面に指頭痕、胎土に白色粒子を多く含む、5Y 4/1 灰色	8 世紀代

Ⅲ　滝遺跡第 34 地点

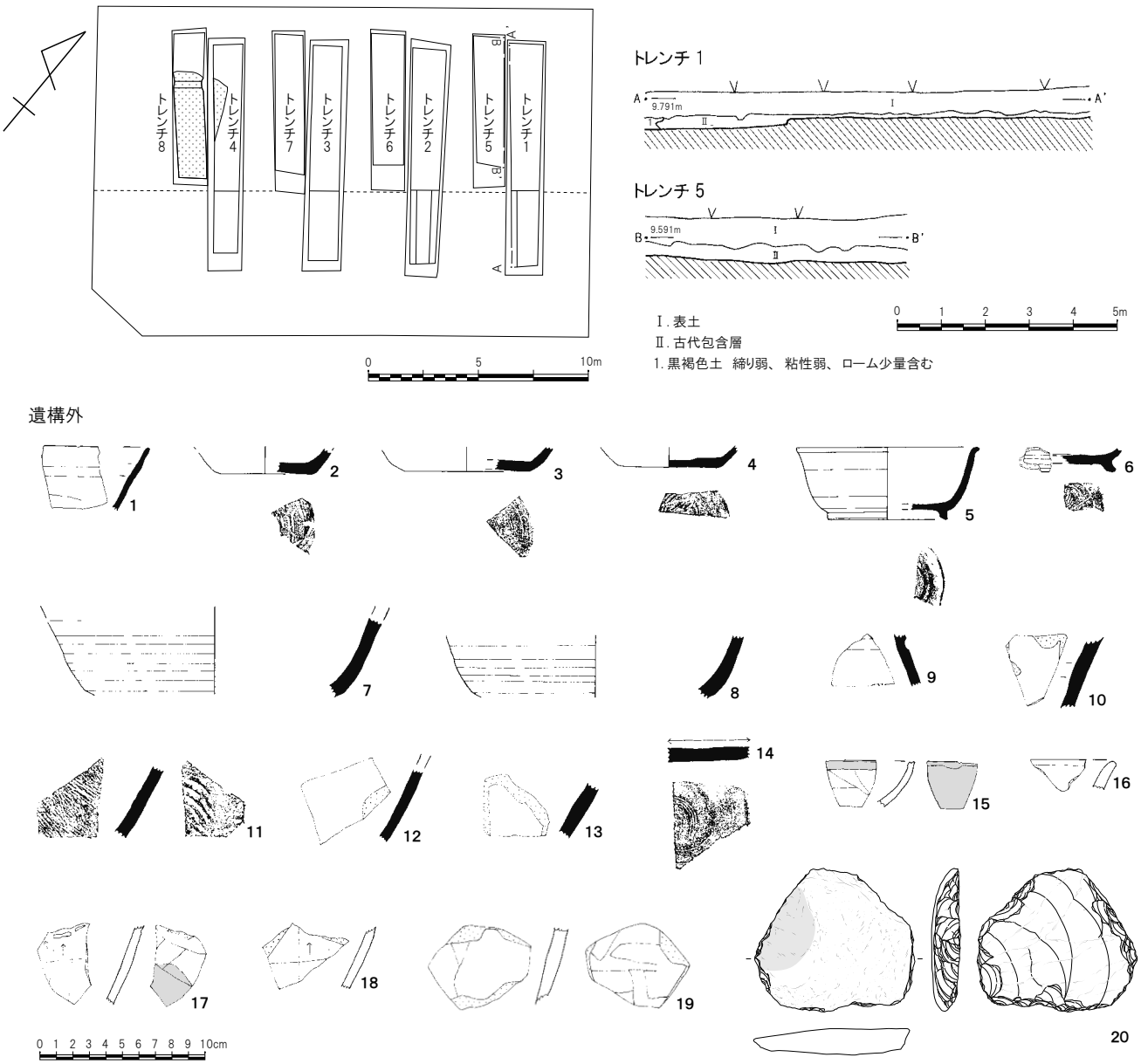
（1）調査の概要

調査は個人住宅兼診療所建設に伴うもので、原因者より 2019 年 2 月 12 日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の南西部に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため 2019 年 2 月 20・21 日に試掘調査を実施した。

試掘調査は幅 1.5m のトレンチ 4 本を設定し、重機による表土除去後人力による表面精査を行った。現地表面から地山ローム層までの深さは約 90 ～ 100 ㎝である。調査の結果、約 70 ㎝下で古代の包含層を確認したが、保護層の確保が可能なため、写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえで埋戻し、調査を終了した。

後日、建物の設計変更により保護層の確保が不可能となったため、再度 2019 年 4 月 12 日に試掘調査を実施した。再試掘調査は、前回の掘削したトレンチの間に新たに幅約 1.5m のトレンチを 4 本設定し、重機による表土掘削後人力で表面精査を行った。

調査の結果、前回確認した包含層に多少の遺物は検出したが、明確な遺構は確認されなかったため、写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえで埋戻し、調査を終了した。



第 56 図　滝遺跡第 34 地点調査区域図 (1/300)、土層 (1/150)、出土遺物 (1/4)

（2）遺構と遺物

①出土遺物

遺物はすべて包含層に含まれていたものである。詳細については第 56 図及び第 32 表に掲載した。須恵器を多く含んでおり、時期のわかるものでは 7 世紀後半から 9 世紀と年代に幅があるが、比較的 8 世紀代に集中する傾向がみられる。

第 32 表　滝遺跡第 34 地点出土遺物観察表 (単位 cm・g)

図版番号	出土遺構	種別・器種	口径・長さ	底径・幅	高さ・厚さ	技法・文様・備考	時期・型式
第 56 図 -1	遺構外	須恵器・坏	―	―	―	轆轤成形 / 外面：斑点状に自然釉が掛かる、胎土に白色粒子を多量に含む、5Y 5/1 灰色	―
第 56 図 -2		須恵器・坏	―	(6.0)	―	轆轤成形、底部回転ヘラケズリ / 胎土に白色粒子を僅かに含む、2.5Y 6/2 灰黄色	8 世紀前半
第 56 図 -3		須恵器・坏	―	(7.4)	―	轆轤成形、底部回転ヘラケズリ / 胎土に白色針状物質を多量に含む、南比企産、2.5Y 6/2 灰黄色	8 世紀前半
第 56 図 -4		須恵器・坏	―	(6.0)	―	轆轤成形、底部全面回転ヘラケズリ / 胎土に白色針状物質を多量に含む、南比企産、転用砥石か、2.5Y 5/1 黄灰色	8 世紀前半か
第 56 図 -5		須恵器・高台付坏	(11.0)	(7.2)	4.4	轆轤成形、体部直立して口縁部が強く外反する / 胎土に白色針状物質を多量、白色粒子を少量含む、南比企産、2.5Y 6/1 黄灰色	8 世紀末～9 世紀初
第 56 図 -6		須恵器・高台付坏	―	―	―	轆轤成形、底部回転糸切り後ヘラケズリ、高台貼付 / 胎土に白色針状物質を多量、白色粒子・黒色粒子を少量含む、南比企産、10YR 6/1 褐灰色	―
第 56 図 -7		須恵器・鉢	―	―	―	轆轤成形 / 胎土に白色粒子・黒色粒子・チャート含む、5Y 6/1 灰色、壷胴部の可能性も考えられる、8 とは別個体	―
第 56 図 -8		須恵器・鉢	―	―	―	轆轤成形 / 胎土に白色粒子・黒色粒子・チャート含む、5Y 6/1　灰色、壷胴部の可能性も考えられる、7 とは別個体	―
第 56 図 -9		須恵器・不明	―	―	―	外面：ヘラケズリ、内面：ナデ / 胎土に白色針状物質・白色粒子を多量に含む、2.5Y 6/1 黄灰色	―
第 56 図 -10		須恵器・甕	―	―	―	轆轤成形、口縁部付近 / 内外面に自然釉、胎土に白色粒子・黒色粒子を多量に含む、N6/1 灰色	―
第 56 図 -11		須恵器・甕	―	―	―	轆轤成形、外面：平行タタキ、内面：当て具痕 (同心円か) / 胎土に白色針状物質を多量、白色粒子・1～2 ㎜大の長石を少量含む、焼成良好、10Y 5/1 灰色	8 世紀代
第 56 図 -12		須恵器・甕	―	―	―	轆轤成形 / 無文、外面にまばらに自然釉が掛かる、胎土に白色粒子・黒色粒子を多量に含む、10YR 4/1 褐灰色	―
第 56 図 -13		須恵器・甕	―	―	―	轆轤成形、無文 / 内面に指頭痕、内外面に僅かに自然釉が掛かる、胎土に白色粒子を多く含む、10Y 3/1 オリーブ黒色	―
第 56 図 -14		須恵器・碗か	―	―	―	轆轤成形、底部全面回転ヘラケズリ / 胎土に白色針状物質を多量、白色粒子・黒色粒子を僅かに含む、南比企産、転用砥石か、5Y 6/1 灰色	8 世紀前半
第 56 図 -15		土師器・坏	―	―	―	外面：ヘラケズリ、内面～外面口縁部：ナデ、赤彩 / 口縁部断面が M 字状を呈する、胎土に白色粒子を僅かに含む	7 世紀後半～8 世紀初頭
第 56 図 -16		土師器・甕	―	―	―	口縁部、内外面ナデ / 胎土に白色粒子・黒色粒子・チャートを含む	7 世紀後半～8 世紀前半か
第 56 図 -17		土師器・甕	―	―	―	胴部、外面：ヘラケズリ、内面：ナデ / 胎土に白色粒子を少量含む	8 世紀代
第 56 図 -18		土師器・甕	―	―	―	胴部、外面：ヘラケズリ、内面：ナデ / 胎土に白色粒子を含む、内外面の一部に煤付着	―
第 56 図 -19		土師器・甕	―	―	―	胴部、外面：ヘラケズリ、内面：ナデ / 胎土に白色粒子を少量含む、外面の摩耗が激しい	―
第 56 図 -20		石器・削器	8.705	9.703	1.775	重量：183.71g、石材：砂岩 / 剥片の縁辺部に通常の剥離を施す	―

Ⅳ　滝遺跡第 35 地点

（1）調査の概要

調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者より 2019 年 11 月 19 日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の中央部に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため 2020 年 2 月 17 日に試掘調査を実施した。

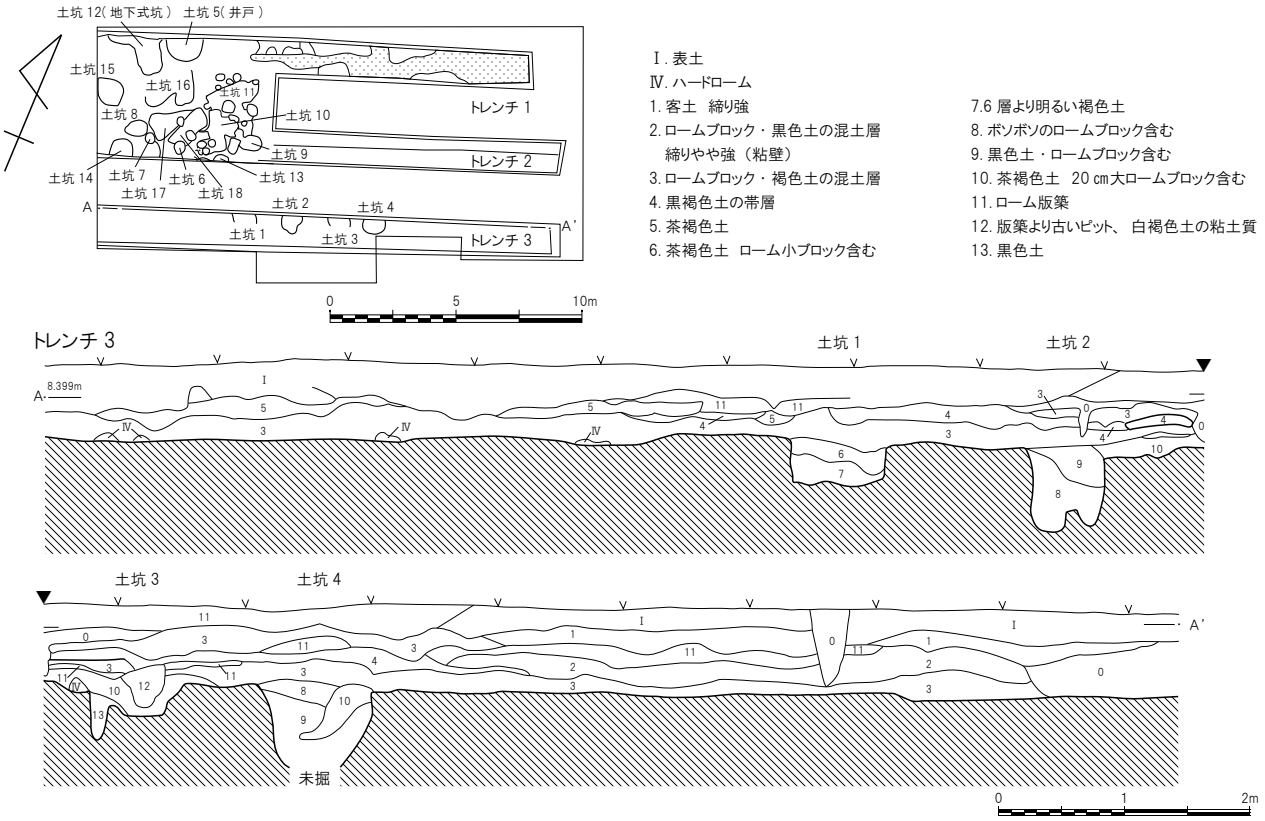
試掘調査は幅約 1.5m のトレンチ 3 本を設定し、重機による表土除去後人力による表面精査を行った。現地表面から地山ローム層までの深さは約 70 ㎝である。

調査の結果、中近世の遺構群と板碑をはじめとする遺物を確認した。保護層の確保が難しいため原因者と再協議の結果、該当部分について本調査を実施することとなった。

本調査は 2020 年 2 月 18 ～ 21 日まで実施した。該当箇所を重機で拡張、写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえで埋戻し、調査を終了した。

建築工事との関係で物理的に大変窮屈ななかでの調査となった。結果、トレンチ 1 では約 60 ㎝、トレンチ 2 は 65 ㎝、トレンチ 3 は 58 ㎝で遺物出土面に達した。調査期間がわずか 4 日しか猶予がきかないということもあり、本調査する区域を限定した。そのための見極めとしてトレンチ 2、3 にサブトレを入れた結果、遺物は確認されたが大型遺構の存在は確認されなかったため、止む無くトレンチ 3 とトレンチ 1・2 東側を調査対象から除外した。板碑片が出土したトレンチ 1 西側とトレンチ 2 間の南側の約 35 ㎡のごく狭い範囲のみを調査区域として実施した。本調査配置図は第 57 図である。非調査トレンチは土層セクションをとり、遺物を取り上げ排土置場とした。

トレンチ 3(試掘調査) と本調査で確認された遺構はすべて土坑と称し連番を付した。急場の調査現場で付した遺構№を尊重した。従って、機能が明瞭な井戸や地下式坑、ピット状遺構なども土坑と付し遺構の性格で機能を明記した。(第 33 表)



第 57 図　滝遺跡第 35 地点遺構配置図 (1/300)、土層 (1/60)

（2）遺構と遺物

①土坑

図示しえたのは 18 基のみである。土坑 1 ～ 4 はトレンチ 3 内で北側土層セクション面で確認されたが部分的調査のみであった。土坑 5 ～ 18 は本調査区域から確認された。(計測値は第 33 表) ピット状遺構は第 58 図に深度を記載した。

土坑 1（第 57 図）

トレンチ 3 の西側寄りから確認された。遺構の壁は垂直に立ち上がる。覆土はボソボソした軟質土が入り込む。遺物は出土していない。時期・性格とも不詳。

土坑 2（第 57 図）

トレンチ 3 のほぼ中央部から確認された。プランは円形を呈すると思われる。壁はほぼ垂直に立ち上がる。底面は凹凸がある。覆土下層はボソボソのロームブロックを混入する黒色土。遺物は縄文土器細片が 2 点混入する。時期・性格とも不詳。

土坑 3（第 57 図）

プランは円形を呈すると思われる。底面にピットをもつ土坑で壁は緩やかな傾斜をもって立ち上がる。版築より古い遺構で粘土質の白褐色を含む。遺物は上層からカワラケ細片 11 点が出土した。土坑の時期・性格とも不詳。

土坑 4（第 57 図）

トレンチ 3 の東寄りで確認された。プランは円形を呈すると思われる。70 ㎝以上を掘り下げたが底面までは未掘である。壁は急傾斜をもって立ち上がる。覆土は締り、粘性ともに弱い。ローム粒、ロームブロック (Φ 20 ㎜) を混入する。下層は茶褐色土。遺物の出土はない。時期・性格は不詳。

土坑 5（第 58・59 図）　遺物（第 60・62 図）

調査区の北壁寄りから確認され遺構の北半分が調査区外である。全体像は明らかにし得ないが、プランはほぼ円形でやや開口部が開く筒状の井戸と思われる。東西径 1.45 m、南北径は確認径が 0.9 m、推定では東西径を超えると思われる。作業安全上深さは 1.1 mまでを人力で調査した。調査終了際に遺物と底面までの深さ確認のため重機による深掘りを行った。結果、井戸内の覆土主体層は粘性に富む褐色土で、一度に埋め戻されたように充填されていた。底面は 0.6 m程と狭くなり黒色粘土層が出てきた。深さは約 2.4 mに達した。遺物は上層から板碑 2 片 (第 62 図)、瓦質のこね鉢 (第 60 図) が出土した。重機による深掘りで断片と倒立した完形板碑の出土を見た。

土坑 6（第 58 図）

ピット状の土坑である。土坑 18 と重複するが新旧関係は不明である。遺構プランは楕円形で、底面は狭い。壁はほぼ直に立ち上がり筒状をなす。長径 0.53 m、短径 0.42 m、深さ 0.8 mを測る。覆土は 3 層で全体として軟質でボソボソしている。遺物は出土していない。

土坑 7（第 58 図）

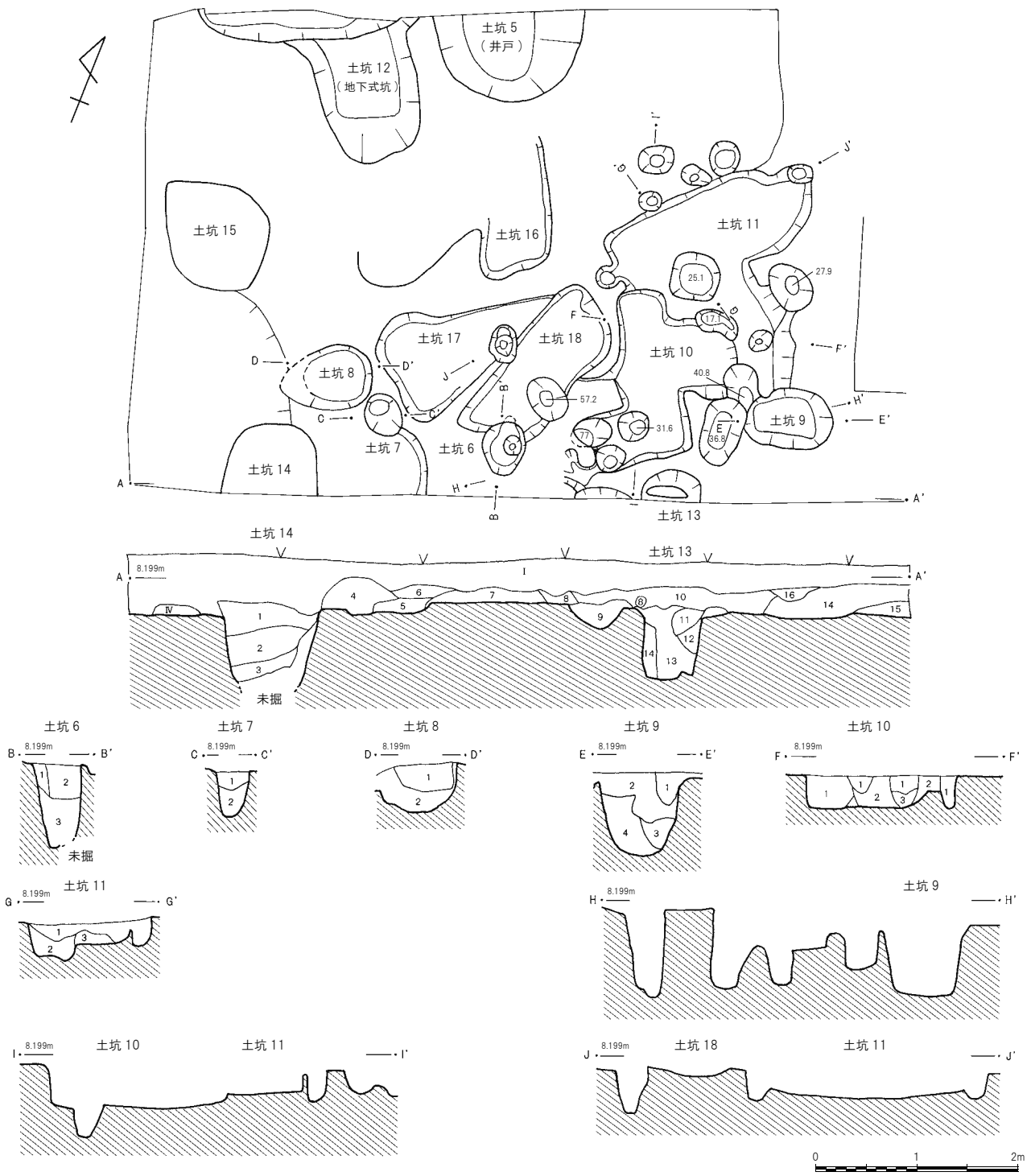
ピット状の土坑である。北側は浅い掘り込みと重複する。遺構プランは楕円形で、底面は狭い。壁はほぼ直に立ち上がり筒状をなす。長径 0.45 m、短径 0.35 m、深さ 0.45 mを測る。覆土は 2 層。遺物は出土していない。

土坑 8（第 58 図）

遺構プランは楕円形を呈し、底面は丸底状をなし、比較的緩く立ち上がる。長径 0.9 m、短径 0.65 m、深さ 0.45 mまでを掘るが底面までは未掘。覆土下層は締りのある黒褐色土。遺物は出土していない。

土坑 9（第 58 図）

遺構のプランは隅丸長方形を呈するものと思われ、底面は鍋底状をなし、壁は比較的直に立ち上がる。



トレンチ 2 南壁
1. 混土　黒褐色ブロックを含む
2. 黒色ブロックを多く含む
3.2 層より黒色土含む
4. 茶褐色土　ローム小粒子含む
5. 茶褐色土　ローム小ブロック含む
6. 暗褐色土
7. 茶褐色土　ロームブロック含む
8. ロームブロック塊
9. 褐色土
10. 茶褐色土、 黒色ブロック含む
11. グズグズの茶褐色土
12. ボソボソの茶褐色土　ロームブロック混じる
13. 茶褐色土
14. 茶褐色土　ロームブロック・黒色土混じる
15. ローム少し混入
16. 版築

土坑 6
1. 茶褐色土　ボソボソのロームブロック含む
2. 黒褐色土　軟質
3. 暗褐色土　締り強

土坑 7
1. 褐色土
2. 褐色土　1 層より暗い

土坑 8
1. 褐色土
2. 黒褐色土　締り有

土坑 9
1. 黒褐色土　ローム多く含む
2. ロームブロックと黒色土の混入
3. 黒色が多い
4. 茶褐色土　ロームブロック魂含む

土坑 10
1. 黒褐色土　ローム小ブロック含む、 軟質
2. 茶褐色土　締り有、 ローム小ブロック混入
3. 褐色土　締り有、 ローム小ブロック混入

土坑 11
1. 褐色土　黒色ブロック含む
2. 褐色土　ローム小ブロック含む
3. 黒褐色土　ローム小ブロック含む

第 58 図　滝遺跡第 35 地点土坑 (1/60)

長径 0.9 m、短径 0.58 m、深さ 0.82 mを測る。覆土下層の大半にはロームブロック塊が入り込む。遺物は出土していない。

土坑 10（第 58 図）

遺構プランは長方形を呈する。土坑 11、北側で直交する方形土坑及びピット状土坑との新旧関係は不明である。底面は平坦で、壁は直に立ち上がる。長径 1.65 m、短径 0.45 m、深さ 0.35 mを測る。遺物は志野焼皿片、焙烙片・カワラケ細片が出土している。

土坑 11（第 58 図）

土坑 10 と一部重複する。ほぼ東西に長い方形を呈する。長径 1.8 m、短径 0.9 m、深さ 0.2 m前後を測る。底面は皿状を呈する。長軸側にピットが 2 基穿たれる。遺物はカワラケ細片 3 点が出土した。

土坑 12（第 58・59 図）

プラン確認段階では地下式坑という認識はなく不整形の土坑としていたが、地下式坑南側の入口開口部から横穴状の主体部へ落ち込む部分までを確認できた。主体部の大半が調査区域外にあるため、全体の形状を確定できないが、おそらくは隅丸方形状の主体部を持つ地下式坑と思われる。入口開口部は上端で 0.9 × 1.25 m、下端で 0.65 × 0.85 mの方形状を呈する。深さは主体部にかけて傾斜し 0.23 ～ 0.36 mを測る。入口開口部と主体部の連結部で幅は 2.0 mである。かろうじて掘り下げれた主体部の深さは 0.8 m足らずである。覆土中層には落盤した天井部のローム塊が見られた。遺物は入口の開口部プラン直上から板碑断片が出土したのみである。

土坑 13（第 58 図）

ピット状の土坑であろう。南半分が調査区外に当たる。プランは円形を呈し、壁は垂直に立ち上がる。長径で 0.65 m、短径 0.33 m、深さ 0.60 mを測る。覆土表層は比較的硬く締まる。遺物はカワラケ細片 2 点が出土した。

土坑 14（第 58 図）

調査区の南西コーナー寄りから確認された。南半分が調査区外にかかる。プランは隅丸方形状を呈する。長径 0.95 m、短径 0.7 m、深さは 0.8 m掘った面で底面に達しないため作業安全上断念した。覆土は黒褐色を帯びグズグズの軟質土が入り込む。遺物は出土していない。

土坑 15（第 58 図）

調査区の中央西寄りで確認された。プランはほぼ円形をなす。長径 1.25 m、短径 1.0 m。壁は垂直に立ち上がる。深さは 0.5 mまで掘り下げたが未掘である。遺物は出土していない。

土坑 16（第 58 図）

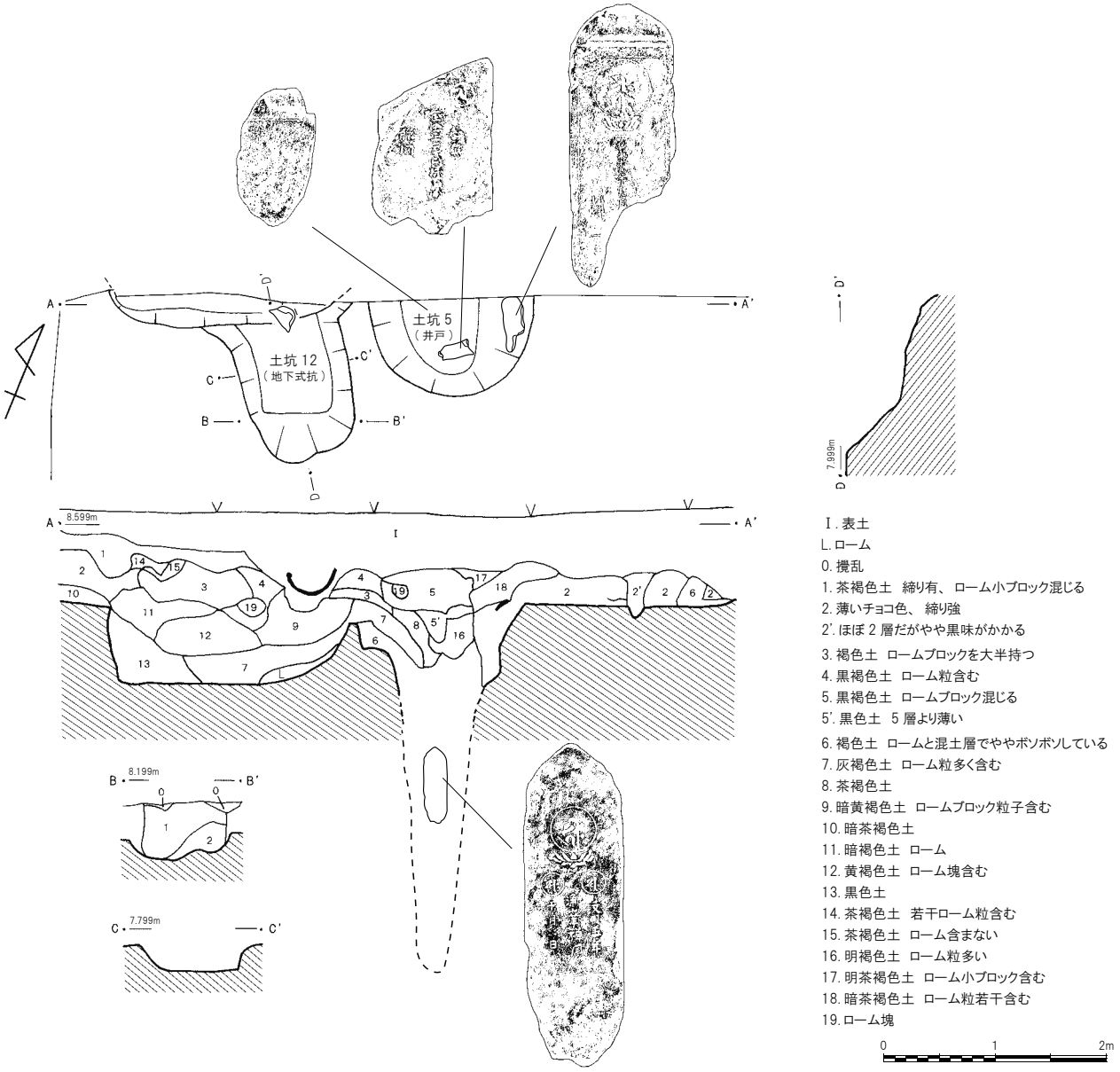
調査区のほぼ中央に位置する。遺構プランは長方形を呈すると思われるが地山への掘り込みが 5 ㎝程度と浅く、かつ西壁が不明で全貌が掴めない。長径は 1.25 m、短径 0.75 m。遺物は出土していない。

土坑 17・18（第 58 図）

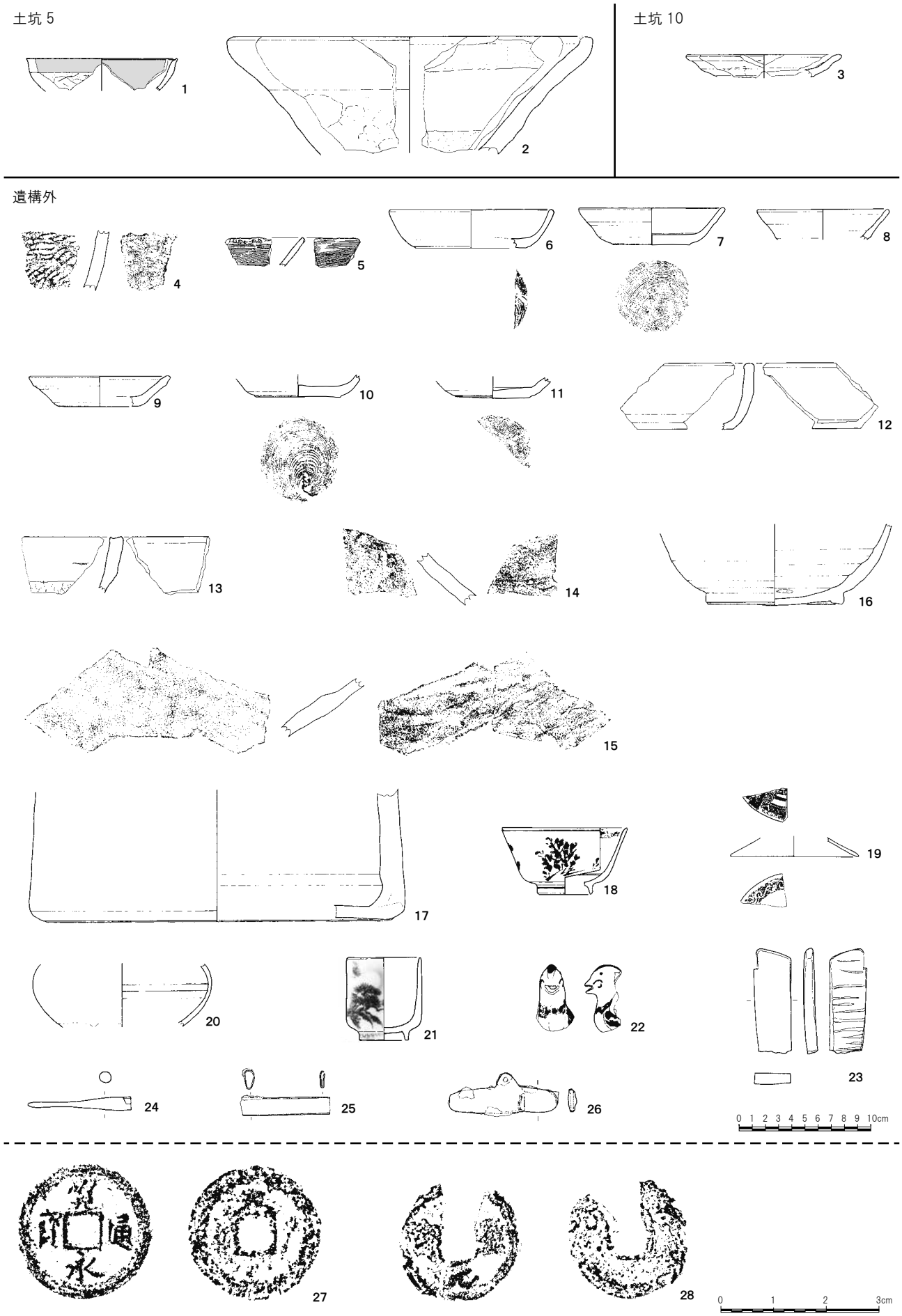
両者が重複するようである。土坑 18 が土坑 17 を切るようで重複部に深さ 45 ㎝のピットが穿たれるがいずれかに伴うかは不明。掘り込みは 0.1 m未満と浅く、遺構として扱うかどうかも判然としないが方形遺構の存在を記載しておく。土坑 17 は長径 1.8 m、短径 1.1 m、深さ数㎝程度である。土坑 18 は、土坑 6 と重複する。遺構はほぼ長方形を呈し、底面は平坦で壁は浅いが直に立ち上がる。長径 1.8 m、短径 0.75 m、深さ 4 ～ 8 ㎝。遺物は出土していない。

第 33 表　滝遺跡第 35 地点土坑一覧表 (単位 cm)

No.	平面形態	確認面径	底径	深さ	備考
1	不明	—	—		
2	円形	—	—	—	
3	円形	—	—	—	
4	円形	—	—	—	
5	円形	145 × 90	—	—	井戸
6	楕円形	53 × 42	—	80	
7	楕円形	45 × 35	—	45	
8	楕円形	90 × 65	—	45	
9	隅丸長方形	90 × 58	—	82	
10	長方形	165 × 45	—	35	
11	長方形	180 × 90	—	20	
12	隅丸方形か	125 × 90	85 × 65	23 ～ 36	地下式坑
13	円形	65 × 33	—	60	
14	隅丸方形	95 × 70	—	—	
15	円形	125 × 100	—	—	
16	長方形	125 × 75	—	5	
17	方形	180 × 110	—	10 未満	
18	長方形	180 × 75	—	4 ～ 8	



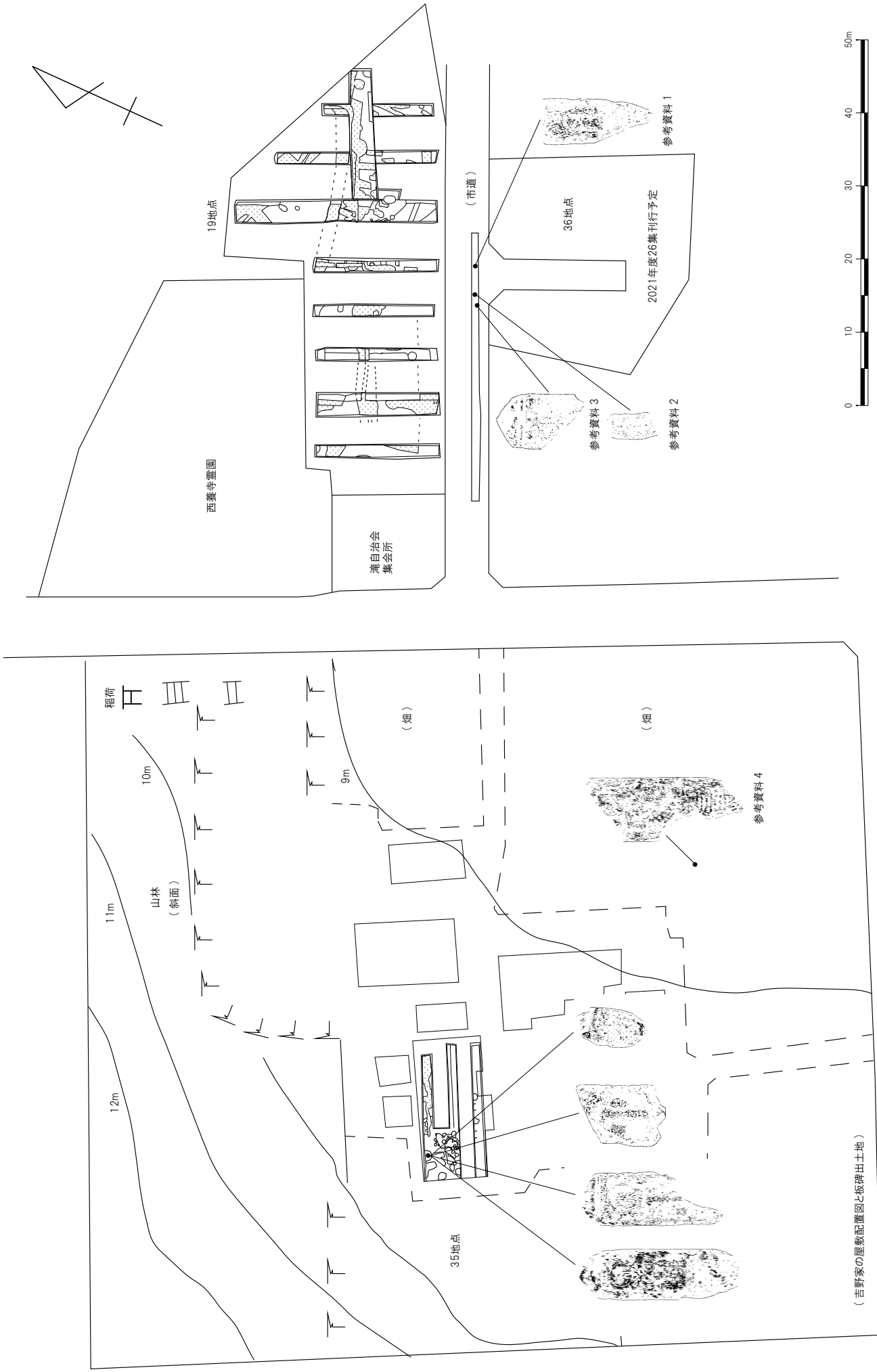
第 59 図　滝遺跡第 35 地点土坑 5(井戸)・土坑 12(地下式坑)(1/60)



第 60 図　滝遺跡第 35 地点出土遺物 (1/4・1/1)

第 34 表　滝遺跡第 35 地点出土遺物観察表 (単位 cm・g)

図版番号	出土遺構	種別・器種	口径・長さ	底径・幅	高さ・厚さ	重量	技法・文様・備考	時期・型式
第 34 表 -1	土坑 5	土師器・坏	11.4	―	(2.5)	―	外面口縁部・内面は赤彩、体部ヘラケズリ	7 世紀末～8 世紀初頭
第 34 表 -2		瓦質土器・こね鉢	27.8	―	(8.9)	―	口縁部横ナデ、体部外面指頭押圧、内面口縁部内面と腰部内面は使用による摩耗著しい	14・15 世紀
第 34 表 -3	土坑 10	陶器・皿	11.8	―	(2.2)	―	志野、長石釉	17 世紀前半
第 34 表 -4	遺構外	縄文土器・深鉢	―	―	(1.0)	―	胴部片、轆轤成形、繊維含む	縄文前期
第 34 表 -5		土師器・甕	―	―	0.5	―	内外面ハケ目、口唇部に浅い刻み	古墳初頭
第 34 表 -6		土器・カワラケ	12.4	8.2	2.9	―	轆轤成形	17 世紀
第 34 表 -7		土器・カワラケ	11.2	5.8	3.8	―	轆轤成形、轆轤左回転	17 世紀
第 34 表 -8		土器・カワラケ	10.0	―	(2.4)	―	轆轤成形	17 世紀
第 34 表 -9		土器・カワラケ	10.8	6.0	2.4	―	轆轤成形	17 世紀
第 34 表 -10		土器・カワラケ	―	6.3	(1.7)	―	轆轤成形、轆轤左回転	17 世紀
第 34 表 -11		土器・カワラケ	―	5.6	(1.6)	―	轆轤成形、轆轤左回転	17 世紀
第 34 表 -12		土器・焙烙	―	―	5.0	―	体部は丁寧に横ナデ	17 世紀
第 34 表 -13		土器・焙烙	―	―	(4.3)	―	胴部下位にちぢれ	17 世紀
第 34 表 -14		焼締陶器・甕	―	―	1.1	―	常滑、甕胴部片	17 世紀以前カ
第 34 表 -15		焼締陶器・甕	―	―	(1.3)	―	常滑、甕腰部	17・18 世紀
第 34 表 -16		灰釉陶器・片口	―	10.5	(6.0)	―	瀬戸、見込みに目痕	18 世紀初頭
第 34 表 -17		焼締陶器・醤油樽	―	26	(10.0)	―	常滑、回転台整形、鉄釉、底面周辺に砂目	近代
第 34 表 -18		染付磁器・碗	9.4	4.0	5.1	―	轆轤成形。草花文。	1820 年～
第 34 表 -19		染付磁器・蓋	9.8	―	(1.5)	―	瀬戸、飯碗蓋、轆轤成形、内面の連続 S 字文は墨弾き	1820 年～
第 34 表 -20		青緑釉陶器・土瓶	―	13.6	(3.8)	―	胴部片、轆轤成形	19 世紀前半
第 34 表 -21		染付磁器・茶碗	5.6	3.6	6.3	―	瀬戸、筒形、印刷	近代
第 34 表 -22		染付磁器・水滴	―	―	(5.1)	―	瀬戸、鳥形、型成形	19 世紀前半
第 34 表 -23		砥石	8.0	2.8	0.9	―	凝灰岩、下端は打ち割りのまま、1 面に鑿痕を残す	不明
第 34 表 -24		キセル	7.8	1.0	0.8	―	吸口、銅製	19 世紀以降
第 34 表 -25		小柄	6.8	1,3	0.9	―	柄、銅製	不明
第 34 表 -26		火打金	8.3	3.1	0.3	―	鉄製	不明
第 34 表 -27		銅銭	2.6	―	0.8	―	寛永通宝、新寛永	1668 年～
第 34 表 -28		銅銭	2.4	―	0.6	―	渡来銭、□元通報	不明



第 61 図　滝遺跡第 35 地点及び滝三丁目市道ガス管工事立会板碑出土地 (1/700)

出土板碑について　（第 35 表）

滝遺跡 35 地点土坑 5(井戸遺構跡) から出土した板碑と併せて、隣接地で発掘調査以外の不時の発見での未報告の板碑についても参考資料として概略する。

井戸内から出土した板碑は 4 基である。第 62 図 2 が井戸東側の落ち際より表面を上にして斜位に出土した。3 は南寄り約 80 ㎝の深さから 2 同様、表面を上にして斜位に出土。1 と 4 は重機による深掘りで確認された。1 は完形である。深さ約 1.4 mでほぼ直立した状態で出土した。4 は断片。1 ～ 3 は紀年銘が読み取れる。出土深度から判断して 1(1473 年) → 3(1451 年) → 2(1412 年) の順で井戸内に投棄された。いずれも 15 世紀代造立のもので、高さ約 50 ㎝、幅も 20 ㎝前後の移動が容易な小型板碑であった。法名も禅門・禅尼や市域では初見の阿闍梨といった僧侶と見られる人物銘が確認できる。この時期の個人銘板碑の盛行を裏付けるものである。法名と元号月日との位置関係が、中央に元号月日、脇に法名があっ

第 62 図　滝遺跡第 35 地点出土遺物 (1/6)

たものが、15 世紀後半頃を境に、板碑が供養塔から墓碑的性格へと転化していく過程を語るように中央に法名が刻される例が増加していく。

板碑は 13 世紀前半に出現し、同後半には広がりを見せ、その後 14 世紀半ば頃に造立の最盛期となる。市域内の板碑造立推移をみても 14 世紀半ば～後半にピークを迎え、15 世紀代になると減少はするものの存続を維持し結衆板碑造立の画期をなす。16 世紀になると衰退消滅し江戸期になると葬送儀礼には墓塔、民間信仰的なものは庚申塔や馬頭観音などの石塔類へと変化していく。

ここ滝地区の新河岸川沿いは板碑分布が 27 基と市内でも密度が高く、市域の最古、最新の板碑が所在している。35 地点東側の川寄りの市道のガス管埋設 (2020.06.18 立会) の際、幅員 0.4 m、長さ 5 mの狭小な工事区間内より出土した板碑 3 基を第 63 図に参考資料として掲載した。出土した深さは 60 ㎝程であった。上層は灰褐色粘土層、下層は茶褐色粘土層で板碑は下層より出土した。35 地点は標高 9.5 m前後でローム層が確認できたが、工事区間は標高 8 mに下がり、ローム層はなく確認時の現場は浸水していた。

参考資料 1 は背面を上に、3 は表面を上に出土した。3 基とも掘り込みは確認できなかった。1 は生前に死後の安楽を祈願する逆修銘を刻む板碑である。16 世紀前半で市域でも最新に分類されよう。3 は 14 世紀の中型板碑で彫りもしっかりしている。推測の域を出ないが、近接して年代幅がある板碑出土は新河岸川の氾濫によるものと考えられよう。板碑以外に瀬戸・美濃の磁器端反碗片 (幕末) が出土している。もう 1 基、参考資料 4 が吉野公一氏敷地内の 35 地点より 50 m南東部の畑から近年耕作中に出土した。幅 30 ㎝で、残存高で 74 ㎝を測る。有に 90 ㎝を越える大型板碑である。紀年銘は磨滅か判読できない。主尊は阿弥陀三尊である。14 世紀以前のものであろう。

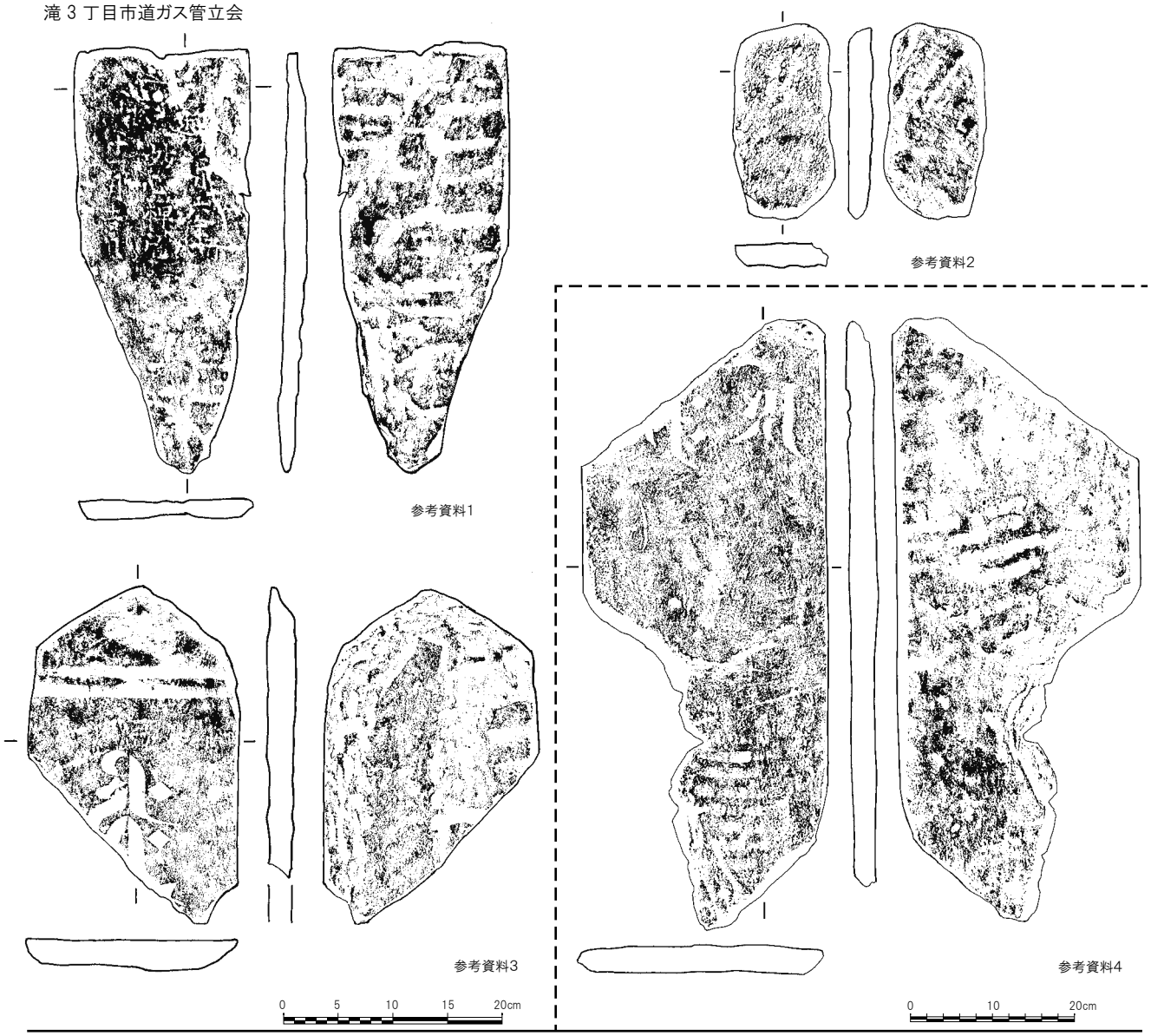
滝の吉野家は、中世文書を所持していた家で、文禄 2(1593) 年の板碑型の墓碑が西養寺墓地 (吉野家墓地) に所在する。中世後期にこの地に土着し、戦国時代には後北条氏の支配下で福岡郷小代官を務め、北条氏滅亡で農民になり、江戸時代全期間を通して川越藩領福岡村の代々名主を務めた。吉野家は、長屋門を構える屋敷に耕地・屋敷地を合わせて九町六畝歩の面積を所有する村一番の高持百姓であった。

近年は、発掘調査による出土板碑の確認数が増加してきている。1981 年の県教委による基礎調査で旧上福岡地内で 64 基､旧大井地内で 41 基の計 105 基が報告された。その後､旧上福岡地内で 107 基増え「上福岡の板碑」(2000 年) では 171 基が報告されてきている。この内､長宮遺跡から 47 基､鷺森遺跡 30 基､他に川崎遺跡から 5、滝遺跡、城山遺跡から各 2 基の計 86 基が発掘による出土板碑である。

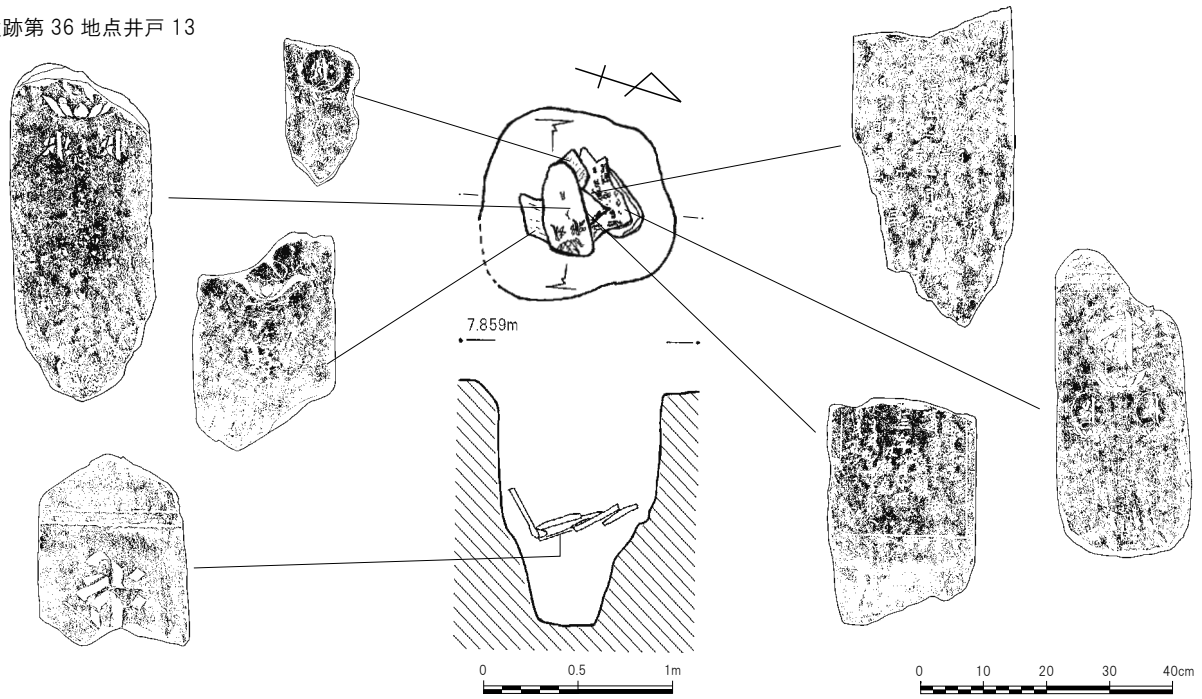
合併 (2005 年) 後から現在 (2020 年) までのふじみ野市域の発掘調査での出土板碑は増え続け 106 基の到達である。最多は本村遺跡である。報告書に掲載した主尊・年号などが刻された断片も含め 66 基を数え全体の 62％である。古道に近い掘立柱建物跡周辺の井戸遺構等から出土する傾向が読み取れる。次に長宮遺跡の 16 基、出土は長宮氷川神社東側に集中する。特に 2011 年調査の 36 地点の井戸覆土中層から 7 点の板碑が一括出土した (第 63 図)。この内 5 基の紀年銘が判読できるが、最古は暦応 3 年 (1340)、最新は応仁 3 年 (1469) と年代の幅は 129 年の隔たりがある。他に大井氏館跡遺跡から 11 基、神明後、川崎、松山遺跡からは各 1 基づつである。滝遺跡内からは過去に 2 基が出土。今回不時発見で確認された地点から 100 m南東部の新河岸川寄り、小字丸橋内の 8 地点からの出土である。本報告の 8 基を加えると滝遺跡からの出土板碑は 10 基を数える。

さて、ここで出土遺構をみると井戸、地下式坑、溝の順での出土だが、本村遺跡、長宮遺跡共におよそ 7 割は井戸内からが占める。本調査例や長宮 36 地点の調査例にみるまでもなく板碑の紀年銘から井戸の使用年代に比定し得ないところである。板碑は造立からある特定の期間のみに本来の意味があり、紀年銘より時間を経て不要な板碑を完全に埋まりきらない井戸に投棄、廃棄されたのである。意識的に井戸に投

滝 3 丁目市道ガス管立会



長宮遺跡第 36 地点井戸 13



第 63 図　滝三丁目市道ガス管工事立会出土遺物 (1/6・1/8)、長宮遺跡第 36 地点井戸 13(1/40)、出土遺物 (1/12)

棄した事象である。

合併後 15 年余の発掘調査で 1981 年の板碑基礎調査に匹敵する板碑が出土したこともふまえ、鑿痕跡の情報等も洗い出すなどの製作技法にも一歩踏み込んだ「出土板碑の集成」がすみやかに手がけられることを期したい。

（坪田幹男）

引用・参考文献

「埼玉県板石塔婆調査報告書」（1981 年）埼玉県教育委員会

上福岡市史「資料編第 2 巻古代・中世・近世」（1997 年）

市史調査報告書第 21 集　「新河岸川・福岡河岸の民家」（2003 年）

〃　　18 集　「上福岡の板碑」（2000 年）

大井町史料第 10 集　「大井町の板碑」（1981 年）

第 6 回特別展図録「発掘される板碑」（1995 年）毛呂山町歴史民俗資料館

ふじみ野市埋蔵文化財調査報告第 12 集「市内遺跡群 11」（2014 年）

坂詰秀一 1996「板碑研究の一視点」『研究紀要第 2 号』毛呂山町歴史民俗資料館

宮瀧交二 1992「板碑の廃棄に関する基礎的検討（一）」『研究紀要』第 9 号（財）埼玉県埋蔵文化財調査事業団

第 35 表　滝遺跡出土板碑観察表

※他に銘・線無の石製品（板碑片）一点が土坑12から出土している。計測値中の〔　〕は現存値で、単位はcmである。

図版No.	1	2	3	4
主尊	阿 3	阿 1	阿 3	
銘文	文明五年 浄華禅門 十月二日	壬 応永十九年九月 辰　阿闍梨	〈欠〉 〈欠〉 観□ 宝徳三年□月 禅門 〈欠〉	□
枠線	形状設定線有	画面設定線有	無	形状設定線有
高さ	58.2	50.7	〔30.0〕	〔24.5〕
上幅	17.5	18.5	20.3	12.5
下幅	17.4	18.5	21.4	12.0
厚さ	1.8	2.3	2.5	2.3
形状	完形	一部欠損	破片	破片
備考	土坑5（井戸）の深掘り 下層より出土 鑿幅12㎜右下→左上へ	土坑5プラン上より出土 裏面に鑿痕顕著 鑿幅11㎜左→右上へ	土坑5の深さ65㎝より 出土	土坑5の深掘りで出土 鑿幅9㎜左→右
西暦	1473	1412	1451	

※表の構成は「埼玉県板石塔婆調査報告書」に準拠した。

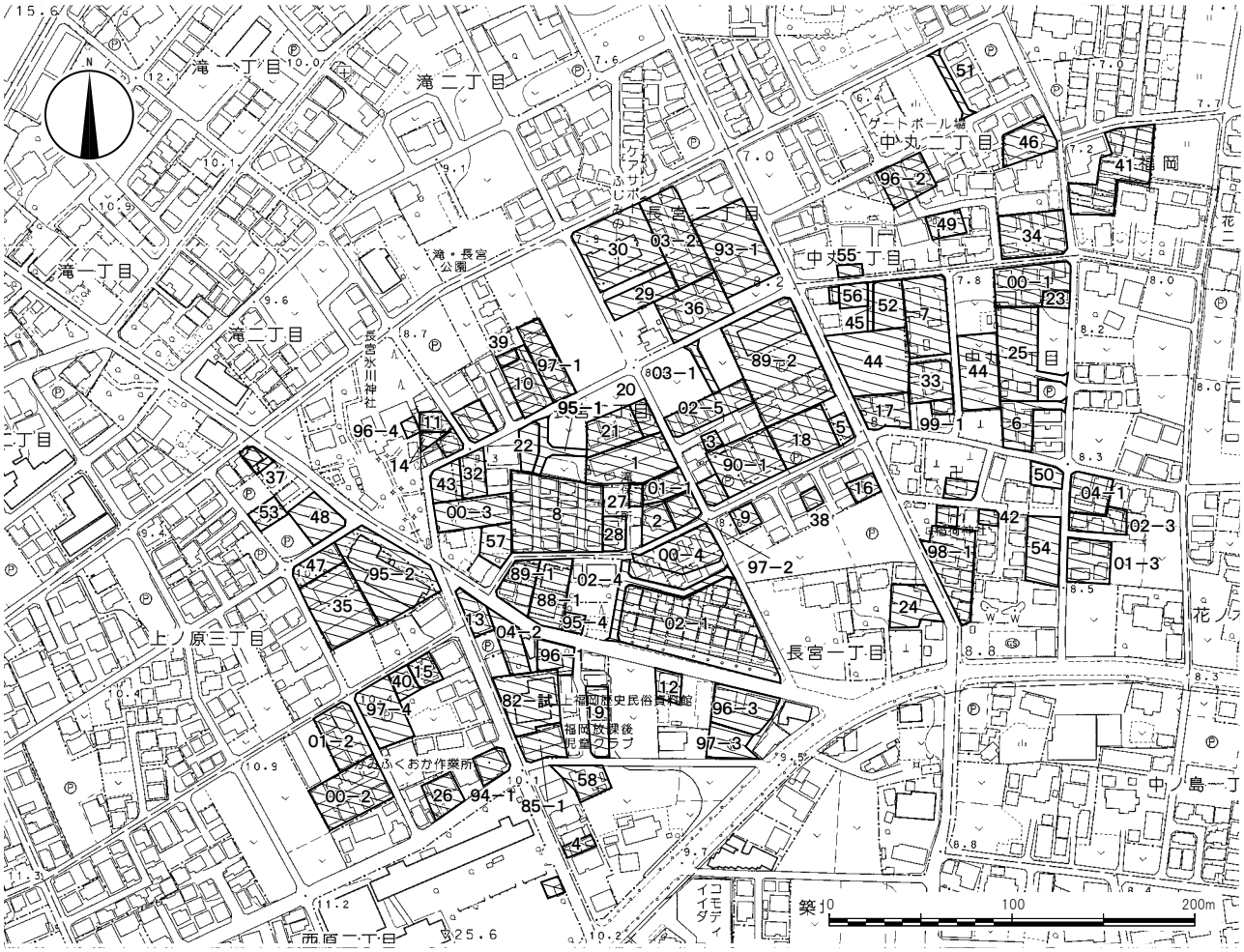
図版No.	参考資料 1	参考資料 2	参考資料 3	参考資料 4
主尊	阿 1		阿	阿 3
銘文	〈欠〉 逆　大永六年 修　妙心禅尼 十一月吉日		〈欠〉	〈欠〉
枠線	無	無	無	無
高さ	〔38.6〕	〔18.8〕	〔28.7〕	〔74.0〕
上幅	15.9	〔8.7〕	19.5	29.5
下幅	15.2	—	—	29.9
厚さ	2.1	2.3	2.7	3.4
形状	一部欠損	破片	破片	一部欠損
備考	裏面鑿痕顕著 鑿幅13㎜右→左へ	裏面鑿痕顕著 鑿幅15㎜左下→右上へ 断片、他に破片一有り	鑿幅13㎜右→左へ	吉野家屋敷内畑より出土 銘、摩滅か、削消か? 鑿痕顕著　鑿幅14㎜ 左→右上へ　基部左→右へ
西暦	1526			

第 7 章　長宮遺跡の調査

Ⅰ　遺跡の立地と環境

長宮遺跡は、武蔵野台地の北東端、荒川低地に舌状に突き出た武蔵野段丘面の台地東側をおりた一段低い立川段丘面に立地している。この低位の段丘面には「熊の山」と呼ばれた山林を湧水源とする清水が流れ (現在は排水溝として利用)、幅 100 mほどの緩い小支谷を形成し、清水の北側左岸に滝遺跡、南側右岸に長宮遺跡が分布する。北東側は荒川低地の沖積地と接し、500 m南側には福岡江川が流れ、標高 9 ～ 10 m前後の微高地を形成する。遺跡の範囲は南北 300 m、東西 500 m以上ある。宅地開発が進むが部分的に畑が残っている。

遺跡の西方には長宮氷川神社があり、この神社の縁起伝承には「長宮千軒町」として繁盛したが、戦国期に壊滅した旨が記されている。周辺の遺跡は、北側に縄文時代早・前期、古墳時代前・後期から奈良・平安時代の遺跡である滝遺跡、南側には飛鳥・奈良・平安時代、中近世の松山遺跡が隣接する。1977 年の保育園建設に伴う緊急調査で中世の屋敷地と思われる遺構群を検出したのをはじめ、宅地造成などにより 2020 年 4 月現在 95 ヶ所で調査を行っている。主たる時代と遺構は縄文時代早期後葉から前期・中期・後期前葉までの集落跡、南側の松山遺跡寄りに飛鳥時代の住居跡、中世末から近世初頭の屋敷跡や長宮氷川神社参道に関係のある溝跡などである。



第 64 図　長宮遺跡の地形と調査区 (1/4,000)

第 36 表　長宮遺跡調査一覧表

地区 地点	所在地	調査期間 ( ) は試掘調査	開発面積 (㎡)	調査面積 ( ) は試掘	調査原因	確認された遺構と遺物	備考	所収報告書
1 次	長宮 2-1-23	1977.10.3 ～ 30	1,000		保育園	土坑、柱穴、溝、板碑 等		川崎 3 次・長宮
2 次	長宮 2-1-27	1978.4.25 ～ 5.15	235		住宅建設	土坑、溝、石臼 等		上埋 I
3 次	長宮 2-5-11	1978.7.24 ～ 30	111		住宅建設	土坑、遺物なし		上埋 I
4 次	長宮 1-1-14	1978.10.6 ～ 9	37			古代住居跡 1、土師器 等		上埋 I
5 次	長宮 2-5-2	1979.4.16 ～ 20	110			縄文時代住居跡 1、縄文土器		上埋 II、IV
6 次	中丸 1-4-13	1980.4.23・24	515			遺構なし、陶磁器		上埋 III
7 次	中丸 1-3-6	1980.5.13 ～ 31	869			溝、井戸、縄文土器 等		上埋 III
8 次	長宮 2-1-10 ～ 13	1980.9.8 ～ 10.8	1,900		宅地造成	土坑、溝、井戸、板碑 等		上調 1
9 次	長宮 1-4-10	1980.9.21 ～ 30	200			遺構なし、陶器		上埋 III
10 次	長宮 2-3-4	1980.12.5 ～ 15	485			土坑、溝、板碑 等		上埋 III
11 次	長宮 2-2-10	1980.12.16 ～ 18	117			溝、縄文土器 等		上埋 III
12 次	長宮 1-2-7	1981.5.26 ～ 30	160		駐車場	遺構なし、縄文土器		上埋IV
13 次	長宮 1-2-13	1981.6.3 ～ 11	251		個人住宅	溝、縄文土器		上埋IV
82- 試	長宮 1-2-12		1,000		歴史民俗資料館	溝		S57 上社
14 次	長宮 2-5-8	1985.9.24 ～ 27	156		個人住宅	溝、大甕		上埋VIII
15 次	西原 2-2-1	1985.10.22 ～ 31	116		個人住宅	遺構なし、縄文土器		上埋VIII
85-1	長宮 1-2-11	(1986.3.6 ～ 15)	400		学童保育	溝		S60 上社
16 次	長宮 1-4-7	1986.6.9 ～ 17	173		個人住宅	遺構なし、縄文土器		上埋IX
17 次	中丸 1-3-11	1987.6.19 ～ 30	504		個人住宅	土坑、縄文土器		上埋 X
88-1	長宮 1-3-8	(1988.9.13 ～ 16)	657		住宅建設	遺構遺物なし		上埋 11
89-1	長宮 1-3-9	(1989.9.20 ～ 30)	448		住宅建設	遺構なし、縄文土器 等		上埋 12
89-2	長宮 2-5-19	(1989.11.14 ～ 24)	1,778		住宅建設	遺構なし、縄文土器		上埋 12
90-1	長宮 2-5-4	(1990.11.27 ～ 30)	919		共同住宅	溝、遺物なし		上埋 13
18 次	長宮 2-5-3	1992.10.6 ～ 12.2	915		共同住宅	縄文時代住居跡 1、集石、土坑、溝、縄文土器		上埋 15
19 次	長宮 1-2-21・35	1992.12.17 ～ 1993.1.22	467		駐車場	古墳時代住居跡 1、須恵器 等		上埋 15
93-1	長宮 2-4-2 の一部	(1994.2.10 ～ 28)	1,501.54		共同住宅	土坑、溝、板碑		H5 上社
94-1	西原 2-5-1	(1994.7.25 ～ 8.2)	314		心身障害者 デイケア施設	溝、遺物なし		上埋 17
20 次	長宮 2-1-22 の一部	1995.4.10 ～ 5.9	169.59		個人住宅	溝、陶器 等		上埋 18
21 次	長宮 2-1-63・65	(1995.6.19 ～ 8.8)	360.94		個人住宅	土坑、溝、井戸、陶磁器 等		上埋 18
95-1	長宮 2-1-20 外	(1995.8.9 ～ 28)	421		市道敷設	溝、縄文土器 等		上埋 18
95-2	上ノ原 3-1-6 外 4 筆	(1995.10.4 ～ 12)	1,528		共同住宅	溝、縄文土器		上埋 18
22 次	長宮 2-1-60	(1995.10.23 ～ 25) 1995.10.27 ～ 11.9	269		駐車場	土坑、ピット、溝、井戸、陶器 等		上調 6、上埋 18
95-4	長宮 1-3-13	(1995.12.12 ～ 25)	120		駐車場	土坑、溝、縄文土器 等		上埋 18
96-1	長宮 1-2-16	(1996.7.12 ～ 18)	348.52		宅地造成	遺構なし、土師器 等		上埋 19
96-2	中丸 2-2-9 他 3 筆	(1996.11.7)	568		宅地造成	遺構遺物なし		上埋 19
96-3	長宮 1-2-4	(1997.1.14 ～ 21)	794.16		共同住宅	古代住居跡 1、溝状遺構、土師器		上埋 19
96-4	長宮 2-2-4	(1997.2.24)	204.78		社務所改築	遺構遺物なし		H8 上社
97-1	長宮 2-3-3	(1997.4.8・9)	611		農地天地返し	溝、土師器 等		上埋 20
97-2	長宮 2-1-2	(1997.4.9 ～ 11)	289		個人住宅	土坑、遺物なし		上埋 20
97-3	長宮 1-2-36・37	(1997.6.4・5)	423.33		駐車場	溝、土師器 等		上埋 20
97-4	西原 2-5-6	(1997.8.15 ～ 21)	753		駐車場	竪穴状遺構、土師器 等		上埋 20
98-1	中丸 1-2-4	(1998.11.24 ～ 27)	1,014		宅地造成	遺構なし、縄文土器 等		上埋 21
99-1	中丸 1-3-12	(1999.11.8 ～ 16)	98		個人住宅	溝、集石、縄文土器 等		上埋 22
00-1	中丸 1-4-7	(2000.7.4 ～ 11)	932		宅地造成	縄文時代住居跡 5、土坑、縄文土器 等		上埋 23
00-2	西原 2-4-8・10	(2000.7.17 ～ 24)	1,081		宅地造成	遺構遺物なし		上埋 23
00-3	長宮 2-1-17	(2000.8.21 ～ 23)	687		共同住宅	遺構なし、縄文土器		上埋 23
00-4	長宮 1-3-3A・4A	(2001.1.17 ～ 23)	1,118.9		宅地造成	土坑、陶磁器		上埋 23
23 次	中丸 1-4-7	2001.7.18 ～ 26	137.01		個人住宅	土坑、縄文土器		上埋 24
01-1	長宮 2-1-3	(2001.4.20 ～ 24)	330		個人住宅	遺構なし、縄文土器 等		上埋 24
01-2	西原 2-4-7	(2001.5.25)	634		共同住宅	遺構遺物なし		上埋 24
01-3	中丸 1-1-3	(2001.8.7 ～ 24)	513		共同住宅	道路状遺構、土坑、縄文土器 等		上埋 24
01-4	長宮 2-8-6	(2001.11.6)	130		個人住宅	遺構遺物なし		H13 上社
02-1	長宮 1-3-2 ～ 5	(2002.6.5 ～ 11)	3,536		宅地造成	古代住居跡 2、溝、土師器		上埋 25、H14 上社
24 次	長宮 1-4-3	(2002.6.20 ～ 7.2) 2003.1.30 ～ 2.14	575	72	個人住宅	古代住居跡 2、溝、土師器		上埋 25、H14 上社
02-3	中丸 1-1-5	(2002.9.3 ～ 11)	622		宅地造成	道路状遺構、陶磁器		上埋 25
02-4	長宮 1-3-31	(2002.9.20 ～ 25)	362.19		地区計画道路	溝、遺物なし		上埋 25
02-5	長宮 2-5-6	(2003.3.10 ～ 12)	827		宅地造成	縄文時代住居跡 1		H14 上社
03-1	長宮 2-5-30・32	(2003.9.16)	196.64		区画道路	遺構遺物なし		上埋 26
03-2	長宮 2-4-7	(2003.12.16 ～ 18)	1,123		宅地造成	井戸、陶磁器 等		上埋 26
04-1	中丸 1-1-11	(2004.11.26)	488		宅地造成	道路状遺構、遺物なし		上埋 27
04-2	長宮 1-2-15	(2004.12.7 ～ 9)	466		農地改良	遺構なし、縄文土器		上埋 27
25	中丸 1-4-8	(2007.2.15・16)	1,161	(20)	個人住宅	ピット、縄文土器 等		市内 3
26	西原 2-5-2 の一部	(2007.3.28)	594	(24)	個人住宅	遺構なし、縄文土器		市内 3
27	長宮 2-1-4	(2007.5.30・31)	174.58		個人住宅	溝、遺物なし		市内 4
28	長宮 2-1-8	(2007.5.31 ～ 6.5) 2007.6.6 ～ 22	188	(135) 135	個人住宅	土坑、ピット、井戸、陶磁器 等		市内 4

地区 地点	所在地	調査期間 ( ) は試掘調査	開発面積 (㎡)	調査面積 ( ) は試掘	調査原因	確認された遺構と遺物	備考	所収報告書
29	長宮 2-4-6 の一部	(2007.11.20 ～ 12.3) 2007.12.4・5	618	(145) 145	共同住宅	土坑、ピット、堀跡、溝、井戸、縄文土器 等		市内 4
30	長宮 2-4-6	(2009.9.28 ～ 11.2) 2009.11.4 ～ 12.8	1,362.1	(542) 445	老人福祉施設	土坑、ピット、溝、井戸、板碑 等		市内 7、8
31	欠番							
32	長宮 2-1-18	(2010.1.15 ～ 25) 2010.2.4 ～ 26	271	(75) 134	分譲住宅	土坑、ピット、溝、縄文土器 等		市内 7、8
33	中丸 1-3-2	(2011.5.19 ～ 31)	534	(169)	分譲住宅	集石土坑、土坑、ピット、溝、縄文土器 等		市内 14
34	中丸 2-2-2・46	(2011.6.27 ～ 7.16) 2011.11.2 ～ 12.1	914	(229) 276	分譲住宅	縄文時代住居跡 1、落とし穴、土坑、ピット、炉穴、溝、井戸、縄文土器 等		市内 11
35	上ノ原 3-1-4	(2011.9.9 ～ 26)	1,157.88	(178)	分譲住宅	炉穴、縄文土器 等		市内 14
36	長宮 2-4-3	(2011.10.4 ～ 17) 2011.10.21 ～ 11.14	981	(323.3) 656	分譲住宅	炉穴、土坑、ピット、溝、井戸、板碑 等		市内 11
37	上ノ原 3-6-6	(2011.11.8)	105	(9)	個人住宅	遺構遺物なし		市内 14
38	長宮 1-4-27	(2011.11.24・25)	101	(17)	分譲住宅	遺構遺物なし		市内 14
39	長宮 2-3-23	(2012.2.1)	130.54	(3)	個人住宅	遺構遺物なし		市内 14
40	西原 2-5-7 の一部	(2012.4.16)	201	(43)	個人住宅	遺構なし、須恵器		市内 15
41	福岡字丸橋 988-1 ～ 3、989-2 ～ 5、990-3	(2012.4.17 ～ 25) 2012.6.11 ～ 7.25	1,152.62	(240) 370	分譲住宅	縄文時代住居跡 6、炉穴、落とし穴、土坑、ピット、溝、井戸、縄文土器 等		市内 12
42	中丸 1-2-24	(2012.8.3)	101	(0.8)	分譲住宅	遺構遺物なし		市内 15
43	長宮 2-1-72	(2013.2.27 ～ 3.1)	231	(45)	個人住宅	土坑、ピット、溝、縄文土器 等		市内 15
44	中丸 1-3-3、4-5	(2013.5.14 ～ 6.24) 2013.6.25 ～ 7.30	1,329	(513) 165	分譲住宅	縄文時代住居跡 2、炉穴、落とし穴、土坑、溝、ピット、井戸、縄文土器 等		市内 13
45	中丸 1-3-17・18、3-5 の一部	(2013.8.7 ～ 10)	223	(70)	道路	溝、土師器 等		市内 18
46	中丸 2-22・13	(2013.9.6 ～ 10)	488	(155)	高齢者デイサービスセンター	遺構なし、磁器		市内 18
47	上ノ原 3-1-5	(2013.10.10)	330	(74)	共同住宅	遺構遺物なし		市内 18
48	上ノ原 3-6-1	(2014.4.2 ～ 8)	555	(188.4)	分譲住宅	溝、井戸、遺物なし		市内 20
49	中丸 2-2-4	(2014.10.23 ～ 30)	293.09	(61.8)	共同住宅	炉穴、溝、遺物なし		市内 20
50	中丸 1-2-17	(2015.3.16)	228	(26)	分譲住宅	遺構なし、陶磁器		市内 20
51	中丸 2-3-45・46	(2012.4.5)	176	(15)	道路	遺構遺物なし		市内 15
52	中丸 1-3-24	(2016.3.11 ～ 17)	484	(110.14)	分譲住宅	土坑、ピット、溝、井戸、縄文土器 等		市内 22
53	上ノ原 3-6-3	(2016.7.11)	223	(53.13)	共同住宅	遺構遺物なし		市内 24
54	中丸 1-2-16	(2017.5.16 ～ 23)	800	(241.59)	分譲住宅	縄文時代住居跡 1、土坑、溝、縄文土器 等		市内 24
55	中丸 2-2-6 の一部	(2017.6.29)	191	(34.2)	個人住宅	土坑、ピット、溝、石器 等		市内 24
56	中丸 1-3-37	(2017.7.5)	123	(22.5)	個人住宅	遺構なし、土製品		市内 24
57	長宮 2-1-16	(2018.2.15)	374.63	(45)	個人住宅	土坑、縄文土器		市内 24
58	長宮 1-1-7	(2018.7.2)	360	(58.7)	寄宿舎	溝、土師器 等		市内 25

Ⅱ　長宮遺跡第 58 地点

（1）調査の概要

調査は寄宿舎建設に伴うもので、原因者より 2018 年 5 月 15 日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の南西部に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため 2018 年 7 月 2 日に試掘調査を実施した。

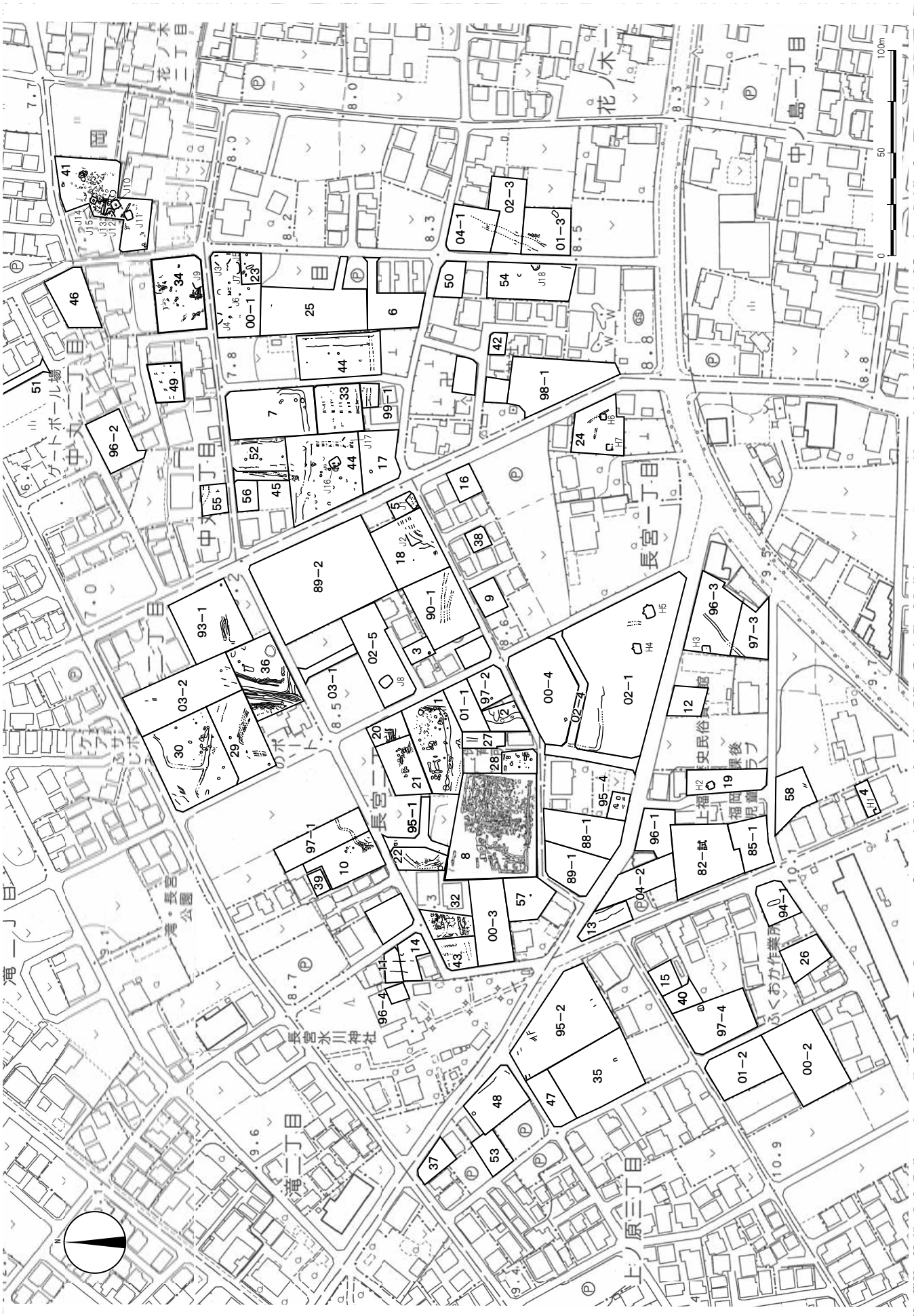
試掘調査は幅約 1.5m のトレンチ 3 本を設定し、重機による表土除去後人力による表面精査を行った。現地表面から地山ローム層までの深さは約 40 ～ 50 ㎝である。

調査の結果、溝 1 条と土師器片・須恵器片等を検出した。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえで埋戻し、調査を終了した。

（2）遺構と遺物

①溝

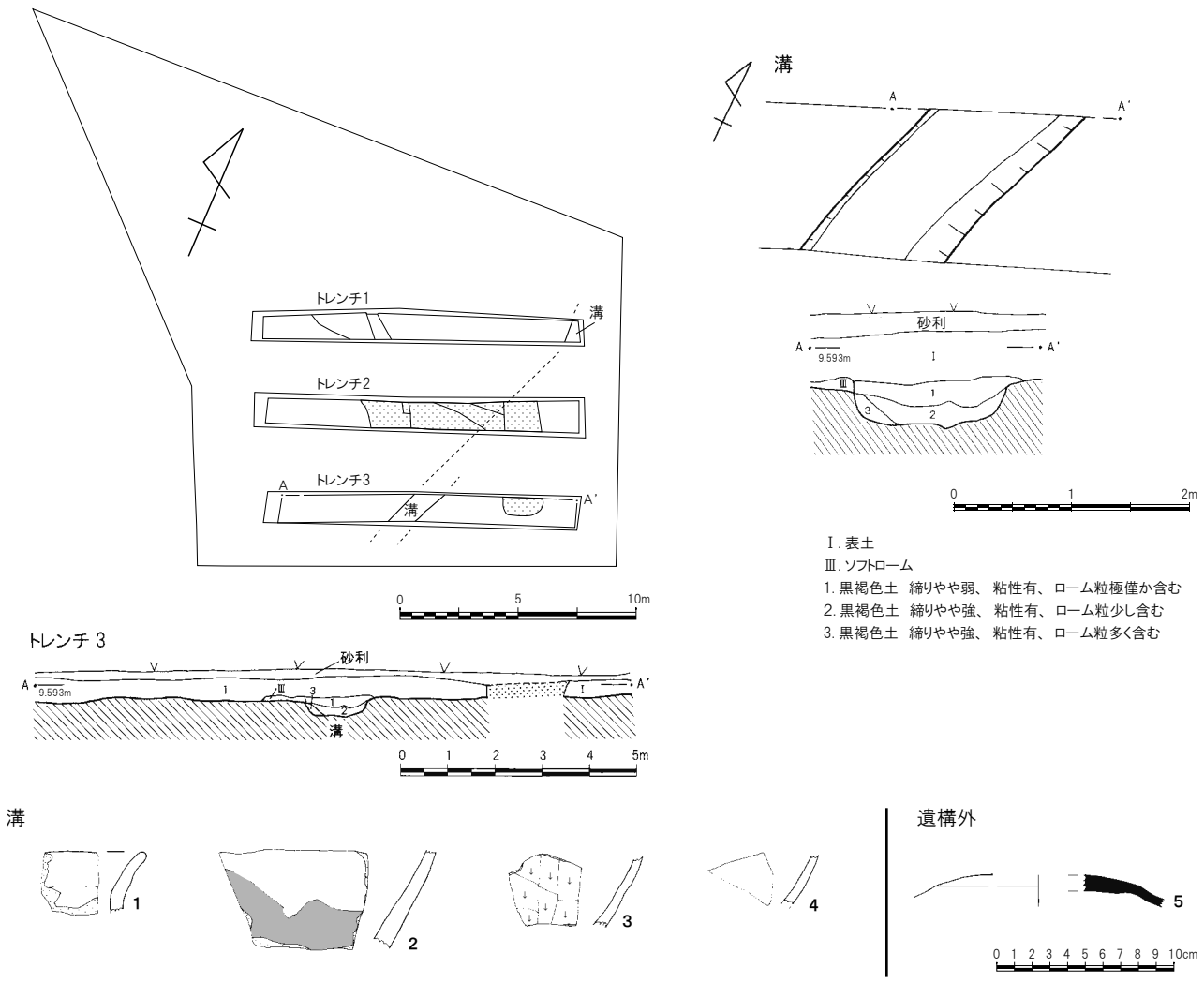
溝は調査区南側のトレンチ 3 の中央部と、トレンチ 1 の東端で検出した。トレンチ 2 は撹乱が大きく入っていたため未検出である。南北方向に走行し、調査区外へと延伸する。遺構の規模は上幅 120 ㎝、下幅 90 ㎝、深さ 36.4 ㎝を測り、断面形態は浅い U 字状を呈する。土層の観察からは水性堆積の様相は見られない。覆土中より土師器片が出土しているが、溝の時期を示すものではない。



第 65 図　長宮遺跡遺構分布図 (1/2,500)

②出土遺物

遺物は、前述のとおり溝の覆土中から 4 点、遺構外から 1 点出土した。詳細については第 66 図及び第 37 表に掲載した。



第 66 図　長宮遺跡第 58 地点遺構配置図 (1/300)、土層 (1/150)、溝 (1/60)、出土遺物 (1/4)

第 37 表　長宮遺跡第 58 地点出土遺物観察表 (単位 cm・g)

図版番号	出土遺構	種別・器種	技法・文様・備考	時期・型式
第 66 図 -1	溝	土師器・甕	口縁部、内外面ナデ / 胎土に白色粒子を含む	8 世紀代
第 66 図 -2		土師器・甕	胴部、輪積み成形、外面：ケズリ、内面：ナデ / 外面下部に煤付着、胎土に白色粒子を多量に含む	―
第 66 図 -3		土師器・甕	胴部、輪積み成形、外面：ケズリ、内面：ナデ / 胎土に白色粒子を多量に含む	8 世紀代
第 66 図 -4		土師器・甕	胴部、輪積み成形、外面：ケズリ、内面：ナデ / 外面黒色化、胎土に礫を含む	―
第 66 図 -5	遺構外	須恵器・坏蓋	轆轤成形 / 焼成不良により外面剥がれ、外面に自然釉、胎土に白色粒子を含む	―

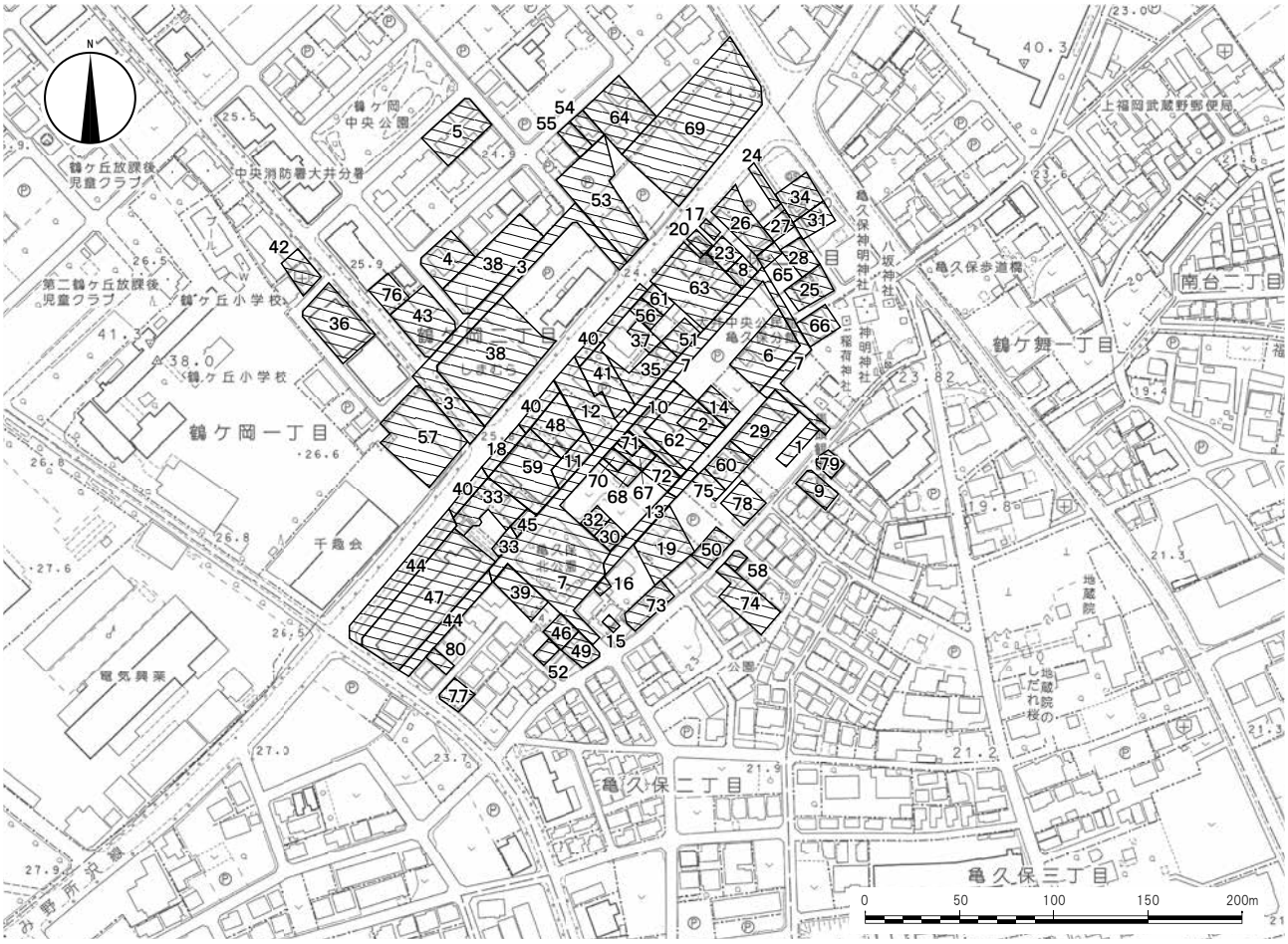
第 8 章　亀居遺跡の調査

Ⅰ　遺跡の立地と環境

亀居遺跡は、入間川の支流新河岸川に注ぐ福岡江川の谷頭部に位置している。標高 25 ～ 26m で現谷底との比高差は 5m を測る。本遺跡をのせる北側の台地は急傾斜をなすが、対岸の南側は緩やかな斜面を形成している。遺跡の時期は、旧石器時代及び縄文時代中期前葉で、特に後者は周辺では類例の少ない単一集落である。江川南遺跡の立地とあわせて台地の奥に形成された中期前葉の遺跡のあり方として特異な様相が窺える。遺跡周辺は、土地区画整理事業により区画道路が縦横にとりつけられ、宅地化が進んでいる。

1977 年の最初の調査から 2020 年 4 月現在まで 80 地点で調査され、縄文時代中期前半の住居跡、屋外埋甕、集石土坑が確認されている。

遺物は阿玉台式、勝坂式土器が主体で一部五領ヶ台上層期の土器片も出土している。



第 67 図　亀居遺跡の地形と調査区 (1/4,000)

第 38 表　亀居遺跡調査一覧表

地区 地点	所在地	調査期間 ( ) は試掘調査	開発面積 (㎡)	調査面積 ( ) は試掘	調査原因	確認された遺構と遺物	備考	所収報告書
1	亀久保 1000	1972	155		農地転用	遺構なし		町史資Ⅰ、大調 8
2	亀久保 1005	1973	350		農地転用	遺構なし		町史資Ⅰ、大調 8
3	鶴ヶ岡 161-1	1979.11.26 ～ 12.15	750		区画整理	縄文時代住居跡 2、集石土坑、土坑、屋外埋甕、縄文土器 等		東部Ⅰ、大調 8、町史資Ⅰ
4	鶴ヶ岡 2-2-6	1984.10.3 ～ 9	240		区画整理	遺構遺物なし		
5	鶴ヶ岡 2-4-3	(1984)	1,080		区画整理	ピット		
6	亀久保 1000	1985.12.3 ～ 1986.1.13	914		区画整理	集石土坑、土坑、ピット、縄文土器 等		東部Ⅵ
7	亀久保 999	1986.8.5 ～ 11.10	2,740		区画整理	縄文時代住居跡 2、集石土坑、土坑、ピット、縄文土器 等		大調 8、町史資Ⅰ
8	亀久保 1001	1986.8.12 ～ 19	181		個人住宅	集石土坑、土坑、ピット、縄文土器 等		東部Ⅶ
9	亀久保 989-1	(1986.9)	580		住宅建設	遺構なし		
10	亀久保 1010-1	1986.9.22 ～ 10.18	650		区画整理	縄文時代住居跡 1、土坑、ピット、縄文土器 等		大調 8、町史資Ⅰ
11	亀久保 1011-3	1987.10.13 ～ 11.13	389		個人住宅	集石土坑、ピット、屋外埋甕、縄文土器 等		東部Ⅷ
12	亀久保 1011- 1	1987.11.16 ～ 12.16	387		個人住宅	集石土坑、ピット、縄文土器 等		東部Ⅷ
13	亀久保 1007-3	1988.8	242		区画整理	縄文時代住居跡 2、縄文土器 等		大調 8、東部Ⅸ、町史資Ⅰ
14	亀久保 999-4	(1988.7.22 ～ 8.3)	165		個人住宅	遺構なし、縄文土器 等		東部Ⅸ
15	亀久保 1007	(1989.2.13・14)	144		個人住宅	遺構なし		東部Ⅸ
16	亀久保 1007	(1989.2.13・14)	193		個人住宅	遺構なし		東部Ⅸ
17	亀居 995-3	1989.9.14 ～ 18	112		個人住宅	土坑、ピット、縄文土器 等		東部Ⅹ
18	亀久保 1000	1990.3	210		区画整理	遺構なし、縄文土器		東部Ⅹ
19	亀居 1007	1990.3.12 ～ 26	613		個人住宅	遺構なし、土器片		東部Ⅹ
20	亀久保 1001-3	1990.5.21 ～ 25	118		個人住宅	土坑、縄文土器		東部Ⅺ
21							欠番	
22							欠番	
23	亀久保 1001-14･15	1990.9.3 ～ 10	160		個人住宅	ピット、縄文土器		東部Ⅺ
24	亀久保 995-1・7	1990.12.27 ～ 1991.3.20	1,324		区画整理	土坑、ピット、縄文土器		大調 8
25	亀久保 995-7	1991.3.12 ～ 16	162		個人住宅	遺構遺物なし		町内Ⅰ
26	亀久保 1001-14	1991.2.14 ～ 3.15	259		個人住宅	集石土坑、ピット、縄文土器 等		町内Ⅰ
27	亀久保 995-2	1991.5.7 ～ 20	249		個人住宅	ピット、溝状遺構、縄文土器		町内Ⅰ
28	亀久保 995-6	1991.1.24 ～ 2.1	475		個人住宅	集石土坑、縄文土器		東部Ⅺ
29	亀久保 992-2	1991.7.17 ～ 9.25	925		集合住宅	縄文時代住居跡 1、集石土坑、ピット、縄文土器 等		大調 3
30	亀久保 1007-3,1008-3	1991.7.22・23	116		個人住宅	遺構なし、縄文土器		町内Ⅰ
31	亀久保 995-2･7	1991.9.26・30	197		個人住宅	遺構なし、縄文土器		町内Ⅰ
32	亀久保 1008-1	1991.12.3 ～ 9	115		個人住宅	ピット、縄文土器 等		町内Ⅰ
33	亀久保 1011-7	1991.12.10 ～ 1992.4.30	998	679	個人住宅	縄文時代住居跡 1、集石土坑、土坑、ピット、縄文土器 等		町内Ⅱ
34	亀久保 955-2	(1992.2.13)	634		個人住宅	遺構遺物なし		町内Ⅰ
35	亀久保 1012-7	1993.9.28 ～ 11.5	470		個人住宅	縄文時代住居跡 1、集石土坑、土坑、ピット、縄文土器 等		町内Ⅲ、町史資Ⅰ
36	鶴ヶ岡 1-2-2	(1994.2.17 ～ 18)	798.11		礼拝所建設	土坑、落とし穴、遺物なし		町内Ⅲ
37	亀久保 1003-2･6　他	1994.2.18 ～ 25	566		店舗併用住宅	土坑、ピット、縄文土器 等		町内Ⅲ
38	鶴ヶ丘 2-1-1,2-2-1	(1994.8.22 ～ 30) 1994.9	3,162		店舗	集石土坑、土坑、ピット、落とし穴、縄文土器		大調 8、町内Ⅳ
39	亀久保 1008-5	(1994.8.26 ～ 29)	342		駐車場造成	炉穴、土坑、ピット、縄文土器		町内Ⅳ
40	亀久保 995-16　他	1995.2.1 ～ 3.15	380		道路築造	遺構なし		大調 8
41	亀久保 995-23･24 他	1995.5.31 ～ 8.4	530		道路築造	縄文時代住居跡 1、ピット、縄文土器		大調 8
42	鶴ヶ岡 1-3-14	(1995.7.11 ～ 18)	196.03		歯科医院建設	遺構なし、縄文土器		町内Ⅴ
43	鶴ヶ岡 2-3-1	(1995.8.9 ～ 30)	818		店舗兼用 共同住宅	集石土坑、土坑、縄文土器 等		町内Ⅴ
44	亀久保 1013-1	1995.10.22 ～ 12.4	1,030		道路築造	炉穴、礫群、土坑、ピット、溝、縄文土器		大調 8
45	亀久保 1008-5,1011-5	(1996.5.15 ～ 17)	619		共同住宅	炉穴、ピット、溝、縄文土器		町内Ⅵ
46	亀久保 1007-17	(1996.6.24 ～ 25)	192		分譲住宅	遺構なし		町内Ⅵ
47	亀久保 1013-1	(1996.9.11 ～ 17) 1996.10.1 ～ 12.11	2,741		共同住宅	縄文時代住居跡 1、集石土坑、落とし穴、土坑、ピット、溝、縄文土器 等		大調 8、町内Ⅵ
48	亀久保 995-19	(1997.1.20 ～ 29)	858		プレハブ 事務所	集石土坑、土坑、ピット、溝、縄文土器		町内Ⅵ
49	亀久保 1007-14	(1997.11.6 ～ 10)	214		店舗併用住宅	遺構遺物なし		町内Ⅶ

地区 地点	所在地	調査期間 ( ) は試掘調査	開発面積 (㎡)	調査面積 ( ) は試掘	調査原因	確認された遺構と遺物	備考	所収報告書
50	亀久保 1007-5	(1998.2.9 ～ 20) 1998.2.6	197.99		個人住宅	縄文時代住居跡 1、土坑、縄文土器		町内Ⅶ
51	亀久保 3 街区 4 画地	1999.6.15 ～ 7.9	222	(202)	個人住宅	屋外炉、集石土坑、土坑、ピット、縄文土器 等		町内Ⅸ
52	亀久保 7 街区 14 画地	(2000.2.1 ～ 2)	121	(30)	個人住宅	遺構遺物なし		町内Ⅸ
53	鶴ケ岡 2-28-1	(2000.10.30 ～ 2001.1.18)	1,422	(628)	店舗	集石土坑、溝、縄文土器 等		町内Ⅹ
54	鶴ケ岡 2-28-17	(2001.4.24 ～ 27)	148	(56)	個人住宅	遺構遺物なし		町内Ⅺ
55	鶴ケ岡 2-28-16	(2001.11.14 ～ 16)	148	(45)	個人住宅	溝、遺物なし		町内Ⅺ
56	亀久保 2-13-14	2002.11.5 ～ 21	172	145.2	個人住宅	竪穴状遺構、焼土、ピット、縄文土器 等		町内Ⅻ
57	鶴ヶ岡 1-1-1	2003.4.24 ～ 28	1,356	(135)	店舗	遺構なし		町内Ⅻ
58	亀久保 2-975-19･24	(2005.4.18)	79	(8)	個人住宅	遺構遺物なし		市内 2
59	亀久保 2-10-5	(2005.8.3 ～ 31) 2005.9.1 ～ 16	1,073	258	共同住宅	縄文時代住居跡 2、集石土坑、ピット、縄文土器片 等		大調 18、市内 2
60	亀久保 2-17-7	(2005.10.26・27)	293	(52)	個人住宅	遺構遺物なし		市内 2
61	亀久保 2-13 - 4 の一部	(2006.10.4) 2006.10.10 ～ 13	171	(88)	個人住宅	縄文時代住居跡 1、集石土坑、土坑、ピット、縄文土器 等		市内 3
62	亀久保 2-12-3	(2007.11.12 ～ 26) 2008.1. 7 ～ 18	1,284	(151) 170	共同住宅	土坑、ピット、縄文土器		市内 4
63	亀久保 2-13-5	2008.9.17 ～ 10.15	998.15	(312)	モデルルーム	縄文時代住居跡 1、土坑、ピット、溝、縄文土器 等		市内 6
64	鶴ヶ岡 2-28-19	2008.9.1 ～ 2	907	(56)	分譲住宅建設	遺構なし、陶器		市内 6
65	亀久保 2-14-9 の一部、13	(2011.4.25・26)	179	(65)	公民館分館	遺構遺物なし		市内 14
66	亀久保 2-16-1	(2011.7.15 ～ 19)	408.5	(60)	神社社務所新築	遺構遺物なし		市内 14
67	亀久保 2-12-11・12	(2011.8.1 ～ 8)	136.8	(58)	個人住宅	土坑、遺物なし		市内 14
68	亀久保 2-12-2 の一部	(2011.9.1)	136	(42)	個人住宅	遺構なし、縄文土器		市内 14
69	鶴ヶ岡 2-159-1、160-10、28-4・11 ～ 13	(2011.12.6 ～ 9)	2,426	(373)	店舗	溝、遺物なし		市内 14
70	亀久保 2-12-13	(2012.3.21) 2012.3.22	111	(31) 24	個人住宅	集石土坑、礫		市内 14
71	亀久保 2-12-2	(2012.8.27)	111.92	(23)	個人住宅	遺構遺物なし		市内 15
72	亀久保 2-12-15・16	(2012.10.11)	247.88	(55.5)	個人住宅	ピット、石斧		市内 15
73	亀久保 2-17-14	(2014.7.8)	326.14	(92.75)	宅地造成	遺構なし、縄文土器		市内 20
74	亀久保 2-975-1・34	(2014.11.27 ～ 12.4)	557	(155.3)	分譲住宅	土坑、縄文土器		市内 20
75	亀久保 2-17-10 の一部	(2015.6.8)	244.26	(21.7)	個人住宅	遺構なし、縄文土器		市内 22
76	鶴ヶ岡 2-3-2	(2015.8.6)	263	(52)	分譲住宅	遺構遺物なし		市内 22
77	亀久保 2-9-24	(2016.3.18)	168	(47.25)	個人住宅	遺構遺物なし		市内 22
78	亀久保 2-17-10・11 の各一部	(2018.2.5)	266.57		個人住宅	遺構なし		市内 24
79	亀久保 3-8-10	(2019.10.3)	120.05	(11.5)	分譲住宅	遺構遺物なし		市内 25
80	亀久保 2-9-2	(2019.12.19)	93.58	(18.4)	個人住宅	遺構遺物なし		市内 25

Ⅱ　亀居遺跡第 79 地点

（1）調査の概要

調査は分譲住宅建設に伴うもので、原因者より 2019 年 9 月 19 日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の南東部に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため 2019 年 10 月 3 日に試掘調査を実施した。

試掘調査は幅約 1 ～ 1.5m のトレンチ 2 本を設定し、重機による表土除去後人力による表面精査を行った。現地表面から地山ローム層までの深さは約 100 ～ 120 ㎝である。

調査の結果、遺構・遺物は確認されなかったため、写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえで埋戻し、調査を終了した。

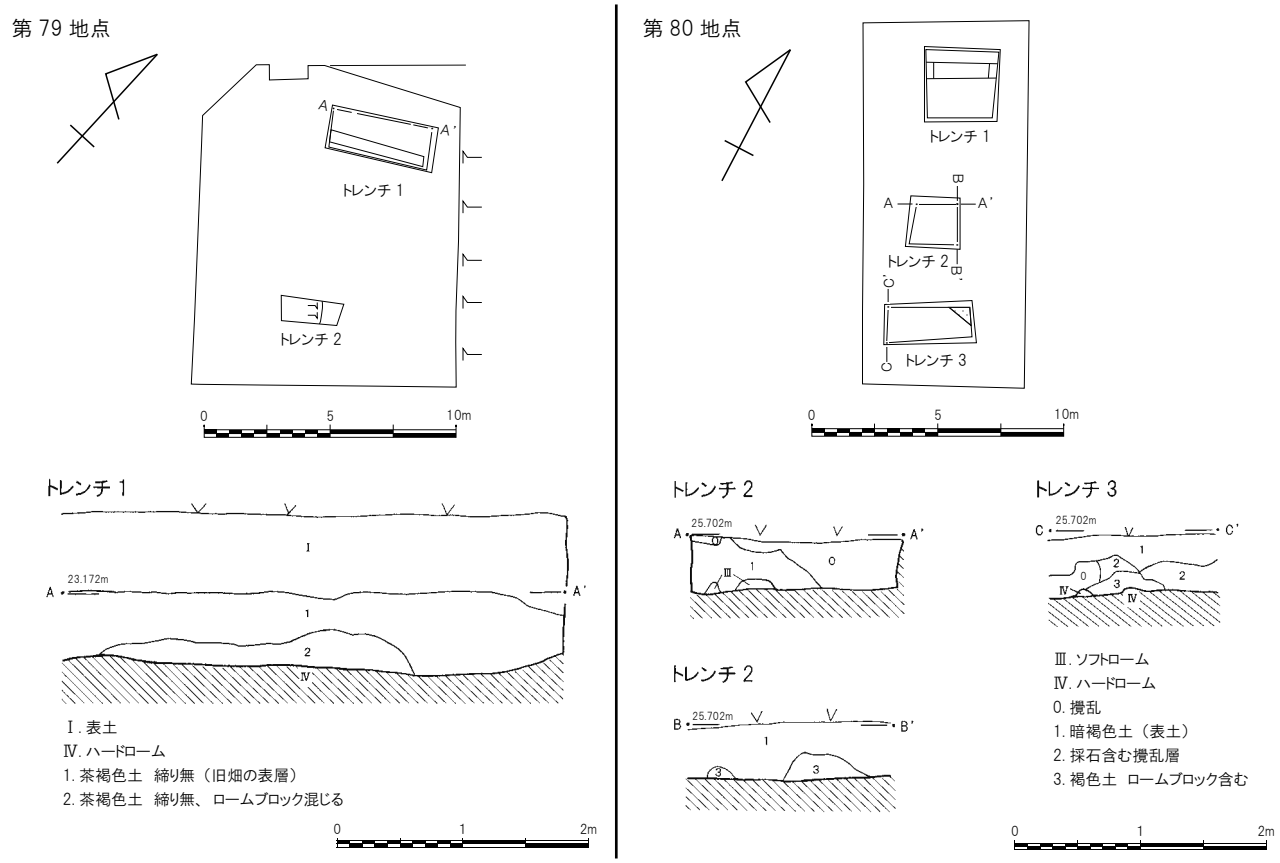
Ⅲ　亀居遺跡第 80 地点

（1）調査の概要

調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者より 2019 年 10 月 18 日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の南西部に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため 2019 年 12 月 19 日に試掘調査を実施した。

試掘調査は幅約 1.5 ～ 2.5m のトレンチ 3 ヶ所を設定し、重機による表土除去後人力による表面精査を行った。現地表面から地山ローム層までの深さは約 10 ～ 40 ㎝である。

調査の結果、遺構・遺物は確認されなかったため、写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえで埋戻し、調査を終了した。



第 68 図　亀居遺跡第 79・80 地点調査区域図 (1/300)、土層 (1/60)

第９章　鶴ケ舞遺跡の調査

Ⅰ　遺跡の立地と環境

鶴ケ舞遺跡は、入間川の支流新河岸川に注ぐ福岡江川の谷頭部から、約 500 ～ 900 m程下った左岸に位置している。標高 21 ～ 23 mで現谷底との比高差は５m を測る。福岡江川の左岸は急傾斜をなし、対岸の南側は緩やかな斜面を形成している。遺跡周辺は、急激な市街化によって商店や住宅が建ち、僅かに畑地が残っている。

周辺の遺跡は約 200 m西に亀居遺跡、約 150m 南に江川南遺跡、約 200m 南東に東久保遺跡がある。

1987 年の最初の調査から 2020 年４月現在、37 地点で試掘及び発掘調査が行われ、旧石器時代の石器、縄文時代の炉穴、落とし穴、平安時代の溝を検出し、平安時代の須恵器壷が出土している。

Ⅱ　鶴ケ舞遺跡第 30 地点

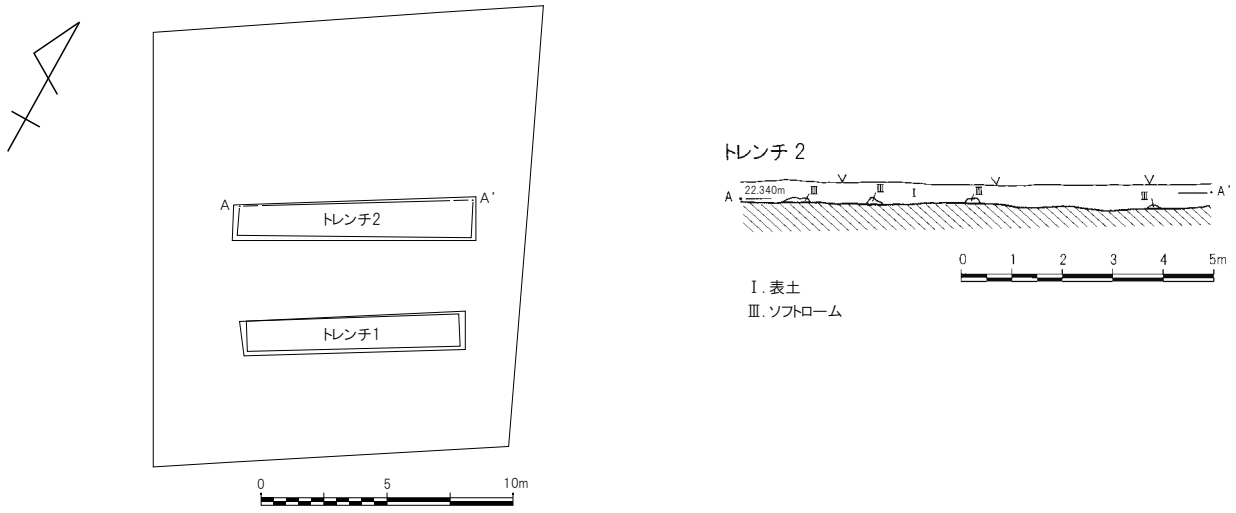
（１）調査の概要

調査は宅地造成に伴うもので、原因者より 2018 年５月 21 日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の北側に隣接し、遺跡の範囲には該当しないが、申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため 2018 年６月 28 日に試掘調査を実施した。

試掘調査は幅約 1.5m のトレンチ２本を設定し、重機による表土除去後人力による表面精査を行った。現地表面から地山ローム層までの深さは約 30 ～ 40 ㎝である。

調査の結果、遺構・遺物は確認されなかったため、写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえで埋戻し、調査を終了した。

第 69 図　鶴ケ舞遺跡の地形と調査区（1/4,000）



第 70 図　鶴ケ舞遺跡第 30 地点調査区域図（1/300)、土層 (1/150)

第 39 表　鶴ケ舞遺跡調査一覧表

地区地点	所在地	調査期間 ( ) は試掘調査	開発面積 (㎡)	調査面積 ( ) は試掘	調査原因	確認された遺構と遺物	備考	所収報告書
1	鶴ケ舞 67- 3	(1986.1.28・29)	499		個人住宅	土坑、縄文土器		東部Ⅵ
2	鶴ケ舞 1-65-6	(1987.4.16 ～ 30)	495		個人住宅	炉穴、土坑、溝、須恵器 等		東部Ⅷ
3	鶴ケ舞 1-69-1	(1994.7.10)	141		駐車場	遺構なし、焼礫		町内Ⅳ
4	鶴ケ舞 1-60-6･10	(1997.8.26 ～ 29)	318		共同住宅	溝、井戸		町内Ⅶ
5	鶴ケ舞 1-61-3	(1997.11.4 ～ 6)	266		分譲住宅	溝、縄文土器		町内Ⅶ
6	鶴ケ舞 1-84	(2002.9.10 ～ 13)	474	(201)	個人住宅	遺構遺物なし		町内Ⅻ
7	鶴ケ舞 1-65-1	(2003.5.29 ～ 6.14) 2003.6.23 ～ 7.3	2,030	(742) 130	分譲住宅	石器ブロック、落とし穴、ピット、礫群、縄文土器 等		町内Ⅻ、大調 20
8	鶴ケ舞 1-69-46 ～ 51･61 ～ 66	(2005.7.11 ～ 8.11) 2005.8.24	1,087	(236) 16.5	分譲住宅	炉穴、ピット、縄文土器 等		大調 18
9	鶴ケ舞 1-16-5	(2005.11.1)	104	(23)	共同住宅	ピット、遺物なし		市内 2
10	鶴ケ舞 1-64-6	(2006.6.5)	96	(20)	個人住宅	礫群、礫		市内 3
11	鶴ケ舞 1-65-2・6	(2006.9.21 ～ 10.5)	1,316	(420)	建物解体	遺構遺物なし		市内 3
12	鶴ケ舞 1-58-4	(2011.7.19 ～ 21)	97.7	(16)	個人住宅	遺構遺物なし		市内 14
13	鶴ケ舞 1-78-7	(2011.7.21)	115	(5)	個人住宅	遺構なし、土器		市内 14
14	鶴ケ舞 1-79-7	(2011.9.22)	56.3	(10)	個人住宅	遺構遺物なし		市内 14
15	南台 798-33	(2011.11.22)	100.3	(6)	個人住宅	遺構遺物なし		市内 14
16	鶴ケ舞 1-73-10	(2012.9.7)	63		分譲住宅	遺構遺物なし		市内 15
17	鶴ケ舞 1-58-2	(2012.11.16) 2012.11.16	324.2	(44) 33	個人住宅	溝、遺物なし		市内 15
18	福岡武蔵野 1408-4(9-6)	(2013.1.21)	61	(4)	個人住宅	遺構遺物なし		市内 15
19	鶴ケ舞 1-79-25	(2013.4.10)	94.6	(31.3)	分譲住宅	遺構遺物なし		市内 18
20	鶴ケ舞 1-69-70	(2013.5.13)	68.55	(18)	個人住宅	遺構遺物なし		市内 18
21	鶴ケ舞 1-73-27・51・52・54	(2013.10.23)	135.55	(29.5)	分譲住宅	遺構遺物なし		市内 18
22	鶴ケ舞 1-69-35・56	(2014.12.4)	171	(38.2)	個人住宅	遺構遺物なし		市内 20
23	鶴ケ舞 1-73-19	(2015.6.29)	72	(10)	分譲住宅	遺構遺物なし		市内 22
24	鶴ケ舞 1-67-3・4 の一部	(2015.8.31)	499	(25.5)	個人住宅	遺構遺物なし		市内 22
25	福岡武蔵野 1406-7・8・10・11	(2013.5.2)	1,124.99	(35.6)	分譲住宅	遺構遺物なし		市内 18
26	鶴ケ舞 1-99-10 ～ 12	(2016.12.5)	252	(15.75)	分譲住宅	遺構遺物なし		市内 24
27	鶴ケ舞 1-58-8	(2017.4.13)	54	(3.2)	個人住宅	遺構遺物なし		市内 24
28	鶴ケ舞 1-85-3・4・19 ～ 22	(2017.11.16・17)	497.81	(25.65)	分譲住宅	炉穴、土坑、ピット、縄文土器		市内 24
29	鶴ケ舞 1-69-103	(2017.11.17)	106	(8)	個人住宅	遺構遺物なし		市内 24
30	福岡武蔵野 1398-1	(2018.6.28)	265.92	(28.11)	宅地造成	遺構遺物なし		市内 25
31	鶴ケ舞 1-69-94	(2018.9.10)	297	(30.45)	個人住宅	遺構遺物なし		市内 25
32	南台 2-793-2 の一部、793-17	(2019.3.25)	99	(20.88)	個人住宅	遺構遺物なし		市内 25
33	南台 2-1746-1	(2019.7.11)	112.19	(8)	個人住宅	遺構遺物なし		市内 25
34	鶴ケ舞 1-69-52	(2019.7.24)	88.59	(6.71)	分譲住宅	遺構遺物なし		市内 25
35	鶴ケ舞 1-106-4	(2019.8.5)	117.99	(37.1)	分譲住宅	遺構遺物なし		市内 25
36	鶴ケ舞 1-62-3 の一部	(2020.3.19)	130	(10.5)	個人住宅	遺構遺物なし		市内 25
37	鶴ケ舞 1-106-6	(2020.3.19)	125.56	(12.75)	個人住宅	遺構遺物なし		市内 25

Ⅲ　鶴ケ舞遺跡第 31 地点

（１）調査の概要

調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者より 2018 年 7 月 19 日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の北西部に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため 2018 年 9 月 10 日に試掘調査を実施した。

試掘調査は幅約 1.5m のトレンチ 2 本を設定し、重機による表土除去後人力による表面精査を行った。現地表面から地山ローム層までの深さは約 30 ㎝である。

調査の結果、遺構・遺物は確認されなかったため、写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえで埋戻し、調査を終了した。

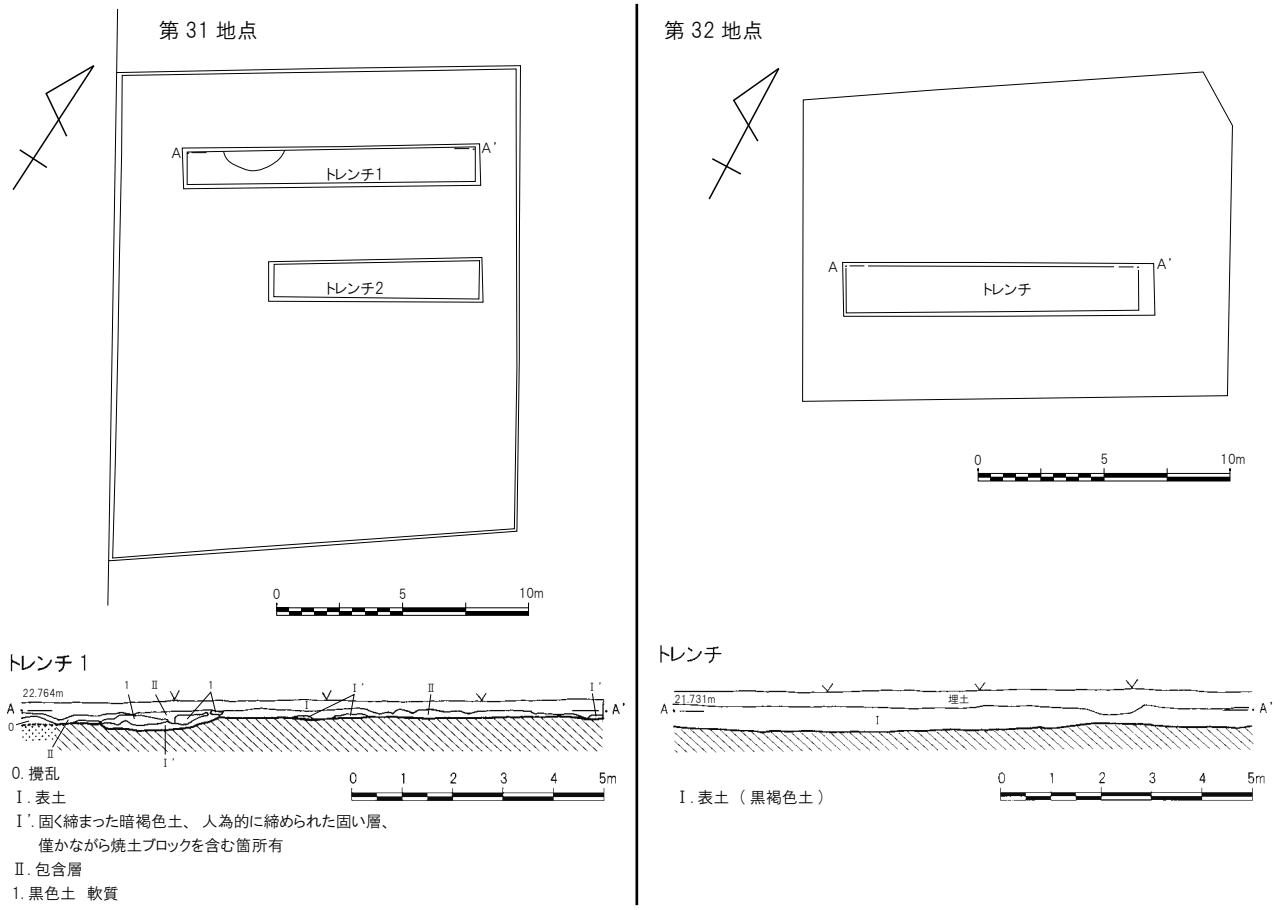
Ⅳ　鶴ケ舞遺跡第 32 地点

（１）調査の概要

調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者より 2019 年 2 月 12 日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の北部に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため 2019 年 3 月 25 日に試掘調査を実施した。

試掘調査は幅約 1.5m のトレンチ 1 本を設定し、重機による表土除去後人力による表面精査を行った。現地表面から地山ローム層までの深さは約 60 ～ 80 ㎝である。

調査の結果、遺構・遺物は確認されなかったため、写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえで埋戻し、調査を終了した。



第 71 図　鶴ケ舞遺跡第 31・32 地点調査区域図 (1/300)、土層 (1/150)

Ⅴ　鶴ケ舞遺跡第 33 地点

（1）調査の概要

調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者より 2019 年 6 月 28 日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の南西部に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため 2019 年 7 月 11 日に試掘調査を実施した。

試掘調査は幅 1m のトレンチ 1 本を設定し、人力による表土除去、表面精査を行った。調査の結果、遺構・遺物は確認されなかったため、写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえで埋戻し、調査を終了した。

Ⅵ　鶴ケ舞遺跡第 34 地点

（1）調査の概要

調査は建売住宅建設に伴うもので、原因者より 2019 年 7 月 2 日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲中央部に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため 2019 年 7 月 24 日に試掘調査を実施した。

試掘調査は幅 1m のトレンチ 2 本を設定し、人力による表土除去、表面精査を行った。調査の結果、遺構・遺物は確認されなかったため、写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえで埋戻し、調査を終了した。

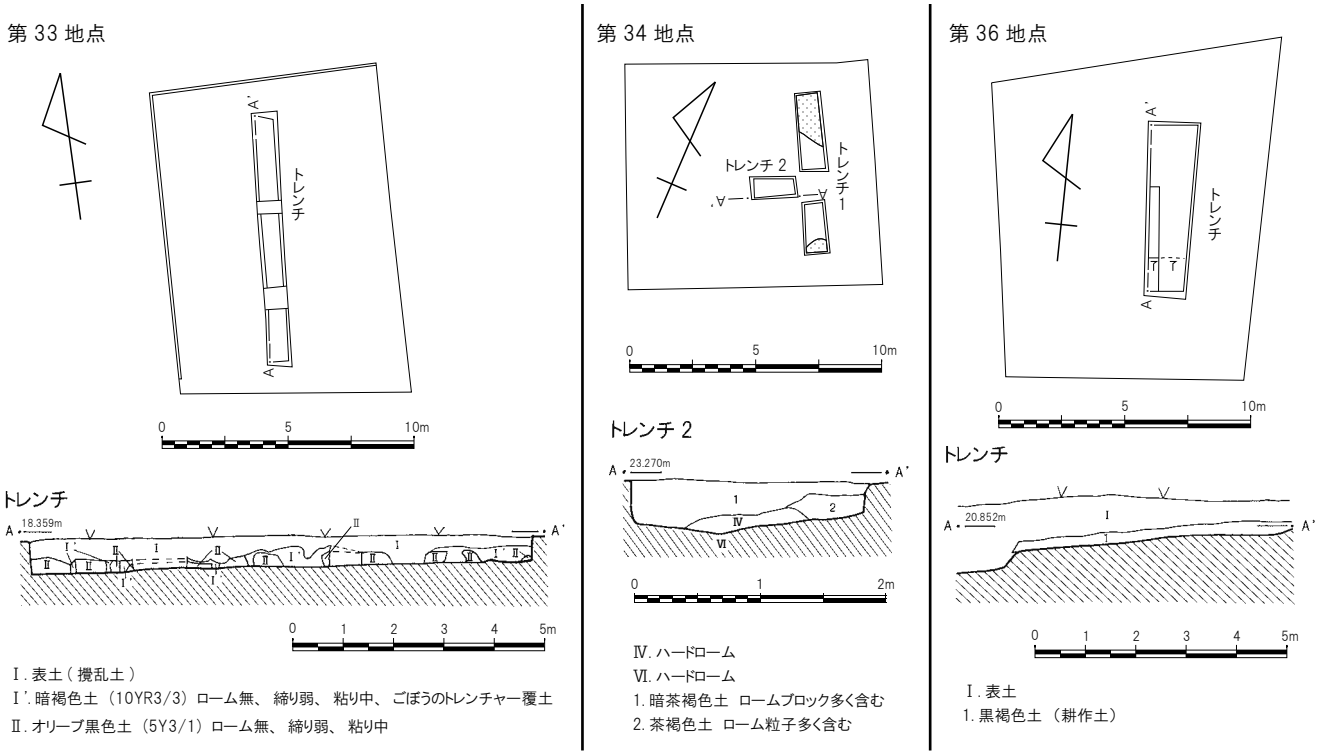
Ⅶ　鶴ケ舞遺跡第 36 地点

（1）調査の概要

調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者より 2020 年 2 月 20 日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の南西部に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため 2020 年 3 月 19 日に試掘調査を実施した。

試掘調査は幅約 1m のトレンチ 1 本を設定し、重機による表土除去後人力による表面精査を行った。現地表面から地山ローム層までの深さは約 70 ㎝である。

調査の結果、遺構・遺物は確認されなかったため、写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえで埋戻し、調査を終了した。



第 72 図　鶴ケ舞遺跡第 33・34・36 地点調査区域図（1/300)、土層 (1/150・1/60)

Ⅷ　鶴ケ舞遺跡第 35 地点

（１）調査の概要

調査は建売住宅建設に伴うもので、原因者より 2019 年 7 月 23 日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の南西部に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため 2019 年 8 月 5 日に試掘調査を実施した。

試掘調査は幅約 1.2m のトレンチ 2 本を設定し、重機による表土除去後人力による表面精査を行った。

調査の結果、現地表面より 80 ㎝下でも地山ローム層は確認できなかった。遺構・遺物が残されている可能性はないと判断し、写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえで埋戻し、調査を終了した。

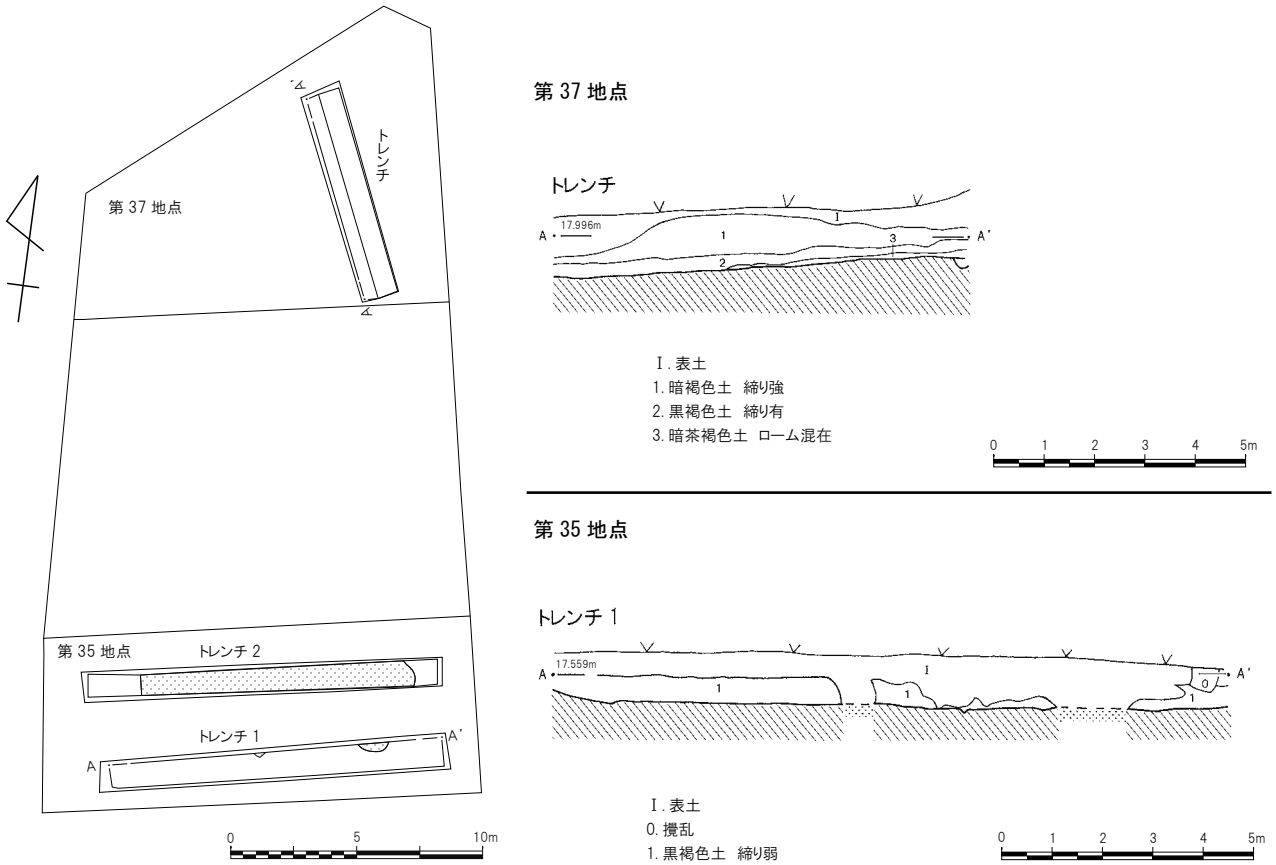
Ⅸ　鶴ケ舞遺跡第 37 地点

（１）調査の概要

調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者より 2020 年 3 月 3 日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の南西部に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため 2020 年 3 月 19 日に試掘調査を実施した。

試掘調査は幅約 1.5m のトレンチ 1 本を設定し、重機による表土除去後人力による表面精査を行った。現地表面から地山ローム層までの深さは約 120 ㎝である。

調査の結果、遺構・遺物は確認されなかったため、写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえで埋戻し、調査を終了した。



第 73 図　鶴ケ舞遺跡第 35・37 地点調査区域図（1/300)、土層 (1/150)

第 10 章　松山遺跡の調査

Ⅰ　遺跡の立地と環境

松山遺跡は、亀居遺跡付近を湧水源とする福岡江川の左岸、武蔵野台地の一段低い立川段丘面に立地している。東側は荒川低地の沖積地と接し、標高 9 ～ 10 m前後の微高地を形成する。遺跡の範囲は南北 500 m、東西 600 m以上である。宅地開発されるが部分的に畑が残っている。

周辺の遺跡は、すぐ北側に縄文時代早期～後期、飛鳥時代および中近世にわたる長宮遺跡、福岡江川を挟んだ対岸には福岡新田遺跡、同じく対岸の 250 m南東側には、縄文時代前期集落の鷺森遺跡がある。また、西方約 350m の比高差 9 mを持ってそびえる台地の南東崖面には富士見台横穴墓群が望まれる。

1978 年の宅地造成に伴う緊急調査で奈良時代の住居跡を検出したのをはじめ、宅地造成などにより 2020 年 4 月現在、約 160 地点で試掘および調査が行われている。主たる時代と遺構は、長宮遺跡と接した北寄りに飛鳥時代の住居跡、遺跡中央の東西 240m、南北 210m 程度の範囲に奈良・平安時代の住居跡・掘立柱建物跡・井戸跡、中近世以降の溝・井戸跡などである。特に溝、井戸等の中近世の遺構は東側の低地へも広がりを見せており、遺跡範囲の変更増補を行った。

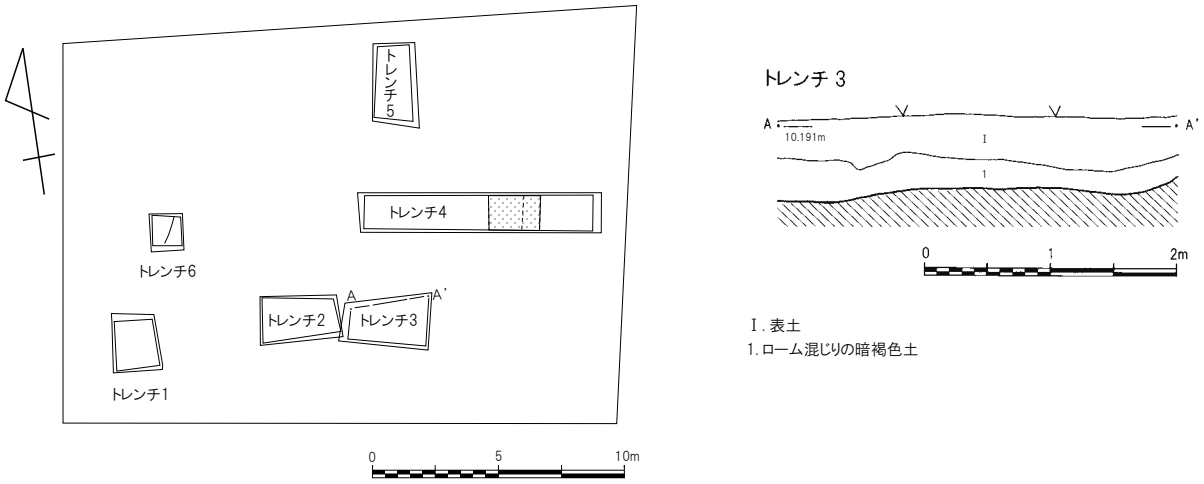
Ⅱ　松山遺跡第 95 地点

（1）調査の概要

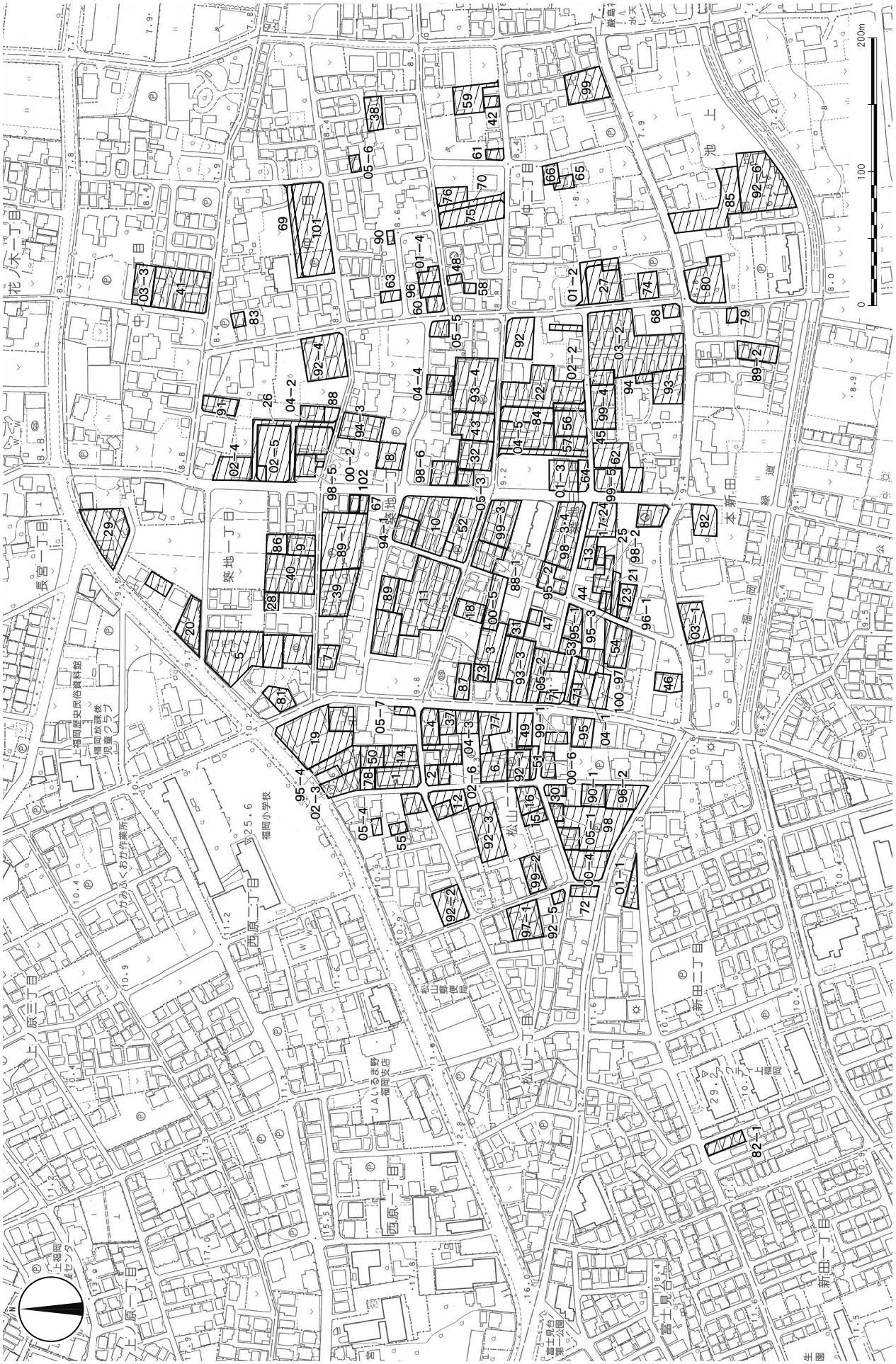
調査は分譲住宅建設に伴うもので、原因者より 2018 年 7 月 19 日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の西部に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため 2018 年 8 月 1・2 日及び 9 月 13 日に試掘調査を実施した。

試掘調査は幅約 1 ～ 1.5m のトレンチ 6 ヶ所を設定し、重機による表土除去後人力による表面精査を行った。現地表面から地山ローム層までの深さは約 50 ～ 100 ㎝である。

調査の結果、遺構・遺物は確認されなかったため、写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえで埋戻し、調査を終了した。



第 74 図　松山遺跡第 95 地点調査区域図 (1/300)、土層 (1/60)



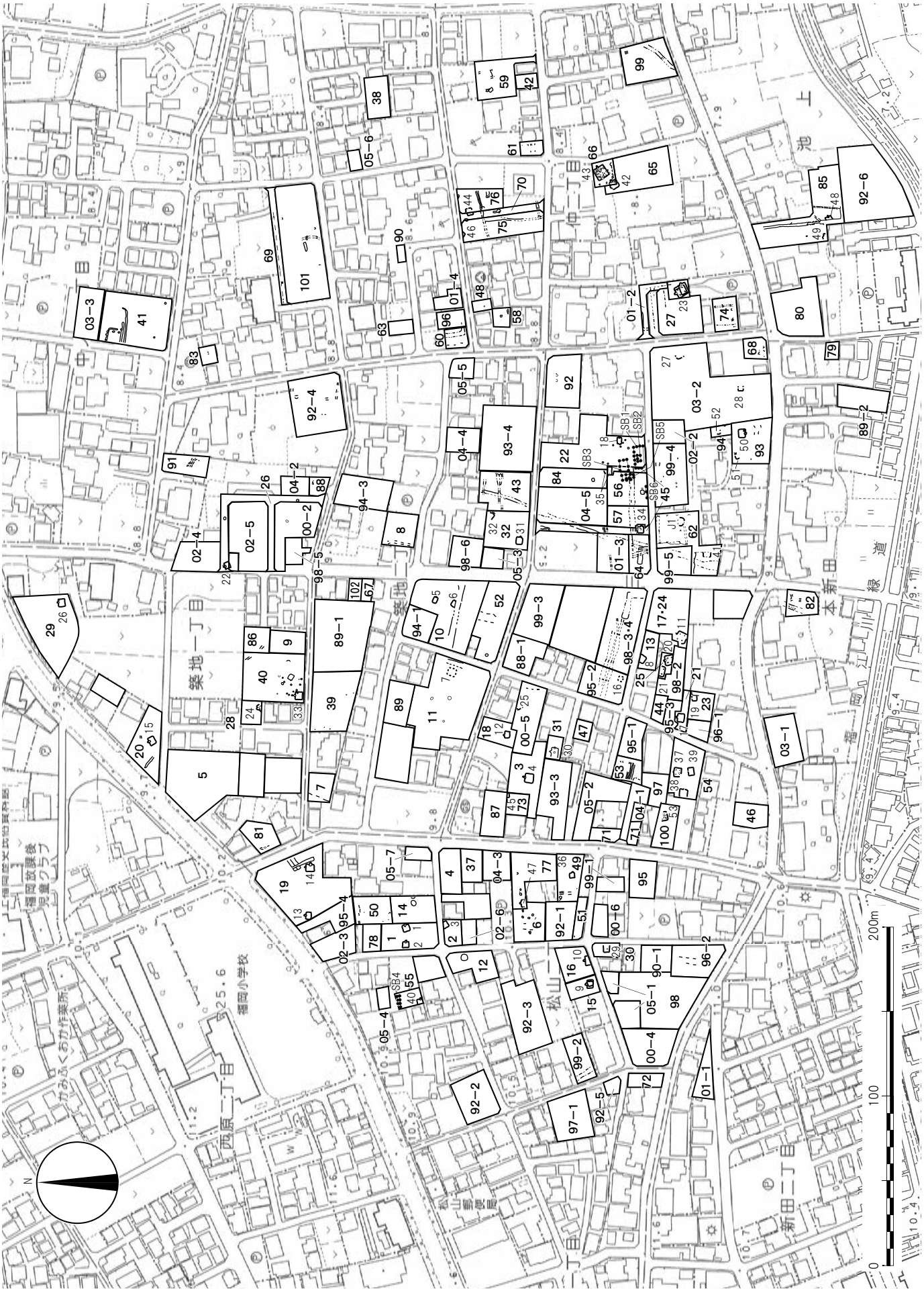
第 75 図　松山遺跡の地形と調査区 (1/4,000)

第 40 表　松山遺跡調査一覧表

地区 地点	所在地	調査期間 ( ) は試掘調査	開発面積 (㎡)	調査面積 ( ) は試掘	調査原因	確認された遺構と遺物	備考	所収報告書
1 次	松山 2-5-4	1978.10.14 ～ 11.6	479			古代住居跡 2、土師器 等		上埋 I
2 次	松山 2-6-7	1979.4.26 ～ 5.1	161			古代住居跡 1、土師器		上埋 II
3 次	築地 3-1-20	1979.8.7 ～ 16	733			古代住居跡 1、須恵器		上埋 II
4 次	松山 2-6-9	1982.9.13 ～ 24	277			遺構なし、土師器 等		上埋 V
82-1	新田 2-481・482	(1982.8.27 ～ 9.14)	1,454		民間開発	遺構なし、陶磁器	旧福岡新田遺跡 ('82 年度新田 2 丁目試掘)	上埋 V
5 次	築地 1-1-16	1983.4.20 ～ 28	1,461		住宅建設	遺構なし、須恵器 等		上埋 VI
6 次	松山 2-6-16	1984.8.13 ～ 28	330		住宅建設	土坑、ピット、溝、須恵器		上埋 VII
7 次	築地 2-3-19	1986.1.13 ～ 21	237		個人住宅	溝、土師器 等		上埋 VIII
8 次	築地 2-4-12	1986.7.1 ～ 8	319		資材置場	溝、土師器 等		上埋 IX
9 次	築地 1-1-50	1987.10.1 ～ 3	288		個人住宅	遺構遺物なし		上埋 X
88-1	築地 3-3-4	(1989.1.9・10)	370		住宅建設	遺構遺物なし		上埋 11
89-2	新田字本新田 400-1	(1989.6.22 ～ 27)	495		宅地造成	遺構遺物なし	旧福岡新田遺跡 ('89 年度新田試掘)	上埋 12
89-1	築地 2-3-11	(1989.6.27 ～ 30)	1,342		共同住宅	遺構遺物なし		上埋 12
90-1	松山 2-2-9	(1990.9.7 ～ 12)	304		個人住宅	遺構遺物なし		上埋 13
10 次	築地 2-2-6・2	(1991.9.26 ～ 10.4) 1991.10.14 ～ 18	1,726	(1,276) 450	個人住宅	古代住居跡 2、溝、須恵器 等		上埋 14
11 次	築地 2-1-20・10	(1991.9.10 ～ 25) 1991.10.18 ～ 21	2,309	(2,029) 280	個人住宅	古代住居跡 1、溝、須恵器 等		上埋 14
92-1	松山 2-6-22・23	(1992.4.17 ～ 24)	567		駐車場	遺構なし、須恵器		上埋 15
92-2	松山 2-4-7	(1992.5.6 ～ 11)	571		駐車場	遺構なし、須恵器		上埋 15
12 次	松山 2-3-11	1992.5.12 ～ 20	393		個人住宅	井戸、墨書土器 等		上埋 15
13 次	築地 3-2-18	1992.5.18 ～ 30	234		個人住宅	古代住居跡 1、須恵器 等		上埋 15
14 次	松山 2-5-17	(1992.5.21 ～ 30)	432		個人住宅	井戸、青磁碗 等		上埋 15
92-3	松山 2-3-31・13	(1992.6.12 ～ 18)	871.9		宅地造成	遺構遺物なし		上埋 15
92-4	築地 1-3-17	(1992.6.3 ～ 11)	998		共同住宅	溝、井戸状遺構、須恵器 等		上埋 15
92-5	松山 1-4-32	(1992.10.30)	78.4		共同住宅	遺構遺物なし		上埋 15
92-6	中福岡 362	(1992.7.17 ～ 22)	998		共同住宅	遺構遺物なし	旧福岡新田遺跡 ('92 年度福岡新田試掘)	上埋 15
15 次	松山 2-3-41	(1993.4.5 ～ 16) 1993.4.19 ～ 28	509.19	148	個人住宅	古代住居跡 1、須恵器		上埋 16
17 次	築地 3-2-19	1993.5.10 ～ 24	597		駐車場	古代住居跡 1、土師器 等		上埋 16
16 次	松山 2-3-43・44	(1993.4.5 ～ 16) 1993.7.2 ～ 15	509.19	156.76	個人住宅	古代住居跡 1、墨書土器、須恵器 等		上埋 16
93-3	築地 3-2-17・31	(1993.10.15 ～ 20)	994.22		共同住宅	遺構遺物なし		上埋 16
93-4	築地 2-5-2 の一部	(1993.10.22 ～ 26)	1,246.63		共同住宅	遺構遺物なし		上埋 16
18 次	築地 3-1-16	1993.12.1 ～ 7	290		駐車場	古代住居跡 1		H5 上社
19 次	松山 2-5-9	1994.1.17 ～ 2.3	1,531.38	120	貸店舗	古代住居跡 2、溝、墨書土器、土錘、須恵器 等		上調 3
94-1	築地 2-2-3	(1994.5.30)	310.48		分譲住宅	遺構遺物なし		上埋 17
20 次	築地 1-2-4	(1994.6.24 ～ 7.1) 1994.7.1 ～ 12	559.17		共同住宅	古墳時代住居跡 1、溝、土師器 等		上埋 17、上調 5
94-3	築地 2-4-7	(1994.8.3 ～ 12)	532.36		分譲住宅	遺構遺物なし		上埋 17
95-1	築地 3-1-9・10	(1995.5.10 ～ 19)	303		分譲住宅	遺構遺物なし		上埋 18
95-2	築地 3-3-2	(1995.5.22 ～ 6.15)	542		宅地造成	古墳時代住居跡 1、溝、土師器 等		上埋 18
95-3	築地 3-2-23	(1995.10.17 ～ 20)	153.25		個人住宅	遺構遺物なし		上埋 18
21 次	築地 3-2-23	1995.10.17 ～ 20	378.53		市道	古墳時代住居跡 1、遺物なし		H7 上社
95-4	松山 2-5-8・16	(1995.12.22)	413		宅地造成	遺構遺物なし		上埋 18
96-1	築地 3-2-13・24 の一部	(1996.4.23・24)	139		個人住宅	遺構なし、土師器 等		上埋 19
96-2	松山 2-2-1	(1996.7.22 ～ 24)	489		宅地造成	溝、遺物なし		上埋 19
97-1	松山 1-4-17	(1997.9.11 ～ 18)	591		個人住宅	遺構なし、土師器 等		上埋 20
22 次	築地 3-4-15・23	1997.12.15 ～ 24	419		個人住宅	古代住居跡 1、古代掘立柱建物跡 3、集石土坑、縄文土器、墨書須恵器		上埋 20
98-2	築地 3-2-23 外 2 筆	(1998.4.17・5.19 ～ 22)	450		宅地造成	遺構なし、縄文土器 等		上埋 21
98-3・4	築地 3-3-1	(1998.4.20 ～ 5.20)	922		宅地造成	溝、縄文土器 等		上埋 21
23 次	築地 3-2-24 の一部	(1998.4.16) 1998.5.11 ～ 14	240	120	個人住宅	古代住居跡 1、溝、須恵器、土錘		上埋 21・23
98-5	築地 1-3-18	(1998.7.1)	167.06		個人住宅	遺構遺物なし		上埋 21
24 次	築地 3-2-4・22 の一部	1998.9.8 ～ 21	50		農地改良	古代住居跡 1		H10 上社
98-6	築地 2-5-6	(1998.9.1 ～ 4)	363		個人住宅	遺構なし、土師器 等		上埋 21
25 次	築地 3-2-23 外 2 筆	1999.3.3 ～ 12	240		個人住宅	古代住居跡 2、溝、暗文土器 等		H10 上社
99-1	松山 2-1-10	(1999.4.16)	166		個人住宅	遺構遺物なし		上埋 22
99-2	松山 2-3-3	(1999.5.6 ～ 12)	340		宅地造成	溝、縄文土器		上埋 22
99-3	築地 3-3-14・15	(1999.6.22 ～ 24)	778.29		宅地造成	遺構なし、陶磁器片 等		上埋 22
99-4	築地 3-5-15 の一部、24・27	(1999.8.2 ～ 6)	745.58		宅地造成	ピット、須恵器 等		上埋 22
99-5	築地 3-5-28	(1999.8.26 ～ 9.1)	331.3		個人住宅	溝、土師器 等		上埋 22

地区 地点	所在地	調査期間 ( ) は試掘調査	開発面積 (㎡)	調査面積 ( ) は試掘	調査原因	確認された遺構と遺物	備考	所収報告書
26 次	築地 1-3-21	2000.5.15 ～ 6.2 (2000.4.27 ～ 5.12)	627.9		市道設置	古代住居跡 1、井戸、土師器、青磁碗 等		上埋 23、H12 上社
00-2	築地 1-3-5・25・27・35	(2000.5.17 ～ 25)	687.3		共同住宅	土坑、遺物なし		上埋 23
27 次	仲 2-1-10 の一部	2000.6.12 ～ 7.3 (2000.5.22 ～ 6.8)	912		共同住宅・市道	古代住居跡 1、土師器 等		上埋 23
00-4	松山 2-2-5	(2000.10.30)	592		共同住宅	遺構遺物なし		上埋 23
28 次	築地 1-1-25	2001.2.8 ～ 21	165.6		個人住宅	古代住居跡 1		H12 上社
00-5	築地 3-1-28	(2001.2.2 ～ 13)	614		宅地造成	古代住居跡 1、溝、須恵器 等		上埋 23
00-6	松山 2-1-8・17	(2001.3.21)	174.9		宅地造成	遺構なし		H12 上社
01-1	新田 2-450-1	(2001.4.12・13)	204.15		個人住宅	遺構遺物なし		上埋 24
01-2	仲 2-1-10 の一部	(2001.5・8・9・17・18)	168		地区計画道路	溝、陶磁器 等		上埋 24
01-3	築地 3-4-10	(2001.5.10 ～ 15)	434.59		共同住宅	溝、遺物なし		上埋 24
01-4	仲 1-1-2・3・14	(2001.9.12)	694.68		個人住宅	遺構遺物なし		上埋 24
29 次	築地 1-2-8	(2002.5.20 ～ 23) 2002.7.2 ～ 8.9	978	36	遺構所在確認 (個人住宅)	古代住居跡 1、土師器		上埋 25
02-2	築地 3-5-35・36	(2002.7.11)	248.09		宅地造成	焼土、遺物なし		上埋 25
02-3	松山 2-5-7	(2002.8.5)	358.57		宅地造成	遺構遺物なし		上埋 25
02-4	築地 1-3-28	(2002.8.20・21)	479		共同住宅	遺構遺物なし		上埋 25
02-5	築地 1-3-22・25・30	(2002.8.22 ～ 28)	640.68		遺構所在確認	古代住居跡 1、常滑甕		上埋 25
02-6	松山 2-6-5	(2002.9.9)	147		個人住宅	遺構遺物なし		上埋 25
03-1	本新田 1-23	(2003.4.16 ～ 21)	1,080.48		共同住宅	遺構なし、板碑		上埋 26
03-2	築地 3-5-3 他 6 筆	(2003.8.19・20)	2,578.02		宅地造成	古代住居跡 2、土師器		上埋 26
03-3	中ノ島 1-2-19・68	(2003.4.28 ～ 5.6)	248.09		共同住宅	溝、板碑 等	旧中ノ島地区試掘	上埋 26
30 次	松山 2-2-3	2003.10.3 ～ 10	142.47		個人住宅	古代住居跡 1、土師器 等		上埋 26
04-1	築地 3-1-16・32 の一部	(2004.4.22・23)	976		宅地造成	遺構遺物なし		上埋 27
04-2	築地 1-3-37	(2004.4.26)	165		個人住宅	遺構遺物なし		上埋 27
04-3	松山 2-6-11	(2004.6.16)	309		宅地造成	遺構遺物なし		上埋 27
04-4	築地 2-5-14・25・27	(2004.8.5)	280		個人住宅	遺構遺物なし		上埋 27
04-5	築地 3-4-12	(2004.9.6 ～ 8)	911		宅地造成	溝、遺物なし		上埋 27
05-1	松山 2-2-4 の一部	(2005.4.6・7)	313		土地分譲	遺構遺物なし		市内 1
05-2	築地 3-1-32・34・43	(2005.4.19 ～ 21)	549		土地分譲	遺構なし、須恵器 等		市内 1
05-3	築地 2-5-32	(2005.4.28)	132		個人住宅	遺構遺物なし		市内 1
31 次	築地 3-1-69	(2005.6.9 ～ 13) 2005.6.14 ～ 23	120		個人住宅	古代住居跡 1、土坑、土師器 等		市内 1
32 次	築地 2-5-3	(2005.8.30 ～ 9.9) 2005.9.8 ～ 13	567	132	宅地造成 (個人住宅)	古代住居跡 2、土師器 等		市内 1
05-4	松山 2-4-23	(2005.10.20・21)	161		個人住宅	遺構遺物なし		市内 1
05-5	築地 2-5-36	(2005.10.31)	125		個人住宅	遺構遺物なし		市内 1
05-6	仲 1-4-26	(2005.11.14)	108		個人住宅	遺構遺物なし		市内 1
05-7	松山 2-5-21	(2006.2.28)	100		個人住宅	遺構遺物なし		市内 2
37	松山 2-6-10・13	(2006.4.13)	228	(60)	個人住宅	遺構遺物なし		市内 3
38	仲 1-4-3・9・12・13・24	(2006.5.29)	2,176	(76)	宅地造成	遺構遺物なし		市内 3
39	築地 2-3-10	(2007.1.10 ～ 20)	937	(330)	宅地造成	ピット、縄文土器		市内 3
40	築地 1-1-5	(2007.2.2 ～ 8) 2007.2.21 ～ 3.9	1,047	(500)	宅地造成	古代住居跡 1、地下室、落とし穴、ピット、溝、須恵器 等		市内 3
41	中ノ島 1-2-5	(2007.2.7 ～ 9) 2007.2.21 ～ 3.5	1,281	(330)	宅地造成	土坑、溝、須恵器 等		市内 3
42	仲 2-3-15	(2007.2.13)	108	(12)	個人住宅	遺構遺物なし		市内 3
43	築地 2-5-2	(2007.4.11 ～ 24)	668.13	(281)	分譲住宅	堀跡、土坑、溝、石器 等		市内 4
44	築地 3-2-10・14	(2008.6.9 ～ 11)	132	(35)	個人住宅	遺構遺物なし		市内 6
45	築地 3-4-7 の一部外 6 筆	(2008.9.4 ～ 30) 2008.10.1 ～ 23	390	(390)	道路	古代住居跡 2、古代掘立柱建物跡 2、溝、溝状遺構、ピット、土師器 等		市内 6
46	築地 3-1-33・35 の一部	(2009.2.17)	309	(28)	個人住宅	遺構遺物なし		市内 6
47	築地 3-1-52	(2009.5.11・12)	121	(30)	個人住宅	遺構遺物なし		市内 8
48	仲 2-2-34	(2009.7.1)	67	(21.7)	個人住宅	ピット、遺物なし		市内 8
49	松山 2-6-1・14・22 の一部	(2009.10.17 ～ 22) 2009.10.27 ～ 11.18	449	(158.8) 30	共同住宅	古代住居跡 1、溝、井戸、須恵器 等		市内 7・8
50	松山 2-5-3・17	(2009.11.27 ～ 12.1)	797	(160)	宅地造成	ピット、溝、須恵器		市内 8
51	松山 2-6-22・23、28 の一部	(2010.5.10 ～ 13)	360	(60)	分譲住宅	ピット、遺物なし		市内 10
52	築地 2-2-1	(2010.8.26 ～ 9.3)	694	(322)	分譲住宅	落とし穴、溝、遺物なし		市内 10
53	築地 3-1-11	(2010.9.10 ～ 21)	205	(90)	個人住宅	溝、穴蔵、磁器 等		市内 10
54	築地 3-1-6、76 ～ 83	(2010.9.21 ～ 10.1) 2010.10.4 ～ 11.5	539.51	(230) 80	宅地造成	古代住居跡 3、須恵器 等		市内 9
55	松山 2-4-24 の一部	(2011.1.17) 2011.1.18 ～ 31	226.37	(62) 226	個人住宅	古代住居跡 1、古代掘立柱建物跡 1、土坑、須恵器 等		市内 10

地区 地点	所在地	調査期間 ( ) は試掘調査	開発面積 (㎡)	調査面積 ( ) は試掘	調査原因	確認された遺構と遺物	備考	所収報告書
56	築地 3-4-7・8 の一部	(2011.4.4 ～ 14) 2011.4.11 ～ 15	482.53	(210.1) 87	共同住宅	古代掘立柱建物跡 3、土坑、ピット、溝、墨書土器、須恵器 等		市内 11
57	築地 3-4-47	(20011.4.6・7)	241	(101.7)	分譲住宅	古代住居跡 1、溝、遺物なし		市内 14
58	仲 2-2-31	(2011.6.6 ～ 8) 2011.6.14	114.54	(21.5) 2.4	個人住宅	溝、ピット、井戸、遺物なし		市内 14
59	仲 2-3-6・9	(2011.8.8・9) 2011.8.10・11	559.7	(77) 18	個人住宅	土坑、溝、縄文土器 等		市内 14
60	仲 1-1-15	(2012.3.26・27)	165.31	(58)	個人住宅	堀跡、溝、陶磁器 等		市内 14
61	仲 2-3-3	(2012.4.16 ～ 19)	113	(18)	個人住宅	土坑、溝、陶磁器		市内 15
62	築地 3-5-11・14・19	(2012.6.11 ～ 21) 2012.7.23 ～ 8.1	842	(172.5) 66.5	分譲住宅	縄文時代住居跡 1、古代住居跡 1、ピット、溝、縄文土器 等		市内 12
63	仲 1-1-55・56・57	(2012.6.5)	120	(25)	個人住宅	遺構遺物なし		市内 15
64	築地 3-4-9	(2012.6.7 ～ 15)	314	(115)	分譲住宅	土坑、溝、陶磁器		市内 15
65	仲 2-1-25・36	(2013.2.13 ～ 18) 2013. 2.19 ～ 3.21	630	(11) 20	物置	古代住居跡 2、掘立柱建物跡 3、土坑、溝、須恵器 等		市内 15
66	仲 2-1-53・54		179	(36) 100	個人住宅			市内 15
67	築地 3-3-13	(2013.2.19)	91.97	(9)	個人住宅	遺構遺物なし		市内 15
68	築地 3-5-1	(2013.3.7・8)	166	(26)	個人住宅	土坑、ピット、井戸、須恵器 等		市内 15
69	仲 1-2-51・53・55	(2013.9.10・11) 2013.9.12 ～ 17	298	(126) 5	道路	集石土坑、溝、縄文土器		市内 18
70	仲 2-2-39・41	(2013.4.11 ～ 16) 2013.4.17 ～ 23	220.41	(162)	道路	古代住居跡 1、集石土坑、溝、井戸、須恵器 等		市内 18
71	築地 3-1-16・32・34	(2013.4.30 ～ 5.1)	240	(87.7)	分譲住宅	ピット、古銭 等		市内 18
72	松山 1-4-1	(2013.5.24)	198.86	(1)	個人住宅	遺構遺物なし		市内 18
73	築地 3-1-56	(2013.8.19) 2013.8.20	165	(45) 5	個人住宅	古代住居跡 1、墨書土器、須恵器		市内 18
74	仲 2-1-37	(2013.12.24 ～ 26)	280.24	(65.3)	分譲住宅	集石土坑、土坑、ピット、溝、井戸、陶磁器		市内 18
75	仲 2-2-2・4	(2014.1.14 ～ 20) 2014.8.5 ～ 11	606	(214) 12	分譲住宅	古代住居跡 1、溝、須恵器 等		市内 18
76	仲 2-2-48	(2014.1.22 ～ 28) 2014.9.26 ～ 10.2	120	19.4	個人住宅	土坑、溝、井戸、土師器 等		市内 18
	仲 2-2-37(6 区画)	(2014.1.22 ～ 28) 2014.11.12 ～ 17	120	7	個人住宅	古代住居跡 1、土坑、井戸、土師器 等		市内 18
	仲 2-2-37	(2014.1.22 ～ 28)	362	(131)	宅地造成	古代住居跡 1、土坑、溝、井戸、土師器 等		市内 18
77	松山 2-6-2・3・12 の各一部	(2014.3.3 ～ 11) 2014.3.13 ～ 26	493	(95) 22.8	個人住宅	古代住居跡 1、土坑、墨書土器、土師器 等		市内 18
78	松山 2-5-5	(2014.5.22)	242	(35.3)	個人住宅	遺構遺物なし		市内 20
79	本新田 395-1 の一部	(2014.8.5)	153	(36)	個人住宅	遺構遺物なし		市内 20
80	池上 372	(2015.3.12)	1,183.4	(90)	個人住宅	遺構なし、焙洛 等		市内 20
81	築地 1-1-12	(2015.3.23)	247.49	(74.3)	分譲住宅	溝、遺物なし		市内 20
82	本新田 411 の一部	(2015.7.30・31)	194	(35)	個人住宅	堀跡、縄文土器		市内 22
83	仲 1-2-22	(2015.8.31)	98	(6)	分譲住宅	遺構なし、縄文土器		市内 22
84	築地 3-4-13	(2015.9.15・16)	455	(190)	宅地造成	古代住居跡 1、井戸、縄文土器 等		市内 22
85	池上 362-1 の一部、364・365・366 の一部	(2015.10.1 ～ 19) 2015.10.20 ～ 26	1,244.47	(485.6) 93	分譲住宅	古代住居跡 2、焼土、溝、須恵器 等		市内 19
86	築地 1-1-4	(2016.7.5・7)	294	(37.9)	分譲住宅	溝、陶磁器		市内 24
87	築地 3-1-21・22 の一部、39・40・41・84	(2016.9.14)	427	(29.5)	個人住宅	遺構遺物なし		市内 24
88	築地 1-3-36	(2016.10.13)	120	(18.8)	個人住宅	土坑、ピット、溝、遺物なし		市内 24
89	築地 2-1-11・16	(2017.3.3 ～ 6)	287.04	(89.3)	分譲住宅	遺構なし、須恵器		市内 24
90	仲 1-1-37 の一部	(2017.10.12)	120	(12)	個人住宅	遺構遺物なし		市内 24
91	築地 1-3-8 の一部	(2017.10.24)	416	(51.75)	個人住宅	溝、陶器 等		市内 24
92	築地 3-4-3	(2017.10.30・31)	621	(177.75)	分譲住宅	土坑、ピット、縄文土器		市内 24
93	築地 3-5-72	(2017.11.27・28)	571.97	(114.35)	共同住宅	古代住居跡 2、土坑、堀跡、溝、墨書土器、土師器 等		市内 24
94	築地 3-5-4	(2018.3.23)	1,508	(17.25)	作業場	古代住居跡 1、ピット、土師器 等		市内 24
95	松山 2-1-12	(2018.8.1・2、9.13)	353	(38.96)	分譲住宅	遺構遺物なし		市内 25
96	仲 1-1-34	(2018.8.20)	165.43	(31.95)	分譲住宅	堀跡、遺物なし		市内 25
97	築地 3-1-5・7 の各一部	(2018.10.30)	253	(61.93)	個人住宅	遺構遺物なし		市内 25
98	松山 2-2-4	(2018.11.1)	1,291.34	(54.46)	店舗	遺構なし、須恵器		市内 25
99	仲 2-4-2	(2019.1.11 ～ 15) 2019.1.21・22	673.35	(201.25) 33.8	分譲住宅	堀状遺構、陶磁器 等		市内 23
100	築地 3-1-5 の一部	(2019.8.8) 2019.8.9 ～ 23	327	(21) 45	個人住宅	古代住居跡 1、土師器 等		市内 25
101	仲 1-2-52・54	(2019.10.30 ～ 11.1)	1,219	(222)	分譲住宅	土坑、溝、石製品		市内 25
102	築地 2-3-14・15	(2020.3.17)	91	(5)	分譲住宅	遺構、緑泥片岩		市内 25



第 76 図　松山遺跡遺構分布図 (1/3,000)

第 41 表　松山遺跡古代住居跡一覧表 (単位 cm)

住居番号	調査年度	調査名	調査率	平面形 ( ) は推定	規模	炉 K (竈)	設置壁	竈 規模 (cm)	周溝	主軸方位	時期	備考	所収報告書
1	1978	第 1 次 1 号住居	完掘	正方形	390 × 380	K	東		○		国分前半		上埋 I
2		第 1 次 2 号住居	完掘	台形	360 × 320	K	東		○		国分前半		上埋 I
3	1979	第 2 次 3 号住居	2/3	(方形)	350 × ―	K	東		○		国分後半		上埋 II
4		第 3 次 4 号住居	完掘	方形	530 × 475	K	北		○	N-14-E	国分後半		上埋 II
5	1991	第 10 次 5 号住居	完掘	長方形	230 × 350	K	北→東		○		9C 2 半期		上埋 14
6		第 10 次 6 号住居	2/3	方形	340 × 300	K	東		○		9C 2 半期		上埋 14
7		第 11 次 7 号住居	完掘	正方形	400 × 400				○		8C 4 半期	遺存状態悪い	上埋 14
8	1992	第 13 次 8 号住居	3/4	(方形)	400 × 400 以上	未掘				N-10-E	8C 3 半期	建替	上埋 15
9	1993	第 15 次 9 号住居	完掘	長方形	A：450 × 300 B：420 × 310 C：250 × 300	K	東→北		○		9C 1 半期	鉄鉢型須恵器出土	上埋 16
10		第 16 次 10 号住居	1/3	正方形	560 × 560	K	北		○		8C 4 半期		上埋 16
11		第 17 次 11 号住居	完掘	方形	600 × 600	K	北		○		7C 4 半期	黒色土師器出土	上埋 16
12		第 18 次 12 号住居	完掘	方形	400 × 320	K	北		(○)		8C 4 半期		上埋 16、市史通上
13	1994	第 19 次 13 号住居	完掘	長方形	450 × 300	K	北		○	N-5-E	9C 1 半期		上調 3
14		第 19 次 14 号住居	完掘	長方形	450 × 500	K	東→北		○	N-5-E	9C 1 半期	土錘出土	上調 3
15		第 20 次 15 号住居	完掘	長方形	370 × 470	K	北西		○		7C 4 半期		上調 5
16	1995	95- 試 (2)16 号住居								N-20-W	6C		未報告
17		第 21 次 17 号住居	完掘	長方形	480 × 400	K	北		○		7C 4 半期		上埋 19
18	1997	第 22 次 18 号住居	完掘	長方形	240 × 460	K	東		○	N-50-E	8C 末		上埋 20
19	1998	第 23 次 19 号住居	4/5	長方形	260 × 290				○	N-30-W	8 世 C 後半	土錘 6 点出土	上埋 21
20	1999	第 25 次 20 号住居			―						8C 初頭	暗紋土師器	市史通上
21		第 25 次 21 号住居			―						8C 初頭		未報告
22	2000	第 26 次 22 号住居 02- 試 (5)	完掘		360 ×―	K	北		○		7C 後半	焼失住居	上埋 23
23		第 27 次 23 号住居	完掘	台形	600 × 720	K	北		○		8C 半ば		上埋 23
24	2001	第 28 次 24 号住居	1/2		340 ×―	K	北西		○		8C 中葉		上埋 24
25	2000	00- 試 (5)	2/3									遺存状態悪い	上埋 23
26	2002	第 29 次 26 号住居	完掘	長方形	420 × 360	K	北		○		7C 後半		上埋 25
27	2003	03- 試 (2)27 号住居	一部									プランのみ	上埋 26
28		03- 試 (2)28 号住居	1/2									プランのみ	上埋 26
29		第 30 次 29 号住居	完掘	長方形	360 × 420	K	東		○		9C 前半		上埋 26
30	2005	第 31 次 30 号住居	完掘	長方形	360 × 600	K	北		○			土錘出土	市内 1
31		第 32 次 31 号住居	完掘	長方形	380 × 330	K	東	80 × 50	○	S-65-E	9C 中葉		市内 1
32		第 32 次 32 号住居	1/2	長方形	400 × 300 以上	K	東		○	S-85-E	9C 中葉		市内 1
33	2006	第 40 地点 H33 号住居	完掘	方形	455 × 420	K	北	154 × 98	○	N-5-E	8C 後半		市内 3
34	2008	第 45・57 地点 H34 号住居	完掘	方形	364 × 361	K	東		○	N-96-E			市内 6
35		第 45・84 地点 H35 号住居	南 1/2	(方形)	504 × (222)	未掘			○	N-95-E		焼失住居	市内 6
36	2009	第 49 地点 H36 号住居	完掘	方形	280 × 290	K	東	105 × 100	○	N-92-E	8C 後半	鍛冶炉	市内 7
37	2010	第 54 地点 H37 号住居	完掘	方形	434 × 524	K	北	106 × 81	○	N-13-E	8C 1 四半期		市内 9
38		第 54 地点 H38 号住居	一部	方形	(440) × 468	K	東		○	N-107-E	8C 1 四半期	プランのみ	市内 9
39		第 54 地点 H39 号住居	完掘	方形	336 × 459	K	北	79 × 101	○	N-4-E	8C 1 四半期		市内 9
40	2011	第 55 地点 H40 号住居	3/4	(方形)	(300 × 320)	K	東	123 × 65	○	N-90-E	9C 前半		市内 10
41	2012	第 62 地点 H41 号住居	3/4	(方形)	410 × (300)	K	北			N-18-E			市内 12
42	2013	第 65・66 地点 H42 号住居	完掘	方形	460 × 440	K	東	110 × 106	○	N-62-E	9C 前半		市内 15
43		第 66 地点 H43A 号住居	完掘	方形	470 × 470	―	―		―	N-66-E	9C 中葉前後以降		市内 15
		第 66 地点 H43B 号住居	完掘	方形	700 × 700	K	東	125 × 140	○	N-66-E	9C 中葉前後以降		市内 15
44		第 70・76 地点 H44 号住居		(長方形)	(420) × 340	K	北	65 以上×80 以上	○		8C 前半		市内 18
45		第 73 地点 H45 号住居	一部	不明	(238 × 125)	未掘			○		8C 後半	墨書土器	市内 18
46		第 75 地点 H46 号住居	一部	不明	(320 × 145)	未掘			○		8C 前半～中		市内 18
47		第 77 地点 H47 号住居	一部	不明	410 × (95)	K	北	135 × 156	○		8C 中～後半	墨書土器	市内 18
48	2015	第 85 地点 H48 号住居	1/2	(長方形)	356 × (270)	K	北	(133 × 96)	○	N-65-E	9C 後半	溝に切られる	市内 19
49		第 85 地点 H49 号住居	一部	(長方形)	(225 × 70)	K	北	(82 × 50)		N-60-E	9C 後半		市内 19
50	2017	第 93 地点 H50 号住居	(完掘)	長方形	473 × 381	K	北	未掘	○	南北	7C 末～8C 前半	土坑に切られる	市内 24
51		第 93 地点 H51 号住居	一部	不明	300 以上	K	東			N-72-E	8C 前半	堀跡に切られる	市内 24
52		第 94 地点 H52 号住居	一部	不明	不明	未掘			○		8C 代	攪乱	市内 24
53	2019	第 100 地点 H53 号住居	1/3		(380) × 520		南北	未検出			7C 後半～8C 初頭	攪乱	市内 25

Ⅲ　松山遺跡第 96 地点

（1）調査の概要

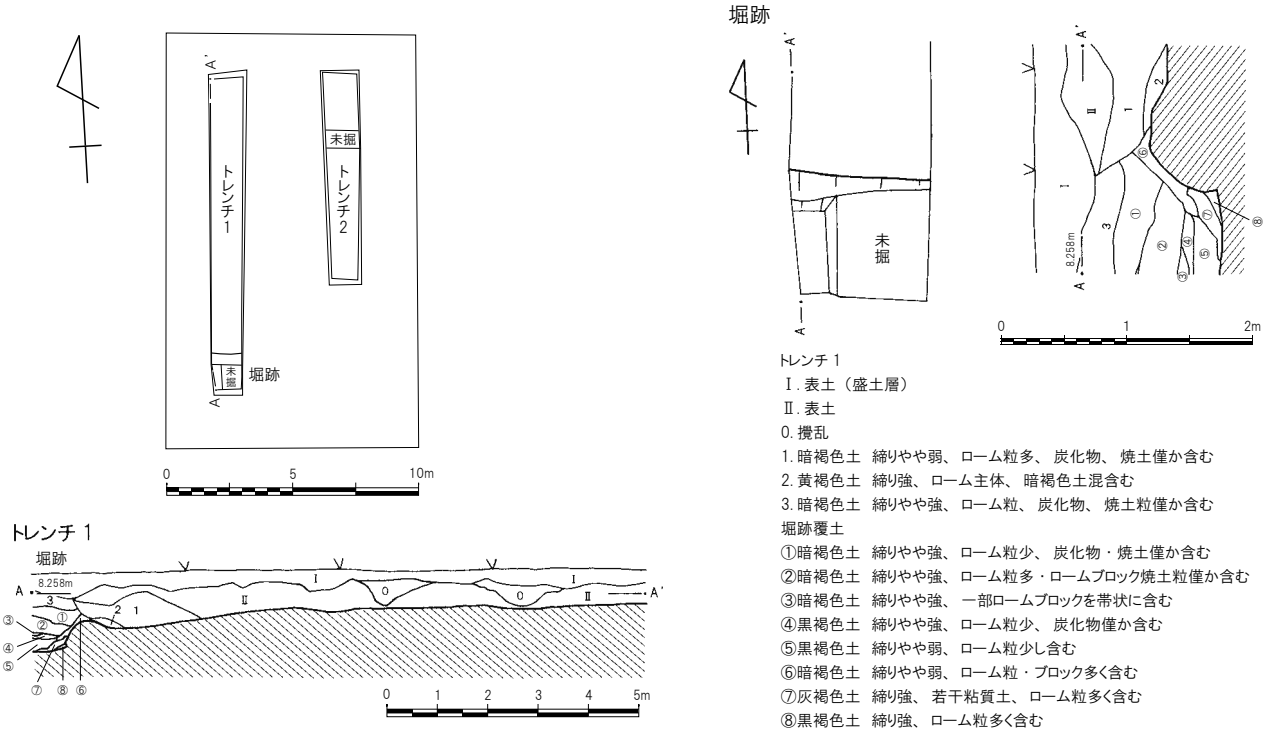
調査は建売住宅建設に伴うもので、原因者より 2018 年 8 月 7 日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の東部に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため 2018 年 8 月 20 日に試掘調査を実施した。

試掘調査は幅約 1.5m のトレンチ 2 本を設定し、重機による表土除去後人力による表面精査を行った。現地表面から地山ローム層までの深さは約 60 ～ 70 ㎝である。

調査の結果、堀跡 1 条を確認した。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえで埋戻し、調査を終了した。

（2）遺構と遺物

堀跡は調査区の南側で検出した。東西方向に走行し、西側に隣接する第 60 地点の堀跡へと繋がる。遺構の規模は調査範囲外のため不明だが、深さは 69.1 ㎝を測る。出土遺物はない。



第 77 図　松山遺跡第 96 地点遺構配置図 (1/300)、土層 (1/150)、堀跡 (1/60)

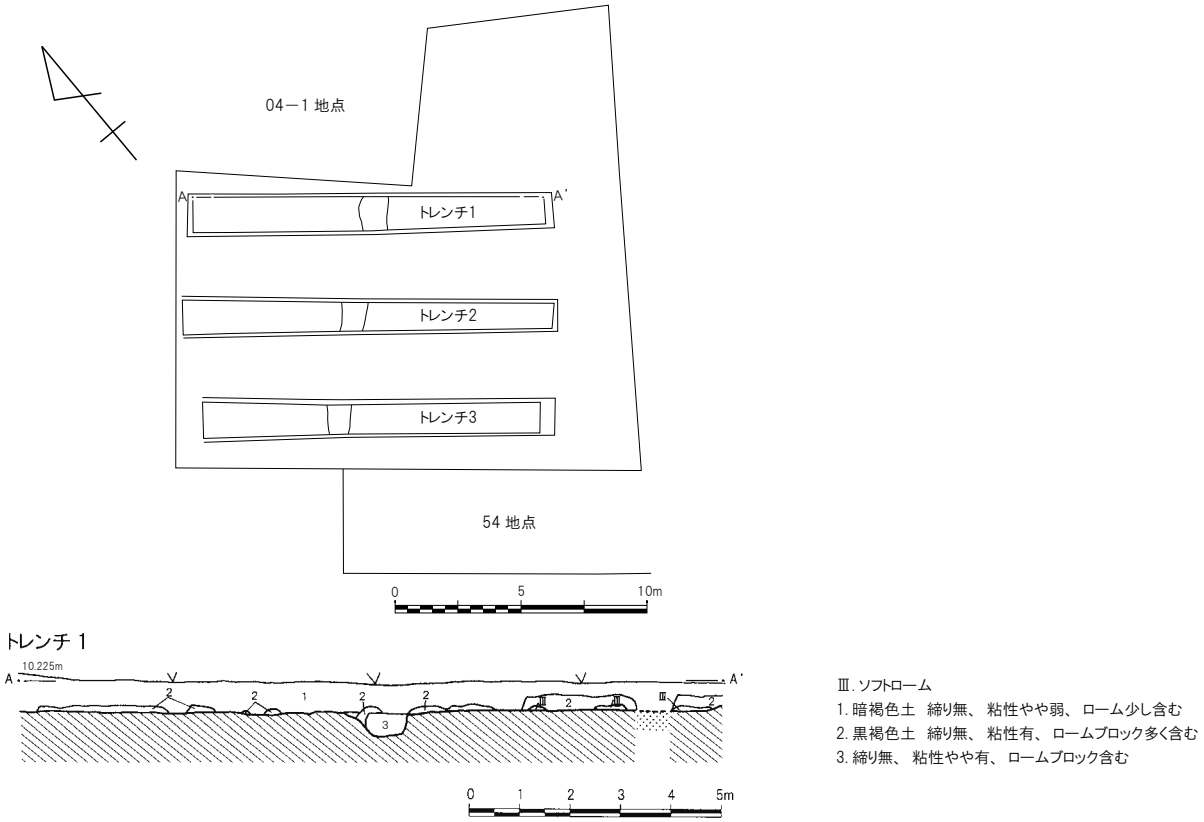
Ⅳ　松山遺跡第 97 地点

（1）調査の概要

調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者より 2018 年 10 月 1 日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の西部に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため 2018 年 10 月 30 日に試掘調査を実施した。

試掘調査は幅約 1.5m のトレンチ 3 本を設定し、重機による表土除去後人力による表面精査を行った。現地表面から地山ローム層までの深さは約 30 ～ 70 ㎝である。

調査の結果、遺構・遺物は確認されなかったため、写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえで埋戻し、調査を終了した。



第 78 図　松山遺跡第 97 地点調査区域図 (1/300)、土層 (1/150)

Ⅴ　松山遺跡第 98 地点

（1）調査の概要

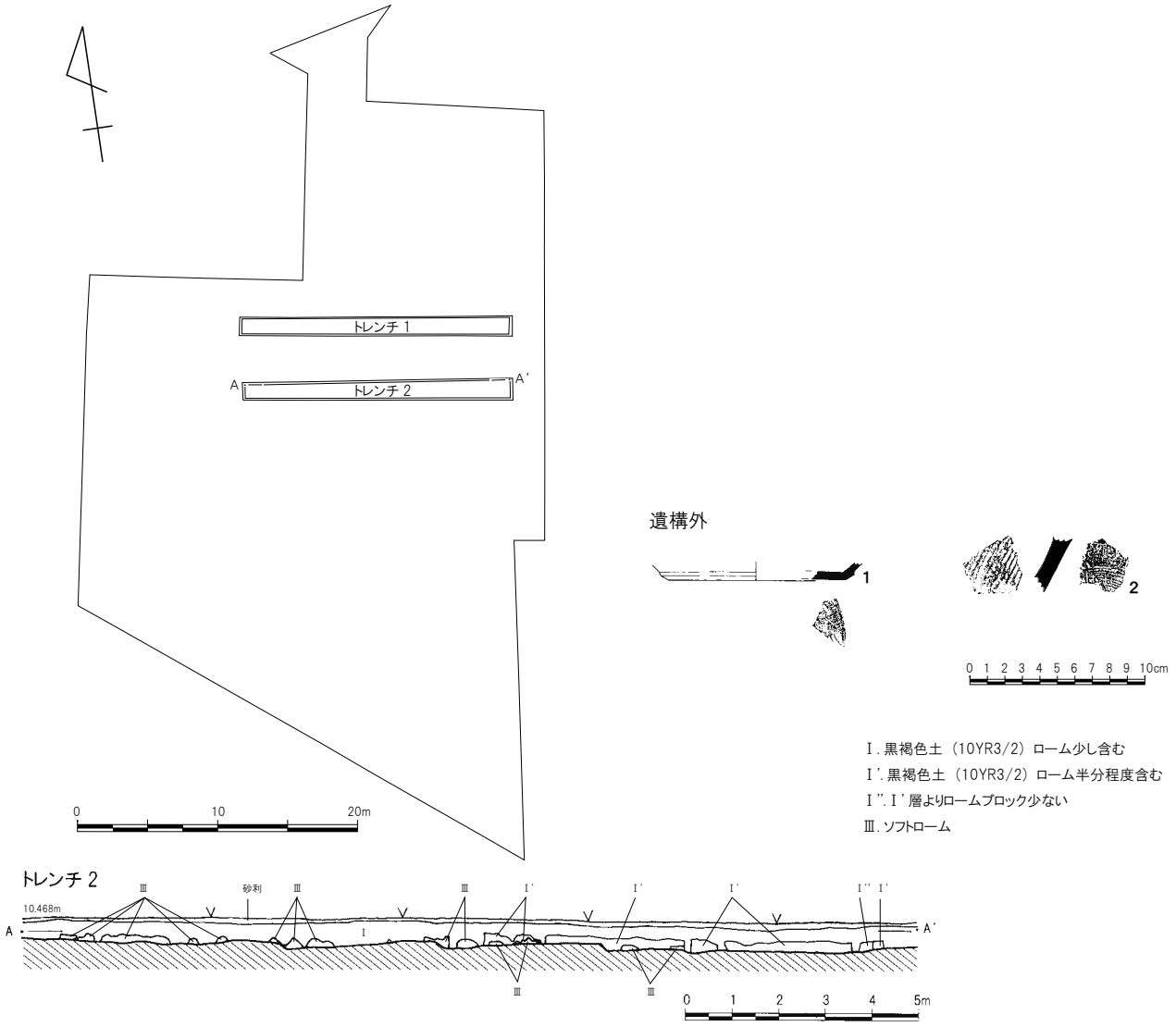
調査は店舗建設に伴うもので、原因者より 2018 年 9 月 12 日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の南西部に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため 2018 年 11 月 1 日に試掘調査を実施した。

試掘調査は幅約 1.5m のトレンチ 2 本を設定し、重機による表土除去後人力による表面精査を行った。現地表面から地山ローム層までの深さは約 60 ㎝である。

調査の結果、遺構は確認されなかったため、写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえで埋戻し、調査を終了した。

（2）遺構と遺物

遺構は確認されなかったが、表土中より須恵器片が出土した。1 は須恵器坏の底部である。灰色 (5Y 5/1) を呈し、底部は回転ヘラケズリを施す。胎土に白色針状物質を多量に含む。南比企産。8 世紀代か。2 は須恵器甕の胴部破片である。灰白色 (5Y7/2) を呈し、外面に平行タタキ、内面はナデを施す。



第 79 図　松山遺跡第 98 地点調査区域図 (1/500)、土層 (1/150)、出土遺物 (1/4)

Ⅵ　松山遺跡第 99 地点

（1）調査の概要

調査は分譲住宅建設に伴い、2019 年 1 月 11 ～ 15 日に試掘調査、2019 年 1 月 21・22 日に本調査を実施した。詳細については、ふじみ野市埋蔵文化財調査報告第 24 集『市内遺跡群 23』（2019 年 3 月刊行）にて報告済みのため、本書では割愛した。

Ⅶ　松山遺跡第 100 地点

（1）調査の概要

調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者より 2019 年 7 月 26 日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の南西部に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため 2019 年 8 月 8 日に試掘調査を実施した。

試掘調査は幅約 1.5 ～ 2m のトレンチ 2 本を設定し、重機による表土除去後人力による表面精査を行った。現地表面から地山ローム層までの深さは約 30 ～ 40 ㎝である。調査の結果、古代住居跡 1 軒を検出した。保護層の確保が難しいため原因者と再協議の結果、本調査を実施した。

本調査は 2019 年 8 月 9 日～ 23 日まで実施した。該当箇所を重機で拡張、写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえで埋戻し、調査を終了した。

（2）遺構と遺物

① H53 号住居跡

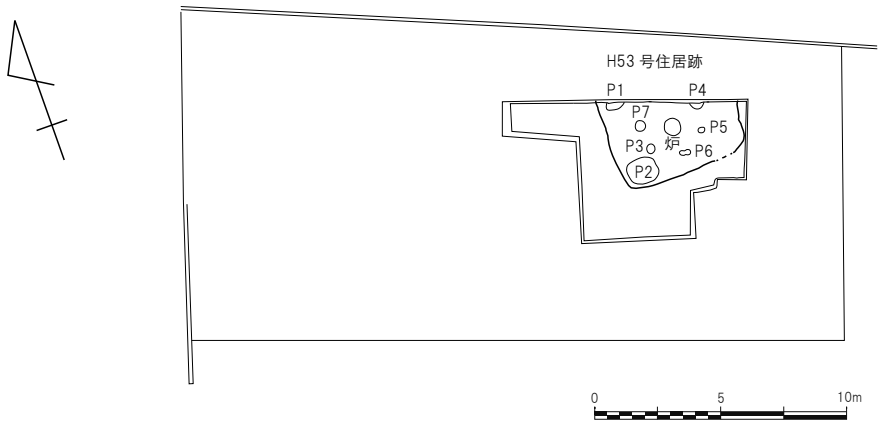
【位置】調査区北東部に位置する。

【形状・規模】住居北側 1/3 程度が調査区外のため、全体の形状および規模は不明。今回確認された住居の規模は、南北 (380) ㎝、東西 520 ㎝、深さ約 35 ㎝を測る。東側の一部に撹乱がトレンチ状に入る。

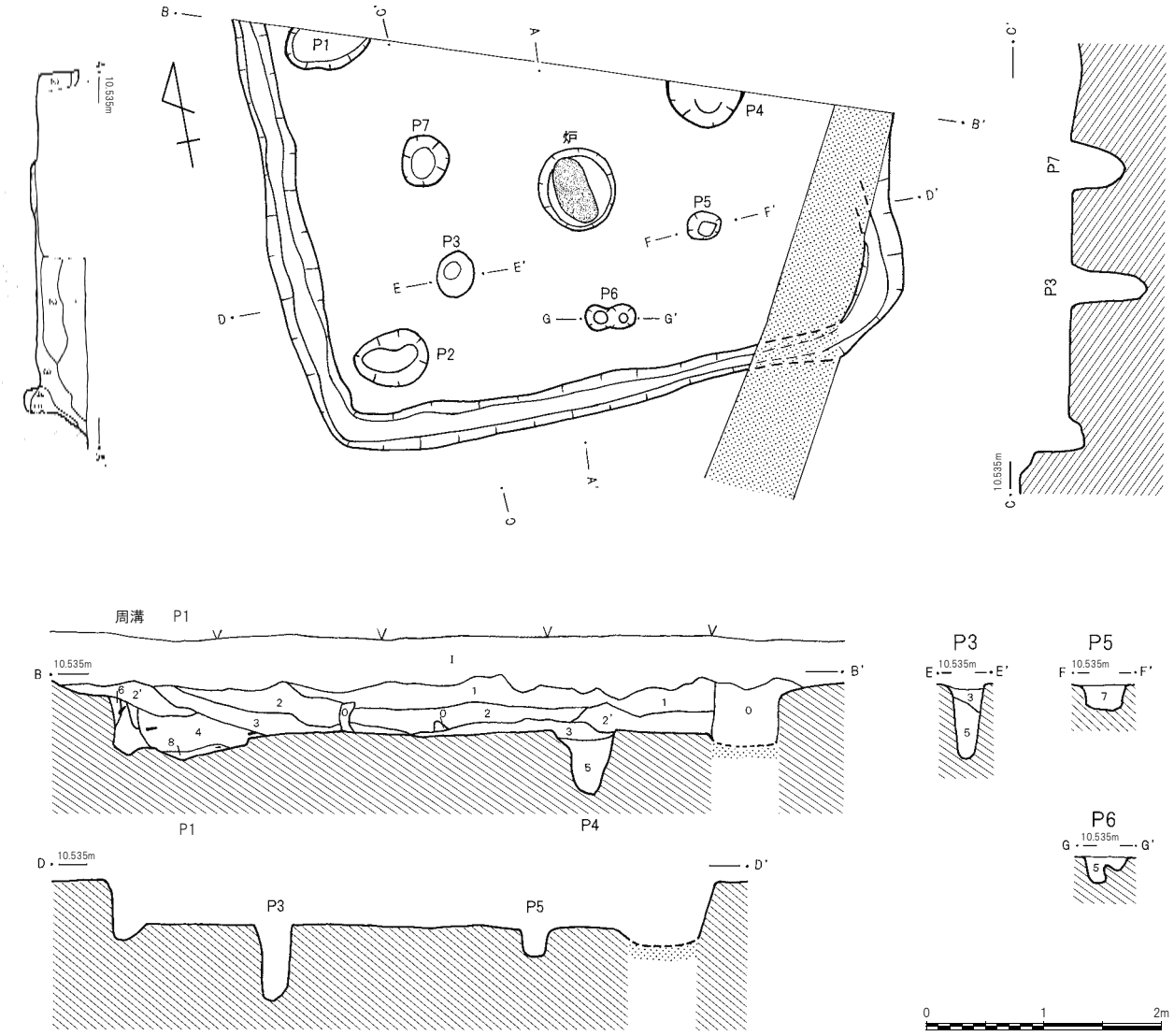
【構造】竈が未検出のため正確な主軸は不明であるが、壁面を見る限りではほぼ南北方向を指向する。住居内ピットは全部で 7 基確認した。詳細については第 42 表に掲載した。柱穴については判然としないが、ピット 3 については柱穴の可能性がある。周溝は確認できた部分では全周している。上幅 35 ㎝、下幅 16 ㎝、深さ約 50.9 ㎝を測る。中央に直径 64 ㎝の焼土を伴う掘り込みを検出した。遺構の性格は不明であるが、作業炉のようなものであった可能性が考えられよう。

【遺物出土状況】遺物は比較的住居内全体より出土したが、南東部は撹乱がはいるため西側に集中する。炭化物は住居南側の床直上で検出した。炭化物の自然科学分析については附編に掲載した。分析結果によると、炭化物の年代は 7 世紀後半から 8 世紀後半を示しており、出土遺物の年代とほぼ一致する。また、樹種はクリであることが判明している。

【時期】出土遺物の年代から 7 世紀後半～ 8 世紀初頭に帰属するものと考えられる。



第 80 図　松山遺跡第 100 地点遺構配置図 (1/300)



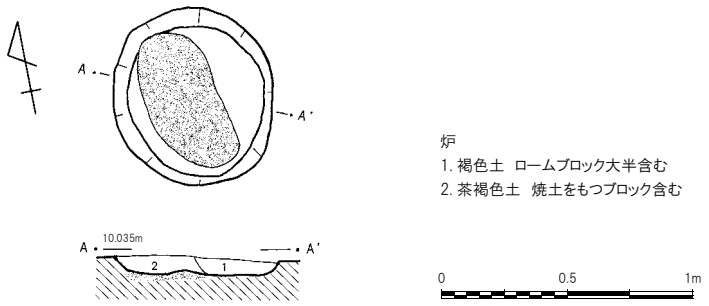
A-A'
1. 黒褐色土　粒子は含まない
2. 黒褐色土　細かいローム粒・焼土粒・炭化材含む
3. 側壁からの流れ込み、 細焼土粒を含む
4. 黒褐色土　粒子は含まない
5. 茶褐色土　流れ込みのローム含む
B-B' ～ G-G'
Ⅰ. 表土
0. 撹乱
1. 黒褐色土　焼土粒含む
2. 黒褐色土　1 層より焼土多く含む
2'. 黒色土　焼土粒 2 より多く含む
3. 暗褐色土　ローム粒・焼土粒含む
4. 暗褐色土　2 ～ 3 ㎜大焼土ブロック含む
5. 黄褐色土
6. 暗褐色土　ローム混
7. 黄褐色土　ロームブロック大半含む
8. 茶褐色土　ローム粒含む

第 42 表　松山遺跡第 100 地点 H53 号住居内ピット一覧表 (単位 cm)

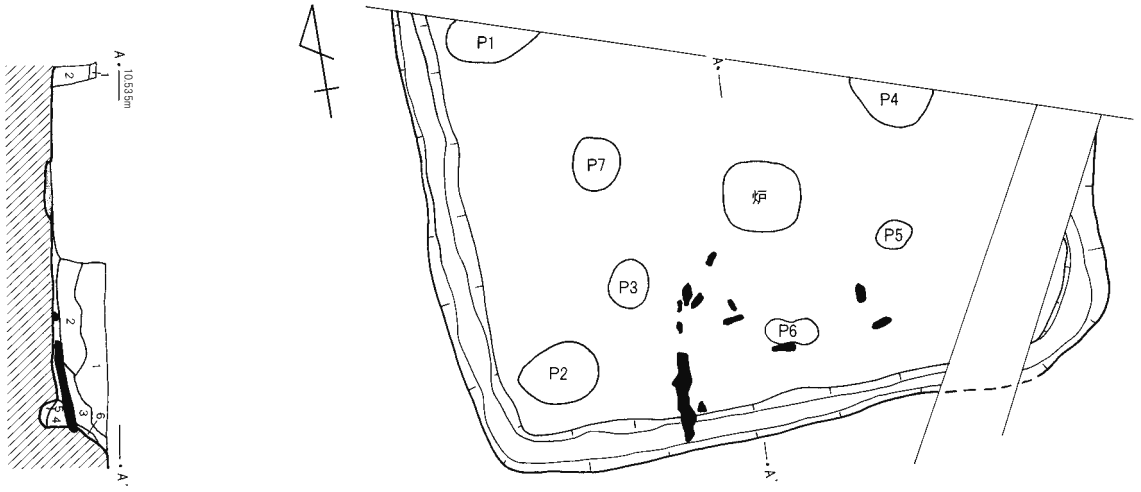
No.	平面形態	確認面径	底径	深さ
1	不明	69 × (31)	60 × (21)	17.1
2	楕円形	62 × 49	50 × 20	20.2
3	楕円形	40 × 30	15 × 12	63.6
4	不明	57 × (21)	21 × (10)	53.8
5	方形	24 × 22	12 × 12	23.6
6	だるま形	43 × 21	11 × 9	25.3
7	円形	42 × 39	26 × 20	42.9

第 81 図　松山遺跡第 100 地点 H53 号住居跡 (1/60)

炉

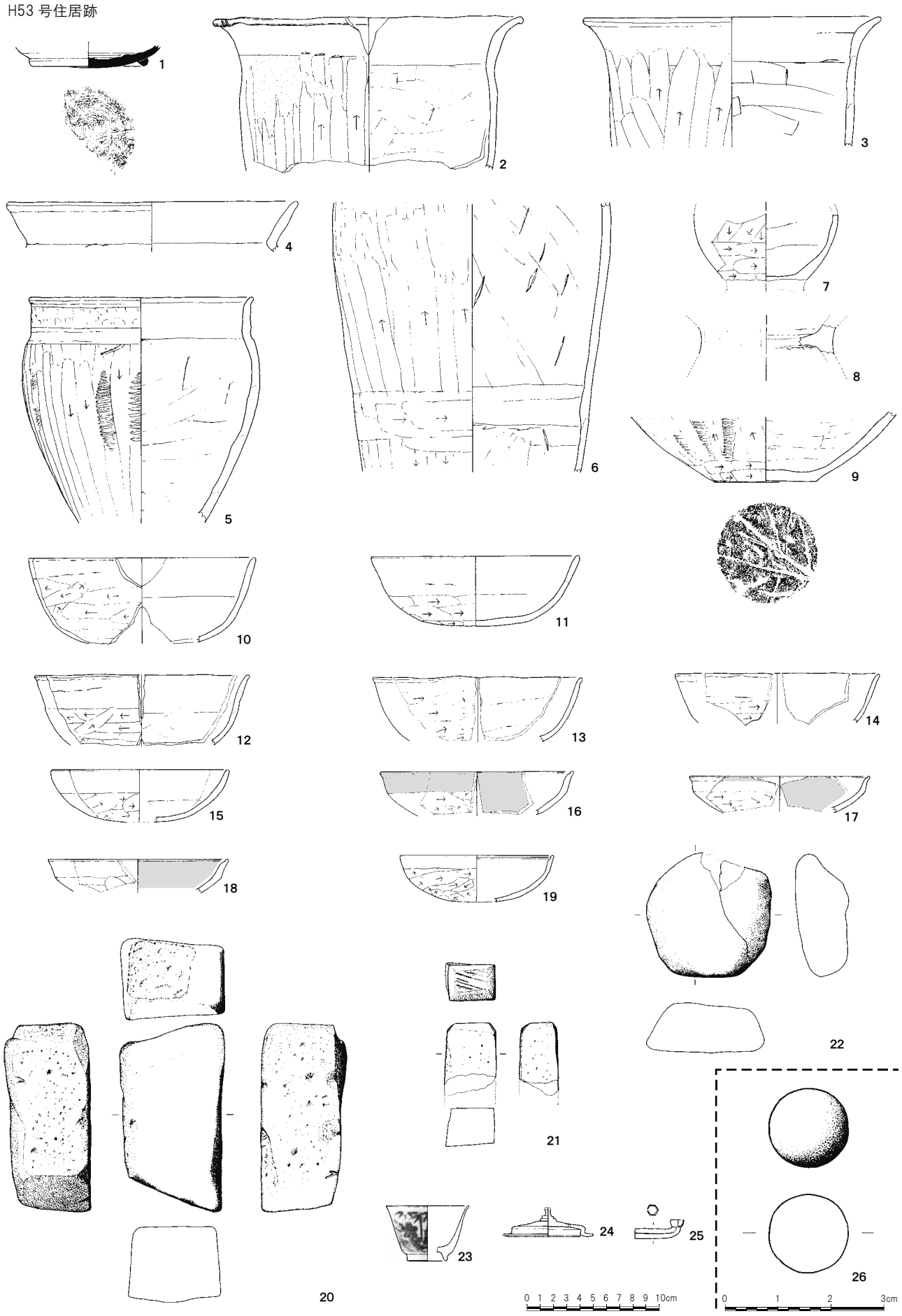


炭化物出土状況



遺物出土状況

第 82 図　松山遺跡第 100 地点 H53 号住居跡炉 (1/30)、遺物出土状況 (1/60)



第 83 図　松山遺跡第 100 地点出土遺物 (1/4・1/1)

第 43 表　松山遺跡第 100 地点出土遺物観察表 (単位 cm・g)

図版番号	出土遺構	種別・器種	口径・長さ	底径・幅	高さ・厚さ	重さ	技法・文様・備考	時期・型式
第 83 図 -1	H53 号住居跡	須恵器・高台付坏	―	8.8	(1.7)	―	出尻底、胎土に黒色粒子含む	7 世紀末～8 世紀初頭
第 83 図 -2		土師器・甕	23.4	―	(11.8)	―	口縁部残存、1/10 残存、口縁部横ナデ、胴部外面縦位のヘラケズリ、胴部内面ヘラナデ	7 世紀末～8 世紀初頭
第 83 図 -3		土師器・甕	22.4	―	(9.8)	―	口縁部残存、1/10 残存、口縁部横ナデ、胴部外面縦位のヘラケズリ、胴部内面ヘラナデ	7 世紀末～8 世紀初頭
第 83 図 -4		土師器・甕	22.0	―	(3.8)	―	口縁部のみ 1 周、残存 1/10 以下、口縁部横ナデ	7 世紀末～8 世紀初頭
第 83 図 -5		土師器・甕	17.0	―	(17.2)	―	底部欠損、1/ 2 残存、口縁部横ナデ、胴部外面縦位のヘラケズリ、胴部内面ヘラナデ、胴部外面全体に煤付着	7 世紀末～8 世紀初頭
第 83 図 -6		土師器・甕	―	―	(20.3)	―	胴部、口縁部と底部は欠失、1/5 残存、胴部外面縦位のヘラケズリ、胴部内面ヘラナデ、胴部下半に接合痕	7 世紀末～8 世紀初頭
第 83 図 -7		土師器・台付甕	―	―	(5.0)	―	胴部、口縁部と脚部欠失、1/8 残存、胴部外面横位のヘラケズリ、胴部内面ヘラナデ	7 世紀末～8 世紀初頭
第 83 図 -8		土師器・台付甕	―	―	(2.0)	―	胴部脚部の接合部、1/10 以下残存	7 世紀末～8 世紀初頭
第 83 図 -9		土師器・壷	―	8.0	(5.3)	―	胴部から底部残存、残存 1/5、底部木葉痕、胴部外面縦位のヘラケズリ、底部付近は横位、胴部内面ヘラナデ、底部上 3 ㎝から煤付着	7 世紀末～8 世紀初頭
第 83 図 -10		土師器・坏	17.2	―	(6.2)	―	1/6 残存、口縁部横ナデ、胴部外面ヘラケズリ、胎土に砂粒多い	7 世紀末～8 世紀初頭
第 83 図 -11		土師器・坏	15.8	―	(5.4)	―	1/2 残存、口縁部横ナデ、胴部外面ヘラケズリ、胎土に砂粒多い	7 世紀末～8 世紀初頭
第 83 図 -12		土師器・坏	16.2	―	(5.3)	―	1/7 残存、口縁部横ナデ、胴部外面ヘラケズリ、胎土に砂粒多い	7 世紀末～8 世紀初頭
第 83 図 -13		土師器・坏	15.8	―	(4.8)	―	1/8 残存、口縁部横ナデ、胴部外面ヘラケズリ、胎土に砂粒多い	7 世紀末～8 世紀初頭
第 83 図 -14		土師器・坏	15.4	―	(3.9)	―	1/10 残存、口縁部横ナデ、胴部外面ヘラケズリ、胎土に砂粒多い	7 世紀末～8 世紀初頭
第 83 図 -15		土師器・坏	13.4	―	(4.0)	―	1/5 残存、口縁部横ナデ、胴部外面ヘラケズリ	7 世紀末～8 世紀初頭
第 83 図 -16		土師器・坏	14.6	―	(3.2)	―	1/10 残存、口縁部横ナデ、胴部外面ヘラケズリ、口縁部外面から内面に赤彩	7 世紀末～8 世紀初頭
第 83 図 -17		土師器・坏	13.6	―	(3.8)	―	1/10 以下残存、口縁部横ナデ、胴部外面ヘラケズリ、口縁部外面から内面に赤彩	7 世紀末～8 世紀初頭
第 83 図 -18		土師器・坏	13.6	―	(3.5)	―	1/10 以下残存、口縁部横ナデ、胴部外面ヘラケズリ、口縁部外面から内面に赤彩	7 世紀末～8 世紀初頭
第 83 図 -19		土師器・坏	11.6	7.5	(3.5)	―	1/3 残存、口縁部横ナデ、胴部外面ヘラケズリ	7 世紀末～8 世紀初頭
第 83 図 -20		砥石	14.5	7.5	5.8	―	砂岩、完形だが被熱により破砕された力、使用頻度は低い	7 世紀末～8 世紀初頭
第 83 図 -21		砥石	―	3.7	(5.6)	―	泥岩、面取り有り	7 世紀末～8 世紀初頭
第 83 図 -22		礫	9.5	9.3	4.0	―	砂岩、外見は自然礫だが使用された可能性はある、二つに割れ住居床面より離れて出土	7 世紀末～8 世紀初頭
第 83 図 -23		磁器・染付小碗	6.2	2.8	4.2	―	端反、1/2 残存、銅板転写、人造コバルト	1890 年以降
第 83 図 -24		炻器・急須	6.8	―	2.1	―	萬古焼、山蓋、摘み欠損	19 世紀以降
第 83 図 -25		キセル	―	―	3.7	―	銅製、雁首、首部は六角、火皿は浅い	19 世紀
第 83 図 -26		土製・玉	―	―	1.5	―	土師質、歪みあり	不明

Ⅷ　松山遺跡第 101 地点

（1）調査の概要

調査は分譲住宅建設に伴うもので、原因者より 2019 年 10 月 7 日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の東部に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため 2019 年 10 月 30 日～ 11 月 1 日に試掘調査を実施した。

試掘調査は幅約 2m のトレンチ 8 本を設定し、重機による表土除去後人力による表面精査を行った。現地表面から地山ローム層までの深さは約 50 ～ 80 ㎝である。

調査の結果、中近世以降の溝 2 条と土坑 5 基を検出した。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえで埋戻し、調査を終了した。

（2）遺構と遺物

①土坑

土坑は 5 基検出した。規模等詳細については第 44 表に掲載した。いずれも出土遺物はなく、土層の観察から土坑 1 ～ 3 は縄文時代、土坑 4 及び 5 は中近世以降のものと考えられる。

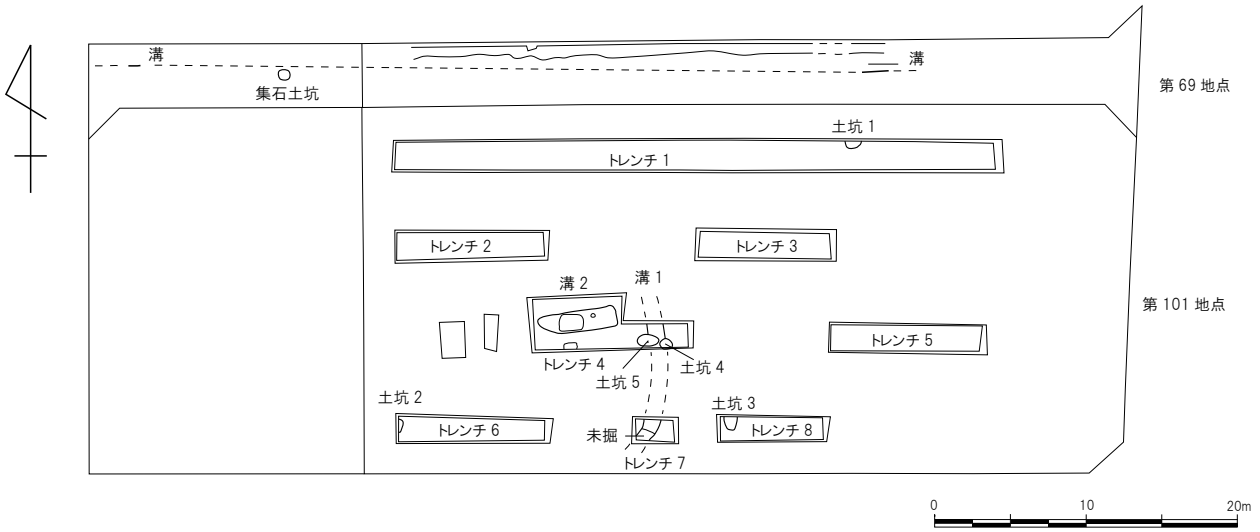
②溝

【溝 1】 調査区中央部、トレンチ 4 及びトレンチ 7 で検出した。土坑 4・5 と切り合う。N-2°-E とほぼ南北方向を指向し、トレンチ 7 内で南西方向に走行方向を変える。南端部は調査区外へ延伸、北側はトレンチ 1・2・3 で検出されなかったため、その間で止まるようである。確認された全長は約 800 ㎝、上幅約 100 ㎝、下幅約 50 ㎝、深さ 37.1 ㎝を測る。出土遺物はない。土層の観察から中近世以降のものと考えられる。

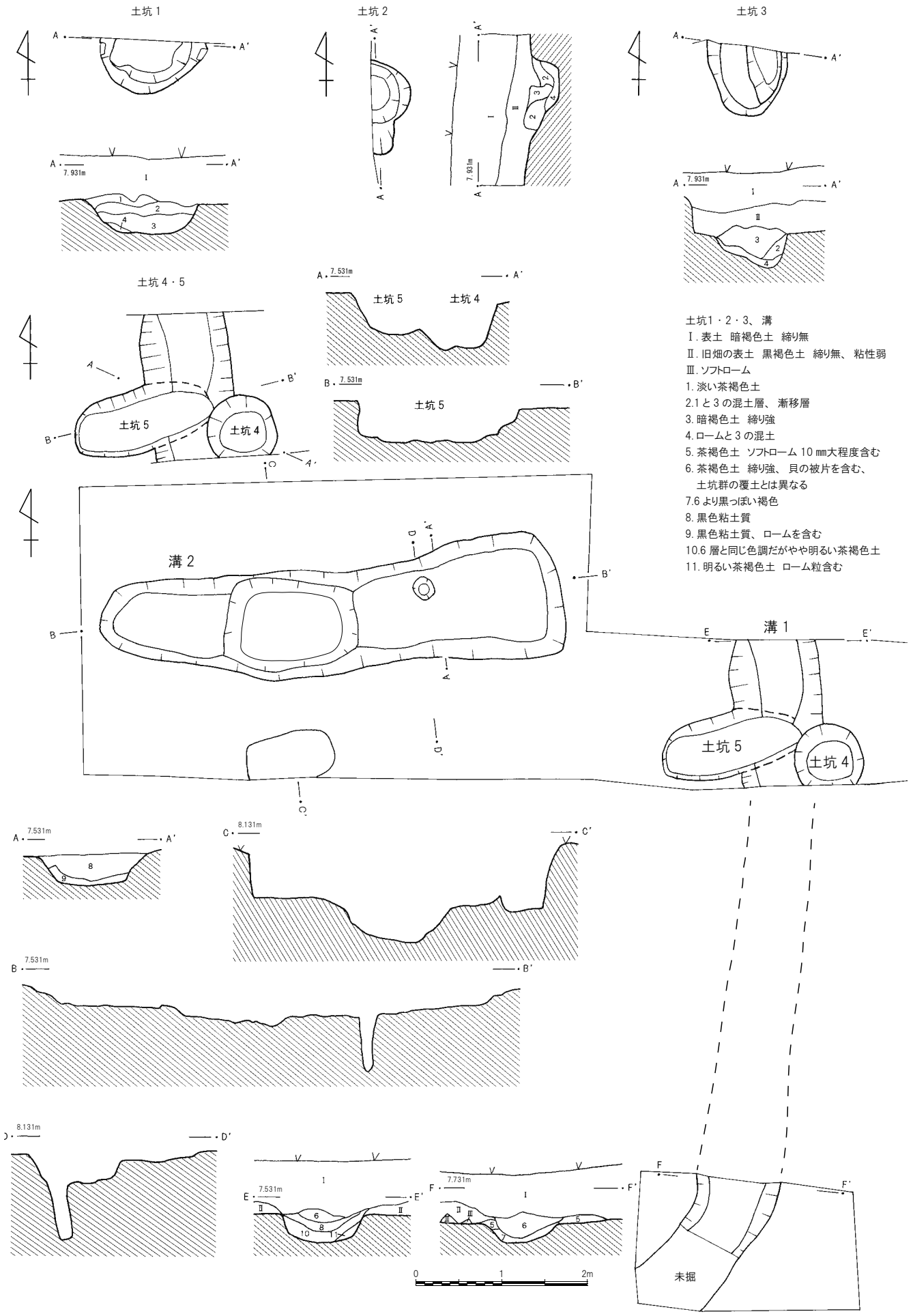
【溝 2】 調査区中央部やや西寄りに位置する。N-87°-E とほぼ東西方向に走行し、全長は 500 ㎝、上幅 146 ㎝、下幅 110 ㎝、深さ 39.3 ㎝を測る。底面中央部がやや窪む。また底部に径約 26 ㎝のピット状の掘り込みを伴う。出土遺物と土層の観察から中近世以降のものと考えられる。

③出土遺物

遺物は溝 2 の覆土中及びトレンチ覆土中より出土したものである。詳細については第 86 図及び第 45 表に掲載した。

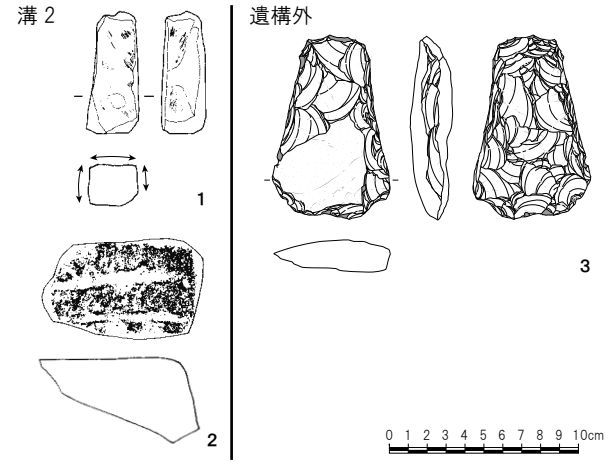


第 84 図　松山遺跡第 101 地点遺構配置図 (1/500)



第 85 図　松山遺跡第 101 地点土坑・溝 (1/60)

第 101 地点



第 44 表　松山遺跡第 101 地点土坑一覧表 (単位 cm)

No.	平面形態	確認面径	底径	深さ
1	不明	121 × (63)	74 × (37)	36
2	不明	109 × (44)	38 × (20)	35.6
3	不明	97 × (77)	(38) × 30	40.2
4	(円形)	80 × (71)	52 × 45	56
5	不明	(163) × 73	160 × 49	50.3

第 45 表　松山遺跡第 101 地点出土遺物観察表 (単位 cm・g)

図版番号	出土遺構	種別・器種	口径・長さ	底径・幅	高さ・厚さ	技法・文様・備考	時期・型式
第 86 図 -1	溝 2	石製品・砥石	(6.5)	2.7	(2.2)	重量：59.28g、砥沢石	近世以降
第 86 図 -2		石製品・石臼	ー	-	ー	下臼の破片か、副溝 2 条	近世以降
第 86 図 -3	遺構外	石器・打製石斧	9.754	6.231	2.249	重量：153.8g、石材：チャート、撥形、背面に原面を残す、右側縁折面、左側縁潰れ状あり	縄文

Ⅸ　松山遺跡第 102 地点

（1）調査の概要

調査は建売住宅建設に伴うもので、原因者より 2019 年 12 月 23 日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の中央部に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため 2020 年 3 月 17 日に試掘調査を実施した。

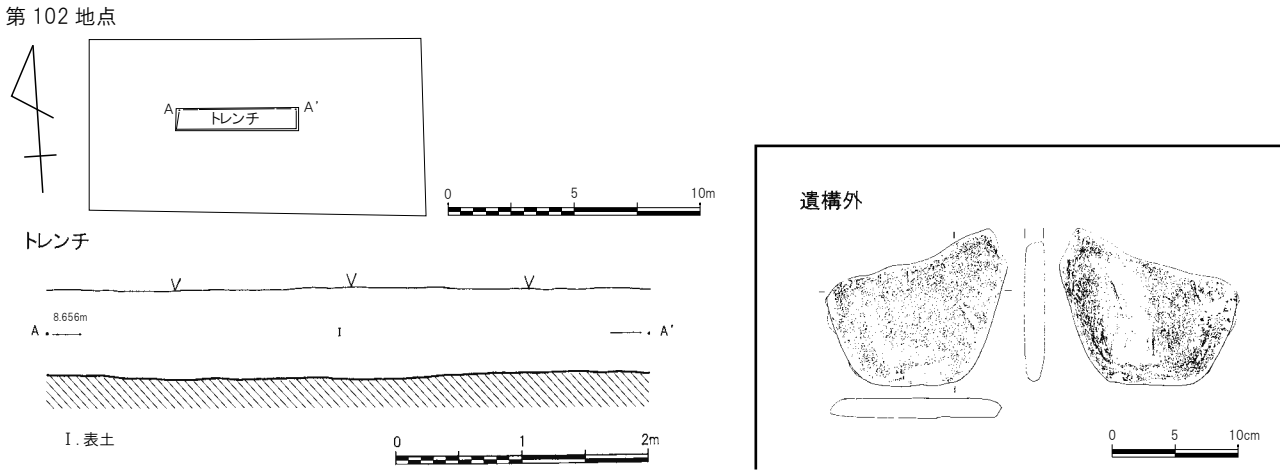
試掘調査は幅約 1m のトレンチ 1 本を設定し、人力による表土除去、表面精査を行った。地山ローム層までの深さは 60 ～ 70 ㎝である。

調査の結果、遺構は確認されなかったため、写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえで埋戻し、調査を終了した。

（2）遺構と遺物

遺物はトレンチ覆土から出土した緑泥片岩の破片である。縦 12.5 ㎝、横 13.6 ㎝を測り、1.6 ㎝の厚みがある。一部にモルタルのようなものが付着する。全体的に丸みを帯びており、欠損してから時間が経過しているものと想定される。文字等は確認できない。板碑の基部であった可能性が考えられよう。

第 102 地点



第 86 図　松山遺跡第 102 地点調査区域図 (1/300)、土層 (1/60)、第 101・102 地点出土遺物 (1/6・1/4)

第 11 章　江川南遺跡の調査

Ⅰ　遺跡の立地と環境

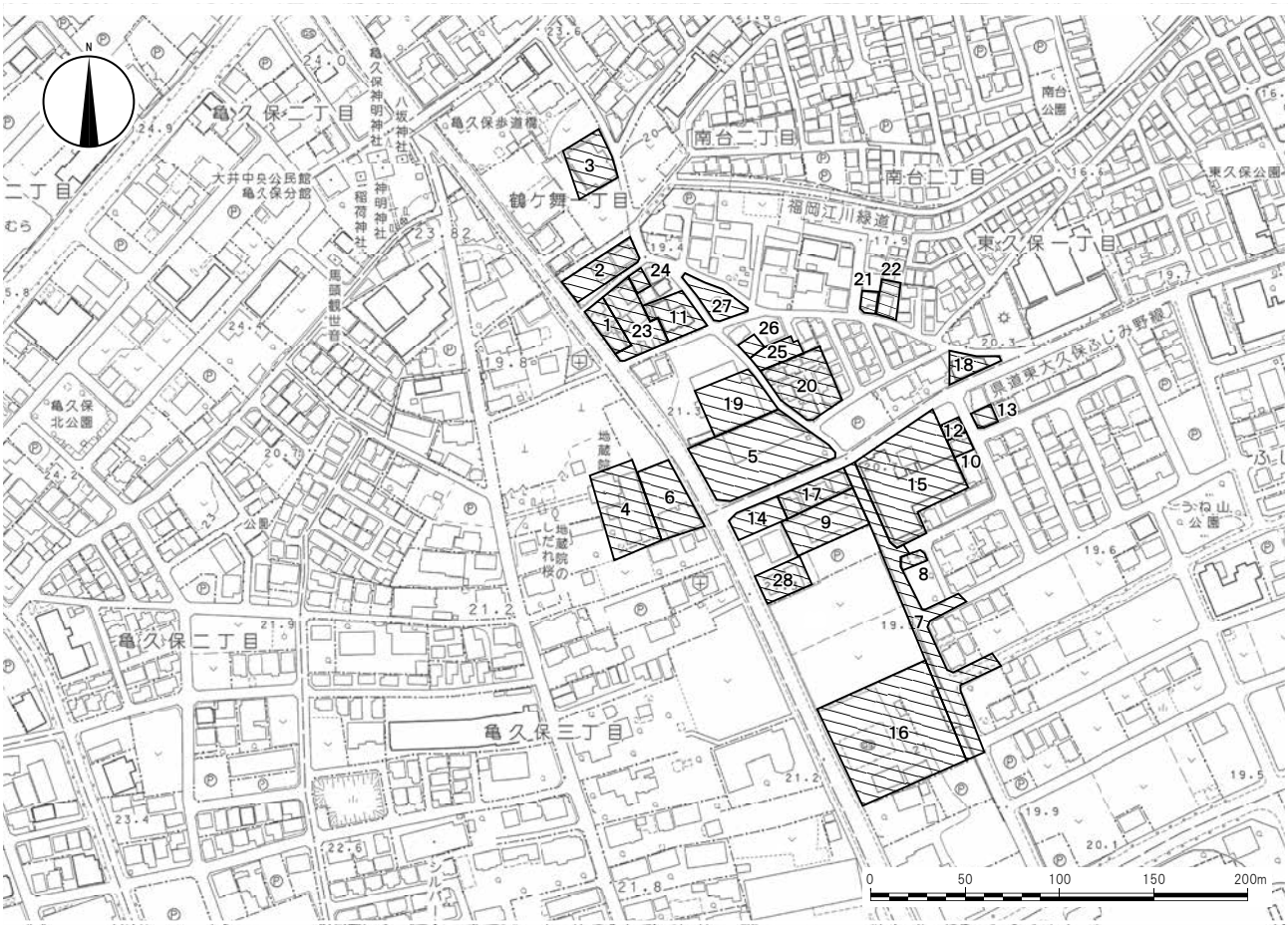
江川南遺跡は福岡江川の谷頭部から、約 300 ～ 500 m程下った右岸に位置している。遺跡の標高は 20 ～ 21 mで、現谷底との比高差は 1 ～ 2 mを測る。福岡江川北側の左岸は急傾斜を成すが、本遺跡をのせる南側右岸の台地は緩やかに傾斜する。

遺跡の中央部を南北に川越街道がはしり、川越街道から東に県道東大久保・大井線が延びる。東武東上線上福岡駅から約 1 ｋｍのため、昭和 40 年代から急激な開発による市街化がなされ現在に至っている。

周辺の遺跡は、福岡江川の対岸に亀居遺跡と鶴ケ舞遺跡が位置し、東側に江川東遺跡が隣接する。

本遺跡は当初、地蔵院遺跡と江川南遺跡であったが、平成 5 年に遺跡の変更増補を行い統一した。また平成 9 年には亀久保堀跡遺跡と江川南遺跡に分ける変更増補を行った。

本遺跡では旧石器時代の石器集中・礫群、縄文時代中期の住居跡・土坑など、古代～中世の堀跡、地蔵院に関わる近世の遺構群で、また時期は多岐にわたる。2020 年 4 月現在、28 地点で調査を行っている。



第 87 図　江川南遺跡の地形と調査区 (1/4,000)

第 46 表　江川南遺跡調査一覧表

地区 地点	所在地	調査期間 ( ) は試掘調査	開発面積 (㎡)	調査面積 ( ) は試掘	調査原因	確認された遺構と遺物	備考	所収報告書
1	亀久保 121-1	1977.8.30 ～ 9.30	64		町史編纂事業	縄文時代住居跡 1、ピット、縄文土器 等		大史 7
2	東久保 1-120-3	(1990.5.28 ～ 31) 1990.6.1 ～	580		共同住宅	堀跡、礫群、縄文土器 等		東部XI
3	鶴ヶ舞 1-110-5	(1991.3.25)	646		資材置場	遺構遺物なし	鶴ケ舞 3 地点として報告	町内 I
4	亀久保 192	(1995.8.28 ～ 9.21)	825		庫裏建設	縄文時代住居跡 1、土坑、井戸、焼土、縄文土器 等		町内V
5	東久保 1-194・195 の一部	(1996.8.5 ～ 8) 1996.8.20 ～ 29	2,092		店舗	ピット、溝、縄文土器 等		町内VI、大調 14
6	亀久保	(1985.10.17 ～ 11.8)	837		町史編纂	竪穴遺構、土坑、溝、池状遺構、磁器 等	旧地蔵院 1 地点	町内V
	亀久保 3-193	(2003.4.16 ～ 24)	929	(10)	店舗	縄文時代住居跡 1、縄文土器 等		町内XII・市内 2
7	亀久保 196-1 他	1996.11.19 ～ 1997.2.13	1,322	1,020	区画整理道路	落とし穴、ピット、堀跡、溝、縄文土器 等		大調 14
8	東久保 7 街区 1 画地	(1997.10.13 ～ 15)	50		墓地移転	落とし穴、ピット、かわらけ		町内VII
9	東久保 1 街区 2･3 画地	(1998.10.6 ～ 9)	875	(875)	共同住宅	遺構遺物なし		町内VIII
10	東久保 2 街区 9･10 画地	(1999.5.24 ～ 26)	133	(18)	個人住宅	遺構遺物なし		町内IX
11	東久保 1-122-2・4	(1999.9.20 ～ 27) 1999.9.28 ～ 10.15	465	(150)	共同住宅	土坑、堀跡、溝、礫群、石器集中、石器 等		大調 16、町内IX
12	東久保 2 街区 4･5 画地	(1999.10.26 ～ 28)	104	(14)	個人住宅	遺構なし、縄文土器		町内IX
13	東久保 3 街区 21 画地	(2000.6.7) 2000.6.8 ～ 21	123	55	個人住宅	集石土坑、土坑、縄文土器		町内X
14	東久保 1 街区 1 画地	(2000.7.5 ～ 10) 2000.7.10 ～ 18	461	237	店舗	土坑、ピット、溝、柵列、縄文土器 等		町内X
15	東久保 2 街区 1 画地	(2000.12.8 ～ 26) 2001.1.10 ～ 19	2,375	1,050	共同住宅	土坑、ピット、堀跡、溝、柵列、縄文土器 等		町内X、大調 14
16	東久保 1 街区	(2002.9.24 ～ 10.4)	3,752	(326)	給油所	遺構遺物なし		町内XII
17	東久保 196-1(1 街区 20・22・23 画地)	(2002.10.29 ～ 11.11)	474	(138)	土地区画整理	ピット、堀跡、溝、縄文土器 等		町内XII
18	東久保 285-51・52 他	(2003.7.11 ～ 16)	240	(56)	共同住宅	遺構遺物なし		町内XII
19	東久保 1-185-1	(2003.9.18 ～ 10.8) 2003.10.10 ～ 11.14	1,129	(300)	店舗	掘立柱建物跡 1、土坑、ピット、堀跡、溝、礫群、炉穴、石器 等		町内XII・大調 20
20	東久保 1-183-5	(2005.8.1 ～ 12) 2005.8.18 ～ 9.10	951	300	分譲住宅	縄文時代住居跡 2、集石土坑、土坑、ピット、溝、縄文土器 等		大調 18・市内 2
21	東久保 1-29-1	(2006.10.11)	99	(24)	個人住宅	遺構遺物なし		市内 3
22	東久保 132-11	(2006.10.11 ～ 11.6) 2006.11.7 ～ 9	208	90	分譲住宅	礫群、石器		市内 3
23	東久保 1-121-1	(2007.1.24 ～ 2.1) 2007.2.19 ～ 3.16	1,011	610	分譲住宅	縄文時代住居跡 2、集石土坑、土坑、ピット、溝、礫群、縄文土器 等		市内 3
24	東久保 1-122-5	(2009.12.4 ～ 10) 2009.12.14 ～ 28	178	(51) 66	分譲住宅	礫群、石器集中、集石土坑、堀跡、縄文土器 等		市内 7・8
25	東久保 1-183-8・13	(2012.7.4)	252.88	(50)	分譲住宅	溝、縄文土器		市内 15
26	東久保 1-183-14	(2013.9.24 ～ 26)	99.2	(22.5)	分譲住宅	遺構遺物なし		市内 18
27	東久保 1-123-1・2	(2016.7.19・20)	380.19	(62.35)	共同住宅	遺構なし、縄文土器		市内 24
28	ふじみ野 2-1-8・9	(2019.3.18・19)	436.17	(76.89)	建物解体	遺構遺物なし		市内 25

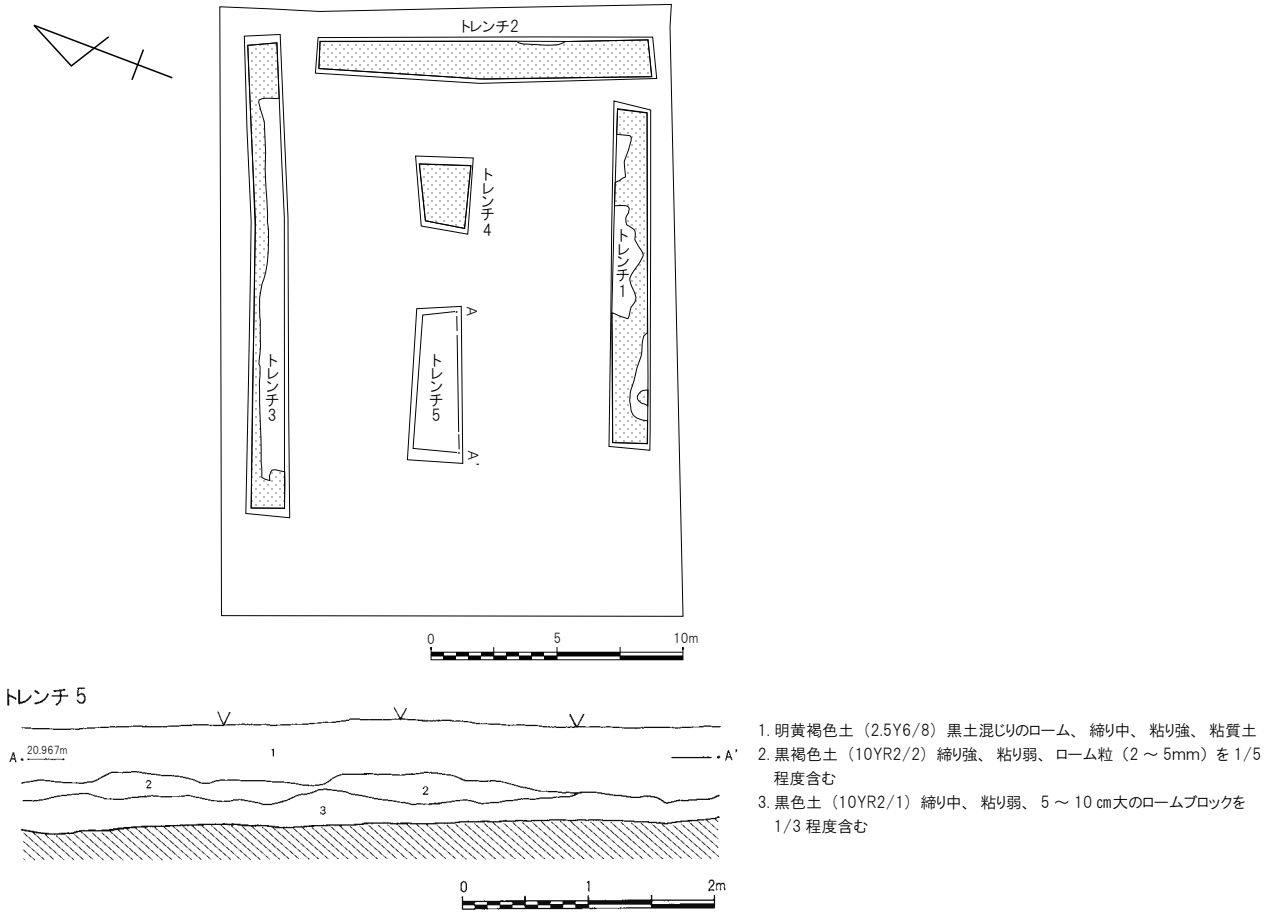
Ⅱ　江川南遺跡第 28 地点

（1）調査の概要

調査は建物解体工事に伴うもので、原因者より 2019 年 1 月 15 日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の南部に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため 2019 年 3 月 18・19 日に試掘調査を実施した。

試掘調査は幅約 1 ～ 1.5m のトレンチ 5 本を設定し、重機による表土除去後人力による表面精査を行った。現地表面から地山ローム層までの深さは約 60 ～ 70 ㎝である。

調査の結果、遺構は確認されなかったため、写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえで埋戻し、調査を終了した。



第 88 図　江川南遺跡第 28 地点調査区域図 (1/300)、土層 (1/60)

第 12 章　江川東遺跡の調査

Ⅰ　遺跡の立地と環境

江川東遺跡は、入間川の支流新河岸川に注ぐ福岡江川の谷頭部から、約 700 ～ 1,000m 程下った右岸に位置している。標高 15 ～ 19m で現谷底との比高差は 3m を測る。福岡江川の左岸は急傾斜をなし、右岸は緩やかな斜面を形成している。遺跡周辺は、急激な市街化によって商店や住宅が建ち僅かに畑地が残っている。

周辺の遺跡は谷頭部付近に亀居遺跡、対岸台地上に鶴ケ舞遺跡、南側に東久保遺跡がある。

本遺跡は旧大井町の地域で最も早く市街化された区域内にあり、現在は表面採取がほとんど不可能であるが、一部残された畑地には須恵器が散布する。第 2 地点の調査では、近世の土坑・ピットを検出している。2020 年 4 月現在 26 地点で試掘及び発掘調査を行っている。

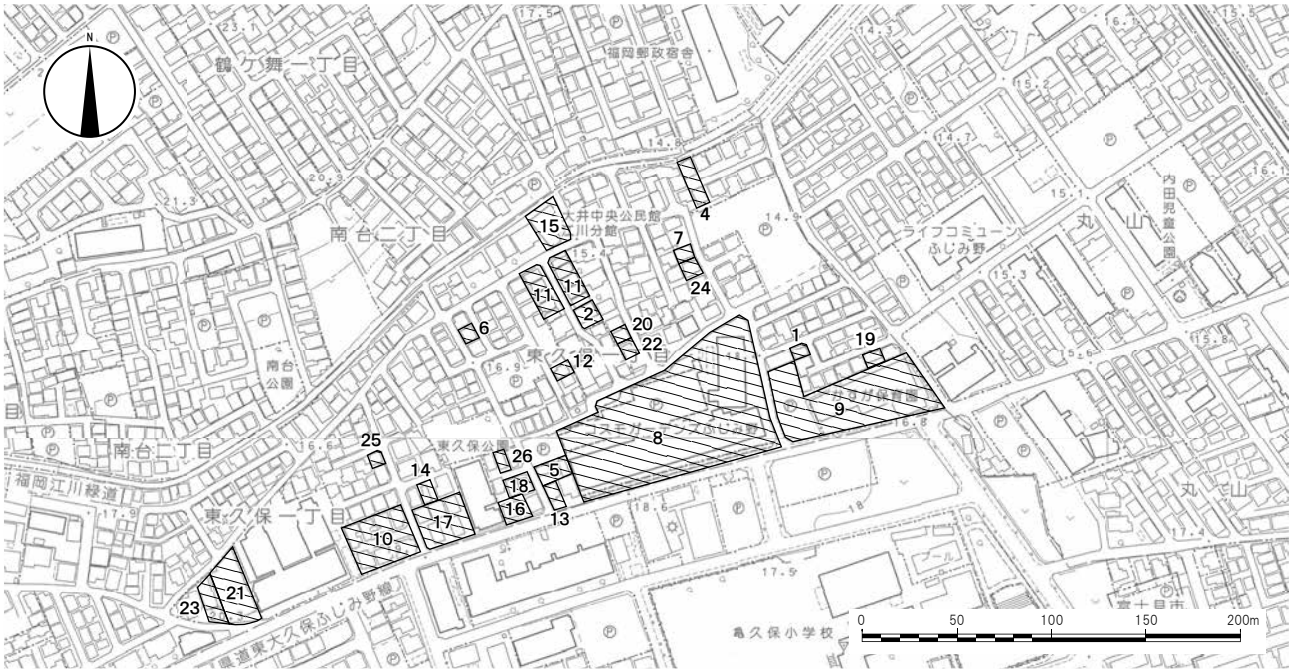
Ⅱ　江川東遺跡第 25 地点

（1）調査の概要

調査は建売住宅建設に伴うもので、原因者より 2019 年 1 月 11 日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の西部に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため 2019 年 3 月 12 日に試掘調査を実施した。

試掘調査は幅約 2m のトレンチ 1 本を設定し、重機による表土除去後人力による表面精査を行った。現地表面から地山ローム層までの深さは約 20 ～ 30 ㎝である。

調査の結果、遺構・遺物は確認されなかったため、写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえで埋戻し、調査を終了した。



第 89 図　江川東遺跡の地形と調査区 (1/4,000)

第 47 表　江川東遺跡調査一覧表

地区 地点	所在地	調査期間 ( ) は試掘調査	開発面積 (㎡)	調査面積 ( ) は試掘	調査原因	確認された遺構と遺物	備考	所収報告書
1	東久保 1-145-14	(1994.3.24・25)	52		個人住宅	溝、縄文土器 等		町内Ⅲ
2	大字東久保 1-162-34	1995.1.20 ～ 2.6	191		個人住宅	土坑、ピット、フレーク 等		町内Ⅳ
3	欠番							
4	東久保 138-4 他	(1996.1.24 ～ 29)	246		個人住宅	溝、ピット、遺物なし		町内Ⅴ
5	東久保 1-155-6	(1998.6.1 ～ 9)	164		土地分譲	ピット、遺物なし		町内Ⅷ
6	東久保 1-168-7	(2001.7.17)	71	(15)	個人住宅	遺構遺物なし		町内Ⅺ
7	東久保 1-160-47	(2003.4.7)	88		個人住宅	遺構遺物なし		町内Ⅻ
8	東久保 1-150 他	(2004.3.25 ～ 4.7)	6137		共同住宅	土坑、溝、遺物なし		町内Ⅻ
9	東久保 1-6-19	(2004.4.9 ～ 5.10) 2004.5.11 ～ 19	464		保育園	ピット、溝、縄文土器 等		町内Ⅻ、大調 14
10	東久保 1-174-1・36	(2005.10.13 ～ 24)	881	(267)	分譲住宅	土坑、ピット、遺物なし		市内 2
11	東久保 1-162-1・14	(2006.11.9 ～ 17)	674	(200)	分譲住宅	土坑、ピット、遺物なし		市内 3
12	東久保 1-27-3	(2006.11.10)	72	(6)	宅地造成	遺構遺物なし		市内 3
13	東久保 1-155-4	(2006.8.11)	114	(24)	個人住宅	遺構遺物なし		市内 3
14	東久保 1-174-38	(2007.5.25 ～ 29)	67	(30)	個人住宅	遺構遺物なし		市内 4
15	東久保 1-136-5	(2007.9.11 ～ 13)	344	(91)	公民館分館	遺構なし、須恵器		市内 4
16	東久保 1-176-13 ～ 16	(2009.9.14・15) 2009.9.16 ～ 18	148.5	(63) 63	個人住宅	集石土坑、縄文土器		市内 8
17	東久保 1-177-1	(2009.12.10 ～ 18)	556	(156)	地下埋設物調査	遺構遺物なし		市内 8
18	東久保 1-176-9	(2011.11.28)	72	(21)	個人住宅	遺構遺物なし		市内 14
19	東久保 1-146-6	(2012.7.24)	74.2	(13)	個人住宅	ピット、遺物なし		市内 15
20	東久保 1-160-29	(2013.7.30)	71.94	(11)	分譲住宅	遺構遺物なし		市内 18
21	東久保 1-180-1	(2013.11.21・22)	570	(30.5)	分譲住宅	遺構遺物なし		市内 18
22	東久保 1-160-30	(2014.9.30 ～ 10.1)	72.44	(11)	個人住宅	遺構遺物なし		市内 20
23	東久保 1-180-11	(2014.10.10)	180	(29.4)	個人住宅	遺構なし、土器		市内 20
24	東久保 1-32-12	(2015.11.27)	91.92	(6)	個人住宅	遺構遺物なし		市内 22
25	東久保 1-16-21	(2019.3.12)	63.4	(9.4)	分譲住宅	遺構遺物なし		市内 25
26	東久保 1-176-6	(2019.11.7)	72	(13.2)	分譲住宅	遺構遺物なし		市内 25

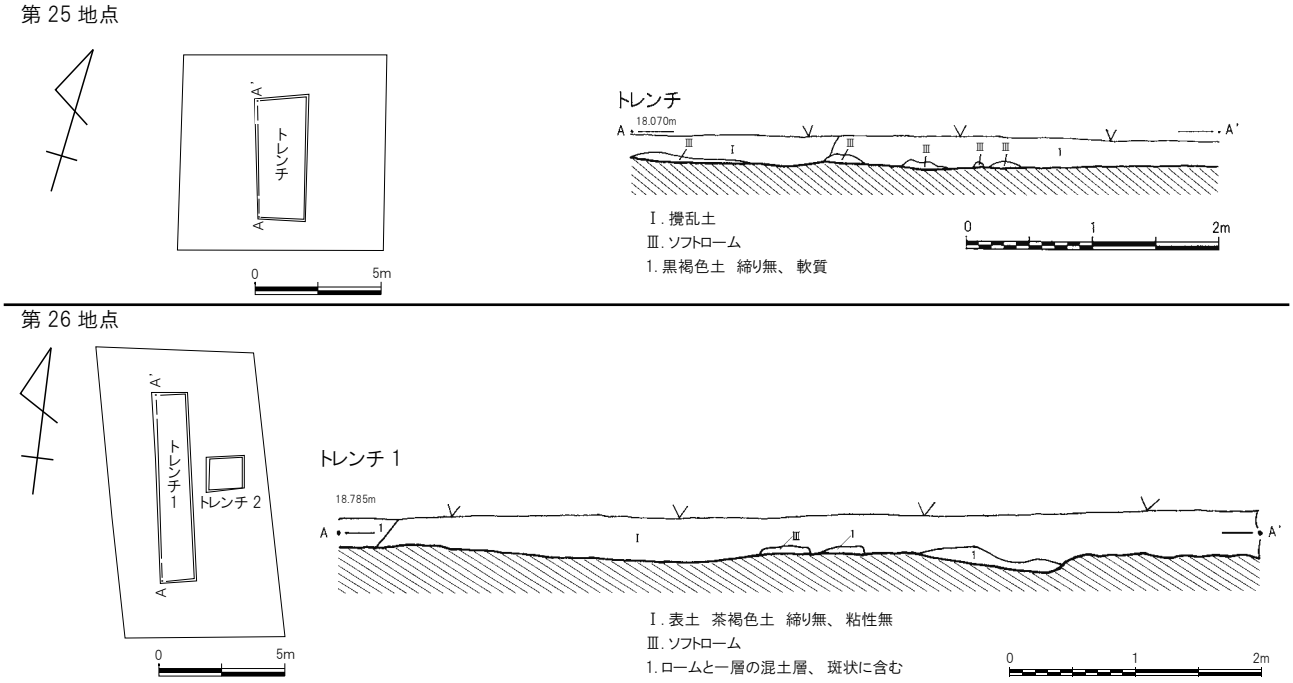
Ⅲ　江川東遺跡第 26 地点

（1）調査の概要

調査は分譲住宅建設に伴うもので、原因者より 2019 年 10 月 18 日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の南部に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため 2019 年 11 月 7 日に試掘調査を実施した。

試掘調査は幅約 1.5m のトレンチ 2 本を設定し、人力による表土除去、表面精査を行った。地山ローム層までの深さは 20 ～ 40 ㎝である。

調査の結果、遺構・遺物は確認されなかったため、写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえで埋戻し、調査を終了した。



第 90 図　江川東遺跡第 25・26 地点調査区域図 (1/300)、土層 (1/60)

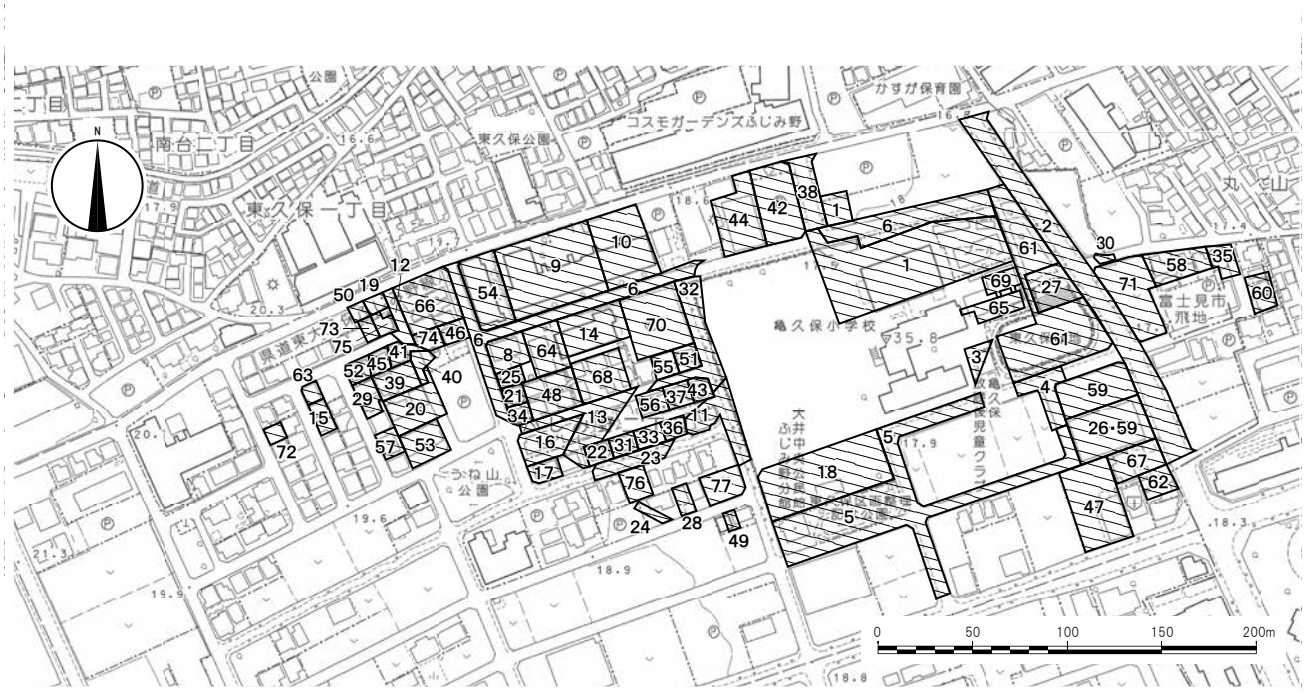
第 13 章　東久保遺跡の調査

Ⅰ　遺跡の立地と環境

東久保遺跡は入間川の支流新河岸川に注ぐ福岡江川の谷頭部から、約 500 ～ 1,000m 程下った右岸に位置している。標高 17 ～ 20m で現谷底との比高差は 3 ～ 4m を測る。福岡江川の左岸の南面は急傾斜を成す。本遺跡をのせる右岸の台地は県道東大久保・大井線を境に南北および西側に緩やかに傾斜する。遺跡の南側縁辺には用水路が流れており、用水路以前にも流水があったものと考えられる。

遺跡周辺は急激な市街化によって工場や住宅、市立亀久保小学校が建ち、区画整理事業が実施され今後更に開発が予想される。

周辺の遺跡は、本遺跡と福岡江川の間に平安時代の遺物を出土する江川東遺跡が位置する。西側約 50m に江川南遺跡、南側に隣接して亀久保堀跡遺跡が位置する。本遺跡の調査は 1976 年以来 2020 年 4 月現在、77 地点で試掘調査および発掘調査を行っている。 これまでの調査で、旧石器時代礫群、縄文時代の落とし穴・土坑・集石土坑など、中近世は溝や柵跡が確認されている。

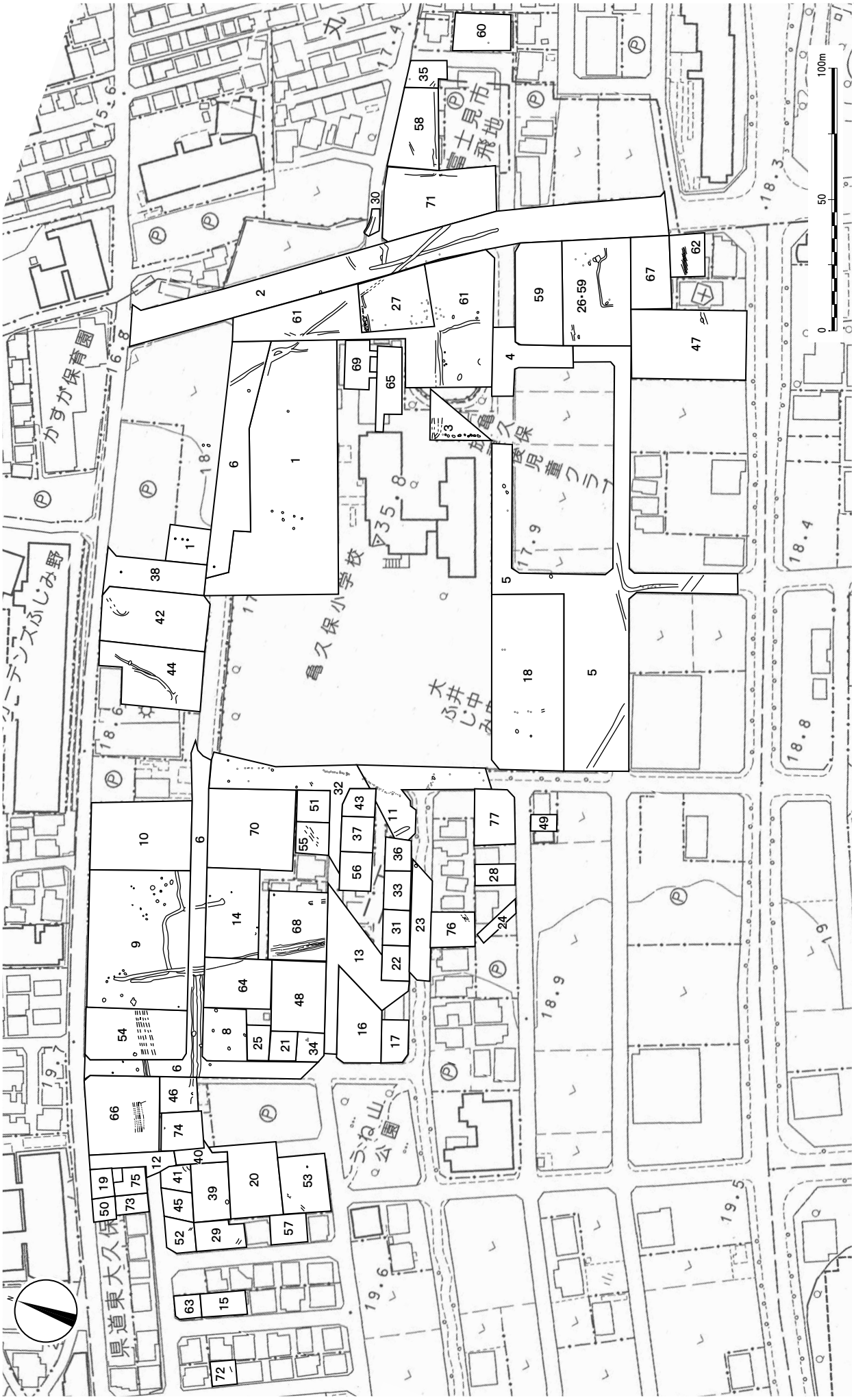


第 91 図　東久保遺跡の地形と調査区（1/4,000）

第 48 表　東久保遺跡調査一覧表

地区 地点	所在地	調査期間 ( ) は試掘調査	開発面積 (㎡)	調査面積 ( ) は試掘	調査原因	確認された遺構と遺物	備考	所収報告書
1	亀久保字東久保 285-1 他	(1976.6.29 ～ 7.27)	10,000		亀久保小学校	集石土坑、土坑、溝状遺構、井戸、縄文土器 等		東久保
2	亀久保 293-1 他 (12-1 号線)	1994.12.19～1995.3.23 (1995.5.18 ～ 22)	2,472		区画整理道路	土坑、ピット、溝、縄文土器片		大調 14
		(1996.11.15)	25		水道管埋設	溝		
3	亀久保 284-1	(1996.5.20 ～ 29)	270		学童保育所	溝、柵列、遺物なし		町内Ⅵ
4	亀久保 364-1	(1996.6.7 ～ 10) 1996.9.2 ～ 4			区画整理道路	旧石器礫群、石器		町内Ⅵ・大調 14
5	亀久保 366	1996.11.22 ～ 1997.3.5	320		区画整理道路	土坑、堀跡、ピット、溝、縄文土器 等		大調 14
6	亀久保 271-1(8-7 号線)	(A 区)1997.1.20～2.13 (B 区)1997.2.24～3.19	2,309		区画整理道路	落とし穴、集石土坑、土坑、ピット、溝、縄文土器 等		大調 14
		(C 区)1997.7.24・25 (D 区)1997.8.6	168					大調 14
7							亀久保堀跡遺跡 1 に変更	大調 14
8	東久保 18 街区 12 画地	(1997.7.29 ～ 8.2)	305		個人住宅	土坑、ピット		町内Ⅶ
9	亀久保 279,280	(1997.8.18 ～ 28) 1998.3.1 ～ 5.18	2,117		共同住宅	集石土坑、土坑、ピット、溝、縄文土器 等		町内Ⅶ、大調 14
10	東久保 19 街区	(1997.9.2 ～ 10)	1,067		分譲住宅	集石土坑、溝、縄文土器片 等		町内Ⅶ
11	東久保 (8-8 号線)	1998.7.13 ～ 8.6、 1999.3.11・12	588		区画整理道路	ピット、溝、柵列、縄文土器 等		大調 14
12	東久保 (6-19 号線)	1999.1.19 ～ 1.21	282		区画整理道路	集石土坑、ピット、溝、石器		大調 14
13	東久保 381-5 他 (6-23 号線)	1999.5.19・20	360		区画整理道路	遺構遺物なし		大調 14
		(1999.11.2)	162	(10)	個人住宅			町内Ⅸ
14	東久保 18 街区 3 画地	(1999.6.29 ～ 7.16) 1999.7.19 ～ 29	823	330	共同住宅	溝、柵列、縄文土器片 等		町内Ⅸ、大調 14
15	東久保 5 街区 14 ～ 16 画地	(1999.8.2)	178	(9)	個人住宅	遺構遺物なし		町内Ⅸ
16	東久保 15 街区 1 ～ 5・32 画地	(1999.10.1 ～ 6)	334	(132)	個人住宅	遺構遺物なし		町内Ⅸ
17	東久保 381-5	(1999.6.14・15)	168	(121)	個人住宅	遺構遺物なし		町内Ⅸ
18	東久保 27 街区 2 画地	(1999.11.30 ～ 12.15)	14,989	(409)	小学校 グランド	柵列、遺物なし		町内Ⅸ
19	東久保 3 街区 9・10 画地	(1999.12.20・21)	108	(40)	店舗併用住宅	遺構遺物なし		町内Ⅸ
20	東久保 4 街区 9 画地	(2000.2.28 ～ 3.3)	478	(234)	個人住宅	遺構遺物なし		町内Ⅸ
21	東久保 18 街区 14 画地	(2000.3.23 ～ 28)	114	(57)	個人住宅	遺構遺物なし		町内Ⅸ
22	東久保 15 街区 28 画地	(2000.3.22・23)	150	(38)	個人住宅	遺構遺物なし		町内Ⅸ
23	東久保 (6-49 号線)	2000.3.13 ～ 16、 2000.3.27 ～ 4.6	280		区画整理道路	土坑、焼土		大調 14
24	東久保 14 街区	2000.1.19	390		区画整理道路	遺構遺物なし		大調 14
25	東久保 18 街区 13 画地	(2000.4.13・14)	135	(50)	個人住宅	遺構遺物なし		町内Ⅹ
26	東久保 31 街区 9 画地	(2000.4.14)	1,107	(833)	砂利敷駐車場	ピット、溝、縄文土器片 等		町内Ⅹ
27	東久保 26 街区	2000.5.17 ～ 6.8	560		区画整理 - 調整池	土坑、ピット、溝、柵列		大調 14
28	東久保 14 街区 8 画地	(2000.6.29 ～ 7.4)	130	(30)	個人住宅	遺構遺物なし		町内Ⅹ
29	東久保 4 街区 18・20 画地	(2000.6.30 ～ 7.4)	218	(16)	個人住宅	溝		町内Ⅹ
30	東久保 294-2	2000.7.4	48		区画整理道路	溝状遺構、遺物なし		大調 14
31	東久保 15 街区 26 画地	(2000.6.7)	126	(87)	個人住宅	遺構遺物なし		町内Ⅹ
32	東久保 277・381 他	2000.7.12 ～ 8.4	265		区画整理道路	石器集中、土坑、ピット、溝、柵列、石器 等		大調 14
		2001.7.16 ～ 11.30	590					
33	東久保 15 街区 24 画地	(2000.8.2・3)	128	(22)	個人住宅	遺構遺物なし		町内Ⅹ
34	東久保 18 街区 15 画地	(2000.8.29・30)	110	(38)	個人住宅	ピット		町内Ⅹ
35	東久保 23 街区 3・4 画地	(2000.12.7 ～ 9)	139	(46)	個人住宅	溝、ピット、遺物なし		町内Ⅹ

地区 地点	所在地	調査期間 ( ) は試掘調査	開発面積 (㎡)	調査面積 ( ) は試掘	調査原因	確認された遺構と遺物	備考	所収報告書
36	東久保 15 街区 21・22 画地	(2001.1.19 ～ 25)	135	(40)	個人住宅	遺構遺物なし		町内 X
37	東久保 15 街区 13・33 画地	(2000.12.11)	149	(40)	個人住宅	遺構遺物なし		町内 X
38	東久保 284-1、285-1	2000.12.13 ～ 15	501		区画整理道路	ピット、遺物なし		大調 14
39	東久保 4 街区 8・9 画地	(2001.3.22 ～ 27)	317	(117)	個人住宅	落とし穴		町内 X
40	東久保 270-3・4	2001.3.23、2001.6.1	128		区画整理道路	遺構遺物なし		大調 14
41	東久保 4 街区 6・7 画地	(2001.5.28・29)	112	(37)	個人住宅	溝、遺物なし		町内 XI
42	東久保 19 街区 10 画地	(2001.4.18 ～ 21)	864	160	駐車場	溝、遺物なし		町内 XI
43	東久保 15 街区 14・15 画地	(2001.5.22 ～ 25)	142	(37)	個人住宅	遺構遺物なし		町内 XI
44	東久保 19 街区 9・11・12 画地	(2001.5.10 ～ 6.29)	757	(186)	倉庫	落とし穴、ピット、溝、縄文土器 等		町内 XI
45	亀久保 258-21	(2001.6.1)	100	(31.5)	個人住宅	遺構遺物なし		町内 XI
46	東久保 17 街区 3・4 画地	(2001.6.4 ～ 6)	135	(49)	個人住宅	溝、縄文土器片 等		町内 XI
47	東久保 31 街区 6・13 画地	(2001.10.11 ～ 26)	1,203	(321)	店舗	落とし穴、溝、遺物なし		町内 XI
48	東久保 18 街区 9・10 画地	(2001.12.17 ～ 25)	518	(178)	分譲住宅	遺構遺物なし		町内 XI
49	東久保 13 街区 7 画地	(2002.2.12・13)	100	(1)	分譲住宅	遺構遺物なし		町内 XI
50	東久保 3 街区 22 画地	(2002.9.24)	102		個人住宅	遺構遺物なし		町内 XII
51	東久保 18 街区 11 画地	(2002.12.3)	155		個人住宅	遺構遺物なし		町内 XII
52	東久保 4 街区 3 画地	(2003.2.6・7)	64		個人住宅	溝、井戸		町内 XII
53	東久保 4 街区 10 画地	(2003.5.7 ～ 22)	408		共同住宅	ピット、溝、遺物なし		町内 XII
54	亀久保字東久保 272(19 街区 1 画地)	(2003.5.9 ～ 22)	798		共同住宅	落とし穴、ピット、溝、遺物なし		町内 XII
55	亀久保字東久保 488(18 街区 7 画地)	(2003.6.9 ～ 12)	165		個人住宅	現道跡、遺物なし		町内 XII
56	亀久保字東久保 15 街区 12 画地	(2003.7.31 ～ 8.5)	165		個人住宅	現道跡、遺物なし		町内 XII
57	東久保 258-26(4 街区 14 画地)	(2003.9.22 ～ 10.1)	133		個人住宅	遺構遺物なし		町内 XII
58	ふじみ野 2-27-2	(2004.4.13・14)	558		分譲住宅	溝		町内 XII
59	ふじみ野 2-25-7 ～ 9	(2004.6.29) 2004.7.14 ～ 23	1,804		店舗	土坑、ピット、溝、遺物なし		町内 XII、大調 14
60	ふじみ野 2-26-16	(2004.7.22 ～ 24)	337		個人住宅	ピット、遺物なし		町内 XII
61	東久保 26 街区	2004.9.29 ～ 11.26	2,376		区画整理 公園緑地	土坑、ピット、溝、磁器片		大調 14
62	ふじみ野 2-25-16	(2004.10.12 ～ 15)	220		個人住宅	溝、遺物なし		町内 XII
63	ふじみ野 2-5-10・12	(2006.2.10)	105	(23)	個人住宅	遺構遺物なし		市内 2
64	ふじみ野 2-18-6 の一部	(2006.10.12 ～ 20) 2006.10.24 ～ 26	437	112	共同住宅	溝、柵列、石器 等		市内 3
65	ふじみ野 2-22-2、5 ～ 7	(2008.1.18 ～ 28)	260	(51)	小学校増築	遺構遺物なし		市内 4
66	ふじみ野 2-19-4、19-5	(2008.5.22 ～ 6.11)	862	(261)	分譲住宅	溝、縄文土器 等		市内 6
67	ふじみ野 2-25-10・11	(2009.11.9)	492.5	(4)	個人住宅	遺構遺物なし		市内 8
68	ふじみ野 2-18-13	(2010.11.22 ～ 26) 2010.11.29 ～ 12.8	791	(306) 300	分譲住宅	集石土坑、溝、柵列、縄文土器 等		市内 9
69	ふじみ野 2-22-2・3・5 の一部・6・7	(2011.3.28)	17,276.3	(32)	小学校増築	遺構遺物なし		市内 10
70	ふじみ野 2-18-8 ～ 10	(2013.1.16 ～ 24)	1,156	(180)	共同住宅	遺構遺物なし		市内 15
71	ふじみ野 2-27-1・9	(2013.6.17 ～ 19)	998	(222)	店舗	溝、遺物なし		市内 18
72	ふじみ野 2-6-7	(2015.7.2)	100	(7)	個人住宅	溝、遺物なし		市内 22
73	ふじみ野 2-3-14	(2017.6.19)	62.35	(4.5)	個人住宅	遺構遺物なし		市内 24
74	ふじみ野 2-19-2・3	(2017.8.1・2)	239	(26.7)	個人住宅	ピット、古銭		市内 24
75	ふじみ野 2-3-13・24	(2017.12.18)	96.87	(4.5)	個人住宅	遺構遺物なし		市内 24
76	ふじみ野 2-15-7	(2019.5.16)	228	(37.13)	分譲住宅	ピット、溝、遺物なし		市内 25
77	ふじみ野 2-15-9	(2019.7.2)	320	(15.76)	分譲住宅	遺構遺物なし		市内 25



第92図　東久保遺跡遺構分布図（1/2,000）

Ⅱ　東久保遺跡第 76 地点

（1）調査の概要

調査は分譲住宅建設に伴うもので、原因者より 2019 年 4 月 26 日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の南側に位置し、亀久保堀跡遺跡に隣接する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため 2019 年 5 月 16 日に試掘調査を実施した。

試掘調査は幅約 1.5m のトレンチ 4 本を設定し、重機による表土除去後表面精査を行った。地山ローム層までの深さは 80 ～ 100 ㎝である。

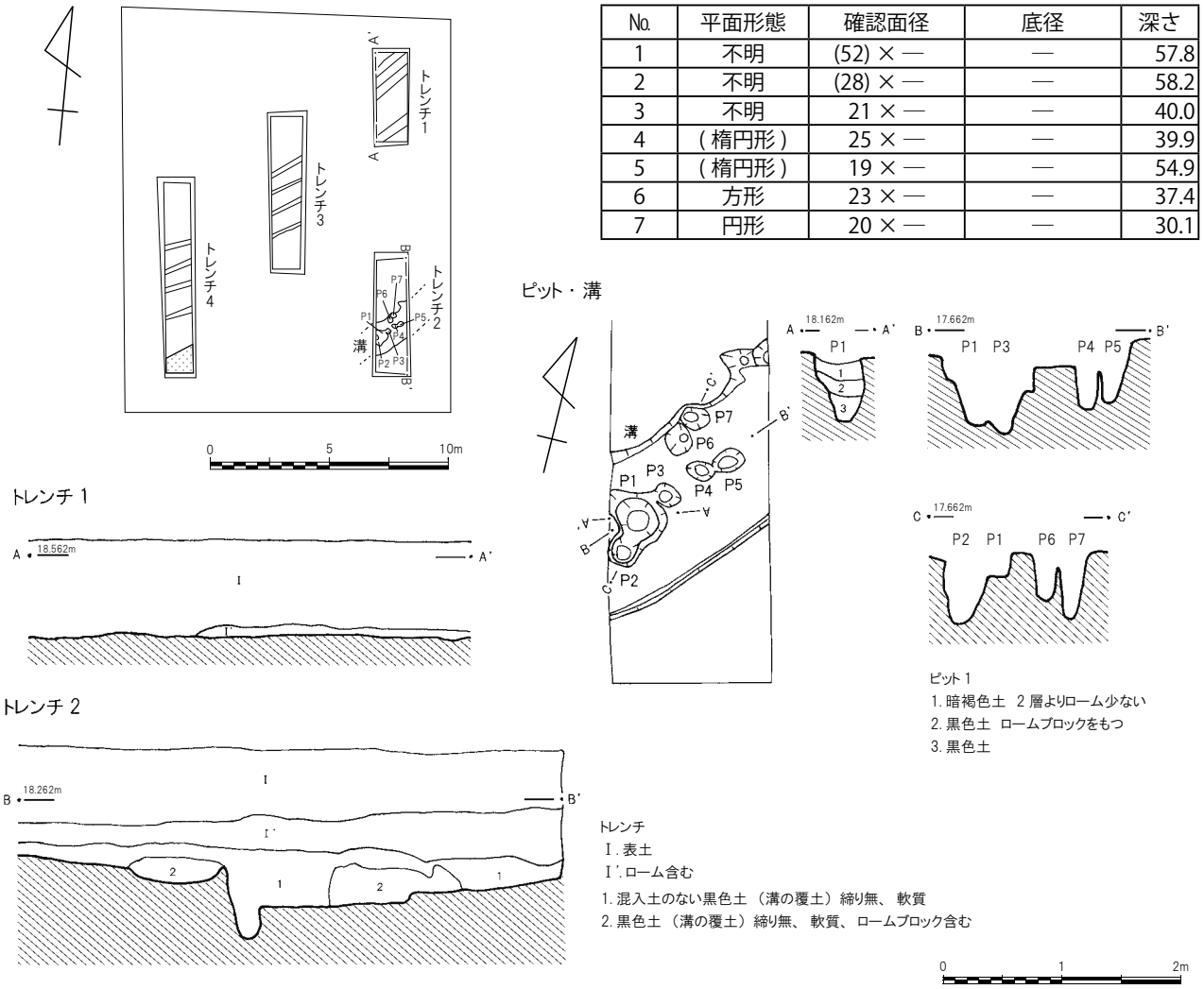
調査の結果、近世以降の溝とそれに伴うピット群を確認した。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえで埋戻し、調査を終了した。

（2）遺構と遺物

溝は調査区南東部、トレンチ 2 で検出した。N-41°-E を指向し、調査区外へ延伸するものと考えられる。底部が比較的平らで断面形態は台形を呈し、上幅 116 ～ 149 ㎝、下幅 106 ～ 110 ㎝、深さ約 17.1 ㎝を測る。底部に複数のピットを伴う。ピットの詳細については第 49 表に掲載した。出土遺物はない。土層の観察から近世以降のものと考えられ、トレンチ 1 ～ 3 の確認面に見られた近世の畝跡と平行することから、同時期に畑の地境の役割を果たしていた可能性が考えられる。

第 49 表　東久保遺跡第 76 地点ピット一覧表 (単位 cm)

No.	平面形態	確認面径	底径	深さ
1	不明	(52) × —	—	57.8
2	不明	(28) × —	—	58.2
3	不明	21 × —	—	40.0
4	(楕円形)	25 × —	—	39.9
5	(楕円形)	19 × —	—	54.9
6	方形	23 × —	—	37.4
7	円形	20 × —	—	30.1



第 93 図　東久保遺跡第 76 地点調査区域図（1/300)、土層・ピット・溝 (1/60)

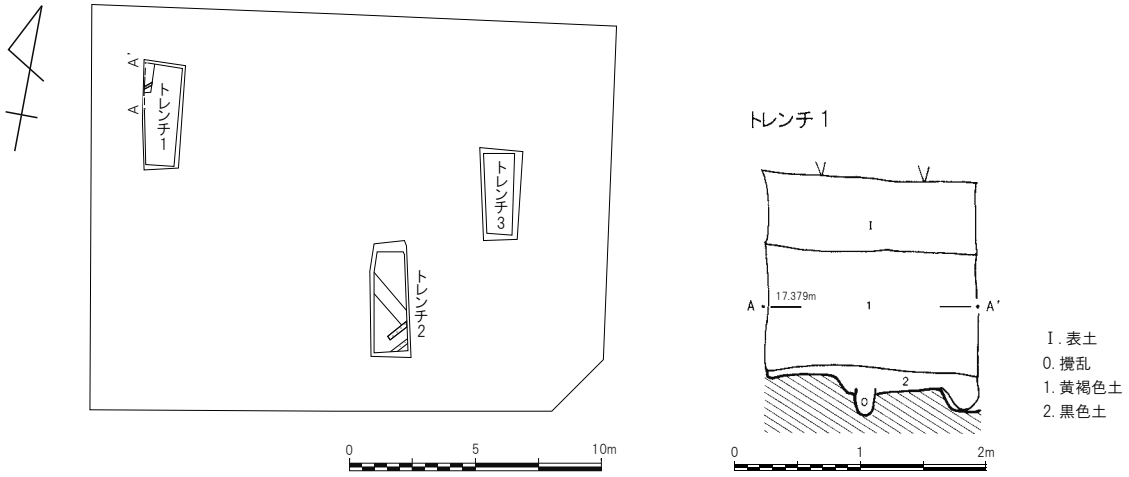
Ⅲ　東久保遺跡第 77 地点

（1）調査の概要

調査は分譲住宅建設に伴うもので、原因者より 2019 年 6 月 13 日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の中央部に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため 2019 年 7 月 2 日に試掘調査を実施した。

試掘調査は幅約 1.5m のトレンチ 3 本を設定し、重機による表土除去後人力による表面精査を行った。現地表面から約 160 ㎝下で漸く地山ローム層が確認された。

調査の結果、遺構・遺物は確認されなかったため、写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえで埋戻し、調査を終了した。



第 94 図　東久保遺跡第 77 地点調査区域図（1/300)、土層 (1/60)

第 14 章　亀久保堀跡遺跡の調査

Ⅰ　遺跡の立地と環境

亀久保堀跡遺跡は、福岡江川とさかい川の間の低位台地に位置している。遺跡の標高は 18.0 ～ 21.0 m で、堀跡は自然の地形を考慮せずに直線的にのびる。

周辺の遺跡は、北側に東久保遺跡、南側に東久保西遺跡が隣接する。

これまでの調査から、堀跡は福岡江川付近から南下し江川南遺跡の中央部を南北にのびた後、地蔵院の東約 80 m付近で南東に向きを変える。向きを変えた堀跡は、東久保遺跡と東久保西遺跡の間を約 600 m以上直線で延び富士見市域へと続く。富士見市域では調査が行われていないため遺跡の有無は不明である。

堀跡の規模は上幅約 3 m、底幅約 1.5 m、深さは地表面から約 1 m、長さは 800 m以上で断面形は逆台形を呈する。覆土層上層に焼土を多く含む層が所々で確認されているが出土遺物は無く、時代などは不明であるが、本遺跡の第 30 地点と江川南遺跡第 17・19 地点の調査で検出した堀跡の覆土層に含まれるテフラ分析を行った結果、堀跡の時期が平安時代の 11 世紀以前に遡るとする検査結果が出ている。

Ⅱ　亀久保堀跡遺跡第 33 地点

（1）調査の概要

調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者より 2018 年 11 月 8 日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の中央部に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため 2018 年 12 月 10 日に試掘調査を実施した。

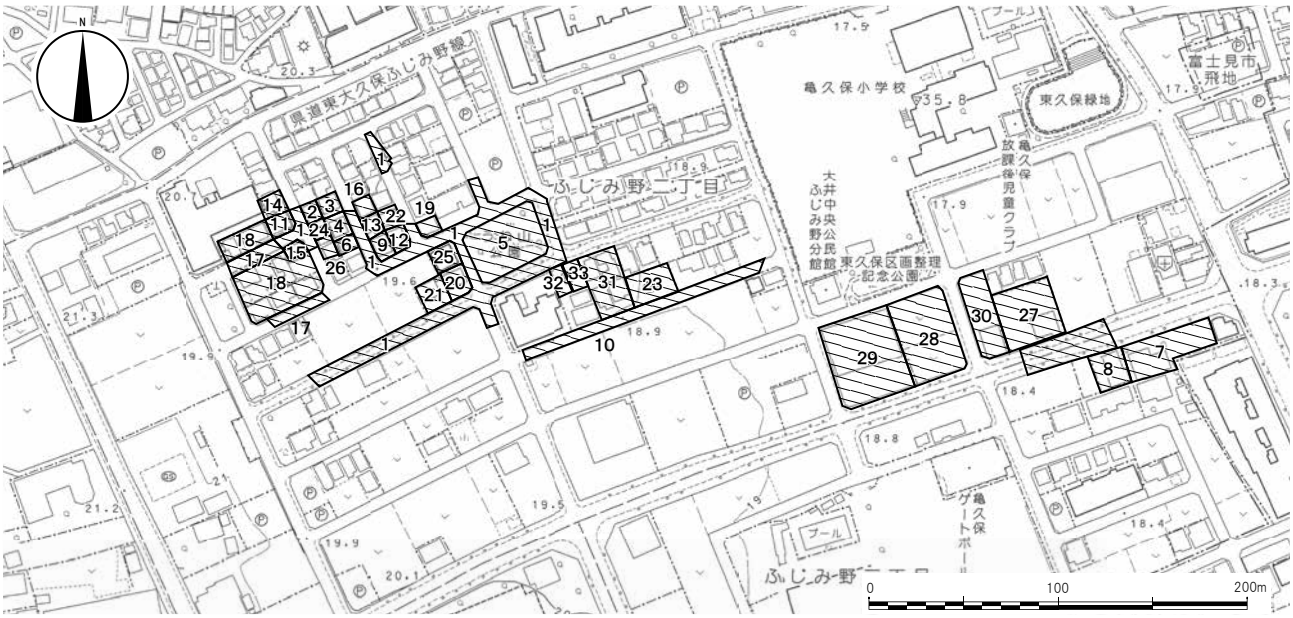
試掘調査は幅約 1.5m のトレンチ 1 本を設定し、重機による表土除去後人力による表面精査を行った。現地表面から地山ローム層までの深さは約 90 ㎝である。

調査の結果、古代～中近世の堀跡 1 本を検出した。遺構への影響が避けられないため、原因者と再協議の結果、本調査を実施した。

本調査は 2018 年 12 月 19 ～ 21 日まで、堀跡が確認された部分について重機で表土除去後、人力による調査を行った。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえで埋戻し、調査を終了した。

（2）遺構と遺物

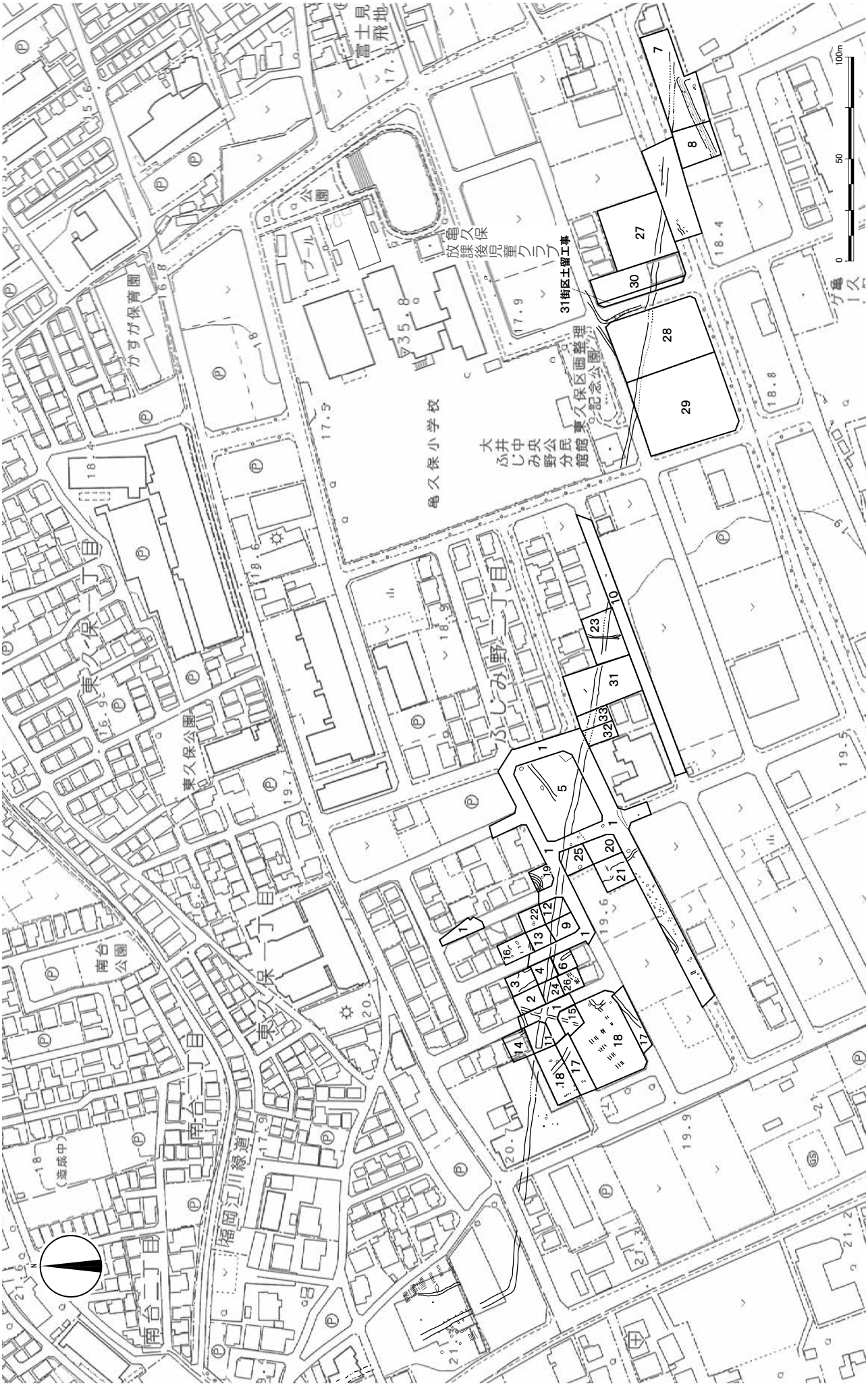
堀跡は調査区の中央部やや北側に位置する。走行方向は N-16°-W で、ほぼ東西方向に走行する。断面



第 95 図　亀久保堀跡遺跡の地形と調査区 (1/4,000)

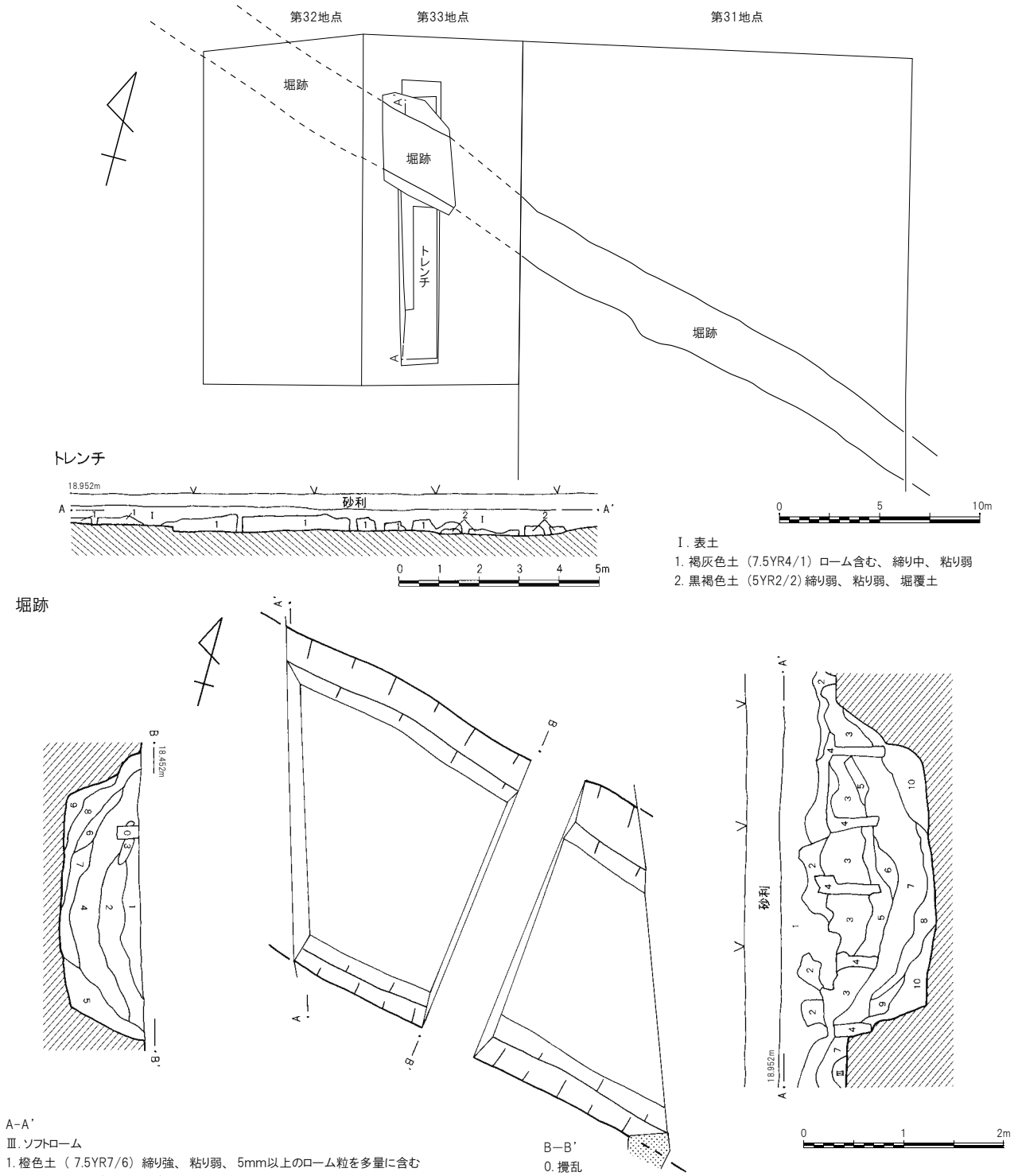
第 50 表　亀久保堀跡遺跡調査一覧表

地区 地点	所在地	調査期間 ( ) は試掘調査	開発面積 (㎡)	調査面積 ( ) は試掘	調査原因	確認された遺構と遺物	備考	所収報告書
1	東久保 260-1・2 他	(A ～ C 区)1997.4.2 ～ 6.19 (D 区)1997.9.8 ～ 12	2,610		区画整理道路	屋外炉、土坑、ピット、堀跡、溝、縄文土器 等	旧東久保 7 地点	大調 14
		(E 区)2000.5.16 ～ 19	120					
2	東久保 6 街区 4・5 画地	(1997.9.11 ～ 25)	127		個人住宅	溝、遺物なし		町内Ⅶ
3	東久保 6 街区 7・8 画地	(1997.9.11 ～ 25)	130		個人住宅	溝、遺物なし		町内Ⅶ
4	東久保 6 街区 9・10 画地	1997.9.11 ～ 25	113		個人住宅	堀跡、遺物なし		町内Ⅶ
5	亀久保 264-1・2・3、266(2 号緑地)	1997.9.22 ～ 10.27	1,200		区画整理公園	落とし穴、土坑、堀跡、溝、柵列、石器 等		大調 14
6	東久保 6 街区 11・12 画地	(1997.9.11 ～ 25)	102		個人住宅	堀跡、溝		町内Ⅶ
7	東久保 32 街区 5・6 画地	(1997.10.29 ～ 11.4) 1998.2.2 ～ 19	739		店舗	落とし穴、ピット、堀跡、溝、柵列、遺物なし		町内Ⅶ・Ⅷ、大調 14
	東久保 32 街区 7 画地	(1998.11.12 ～ 16)	165		駐車場	堀跡		町内Ⅷ
8	東久保 32 街区 2 画地の一部	(1998.2.6 ～ 19)	318		共同住宅	ピット、溝、柵列		町内Ⅶ
9	東久保 5 街区 9・10 画地	1998.2.24 ～ 3.10	131		個人住宅	堀跡、縄文土器		町内Ⅶ
10	東久保 382・385 他	(A 区)1998.3.9 ～ 16	436		区画整理道路	落とし穴、ピット、石鏃 等		大調 14
		(B 区)1998.4.23 (C 区)1998.5.20・21	324					
11	東久保 2 街区 12 画地	(1998.4.8 ～ 22)	151		個人住宅	堀跡、遺物なし		町内Ⅷ
12	東久保 258-46	(1998.5.8 ～ 21)	123		個人住宅	堀跡、遺物なし		町内Ⅷ
13	東久保 5 街区 11・12 画地	(1998.5.8 ～ 21)	107		個人住宅	堀跡、遺物なし		町内Ⅷ
14	東久保 2 街区 11 画地	(1998.5.1 ～ 7)	132		個人住宅	溝、遺物なし		町内Ⅷ
15	東久保 7-2 街区 4・5 画地	(1998.5.8 ～ 21)	111		個人住宅	溝、縄文土器		町内Ⅷ
16	東久保 5 街区 18・19 画地	(1998.5.29 ～ 6.1)	117		個人住宅	溝、遺物なし		町内Ⅷ
17	東久保 253・254 他	1998.10.21 ～ 12.2	360		区画整理道路	土坑、溝、旧石器 等		大調 14
18	東久保 7-2 街区 1・2・7 ～ 9 画地	(1998.11.3 ～ 30)	908		個人住宅	落とし穴、土坑、ピット、溝、柵列、縄文土器 等		町内Ⅷ
19	東久保 4 街区 11・12 画地	(1998.11.3 ～ 10)	99		個人住宅	土坑、ピット、溝、遺物なし		町内Ⅷ
20	東久保 8 街区 5 画地	(1998.11.21 ～ 24)	185		個人住宅	遺構遺物なし		町内Ⅷ
21	東久保 262・263・266	(1999.4.19 ～ 22)	232		個人住宅	ピット、溝、遺物なし		町内Ⅸ
22	東久保 5 街区 7・20 画地	(1999.6.10 ～ 12)	99		個人住宅	ピット、遺物なし		町内Ⅸ
23	東久保 14 街区 10 画地	(1999.10.4 ～ 8)	386		駐車場	堀跡、遺物なし		町内Ⅸ
24	東久保 6 街区 14 画地	1999.12.14 ～ 16	105		個人住宅	堀跡、遺物なし		町内Ⅸ
25	東久保 8 街区 9 画地	2000.4.10 ～ 12	187		個人住宅	土坑、堀跡、遺物なし		町内Ⅹ
26	東久保 6 街区 13 画地	(2000.5.11 ～ 17)	105		個人住宅	溝、柵列、遺物なし		町内Ⅹ
27	東久保 31 街区 2・3 画地	(2000.5.29 ～ 6.1)	1,011		駐車場	堀跡、遺物なし		町内Ⅹ
	東久保 31 街区 2・3 画地	(2002.6.10・11)	980		店舗	土坑、遺物なし		町内Ⅻ
28	東久保 29 街区 3-6・9 画地	(2000.9.28・29)	1,365		整地工事	堀跡、遺物なし		町内Ⅹ
29	東久保 29 街区 1・2・7・8 画地	(2001.4.17) 2001.4.18 ～ 20	1,769		店舗	堀跡、遺物なし		町内Ⅺ
30	ふじみ野 2-25-1	(2005.1.11・12) 2005.1.31 ～ 2.7	695		店舗	堀跡、土坑、石器		大調 14
31	ふじみ野 2-15-4	(2009.2.6 ～ 10) 2009.2.12・13	661	(240) 240	個人住宅	堀跡		市内 6
32	ふじみ野 2-15-3	(2017.8.7)	136.4	(26)	個人住宅	堀跡、遺物なし		市内 24
33	ふじみ野 2-15-24	(2018.12.10) 2018.12.19 ～ 21	138	(28.6) 15.4	個人住宅	堀跡、遺物なし		市内 25



第 96 図　亀久保堀跡遺跡構分布図 (1/2,500)

形態はこれまでの調査と同様に「箱薬研」を呈し、上幅 290 ㎝、下幅 200 ㎝、深さ 86.8 ㎝を測る。土層の観察から水性堆積の様相は見られない。出土遺物はない。覆土の土壌分析については附編に掲載した。



第 97 図　亀久保堀跡遺跡第 33 地点遺構配置図 (1/300)、土層 (1/150)、堀跡 (1/60)

第 15 章　東久保西遺跡の調査

Ⅰ　遺跡の立地と環境

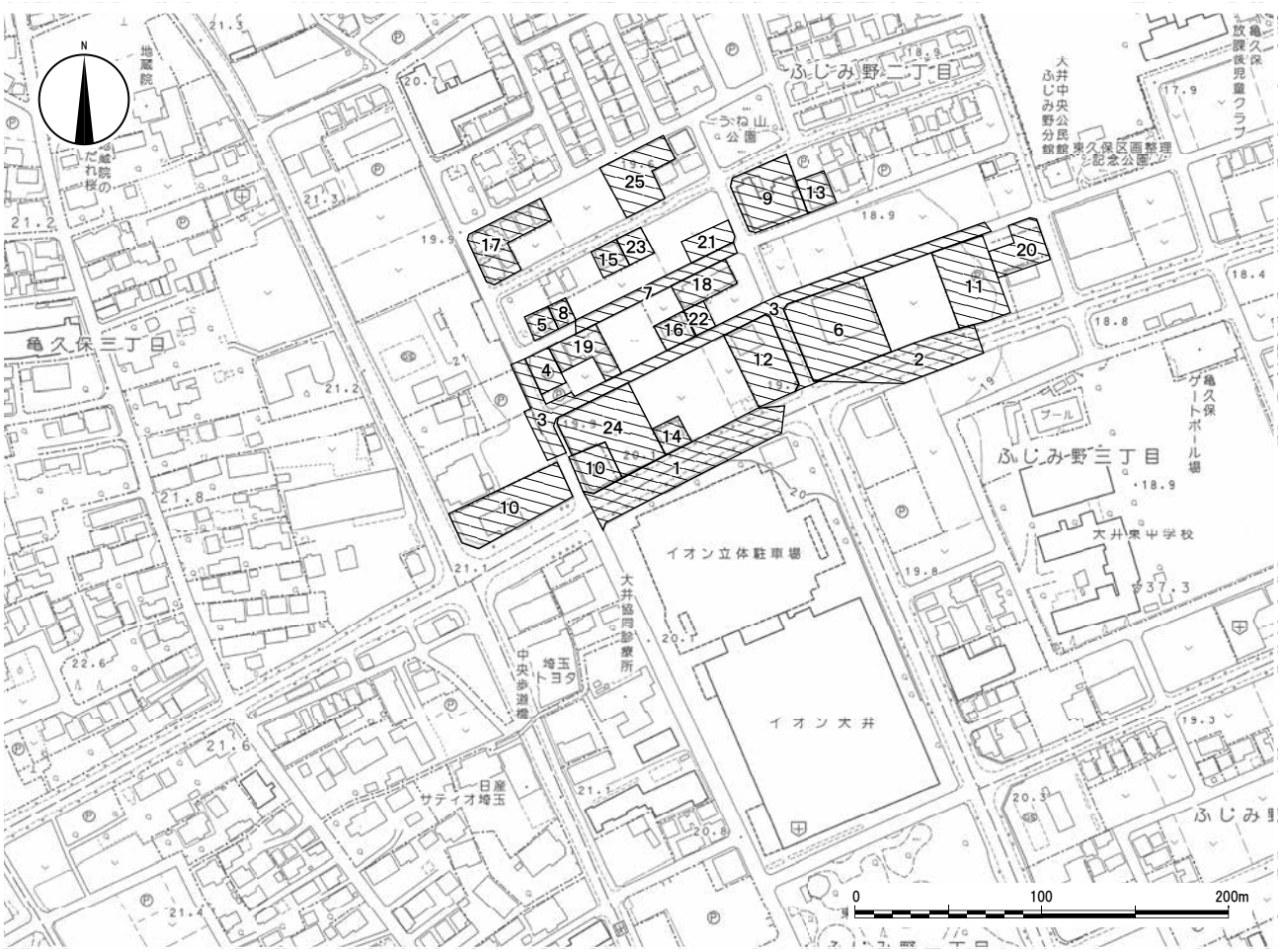
東久保西遺跡は、入間川の支流新河岸川に注ぐ福岡江川とさかい川の間の低位台地に位置する。

遺跡の南側から東側にかけて埋没河川が流れ、現在では用水路になっている。以前は埋没河川を取り巻くように段差などが見られたが、こうした地形や環境も、区画整理事業と大規模な開発によりなくなりつつある。以前の標高は 18.0 ～ 21.0 mだったが、区画整理後は 19.5 ～ 20 mである。

周辺の遺跡は北西に江川南遺跡、北側に亀久保堀跡遺跡・東久保遺跡、南側に東中学校西遺跡が隣接する。

本遺跡は遺物の散布地であったが、1993 年に東久保西遺跡として新規登録し、さらに 1997 年東久保土地区画整理事業に伴い区画道路部分を調査した際、遺構の検出範囲が広がったため、遺跡の変更増を行った。

1994 年の初調査以来、2020 年 4 月現在 25 地点で調査を行ない、埋没河川であった用水路周辺から旧石器時代の礫群、縄文時代の落とし穴、屋外炉、中・近世の溝などを検出している。



第 98 図　東久保西遺跡の地形と調査区 (1/4,000)

第 51 表　東久保西遺跡調査一覧表

地区 地点	所在地	調査期間 ( ) は試掘調査	開発面積 (㎡)	調査面積 ( ) は試掘	調査原因	確認された遺構と遺物	備考	所収報告書
1	亀久保 399-1 、400-1 他	1995.1.9 ～ 2.1	1,392		区画整理道路	遺構遺物なし		大調 14
		(1993.8.24 ～ 26)	75		区画整理竪坑	遺構遺物なし		
2	亀久保 399-1、400-1 他	1997.11.27 ～ 1998.1.27 1998.2.23 ～ 3.9	1,400		区画整理道路	落とし穴、土坑、ピット、土製碁石		大調 14
3	東久保 399-1、400-1 他	(A 区)1998.1.19 ～ 2.3	680		区画整理道路	落とし穴、土坑、ピット、溝、縄文土器		大調 14
		(B 区)1998.6.1 ～ 15 (C 区)1998.7.14 ～ 29 (D 区)1998.12.21 ～ 22 (E 区)1999.1.18 ～ 22	1,754					
4	東久保 10 街区 1 画地	(1998.12.1・2)	298		駐車場	溝、遺物なし		町内Ⅷ
5	東久保 9 街区 9 画地	(1998.12.10 ～ 14)	194		個人住宅	遺構遺物なし		町内Ⅷ
6	東久保 12 街区 1・2・10 画地	(1999.2.9 ～ 15) 1999.2.24 ～ 3.1	1,959		店舗	礫群、落とし穴、石器 等		町内Ⅷ、大調 14
7	亀久保 399-1、400-1 他	1999.6.8 ～ 7.24	528		区画整理道路	溝、遺物なし		大調 14
8	東久保 9 街区 13 画地	(1999.11.2 ～ 5)	135	(52)	個人住宅	ピット		町内Ⅸ
9	東久保 14 街区 1・2・12 画地	(2000.1.28 ～ 2.9)	1,074	(335)	共同住宅	溝、ピット、遺物なし		町内Ⅸ
10	東久保 11 街区 3・11 画地	(2000.5.8 ～ 10)	1,760	(136)	店舗	遺構遺物なし		町内Ⅹ
11	東久保 12 街区 5・9 画地	(2001.6.1 ～ 12)	1,445	(79)	駐車場	遺構なし、土器		町内Ⅺ
12	東久保 11 街区 9・13 画地	(2001.6.25 ～ 7.2)	1,074	(387)	店舗	遺構なし、陶磁器片		町内Ⅺ
13	東久保 14 街区 11 画地	(2001.10.13 ～ 24)	275	(27.2)	個人住宅	黒色プラン、遺物なし		町内Ⅺ
14	東久保 11 街区 10 画地	(2002.1.31 ～ 2.4)	237	(60)	店舗	遺構遺物なし		町内Ⅺ
15	東久保 9 街区 3 画地	(2003.2.3 ～ 5)	225	(97.5)	個人住宅	土坑、ピット、溝		町内Ⅻ
16	東久保 10 街区 6 画地	(2003.6.3・4)	273	(45.7)	個人住宅	遺構遺物なし		町内Ⅻ
17	ふじみ野 2-9-1・2・3	(2006.10.26)	919	(220)	共同住宅	遺構遺物なし		市内 3
18	ふじみ野 2-11-8・15	(2007.1.16 ～ 19)	478	(128)	個人住宅	遺構遺物なし		市内 3
19	ふじみ野 2-11-3・4	(2008.7.2・3)	824	(186)	個人住宅	遺構遺物なし		市内 6
20	ふじみ野 2-13-7・8	(2012.12.20)	519	(4)	個人住宅	遺構遺物なし		市内 15
21	ふじみ野 2-10-8	(2013.1.31)	319	(59)	コンテナ	遺構なし、陶器		市内 15
22	ふじみ野 2-11-11	(2016.12.22)	185.1	(45.91)	個人住宅	遺構なし、土器		市内 24
23	ふじみ野 2-10-5	(2017.4.20)	237	(47.1)	個人住宅	遺構遺物なし		市内 24
24	ふじみ野 2-12-2	(2018.10.2 ～ 4)	1,585.51	(60.32)	貸店舗	焼土、遺物なし		市内 25
25	ふじみ野 2-9-5・6 の各一部	(2019.7.3 ～ 8)	904.96	(87.73)	共同住宅	遺構遺物なし		市内 25

Ⅱ　東久保西遺跡第 24 地点

（1）調査の概要

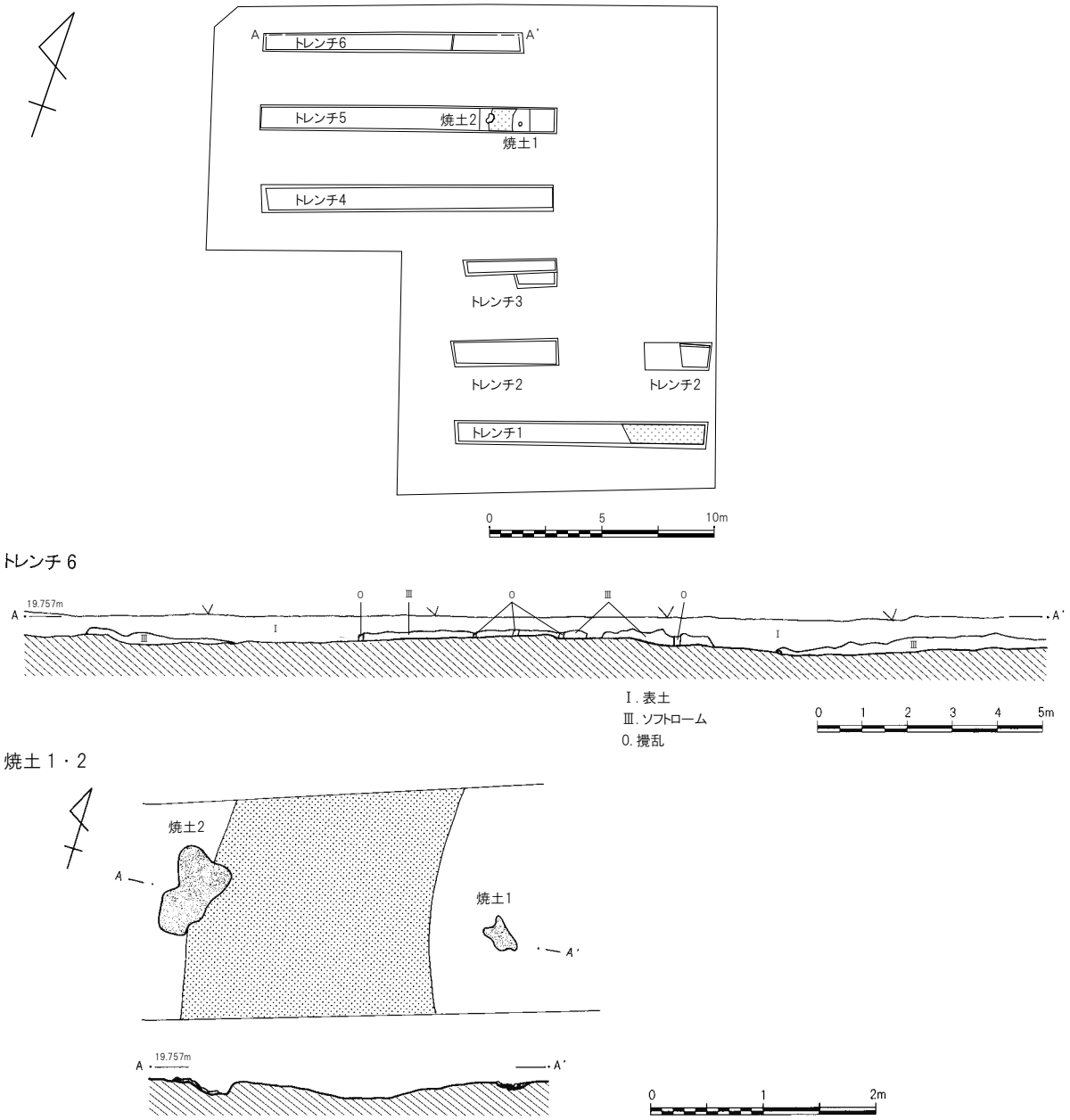
調査は店舗建設に伴うもので、原因者より 2018 年 9 月 7 日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の南西部に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため 2018 年 10 月 2 ～ 4 日に試掘調査を実施した。

試掘調査は幅約 1.5 ～ 2m のトレンチ 6 本を設定し、重機による表土除去後人力による表面精査を行った。現地表面から地山ローム層までの深さは約 50 ～ 100 ㎝である。

調査の結果、遺構は確認されなかったため、写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえで埋戻し、調査を終了した。

（2）遺構と遺物

調査区北側のトレンチ 5 で焼土の広がりを 2 ケ所で確認した。浅いピット状を呈する。焼土 1 の範囲は 35 × 20 ㎝、焼土 2 の範囲は 90 × 50 ㎝を測る。周辺には広がらず、この範囲で留まる。出土遺物はなく、土層の観察からも帰属時期や遺構の性格の特定は難しい。



第 99 図　東久保西遺跡第 24 地点遺構配置図（1/300)、土層 (1/150)、焼土 (1/60)

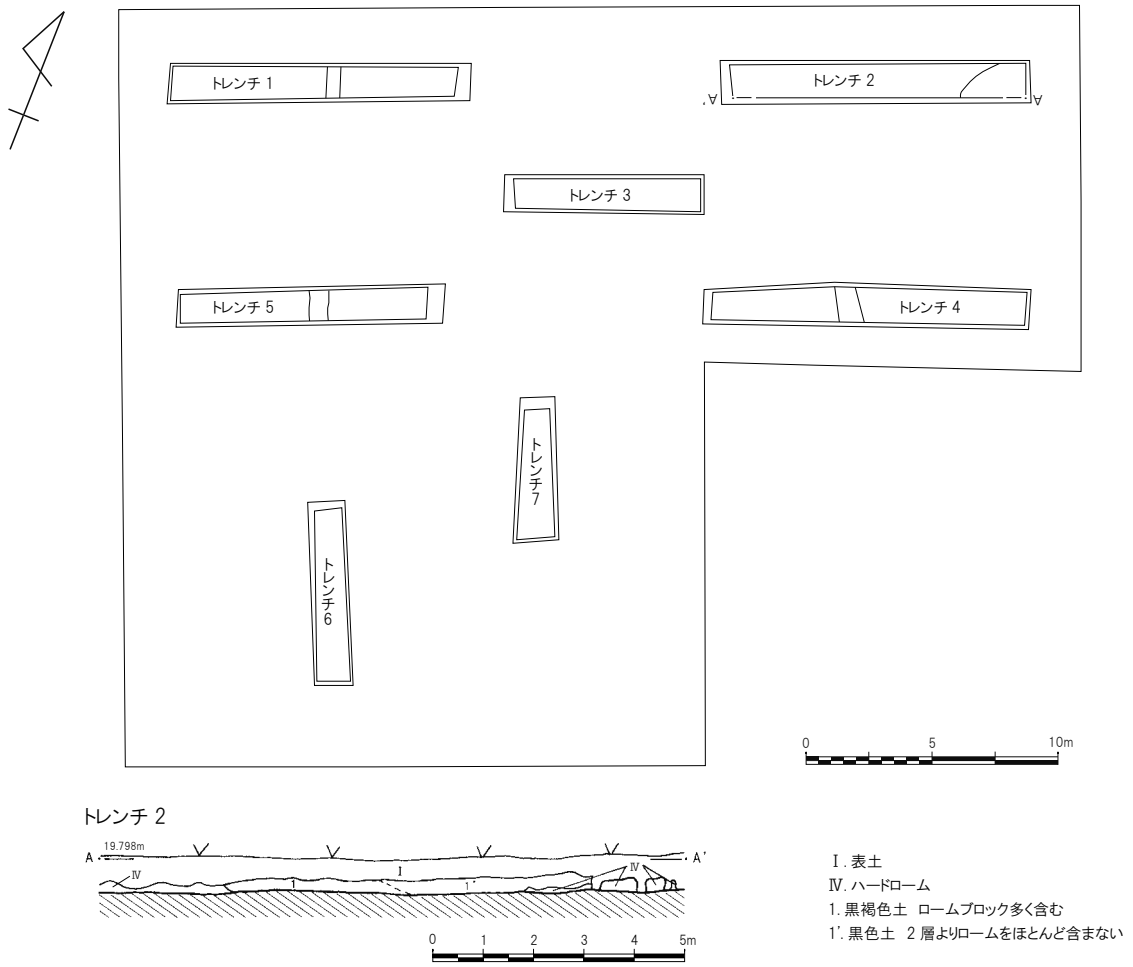
Ⅲ　東久保西遺跡第 25 地点

（1）調査の概要

調査は共同住宅建設に伴うもので、原因者より 2019 年 6 月 7 日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の北西部に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため 2019 年 7 月 3 ～ 8 日に試掘調査を実施した。

試掘調査は幅約 1.5m のトレンチ 7 本を設定し、重機による表土除去後人力による表面精査を行った。現地表面から地山ローム層までの深さは約 60 ～ 80 ㎝である。

調査の結果、遺構・遺物は確認されなかったため、写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえで埋戻し、調査を終了した。



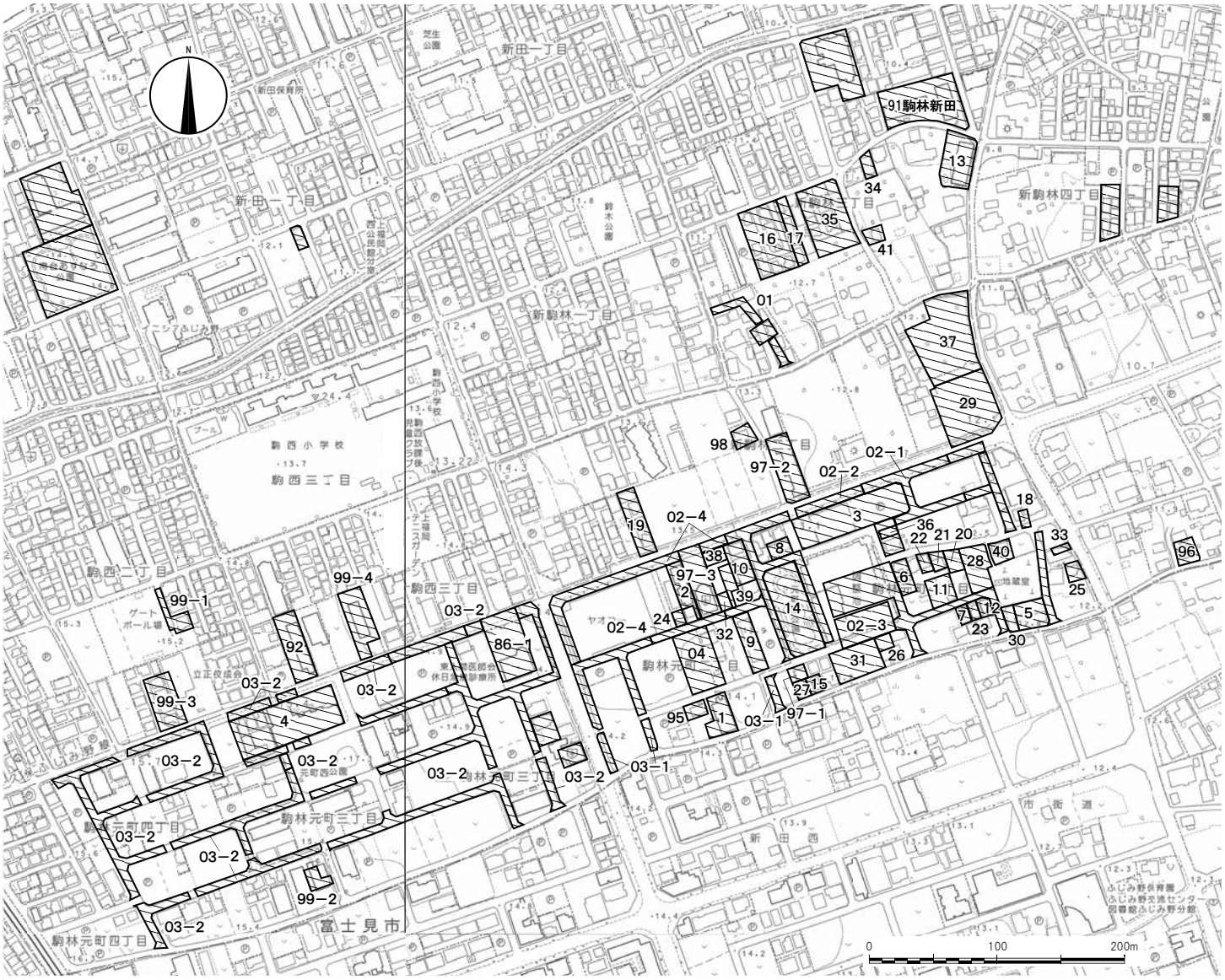
第 100 図　東久保西遺跡第 25 地点調査区域図（1/300)、土層 (1/150)

第 16 章　駒林遺跡の調査

Ⅰ　遺跡の立地と環境

駒林遺跡は、亀居遺跡付近を湧水源とする福岡江川の右岸、武蔵野台地の一段低い立川段丘面に立地し、標高 12 ～ 15 m前後の平坦地を形成する。もともと遺跡の範囲は南北 300 m、東西 800 mの範囲であったが、2002 年～ 2004 年に行った駒林土地区画整理事業に伴う試掘調査の結果、大溝を検出した南北 160m、東西 80m の範囲に遺跡を縮小し、さらに地下式坑を検出した周辺を駒林新田前遺跡として独立させ、新たな包蔵地として 2004 年 3 月に追加した。しかし、第 3 地点で検出した溝と過去の試掘調査で検出した溝の配置を再検討した結果、一辺 140 ～ 160m の台形区画に溝が巡る事が明らかとなり、2008 年 2 月に再び遺跡範囲の変更増補を行い、北側の葺石と板碑を検出した駒林中世墳墓と東側の地下式坑を検出した駒林新田前遺跡を統合した。区画整理後は開発が進み、宅地と商業地に変貌を遂げ、部分的に畑が残っている。

周辺の遺跡は 500m 下流に福岡新田遺跡、南側にも地下式坑を検出した富士見市の稲荷久保北遺跡がある。2002 年以降の試掘調査の結果、幅 5 m、深さ 2 m の大溝や荼毘跡、縄文時代の集石土坑等を検出する。



第 101 図　駒林遺跡の地形と調査区 (1/5,000)

第 52 表　駒林遺跡調査一覧表

地区 地点	所在地	調査期間 ( ) は試掘調査	開発面積 (㎡)	調査面積 ( ) は試掘	調査原因	確認された遺構と遺物	備考	所収報告書
86-1	駒林字南原 353・354	19868.13 ～ 25	1,536		範囲確認	溝、土師器		上埋Ⅸ
91 駒林新田	駒林新田 727-1-3	(1991.8.3)	2,186		共同住宅	遺構遺物なし	91 駒林新田遺跡試掘調査	上埋 14
92	駒林字南原 341	(1992.9.16 ～ 18)	987.6		共同住宅	遺構遺物なし		上埋 15
95	駒林字新田前 271-2	(1995.11.8 ～ 24)	231		個人住宅	溝、遺物なし		上埋 18
96	駒林本町 153-3・4	(1996.6.10 ～ 13)	231		個人住宅	遺構遺物なし		上埋 19
97-1	駒林字新田前 266-2	(1997.5.8 ～ 12)	132		個人住宅	溝、遺物なし		上埋 20
97-2	駒林字新田前 223	(1997.5.9 ～ 15)	991.55		共同住宅	溝、ピット、須恵器		上埋 20
97-3	駒林字新田前 291-1・2	(1997.10.6 ～ 17)	991		診療所	溝、甕 等		上埋 20
98	駒林字新田前 312	(1998.8.10)	234		個人住宅	遺構なし、陶磁器		上埋 21
99-1	駒林字南原 424-2・20 の一部、23	(1999.4.9)	330.38		個人住宅	遺構遺物なし		上埋 22
99-2	駒林字南原 394-2	(1999.5.25)	125.91		個人住宅	遺構なし、陶磁器		上埋 22
99-3	駒林字南原 420-1	(1999.7.1)	1,322		礼拝堂	溝、遺物なし		上埋 22
99-4	駒林字南原 344-2	(2000.1.18 ～ 20)	785.79		共同住宅	溝、遺物なし		上埋 22
01	駒林 702・717 の一部	(2001.8.27 ～ 9.5)	300		宅地造成	遺構なし、板碑		上埋 24
02-1	駒林字新田前 238、240 ～ 242-1 の一部	(2002.6.3 ～ 21)	650		区画整理予定地	溝、遺物なし		上埋 25
02-2	駒林字新田前 243 ～ 245	(2002.8.9 ～ 30)	275		区画整理予定地	溝、遺物なし		上埋 25
02-3	駒林字新田前 262-1、263、264 の一部	(2002.8.30 ～ 9.19)	1,120		区画整理予定地	土坑、遺物なし		上埋 25
02-4	駒林字新田前 280 ～ 282-2、290、292-1 ～ 298 の一部	(2002.11.11 ～ 27)	1,150		区画整理予定地	溝、遺物なし		上埋 25
03-1	駒林字新田前 263、273、275	(2003.5.16 ～ 21)	558		土地区画整理	溝、遺物なし		上埋 26
03-2	駒林字南原 364 外 43 筆	(2003.4.25 ～ 12.22)	7,278.5		土地区画整理	溝、遺物なし		上埋 26
04	駒林字新田前 281	(2005.1.7 ～ 24)	1,487		範囲確認	溝、カワラケ 等		上埋 27
1	駒林土地区画整理事業地内 20 街区 4・8・9	(2006.7.13 ～ 8.2)	646	(146)	共同住宅	溝、茶毘跡、遺物なし		市内 3
2	駒林土地区画整理事業地内 17 街区 7・8 の一部	(2006.11.21 ～ 29)	421	(80)	個人住宅	溝、土坑、遺物なし		市内 3
3	駒林土地区画整理事業地内 21 街区 3・4 画地	(2006.11.30 ～ 12.18)	1,916	(333)	店舗	土坑、溝、井戸、陶磁器		市内 3
4	駒林 B 地区 7 街区 3・4	(2007.6.11 ～ 13)	1,866	(72)	共同住宅	土坑		市内 4
5	大字駒林字新田前 256(仮換地指定 30 街区 2)	(2008.4.9 ～ 16) 2008.5.30 ～ 6.28	509	(509) 509	分譲住宅	竪穴土坑、集石土坑、ピット、溝、地下式坑、柵列、縄文土器		市内 5・6
6	大字駒林字新田前 248-2(仮換地 1 街区 27 符号 1)	(2008.8.27)	257	(40)	個人住宅	遺構なし、泥面子		市内 6
7	駒林土地区画整理事業地内 28 街区 5 画地	(2009.2.3) 2009.2.4・5	152	(54) 54	個人住宅	溝、土製品 等		市内 6
8	駒林字新田前 245-5(21 街区 5 画他)	(2009.6.8)	132	(42)	個人住宅	遺構なし、縄文土器		市内 8
9	駒林字新田前 284(19 街区 9 画地)	(2009.7.22 ～ 30) 2009.7.30 ～ 8.5	627	(246.2) 100	共同住宅	集石土坑、土坑、ピット、溝		市内 8
10	駒林字新田前 288-1 の一部 (17 街区 11 画地)	(2010.2.17・18)	400	(66)	個人住宅	遺構遺物なし		市内 8
11	駒林区画整理事業 27 街区 2、10 画地、11 画地の一部	(2010.4.12 ～ 21)	689.45	(73)	個人住宅	ピット、遺物なし		市内 10
12	駒林字新田前 258-2(28 街区 12 画地)	(2010.7.14)	115	(30)	個人住宅	溝		市内 10
13	新駒林 3-722-1・3・4	(2010.7.27 ～ 29)	927	(96)	共同住宅	土坑、ピット、丸瓦 等		市内 10
14	駒林字新田前 285 ～ 287、288-2・3(22 街区内)	(2010.9.1 ～ 8)	2,000	(348)	公園工事	土坑、遺物なし		市内 10

地区 地点	所在地	調査期間 ( ) は試掘調査	開発面積 (㎡)	調査面積 ( ) は試掘	調査原因	確認された遺構と遺物	備考	所収報告書
15	大字駒林字新田前 266-3(24 街区 12 符号)	(2011.2.16・17) 2011.2.17	115	(10)	個人住宅	土坑、遺物なし		市内 10
16	新駒林 3-706	(2011.5.2 ～ 25) 2011.5.25 ～ 6.1	1,454	(738) 96	分譲住宅	土坑、ピット、堀跡、溝、井戸、土製品 等		市内 14
17	新駒林 3-707	(2011.5.16 ～ 19)	495	(95.5)	分譲住宅			
18	駒林 234-2、238-2(仮換地)、31-4・5	(2011.4.28 ～ 5.2) 2011.8.25 ～ 31	238	(64) 36	個人住宅	土坑、陶磁器 等		市内 14
19	新駒林 2-305-1	(2011.11.28 ～ 12.5) 2011.12.12	671	(68) 15	分譲住宅	溝、縄文土器		市内 14
20	駒林元町 1-3-13	(2012.3.5 ～ 8)	178.8	(42)	共同住宅	溝、縄文土器		市内 14
21	駒林元町 1-3-13 の一部	(2012.3.5 ～ 8)	110	(39)	個人住宅	ピット		市内 14
22	駒林元町 1-3-20	(2012.3.5 ～ 8)	118	(31)	個人住宅	遺構遺物なし		市内 14
23	駒林元町 1-4-12	(2012.4.10 ～ 16)	127	(45)	個人住宅	ピット、溝、遺物なし		市内 15
24	駒林元町 2-1-7	(2012.5.16)	127	(1)	個人住宅	遺構遺物なし		市内 15
25	駒林元町 1-2-8	(2012.6.4)	212	(8)	個人住宅	遺構なし、土器		市内 15
26	駒林元町 1-5-16	(2012.8.29・30)	136	(37)	個人住宅	溝、ピット、遺物なし		市内 15
27	駒林元町 1-5-9・10	(2012.12.21)	133	(10)	個人住宅	土坑、遺物なし		市内 15
28	駒林元町 1-3-8・14 ～ 16	(2013.2.21 ～ 25) 2013.5.21 ～ 27	1,208	(61.6) 99	宅地造成	堀跡、溝、須恵器 等		市内 14
29	新駒林 2-231-1	(2013.6.3 ～ 17)	2,200	(592.2)	店舗	土坑、溝、石器 等		市内 18
30	駒林元町 1-3-7	(2013.6.19・20)	68.16	(28)	個人住宅	ピット、遺物なし		市内 18
31	駒林元町 1-5-5・6	(2013.9.17 ～ 27)	925	(298)	宅地造成	溝、遺物なし		市内 18
32	駒林元町 2-1-16	(2014.2.10)	132	(21)	個人住宅	遺構遺物なし		市内 18
33	駒林元町 1-2-2	(2016.4.11)	129.6	(27.79)	個人住宅	遺構なし、須恵器 等		市内 24
34	新駒林 3-725-3	(2016.10.14)	163	(27.5)	共同住宅	遺構なし、泥面子 等		市内 24
35	新駒林 3-709-1 ～ 4、710-1・2	(2017.7.27･28、8.21･22) 2017.8.23 ～ 9.4	1,815	(470.5) 195	分譲住宅	土坑、堀跡、溝、堀跡内ピット、石器 等		市内 23
36	駒林元町 1-7-4	(2017.9.19)	160.45	(41.25)	消防団車庫	遺構遺物なし		市内 24
37	新駒林 2-216-1、217-1	(2018.3.5 ～ 7) 2018.3.12 ～ 16	2,515.35	(381.45) 189	店舗	ピット、堀跡、溝、陶磁器 等		市内 23
38	駒林元町 2-1-3	(2018.5.8)	396.06	(79.8)	店舗兼 住宅	遺構遺物なし		市内 25
39	駒林元町 2-1-19	(2019.6.3)	200	(22.5)	個人住宅	遺構遺物なし		市内 25
40	駒林元町 1-3-17・18	(2019.8.26)	285.81	(41.2)	分譲住宅	堀跡、陶磁器 等		市内 25
41	新駒林 3-723-2	(2020.3.23・24)	226	(30.75)	個人住宅	遺構なし、陶磁器 等		市内 25

第 102 図　駒林遺跡遺構分布図 (1/2,000)

Ⅱ　駒林遺跡第 38 地点

（1）調査の概要

調査は店舗兼住宅建設に伴うもので、原因者より 2018 年 4 月 16 日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の西部に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため 2018 年 5 月 8 日に試掘調査を実施した。

試掘調査は幅約 1.5m のトレンチ 4 本を設定し、重機による表土除去後人力による表面精査を行った。現地表面から地山ローム層までの深さは約 25 ～ 50 ㎝である。

調査の結果、遺構・遺物は確認されなかったため、写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえで埋戻し、調査を終了した。

Ⅲ　駒林遺跡第 39 地点

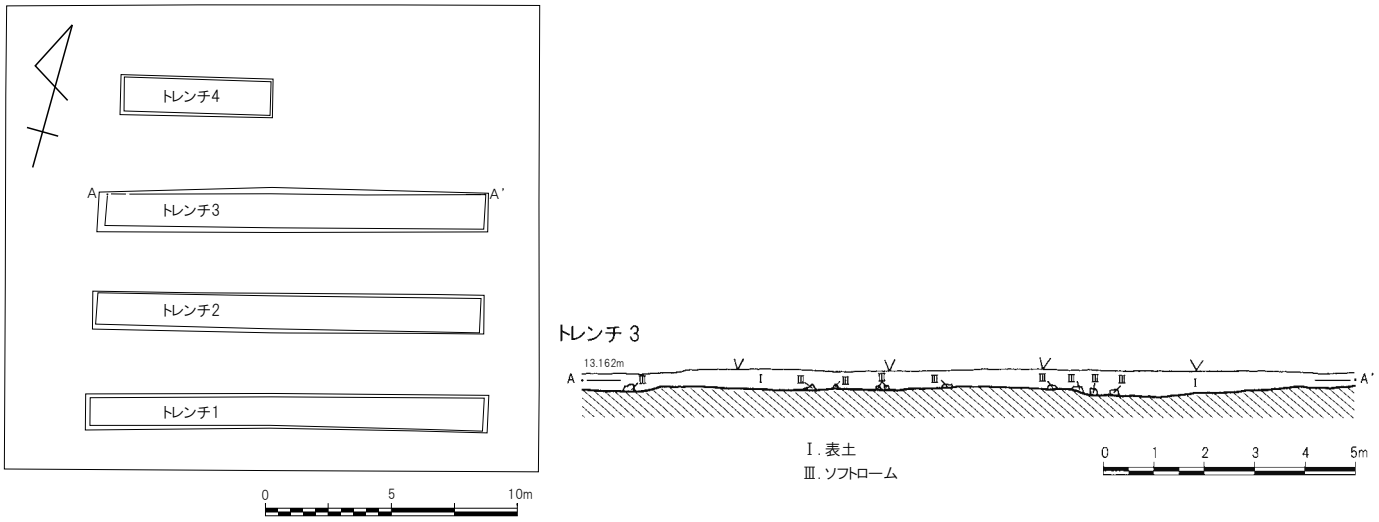
（1）調査の概要

調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者より 2019 年 5 月 21 日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の東部に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため 2019 年 6 月 3 日に試掘調査を実施した。

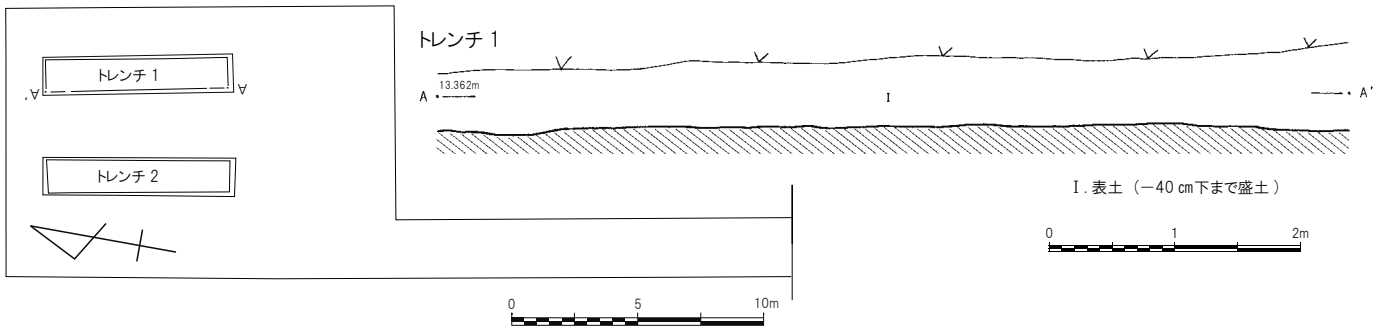
試掘調査は幅約 1.5m のトレンチ 2 本を設定し、重機による表土除去後人力による表面精査を行った。現地表面から地山ローム層までの深さは約 40 ～ 60 ㎝である。

調査の結果、遺構・遺物は確認されなかったため、写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえで埋戻し、調査を終了した。

第 38 地点



第 39 地点



第 103 図　駒林遺跡第 38・39 地点調査区域図 (1/300)、土層 (1/150・1/60)

Ⅳ　駒林遺跡第 40 地点

（1）調査の概要

調査は分譲住宅建設に伴うもので、原因者より 2019 年 7 月 29 日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の南西部に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため 2019 年 8 月 26 日に試掘調査を実施した。

試掘調査は幅約 1.5 ～ 2m のトレンチ 5 ケ所を設定し、重機による表土除去後人力による表面精査を行った。現地表面から地山ローム層までの深さは約 50 ～ 120 ㎝である。

調査の結果、堀跡 1 本を確認したが、大半が近年の撹乱によって破壊されているため、全体を把握することができなかった。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえで埋戻し、調査を終了した。

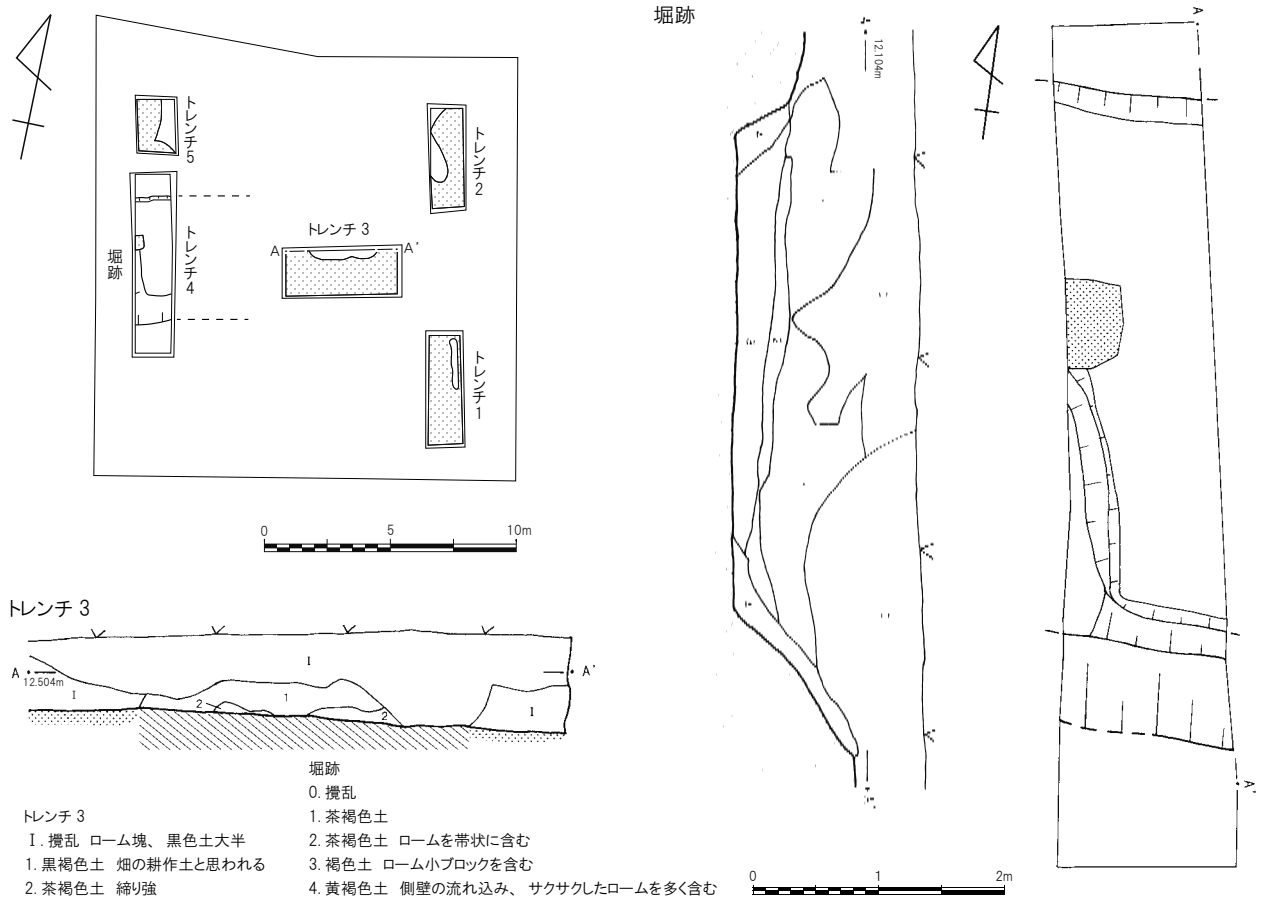
（2）遺構と遺物

①堀跡

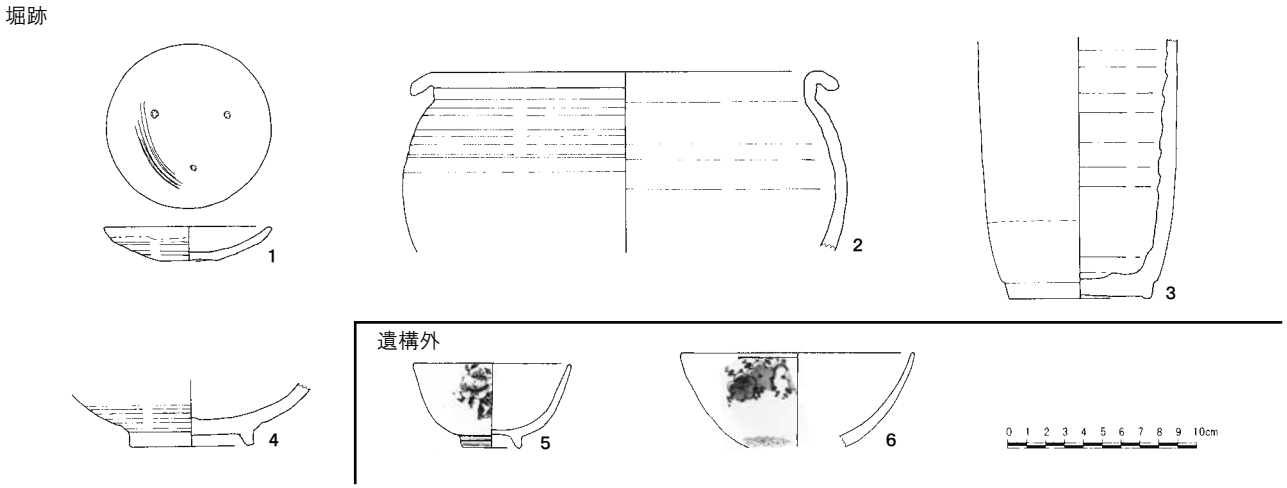
堀跡は調査区西部、トレンチ 4 で検出した。調査区内の撹乱が酷いため、正確な走行方向は判然としないが、ほぼ東西方向を指向する。断面形態は台形を呈し、確認できた範囲での遺構の規模は上幅 517 ㎝、下幅 380 ㎝、深さ 95.3 ㎝を測る。確認面では東西に直進する堀跡であるが、底面では南側がトレンチ中央やや西寄りでほぼ 90 度進行方向を変える。上幅の規模は東西で大きく変わらないが、下幅は東側と比べて西側の方が 175 ㎝狭くなる。堀の使用時期を示すような遺物は伴わないが、駒林遺跡の各所でこれまでに確認されている堀跡の傾向から、今回も中世以降に帰属するものと考えられる。

②出土遺物

出土遺物は堀の覆土中及びトレンチ覆土からである。遺物の詳細については第 105 図及び第 53 表に掲載した。



第 104 図　駒林遺跡第 40 地点遺構配置図 (1/300)、土層・堀跡 (1/60)



第 105 図　駒林遺跡第 40 地点出土遺物 (1/4)

第 53 表　駒林遺跡第 40 地点出土遺物観察表 (単位 cm・g)

図版番号	出土遺構	種別・器種	口径・長さ	底径・幅	高さ・厚さ	技法・文様・備考	時期・型式
第 105 図 -1	堀跡	陶器・灯明皿	8.7	3.0	1.8	轆轤成形・灰釉・推定産地：、口縁部から外面にかけてタール付着、見込みに目跡 3 カ所、完形	―
第 105 図 -2		陶器・甕	(21.0)	―	―	轆轤成形・鉄釉	19 世紀以降
第 105 図 -3		陶器・徳利	―	7.5	―	轆轤成形・灰釉・推定産地：瀬戸・美濃、割れ口の一部に煤付着	18 世紀後半以降
第 105 図 -4		陶器・碗 or 鉢	―	(6.6)	―	轆轤成形・灰釉・推定産地：瀬戸・美濃	19 世紀以降
第 105 図 -5	遺構外	磁器・小坏	―	(3.0)	4.5	轆轤成形、型紙染付・菊花文か、高台に二重圏文・推定産地：瀬戸・美濃	19 世紀後半以降
第 105 図 -6		磁器・丸碗	(12.4)	―	―	轆轤成形、染付･梅花に青海波･推定産地:瀬戸･美濃	19 世紀後半以降

Ⅴ　駒林遺跡第 41 地点

（1）調査の概要

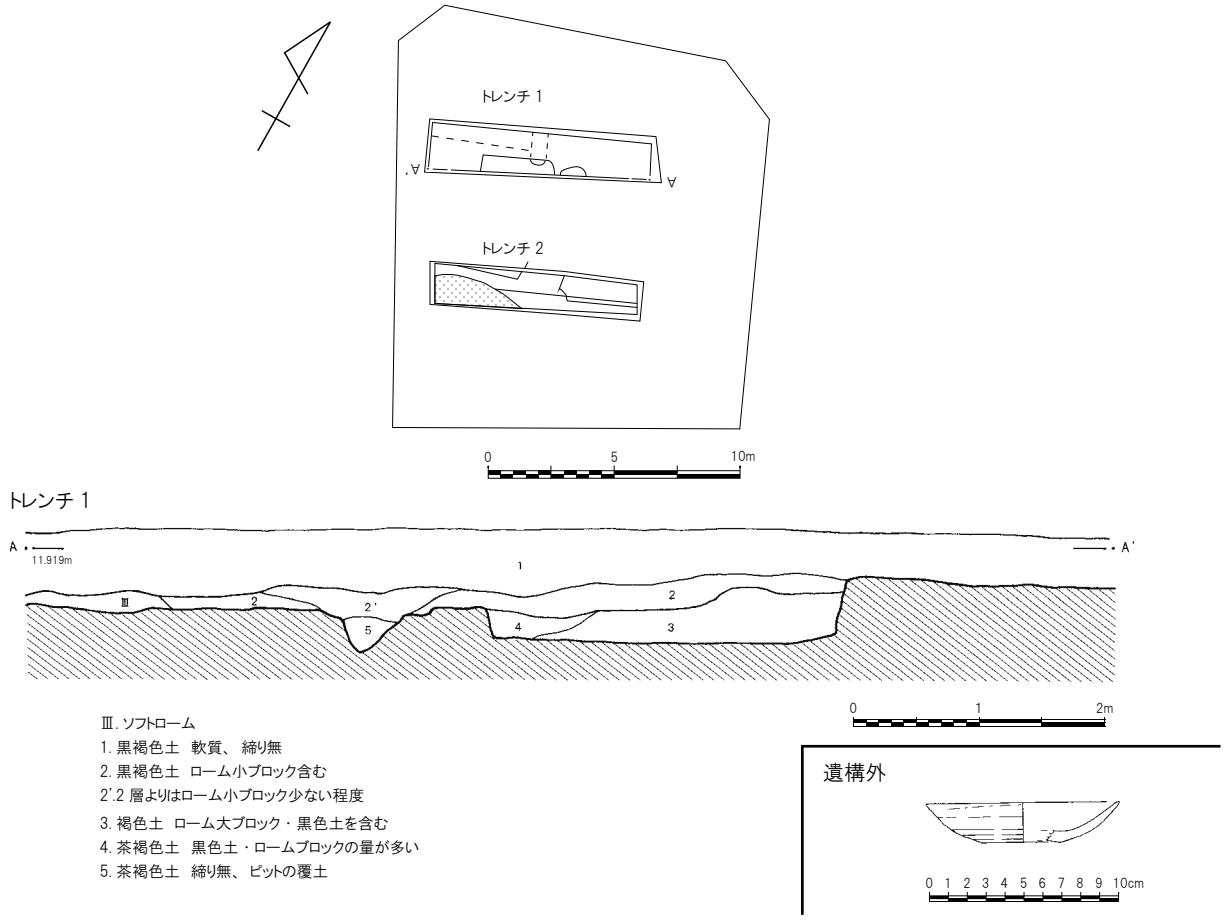
調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者より 2020 年 3 月 3 日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の北部に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため 2020 年 3 月 23・24 日に試掘調査を実施した。

試掘調査は幅約 1.5 ～ 2m のトレンチ 2 本を設定し、重機による表土除去後人力による表面精査を行った。現地表面から地山ローム層までの深さは約 40 ～ 50 ㎝である。

調査の結果、遺構は確認されなかったため、写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえで埋戻し、調査を終了した。

（2）遺構と遺物

今回掲載できた遺物はいずれも表土中からの出土である。



第 106 図　駒林遺跡第 41 地点調査区域図 (1/300)、土層 (1/60)、出土遺物 (1/4)

第 17 章　福岡新田遺跡の調査

Ⅰ　遺跡の立地と環境

福岡新田遺跡は、亀居遺跡付近を湧水源とする福岡江川の右岸、武蔵野台地の一段低い立川段丘面上で、標高 7 ～ 10 m前後の平坦地に位置する。遺跡周辺は福岡江川が僅かに南に湾曲し、江川の侵食による蛇行なのか、埋没谷や湧水などの影響によるものかは不明である。江川から南に広がる窪地と周辺部には僅かな微高地状の起伏もみられる。

福岡新田は江戸時代の慶安年間 (1648 ～ 52 年) に川越藩の新田開発により成立した村で、『新編武蔵風土記稿』によると、村域は江川左岸の「東西 25 町許、南北 5 町」とあり、東西約 2.7 ㎞・南北約 500 m である。

遺跡範囲は当初、江川の北側にも延びていたが、北側は松山遺跡に統合し、南側のみを福岡新田遺跡とした。遺跡の範囲は南北 230 m、東西 240 mであるが、広がる可能性もある。

遺跡周辺は宅地開発もされるが、畑地も多く残っている。周辺の遺跡は、江川の対岸に松山遺跡、200 m東側に鷺森遺跡、350 m西側に駒林遺跡 (2008 年駒林新田前遺跡と統合) がある。

本遺跡周辺の調査は、1982 年新田 2 丁目の試掘調査以来、2020 年 4 月現在 8 地点で実施している。2013 年 1 月、第 4 地点の本調査で奈良平安時代の住居跡 1 軒を検出し、遺物も出土している。

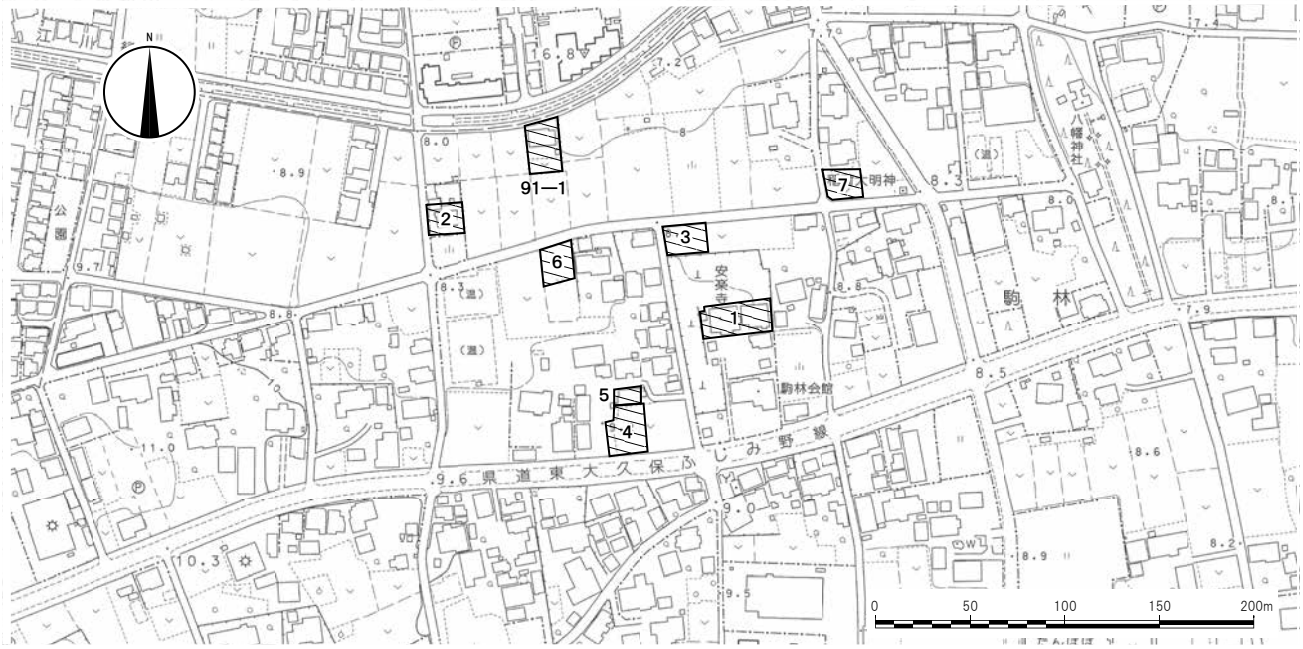
Ⅱ　福岡新田遺跡第 7 地点

（1）調査の概要

調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者より 2019 年 3 月 4 日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の東側に隣接し、遺跡の範囲には該当しないが、申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため 2019 年 3 月 14・26 日に試掘調査を実施した。

試掘調査は幅約 1.5m のトレンチ 2 本と浄化槽設置箇所に 1 × 2m のトレンチ 1 ヶ所を設定し、重機による表土除去後人力による表面精査を行った。現地表面から地山ローム層までの深さは約 40 ㎝である。

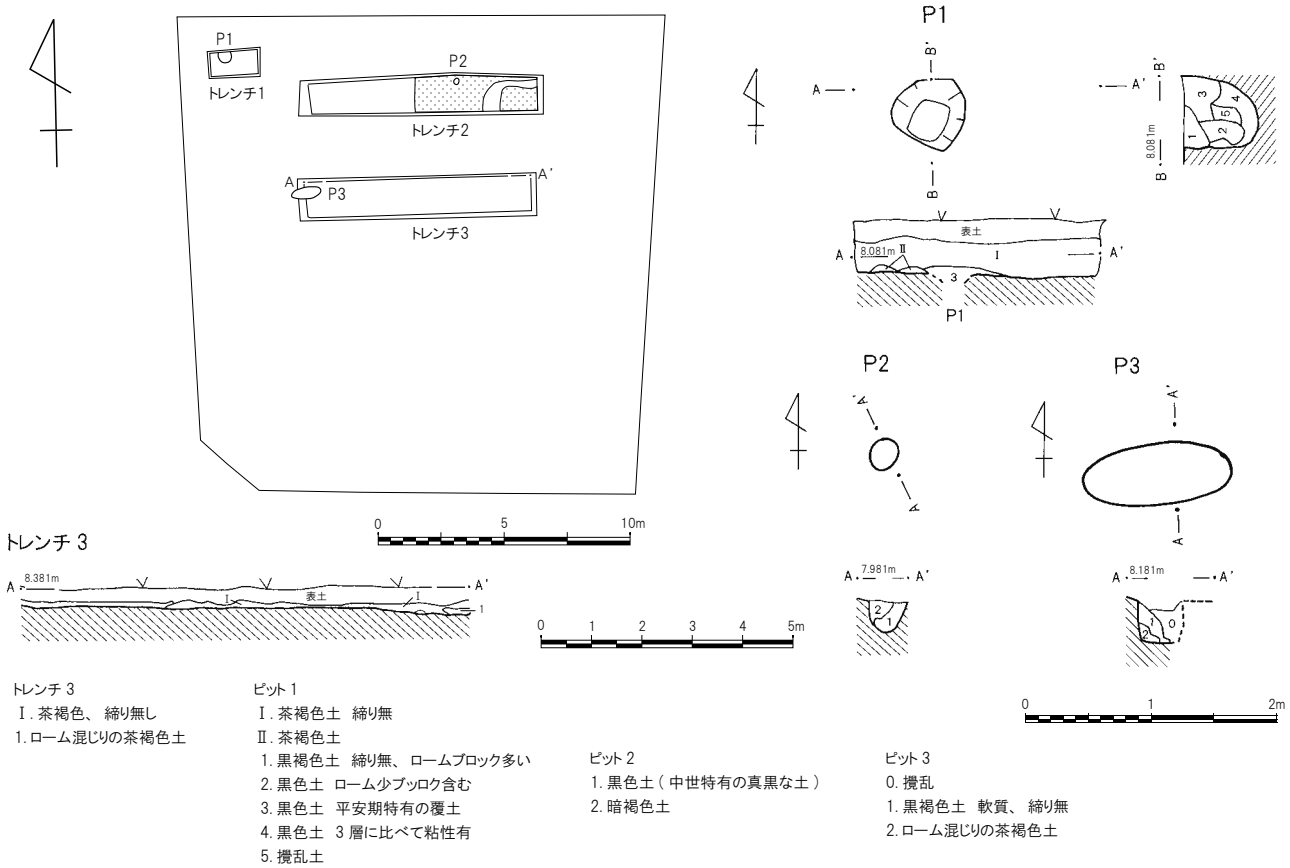
調査の結果、ピット 3 基を確認した。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえで埋戻し、調査を終了した。



第 107 図　福岡新田遺跡の地形と調査区 (1/4,000)

第 54 表　　福岡新田遺跡調査一覧表

地区 地点	所在地	調査期間 ( ) は試掘調査	開発面積 (㎡)	調査面積 ( ) は試掘	調査原因	確認された遺構と遺物	備考	所収報告書
1982 年度 新田 2 丁目 遺跡試掘	新田 2-481・482	(1982.8.27 ～ 9.14)	1,454		民間開発	遺構なし、陶磁器	松山遺跡 82-1 に変更	上埋Ⅴ
1989 年度 新田遺跡試掘	新田字本新田 400-1	(1989.6.22 ～ 27)	495		宅地造成	遺構遺物なし	松山遺跡 89-2 に変更	上埋 12
91-1 ('91 年度福岡 新田遺跡試掘)	駒林 817-1	(1991.4.23 ～ 26)	482		個人住宅	遺構遺物なし		上埋 14
1992 年度 福岡新田試掘	中福岡 362	(1992.7.17 ～ 22)	998		共同住宅	遺構遺物なし	松山遺跡 92-6 に変更	上埋 15
1	駒林字寺脇 861-1、 866-1、862、864、 865 の一部	(2007.10.9 ～ 24)	1,754	(185)	寺院	土坑、ピット、溝、井戸、縄文土器 等		市内 4
2	駒林字寺脇 841-3	(2011.9.12 ～ 14)	231	(21)	個人住宅	遺構遺物なし		市内 14
3	駒林字寺脇 869-4	(2012.12.18) 2012.12.19 ～ 21	281.49	(67) 16	個人住宅	土坑、ピット、溝、土器		市内 15
4	駒林 859-1	(2013.1.7) 2013.1.8 ～ 23	568	(127) 200	駒林会館	古代住居跡 1、土坑、溝、墨書土器、土師器 等		市内 15
5	駒林字寺脇 852-2・7	(2013.12.18・19)	153	(37.2)	個人住宅	遺構なし、平瓦		市内 18
6	駒林字寺脇 845-2	(2017.7.13)	331	(52.01)	個人住宅	遺構遺物なし		市内 24
7	駒林字寺脇 883-1	(2019.3.14・26)	412	(27.2)	個人住宅	ピット、縄文土器 等		市内 25



トレンチ 3
Ⅰ. 茶褐色、 締り無し
1. ローム混じりの茶褐色土

ピット 1
Ⅰ. 茶褐色土　締り無
Ⅱ. 茶褐色土
1. 黒褐色土　締り無、 ロームブロック多い
2. 黒色土　ローム少ブッロク含む
3. 黒色土　平安期特有の覆土
4. 黒色土　3 層に比べて粘性有
5. 攪乱土

ピット 2
1. 黒色土 (中世特有の真黒な土)
2. 暗褐色土

ピット 3
0. 攪乱
1. 黒褐色土　軟質、 締り無
2. ローム混じりの茶褐色土

第 108 図　福岡新田遺跡第 7 地点遺構配置図 (1/300)、土層 (1/150)、ピット (1/60)

（2）遺構と遺物

①ピット

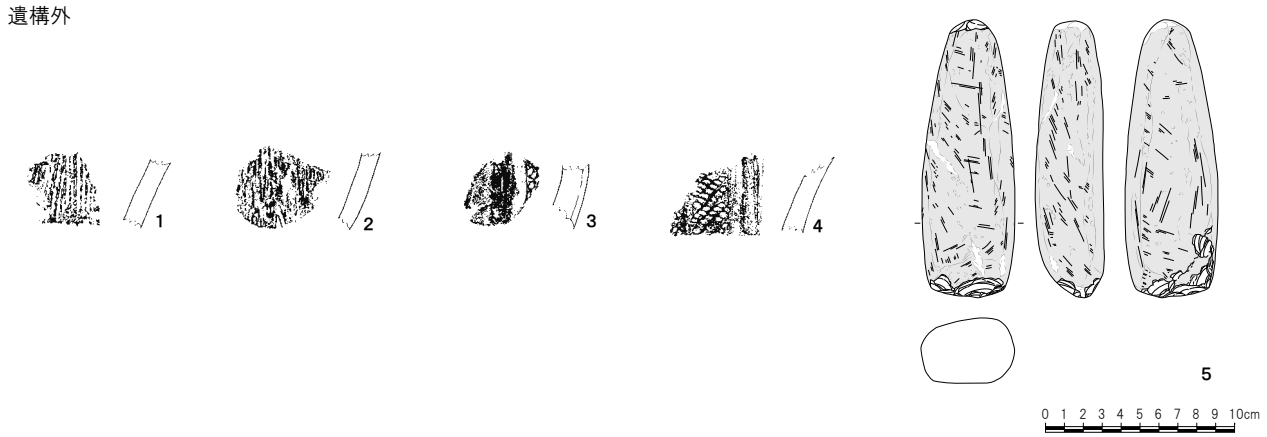
ピット 3 基はそれぞれのトレンチで検出した。規模等詳細については第 55 表に掲載した。いずれも出土遺物はないが、土層の観察からピット 2 は中世、ピット 3 は縄文時代の特徴を有する。

②出土遺物

遺物はすべて遺構外からの出土である。詳細については第 109 図及び第 56 表に掲載した。

第 55 表　福岡新田遺跡第 7 地点ピット一覧表 (単位 cm)

No.	平面形態	確認面径	底径	深さ
1	方形	56 × 55	32 × 26	61.1
2	円形	25 × 20	—	25.4
3	楕円形	120 × 45	—	40.5



第 109 図　福岡新田遺跡第 7 地点出土遺物 (1/4)

第 56 表　　福岡新田遺跡第 7 地点出土遺物観察表 (単位 cm・g)

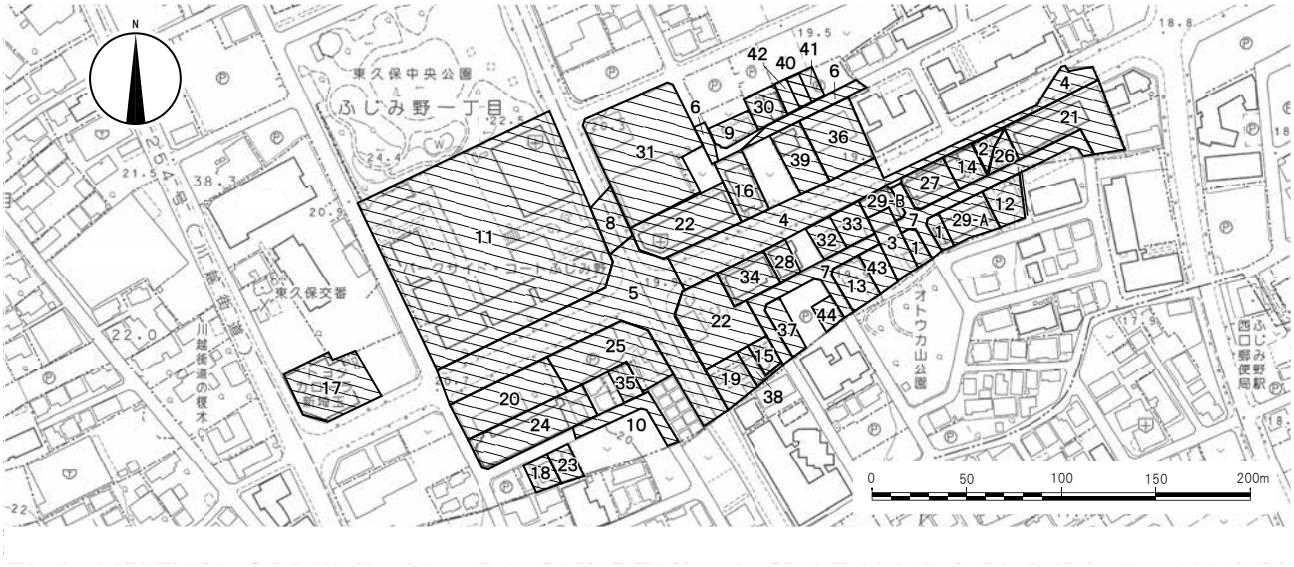
図版番号	出土遺構	種別・器種	技法・文様・備考	時期・型式
第 109 図 -1	遺構外	縄文・深鉢	胴部、櫛歯状工具による条線文 / 内面に被熱の痕跡有、胎土に黒色粒子を少量含む	中期
第 109 図 -2		縄文・深鉢	胴部、貝殻条痕文 / 胎土に黒色粒子を少量含む	ー
第 109 図 -3		縄文・深鉢	胴部、地文 RL 縄文か、隆帯貼付、隆帯脇に沈線、胎土に白色粒子とチャートを多量に含む	中期
第 109 図 -4		縄文・深鉢	胴部、地文 LR 縄文、縦位平行沈線 / 内面に被熱痕有、胎土に白色粒子を多量に含む	中期
第 109 図 -5		石器・磨製石斧転用敲石	長さ：14.706 ㎝、幅：4.915 ㎝、厚さ：3.661 ㎝、重量：431.98g、石材：凝灰岩 / 磨製石斧刃部破損後に敲打痕と剥離痕	ー

第 18 章　東久保南遺跡の調査

Ⅰ　遺跡の立地と環境

東久保南遺跡は、入間川の支流新河岸川に注ぐさかい川の谷頭部から、約 400 ～ 500m 程下った左岸に位置している。標高 19 ～ 21m で現谷底との比高差は 1 m以下でほぼ平坦である。さかい川は富士見市勝瀬字茶立久保付近に湧水源をもつ伏流水で、現在は下水路となっている。なお、富士見市にも遺跡範囲は広がり、同じ東久保南遺跡で登録され、同遺跡と接して「オトウカヤマ」と呼ばれる塚がある。周辺の遺跡は、さかい川の対岸に西ノ原遺跡、下流の左岸には中沢遺跡がある。

2019 年 4 月現在 44 ヶ所で調査が行われ、縄文時代中期の住居跡 2 軒、奈良･平安時代の住居跡 4 軒 (1 軒は富士見市域内)、縄文時代の落とし穴・土坑・炉穴や時期不明の溝跡が確認されている。



第 110 図　東久保南遺跡の地形と調査区 (1/4,000)

第 57 表　東久保南遺跡調査一覧表

地区 地点	所在地	調査期間 ( ) は試掘調査	開発面積 (㎡)	調査面積 ( ) は試掘	調査原因	確認された遺構と遺物	備考	所収報告書
1	亀久保字東久保 547	1981.11.24 ～ 12.14	320		農地天地返し	溝、縄文土器 等		東部Ⅲ
2	亀久保字東久保 546-2	1983.5.30 ～ 6.2	264		住宅建設	ピット、遺物なし		東部Ⅴ
3	亀久保字東久保 549-4	1983.6.7 ～ 7.4	326		住宅建設	溝、縄文土器 等		東部Ⅴ
4	亀久保 549-1 他	1993.12.1 ～ 3.18	1,680		区画整理道路	縄文時代住居跡 1、古代住居跡 1、炉穴、落とし穴、土坑、ピット、溝、墨書土器、縄文土器 等		大調 14
		1994.9.26 ～ 11.22	444					
5	亀久保 557-1、559、560 他	1994.9.26 ～ 12.19	2,500		区画整理道路	土坑、ピット、縄文土器 等		大調 14
		(1996.6.17 ～ 21)	680		区画整理道路	遺構遺物なし	第 4 地点の続きとして掲載	町内Ⅵ
6	亀久保 551-4 他	1995.6.20 ～ 7.11 1995.11.22 ～ 12.6	480		区画整理道路	土坑、ピット、溝、遺物なし		大調 14
7	亀久保 554 他	1995.7.12 ～ 12.5	1,500		区画整理道路	落とし穴、土坑、ピット、溝、柵列、縄文土器 等		大調 14
		1996.8.23 ～ 26	360					大調 14
8	亀久保 494 他	1995.11.16 ～ 12.13	467		区画整理道路	土坑、ピット、縄文土器		大調 14
		1996.2.14 ～ 22	75					大調 14
9	東久保 518-1	(1996.7.1 ～ 3)	225.02		個人住宅	炉穴、ピット、溝、遺物なし		町内Ⅵ
10	亀久保 562 他	1996.8.19 ～ 26	440		区画整理道路	ピット		大調 14
11	東久保 464､499 他	(1996.11.22 ～ 1997.1.31)	10,500		共同住宅	土坑、ピット、溝、台付甕		町内Ⅵ
12	東久保 64 街区 1 画地	(19975.8 ～ 16) 1997.5.19 ～ 6.7	446		個人住宅	古代住居跡 1、落とし穴、土坑、土師器 等		町内Ⅶ
13	東久保 62 街区 1・2・3 画地	1997.8.25 ～ 9.1	460		個人住宅	土坑、ピット、溝、縄文土器		町内Ⅶ
14	東久保 63 街区 2 画地	(1998.6.23 ～ 7.1)	333		個人住宅	炉、落とし穴、土坑、ピット、溝、遺物なし		町内Ⅷ
15	東久保 60 街区 6 画地	(1998.7.4 ～ 9)	143		個人住宅	落とし穴、遺物なし		町内Ⅷ
16	東久保 59 街区 3 画地	(1998.12.12 ～ 14)	541		共同住宅	ピット、縄文土器		町内Ⅷ
17	東久保 46 街区 9･10･17 画地	1999.1.27 ～ 2.3)	1,264		自動車ｼｮｰﾙｰﾑ	ピット、溝、遺物なし		町内Ⅷ
18	東久保 48 街区 4 画地	(1999.5.14 ～ 18)	202	(95)	個人住宅	遺構遺物なし		町内Ⅸ
19	東久保 60 街区 6 画地	(1999.7.8 ～ 12)	466	(188)	駐車場	溝状プラン、遺物なし		町内Ⅸ
20	東久保 49 街区 1 画地	(1999.12.22 ～ 2000.1.15)	1,106	(367)	店舗	遺構遺物なし		町内Ⅸ
21	東久保 64-1 街区	(2001.1.15 ～ 31)	1,283	(288)	共同住宅	遺構遺物なし		町内Ⅹ
22	東久保 60 街区 1 画地	(2001.2.4 ～ 15) 2001.2.14 ～ 26	2,703	(1,112)	中古車展示場	集石土坑、炉穴、落とし穴、ピット、溝、縄文土器 等		町内Ⅹ、大調 14
23	東久保 48 街区 6 画地	(2001.3.7・8)	208	(97)	個人住宅	遺構遺物なし		町内Ⅹ
24	東久保 49 街区 6 画地	(2001.4.2 ～ 8)	1,051	(420)	共同住宅	遺構遺物なし		町内Ⅺ
25	東久保 49 街区 2･3 画地	(2001.9.26 ～ 10.12)	1,388	(596.6)	中古車展示場	ピット、溝		町内Ⅺ
26	東久保 63 街区 3 画地	(2001.10.30 ～ 11.1)	208	(40.5)	店舗	遺構遺物なし		町内Ⅺ
27	東久保 63 街区 1 画地	(2002.5.29 ～ 6.7)	610	(255.2)	共同住宅	ピット、溝、遺物なし		町内Ⅻ
28	東久保 549-1、5503 (60 街区 3・4 画地)	(2002.9.13 ～ 21)	322	(140)	共同住宅	溝		町内Ⅻ
29-A	東久保 64-1 街区 1・4 画地	(2003.3.17 ～ 20) 2003.3.24 ～ 4.7	736	(309.3)	駐車場	縄文時代住居跡 1、古代住居跡 1、炉穴、土坑、溝、縄文土器 等		大調 14・町内Ⅻ
29-B	東久保 60-5	(2003.5.19 ～ 28)	357	(130)	駐車場	遺構遺物なし		町内Ⅻ
30	東久保 58 街区 13 画地	(2003.8.4・5)	164	(70)	個人住宅	遺構遺物なし		町内Ⅻ
31	東久保 59 街区 1・2 画地	(2003.8.21 ～ 9.1) 2003.9.3 ～ 10.5	2,948	(1,042.5)	店舗	炉穴、土坑、ピット、溝、縄文土器		大調 14、町内Ⅻ
32	ふじみ野 4-9-4 の一部 (60 街区 4 画地)	(2004.1.26 ～ 29)	289	(134)	店舗	遺構遺物なし		町内Ⅻ
33	ふじみ野 4-9-4	(2004.7.8・9)	354	(102)	店舗	遺構遺物なし		町内Ⅻ
34	ふじみ野 4-9-2 (60 街区 2 画地)	(2004.7.8 ～ 12)	555	(159)	共同住宅	遺構遺物なし		町内Ⅻ
35	ふじみ野 1-5-8	(2005.1.17)	194	(51)	個人住宅	遺構遺物なし		町内Ⅻ
36	ふじみ野 4-8-7	(2005.1.21 ～ 27) 2005.2.2 ～ 15	1,005	(328)	事務所	落とし穴、土坑、ピット、溝、縄文土器 等		町内Ⅻ、大調 14
37	ふじみ野 4-10- 1	2005.2.10 ～ 14	695	(75)	駐車場	遺構遺物なし		町内Ⅻ
38	ふじみ野 4-9-11・12	(2010.10.13)	177	(9)	個人住宅	遺構なし、縄文土器 等		市内 10
39	ふじみ野 4-8-6	(2011.8.11 ～ 16)	695	(74)	事務所	遺構遺物なし		市内 14
40	ふじみ野 4-7-17	(2017.3.13)	114	(37.05)	個人住宅	遺構遺物なし		市内 24
41	ふじみ野 4-7-18	(2017.5.30)	114	(33.41)	個人住宅	遺構遺物なし		市内 24
42	ふじみ野 4-7-11	(2017.10.27)	114	(24)	個人住宅	遺構遺物なし		市内 24
43	ふじみ野 4-11-2・7	(2017.11.1・2) 2017.11.14・15	469	(103.5) 22.5	共同住宅	縄文時代住居跡 1、ピット、溝、縄文土器 等		市内 23
44	ふじみ野 4-10-2	(2018.4.23)	289	(19.36)	個人住宅	遺構なし、縄文土器 等		市内 25

Ⅱ　東久保南遺跡第 44 地点

（1）調査の概要

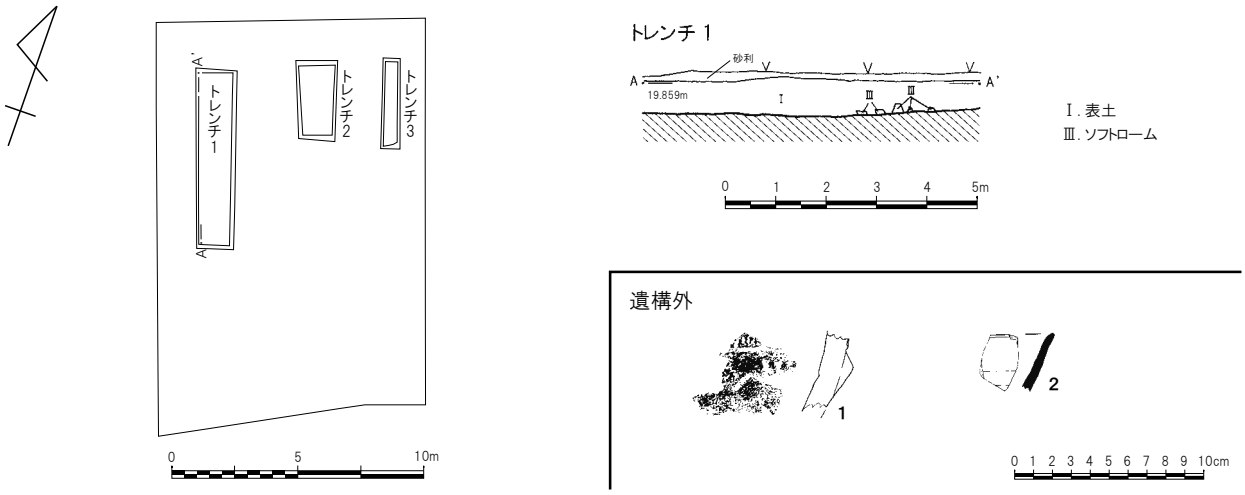
調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者より 2018 年 2 月 26 日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の南部に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため 2018 年 4 月 23 日に試掘調査を実施した。

試掘調査は幅約 1 ～ 1.5m のトレンチ 3 本を設定し、重機による表土除去後人力による表面精査を行った。現地表面から地山ローム層までの深さは約 50 ～ 80 ㎝である。

調査の結果、遺構は確認されなかったため、写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえで埋戻し、調査を終了した。

（2）遺構と遺物

表土中より遺物が出土している。1 は縄文土器の深鉢の胴部破片である隆帯貼付後丁寧に撫で付け、上部には沈線と爪型文らしき文様を施文する。縄文時代中期。2 は須恵器坏の口縁部破片である。口縁部が緩やかに外反する。胎土に白色針状物質を含まない。9 世紀代か。



第 111 図　東久保南遺跡第 44 地点調査区域図 (1/300)、土層 (1/150)、出土遺物 (1/4)

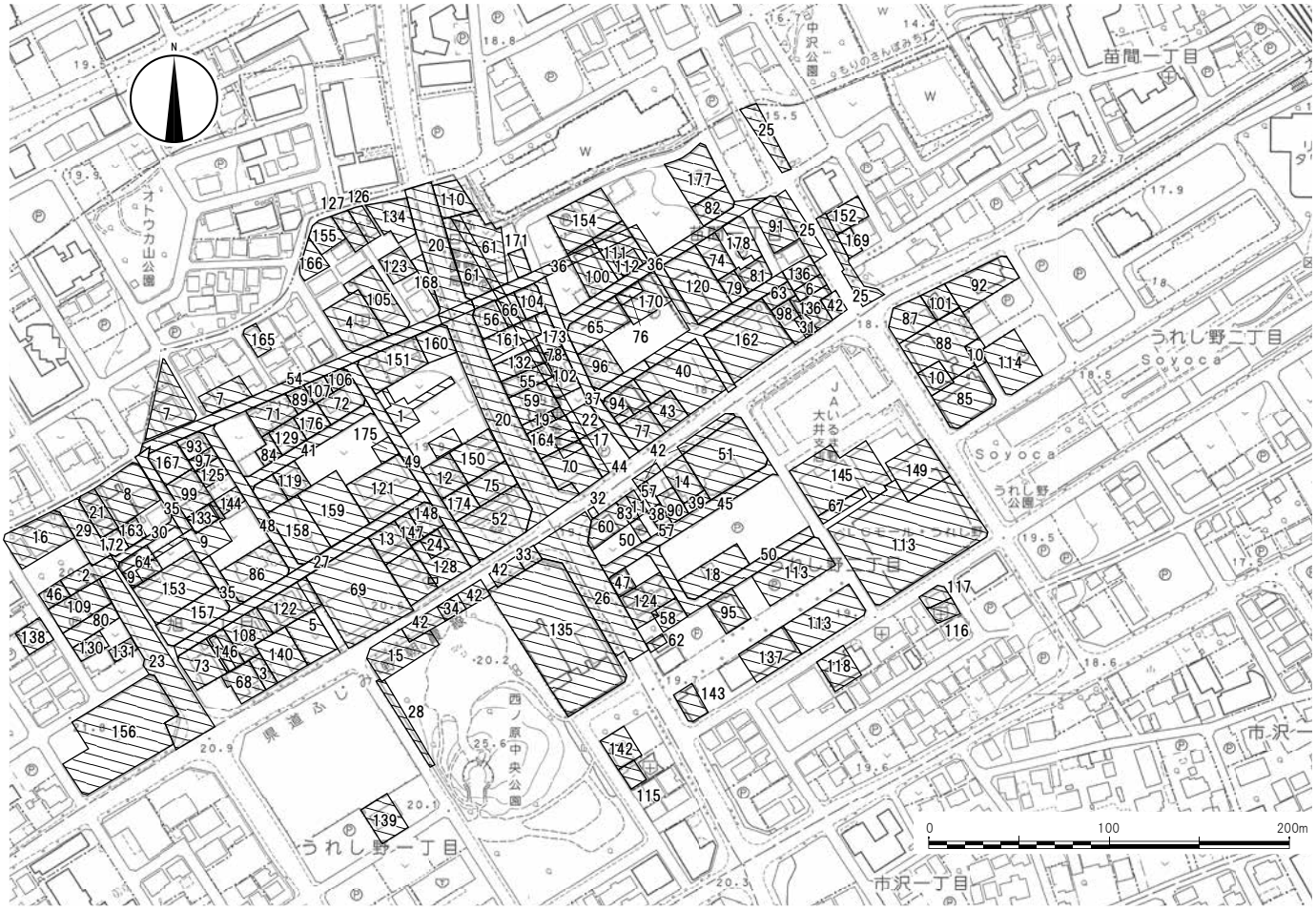
第 19 章　西ノ原遺跡の調査

Ⅰ　遺跡の立地と環境

西ノ原遺跡は、東武東上線ふじみ野駅の南西約 300 m、さかい川の谷頭部から約 500 m下った右岸、標高 18 ～ 21 mに位置する。さかい川は現在の富士見市勝瀬字茶立久保付近に湧水源を持つ伏流水で、東から西へ流れて入間川の支流新河岸川に注ぐ。かつては水量も豊富であったと言われるが、現在は下水路となっている。西ノ原遺跡とさかい川との高低差は２～３ｍで、武蔵野台地縁辺で一段低い部分、さかい川が侵食によって作り出した低位台地上に立地する。

周辺の遺跡は、下流に中沢前遺跡が隣接し、さらに下流域には神明後遺跡、苗間東久保遺跡、浄禅寺跡遺跡等縄文時代の集落が存在する。さかい川対岸には東久保南遺跡と富士見市のオトウカ山があり、その下流には縄文時代中期後半集落の中沢遺跡が広がる。

本遺跡は昭和 40 年代頃までは武蔵野の面影を残す農村地帯であったが、区画整理事業とふじみ野駅の開設により、ここ数年開発の増加に伴い遺跡の破壊が進んでいる。同時に発掘調査も遺跡面積 10ha の約 40％が調査されてきている。1971 年以来 2020 年 4 月現在で 178 地点に及ぶ調査で明らかになった遺跡の時期は、旧石器時代、縄文時代早期・中期・後期、平安時代、中世、近世である。特に縄文時代中期には、210 軒を超す住居跡が環状集落として形成され、市内において東台遺跡と共に中期全般を通した良好な大規模集落跡であったことがわかる。



第 112 図　西ノ原遺跡の地形と調査区 (1/4,000)

第 58 表　西ノ原遺跡調査一覧表

地区地点	所在地	調査期間（　）は試掘調査	開発面積（㎡）	調査面積（試掘）	調査原因	確認された遺構と遺物	所収報告書
1		1971				縄文時代住居跡 1、集石土坑、土坑、縄文土器	町史資Ⅰ
2	西ノ原 83	1978.12.6 ～ 26	270		宅地造成	縄文時代住居跡 1、溝、縄文土器 等	西ノ原遺跡
3		1979.3			宅地造成	縄文土器	
4	西ノ原 125-1	1979.7.2 ～ 9	668		宅地造成	遺構なし、縄文土器	東部Ⅰ
5	苗間 99-2	1979.8.1 ～ 14、8.20 ～ 31	555		町史編纂事業	縄文時代住居跡 1、土坑、炉穴、縄文土器	大調 6、大史 7
6	西ノ原 170-2	1980.6.19 ～ 27	450		宅地造成	土坑、柱穴、縄文土器 等	東部Ⅱ
7	西ノ原 96-1	1980.10.1 ～ 29	563		宅地造成	旧石器礫群、土坑、縄文土器	東部Ⅱ
8	西ノ原 95-2・3	1980.10.30 ～ 11.14	661		宅地造成	集石土坑、土坑、溝、柱穴、縄文土器 等	東部Ⅱ
9	西ノ原 93-1、98-1	1981.6.1 ～ 23	600			柱穴、溝、石器 等	東部Ⅲ
10	西ノ原 180-2	1981.11.4 ～ 13	400		個人住宅	土坑、柱穴、縄文土器 等	東部Ⅲ
11	西ノ原 143-4	1983.5.23 ～ 27	198		宅地造成	土坑、縄文土器 等	東部Ⅴ
12	西ノ原 123-3	1983.7.6 ～ 8.11	330			縄文時代住居跡 2、土坑、縄文土器 等	東部Ⅴ
13	西ノ原 114-6	1983.9.13 ～ 10.18	350			縄文時代住居跡 1、集石、土坑、溝、縄文土器	東部Ⅴ
14	西ノ原 143	1983.10.24 ～ 11.7	240	180		縄文時代住居跡 2、土坑、集石、溝、縄文土器	東部Ⅴ
15	西ノ原 105-3	1984.6.1 ～ 30	311		共同住宅	縄文時代住居跡 1、炉跡土坑	県埋文
16	西ノ原 82-1	1984.8.10 ～ 9.5	1,688		共同住宅	溝状遺構	県埋文
17	西ノ原 135-3	1985.5.13 ～ 22	165		宅地造成	土坑、溝、縄文土器	東部Ⅵ
18	西ノ原 141-2	1985.7.26 ～ 8.5	569		宅地造成	縄文時代住居跡 1、土坑、ピット群、縄文土器 等	東部Ⅵ
19	西ノ原 135-1	1986.7.8 ～ 21	230		住宅建設	縄文時代住居跡 1、土坑、溝、縄文土器 等	東部Ⅶ
20	西ノ原 135-1	1986.11.20 ～ 1987.4	3,553		区画道路	縄文時代住居跡 12、竪穴状遺構、炉穴、屋外埋甕、落とし穴、土坑、ピット、溝	大調 6
21	西ノ原 95-1	1986.12.11 ～ 1987.1.9	447		住宅	竪穴状遺構、土坑、溝状遺構、縄文土器 等	東部Ⅶ
22	苗間 144-1	1987	480		資材置場	縄文時代住居跡 2、土坑、ピット、縄文土器	東部Ⅷ
23	西ノ原 169	1987.7 ～ 8	1,024		区画道路	土坑	大調 6
24		1987				縄文時代住居跡 2(未検出)	
25	西ノ原 169	1988.1 ～ 2	781		区画道路	遺構なし	大調 6
26	西ノ原 169	1988.3 ～ 4	1,649		区画道路	縄文時代住居跡 3、旧石器礫群、土坑、ピット、屋外埋甕	大調 6
27	西ノ原 79、80-2 他	1988.10	942		区画道路	縄文時代住居跡 5、炉穴、集石土坑、土坑、溝状遺構、縄文土器	大調 6
28	西ノ原 79、80-2 他	1988.11			区画道路	遺構なし	大調 6
29	西ノ原 79、80-2 他	1988.12			区画道路	旧石器時代小礫群	大調 6
30		1989.2 ～ 3			区画道路	土坑	大調 6
31	西ノ原 115-1	1989.11.4 ～ 11	84		下水管埋設	遺構なし	東部Ⅸ
32	西ノ原 122	1989.1.10 ～ 19	21		区画道路	縄文時代住居跡 1、屋外埋甕、縄文土器片	東部Ⅸ、大調 6
33	西ノ原 153-2	1989.1.10 ～ 19	21		区画道路	縄文時代住居跡 1、縄文土器	東部Ⅸ、大調 6
34	西ノ原 171	1989.1.24 ～ 31	21		区画道路	縄文時代住居跡 1	東部Ⅸ、大調 6
35		1989.2 ～ 3	4,000		区画道路	縄文時代住居跡 1、土坑	大調 6
36		1989.3 ～ 4			区画道路	縄文時代住居跡 3、落とし穴、土坑、溝、井戸	大調 6
37		1989.5 ～ 8	200		区画道路		
38	西ノ原 142-2	1989.8.29 ～ 9.12	74		個人住宅	縄文時代住居跡 1、土坑、縄文土器	東部Ⅹ
39	西ノ原 142-2	1989.8.29 ～ 9.12	94		個人住宅	土坑、溝、縄文土器	東部Ⅹ
40	苗間 151-3、126-7	1989.9.18 ～ 10.16、1989. 10.19 ～ 11.4	980	623	消防訓練塔	縄文時代住居跡 4、溝状遺構、土坑、ピット、縄文土器 等	東部Ⅹ
41	苗間 108-1、112	1989.9 ～ 10 1997.3.13・14	100,000	476	区画道路	縄文時代住居跡 4、土坑、溝、縄文土器	大調 6、町内Ⅵ
42	苗間字西 115-1、121-1	1991.12 ～ 1992.7	100,000	993	区画道路	縄文時代住居跡 5、屋外埋甕、土坑	大調 6
43	苗間 153-3	1990.6.26 ～ 7.9	272		個人住宅	縄文時代住居跡 4、土坑、縄文土器	東部Ⅺ
44	西ノ原 142-1 他	1990.6.18 ～ 7.31	3,224		区画道路	縄文時代住居跡 4、屋外埋甕、炉穴、集石土坑、落とし穴、土坑、溝、縄文土器 等	大調 6、県埋文
45	西ノ原 142-1 他	1990.6.18 ～ 7.31			区画道路		
46	苗間 83-2	1991.4.9・10	199		個人住宅	遺構なし、縄文土器	町内Ⅰ
47	苗間 136-2	1991.7.15 ～ 26	141		個人住宅	遺構なし、縄文土器 等	町内Ⅰ
48	苗間字西ノ原 109	1991.9 ～ 10	2,610		区画道路	縄文時代住居跡 5、土坑	大調 6、県埋文
49	苗間字西ノ原 109	1991.12 ～ 1992.1、1997.3.13・14			区画道路	縄文時代住居跡 12、集石土坑、土坑、溝、縄文土器	大調 6、県埋文、町内Ⅵ
50	苗間字西ノ原 109	1991.11 ～ 12			区画道路	縄文時代住居跡 5、屋外埋甕、土坑	大調 6、県埋文
51	苗間 153-2	(1991.2.4 ～ 12) 2005.4.11 ～ 25	1,190	(420) 600	モデルルーム	縄文時代住居跡 2、掘立柱跡 1、屋外炉、土坑、ピット、縄文土器 等	町内Ⅰ、大調 18
52	苗間 122-1	(1991.2.10 ～ 20) 1992.4.14 ～ 9.7、1993.3.10	984		ガソリンスタンド	縄文時代住居跡 14、屋外炉、集石土坑、土坑、ピット、縄文土器	大調 5
53	苗間 145-3	1992.4.7 ～ 13	493		土留め	縄文土器片	県埋文
54	西ノ原	1992.5.7 ～ 6.29	1,100		区画道路	縄文時代住居跡 1、集石土坑、溝状遺構、縄文土器	大調 6
55	西ノ原 135-5・9	1992.5.21 ～ 6.23	241		駐車場	縄文時代住居跡 2、炉穴、土坑、縄文土器 等	大調 5
56	西ノ原 133-2	1992.6.23 ～ 26	261.4		分譲住宅	集石土坑、土坑、ピット、溝、縄文土器	町内Ⅱ
57	西ノ原 143-3・4	1992.7.6 ～ 9.1	174		個人住宅	縄文時代住居跡 2、土坑、縄文土器	町内Ⅱ
58	西ノ原 137-2	1992.9.8	146		個人住宅	遺構なし、縄文土器	町内Ⅱ
59	西ノ原 135-1	1992.10.6 ～ 11.12	494.9		個人住宅	縄文時代住居跡 3、炉穴、屋外埋甕、土坑、ピット、縄文土器	町内Ⅱ
60	西ノ原 136-2	1992.12.10 ～ 25	253		個人住宅	縄文時代住居跡 2、炉穴、落とし穴、土坑、ピット、縄文土器	町内Ⅱ
61	西ノ原 130-1 他	1993.1.12 ～ 2.15	1,140		区画整理	竪穴状遺構、炉穴、落とし穴、土坑	大調 6
62							
63	西ノ原 162-3、169	1993.4.13 ～ 22	147		共同住宅	ピット群、遺物なし	町内Ⅲ
64	西ノ原 94-1	1993.4.27・28	327.05		共同住宅	溝、遺物なし	町内Ⅲ
65	西ノ原 145-1	1993.6.7 ～ 11	615		共同住宅	古代住居跡 1、土坑、土師器 等	大調 6、町内Ⅲ
66	西ノ原 133-2	1993.6.30 ～ 7.19	474		共同住宅	溝、縄文土器	町内Ⅲ
67	西ノ原 159-2	1994.1.20・21	308.05		倉庫	土坑、ピット、溝、縄文土器	町内Ⅲ
68	西ノ原 91-2・6	1994.3.22 ～ 25	285		店舗併用住宅	遺構遺物なし	町内Ⅲ
69	苗間 106	(1994.4.8 ～ 27) 1994.5.16 ～ 10.24	1,821		店舗	縄文時代住居跡 27、土坑、ピット、溝、縄文土器 等	大調 13、町内Ⅳ
70	苗間 136	1994.5.9 ～ 5.17	551		店舗	縄文時代住居跡 3、土坑、ピット、縄文土器	大調 6
71	苗間 112	1994.6.20 ～ 7.5	309		個人住宅	落とし穴、遺物なし	町内Ⅳ
72	苗間 112-109	1994.11.2 ～ 28	321		個人住宅	縄文時代住居跡 3、土坑、溝、縄文土器	町内Ⅳ
73	苗間 92-1	1995.3.27 ～ 29	274		個人住宅	遺構遺物なし	町内Ⅳ
74	苗間 163	(1995.4.21 ～ 5.13)	169		事務所	ピット、縄文土器 等	町内Ⅴ
75	苗間 122	(1995.5.16 ～ 23) 1995.6.2 ～ 9.23	379		事務所	縄文時代住居跡 17、集石土坑、土坑、ピット、溝、縄文土器 等	大調 13
76	苗間 151-2 他	(1995.4.20 ～ 27)	468		倉庫	ピット、溝、縄文土器	町内Ⅴ
77	苗間 143-2	(1995.5.24・25) 1995.6.1 ～ 7.28	347		店舗	縄文時代住居跡 1、土坑、溝、ピット、縄文土器 等	大調 13
78	苗間 22-3-2	(1995.6.28 ～ 8.8)	45		貯水槽	縄文時代住居跡 3、縄文土器 等	町内Ⅴ
79	苗間 162-2 他	(1995.6.29 ～ 7.24)	135		個人住宅	遺構遺物なし	町内Ⅴ
80	苗間 83-2	(1995.7.19 ～ 25)	319		駐車場	遺構遺物なし	町内Ⅴ
81	苗間 169	(1995.8.2 ～ 7)	223		店舗併用住宅	溝、遺物なし	町内Ⅴ
82	苗間 168	(1995.8.1 ～ 5)	249		事務所	遺構遺物なし	町内Ⅴ
83	苗間 136-2	1995.8.23 ～ 10.21	190.06		個人住宅	縄文時代住居跡 2、集石土坑、土坑、ピット、縄文土器 等	町内Ⅴ
84	苗間 108、109	(1995.11.30 ～ 12.9)	135		個人住宅	土坑、ピット、遺物なし	町内Ⅴ
85	苗間 181-3	(1996.1.9 ～ 26)	654		パチンコ店	遺構遺物なし	町内Ⅴ
86	苗間 113-2、93-1	(1996.4.19) 1996.4.22 ～ 5.15	698		個人住宅	土坑、ピット、溝、縄文土器 等	町内Ⅵ
87	苗間 182-1	(1996.6.14 ～ 17)	344		学習塾	溝、遺物なし	町内Ⅵ
88	苗間西ノ原 182-3、189-2、202-1	(1996.7.16 ～ 22) 1996.8.7 ～ 30	745		共同住宅	落とし穴、ピット、柵列、銭	大調 13、町内Ⅵ
88	苗間西ノ原 182-3、189-2、202-1	(1996.7.16 ～ 22) 1996.8.7 ～ 30	745		共同住宅	落とし穴、ピット、柵列、銭	大調 13、町内Ⅵ
89	苗間西ノ原 112	(1996.7.17・18)	143.98		個人住宅	溝、縄文土器	町内Ⅵ
90	苗間西ノ原 142-2	(1996.7.31) 1996.8.7 ～ 30	177.28		個人住宅	縄文時代住居跡 3、炉穴、土坑、ピット、縄文土器	町内Ⅵ

地区 地点	所在地	調査期間 (　)は試掘調査	開発 面積 (㎡)	調査 面積 (試掘)	調査原因	確認された 遺構と遺物	所収 報告書
91	苗間 169	(1996.8.1 ～ 5)	477		店舗	遺構遺物なし	町内Ⅵ
92	苗間 192-2	(1996.10.23 ～ 28)	684		店舗併用住宅	遺構遺物なし	町内Ⅵ
93	苗間 315	(1996.10.22・23)	141		分譲住宅	遺構なし、縄文土器	町内Ⅵ
94	苗間 145-2	(1996.11.11・12)	165.29	50	個人住宅	遺構なし、縄文土器	町内Ⅵ
95	苗間 154	(1996.11.14 ～ 19)	283		商業ビル	炉、縄文土器	町内Ⅵ
96	苗間 441	(1996.12.17 ～ 20) 1997.1.9 ～ 14	333		個人住宅	縄文時代住居跡 2、炉穴、土坑、ピット、縄文土器 等	町内Ⅵ
97	苗間 97-2	(1996.12.19・20)	141.92		分譲住宅	遺構遺物なし	町内Ⅵ
98	苗間 171-2	(1997.1.6)	206		個人住宅	盛土保存	町内Ⅵ
99	苗間 97-1	(1997.1.20 ～ 24)	396.69		個人住宅	落とし穴、土坑、ピット、溝、縄文土器	町内Ⅵ
100	苗間 150-2	(1997.4.5 ～ 12)	447		共同住宅	土坑、ピット、縄文土器	町内Ⅶ
101	苗間 183-1・3	(1997.7.22 ～ 25)	187		モデルハウス	遺構遺物なし	町内Ⅶ
102	大井苗間 22 街区 5 画地	(1997.10.9 ～ 20)	179		個人住宅	ピット、溝、縄文土器	町内Ⅶ
103							
104	苗間 22 街区 2 画地	(1997.10.6 ～ 8)	223		個人住宅	焼土、溝、縄文土器	町内Ⅶ
105	苗間 125-2、126-2	(1998.1.13 ～ 2.12)	565		共同住宅	縄文時代住居跡 1、炉穴、溝、縄文土器 等	町内Ⅶ
106	苗間 112	(1998.1.28 ～ 2.4)	135.58		個人住宅	ピット、縄文土器	町内Ⅶ
107	苗間 112	(1998.2.9 ～ 13)	135.56		個人住宅	ピット、溝、縄文土器 等	町内Ⅶ
108	苗 間 91-1、92-1、99-1 各一部	(1998.3.3) 1998.3.4 ～ 17	413		個人住宅	縄文時代住居跡 1、土坑、ピット、溝、土器 等	町内Ⅶ
109	苗間 83-4、429	(1998.3.11 ～ 18)	429		店舗併用 共同住宅	遺構遺物なし	町内Ⅶ
110	苗間 146-2	(1998.4.20 ～ 5.28)	385		郵便局	落とし穴、集石、礫群、縄文土器	町内Ⅷ
111	大井苗間 23 街区 9 画地	(1998.10.23 ～ 27)	354		個人住宅	ピット、溝、道跡、遺物なし	町内Ⅷ
112	大井苗間 23 街区 9 画地	(1999.2.9)	144		個人住宅	溝、遺物なし	町内Ⅷ
113	大井苗間 57・58 街区	(1999.4.5 ～ 12.14) 2000.1.6 ～ 3.13	2,817	2,000	店舗	旧石器時代ユニット、縄文時代住居跡 6、炉穴、土坑、ピット、溝、縄文土器	大調 17、町内Ⅸ
114	西ノ原 194-1	(1999.8.4 ～ 12)	676	(272)	駐車場	落とし穴、ピット、遺物なし	町内Ⅸ
115	大井苗間 52 街区 3 画地	(1999.9.27 ～ 29)	135	31	事務所	遺構遺物なし	町内Ⅸ
116	大井苗間 59 街区 11 画地	(1999.12.2・3)	119	42	個人住宅	遺構遺物なし	町内Ⅸ
117	大井苗間 199-2	(1999.12.2 ～ 4)	131	42	店舗併用住宅	遺構遺物なし	町内Ⅸ
118	大井苗間 59 街区 45 画地	(2000.4.3 ～ 12)	548	214	店舗併用住宅	遺構なし、縄文土器 等	町内Ⅹ
119	大井苗間 18 街区 4 画地	2000.11.15 ～ 12.6	221	221	倉庫	縄文時代住居跡 3、土坑、溝、縄文土器	町内Ⅹ
120	大井苗間 24 街区 4 画地	(2001.5.7 ～ 15)	1,120	466	共同住宅	遺構なし、縄文土器	町内Ⅺ
121	旭 1-15	2002.2.7 ～ 3.8	803	764	個人住宅	縄文時代住居跡 2、土坑、ピット、溝、縄文土器 等	町内Ⅺ
122	大井苗間 14 街区 8 画地	(2002.3.9 ～ 19) 2002.6.21 ～ 7.22	593	(221) 63.5	共同住宅	縄文時代住居跡 3、ピット、溝、縄文土器 等	大調 6、町内Ⅺ、町内Ⅻ
123	大井苗間 19 街区 10 画地	(2002.9.3 ～ 9)	252	(64.5)	共同住宅	根切り溝	町内Ⅻ
124	苗間 137-2	(2002.10.2 ～ 6) 2002.10.8 ～ 11	524	(205) 20.5	個人住宅	縄文時代住居跡 1、土坑、溝、縄文土器 等	町内Ⅻ
125	旭 1-8-2	(2003.2.14 ～ 19)	182	(78)	個人住宅	ピット、遺物なし	町内Ⅻ
126	旭 1-13-6・7	(2004.2.23 ～ 25)	153	(44.7)	個人住宅	遺構遺物なし	町内Ⅻ
127	旭 1-13-4・19	(2004.5.24・25)	327	(47)	個人住宅	土坑、縄文土器	町内Ⅻ
128	旭 1-16-9・10	(2004.6.14 ～ 7.15) 2004.7.16 ～ 9.29	614	(184.5) 489.5	店舗	縄文時代住居跡 17、土坑、ピット、縄文土器	町内Ⅻ、大調 18
129	旭 1-11-5	(2004.9.30 ～ 10.7)	235	(70)	共同住宅	縄文時代住居跡 1、縄文土器	町内Ⅻ
130	旭 1-5-8	(2004.10.14・15)	116	(26)	個人住宅	遺構遺物なし	町内Ⅻ
131	旭 1-5-13	(2004.10.22)	97	(26)	店舗併用住宅	遺構遺物なし	町内Ⅻ
132	苗間 1-15-17	(2005.7.28 ～ 8.2) 2005.8.3 ～ 11	272	100	店舗併用 共同住宅	縄文時代住居跡 3、炉穴、土坑、縄文土器 等	大調 6・18、市内 2
133	旭 1-8-8	(2005.10.11・12)	176	(48)	個人住宅	遺構遺物なし	市内 2
134	旭 1-13-8	(2005.10.6 ～ 11)	348	(43)	店舗	道跡、遺物なし	市内 2
135	うれし野 1-5-2	(2006.3.14. ～ 4.28) 2006.5.29 ～ 6.19	3,342	(1,147) 1,160	店舗併用 共同住宅	縄文時代住居跡 1、炉穴、縄文土器 等	市内 3
		(2007.11.5 ～ 12)	257	(25)	駐車場	土坑、ピット	市内 4
136	苗間 1-13-22・23	(2006.6.23)	629.66	(44)	学生寮	遺構遺物なし	市内 3
137	うれし野 2-17-5・6・7	(2006.8.3 ～ 7)	861	(208)	共同住宅	遺構遺物なし	市内 3
138	旭 1-4-7・8	(2006.11.21・22)	247.33	(40)	個人住宅	遺構遺物なし	市内 3
139	うれし野 1-4-4・5・6	(2007.2.1)	474	(16)	共同住宅	遺構遺物なし	市内 3

地区 地点	所在地	調査期間 (　)は試掘調査	開発 面積 (㎡)	調査 面積 (試掘)	調査原因	確認された 遺構と遺物	所収 報告書
140	旭 1-16-14 の一部	(2007.5.7 ～ 10)	487	(208)	学習塾	遺構遺物なし	市内 4
141	市沢 1-8-8	(2007.5.8・9)	735	(81)	店舗兼事務所	土坑、ピット	市内 4
142	うれし野 1-6-2	(2008.4.4 ～ 7)	296.01	(63)	寄宿舎	遺構遺物なし	市内 6
143	うれし野 2-17-3	(2009.3.23)	287	(47)	寄宿舎	遺構遺物なし	市内 6
144	旭 1-8-11	(2009.9.18 ～ 25)	155	(74)	店舗兼事務所	溝、石器 等	市内 8
145	うれし野 2-4-1・10	(2010.7.23 ～ 8.25)	4,938	(564)	農協事務所・農産物直売所	溝、縄文土器	市内 10
146	旭 1-16-3	(2010.10.8 ～ 13)	246	(86)	分譲住宅	溝、陶磁器	市内 10
147	旭 1-16-8 の一部	(2010.12.8 ～ 16) 2010.12.17 ～ 1.19	135		個人住宅	縄文時代住居跡 1、集石土坑、ピット、溝、縄文土器	市内 10
148	旭 1-16-8 の一部	(2010.12.8 ～ 16) 2011.1.19 ～ 2.1	211		個人住宅	縄文時代住居跡 1、土坑、ピット、溝、縄文土器	市内 10
149	うれし野 2-4-7	(2011.2.7 ～ 10)	625	(114)	農協事務所・農産物直売所	溝、遺物なし	市内 10
150	旭一丁目 14-5・6	(2012.1.23 ～ 2.16) 2012.2.20 ～ 3.4	108		宅地造成	縄文時代住居跡 12、炉穴、集石土坑、ピット、縄文土器 等	市内 11・14
	旭 1-14-18	2013.1.23 ～ 2.14	111	77	個人住宅	縄文時代住居跡 5、縄文土器 等	市内 15
	旭 1-14-19	2012.6.26・27	107	20	個人住宅	縄文時代住居跡 1、縄文土器 等	市内 15
	旭 1-14-17	2013.7.1 ～ 26	111	69	個人住宅	縄文時代住居跡 3、土坑、ピット、縄文土器 等	市内 18
151	旭 1-14-1	(2012.1.25 ～ 27)	467	(201.3)	分譲住宅	溝、縄文土器	市内 14
152	苗間 1-12-3	(2012.1.27 ～ 31)	324	(16)	分譲住宅	遺構遺物なし	市内 14
153	旭 1-6-2 の一部、1-6-4・5	(2012.5.28 ～ 30)	951	(180)	共同住宅	溝、縄文土器 等	市内 15
154	苗間 1-2-2・3	(2011.10.24 ～ 28)	846	(292)	共同住宅	遺構なし、縄文土器	市内 14
155	旭 1-13-3・25	(2013.10.21・22)	234	(60.1)	分譲住宅	遺構遺物なし	市内 18
156	旭 1-17-1・2	(2013.11.26 ～ 12.9)	2,345.1	(867)	工場併設店舗	縄文時代住居跡 1、ピット、溝、縄文土器	市内 18
157	旭 1-6-3	(2013.12.9 ～ 17)	602	(220.5)	分譲住宅	溝、縄文土器	市内 18
158	旭 1-15-6 の一部	(2014.1.7 ～ 14) 2016.3.23 ～ 7.18	755	(249) 700	共同住宅	縄文時代住居跡 13、掘り込み遺構、土坑、ピット、縄文土器 等	市内 18・23
159	旭 1-15-8	(2014.1.30 ～ 2.10) 2014.3.4 ～ 25、4.2 ～ 5.9	869	(335) 455	共同住宅	縄文時代住居跡 8、炉穴、縄文土器 等	市内 16・18
160	旭 1-14-2	(2014.4.15・16)	309	(106.9)	駐車場	土坑、縄文土器	市内 20
161	旭 1-15-18	(2014.6.17) 2014.6.18 ～ 23	442	(114.75) 62.75	個人住宅	縄文時代住居跡 2、溝、縄文土器 等	市内 20
162	苗間 1-13-2 ～ 5・11	(2014.8.29 ～ 9.4)	2,526	(382.5)	葬祭場	溝、縄文土器	市内 20
163	旭 1-7-10	(2015.2.2・3)	148.98	(42.75)	個人住宅	遺構なし、縄文土器	市内 20
164	苗間 1-15-8	(2015.5.11 ～ 18)	647	(245)	駐車場	縄文時代住居跡 1、屋外埋甕、土坑、ピット、縄文土器 等	市内 22
165	旭 1-12-1	(2015.9.30)	160	(25.8)	個人住宅	遺構遺物なし	市内 22
166	旭 1-13-1・17・18	(2015.11.5)	212.01	(15.7)	分譲住宅	遺構遺物なし	市内 22
167	旭 1-8-1	(2015.11.9・10)	349	(83.67)	駐車場	遺構なし、縄文土器 等	市内 22
168	旭 1-13-20・23	(2013.10.21)	76.8	(21)	店舗	溝状遺構、縄文土器 (旧 154 地点を重複により名称変更)	市内 18
169	苗間 1-12-5	(2016.9.14)	173	(21.18)	共同住宅	遺構遺物なし	市内 24
170	苗間 1-14-2・3	(2016.10.18・19)	468.36	(116.15)	分譲住宅	ピット、溝、石器	市内 24
171	苗間 1-4・5	(2016.11.28)	102.32	(20.9)	個人住宅	遺構遺物なし	市内 24
172	旭 1-7-12	(2017.2.16・17)	147.45	(34.53)	分譲住宅	ピット、縄文土器	市内 24
173	苗間 1-15・3	(2017.4.14) 2017.4.17 ～ 21	113.82	(32.05) 14.19	個人住宅	縄文時代住居跡 1、ピット、縄文土器	市内 24
174	旭 1-14-12・13	(2017.5.24)	229.08	(46.65)	共同住宅	縄文時代住居跡 5、礫集中、溝、縄文土器 等	市内 24
175	旭 1-15-7	(2018.4.9) 2018.4.10 ～ 20	121	(34.35) 28.49	個人住宅	縄文時代住居跡 2、溝、縄文土器	市内 25
176	旭 1-11-2	(2018.7.3)	238.11	(40.93)	分譲住宅	遺構遺物なし	市内 25
177	苗間 1-2-6	(2018.12.7)	620	(87.98)	診療所兼住宅	遺構なし、縄文土器	市内 25
178	苗間 1-14-5	(2019.2.4)	418.84	(37.2)	共同住宅	遺構遺物なし	市内 25

第113図　西ノ原遺跡縄文時代遺構分布図(1/2,000)

第 59 表　西ノ原遺跡住居跡一覧表

住居番号	地点	調査率	平面形（ ）は推定	規模（cm）	炉 地床	炉 埋設	炉 石囲	埋甕	拡張	周溝	時期	備考	所収報告書
1	1	完掘	楕円形	456 × 398	○				○	○	E Ⅱ古	床直上土器	町史資Ⅰ
2	2	完掘	不整円形	400 × 400	○	△					阿Ⅱa		大調 6
3	5・48	完掘	楕円形	634 × 530	○	△		△			勝Ⅱ新		大調 6、大史 7
4	12・150	75%	隅丸長方形	540 × 485			○		○	○	E Ⅰ新	139・213 住と重複	東部Ⅴ、市内 18
5	13・69	60%	隅丸方形	不明	○						E Ⅰ新	111 住に切られる	東部Ⅴ、大調 13
6	14	70%	（隅丸方形）	520			○	○	○		E Ⅱ新		東部Ⅴ
7	14	80%	（隅丸方形）	440 × 430			○				E Ⅱ新		東部Ⅴ
8	15	攪乱	不明	不明			○				E Ⅱ	石皿	県埋文
9	18	90%	（不整円形）	(540)	○						E Ⅱ		東部Ⅵ
10	19・59	95%	楕円形	460 × 415	○				建		勝Ⅲ古		東部Ⅶ、町内Ⅱ
11	20	完掘	楕円形	550 × 498	○	○			建		勝Ⅲ古	土製品、浮子	大調 6
12	20	30%	（円形）	(440) ×―	未掘						E Ⅰ新古	下層土器	大調 6
13	20	完掘	円形	630 × 660	○					△	E Ⅱ古	炉西埋設	大調 6
14	20	完掘	楕円形	(430 × 350)	○	○					勝Ⅲ古		大調 6
15	20	80%	（円形）	548	○	○			○	○	E Ⅰ古		大調 6
16	20・59	完掘	楕円形	548 × 516	○	○			建	○	E Ⅰ古	耳栓	大調 6、町内Ⅱ
17	20	完掘	楕円形	670 × 590	○	○			②	○	勝Ⅲ新	復元 26 個体	大調 6
18	20	完掘	楕円形	420 × 353	○				○	○	（勝Ⅲ）	22 住と重複	大調 6
19	20	完掘	不整円形	515 × 488	○						E Ⅱ中		大調 6
20	20	完掘	楕円形	500 × 451	○	○			○		勝Ⅲ新	有効鍔付完形、復元 15 個体	大調 6
21	20	完掘	円形	615 × 635	○			○	建		E Ⅱ新		大調 6
22	20	完掘	楕円形	550 × 450	○	○				○	勝Ⅲ新	18 住と重複、床直上土器、人面	大調 6
23	21	完掘	楕円形	425 × 370							勝Ⅱ古	竪穴遺構か	東部Ⅶ
24	22	85%	（円形）	不明	○	○					勝Ⅲ古		東部Ⅷ
25	22	85%	楕円形	不明	○			○			E Ⅱ新	床削平	東部Ⅷ
26	26	30%	（円形）	―× 530	○			○			E Ⅱ古	下層土器	大調 6
27	26	完掘	隅丸長方形	572 × 468	○					○	E Ⅰ新中	据付台石、耳栓	大調 6
28	26	65%	（円形）	(750)	○	○		○			E Ⅱ中	下層土器	大調 6
29	27	完掘	楕円形	460 × 420	○		○				E Ⅰ		大調 6
30	27・69	完掘	楕円形	(460) × 403	○				○	○	E Ⅰ	121 住と重複	大調 6、13
31	27・69	半掘	（円形）	（―× 536）	○						E Ⅰ	122 住と重複	大調 6
32	27	50%	隅丸台形	(380) × 350	○	○					勝Ⅱ新		大調 6
33	27・122	完掘	円形	350 × 350	○	○					E Ⅰ新中		大調 6、町内Ⅻ
34	32	完掘	（隅丸方形）	580 × 490	○				建		E Ⅱ新		大調 6、東部Ⅸ
35	33	完掘	隅丸方形	605 × 550			○				E Ⅱ古	耳栓、石皿	大調 6、東部Ⅸ
36	34	完掘	隅丸方形	560 × 530			○			△	E Ⅰ新中	据付台石、耳栓	大調 6、東部Ⅸ
37	35	完掘	楕円形	440 × 390	○			△			阿Ⅱ新	柱穴内土器	大調 6
38	36	90%	隅丸方形	530 × 524	○						E Ⅱ新	据付台石、耳栓	大調 6
39	36	70%	楕円形	(610) ×―			○				E Ⅰ新		大調 6
40	36	95%	楕円形	420 × 390		○				○	E Ⅰ古		大調 6
41	38・57	20%	（楕円形）	不明	未掘					○	E Ⅰ新		町内Ⅱ、東部Ⅹ
42	41	60%	楕円形	(600) × 520	○					○	E Ⅰ新		大調 6
43	41・72	完掘	円形	506 × 470	不明				△	○		床撹乱	大調 6、町内Ⅵ
44	41	50%	楕円形	(545)	○						E Ⅰ新		大調 6
45	41・129	完掘	楕円形	560 × 530		○			建	○	勝Ⅲ新	耳栓	大調 6・町内Ⅻ
46	40	完掘	楕円形	600 × 496	○						E Ⅱ	据付台石、耳栓	東部Ⅹ
47	40	98%	不整円形	(460 × 450)			○				E Ⅱ新	有孔鍔付、硬玉大珠	東部Ⅹ
48	40・43	完掘	円形	550 × 560	○	○					E Ⅱ新	据付台石、耳栓	東部Ⅹ・Ⅺ
49	40・43	75%	隅丸方形	―× 740	○						E Ⅱ		東部Ⅹ・Ⅺ
50	44・161	完掘	隅丸長方形	572 × 490			○			○	E Ⅱ	据付台石、耳栓	大調 6、市内 20
51	132	80%	（円形）	650 ～ 680	③	○			○		E Ⅱ		大調 6・18
52	132	75%	（円形）	454	○	○					E Ⅰ新		大調 6・18
53	44・70	90%	（楕円形）	690 × 560		○	○		建	○	勝Ⅲ古	朱塗多い	大調 6
54	43	完掘	円形	335 × 355	○						E Ⅱ新	55 住と重複	東部Ⅺ
55	43	攪乱	不明	690 ×―	○						E Ⅲ	54 住と重複	東部Ⅺ
56	42	完掘	楕円形	(600 × 490)	○						E Ⅰ新	床直上土器	大調 6
57	42	35%	（円形）	―× (500)	未掘						E Ⅰ新		大調 6
58	42	完掘	円形	550 × 560	○			△			E Ⅰ新	柱穴内土器	大調 6
59	42	40%	円形	―× 740			○	○			E Ⅱ新	58 住と重複	大調 6
60	48	85%	楕円形	590 × 540	○	○			○	○	勝末～E	復元 27 個体、石器 36	大調 6
61	48・158	完掘	楕円形	490 × 440		○		○	○	○	勝Ⅲ新		大調 6、市 18・23
62	48・158	完掘	楕円形	475 × 410	○					○	E Ⅰ中～新		大調 6、市 18・23
63	48・69	完掘	楕円形	555 × 492	○				②	○	E Ⅰ新古	異系土器	大調 6、13
64	50	完掘	不整円形	418 × 420	○						E Ⅱ新		大調 6
65	49	完掘	円形	550 × 565	○				③	○	E Ⅱ	77 住と重複、耳栓、連弧文、復元 33 個体	大調 6
66	49	90%	楕円形	670 × 570	○		○	○	建③		E Ⅱ	耳栓、土錘、75・77 住と重複	大調 6
67	50・124	75%	楕円形	670 × 620	○	○	○	○	○建	○	E Ⅰ新古	土錘	大調 6、町内Ⅻ
68	49・121・175	完掘	円形	650 × 640	○			○	○		E Ⅱ中		大調 6、町内Ⅺ、市内 25
69	49	80%	楕円形	628	○		○				E Ⅱ古	曽利式多い	大調 6
70	49	40%	（円形）	468 ×―	未掘						E Ⅰ新中	床直上土器	大調 6
71	49	20%	円形	420 ×―	未掘						勝Ⅲ古	石皿	大調 6
72	49	15%	（隅丸方形）	不明	未掘				○	○	勝Ⅲ古		大調 6
73	49	80%	（円形）	570 × 440	○						E Ⅱ新	大磨製石斧、器台、74 住と重複	大調 6
74	49・52	95%	隅丸方形	520 × 410	未掘				○	○	E Ⅰ新中	曽利系、73・98 住と重複	大調 5・6
75	49・128・148	完掘	円形	(560 ～ 600)		○				○	勝Ⅲ古	ミニ土器、66・77 住と重複	大調 6・18、市内 10
76	49・121	完掘	円形	512 × 545		○	○			○	E Ⅱ新		大調 6、町内Ⅵ・Ⅺ
77	49・128	90%	楕円形	(550 × 550)	○			○		○	E Ⅰ新	石棒、石皿、75・65・66 住と重複	大調 6、18
78	96	完掘	楕円形	402 × 352	○						勝Ⅲ	95 住と重複	町内Ⅵ
79	42	55%	（楕円形）	―× 570	○				③	○	勝Ⅲ新	床直上土器	大調 6
80	83	80%	（円形）	490 × 460	○				○		E Ⅱ新		大調 6、町内Ⅴ
81	50・60	65%	（円形）	588 × 414	○			○			E Ⅱ	曽利系	大調 6、町内Ⅱ
82	50・83	75%	円形	(560 ～ 570)	○			○			E Ⅱ中		大調 6、町内Ⅴ
83	50	45%	円形	364 ×―	未掘						E Ⅱ		大調 6
84	52	完掘	隅丸方形	732 × 674	○			○	○	○	E Ⅰ新中	85・89 住と重複、小形磨製石斧	大調 5
85	52	完掘	楕円形	602 × 598	○	△		○			E Ⅱ新	84 住と重複	大調 5
86	52	完掘	隅丸方形	520 × 490	○			○	○	○	E Ⅰ新新	97 住と重複	大調 5
87	52	完掘	円形	354 × 374	○						E Ⅱ	88 住と重複	大調 5
88	52	85%	隅丸方形	640 × 559		○	○	○	○	○	E Ⅰ古	87 住と重複、復原 31 個体	大調 5
89	52	完掘	円形	420 ～ 400	○						E Ⅰ新	84 住と重複	大調 5
90	54	70%	楕円形	―× 560	○					○	勝Ⅲ		大調 6
91	57・90	80%	楕円形	780 × 680	○	○			○	○	勝Ⅲ新		町内Ⅱ・Ⅵ
92	55	完掘	楕円形	508 × 422	○	○			○	○	勝Ⅲ		大調 5
93	55	完掘	（円形）	580 × 490	○			○	建		E Ⅱ		大調 5
94	52	70%	不明	不明	○	○		○			E Ⅱ	床撹乱	大調 5
95	96	完掘	（円形）	(600 × 500)	○						E Ⅱ	78 住と重複	町内Ⅵ
96	52	完掘	楕円形	(560 ～ 580)	○						E Ⅱ	小形磨製石斧	大調 5
97	52	完掘	楕円形	602 × 550	○						E Ⅱ古	86 住と重複	大調 5
98	52	60%	楕円形	470 × (234)		○					勝Ⅲ古	74 住と重複	大調 5
99	52・75	完掘	（不整円形）	―× 402	○						E Ⅱ新	100 住と重複	大調 5・13、町内Ⅴ
100	52	完掘	円形	614 × 644		○	○	○伏	○	○	E Ⅱ新	99 住と重複、小形磨製石斧	大調 5
101	59	完掘	円形	414 × 420	○	○			○		E Ⅰ新中		町内Ⅱ
102	60	40%	円形	―× 376	未掘						E Ⅱ		町内Ⅱ
103	52	55%	楕円形	―× 362	○	○					阿Ⅰb古		大調 5
104	69	90%	（楕円形）	(524 × 449)		○			○	○	勝Ⅲ		大調 13
105	69	完掘	不整円形	405 × 420	○	○			○		E Ⅰ新		大調 13

住居番号	地点	調査率	平面形（ ）は推定	規模（cm）	炉 地床	炉 埋設	炉 石囲	埋甕	拡張	周溝	時期	備考	所収報告書
106	69	完掘	円形	560 × 520	②			○	○	○	E Ⅰ新中		大調 13
107	69	完掘	円形	520 × 510	②	○			○		勝Ⅱ新		大調 13
108	69	完掘	楕円形	385 × 340		○				○	勝Ⅲ新		大調 13
109	69	完掘	楕円形	560 × 494	○					○	E Ⅰ新		大調 13
110	69	完掘	不整円形	418 × 370	○								大調 13
111	69	30%	楕円形	404 ×－	未掘					○	E	5･125 住と重複	大調 13
112	69	完掘	楕円形	600 × 574		○		○	○	○	E Ⅰ新中	124・126 住と重複	大調 13
113	69	完掘	隅丸方形	520 × 496	○	○		○		○	E Ⅰ新古	120 住と重複	大調 13
114	69	完掘	円形	480 × 480		○			○	○	勝Ⅲ古		大調 13
115	69	完掘	隅丸方形	460 × 340	○						勝Ⅲ		大調 13
116	69	完掘	楕円形	540 × 498		○	○			○	E Ⅰ古（中峠）	添石埋甕炉	大調 13
117	70	70%	（楕円形）	－× 440	○	○					勝Ⅲ新		大調 6
118	70	完掘	楕円形	520 × 374	○	○			建		E Ⅱ新		大調 6
119	69	90%	楕円形	580 × 480			○		○	○	E Ⅱ・曽Ⅲ		大調 13
120	69	完掘	（円形）	392 × 400	○						E Ⅰ新古	113･124 住と重複	大調 13
121	69	完掘	（楕円形）	380 × 390	○	○					E Ⅱ	30 住と重複	大調 13
122	69	完掘	不整円形	(618) × 608	②			○	○	○	E Ⅱ	31 住と重複	大調 13
123	欠												大調 13
124	69	完掘	（楕円形）	418 × 420	○	○					勝Ⅲ新	112･120・126 住と重複	大調 13
125	69	10%	不明	不明	未掘					○	E	111 住と重複	大調 13
126	69	完掘	（円形）	550 × 565	○				○	○	E Ⅰ新	112･124 住と重複	大調 13
127	69	10%	不明	645 ×－	未掘						E		大調 13
128	69	完掘	楕円形	(610 × 580)	○						E	削平	大調 13
129	69	完掘	楕円形	618 ×－	○						E		大調 13
130	72	完掘	円形	542 × 465	○	○					勝Ⅲ古		町内Ⅳ
131	72	完掘	楕円形	560 × 442	○	○				○	勝Ⅲ新		町内Ⅳ
132	77	完掘	円形	590 × 580	②			○	○		E Ⅲ		大調 13
133	75	60%	楕円形	－× 460	○			○	○		E Ⅲ	138 住と重複	大調 13
134	75	完掘	隅丸方形	630 × 530	②				○		E Ⅰ新	141 住と重複	大調 13
135	75	完掘	隅丸方形	540 × 460	○	○				○	勝Ⅲ		大調 13
136	75	70%	楕円形	－× 640	②				○				大調 13
137	75・174	20%	不明	433 ×－	○				○	○	E	138･140 住と重複	大調 13、市内 24
138	75	完掘	隅丸方形	450 × 360	○	○			○		勝Ⅲ	133･139・140 住と重複	大調 13
139	75・150・174	90%	隅丸長方形	(600 × 550)	○		○				E Ⅱ～Ⅲ	4・138・213 住と重複	大調 13、市内 18・24
140	75・174	40%	楕円形	(762) ×－	○							137･138 住と重複	大調 13、市内 24
141	75	55%	不明	528 ×－	○							134 住と重複	大調 13
142	75	50%	不明	不明	○							143･144 住と重複	大調 13
143	75	完掘	楕円形	479 × 421			○		建	○		142･151 住と重複	大調 13
144	75・150	90%	(隅丸長方形)	595 × 430	○	○			○		勝Ⅲ新	142 住と重複	大調 13、市内 14
145	75	60%	不明	－× 325	○							149･151 住と重複	大調 13
146	78・132	85%	楕円形	580 × 460	○		○		○		E Ⅱ	炉穴群と重複	町内Ⅴ、大調 18
147	78・173	完掘	（楕円形）	(500)		○				○	E Ⅱ	148 住と重複	町内Ⅴ、市内 24
148	78	完掘	楕円形	(700)	○						E Ⅱ	147 住と重複	町内Ⅴ
149	75	90%	（楕円形）	430 × 336		○	○				E Ⅱ新	145･150 住と重複	大調 13
150	75	80%	（円形）	581 ×－			○					149･151 住と重複	大調 13
151	75	95%	（楕円形）	664 × (642)		○	○				E Ⅱ古	143･145・150 住と重複	大調 13
152	90	95%	円形	380 × 370	○						E Ⅱ	153 住と重複	町内Ⅵ
153	90	20%	（円形）	(600)	○						E Ⅱ新	152 住と重複	町内Ⅵ
154	105	完掘	不明	(400)	○	○			○		勝Ⅲ	床面まで削平	町内Ⅶ
155	108・122	完掘	隅丸方形	610 × 540	②	②			②建	○	勝Ⅲ新･E Ⅰ新式古		町内Ⅶ・Ⅻ
156	113	完掘	円形	462 × 365		○					E Ⅱ新		大調 17
157	113	75%	楕円形	594 × 392	○						E Ⅱ		大調 17
158	113	完掘	不定形	669 × 455			○				E Ⅱ新		大調 17
159	113	完掘	円形	434 × 415	?						E Ⅱ～Ⅲ		大調 17
160	113	完掘	円形	547 × 490			?				E Ⅱ新		大調 17
161	113	完掘	楕円形	512 × 440		○	?	②			E Ⅱ中～新		大調 17
162	119	75%	隅丸方形	700 × (460)	③				②	○	勝Ⅲ		大調 17、町内Ⅹ
163	119	完掘	楕円形	490 × 470		○		○	○	○	E Ⅰ新古	脂肪酸分析	大調 17、町内Ⅹ
164	119	20%	隅丸方形	(250 × 188)	未掘					○	E Ⅰ新		大調 17、町内Ⅹ
165	122	完掘	卵形	498 × 488	②	○			建	○	勝Ⅲ･E Ⅰ新式古	他地域系多い	町内Ⅻ
166	128	10%	不明	不明	○						E Ⅱ中	167 住と重複、削平著しく炉・ピットのみ	大調 13
167	128	55%	（円形）	(500 ～ 520)							E Ⅱ	168･170 住と重複	大調 18
168	128	45%	隅丸方形	不明	未掘				○	○	E Ⅰ新	167 住に切られる	大調 18
169	128	25%	円形	不明	○								大調 18
170	128	60%	（円形）	－× 496		○					E Ⅲ	167 住を切る	大調 18
171	128	完掘	不整円形	554 × 595	○				○	○	E Ⅱ	173 住を切る	大調 18
172	128・147	完掘	円形	440 × 500		○				○	E Ⅰ新		大調 18、市内 10
173	128	完掘	円形	485 × 492		○		○	○		E Ⅰ新	171 住に切られる	大調 18
174	128	90%	楕円形	612 ×－	○						E Ⅱ古	179 住と重複	大調 18
175	128	完掘	楕円形	640 × 630	○	○			○	○	E Ⅱ	176・180 住と重複	大調 18
176	128	完掘	隅丸長方形	690 × 535	○	○			②	○	E Ⅰ古	175･177 住と重複	大調 18
177	128	95%	（楕円形か円形）	624 ×－			○	○			E Ⅱ	176・178 住と重複	大調 18
178	128	10%	隅丸方形	不明	未掘				○	○	E Ⅰ新	177 住と重複	大調 18
179	128	95%	（楕円形か円形）	(500)			○	○			E Ⅱ	174 住を切る	大調 18
180	128	完掘	円形	385 × 392			○				E Ⅱ	175 住と重複	大調 18
181	51	完掘	不整楕円形	340 × 298	○						E Ⅱ	削平	大調 18
182	51	45%	（円形）	－× 390		○					E Ⅱ	削平	大調 18
183	135	完掘	隅丸長方形	450 × 370	○	○				○	E Ⅰ新		市内 3
184	150	25%	（隅丸方形）	(337 × 225)			○			○			市内 15
185	150	80%	（円形）	320 × (255)			○			○	E Ⅱ	187 住と重複	市内 15
186												欠番	
187	150	完掘	楕円形	480 × 430			○		○	○	E Ⅰ新	185 住と重複	市内 15
188	150	50%	楕円形	(520 × 430)			?	○			E Ⅰ		市内 15
189	150	完掘	楕円形	452 × 400	○						E Ⅱ～E Ⅲ		市内 11・15
190	150	完掘	楕円形	436 × 302	○						E Ⅲ		市内 11
191	150	50%	（円形）	(392 × 220)				○			E Ⅲ		市内 11
192	150					○						欠番、掘り込み確認できず	市内 15
193	156	90%	（円形）	(270 × 173)		○					阿玉台Ⅰb～Ⅱ		市内 18
194	158	完掘	隅丸長方形	520 × 470	○					○	E Ⅰ中～新		市内 18・23
195	158											欠番、竪穴遺構に変更	市内 18・23
196	158	完掘	隅丸長方形	495 × 460			○		○	○	E Ⅰ中	198 住を切る	市内 18・23
197	158	完掘	楕円形	460 × 420		○					勝坂Ⅲ新		市内 18・23
198	158	完掘	楕円形	440 × 410		○		○			勝坂Ⅲ	196 住に切られる	市内 18・23
199	158	完掘	楕円形	480 × 410	○						E Ⅰ新	204 住と重複	市内 18・23
200	158	完掘	隅丸長方形	490 × 390	○					○	E Ⅰ新		市内 18・23
201	158	完掘	楕円形	(400 × 350)			○				E Ⅰ新		市内 18・23
202	158			(310 × 140)								プランのみ	市内 18
	158	完掘	隅丸長方形	(450 × 470)		○	○		②	○	E Ⅰ古		市内 18・23
204	158・159	80%	楕円形	(370 × 160)		○	○				E Ⅰ新	199 住と重複	市内 16・23
205	159	完掘	円形	360 × 35		○	○					212 住と重複	市内 16
206	159	完掘	隅丸長方形	475 × 455		○	○	○					市内 16
207	159	50%	円形か隅丸方形	(375 × 160)	○							212 住と重複	市内 16
208	159	完掘	隅丸台形	475 × 452			○			○			市内 16
209	159	完掘	不明	(360)									市内 16
210	159	25%	不明	(260 × 168)	○								市内 16
211	161	完掘	楕円形	425 × 273		○							市内 20
212	159	40%	楕円形か隅丸長方形	(460 × 190)	○					○		205・207 住と重複	市内 16
213	150	90%	隅丸長方形	(460 × 300)	○						E Ⅲ	4・139 住と重複	市内 18
214	174											プランのみ	市内 24
215	174											プランのみ	市内 24
216A	158	完掘	円形	300 ～ 320		○					勝坂Ⅲ		市内 23
216B	158	完掘	楕円形	(370 × 350)	○						E Ⅲ		市内 23
217	175	一部	不明	(150 × 290)									市内 25
218	164		楕円形	(454) × 414	○								市内 22
219	69		不明	不明								旧 166 号住居跡、炉とピットのみ	大調 13

Ⅱ　西ノ原遺跡第 175 地点

（1）調査の概要

調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者より 2018 年 3 月 19 日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の中央部に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため 2018 年 4 月 9 日に試掘調査を実施した。

試掘調査は幅約 1 ～ 1.5m のトレンチ 2 本を設定し、重機による表土除去後人力による表面精査を行った。現地表面から地山ローム層までの深さは約 25 ～ 60 ㎝である。

調査の結果、縄文時代中期の住居跡 2 軒、溝 3 条を検出した。遺構への影響が避けられないため、原因者と再協議の結果、本調査を実施した。

本調査は 2018 年 4 月 10 ～ 20 日まで、調査区全体を重機で表土除去後、人力による調査を行った。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえで埋戻し、調査を終了した。

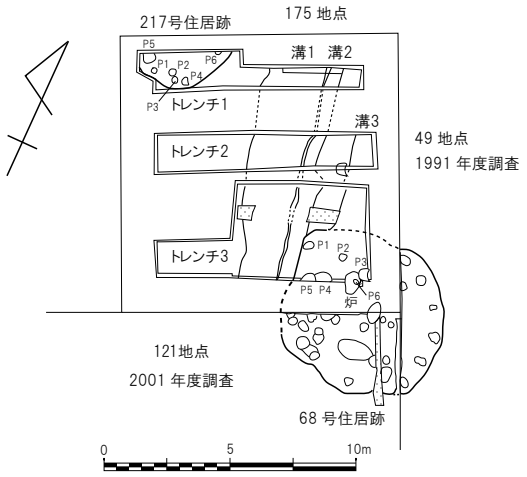
（2）遺構と遺物

① 68 号住居跡

【位置・検出状況】調査区南東部に位置する。平成 3 年度、平成 8 年度、平成 13 年度に合わせて住居の 3/4 を検出している。今回の調査範囲では、東側部分が溝 3 によって切られているため、北側で住居の立ち上がりが判然としなかった。

【形状・規模】平面形態は円形を呈し、規模は南北方向に 650 ㎝、東西方向に 640 ㎝を測る。

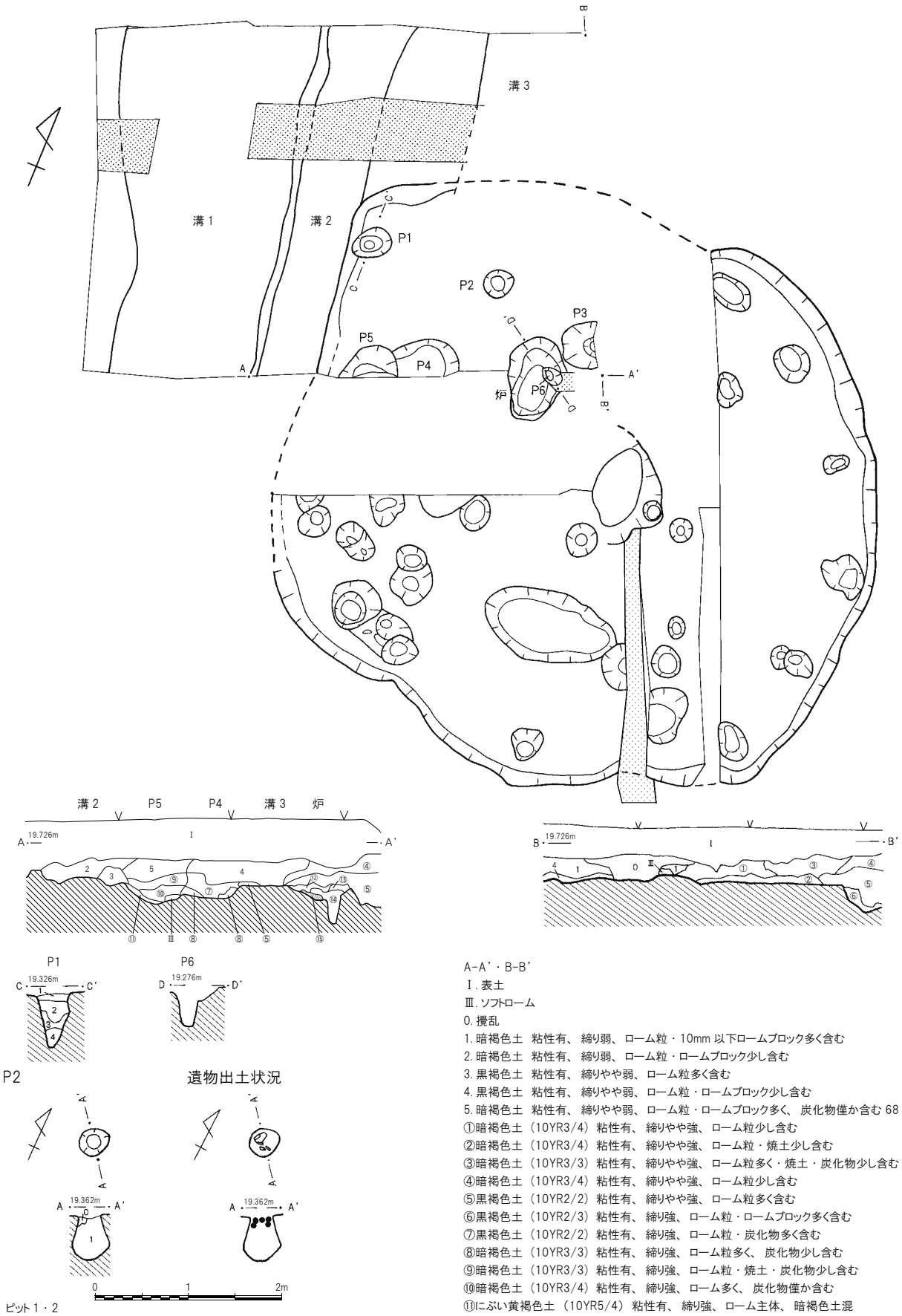
【構造】これまでの調査で 27 基のピットを確認しているが、そのうち主柱穴は 5 本で壁面に沿って並んでいる。今回の調査で新たに 6 基のピットを検出したが、ピット 1 については主柱穴である可能性が考えられる。



第 114 図　西ノ原遺跡第 175 地点遺構配置図 (1/300)

第 60 表 西ノ原遺跡第 175 地点 68 号住居内ピット一覧表
(単位 cm)

No.	平面形態	確認面径	底径	深さ
1	楕円形	46 × 30	13 × 10	57.9
2	円形	33 × 30	16 × 15	49.4
3	不明	49 × (35)	8 × (2)	31
4	不明	(65) × (39)	(51) × (34)	14
5	不明	65 × (29)	8 × (2)	24.3
6	楕円形	24 × 16	12 × 6	41.5



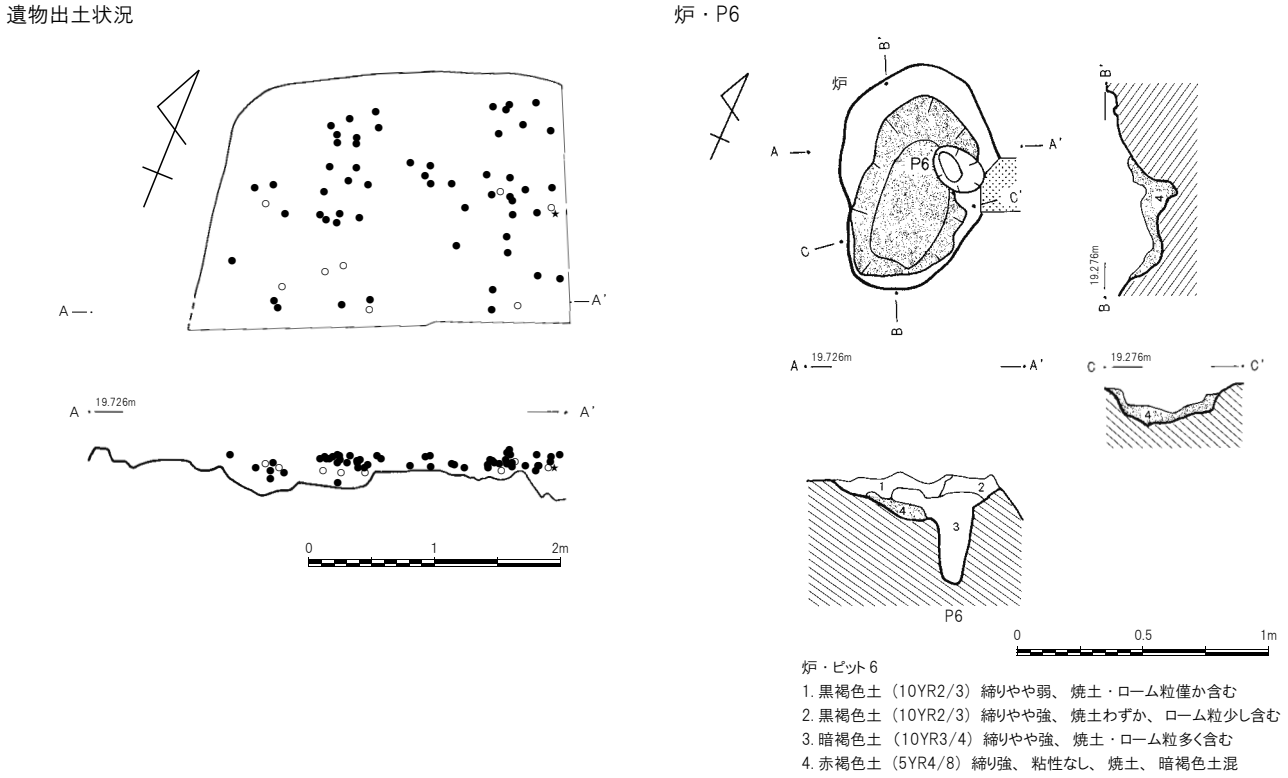
ピット 1・2
0. 攪乱
1. 暗褐色土　締りやや強、 粘性有、 ローム粒・ロームブロック少し、 炭化物僅か含む
2. 暗褐色土　締りやや強、 粘性有、 ローム粒・炭化物僅か含む
3. 暗褐色土　締りやや強、 粘性有、 ローム粒僅か含む
4. 黒褐色土　締り強、 粘性有、 ローム粒僅か含む

A-A'・B-B'
Ⅰ. 表土
Ⅲ. ソフトローム
0. 攪乱
1. 暗褐色土　粘性有、 締り弱、 ローム粒・10mm 以下ロームブロック多く含む
2. 暗褐色土　粘性有、 締り弱、 ローム粒・ロームブロック少し含む
3. 黒褐色土　粘性有、 締りやや弱、 ローム粒多く含む
4. 黒褐色土　粘性有、 締りやや弱、 ローム粒・ロームブロック少し含む
5. 暗褐色土　粘性有、 締りやや弱、 ローム粒・ロームブロック多く、 炭化物僅か含む 68 住覆土
①暗褐色土（10YR3/4）粘性有、 締りやや強、 ローム粒少し含む
②暗褐色土（10YR3/4）粘性有、 締りやや強、 ローム粒・焼土少し含む
③暗褐色土（10YR3/3）粘性有、 締りやや強、 ローム粒多く・焼土・炭化物少し含む
④暗褐色土（10YR3/4）粘性有、 締りやや強、 ローム粒少し含む
⑤黒褐色土（10YR2/2）粘性有、 締りやや強、 ローム粒多く含む
⑥黒褐色土（10YR2/3）粘性有、 締り強、 ローム粒・ロームブロック多く含む
⑦黒褐色土（10YR2/2）粘性有、 締り強、 ローム粒・炭化物多く含む
⑧暗褐色土（10YR3/3）粘性有、 締り強、 ローム粒多く、 炭化物少し含む
⑨暗褐色土（10YR3/3）粘性有、 締り強、 ローム粒・焼土・炭化物少し含む
⑩暗褐色土（10YR3/4）粘性有、 締り強、 ローム多く、 炭化物僅か含む
⑪にぶい黄褐色土（10YR5/4）粘性有、 締り強、 ローム主体、 暗褐色土混
⑫黒褐色土（10YR2/3）締りやや弱、 焼土・ローム粒僅か含む
⑬黒褐色土（10YR2/3）締りやや強、 焼土わずか、 ローム粒少し含む
⑭暗褐色土（10YR3/4）締りやや強、 焼土・ローム粒多く含む
⑮赤褐色土（5YR4/8）締り強、 粘性なし、 焼土、 暗褐色土

第 115 図　西ノ原遺跡第 175 地点 68 号住居跡 (1/60)

【炉】第 49 地点で地床炉 1 基、第 121 地点で焼土範囲を確認しているが、今回の調査でも地床炉 1 基を検出した。住居内中央北寄りに位置する。平面形態は楕円形を呈し、長軸 84 ㎝×短軸 60 ㎝、深さ 15.5 ㎝を測る。焼土範囲は全面に広がる。

【遺物出土状況】遺物は比較的広範囲で確認された。そのほとんどが破片資料である。



第 116 図　西ノ原遺跡第 175 地点 68 号住居跡 (1/60)、炉・ピット (1/30)

② 217 号住居跡

【位置・検出状況】調査区北西部に位置する。南側で約 1/3 のみを検出、残りは北側調査区外に広がる。

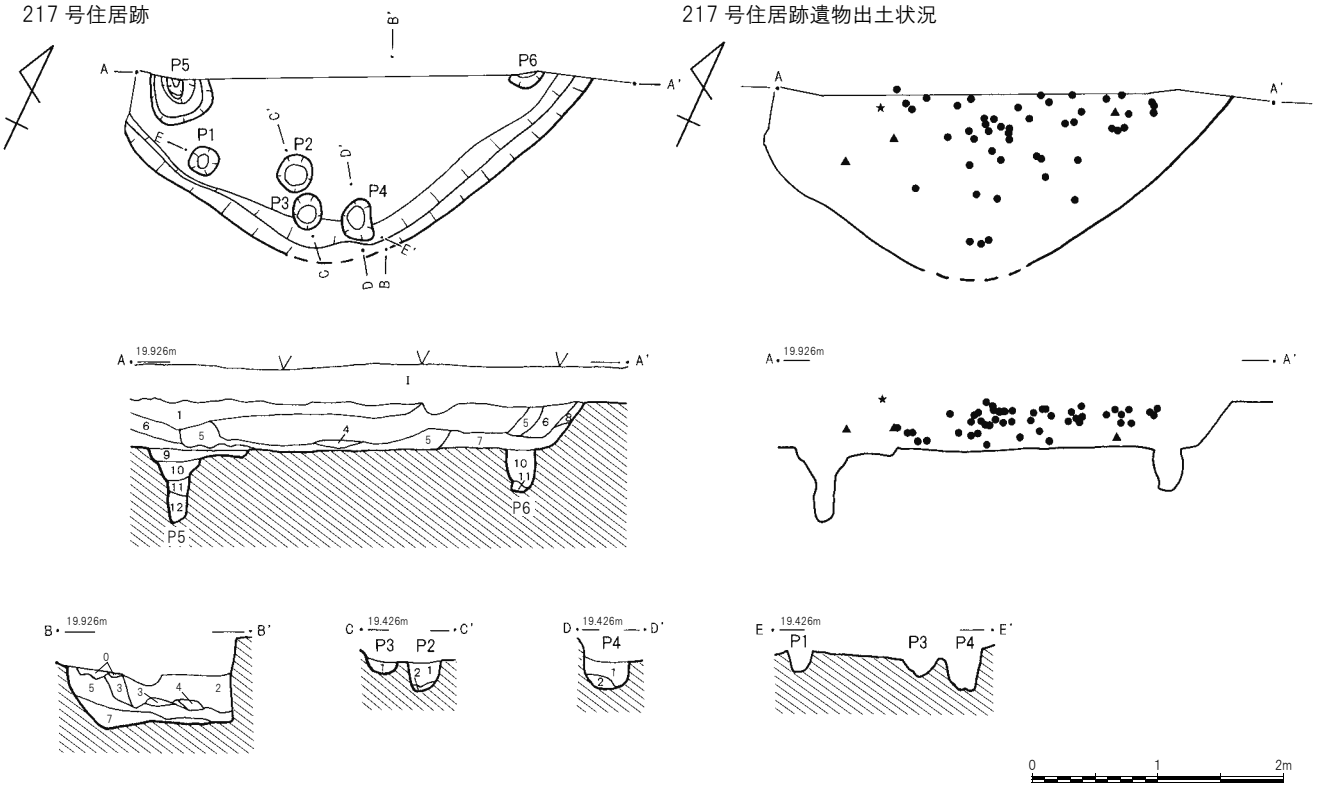
【形状・規模】一部分のみの調査のため平面形態は不明である。今回検出された規模は、南北軸 150 ㎝、東西軸 290 ㎝を測る。

【構造】確認面から床面までの深さが 35 ～ 40 ㎝と比較的しっかりと掘り込まれる。住居内ピットは 6 基確認され、ピット 5 及びピット 6 が主柱穴と考えられる。ピットの詳細については第 61 表に掲載した。周溝はなく、また今回の調査範囲では埋甕の有無や炉の形態は確認できなかった。

【遺物出土状況】遺物は比較的覆土上層に集中する。

第 61 表 西ノ原遺跡第 175 地点 217 号住居内ピット一覧表 (単位 cm)

No.	平面形態	確認面径	底径	深さ
1	方形	22 × 22	11 × 8	24
2	円形	30 × 28	16 × 16	23.6
3	円形	27 × 23	15 × 14	14.2
4	方形	32 × 23	20 × 15	23.4
5	不明	49 × (36)	(7) × 6	56.6
6	不明	26 × (13)	15 × (3)	34.1



217 住
Ⅰ. 表土
0. 攪乱
1. 暗褐色土（10YR3/4）締りやや強、ローム粒少し、焼土僅か含む
2. 暗褐色土（10YR3/3）締りやや弱、ローム粒・遺物・礫多く、炭化物少し含む
3. 暗褐色土（10YR3/4）締りやや弱、ローム粒少し、黒褐色土混
4. 暗褐色土（10YR3/4）締りやや強、ローム粒多く含む
5. 暗褐色土（10YR3/4）締りやや強、ローム粒・ロームブロック多く含む
6. 暗褐色土（10YR3/4）締り強、ローム粒・焼土少し、ロームブロック僅か含む
7. 暗褐色土（10YR3/4）締り強、ローム粒少し含む
8. 褐色土（7.5YR4/6）ローム粒少し含む
9. 暗褐色土（10YR3/3）締り強、ローム粒・炭化物少し、焼土僅か含む
10. 暗褐色土（10YR3/4）締りやや弱、ローム粒多く、炭化物少し含む
11. 暗褐色土（10YR3/3）締りやや強、ローム粒・ロームブロック多く、炭化物少し含む
12. 暗褐色土（7.5YR3/3）締り強、ローム粒少し含む

217 住 P2 ～ 4
1. 暗褐色土（10YR3/4）締りやや弱、粘性有、ローム粒多く、炭化物少し含む
2. 暗褐色土（10YR3/3）締りやや強、粘性有、ローム粒・ロームブロック多く、炭化物少し含む

第 117 図　西ノ原遺跡第 175 地点 217 号住居跡 (1/60)

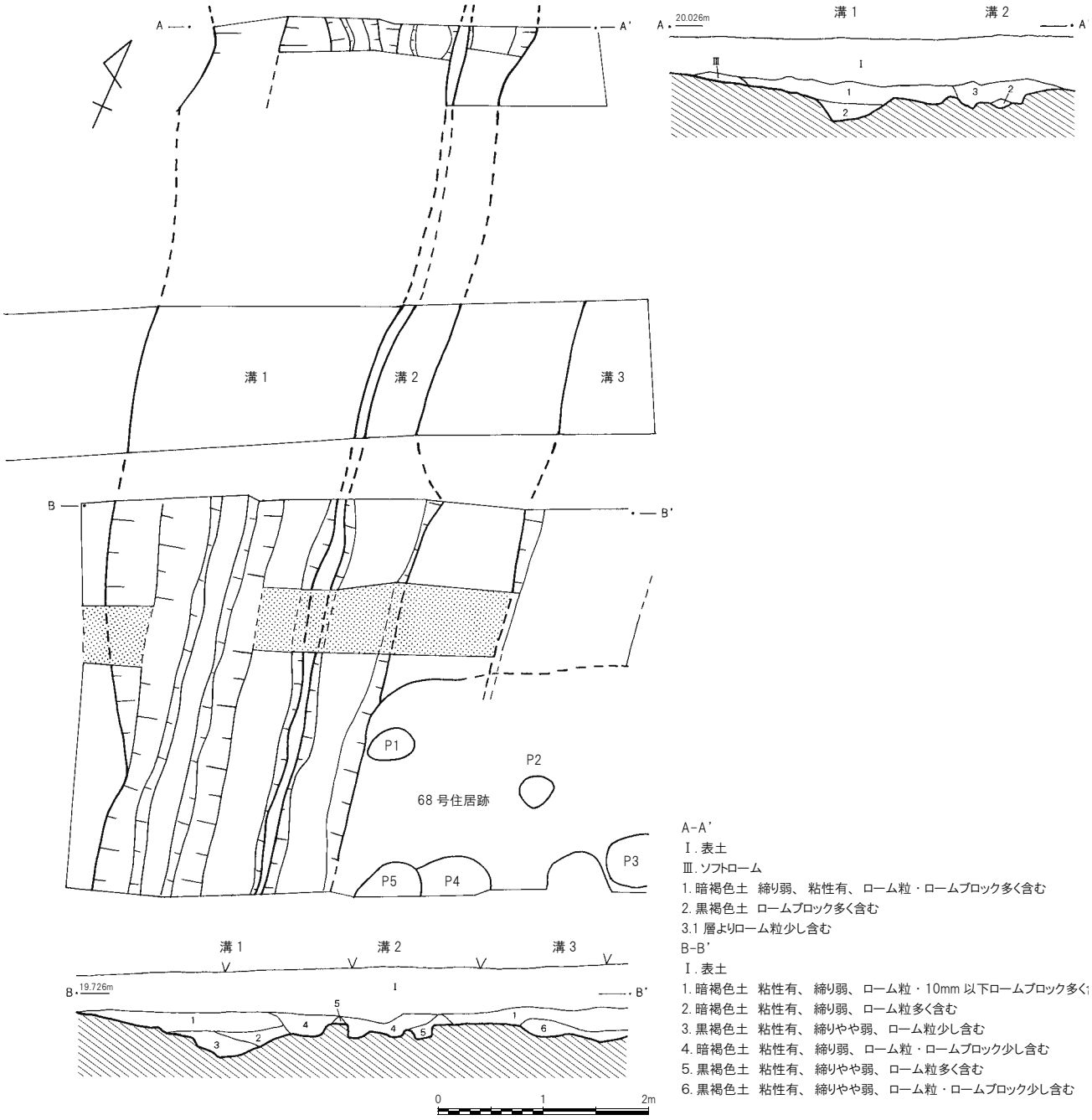
③溝

溝 3 条は調査区中央から東側にかけて位置しており、3 条とも南北方向に平行して走行し、両端とも調査区外へ延伸する。溝 1 と溝 2 は第 49 地点の 25、26 号溝及び第 121 地点溝 1 へと繋がるものと考えられる。それぞれの詳細については以下にまとめた。

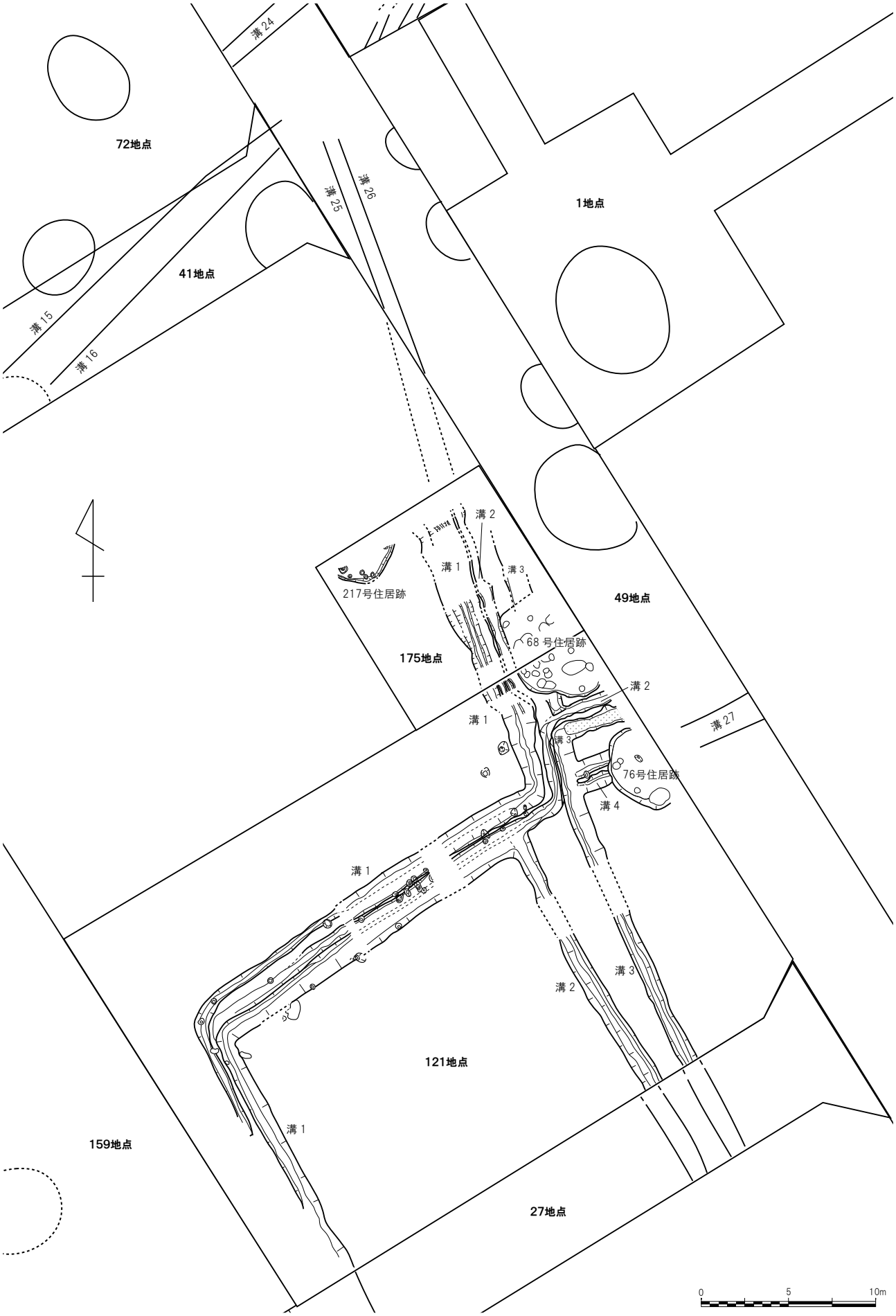
【溝 1】調査区中央部に位置し、N-9°-W を指向する。断面形態は緩やかなＶ字形を呈し、上幅 143 ～ 200 ㎝、下幅 17 ～ 26 ㎝、深さ 40.3 ㎝を測る。

【溝 2】調査区中央部よりやや東側、溝 1 と溝 3 の間に位置し、N-9°-W を指向する。特に溝 1 とは近接しており、上幅で 10 ～ 15 ㎝程度しか離れていない。断面形状は逆台形を呈し、上幅 57 ～ 96 ㎝、下幅 26 ～ 68 ㎝、深さ 12 ㎝を測る。底面の凹凸が激しい。

【溝 3】調査区東側に位置し、N-8°-W を指向する。東側の立ち上がりは調査区外のため正確な規模は不明。深さは 17.4 ㎝を測る。

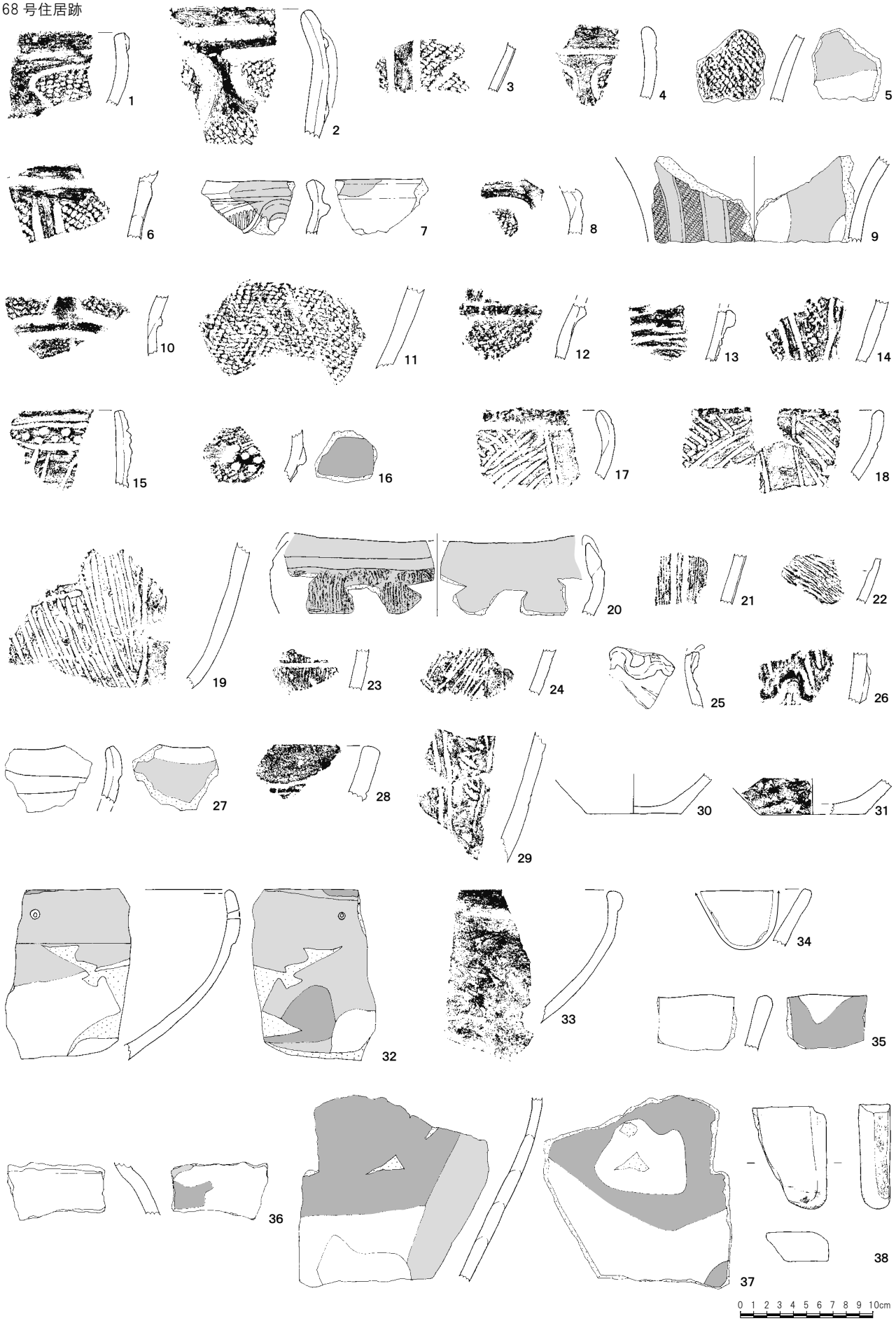


第 118 図　西ノ原遺跡第 175 地点溝 (1/60)



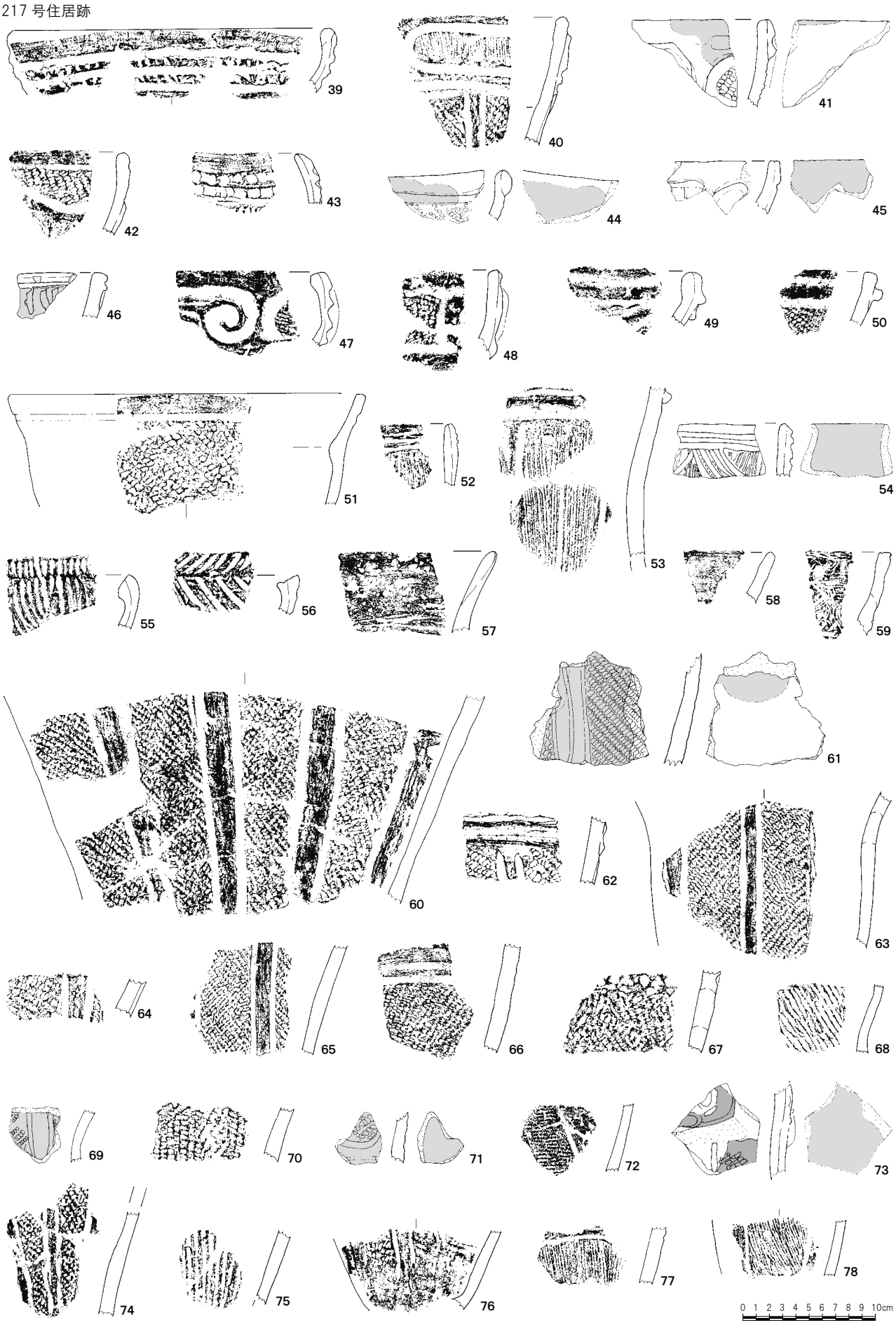
第 119 図　西ノ原遺跡第 175 地点溝配置図 (1/300)

68 号住居跡

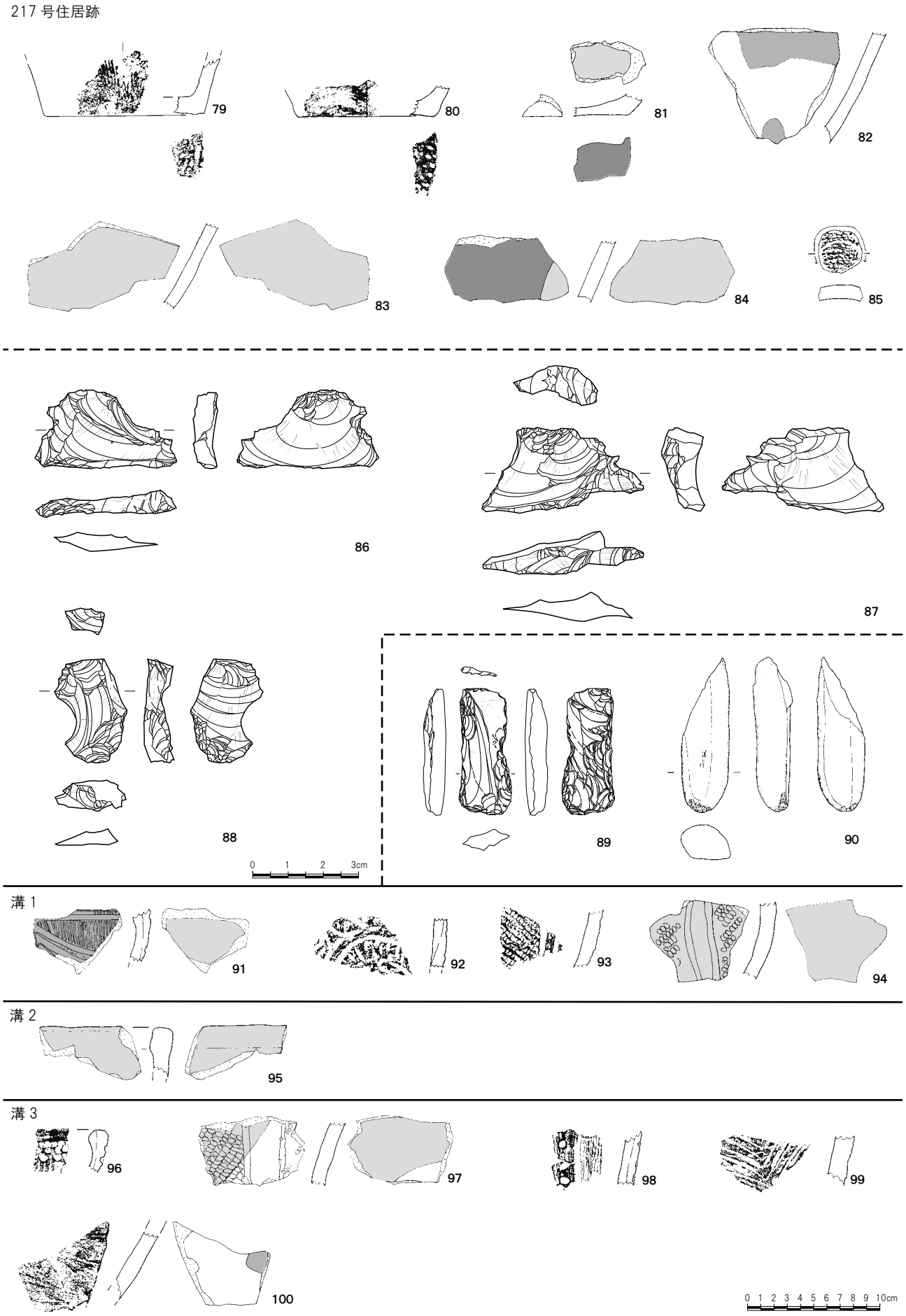


第 120 図　西ノ原遺跡第 175 地点出土遺物① (1/4)

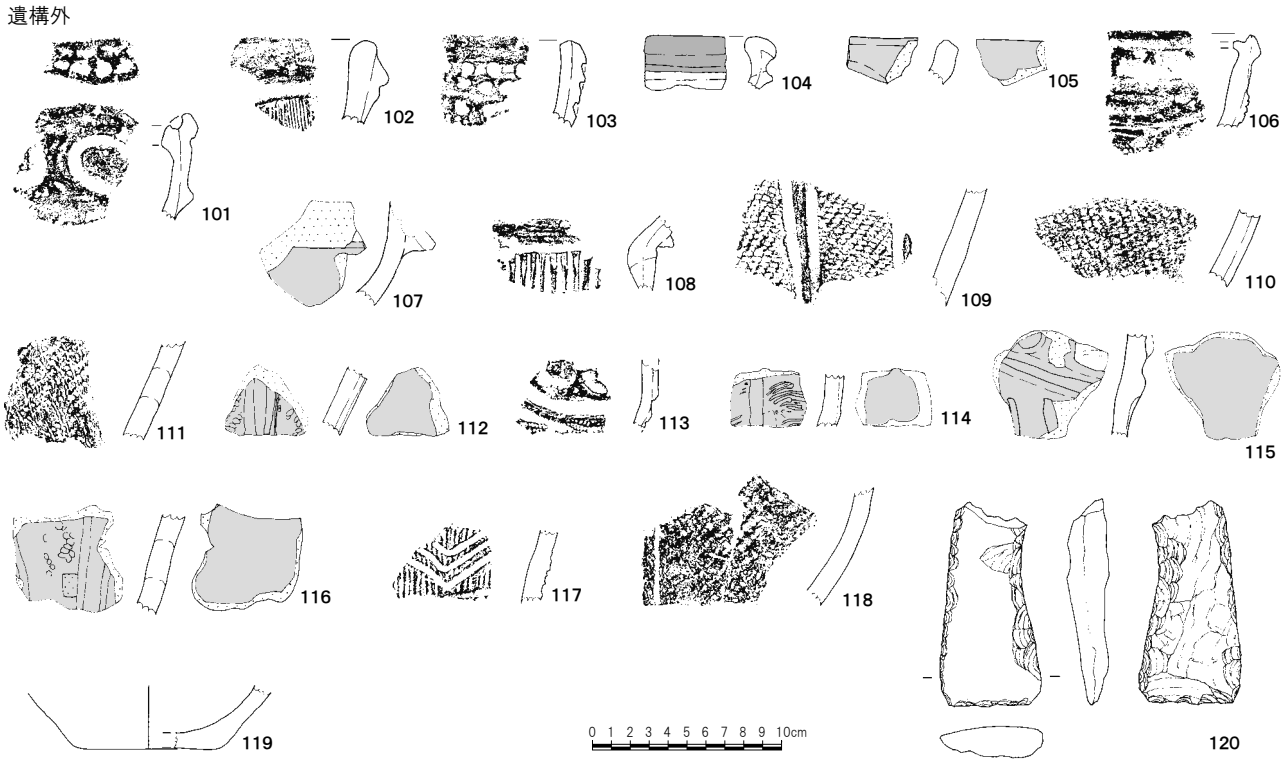
217 号住居跡



第 121 図　西ノ原遺跡第 175 地点出土遺物② (1/4)



第 122 図　西ノ原遺跡第 175 地点出土遺物③ (1/4・2/3)



第 123 図　西ノ原遺跡第 175 地点出土遺物④ (1/4)

第 62 表　西ノ原遺跡第 175 地点出土遺物観察表 (単位 cm・g)

図版番号	出土遺構	種別・器種	技法・文様・備考	時期・型式
第 120 図 -1	68 号住居跡	縄文・深鉢	地文 LR 縄文、沈線による区画文・全体的に被熱、胎土に白色粒子、チャート等の礫を含む	中期・加曽利 E Ⅱ
第 120 図 -2		縄文・深鉢	LRL+RLR 縄文、隆帯による区画文・内外面僅かに被熱、胎土に白色粒子を含む	中期・加曽利 E Ⅱ
第 120 図 -3		縄文・深鉢	地文 RL 縄文、2 本の磨消沈線文	中期・加曽利 E Ⅱ
第 120 図 -4		縄文・深鉢	口縁部、横位平行沈線、沈線による区画文・外面に煤付着、内面に僅かにハジケ	中期・加曽利 E Ⅱ
第 120 図 -5		縄文・深鉢	LR 縄文・内面に赤彩	中期
第 120 図 -6		縄文・深鉢	地文 LR 縄文、沈線と隆帯による区画文、縦位沈線間磨消・内面炭化	中期・加曽利 E Ⅱ
第 120 図 -7		縄文・深鉢	地文櫛歯条線、沈線による区画文、隆帯貼付による渦巻文か・外面から内面口縁部にかけて赤彩有	中期・加曽利 E Ⅱ
第 120 図 -8		縄文・深鉢	地文 LR 縄文、沈線による区画文・内面に僅かに赤彩の痕跡有	中期・加曽利 E Ⅱ
第 120 図 -9		縄文・深鉢	地文 RL 縄文、2 本の磨消沈線文・内外面に赤彩、胴部復元径 20.6 ㎝	中期・加曽利 E Ⅱ
第 120 図 -10		縄文・深鉢	地文 LR 縄文か、沈線による区画文・全体的に摩滅が激しい	中期・加曽利 E Ⅱ
第 120 図 -11		縄文・深鉢	RL 縄文・内面に僅かに煤付着	中期
第 120 図 -12		縄文・深鉢	LR 縄文か、横位隆帯貼付・全体的に摩滅が激しい、胎土に砂礫を多く含む	中期
第 120 図 -13		縄文・深鉢	撚糸文、半截竹管状工具による沈線文、突起状粘土貼付・胎土に白色粒子を含む	中期・加曽利 E Ⅱ
第 120 図 -14		縄文・深鉢	地文 LR 縄文、2 本の磨消沈線文・内面に僅かに煤付着、全体的に被熱によるハジケ、胎土に砂礫を含む	中期・加曽利 E Ⅱ
第 120 図 -15		縄文・深鉢	口縁部、地文沈線、口縁下に沈線を巡らせ、列点文を充填・外面に僅かに煤付着、胎土にチャートを含む	中期・曽利式
第 120 図 -16		縄文・深鉢	地文縄文か、隆帯上に列点文を施す・内面にタール付着、胎土に白色粒子を含む	中期
第 120 図 -17		縄文・深鉢	口縁部、地文沈線文・胎土に砂礫と白色粒子を多量に含む、内外面に被熱の痕跡有、№ 18、19 と同一個体か	中期・曽利式
第 120 図 -18		縄文・深鉢	口縁部、地文沈線文・胎土に砂礫と白色粒子を多量に含む、内外面に被熱の痕跡有、№ 17、19 と同一個体か	中期・曽利式
第 120 図 -19		縄文・深鉢	地文沈線文・胎土に砂礫と白色粒子を多量に含む、内外面に被熱の痕跡有、№ 17、18 と同一個体か	中期・曽利式
第 120 図 -20		縄文・深鉢	地文条線文、口縁に沿って幅の広い沈線・内外面赤彩、外面に煤付着、内外面被熱の痕跡有、口径：(23.0) ㎝	中期・加曽利 E Ⅱ新相
第 120 図 -21		縄文・深鉢	地文条線文、縦位に 2 本の沈線・内面黒色化、胎土にチャートを含む	中期
第 120 図 -22		縄文・深鉢	地文 R Ⅰ撚糸・内面一部黒色化、胎土に白色粒子を多量に含む	中期
第 120 図 -23		縄文・深鉢	地文櫛歯条線文、横位に沈線を施す・内面黒色化、外面に僅かにタール付着	中期
第 120 図 -24		縄文・深鉢	半截竹管状工具による沈線文、縦位に隆帯剥離痕・胎土に白色粒子を含む	中期
第 120 図 -25		縄文・深鉢	口縁部付近、地文沈線文、波状に隆帯貼付・胎土に白色粒子を多量に含む、№ 26 と同一個体か	中期・曽利式
第 120 図 -26		縄文・深鉢	地文沈線文、波状に隆帯貼付・胎土に白色粒子を多量に含む、№ 26 と 25 同一個体か	中期・曽利式

図版番号	出土遺構	種別・器種	技法・文様・備考	時期・型式
第 120 図 -28	68 号住居跡	縄文・深鉢	口縁部、沈線による施文・内外面黒色化、胎土に白色粒子を多量に含む	中期
第 120 図 -29		縄文・深鉢	地文縄文か、縦位に 2 本の沈線を施す・内面に煤付着、胎土に白色粒子を多量に含む	中期・加曽利 E
第 120 図 -30		縄文・深鉢	底部、無文・底部外面黒色化、胎土に砂礫を多量に含む	中期
第 120 図 -31		縄文・深鉢	底部、無文・底部外面黒色化、胎土に白色粒子を多量に含む	中期
第 120 図 -33		縄文・浅鉢	口縁部・無文・外面に煤付着	中期
第 120 図 -34		縄文・浅鉢	口縁部・無文・外面にタール付着、欠けた面を丁寧に削る	中期
第 120 図 -35		縄文・浅鉢	口縁部・、無文・内面黒彩、胎土に砂礫を多く含む	中期
第 120 図 -36		縄文・浅鉢	無文・内面に赤彩とタール付着	中期
第 120 図 -37		縄文・浅鉢	無文・内面に赤彩とタール付着	中期
第 120 図 -38		石器・磨石、敲き石	長さ：7.8 ㎝、幅：5.5 ㎝、厚さ：2.3 ㎝、重量：147.85g、石材：砂岩	-
第 121 図 -39	217 号住居跡	縄文・深鉢	口縁部、口縁に沿って 2 本の刻み目隆帯、上部に沈線を巡らす・内外面に煤付着、ハジケの痕跡有、胎土に白色粒子を含む	中期・加曽利 E Ⅱ
第 121 図 -40		縄文・深鉢	地文 LR 縄文、口縁部に沈線による楕円形区画、区画内に条線文、縦位に 2 本の沈線を施す・外面に煤付着、胎土に砂礫を多く含む	中期・加曽利Ⅲ
第 121 図 -41		縄文・深鉢	地文 RL 縄文、隆帯による区画・外面から口縁部にかけて黒色化、胎土に白色粒子を含む	中期・加曽利 E Ⅱ～Ⅲ
第 121 図 -42		縄文・深鉢	地文 LR 縄文、隆帯と沈線による区画・外面に僅かにタール付着、胎土に白色粒子を含む	中期・加曽利 E Ⅱ～Ⅲ
第 121 図 -43		縄文・深鉢	口縁に沿って 2 重の列点文・胎土に白色粒子を含む	中期
第 121 図 -44		縄文・深鉢	地文 LR 縄文、沈線による区画・内外面赤彩、被熱によるハジケ	中期
第 121 図 -45		縄文・深鉢	沈線による区画・内外面赤彩、外面に僅かにタール付着	中期
第 121 図 -46		縄文・深鉢	沈線による施文・胎土に白色粒子を含む	中期
第 121 図 -47		縄文・深鉢	地文 LR 縄文、隆帯貼付による渦巻文・胎土に白色粒子を含む、全体的に脆く摩滅する	中期・加曽利 E Ⅲ
第 121 図 -48		縄文・深鉢	地文縄文か、隆帯による区画 ,・胎土に白色粒子を多量に含む、全体的に摩耗が激しく脆い	中期・加曽利 E Ⅲ ?
第 121 図 -49		縄文・深鉢	口縁部、隆帯貼付・内面被熱、胎土に白色粒子を含む	中期
第 121 図 -50		縄文・深鉢	地文 LR 縄文、口縁に沿って隆帯貼付・胎土に白色粒子を含む、全体的に摩耗が激しい	中期
第 121 図 -51		縄文・深鉢	口径 (27．0) ㎝・地文 LR 縄文、口縁に沿って沈線を施す・外面全体的に赤化、胎土に細かい白色粒子を含む	中期・加曽利 E Ⅱ
第 121 図 -52		縄文・深鉢	条線文、口縁に沿って 2 本の沈線・外面全体的に赤化、内面僅かに赤彩の痕跡有	中期・加曽利 E Ⅱ～Ⅲ
第 121 図 -53		縄文・深鉢	地文条線文・縦位沈線、隆帯貼付・内外面共に被熱痕、外面部分的にハジケ有、胎土に白色粒子と砂礫を多く含む	中期・加曽利 E Ⅱ～Ⅲ
第 121 図 -54		縄文・深鉢	地文条線文・沈線による連弧文・内面赤彩、胎土に白色粒子と砂礫を多く含む	中期・加曽利 E Ⅱ
第 121 図 -55		縄文・深鉢	口縁部、半截竹管状工具による斜行文・内面にタール付着の痕跡有、胎土に白色粒子を含む	曽利Ⅱ式
第 121 図 -56		縄文・深鉢	口縁部、地文斜行文・胎土に白色粒子と砂礫を多く含む	曽利Ⅱ式
第 121 図 -57		縄文・浅鉢	無文・内外面ハジケ有、胎土に砂礫を含む	中期
第 121 図 -58		縄文・浅鉢	無文・内面にハジケ有、胎土に砂礫を含む	中期
第 121 図 -59		縄文・深鉢	口縁部・櫛歯状工具による施文・外面に僅かに煤付着	中期・加曽利 E Ⅲ
第 121 図 -60		縄文・深鉢	胴部復元径：36 ㎝・地文 LR 縄文、2 本の磨消沈線文・内面に煤付着、胎土に白色粒子を含む	中期・加曽利 E Ⅲ
第 121 図 -61		縄文・深鉢	地文 LR 縄文・3 本の縦位沈線・内外面赤彩、内面にハジケ有、胎土に白色粒子を含む	中期
第 121 図 -62		縄文・深鉢	横位隆帯貼付、LR 縄文、平行する 2 本の縦位沈線・胎土に白色粒子を含む	中期
第 121 図 -63		縄文・深鉢	地文 RL 縄文、2 本の磨消沈線文・外面に煤付着、内面僅かにハジケ、胎土に白色粒子を含む	中期・加曽利 E Ⅲ
第 121 図 -64		縄文・深鉢	地文 LR 縄文、2 本の縦位沈線、沈線間磨消・胎土に砂礫を多く含む	中期・加曽利 E Ⅲ
第 121 図 -65		縄文・深鉢	地文 LR 縄文、2 本の磨消沈線文・内面に被熱の痕跡有、胎土に白色粒子を含む	中期・加曽利 E Ⅲ
第 121 図 -66		縄文・深鉢	地文 RL 縄文、横位平行沈線・外面一部赤化、全体的に摩耗が激しい、胎土に砂礫を多く含む	中期
第 121 図 -67		縄文・深鉢	地文 LR 縄文、上部に円形刺突文・全体的に摩耗が激しい、胎土に砂礫を多く含む	中期・加曽利 E Ⅲ
第 121 図 -68		縄文・深鉢	無節縄文・内外面赤化、内面部分的にハジケ、胎土に白色粒子を含む	中期
第 121 図 -69		縄文・深鉢	RL 縄文、2 本の磨消沈線文・外面赤彩、一部ハジケ、胎土に白色粒子を多く含む	中期・加曽利 E Ⅲ
第 121 図 -70		縄文・深鉢	地文 RL 縄文・胎土に砂礫を多く含む	中期
第 121 図 -71		縄文・深鉢	RL 縄文、沈線による区画・内外面赤彩、内面一部ハジケ、胎土に白色粒子を多く含む	中期・加曽利 E Ⅲ
第 121 図 -72		縄文・深鉢	地文 LR 縄文、縦位沈線・内外面摩耗が激しい、内面ハジケ、胎土に白色粒子を含む	中期・加曽利 E Ⅱ～Ⅲ
第 121 図 -73		縄文・深鉢	地文 RL 縄文、隆帯による区画・外面黒彩、内面赤彩、隆帯一部ハガレ、胎土に砂礫を多く含む	中期・加曽利 E Ⅱ～Ⅲ

図版番号	出土遺構	種別・器種	技法・文様・備考	時期・型式
第 121 図 -74	217 号住居跡	縄文・深鉢	LR 縄文、2 本の磨消沈線文・全体的に摩耗が激しい、胎土に白色粒子を多く含む	中期・加曽利 E Ⅱ～Ⅲ
第 121 図 -75		縄文・深鉢	半截竹管状工具による施文・内面に煤付着、胎土に白色粒子を多く含む	中期
第 121 図 -76		縄文・深鉢	地文 LR 縄文か、2 本の磨消沈線文・胴部復元径：13.0 ㎝、内面に煤付着、胎土に白色粒子を多く含む	中期・加曽利 E Ⅲ
第 121 図 -77		縄文・深鉢	条線文、沈線による区画・内面黒色化、胎土に白色粒子を含む	中期・加曽利 E Ⅰ
第 121 図 -78		縄文・深鉢	条線文、縦位沈線・胎土にチャート、片岩を含む	中期・加曽利 E Ⅰ
第 122 図 -79		縄文・深鉢	底部・条線文か・内面炭化、胎土に砂礫を多く含む	中期
第 122 図 -80		縄文・深鉢	底部・底面に植物痕有、内面一部黒色化、胎土に白色粒子を含む	中期
第 122 図 -81		縄文・深鉢	底部・底面に煤付着、内面赤彩、胎土に白色粒子を含む	中期
第 122 図 -82		縄文・浅鉢	無文・外面黒彩、胎土に白色粒子と砂礫を多く含む	中期
第 122 図 -83		縄文・浅鉢	無文・内外面赤彩、胎土に細かい白色粒子を含む	中期
第 122 図 -84		縄文・浅鉢	無文・内面赤彩、外面黒彩、胎土に白色粒子を含む	中期
第 122 図 -85		縄文・土製品	土製円盤・Lr 撚糸、径：3.3 ㎝、3/4 研磨	中期
第 122 図 -86		石器・楔形石器	長さ：2.943 ㎝、幅：2.052 ㎝、厚さ：0.855 ㎝、重量：3.38g、石材：黒曜石	-
第 122 図 -87		石器・剥片	長さ：4.019 ㎝、幅：2.234 ㎝、厚さ：0.696 ㎝、重量：3.87g、石材：黒曜石	-
第 122 図 -88		石器・剥片	長さ：2.437 ㎝、幅：4.580 ㎝、厚さ：1.224 ㎝、重量：7.72g、石材：黒曜石	-
第 122 図 -89		石器・打製石斧	長さ：9.565 ㎝、幅：3.986 ㎝、厚さ：17.16 ㎝、重量：72.90g、石材：ホルンフェルス・短冊形、背面に原面を残す	-
第 122 図 -90		石器・敲き石	長さ：11.8 ㎝、幅：3.5 ㎝、厚さ：2.6 ㎝、重量：159.74g、石材：粘板岩	-
第 122 図 -91	溝 1	縄文・深鉢	条線文、沈線による区画・外面黒彩、内面赤彩、胎土に砂礫を多く含む	中期・加曽利 E Ⅰ
第 122 図 -92		縄文・深鉢	半截竹管状工具による施文・内面ハジケ、外面ハガレ、胎土に砂礫を多く含む	中期・勝坂 2 ～ 3
第 122 図 -93		縄文・深鉢	地文 LR 縄文、2 本の磨消沈線文・外面黒色化、胎土に白色粒子を含む	中期・加曽利 E Ⅲ
第 122 図 -94		縄文・深鉢	地文 RL 縄文、2 本の磨消沈線文・内外面赤彩、外面に黒斑、胎土に白色粒子を多く含む	中期・加曽利 E Ⅲ
第 122 図 -95	溝 2	縄文・深鉢	口縁部・無文・内外面赤彩、胎土に白色粒子を多く含む	中期
第 122 図 -96	溝 3	縄文・深鉢	口縁部・地文 Lr 撚糸、上部に円形刺突文・胎土に白色粒子を含む	中期
第 122 図 -97		縄文・深鉢	地文 RL 縄文、2 本の磨消沈線文・内外面赤彩、胎土に白色粒子を含む	中期・加曽利 E Ⅲ
第 122 図 -98		縄文・深鉢	櫛歯状工具による施文、隆帯貼付、隆帯上部に円形刺突文・内外面一部黒色化	中期
第 122 図 -99		縄文・深鉢	沈線による羽状文・外面に煤付着、胎土に白色粒子を含む	曽利系？
第 122 図 -100		縄文・浅鉢	無文・外面赤彩、内面黒彩、胎土に白色粒子を含む	中期
第 123 図 -101	遺構外	縄文・深鉢	波状口縁部・隆帯貼付による楕円形区画、口唇部に円形刺突・胎土に砂礫を多く含む、全体的に摩耗が激しい	中期・加曽利 E Ⅱ～Ⅲ
第 123 図 -102		縄文・深鉢	口縁部・地文条線文、隆帯貼付・胎土に砂礫を多く含む	中期・加曽利 E Ⅰ？
第 123 図 -103		縄文・深鉢	口縁部・3 段の円形刺突文・全体的に赤化、胎土に白色粒子を含む	中期
第 123 図 -104		縄文・深鉢	口縁部・隆帯貼付・外面に煤付着、割れ口に種子圧痕か	中期
第 123 図 -105		縄文・深鉢	口縁部・内外面赤彩	中期
第 123 図 -106		縄文・深鉢	口縁断面三角形・隆帯貼付・胎土に砂礫を多く含む	中期・加曽利 E Ⅱ
第 123 図 -107		縄文・深鉢	口縁部・無文・隆帯貼付による突起部・内面黒斑有	中期
第 123 図 -108		縄文・深鉢	隆帯貼付による区画、半截竹管状工具による施文・内外面赤化、胎土に砂礫を多く含む	中期
第 123 図 -109		縄文・深鉢	地文 RL 縄文、2 本の磨消沈線文・内面煤付着、被熱の痕跡有、胎土に白色粒子を含む	中期・加曾利 E Ⅱ～Ⅲ
第 123 図 -110		縄文・深鉢	RL 縄文・内面炭化、胎土に白色粒子を含む	中期
第 123 図 -111		縄文・深鉢	地文縄文・外面赤化、胎土に白色粒子を含む	中期
第 123 図 -112		縄文・深鉢	地文 LR 縄文か、2 本の磨消沈線文・内外面赤彩	中期
第 123 図 -113		縄文・深鉢	地文 RL 縄文、隆帯貼付による区画・内面黒色化、胎土に砂礫を多く含む	中期
第 123 図 -114		縄文・深鉢	櫛歯状工具による施文、半截竹管状工具による沈線・内外面赤彩	中期・曽利系？
第 123 図 -115		縄文・深鉢	半截竹管状工具による沈線・内外面赤彩	中期
第 123 図 -116		縄文・深鉢	地文 RL 縄文か、縦位沈線、磨消・内外面赤彩	中期
第 123 図 -117		縄文・深鉢	地文 Lr 撚糸、沈線による連弧文	中期
第 123 図 -118		縄文・深鉢	地文 RL 縄文か、縦位沈線、磨消・外面に僅かに被熱の痕跡有	中期
第 123 図 -119		縄文・深鉢	底部・無文・内外面被熱によるハジケ、胎土に白色粒子を含む	中期
第 123 図 -120		石器・打製石斧	長さ：10.6 ㎝、幅：5.5 ㎝、厚さ：2.2 ㎝、重量：131.37g、石材：細粒砂岩、背面に原面を残す	-

Ⅲ　西ノ原遺跡第 176 地点

（1）調査の概要

調査は分譲住宅建設に伴うもので、原因者より 2018 年 6 月 25 日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の北西部に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため 2018 年 7 月 3 日に試掘調査を実施した。

試掘調査は幅約 1.5m のトレンチ 5 本を設定し、重機による表土除去後人力による表面精査を行った。現地表面から地山ローム層までの深さは約 70 ～ 80 ㎝である。

調査の結果、遺構は確認されなかったため、写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえで埋戻し、調査を終了した。

Ⅳ　西ノ原遺跡第 177 地点

（1）調査の概要

調査は診療所兼住宅建設に伴うもので、原因者より 2018 年 8 月 30 日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の北東部に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため 2018 年 12 月 7 日に試掘調査を実施した。

試掘調査は幅約 1.5m のトレンチ 2 本を設定し、重機による表土除去後人力による表面精査を行った。現地表面から地山ローム層までの深さは約 60 ～ 70 ㎝である。

調査の結果、遺構は確認されなかったため、写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえで埋戻し、調査を終了した。

（2）遺構と遺物

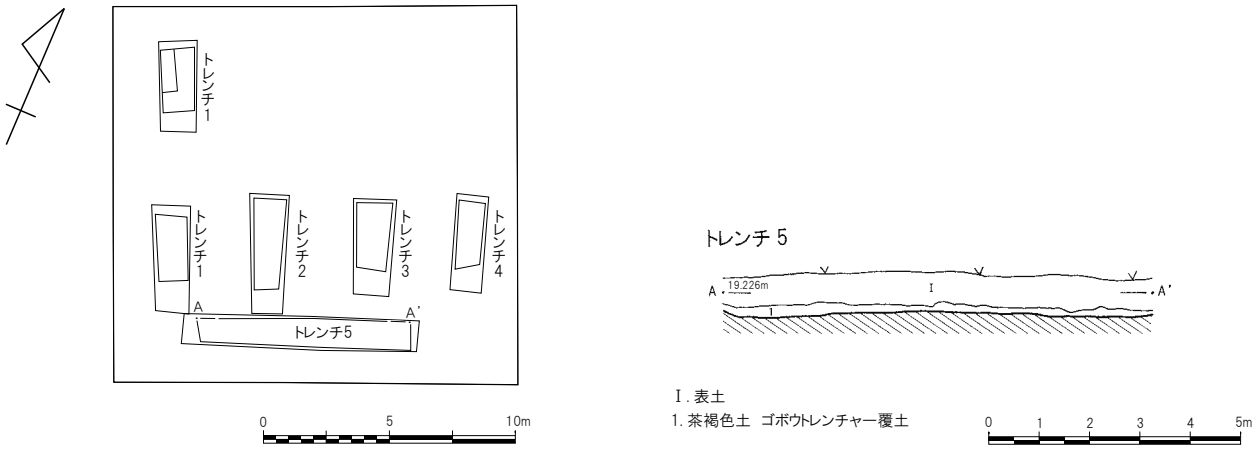
遺構は確認されなかったが、表土中より縄文土器片が出土した。縄文土器深鉢の胴部破片である。地文 LR 縄文に縦位沈線を施す。縄文時代中期の加曽利 E 式期。

Ⅴ　西ノ原遺跡第 178 地点

（1）調査の概要

調査は共同住宅建設に伴うもので、原因者より 2018 年 12 月 11 日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の北東部に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため 2019 年 2 月 4 日に試掘調査を実施した。

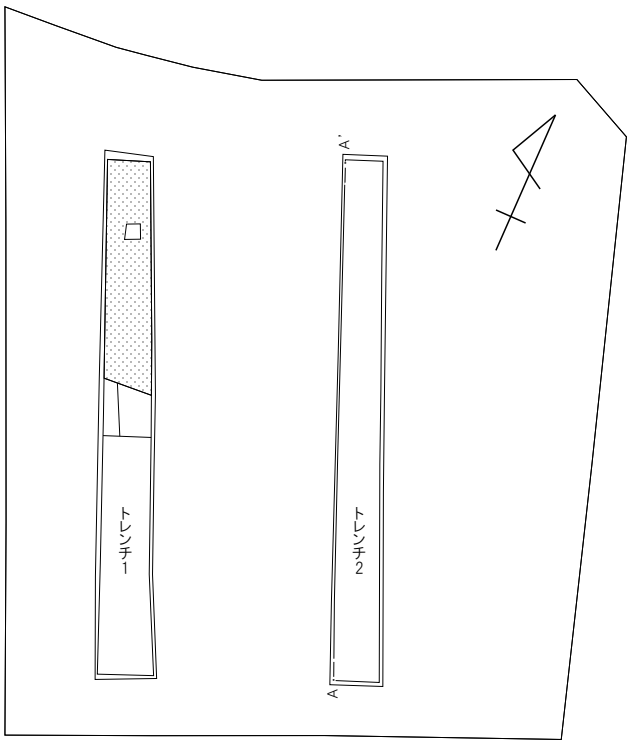
試掘調査は幅約 1.5m のトレンチ 5 本を設定し、重機による表土除去後人力による表面精査を行った。現地表面から地山ローム層までの深さは約 80 ～ 140 ㎝である。

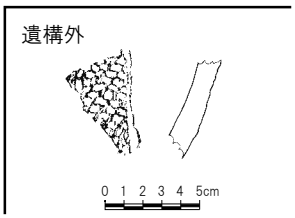


第 124 図　西ノ原遺跡第 176 地点調査区域図 (1/300)、土層 (1/150)

調査の結果、遺構・遺物は確認されなかったため、写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえで埋戻し、調査を終了した。

第 177 地点

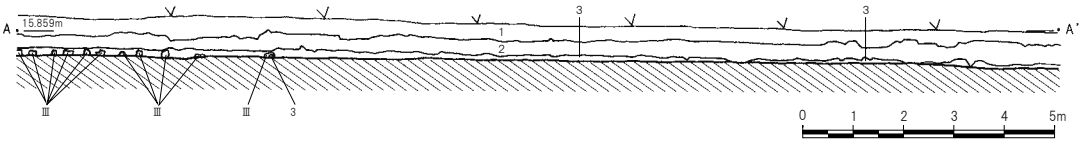




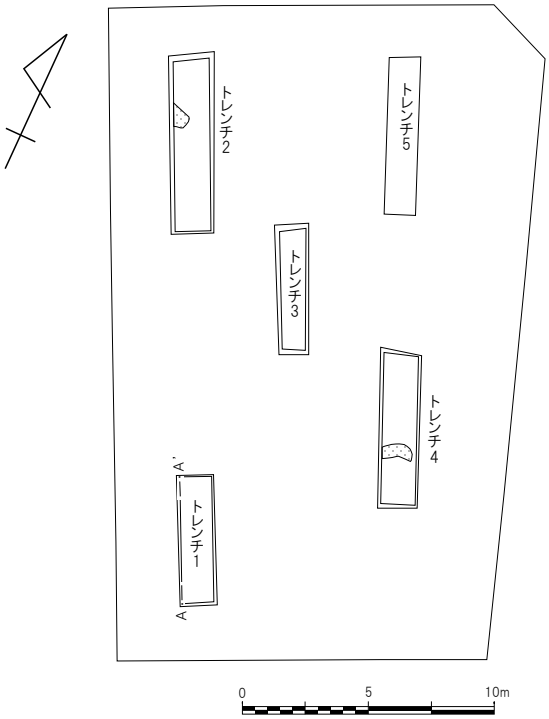
Ⅲ. ソフトローム
1. 暗赤褐色土（2.5YR3/2）締り弱、粘り弱、ローム混じり少し含む
2. 明黄褐色土（10YR7/6）締り硬く、粘り強、客土ローム
3. 黒褐色土（10YR3/1）締り弱、粘り強、ロームブロック混じる

0　5　10m

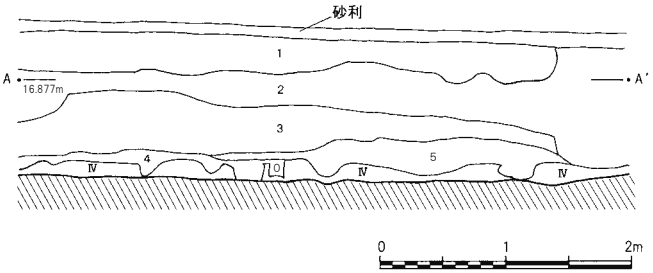
トレンチ 2



第 178 地点



トレンチ 1



Ⅳ. ハードローム
0. 攪乱
1. 表層は駐車場の砂利、直下ローム混じりの茶褐色土
2. 暗褐色土　軟質サクサクしている
3. 客土　ローム主体で黒色混入、北に向かって薄くなる
4. 黒褐色土
5. 茶褐色土　ロームブロック多く含む

第 125 図　西ノ原遺跡第 177・178 地点調査区域図 (1/300)、土層 (1/150・1/60)、第 177 地点出土遺物 (1/4)

第 20 章　中沢前遺跡の調査

Ⅰ　遺跡の立地と環境

中沢前遺跡は、東武東上線ふじみ野駅の南約 200 m、さかい川の谷頭部から約 700 m下った右岸、標高 17 ～ 18 mに位置する。本遺跡の西側には西ノ原遺跡が隣接し、さかい川を挟んで北側には富士見市中沢遺跡がある。

2020 年 4 月現在、33 ヶ所で調査を行い、確認した遺構と遺物は旧石器時代 (立川ローム層Ⅳ～Ⅲ層上面) の石器集中 1 ケ所と、縄文時代とみられる土坑とピット、中近世の土坑・地下室・溝である。縄文時代の遺物は前期の黒浜式と中期の加曽利 E 式の土器片が遺構外から出土しているがごく僅かである。中近世の遺構からは陶磁器等が出土しており、その中に須恵器片等が含まれており、既期の遺構の存在も予想されるが、遺跡の範囲や内容については未だ確定していない。

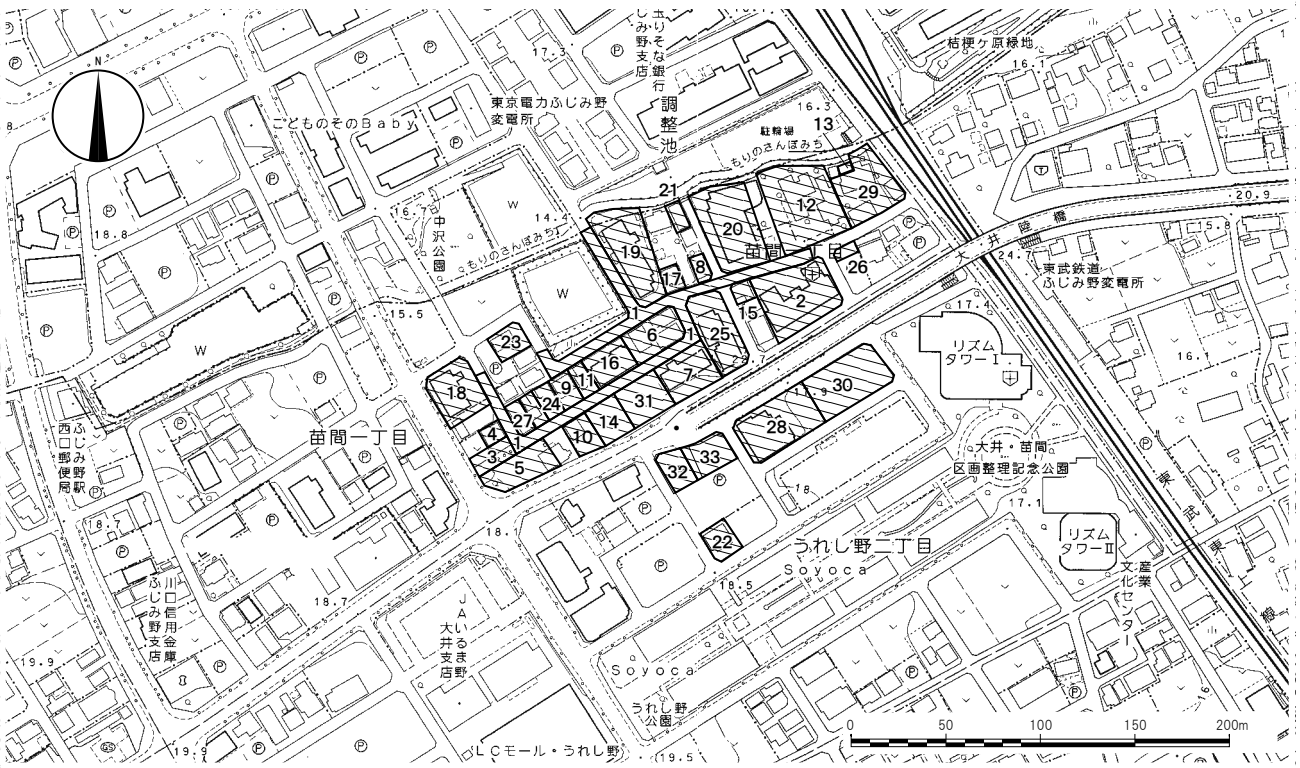
Ⅱ　中沢前遺跡第 32 地点

（1）調査の概要

調査は共同住宅建設に伴うもので、原因者より 2019 年 1 月 15 日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の南部に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため 2019 年 1 月 30 日に試掘調査を実施した。

試掘調査は幅約 1.5m のトレンチ 3 本を設定し、重機による表土除去後人力による表面精査を行った。現地表面から地山ローム層までの深さは約 40 ～ 60 ㎝である。

調査の結果、遺構・遺物は確認されなかったため、写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえで埋戻し、調査を終了した。



第 126 図　中沢前遺跡の地形と調査区（1/4,000)

第 63 表　中沢前遺跡調査一覧表

地区 地点	所在地	調査期間 ( ) は試掘調査	開発面積 (㎡)	調査面積 ( ) は試掘	調査原因	確認された遺構と遺物	備考	所収報告書
1	苗間 184-1、189-3	1990.8.28 ～ 10.18	1,155		道路	土坑、ピット、縄文土器		大調 6
2	苗間 221-3	(1991.3.14 ～ 18)	1,333		個人住宅	遺構なし、縄文土器		町内 I
3	苗間字西ノ原 189-3	(1992.10.1・2)	272		個人住宅	遺構遺物なし		町内 II
4	苗間字西ノ原 201-2	(1992.11.13) 1992.11.14 ～ 20	168		個人住宅	土坑、ピット、土器片		町内 II
5	苗間字西ノ原 184-1	(1993.2.13 ～ 18)	732		駐車場	遺構遺物なし		町内 II
6	苗間 202-1	(1993.4.23 ～ 26)	506		個人住宅	土坑、縄文土器		町内 III
7	苗間 202-1・3	(1993.11.26 ～ 29)	687		駐車場	遺構遺物なし		町内 III
8	苗間 206-2	(1993.2.3・4)	137		事務所	遺構遺物なし		町内 III
9	苗間 190	(1995.8.23・24)	222		個人住宅	土坑		町内 V
10	苗間 185-1		174				未調査	
11	苗間 191-1	(1996.11.12)	155		個人住宅	遺構遺物なし		町内 VI
12	苗間 221	(1996.12.18 ～ 20)	1,323		個人住宅	落とし穴、縄文土器		町内 VI
13	苗間 1-7-5 の一部						未調査	
14	苗間 191-1・4	(1997.2.26 ～ 3.2)	310		店舗	遺構遺物なし		町内 VII
15	苗間 1-9-1	(1998.7.13)	109		個人住宅	遺構なし、縄文土器		町内 VIII
16	苗間 1-11-4・5	(1999.3.11 ～ 15)	482		共同住宅	遺構遺物なし		町内 VIII
17	苗間 1-6-2	(1999.3.11 ～ 15)	165		個人住宅	遺構遺物なし		町内 VIII
18	苗間 1-12	(1999.7.21 ～ 28)	620	(110)	店舗付共同住宅	遺構遺物なし		町内 IX
19	苗間 1-6-1・9	(1999.7.23 ～ 30)	1,080	(360)	共同住宅	土坑、遺物なし		町内 IX
20	苗間 1-7-1	(1999.11.25 ～ 30)	374	(231)	駐車場	溝、ピット、堀跡、縄文土器		町内 IX
		(2003.2.3 ～ 5) 2003.4.7 ～ 6.3	978	762	老人介護施設	石器群、集石、落とし穴、土坑、溝、溝状遺構、ピット、地下室、柵列、縄文土器 等		大調 21
21	苗間 1-6-4・5	(1999.11.29 ～ 30)	120	(19)	個人住宅	遺構なし		町内 IX
22	うれし野 2-15-15	(2000.5.25・26)	212	(20)	個人住宅	遺構遺物なし		町内 X
23	苗間 1-11-1	(2001.5.11 ～ 15)	261	(85)	個人住宅	旧石器礫群、旧石器		町内 XI
24	苗間 1-11-4	(2003.2.7 ～ 13)	185	(68)	個人住宅	境界溝		町内 XII
25	苗間 1-10-8	(2004.6.4 ～ 10)	809	(225)	共同住宅	土坑、ピット、石器		町内 XII
26	苗間 1-11-13	(2005.11.30 ～ 12.1)	170	(54)	個人住宅	遺構遺物なし		市内 2
27	苗間 1-11-4	(2010.2.9・10)	170.2	(50)	個人住宅	遺構遺物なし		市内 8
28	うれし野 2-8-1 他	(2011.6.8 ～ 14)	1,016	(295)	共同住宅	遺構なし、縄文土器		市内 14
29	苗間 1-8-3 ～ 7	(2012.10.1 ～ 5)	389	(77)	店舗	土坑、ピット、縄文土器		市内 15
30	うれし野 2-8-2 他	(2013.2.4)	1,090	(60)	駐車場	遺構遺物なし		市内 15
31	苗間 1-10-5	(2013.5.8 ～ 10)	381	(147)	共同住宅	遺構遺物なし		市内 18
32	うれし野 2-7-1・9	(2019.1.30)	312	(85.58)	共同住宅	遺構遺物なし		市内 25
33	うれし野 2-7-2	(2019.3.8)	388	(51.88)	分譲住宅	遺構遺物なし		市内 25

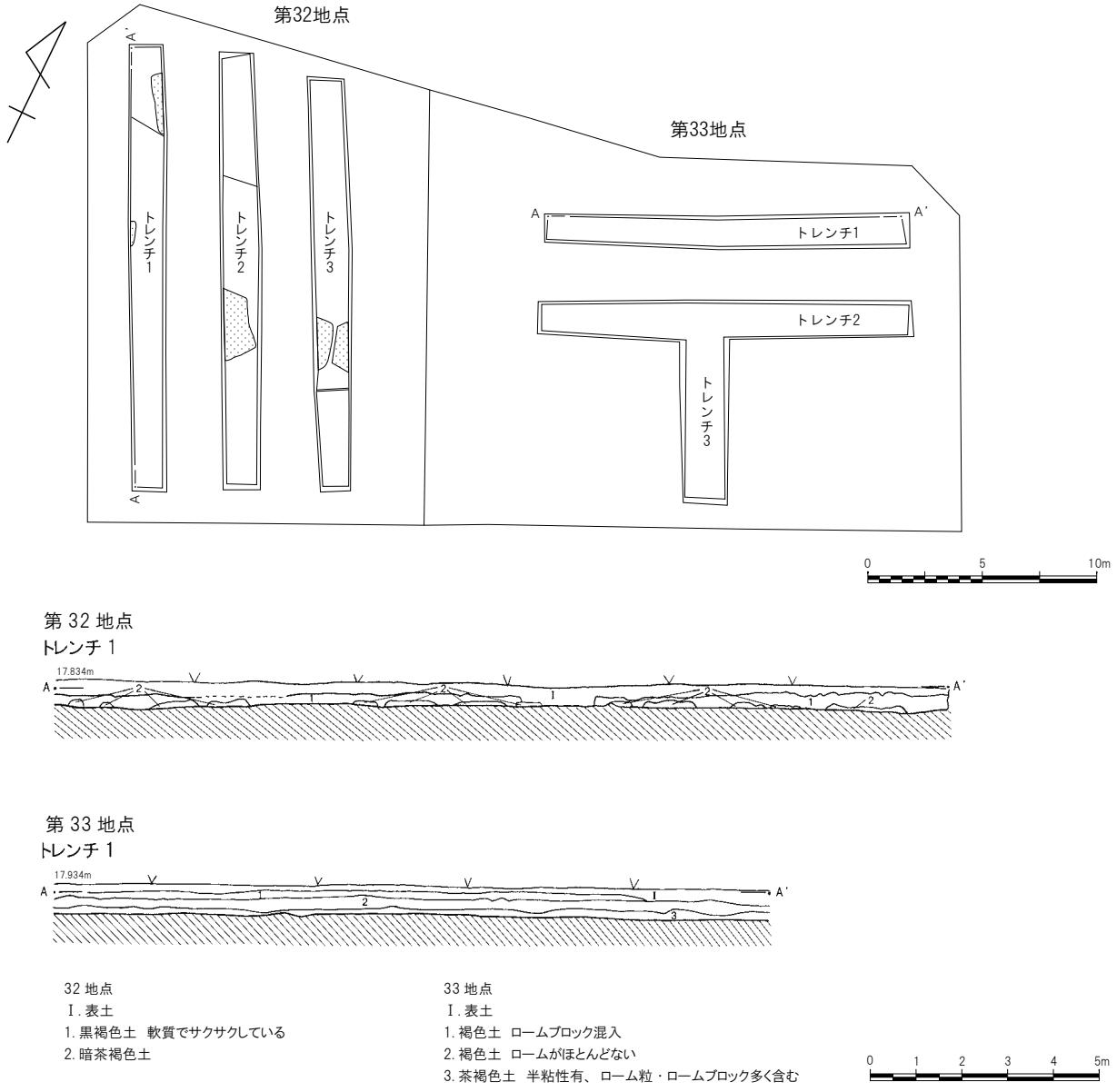
Ⅲ　中沢前遺跡第 33 地点

（1）調査の概要

調査は分譲住宅建設に伴うもので、原因者より 2019 年 2 月 21 日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の南部に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため 2019 年 3 月 8 日に試掘調査を実施した。

試掘調査は幅約 1.5m のトレンチ 3 本を設定し、重機による表土除去後人力による表面精査を行った。現地表面から地山ローム層までの深さは約 50 ～ 60 ㎝である。

調査の結果、遺構・遺物は確認されなかったため、写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえで埋戻し、調査を終了した。



第 127 図　中沢前遺跡第 32・33 地点調査区域図 (1/300)、土層 (1/150)

第 21 章　神明後遺跡の調査

Ⅰ　遺跡の立地と環境

神明後遺跡は、東武東上線ふじみ野駅の東約 300m、さかい川の谷頭部から約 1,500m 下った右岸に位置し、標高 12 ～ 16m、現谷底との比高差は 1.5m を測る。さかい川は本遺跡付近から崖を形成し始め、本遺跡をのせる南側台地は急斜面、対岸の北側は緩やかな斜面を形成している。

周辺の遺跡は、上流に中沢前遺跡、下流に浄禅寺跡遺跡、苗間東久保遺跡が隣接し、さかい川の対岸には富士見市の外記塚遺跡がある。

遺跡周辺は古くからの集落があり、現在でも大きな屋敷地が多く大きな開発もなかったが、ふじみ野駅の開設に伴い徐々に再開発が進みつつある。

本遺跡の最初の調査は 1987 年に大井町史編纂事業の一環として行われた。その後 1993 年に新駅へ延びる道路をはじめ、2020 年 4 月現在、57 地点で試掘調査および発掘調査が行われている。

これまでの調査で縄文時代中期後半～後期前半の住居跡、奈良時代から平安時代の住居跡、中世の建物跡などの遺構を検出した。

第 128 図　神明後遺跡の地形と調査区（1/4,000）

第 64 表　神明後遺跡調査一覧表

地区地点	所在地	調査期間 ( ) は試掘調査	開発面積 (㎡)	調査面積 ( ) は試掘	調査原因	確認された遺構と遺物	備考	所収報告書
1	苗間 281-1	1993.5.6 ～ 11	615.47		共同住宅	溝、須恵器片 等		町 III
2	苗間 295-2、299-3	1993.5.12 ～ 20	1,688		道路築造	古代住居跡 1、中近世掘建柱建物跡多数、落とし穴、土坑、堀跡、井戸、地下式抗		町 III
3	苗間 309-12	(1995.3.24 ～ 29) 1995.4.3 ～ 5.19	200.03		分譲住宅	縄文時代住居跡 1、土坑、ピット、縄文土器 等		町 VI
4	苗間 302	(1996.6.17 ～ 19)	703.76		物置	遺構なし、縄文土器片		町 VI
5	苗間神明後 395-5	(1997.3.15) 1997.3.15 ～ 4.2	80.17		個人住宅	縄文時代住居跡 1、土坑、溝、縄文土器		町 VI
6	苗間 255、227-2	(1997.9.29 ～ 30)	150.79		個人住宅	土坑、縄文土器片 等		町 VII
7	苗間 260	(1998.6.1 ～ 2)	1,460		個人住宅	地下室、縄文土器 等		町 VIII
8	苗間 235-1	(1998.7.21 ～ 24)	458		共同住宅	集石土坑、土坑、溝、柵列、縄文土器片		町 VIII
9	苗間 310-1	(1998.9.1 ～ 11) 1998.9.14 ～ 10.15	219		共同住宅	縄文時代住居跡 4、集石土坑、落とし穴、土坑、ピット、井戸、地下室、縄文土器 等		町 VIII
10	苗間 298-1	(1999.9.16)	44	(3)	個人住宅	遺構なし、縄文土器片		町 IX
11	苗間 366	(1999.10.21) 1999.10.22 ～ 26	239	(97)	個人住宅	土坑、ピット、縄文土器 等		町 IX
12	苗間 282-2･5	(2000.3.6)	211	(8)	共同住宅	遺構遺物なし		町 IX
13	苗間 302-1	(2000.4.17 ～ 19)	694	(154)	個人住宅	土坑、ピット、縄文土器 等		町 X
14	苗間 252-2	(2000.8.18 ～ 23)	357	(196)	共同住宅	中近世掘建柱建物跡 1、土坑、ピット、溝、井戸、柵列、縄文土器 等		町 X
15	苗間 293-15	(2001.4.11) 2001.4.12 ～ 13	163	50	個人住宅	集石土器、縄文土器片		町 XI
16	苗間 309-14	(2001.7.23 ～ 24) 2001.7.25 ～ 9.3	165	189	個人住宅	竪穴状遺構、屋外埋甕、土坑、ピット、溝、地下式抗、地下室、縄文土器 等		町 XI
17	苗間 369-1	(2002.3.28)	581	(7.5)	個人住宅	溝、砥石		町 XI
18	苗間 304-1、303-6	(2002.5.15 ～ 25) 2002.5.27 ～ 6.24	672	(220)	分譲住宅	縄文時代住居跡 5、炉穴、土坑、溝、ピット、堀跡		町 XII
19	苗間 264-4	(2002.9.18 ～ 20)	216		個人住宅	溝		町 XII
20	苗間 293-11	(2003.1.14 ～ 15)	143		個人住宅	ピット、溝		町 XII
21	苗間 283-1	(2003.1.10 ～ 30)	674		土地造成	土坑、ピット、井戸、地下室、段切、陶磁器		町 XII
22	苗間 235-2･3	(2003.7.8 ～ 29)	430		分譲住宅	土坑、ピット、溝、井戸、陶磁器		町 XII
23	苗間 253	(2004.4.9)	62		個人住宅	地下室、銭貨		町 XII
24	苗間神明後 293-4･10	(2004.9.30 ～ 10.7)	148		個人住宅	遺構遺物なし		町 XII
25	苗間 295-1	(2004.9.30 ～ 10.7)	660		店舗併用住宅	遺構遺物なし		町 XII
26	苗間神明後 301、303-3 ～ 5・7、304-1	(2005.6.1 ～ 8) 2005.6.15 ～ 30	689	(160)	分譲住宅	縄文時代住居跡 1、土坑、溝、地下式抗、縄文土器 等		大調 18
27	苗間 248-2、249-1	(2005.7.20 ～ 25) 2005.7.27 ～ 29	385	(80)	共同住宅	縄文時代住居跡 1		大調 18
28	苗間神明後 306-1	(2006.5.8 ～ 31) 2006.6.29 ～ 10.5	2,171	(1,200)	宅地造成	縄文時代住居跡 11、古代住居跡 1、屋外炉、集石、落とし穴、土坑、ピット、溝、堀跡、縄文土器		市 3
29	苗間神明後 303-21･24	(2006.5.8 ～ 11) 2006.5.12 ～ 19	135.9	(52)	個人住宅	ピット、溝、縄文土器		市 3
30	苗間神明後 303-1	(2006.5.8 ～ 19) 2006.12.14 ～ 19	101.13	(60)	個人住宅	ピット、縄文土器		市 3
31	苗間神明後 284	(2007.8.3 ～ 7)	499	(72)	個人住宅	土坑		市 4
32	苗間神明後 247-2	(2008.3.13)	136	(31)	個人住宅	遺構なし、泥面子		市 4
33a	苗間 240-2	(2008.4.25 ～ 5.16)	298	(209)	個人住宅	落とし穴、土坑、ピット、溝、井戸、陶磁器 等		市 6
33b			357		分譲住宅			
34	苗間字神明後 283-1、284-1 の一部	(2008.4.30 ～ 5.15) 2008.5.16 ～ 28	1,693	(357)	分譲住宅	縄文時代住居跡 1、集石、落とし穴、ピット		市 5
35	苗間字神明後 293-6･20	(2008.8.1)	247	(26)	個人住宅	ピット、遺物なし		市 6
36	苗間字神明後 293-3	(2008.9.2)	165	(37)	個人住宅	遺構遺物なし		市 6
37	苗間 258-1 の一部	(2009.4.13) 2009.4.15 ～ 30	120	(27) 32.5	個人住宅	縄文時代住居跡 1、縄文土器		市 8
38	苗間字神明後 292-13、293-1	(2009.7.6 ～ 7) 2009.7.8 ～ 14	265.4	(118) 30	個人住宅	溝、縄文土器		市 8
39	苗間字神明後 264-1	(2009.8.5 ～ 12) 2009.8.24 ～ 9.1	378	(114) 105	共同住宅	落とし穴、土坑、ピット、溝、地下式坑、縄文土器		市 7
40	苗間 309-1	(2009.11.9 ～ 16) 2009.12.18～2010.1.15	156	47 (77)	個人住宅	竪穴状遺構、集石土坑、土坑、ピット、溝、井戸、地下式坑、縄文土器		市 8

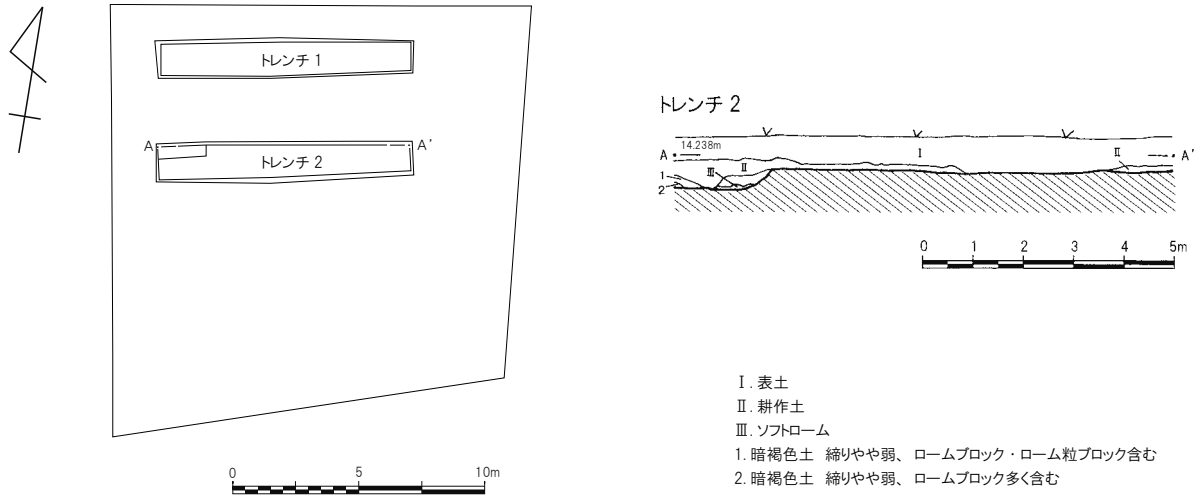
地区地点	所在地	調査期間 （ ）は試掘調査	開発面積 （㎡）	調査面積 （ ）は試掘	調査原因	確認された遺構と遺物	備考	所収報告書
41	苗間字神明後 298-1、299-1 の各一部	(2010.5.25 ～ 6.7) 2010.6.15 ～ 7.21	486.36	(400) 286	共同住宅	中世掘立柱建物跡 1、竪穴状遺構、石器集中、集石土坑、土坑、ピット、溝、木炭窯、石器 等		市 9
42	苗間神明前 380-3	(2010.6.1 ～ 2)	312	(44)	宅地造成	遺構遺物なし		市 10
43	苗間 292-14	(2010.10.20 ～ 22) 2010.10.22	107	(42) 10	個人住宅	ピット、縄文土器 等		市 10
44	苗間神明後 367-1、368-1 の一部	(2011.7.8) 2011.7.11 ～ 13	1,535.9	(63) 21	個人住宅	落とし穴、遺物なし		市 14
45	苗間神明後 235-9	(2011.12.5)	200	(61)	個人住宅	遺構遺物なし		市 14
46	苗間神明後 235-6	(2012.4.9 ～ 10)	233	(52)	個人住宅	土坑、縄文土器片		市 15
47	苗間神明後 227-2	(2012.4.24) 2012.4.25 ～ 5.10	340	(55) 27.5	個人住宅	集石、ピット、縄文土器片		市 15
48	苗間神明後 315-1 の一部	(2012.5.7) 2012.5.8 ～ 14	171	(44) 26	個人住宅	土坑、ピット、溝、井戸、縄文土器 等		市 15
49	苗間神明後 367-1,368-6	(2013.1.30)	1,411.3	(8)	個人住宅	遺構遺物なし		市 15
50	苗間 375	(2013.12.11)	531.8	(31.7)	薬師堂	土坑、磁器 等		市 18
51	神明後 295-1、297-1・2 の一部、298-1、299-1	(2014.11.5 ～ 13) 2014.11.20 ～ 25	487.33	(116) 42.5	共同住宅	土坑、溝、縄文土器		市 16
52	苗間字神明後 231-1	(2015.1.28)	379	(44.4)	個人住宅	ピット、縄文土器片		市 20
53	苗間字神明後 298-1	(2015.3.19)	495	(14.5)	個人住宅	遺構遺物なし		市 20
54	苗間字神明後 293-7・9	(2015.12.3)	342	(6)	共同住宅	遺構遺物なし		市 22
55	苗間字神明後 310-1 の一部	(2017.5.8) 2017.5.9 ～ 12	180	(28) 27.44	個人住宅	縄文時代住居跡 2、土坑、ピット、縄文土器 等		市内 24
56	苗間字神明後 374-34	(2019.11.11)	255.58	(30.3)	個人住宅	遺構遺物なし		市内 25
57	苗間字神明後 310-9	(2020.1.21)	146	(15.46)	個人住宅	遺構なし、縄文土器		市内 25

Ⅱ　神明後遺跡第 56 地点

（1）調査の概要

調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者より 2019 年 8 月 23 日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の南西部に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため 2019 年 11 月 11 日に試掘調査を実施した。

試掘調査は幅約 1.5m のトレンチ 2 本を設定し、重機による表土除去後人力による表面精査を行った。調査の結果、現地表面から地山ローム層までの深さが約 90 ㎝であるため、保護層の確保が可能であると判断し、写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえで埋戻し、調査を終了した。



第 129 図　神明後遺跡第 56 地点調査区域図 (1/300)、土層 (1/150)

Ⅲ　神明後遺跡第 57 地点

（1）調査の概要

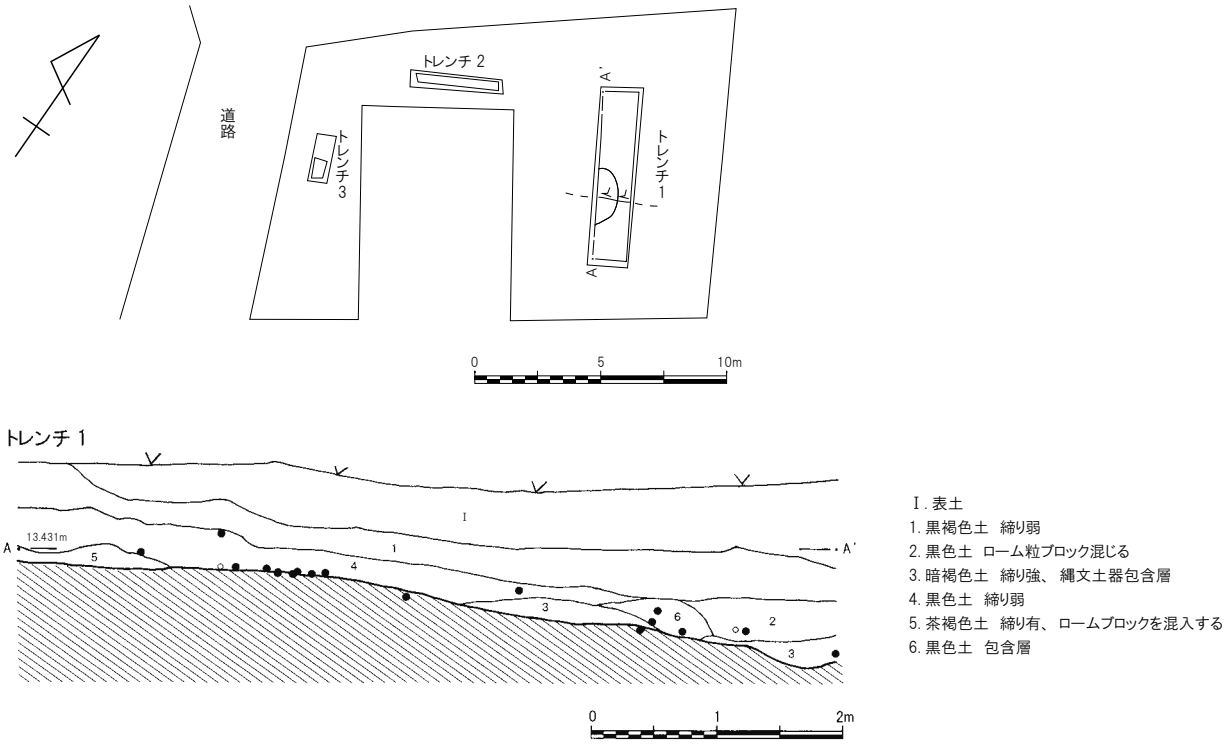
調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者より 2019 年 12 月 4 日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の中央部に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため 2020 年 1 月 21 日に試掘調査を実施した。

試掘調査は幅約 0.5 ～ 1.5m のトレンチ 3 本を設定し、重機による表土除去後人力による表面精査を行った。現地表面から地山ローム層までの深さは約 80 ～ 130 ㎝である。

調査の結果、覆土中に縄文土器片を多く含むが遺構は確認されなかったため、写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえで埋戻し、調査を終了した。

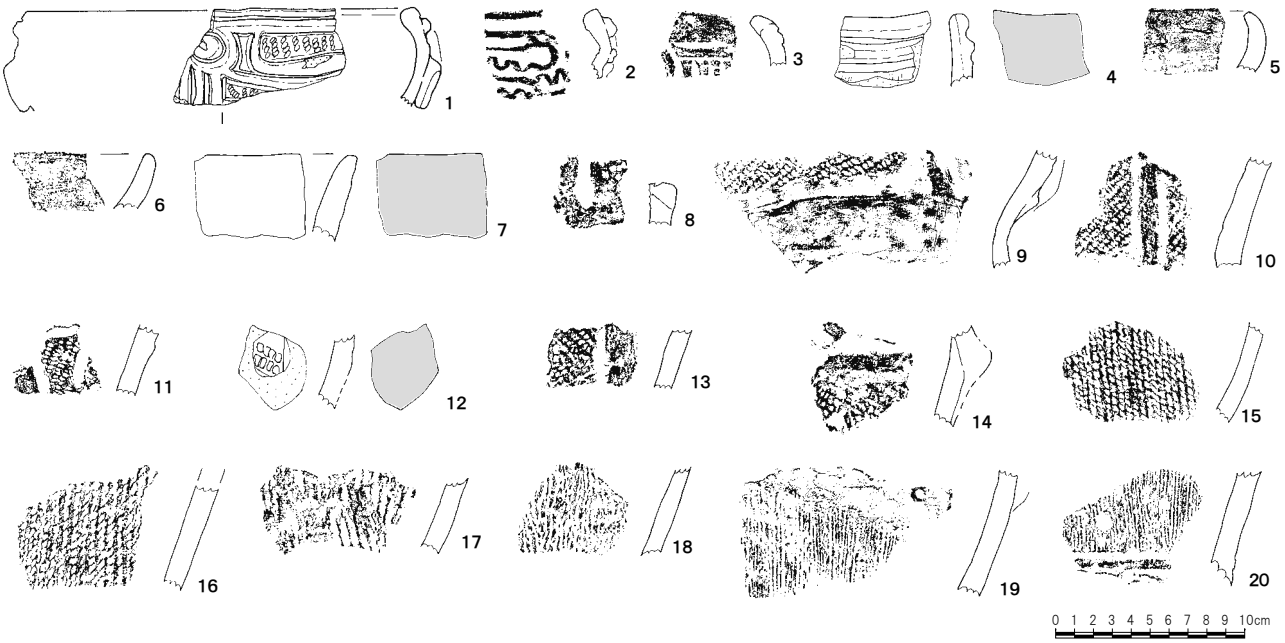
（2）遺構と遺物

出土遺物は地山ローム層直上の縄文時代包含層からの出土が中心である。詳細については第 131 図及び第 65 表に掲載した。



第 130 図　神明後遺跡第 57 地点調査区域図 (1/300)、土層 (1/60)

遺構外



第 131 図　神明後遺跡第 57 地点出土遺物 (1/4)

第 65 表　神明後遺跡第 57 地点出土遺物観察表 (単位 cm・g)

図版番号	出土遺構	種別・器種	技法・文様・備考	時期・型式
第 131 図 -1	遺構外	縄文・深鉢	口縁部、地文 LR 縄文、竹管状工具及び隆帯による施文・胎土に赤色粒子を含む	中期・加曽利 E Ⅰ
第 131 図 -2		縄文・深鉢	口縁部、隆帯による施文・内外面黒色化、胎土に白色粒子を含む	中期・曽利式
第 131 図 -3		縄文・深鉢	口縁部、竹管状工具による沈線・内面黒色化、ハジケ・胎土に白色粒子を多量に含む	中期・加曽利 E Ⅰ
第 131 図 -4		縄文・深鉢	口縁部、沈線による施文・内面に赤彩の痕跡有、内面ハジケ・胎土に白色粒子を含む	中期・加曽利 E Ⅰ
第 131 図 -5		縄文・深鉢	口縁部、無文・外面にタール付着、内面ハジケ	中期
第 131 図 -6		縄文・深鉢	口縁部、無文・外面黒色化、胎土に砂礫を多く含む	中期
第 131 図 -7		縄文・深鉢	口縁部、無文・内面赤彩、外面の一部に煤付着、胎土に白色粒子を含む	中期
第 131 図 -8		縄文・深鉢	口縁部、口唇部に切れ込みと円形刺突文を施す・外面一部黒色化、胎土に白色粒子を多く含む	中期
第 131 図 -9		縄文・深鉢	胴部、地文 RL 縄文、隆帯による施文・外面赤化、内面ハジケ、胎土に白色粒子を含む	中期・加曽利 E Ⅰ
第 131 図 -10		縄文・深鉢	胴部、地文 RL 縄文、2 本の縦位沈線・内外面摩耗が激しい、胎土に砂礫を多く含む	中期・加曽利 E Ⅰ？
第 131 図 -11		縄文・深鉢	胴部、地文 RL 縄文、2 本の縦位沈線・内面ハジケ、外面赤化、胎土に砂礫を多く含む	中期・加曽利 E Ⅰ～Ⅱ
第 131 図 -12		縄文・深鉢	胴部、LR 縄文、外面ハガレ、内面赤彩、胎土に白色粒子を多く含む	中期
第 131 図 -13		縄文・深鉢	胴部、地文 LR 縄文、縦位沈線・内外面摩耗が激しい、胎土に白色粒子を含む	中期
第 131 図 -14		縄文・深鉢	胴部、LR 縄文、隆帯貼付・内面黒色化、外面ハジケ、内外面とも摩耗が激しい、胎土に白色粒子を含む	中期
第 131 図 -15		縄文・深鉢	胴部、地文撚糸文・内面黒色化、ハジケ、胎土に白色粒子と砂礫を多く含む	中期・加曽利 E Ⅰ～Ⅱ
第 131 図 -16		縄文・深鉢	胴部、地文撚糸文・外面一部黒色化、内面ハジケ、煤、コゲ付着、胎土に砂礫を多く含む	中期・加曽利 E Ⅰ～Ⅱ
第 131 図 -17		縄文・深鉢	胴部、地文 LR 縄文か・内面ハジケ、全体的に摩耗が激しい、胎土に黒色粒子を含む	中期
第 131 図 -18		縄文・深鉢	胴部、細い撚糸文か・内外面被熱、外面赤化、胎土に砂礫を多く含む	中期
第 131 図 -19		縄文・深鉢	胴部、地文条線文、隆帯貼付か・外面黒色化、胎土に白色粒子を多く含む	中期・曽利式か
第 131 図 -20		縄文・深鉢	胴部、地文条線文、横位平行沈線・内外面ハジケ、内面一部煤付着、胎土に砂礫を多く含む	中期・曽利式か

第 22 章　苗間東久保遺跡の調査

Ⅰ　遺跡の立地と環境

苗間東久保遺跡は、東武東上線ふじみ野駅の東約 600 m、さかい川の谷頭部から約 1,800 m下った右岸、さかい川と浄禅寺川にはさまれた台地の縁辺に位置し、標高 10 ～ 11 m、現谷底との比高差は 1 ～ 1.5 m を測る。さかい川と本遺跡をのせる南側台地の間に緩やかな斜面を形成している。

周辺の遺跡は、さかい川上流に富士見市中沢遺跡、下流に富士見市外記塚遺跡、浄禅寺川対岸には浄禅寺跡遺跡がある。遺跡周辺は畑が多く見られたが、ふじみ野駅の開設に伴い、個人住宅などの小規模な開発が進みつつある。

本遺跡の最初の調査は 1979 年に開発に伴う緊急調査として行われた。2020 年 4 月現在、29 ヶ所で試掘調査及び発掘調査が行われている。

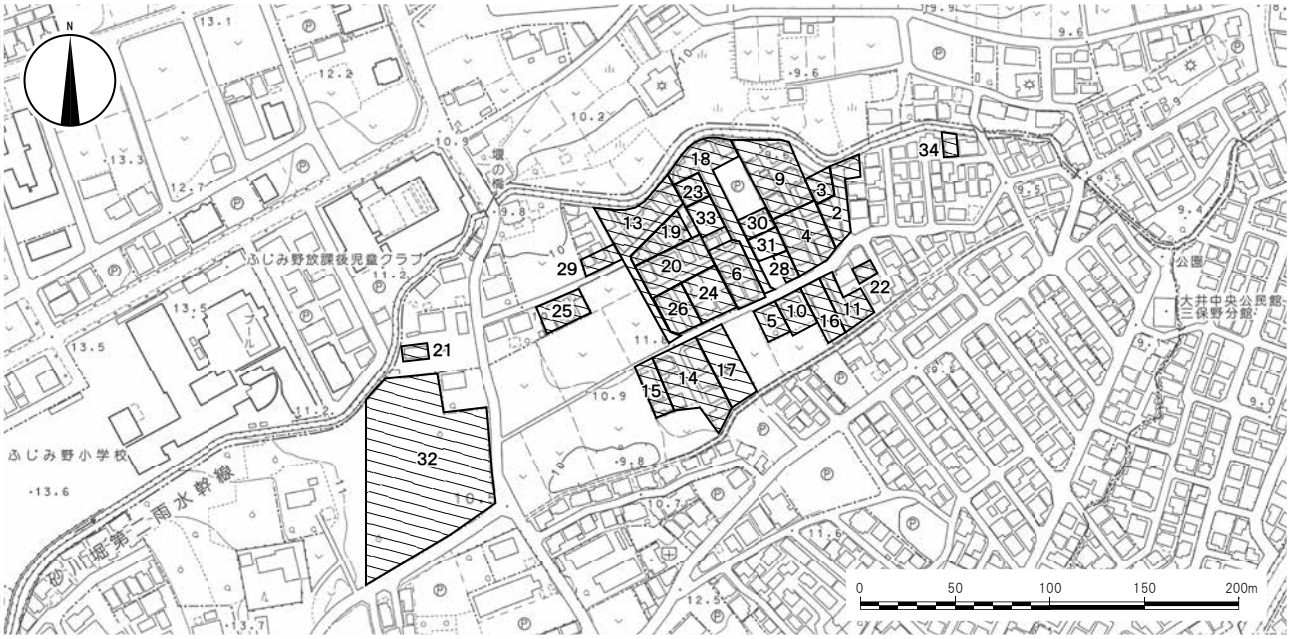
これまでの調査で縄文時代早期の落とし穴や炉穴、中期後半～後期中葉の住居跡、落とし穴、土坑、集石土坑、ピット等が多数確認検出されている。

Ⅱ　苗間東久保遺跡第 34 地点

（1）調査の概要

調査は建売住宅建設に伴うもので、原因者より 2018 年 4 月 27 日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の北東部に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため 2018 年 5 月 16 日に試掘調査を実施した。

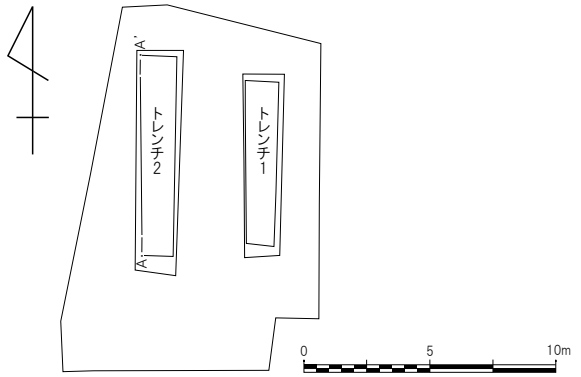
試掘調査は幅約 1.5m のトレンチ 2 本を設定し、重機による表土除去後人力による表面精査を行った。調査の結果、現地表面下 70 ㎝でも地山ローム層が確認できなかったため、保護層の確保が可能であると判断した。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえで埋戻し、調査を終了した。

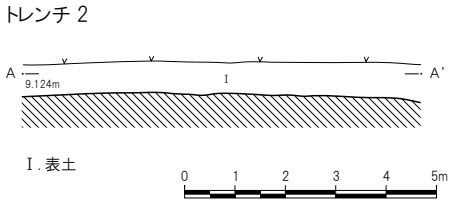


第 132 図　苗間東久保遺跡の地形と調査区 (1/4,000)

第 66 表　苗間東久保遺跡調査一覧表

地区地点	所在地	調査期間 ( ) は試掘調査	開発面積 (㎡)	調査面積 ( ) は試掘	調査原因	確認された遺構と遺物	備考	所収報告書
1	苗間字東久保 579-2 ～ 8	(1979.4.3 ～ 21)	605		共同住宅	炉穴、土坑、縄文土器 等	浄禅寺跡遺跡 1 地点へ変更	東部Ⅰ、町史資Ⅰ
2	苗間字東久保 646-6 ～ 10	(1979.9.4 ～ 10) 1979.10.30 ～ 11.8	530		共同住宅	縄文時代住居跡 1、縄文土器 等		東部Ⅰ
3	苗間字東久保 642-11・12	(1980.4.7)	200		共同住宅	遺構なし、縄文土器		東部Ⅱ
4	苗間字東久保 642	(1980.4.16 ～ 5.10)	750		共同住宅	縄文時代住居跡 2、土坑、縄文土器 等		東部Ⅱ
5	苗間字東久保 636-3	(1980.9.8 ～ 24)	106		共同住宅	炉穴、集石、土坑、ピット、縄文土器		東部Ⅱ
6	苗間字東久保 639	(1980.11.27 ～ 12.26)	577			縄文時代住居跡 2、炉穴、土坑、柱穴群、縄文土器		東部Ⅱ、町史資Ⅰ
7	苗間字東久保 573-3	(1982.4.1 ～ 3)	396		共同住宅	遺構なし、縄文土器	浄禅寺跡遺跡 2 地点へ変更	東部Ⅲ
8	苗間字神明前 568-7 ～ 9	(1981.4.2 ～ 9)	360		共同住宅	遺構遺物なし	浄禅寺跡遺跡 82-1 へ変更	東部Ⅳ
9	苗間字東久保 642-1	(1983.11.8 ～ 12.5)	660		共同住宅	池状遺構、土坑、縄文土器 等		東部Ⅴ
10		1984	340			土坑、ピット、縄文土器		未報告
11		1984	560			遺構なし、縄文土器 等		未報告
12	苗間東久保 581	1984.7.20・21	320		共同住宅	遺構なし	浄禅寺跡遺跡 3 地点へ変更	未報告
13		1984	900			縄文時代住居跡 2、土坑、ピット、縄文土器		町史資Ⅰ
14	苗間字東久保 635	(1987.4.1)	923			土坑、ピット、縄文土器		東部Ⅸ
15	苗間字東久保 635	(1988.12.8 ～ 14)	447		個人住宅	土坑、ピット、縄文土器		東部Ⅸ
16	苗間 645-1	(1990.8.21 ～ 24) 1989.8.24	390	117	共同住宅	縄文時代住居跡 1、土坑、縄文土器		東部Ⅺ
17	苗間 636-4	(1991.3.12 ～ 15)	583		駐車場	土坑、縄文土器		町内Ⅰ
18	苗間字東久保 464、639 他	(1992.6.2 ～ 9) 1992.9.7 ～ 10.22	906		分譲住宅	縄文時代住居跡 3、落とし穴、土坑、ピット、溝状遺構、縄文土器		大調 5
19	苗間 637-14 ～ 16	(1994.2.8 ～ 16) 1994.2.16 ～ 3.25	350		宅地開発	縄文時代住居跡 1、落とし穴、土坑、ピット、縄文土器 等		大調 12
20	苗間 637-18・19	(1998.3.18 ～ 24) 1998.6.15 ～ 8.13	664		分譲住宅	集石土坑、土坑、ピット、縄文土器 等		大調 12
21	苗間字神明後 333-1	(1999.8.3 ～ 6)	350	(95)	個人住宅	土坑、縄文土器 等		町内Ⅸ
22	苗間 645-11	(2001.10.25)	99	(6)	個人住宅	遺構なし、縄文土器		町内Ⅺ
23	苗間字東久保 640-9	(2004.9.1)	104		個人住宅	遺構遺物なし		町内Ⅻ
24	苗間東久保 637-1・28	(2006.3.7 ～ 3.20) 2006.4.10 ～ 28	561	515	分譲住宅	土坑、ピット、縄文土器 等		市内 2
25	苗間字東久保 631-3	(2007.7.11 ～ 23)	414	(176)	分譲住宅	ピット、縄文土器		市内 4
26	苗間字東久保 637-3・34	(2010.6.1 ～ 11) 2010.7.2 ～ 23	429	429	分譲住宅	縄文時代住居跡 1、土坑、ピット、縄文土器 等		市内 12
27	欠番							
28	苗間字東久保 644-1	(2011.7.21・22)	112	(6)	個人住宅	ピット		市内 14
29	苗間字東久保 630-1・3	(2011.7.28 ～ 8.1)	216	(68)	個人住宅	土坑、ピット、溝、縄文土器 等		市内 14
30	苗間字東久保 641-3、644-4	(2011.8.22 ～ 24)	238	(48)	個人住宅	遺構なし、縄文土器		市内 14
31	苗間字東久保 644-6・7	(2014.1.20 ～ 28)	220	(14)	個人住宅	土坑		市内 18
32	苗間字神明後 334-1、335-1、336-1、337-1	(2014.3.6 ～ 27) 2014.4.8 ～ 5.19	2989	(1010.5)	共同住宅	炉穴、落とし穴、土坑、ピット、溝、縄文土器 等		市内 16
33	苗間字東久保 640-1・10・11	(2016.7.14 ～ 25) 2016.7.28 ～ 8.1	313	(96.42) 60	分譲住宅	落とし穴、ピット、縄文土器 等		市内 19
34	苗間字東久保 649-20	(2018.5.16)	123.86	(24.3)	分譲住宅	遺構遺物なし		市内 25





第 133 図　苗間東久保遺跡第 34 地点調査区域図（1/300)、土層 (1/150)

第 23 章　浄禅寺跡遺跡の調査

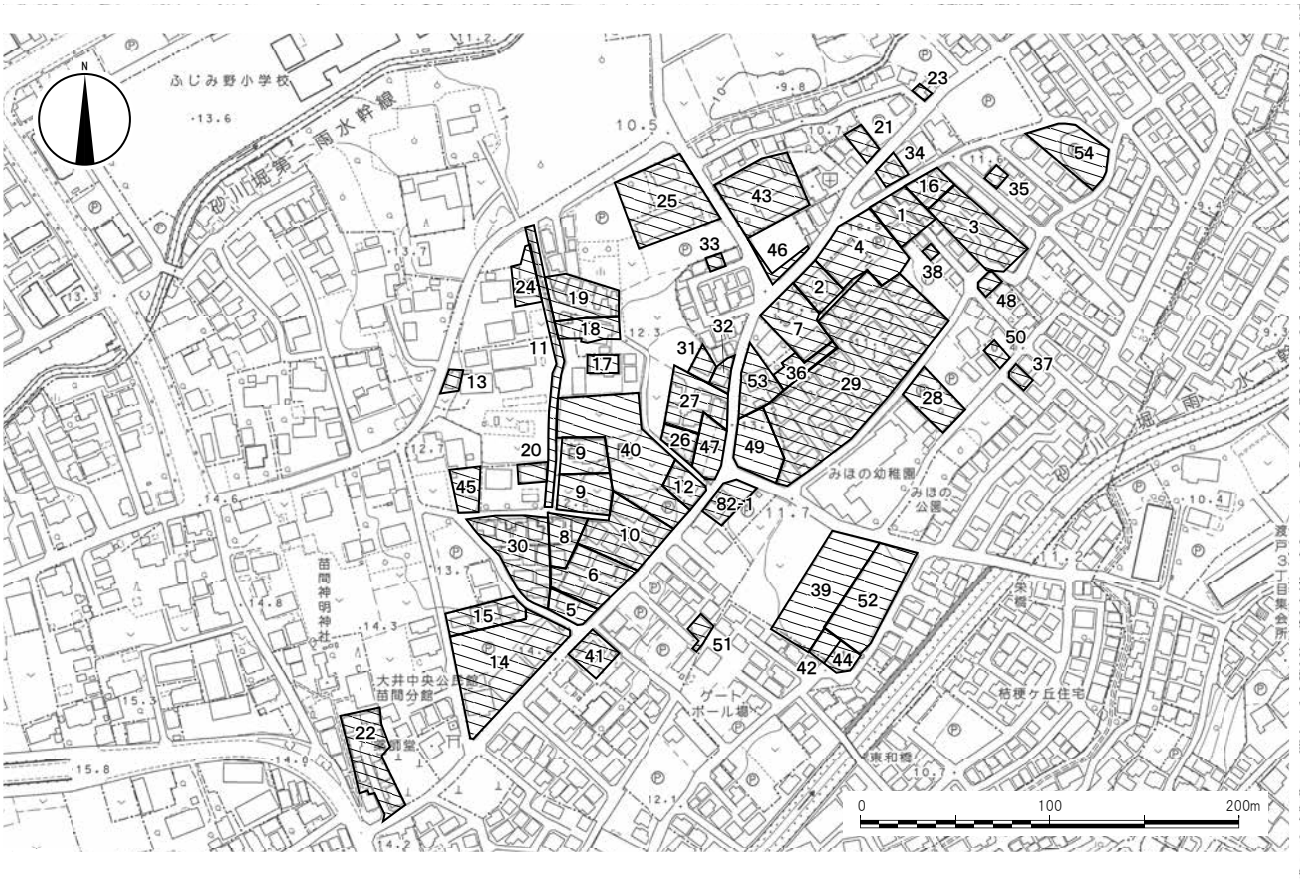
Ⅰ　遺跡の立地と環境

浄禅寺跡遺跡は、東武東上線ふじみ野駅の東約 600m、浄禅寺川の湧水地南側から右岸の台地上に位置する。標高 12 ～ 14m で現谷底との比高差は 2m を測る。浄禅寺川はさかい川と砂川堀の間を東流し、さかい川に合流する。さかい川はやがて砂川堀に合流して新河岸川へと注ぐ。

周辺の遺跡は北西に神明後遺跡、北側に苗間東久保遺跡が隣接する。本遺跡は 1989 年に苗間東久保遺跡の一部を、浄禅寺川を境に分割して登録した。

遺跡周辺は市街化が進み、残された畑地も周辺の区画整理の影響で開発が増加している。

2020 年 4 月現在、55 地点で試掘調査及び発掘調査を行い、縄文時代早期の炉穴多数、前期住居跡 1 軒、中期住居跡 4 軒、中・近世の薬研状の堀や遺跡名の由来である浄禅寺墓域から土壙墓 157 基、一字一石経約 76,000 点が出土している。浄禅寺は江戸時代に建立されたが、幕末に焼失して以来再建されていない。



第 134 図　浄禅寺跡遺跡の地形と調査区 (1/4,000)

第 67 表　浄禅寺跡遺跡調査一覧表

地区地点	所在地	調査期間 ( ) は試掘調査	開発面積 (㎡)	調査面積 ( ) は試掘	調査原因	確認された遺構と遺物	備考	所収報告書
1	苗間字東久保 579-2 ～ 8	(1979.4.3 ～ 21)	605		共同住宅	炉穴、土坑、縄文土器 等	旧苗間東久保 1 地点	東部 I
2	苗間字東久保 573-3	(1982.4.1 ～ 3)	396		共同住宅	遺構なし、縄文土器	旧苗間東久保 7 地点	東部 III
82-1	苗間字神明前 568-7 ～ 9	(1982.4.2~9)	360		共同住宅	遺構遺物なし	旧苗間東久保 8 地点	東部 IV
3	苗間字東久保 581	1984.7.20・21	320		共同住宅	遺構なし、縄文土器	旧苗間東久保 12 地点	未報告
4	苗間字神明後 346-1	1989.11.15 ～ 25	150		開発予定地	炉穴、土坑、ピット、縄文土器		東部 X
5	苗間 374-9	1991.8.28 ～ 9.3	100		個人住宅	根切り溝、縄文土器		町内 I
6	苗間 358-1	1991.9.21 ～ 24	826		個人住宅	遺構なし、縄文土器		町内 I
7	苗間字東久保 573-4	(1992.7.8 ～ 17) 1992.10.28 ～ 11.24	831		共同住宅	炉穴、ピット、堀跡、井戸、縄文土器		大調 5・町内 II
8	苗間 357-1	(1994.9.20 ～ 27)	615		宅地分譲	落とし穴、溝、縄文土器 等		町内 IV
9	苗間 353	(1994.10.18) 2007.5.22 ～ 24	1,266	70	農地改良 (個人住宅)	焼土、土坑、溝、縄文土器 等		町内 IV、市内 4
10	苗間 356-1	1994.10.31 ～ 11.2	999		宅地分譲	土坑墓、溝、一字一石経 等		大調 12
11	苗間 352-1 他	(1995.1.9 ～ 2.3)	572		道路	湧水口、焼土、陶磁器 等		町内 IV
12	苗間 35-95	1995.9.25 ～ 10.21	140		個人住宅	屋外炉、遺構外土器集中、ピット、溝、縄文土器 等		町内 V
13	苗間 314-2	(1996.1.8 ～ 29)	101		個人住宅	土坑、ピット、溝、井戸、縄文土器 等		町内 V
14	苗間 360-1、362-2	(1996.6.3 ～ 12) 1996.6.18 ～ 7.11	2,178		個人住宅	礫群、落とし穴、ピット、溝、縄文土器 等		町内 VI
15	苗間 362-4・5	(1996.6.3 ～ 12) 1996.7.12 ～ 8.2	494		分譲住宅	炉穴、土器		町内 VI
16	苗間 579-1	1997.11.10 ～ 12.19	291		個人住宅	縄文時代住居跡 1、炉穴、土坑、ピット、溝、縄文土器		町内 VII
17	苗間 345-2・10	(1998.9.29 ～ 10.2)	877		個人住宅	遺構なし、縄文土器		町内 VIII
18	苗間 345-3・4	(1999.5.26 ～ 6.24) 1999.6.26 ～ 8.3	599	303	個人住宅	炉穴、集石土坑、土坑、ピット、溝、縄文土器 等		町内 IX
19	苗間字神明後 345-15・16	(1999.8.18 ～ 27) 1999.8.28 ～ 9.14	703	703	分譲住宅	掘立柱建物跡 6、炉穴、焼土、集石土坑、土坑、溝、井戸、縄文土器 等		大調 15、町内 IX
20	苗間字神明後 351-1	(2001.10.26 ～ 29)	223	(17.6)	倉庫	遺構なし、陶磁器		町内 XI
21	苗間字東久保 591-3、592-7	(2001.11.19・20)	182	(12)	個人住宅	溝、遺物なし		町内 XI
22	苗間 373-5・8、377-5・3・4	(2002.4.23 ～ 5.14)	935		分譲住宅	土坑、ピット、溝、遺物なし		町内 XII
23	苗間 592-1	(2003.4.28)	100		個人住宅	ピット、溝、遺物なし		町内 XII
24	苗間字神明後 346-1・2 の一部	(2004.8.30・31)	391		個人住宅	遺構遺物なし		町内 XII
25	苗間字神明後 339-1・2 の各一部	(2004.9.22 ～ 10.12)	721		共同住宅	ピット、遺物なし		町内 XII
	苗間神明後 338-8、339-2	(2012.6.27)	844.8	(15)	個人住宅	遺構遺物なし		市内 14
26	苗間字神明後 354-2 の一部 354-23・24	(2005.3.3 ～ 8) 2007.4.17 ～ 28、6.7 ～ 15	226	(216)	分譲住宅	炉穴、土坑、ピット、溝、縄文土器		町内 XII、市内 3
27	苗間字神明後 354-2	(2005.12.1 ～ 2006.1.22) 2006.1.23 ～ 2.22	696	224	道路及び 分譲住宅	縄文時代住居跡 1、炉穴、屋外埋甕、土坑、ピット、溝、縄文土器 等		市内 2
28	苗間字東久保 719-7、720-1	(2007.1.23)	2,478	(22)	園舎改築	溝、遺物なし		市内 3
29	苗間 570-1・2、571-1・2、575	(2007.8.7 ～ 9.21) 2007.9.25 ～ 11.6	4,920	(1,251) 818	分譲住宅	中近世掘立柱建物跡 3、土坑、ピット、堀跡、溝、井戸、地下式坑、縄文土器 等		市内 4
30	苗間 359-1	(2007.9.14 ～ 10.9) 2007.10.9 ～ 11.2	1,298	(414) 100	分譲住宅	茶毘跡、木炭窯、落とし穴、土坑、ピット、溝、陶磁器 等		市内 4
31	苗間字神明後 342-14 の一部	(2008.2.19) 2008.2.19 ～ 3.5	171	(109) 109	個人住宅	縄文時代住居跡 1、炉穴、土坑、ピット、縄文土器 等		市内 4
32	苗間字神明後 340-17、342-10・15	(2007.2.25 ～ 3.4)	188	(40)	個人住宅	堀跡、ピット、縄文土器		市内 4
33	苗間字神明後 340-21	(2010.8.6) 2010.10.22	76	(1.2)	個人住宅	土坑、縄文土器		市内 10
34	苗間字東久保 586-7、587-2 の一部	(2012.8.24)	160	(48)	個人住宅	遺構遺物なし		市内 14
35	苗間字東久保 582-8	(2012.4.4)	80	(16)	個人住宅	ピット、縄文土器		市内 15
36	苗間字東久保 573-5 の一部	(2012.8.6 ～ 9) 2012.9.5 ～ 12	400	(90) 96	宅地造成 (個人住宅)	土坑、ピット、堀跡、溝、縄文土器		市内 15
37	苗間字東久保 727-17	(2012.11.21)	100.52	(9)	個人住宅	遺構遺物なし		市内 15
38	苗間東久保 578-11	(2013.5.13・14)	53.42	(15.9)	個人住宅	遺構遺物なし		市内 18

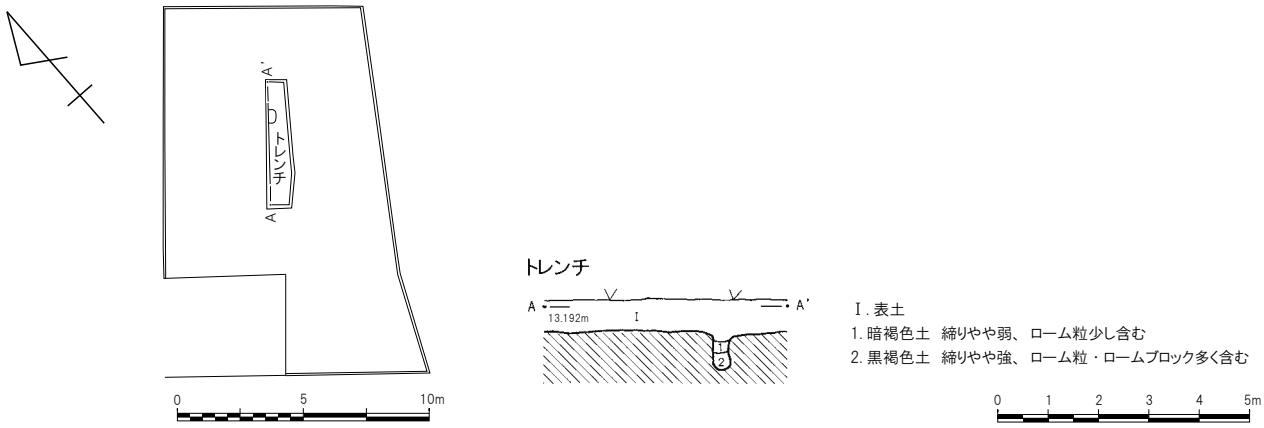
地区地点	所在地	調査期間 ( ) は試掘調査	開発面積 (㎡)	調査面積 ( ) は試掘	調査原因	確認された遺構と遺物	備考	所収報告書
39	苗間字神明前 565-1	(2013.6.25 ～ 7.3)	1,709	(564)	分譲住宅	溝、遺物なし		市内 18
40	苗間字神明後 355-1・2・12	(2015.8.19 ～ 9.30) 2015.10.1 ～ 11.9	2,308.06	(619) 456	分譲住宅	縄文時代住居跡 1、集石土坑、土坑、ピット、溝、井戸、地下式坑、縄文土器		市内 19・22
41	苗間字神明前 509-1・5	(2015.12.21)	349.73	(85.4)	分譲住宅	土坑、ピット、縄文土器		市内 22
42	苗間字神明前 564-3 の一部	(2016.4.8)	132.35	(38.55)	分譲住宅	土坑、遺物なし		市内 24
43	苗間字 589-1	(2016.6.20 ～ 24)	1,402	(165.67)	公園	遺構なし、土器		市内 24
44	苗間字神明前 564-5	(2016.7.1 ～ 4)	124.05	(30.64)	分譲住宅	溝、遺物なし		市内 24
45	苗間字神明後 349-3、350-4	(2016.8.18・19)	310	(19.44)	個人住宅	ピット、縄文土器 等		市内 24
46	苗間 588-10	(2017.2.6)	108	(70)	道路拡幅	遺構なし、縄文土器		市内 24
47	苗間字神明後 354-1	(2017.4.21 ～ 24) 2017.4.25 ～ 5.2	401	(115.05) 104.7	個人住宅	炉穴、土坑、ピット、縄文土器		市内 24
48	苗間字東久保 717-3	(2017.5.15)	103	(7)	分譲住宅	遺構遺物なし		市内 24
49	苗間字東久保 569-1	(2017.5.22・23)	798	(252.8)	分譲住宅	遺構遺物なし		市内 24
50	苗間字東久保 717-12	(2017.7.10)	132	(23.55)	個人住宅	遺構なし、陶器		市内 24
51	苗間字神明前 510-12・13	(2018.4.26)	112.58	(5.1)	分譲住宅	遺構遺物なし		市内 25
52	苗間字神明前 564-1	(2019.2.12・13)	1,186	(233.61)	老人ホーム・デイサービス	ピット、遺物なし		市内 25
53	苗間字東久保 572-2	(2019.7.30・31)	515	(28.71)	分譲住宅	遺構、遺物なし		市内 25
54	苗間 584	(2019.10.16 ～ 21)	800.09	(140.13)	分譲住宅	土坑、縄文土器		市内 25

Ⅱ　浄禅寺跡遺跡第 51 地点

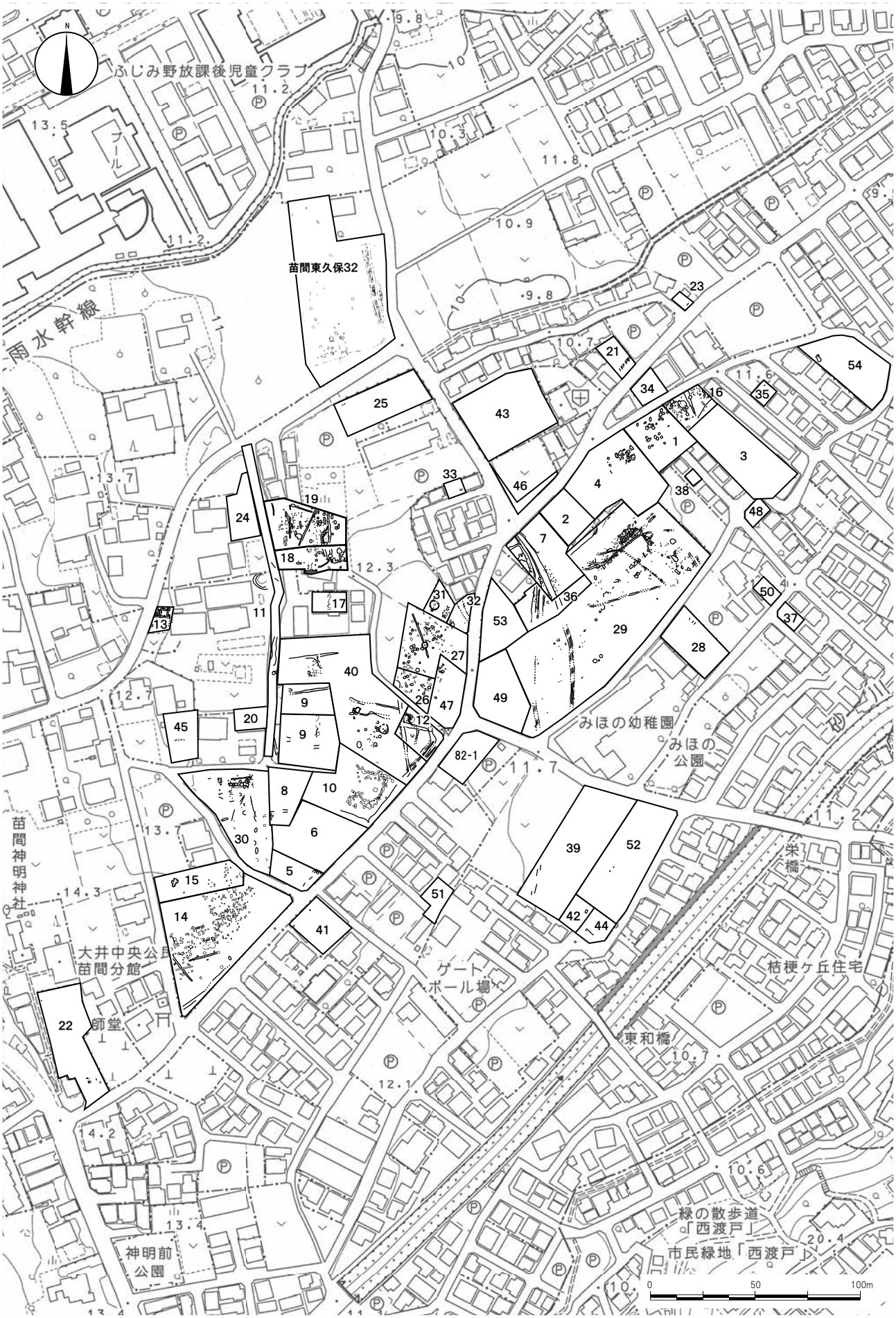
（1）調査の概要

調査は建売住宅建設に伴うもので、原因者より 2018 年 4 月 6 日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の南部に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため 2018 年 4 月 26 日に試掘調査を実施した。

試掘調査は幅 1m のトレンチ 1 本を設定し、人力による表土除去、表面精査を行った。調査の結果、遺構・遺物は確認されなかったため、写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえで埋戻し、調査を終了した。



第 135 図　浄禅寺跡遺跡第 51 地点調査区域図 (1/300)、土層 (1/150)



第 136 図　浄禅寺跡遺跡遺構分布図（1/2,500）

Ⅲ　浄禅寺跡遺跡第 52 地点

（1）調査の概要

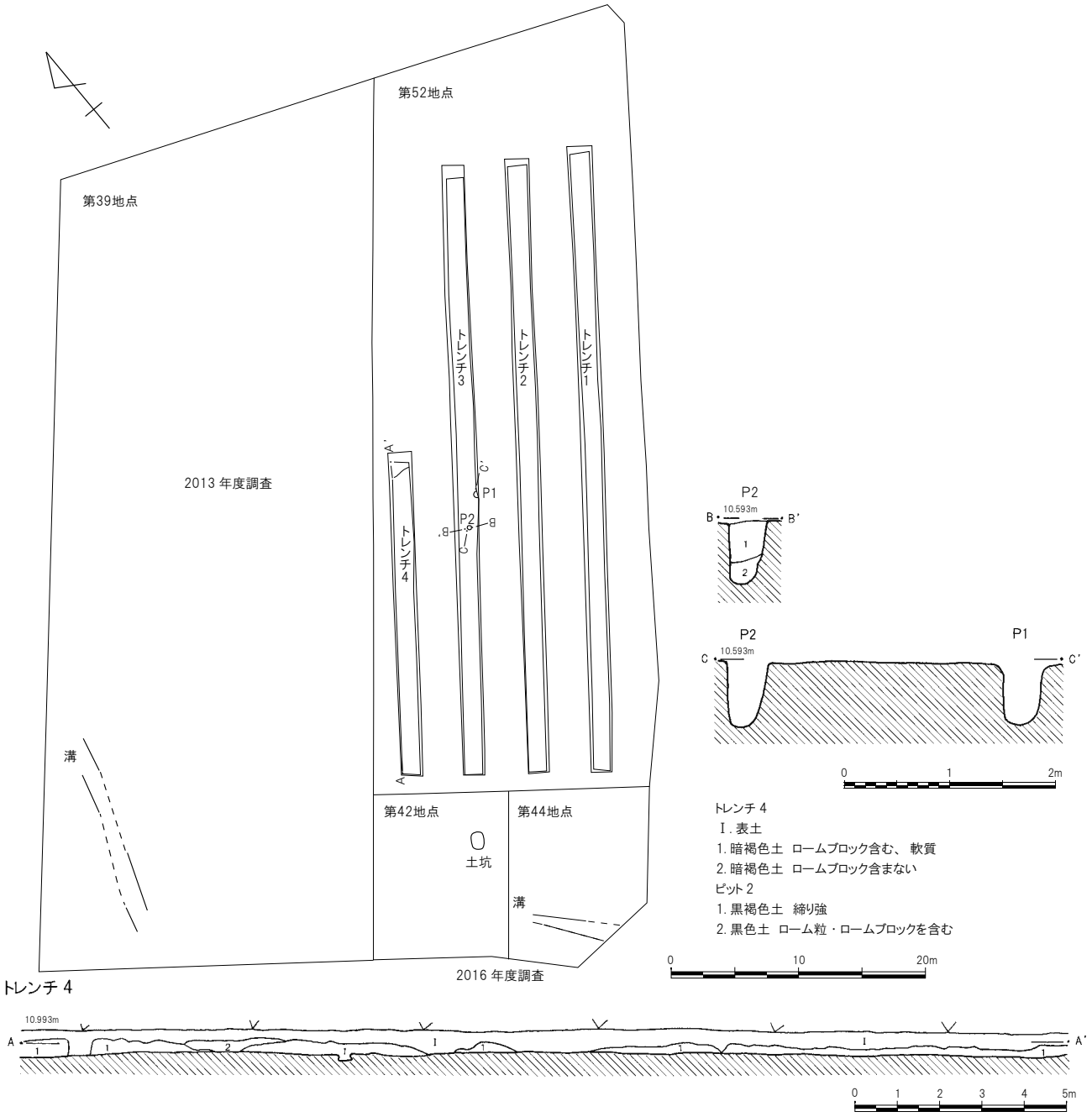
調査は老人ホーム建設に伴うもので、原因者より 2019 年 1 月 23 日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の南東部に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため 2019 年 2 月 12・13 日に試掘調査を実施した。

試掘調査は幅約 1.5m のトレンチ 4 本を設定し、重機による表土除去後人力による表面精査を行った。現地表面から地山ローム層までの深さは約 50 ～ 60 ㎝である。

調査の結果、ピット 2 基を検出した。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえで埋戻し、調査を終了した。

（2）遺構と遺物

ピット 2 基は調査区中央部に位置する。ピット 1 は完掘していないため平面形態は不明。確認面径 52 × (30) ㎝、深さ 58.4 ㎝を測る。ピット 2 はピット 1 より約 2m 西側に位置する。平面形態は円形を呈し、確認面径 31 × 30 ㎝、深さ 60 ㎝を測る。いずれも出土遺物はないため、帰属時期は不明である。



第 137 図　浄禅寺跡遺跡第 52 地点遺構配置図 (1/500)、土層 (1/150)、ピット (1/60)

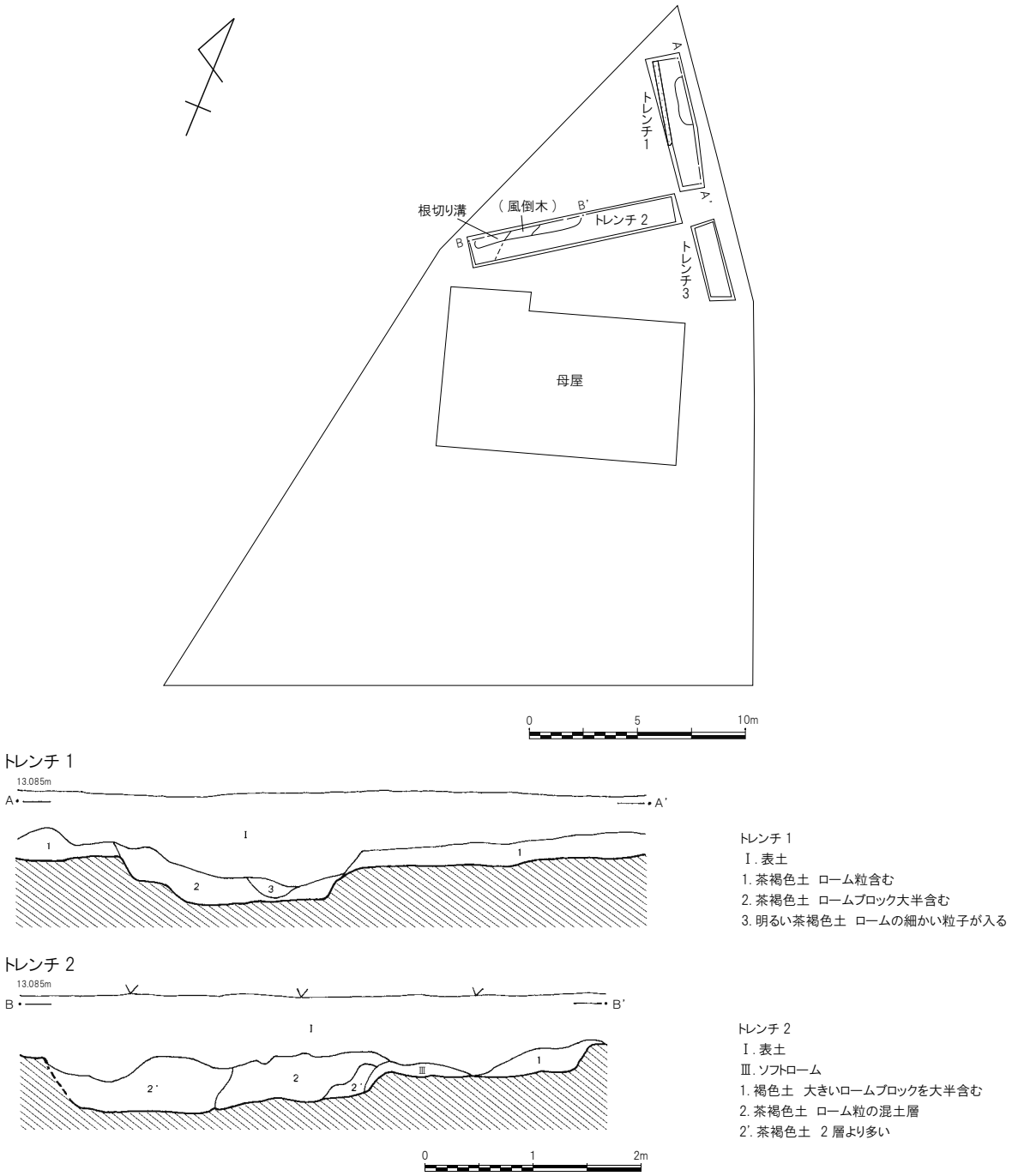
Ⅳ　浄禅寺跡遺跡第 53 地点

（1）調査の概要

調査は建売住宅建設に伴うもので、原因者より 2019 年 7 月 9 日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の中央部に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため 2019 年 7 月 30・31 日に試掘調査を実施した。

試掘調査は幅約 1 ～ 1.5m のトレンチ 3 本を設定し、重機による表土除去後人力による表面精査を行った。現地表面から地山ローム層までの深さは約 50 ～ 60 ㎝である。

調査の結果、遺構・遺物は確認されなかったため、写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえで埋戻し、調査を終了した。



第 138 図　浄禅寺跡遺跡第 53 地点遺構配置図 (1/300)、土層 (1/60)

Ⅴ　浄禅寺跡遺跡第 54 地点

（1）調査の概要

調査は建売住宅建設に伴うもので、原因者より 2019 年 9 月 27 日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の北西部に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため 2019 年 10 月 16 日～ 21 日に試掘調査を実施した。

試掘調査は幅 1.5 ～ 2m のトレンチ 8 本を設定し、重機による表土除去後人力による表面精査を行った。現地表面から地山ローム層までの深さは約 30 ～ 80 ㎝である。

調査の結果、縄文時代の土坑 1 基を確認した。周囲に遺構が広がらないため、写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえで埋戻し、調査を終了した。

（2）遺構と遺物

①土坑

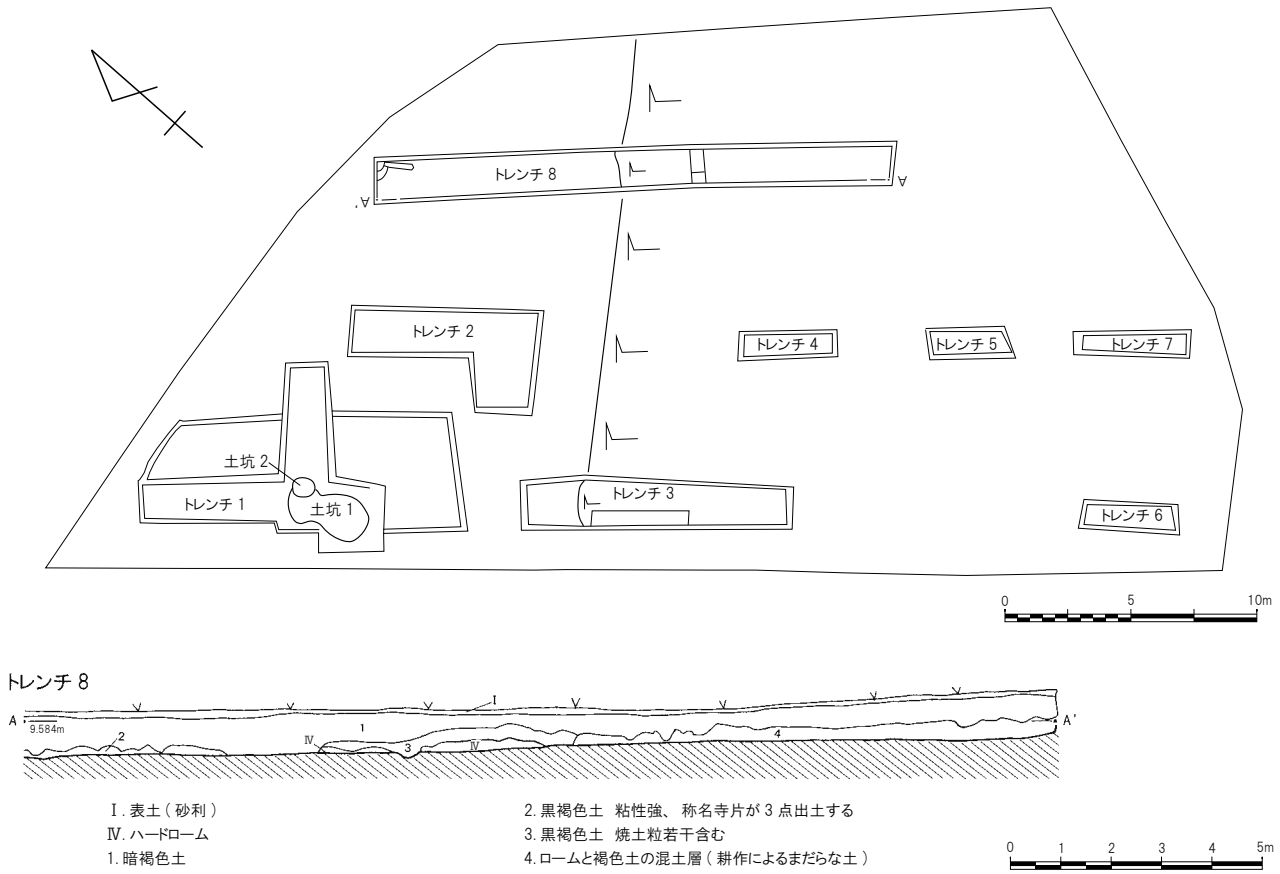
土坑 2 基はいずれも調査区北西部、トレンチ 1 で確認した。土坑 1 の北側の一部分を土坑 1 が切る。

【土坑 1】平面形態は不正形を呈する。遺構の規模は、確認面径 322 × 170 ㎝、底径 155 × 97 ㎝、深さは最も深いところで 107.3 ㎝を測る。南側は掘り込みも浅く平坦であるが、北側は一段深くなる。さらに北側の立ち上がりは袋状を呈する。覆土中より縄文土器片が出土している。

【土坑 2】平面形態は不明だが､円形または楕円形を呈していたものと考えられる。確認面径 93 × (73) ㎝、底径 80 × (22) ㎝、深さ 18 ㎝を測る。遺構に伴う遺物はない。

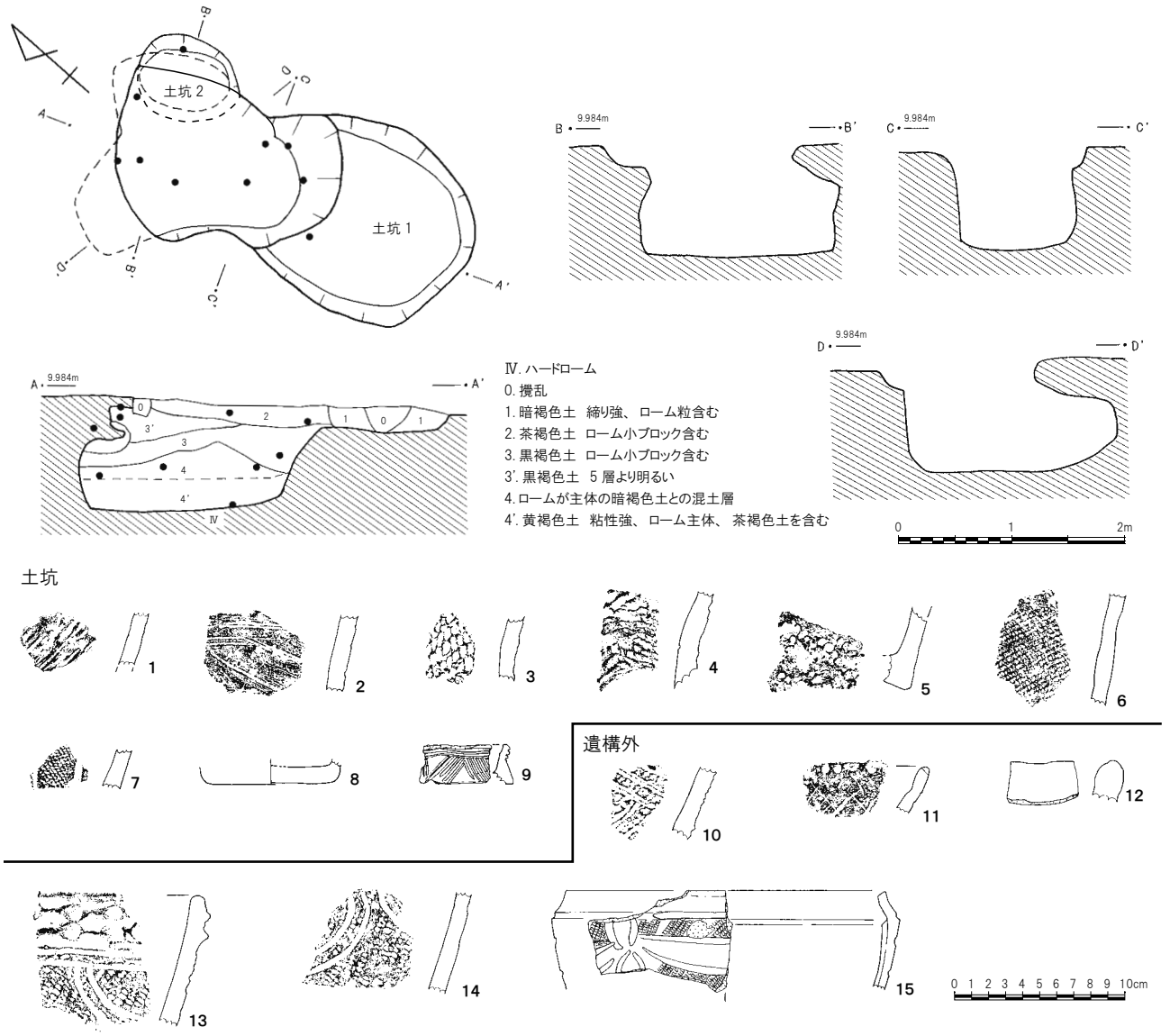
②出土遺物

遺物は土坑 1 の覆土中より多く出土した。また表土中からも数点確認されている。詳細については第 140 図及び第 68 表に掲載した。



第 139 図　浄禅寺跡遺跡第 54 地点遺構配置図 (1/300)、土層 (1/150)

土坑 1・2



第 140 図　浄禅寺跡遺跡第 54 地点土坑 (1/60)、出土遺物 (1/4)

第 68 表　浄禅寺跡遺跡第 54 地点出土遺物観察表 (単位 cm・g)

図版番号	出土遺構	種別・器種	技法・文様・備考	時期・型式
第 140 図 -1	土坑 1	縄文・深鉢	貝殻条痕文・内面黒色化、胎土に繊維を含む	早期
第 140 図 -2		縄文・深鉢	貝殻条痕文・内面黒色化、胎土に繊維とチャート等砂礫を含む	早期
第 140 図 -3		縄文・深鉢	地文 RL 縄文・外面一部黒色化、胎土に繊維を含む	前期・黒浜
第 140 図 -4		縄文・深鉢	Rl、Lr 羽状・胎土に繊維を含む	前期・黒浜
第 140 図 -5		縄文・深鉢	底部、LR 縄文か・胎土に繊維と白色粒子を含む	前期
第 140 図 -6		縄文・深鉢	Rl 縄文・外面に黒斑、胎土に繊維と細かい砂粒を多く含む	
第 140 図 -7		縄文・深鉢	地文 LR 縄文、縦位沈線・胎土に白色粒子を含む	中期
第 140 図 -8		縄文・深鉢	底部・内外面に被熱の痕跡有、内面ハジケ	—
第 140 図 -9		縄文・小型土器	沈線による施文・内外面に黒斑、胎土に砂礫を多く含む	
第 140 図 -10	遺構外	縄文・深鉢	Lr+Lr2 本 (逆)、Rl+Rl2 本 (逆)・胎土に繊維を含む	前期・黒浜
第 140 図 -11		縄文・深鉢	口縁部・口唇部に複数の突起、沈線による斜格子文・器面に被熱の痕跡有	
第 140 図 -12		縄文・深鉢	口縁部 (波状か)・胎土に黒色粒子を多く含む	中期
第 140 図 -13		縄文・深鉢	口縁部、地文 LR 縄文、半截竹管状工具による二重の隆線文に指頭圧痕、沈線による施文・胎土に砂礫を多く含む、№ 14 と同一個体か	後期・加曽利 B Ⅱ
第 140 図 -14		縄文・深鉢	胴部、地文 LR 縄文施文後沈線による施文・胎土に砂礫を多く含む、№ 13 と同一個体か	後期・加曽利 B Ⅱ
第 140 図 -15		縄文・深鉢	口縁部、口径 18.8 ㎝、LR 縄文磨消、沈線による施文・外面に黒斑、内面黒色化、胎土に白色粒子を含む	後期・加曽利 B Ⅱ

第 24 章　小田久保遺跡の調査

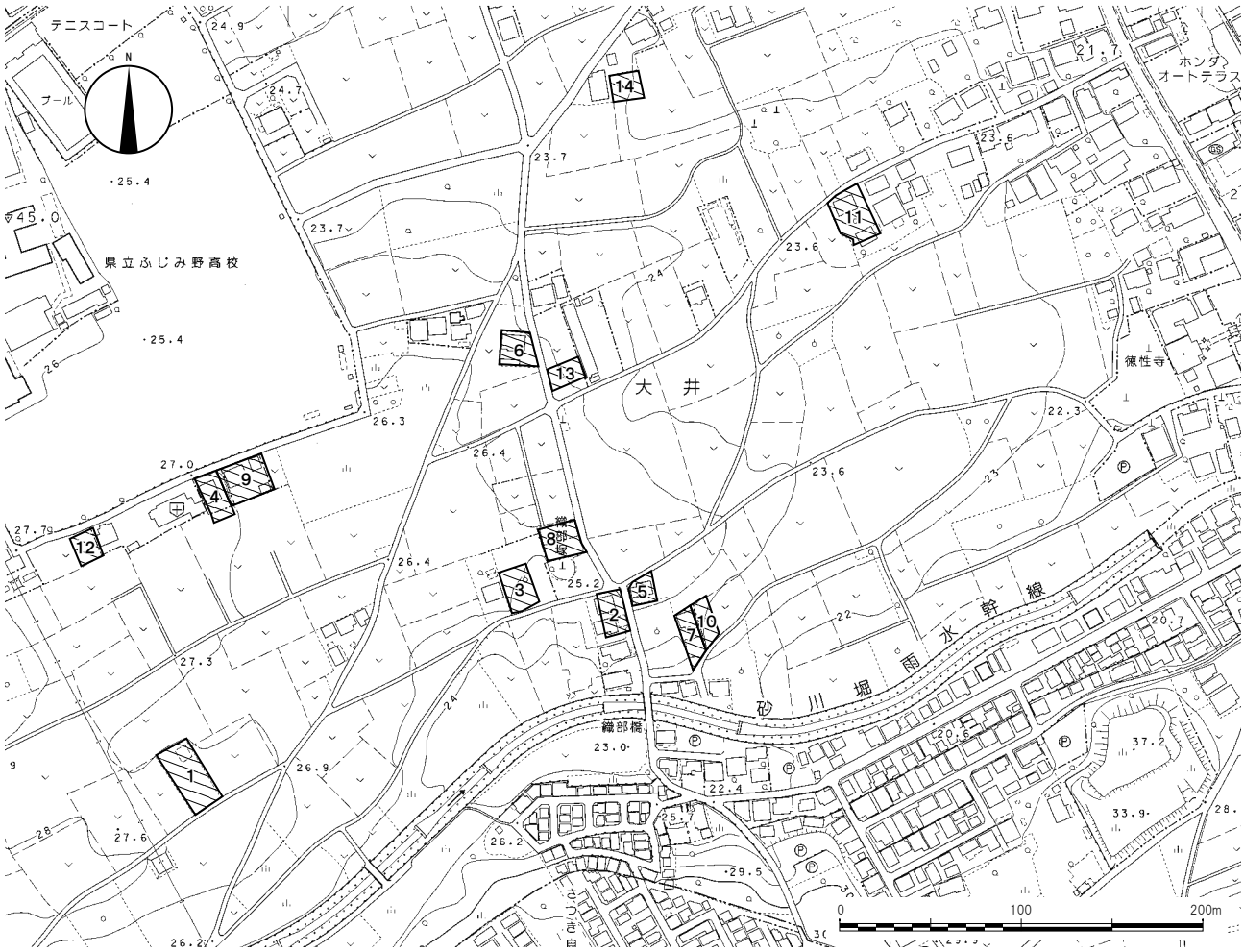
Ⅰ　遺跡の立地と環境

小田久保遺跡は、東武東上線ふじみ野駅の南西約 1.3 ㎞、砂川堀の左岸、標高 23 ～ 28m に位置する。本遺跡をのせる台地は緩やかな斜面を形成するが、対岸の南側台地は急傾斜をなす。

周辺の遺跡は、砂川堀を挟んだ南側台地上に旧石器時代の石器・礫群を検出した西台遺跡が、本遺跡の東側、微高地の突端には縄文時代前期住居を検出した大井氏館跡遺跡がある。

本遺跡は市街化調整区域のため比較的武蔵野の面影を残す農村地帯だが、区画整理事業とふじみ野駅の開設により、ここ数年開発の波が押し寄せつつある。

1990 年に最初の試掘調査が行われて以来、過去の調査では数点の縄文土器片を確認しているだけであったが、2003 年と 2004 年の調査において本遺跡では初の住居跡を検出したことにより、本遺跡が縄文時代中期の集落である事が明らかとなりつつある。今後は集落の分布や範囲の解明が待たれる。分布調査や発掘調査から遺跡の時期は旧石器時代、縄文時代早期から中期、中近世である。2020 年 4 月現在、14 ヶ所で調査を行っている。



第 141 図　小田久保遺跡の地形と調査区（1/4,000）

第 69 表　小田久保遺跡調査一覧表

地区 地点	所在地	調査期間 ( ) は試掘調査	開発面積 (㎡)	調査面積 ( ) は試掘	調査原因	確認された遺構と遺物	備考	所収報告書
1	大井 1223-3	(1990.10.12 ～ 18)	694		資材置場	遺構なし、縄文土器		東XI
2	大井 1249-1	(1993.9.21 ～ 10.1)	498		個人住宅	遺構なし、縄文土器 等		町内III
3	大井 1214-3	(1994.6.7)	330		個人住宅	遺構なし、縄文土器 等		町内IV
4	大井 1185-5	(1997.6.24 ～ 26)	271		個人住宅	土坑		町内VII
5	大井 1023	(2003.8.18・19) 2003.8.20 ～ 9.2	165		個人住宅	縄文時代住居跡 1、ピット、溝、縄文土器 等		町内XII
6	大井字小田久保 1207-15	(2004.10.26・27) 2004.10.28 ～ 11.13	306		個人住宅	縄文時代住居跡 1、集石土坑、土坑、ピット、縄文土器 等		町内XII
7	大井字西原 1023-9・8	(2008.5.19 ～ 21)	333	(108)	個人住宅	遺構遺物なし		市内 6
8	大井字小田久保 1211-1	(2010.3.3 ～ 9)	421	(174.7)	個人住宅	土坑、ピット、溝、縄文土器 等		市内 8
9	大井字小田久保 1185-1	(2010.3.8)	536	(91.5)	個人住宅	遺構遺物なし		市内 10
10	大井字西原 1023-3	(2014.10.7)	317	(94.4)	個人住宅	土坑、縄文土器		市内 20
11	大井字西原 985-4	(2015.5.14)	330.16	(30)	個人住宅	遺構遺物なし		市内 22
12	小田久保 1190-1・2・4、1196-1・2	(2015.8.18)	279	(24)	個人住宅	遺構遺物なし		市内 22
13	大井字西原 1032-27	(2018.10.9)	203.12	(49.2)	個人住宅	遺構遺物なし		市内 25
14	大井字西原 1040-1	(2019.4.16)	321	(14.8)	個人住宅	遺構遺物なし		市内 25

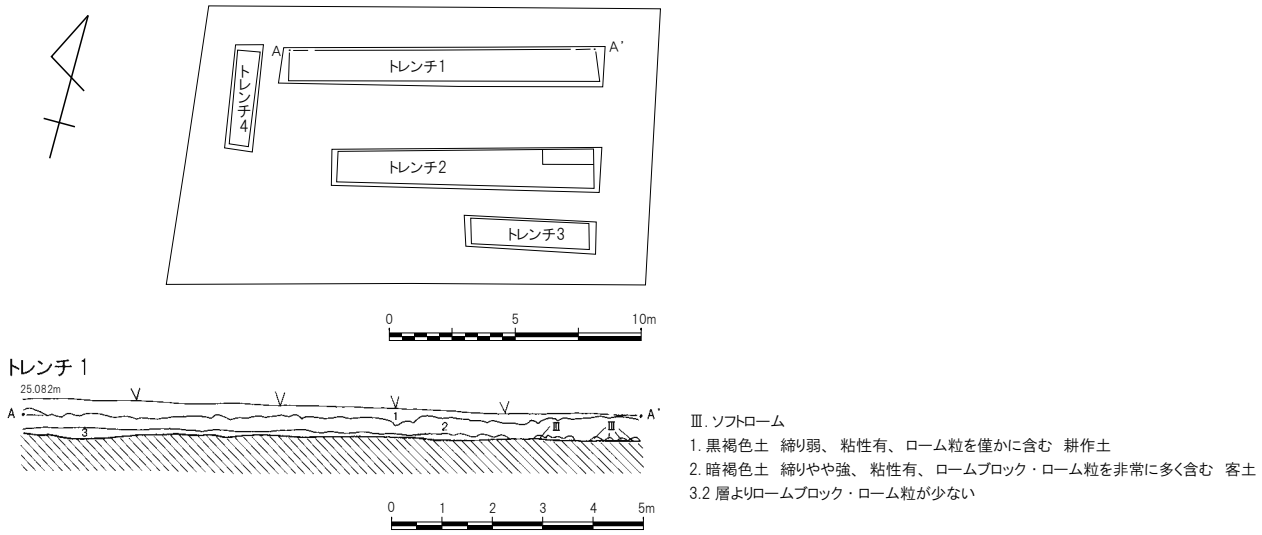
Ⅱ　小田久保遺跡第 13 地点

（1）調査の概要

調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者より 2018 年 9 月 26 日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の中央部に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため 2018 年 10 月 9 日に試掘調査を実施した。

試掘調査は幅約 1 ～ 1.5m のトレンチ 4 本を設定し、重機による表土除去後人力による表面精査を行った。現地表面から地山ローム層までの深さは約 70 ～ 80 ㎝である。

調査の結果、遺構・遺物は確認されなかったため、写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえで埋戻し、調査を終了した。



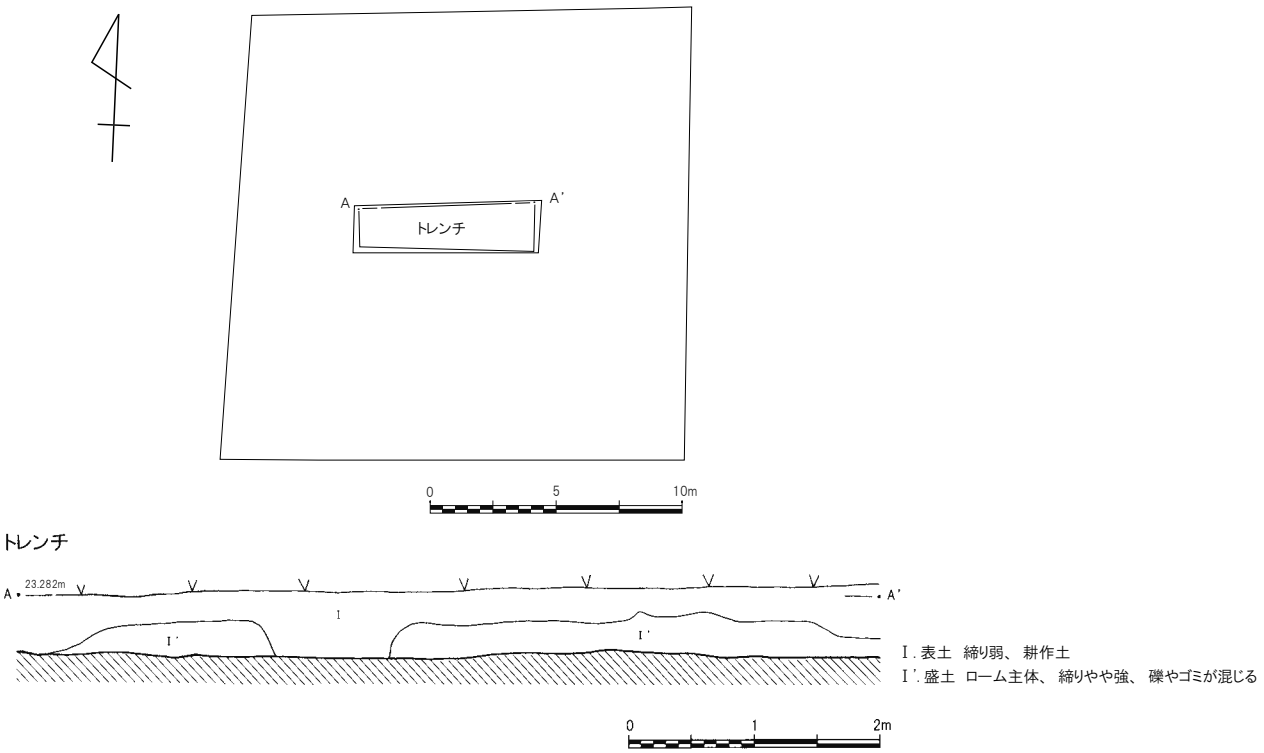
第 142 図　小田久保遺跡第 13 地点調査区域図 (1/300)、土層 (1/150)

Ⅲ　小田久保遺跡第 14 地点

（1）調査の概要

調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者より 2019 年 4 月 3 日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の北部に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため 2019 年 4 月 16 日に試掘調査を実施した。

試掘調査は幅約 2m のトレンチ 1 本を設定し、重機による表土除去後人力による表面精査を行った。現地表面から地山ローム層までの深さは約 50 ～ 60 ㎝である。調査の結果、現地表面より 60 ～ 80 ㎝下でも地山ローム層は確認されなかったため、保護層の確保が可能であると判断した。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえで埋戻し、調査を終了した。



第 143 図　小田久保遺跡第 14 地点調査区域図 (1/300)、土層 (1/60)

第 25 章　大井宿遺跡の調査

Ⅰ　遺跡の立地と環境

大井宿遺跡は、国道 254 号線川越街道沿いの旧大井の宿場範囲内にある。大井宿は全長約 1.5km で、砂川堀右岸の標高 21 ～ 22 mの低位台地上に位置する。

大井宿の南側約半分は大井氏館跡遺跡に含まれており、既に遺跡の登録がされている。2000 年に遺跡範囲外の 2 ヶ所の試掘調査により、多数の遺構と遺物が確認されたため、2000 年 4 月 24 日付けで大井宿の北側部分を新たに遺跡の範囲とし遺跡名を設けた。

川越街道は江戸時代の寛永年間 (1624 ～ 1643) に整備された日本橋から川越に至る 11 里 (約 44km) の道の呼称で、街道に存在した 6 つの宿駅 (上板橋・下練馬・白子・膝折・大和田・大井) の 1 つが大井宿である。

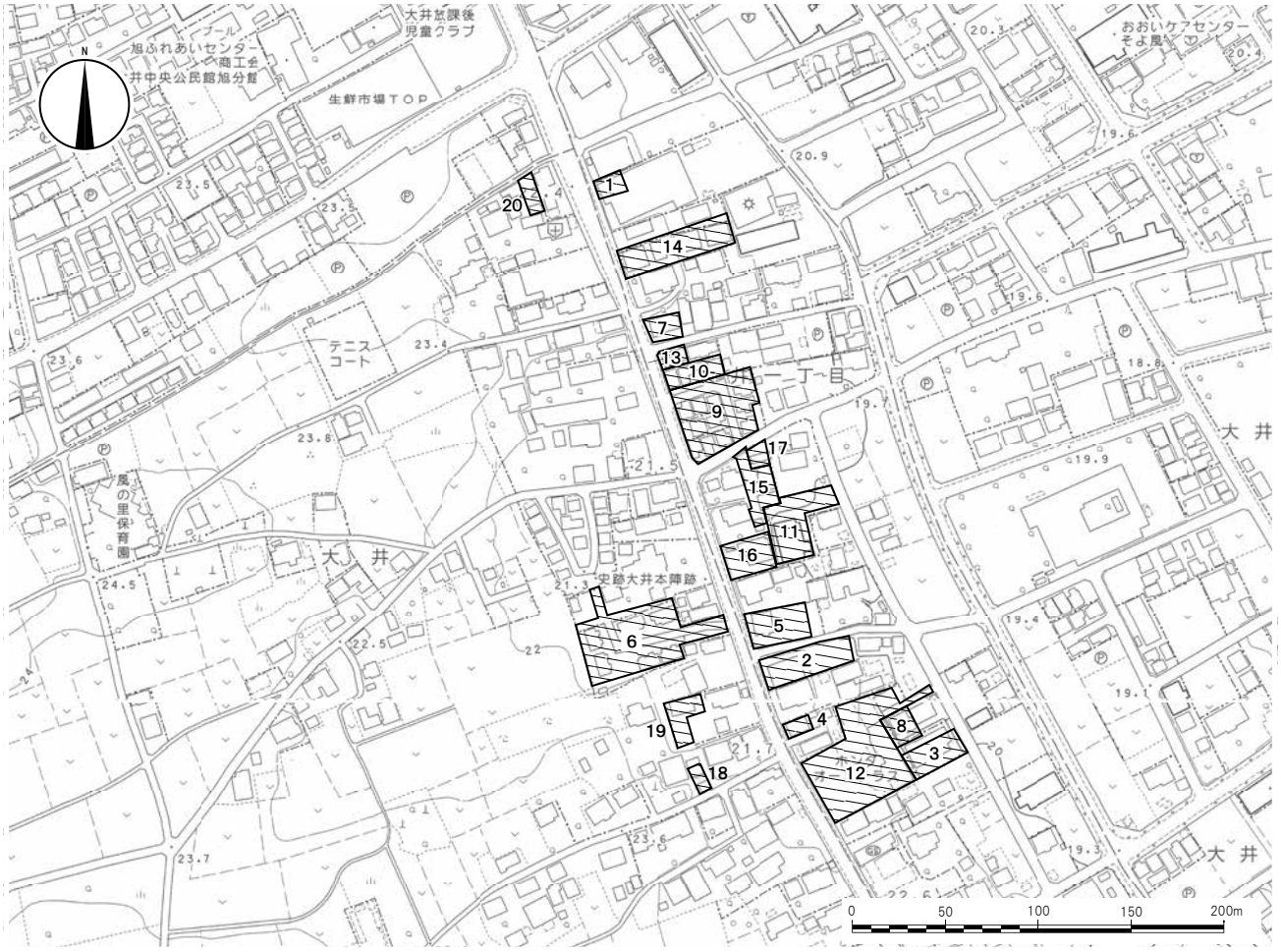
大井宿遺跡では 2020 年 4 月現在、20 地点で調査が行われ、中世～近代の遺構･遺物が検出されている。

Ⅱ　大井宿遺跡第 19 地点

（1）調査の概要

調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者より 2019 年 1 月 7 日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の南部に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため 2019 年 1 月 23 日に試掘調査を実施した。

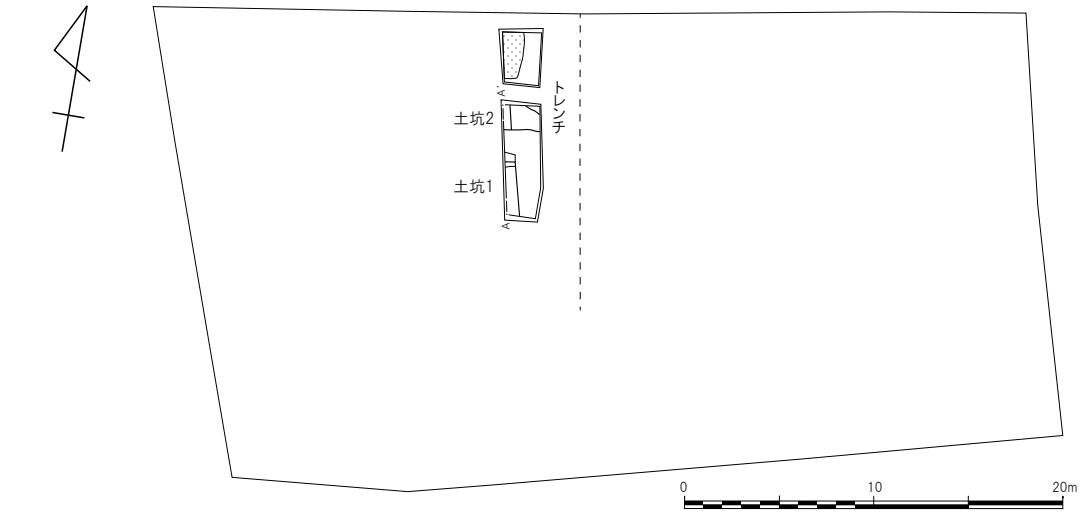
試掘調査は幅約 2m のトレンチ 1 本を設定し、重機による表土除去後人力による表面精査を行った。

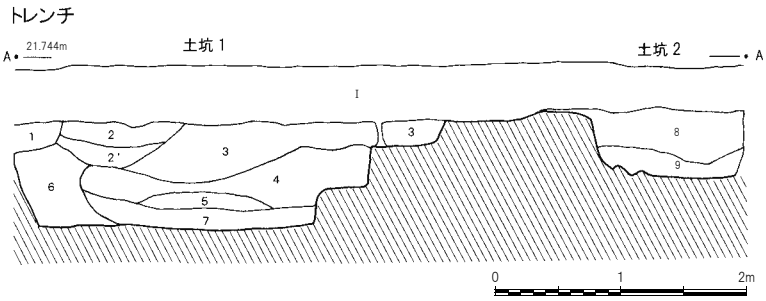


第 144 図　大井宿遺跡の地形と調査区（1/4,000)

第 70 表　大井宿遺跡調査一覧表

地区地点	所在地	調査期間 ( ) は試掘調査	開発面積 (㎡)	調査面積 ( ) は試掘	調査原因	確認された遺構と遺物	備考	所収報告書
1	大井 1-2-22・23	(1999.8.9)	110	(110)	店舗	焼土、銭貨		町内IX
2	大井 1-6-1	(2000.3.14 ～ 28)	786	(222)	店舗	土坑、ピット、溝、陶磁器		町内IX
3	大井 1-6-8	(2000.7.7 ～ 13)	605	(150)	高齢者介護施設	溝、縄文土器		町内X
4	大井 1-6-25	(2000.8.28 ～ 30)	122	(20)	個人住宅	土坑、溝、陶磁器		町内X
5	大井 1-5-9	(2000.10.18 ～ 28)	781	(288)	駐車場	焼土、遺物なし		町内X
6	大井 1052-1・2、1071	(2000.11.28 ～ 12.15)	2,300	(324)	共同住宅	土坑、溝、陶磁器		町内X
7	大井 1-2-16	(2002.4.15・16)	257		事務所	土坑、溝、磁器		町内XII
8	大井 1-6-7	(2004.4.20)	282		個人住宅	遺構遺物なし		町内XII
9	大井 1-3-14・15	(2003.2.26 ～ 4.3) 2004.7.30 ～ 9.3	1,617		宅地造成	集石、土坑、ピット、溝、穴蔵、井戸、礎石、陶磁器 等		大調 21、町内XII
10	大井 1-3-16	(2004.9.21 ～ 10.6)	341		分譲住宅	土坑、ピット、遺物なし		町内XII
11	大井 1-5-5・11	(2004.12.10 ～ 20) 2005.1.6 ～ 29	970		共同住宅	土蔵跡、土坑、ピット、大溝、溝、井戸、穴蔵、陶磁器 等		大調 21、町内XII
12	大井 1-6-22	(2006.6.13 ～ 16)	2,664	(110)	店舗兼事務所	ピット、溝、井戸、陶器 等		市内 3
13	大井 1-3-32	(2006.8.21) 2006.8.22 ～ 30	151	(60)	個人住宅	土坑、ピット、陶磁器 等		市内 3
14	大井 1-2-19・20	(2007.3.27 ～ 29)	944	(112)	コンテナ	近世建物跡 1、土坑、ピット、井戸、磁器 等		市内 3
15	大井 1-5-3	(2007.8.1 ～ 10)	429	(65)	個人住宅	土坑、ピット、大溝、陶磁器		市内 4
16	大井 1-5-11	(2010.3.15 ～ 18) 2010.3.19 ～ 4.30	500.3	(218) 150	共同住宅	土坑、ピット、溝、礎石、陶磁器 等		市内 8
17	大井 1-5-16	(2013.5.14)	110.01	(15.9)	個人住宅	土坑、陶磁器		市内 18
18	大井 1067-1 の一部	(2017.11.9)	556	(39.75)	個人住宅	ピット、陶磁器		市内 24
19	大井字西原 1069-3	(2019.1.23)	428	(18)	個人住宅	土坑、陶磁器		市内 25
20	大井字西原 1081-8・9	(2019.10.24)	170.32	(13.84)	個人住宅	遺構なし、陶磁器		市内 25

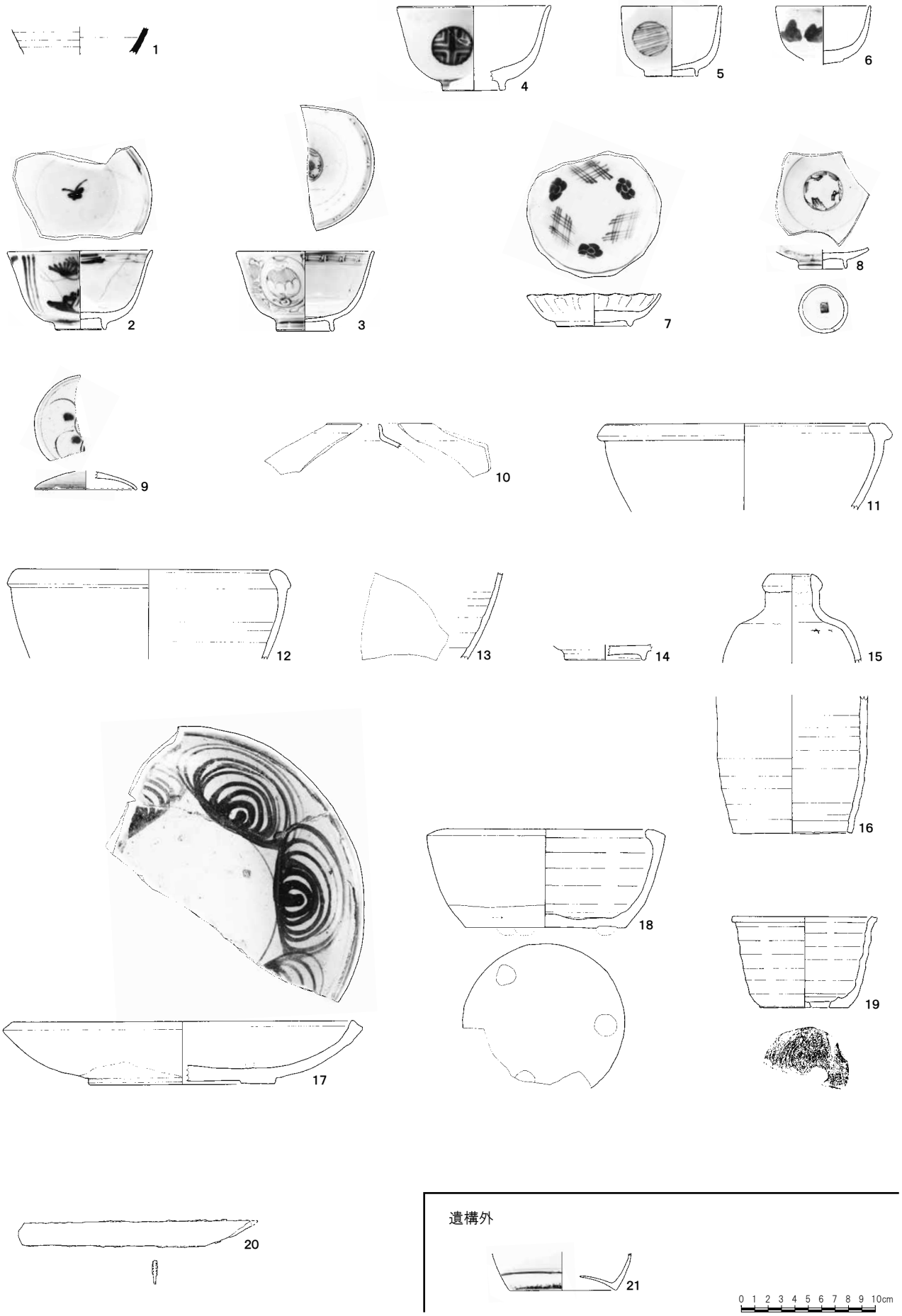




Ⅰ. 表土
1. ハードローム層と黒色土の混土層
2. 赤色焼土ブロックを含む茶褐色、 炭化物多く含む
2'.2 層に加え、 ロームを含む
3. 茶褐色土　ローム・炭化材少量含む
4. 黒色土　グズグズ、 陶器類等の遺物を含む層
5. 黄褐色土　ロームブロック多く含む
6. ロームブロック、 暗褐色の混土層
7. 暗褐色土　ローム粒少量含む
8. 暗褐色土　締り強、 粘り強、 ローム少し混じる
9. 暗褐色土　締り中、 粘り中

第 145 図　大井宿遺跡第 19 地点遺構配置図（1/400)、土層 (1/60)

土坑



第 146 図　大井宿遺跡第 19 地点出土遺物（1/4）

現地表面から地山ローム層までの深さは約 40 ～ 80 ㎝である。

調査の結果、土坑 2 基を検出した。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえで埋戻し、調査を終了した。

（2）遺構と遺物

①土坑

【土坑 1】土坑 1 はトレンチの中央部で検出した。北側は撹乱が大きく入っているため立ち上がりが確認できず、全体の形状や規模は不明である。確認された範囲での土坑の深さは 50 ㎝を測る。

【土坑 2】土坑 1 の南側で確認した。調査区外に延伸するため全体の様相は把握できないが、深さ 90 ㎝を測り、北側の立ち上がりは階段状を呈する。覆土の一部に焼土や炭化物が混入している。

②出土遺物

遺物の大半は土坑より出土したものである。ほとんどが 17 ～ 19 世紀代のもので、一部に煤の付着や火を受けた痕跡が認められる。詳細については第 146 図及び第 71 表に掲載した。

第 71 表　大井宿遺跡第 19 地点出土遺物観察表 (単位 cm・g)

図版番号	出土遺構	種別・器種	口径・長さ	底径・幅	高さ・厚さ	技法・文様・備考	時期・型式
第 146 図 -1	土坑	須恵質土器	―	―	―	轆轤成形、器形不明	近世か
第 146 図 -2		瀬戸美濃系磁器碗	10.8	3.8	5.9	轆轤成形、端反、外面は帆掛舟、見込昆虫文	1820 年代～
第 146 図 -3		肥前系磁器碗	10.3	4.2	6.0	轆轤成形、弱い端反、線描、外面は花文、見込松竹梅円文	1820 年代～
第 146 図 -4		瀬戸美濃系磁器碗	11.4	4.6	6.3	轆轤成形、弱い端反、外面は丸絵	1820 年代～
第 146 図 -5		肥前系湯呑茶碗	7.5	4.0	5.3	轆轤成形、丸腰の筒型、外面は丸絵	1820 年代～
第 146 図 -6		肥前系湯呑茶碗	7.0	―	(4.3)	轆轤成形、外面線描は富士見の西行をダミ塗	1820 年代～
第 146 図 -7		肥前系磁器皿	10.0	2.4	5.6	轆轤成形後型押、見込は井桁文・梅花文	1820 年代～
第 146 図 -8		肥前系磁器碗皿	―	3.5	(1.6)	轆轤成形、線描、「男山」、見込は松竹梅円文	1820 年代～
第 146 図 -9		相馬系土瓶蓋	7.6	―	(1.5)	轆轤成形、山蓋、白泥化粧掛、鉄・緑釉絵	19 世紀～
第 146 図 -10		緑釉土瓶	―	―	―	轆轤成形、内面に鉄漿付着	18 世紀末～
第 146 図 -11		瀬戸美濃系灰釉片口鉢	21.0	―	(6.5)	轆轤成形、緑釉の流掛	19 世紀後半～
第 146 図 -12		瀬戸美濃系鉄釉片口鉢	21.2	―	(6.8)	轆轤成形、飴釉	19 世紀後半～
第 146 図 -13		鉄釉瓶カ	―	―	―	轆轤成形、焼成不良または被熱により釉面は荒れ鈍い緑に発色	不明
第 146 図 -14		瀬戸美濃系灰釉皿	―	6.0	(1.2)	轆轤成形、全面施釉	18 世紀後半～
第 146 図 -15		瀬戸美濃系灰釉徳利	3.0	2.19	(6.8)	轆轤成形、口縁部折返、二合半、16 と同一個体か	19 世紀前半～
第 146 図 -16		瀬戸美濃系灰釉徳利	―	―	(10.3)	轆轤成形、内面から下端部の水平な割口にかけて鉄漿付着	19 世紀前半～
第 146 図 -17		瀬戸美緒系馬の目皿	27.0	13.7	4.7	轆轤成形、蛇の目高台、長石釉、底部付近は無釉	19 世紀前半～
第 146 図 -18		土製火鉢	17.8	12.0	7.4	轆轤成形、脚は欠損、	19 世紀前半～
第 146 図 -19		土製植木鉢	10.8	6.4	6.8	轆轤成形、底部糸切り離し後穿孔	19 世紀前半～
第 146 図 -20		小刀	(16.4)	1.8 ～ 2.0	0.2	片刃	不明
第 146 図 -21	遺構外	瀬戸美濃系磁器急須	―	8.0	2.7	轆轤成形、腰から底部は露胎で煤付着	19 世紀後半～

Ⅲ　大井宿遺跡第 20 地点

（1）調査の概要

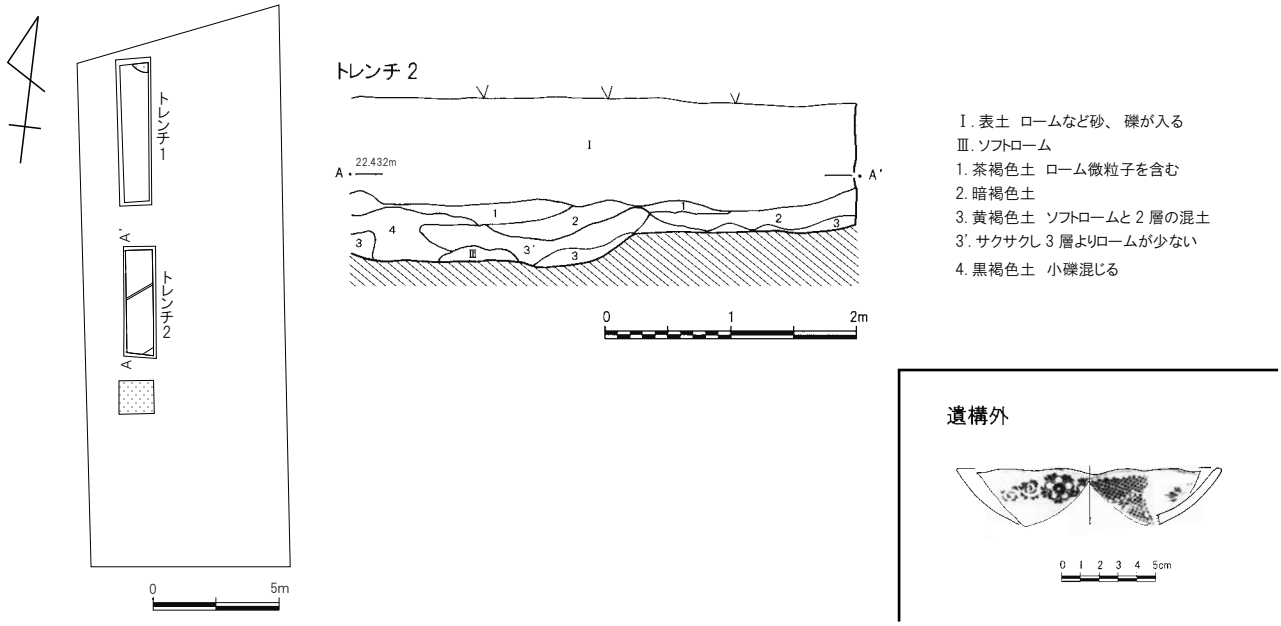
調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者より 2019 年 8 月 27 日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の北部に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため 2019 年 10 月 24 日に試掘調査を実施した。

試掘調査は幅約 1.5m のトレンチ 2 本を設定し、重機による表土除去後人力による表面精査を行った。現地表面から地山ローム層までの深さは約 80 ～ 90 ㎝である。

調査の結果、遺構は確認されなかったため、写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえで埋戻し、調査を終了した。

（2）遺構と遺物

遺物は瀬戸美濃の磁器皿の破片である。型紙染付で、内面の文様は破片のため不明だが、外面は桜唐草文を施す。19 世紀後半以降。



第 147 図　大井宿遺跡第 20 地点調査区域図 (1/300)、土層 (1/60)、出土遺物 (1/4)

第 26 章　本村遺跡の調査

Ⅰ　遺跡の立地と環境

本村遺跡は、東武東上線ふじみ野駅の南西約 800 m、砂川堀の左岸で標高 15 ～ 20 mに位置する。遺跡内には旧砂川の流路であった埋没河川が幾筋も認められ、それに取り残されるように微高地が存在する。砂川堀は狭山丘陵外縁に湧水を成し、武蔵野台地上を南西から北東に流れて新河岸川に合流する。

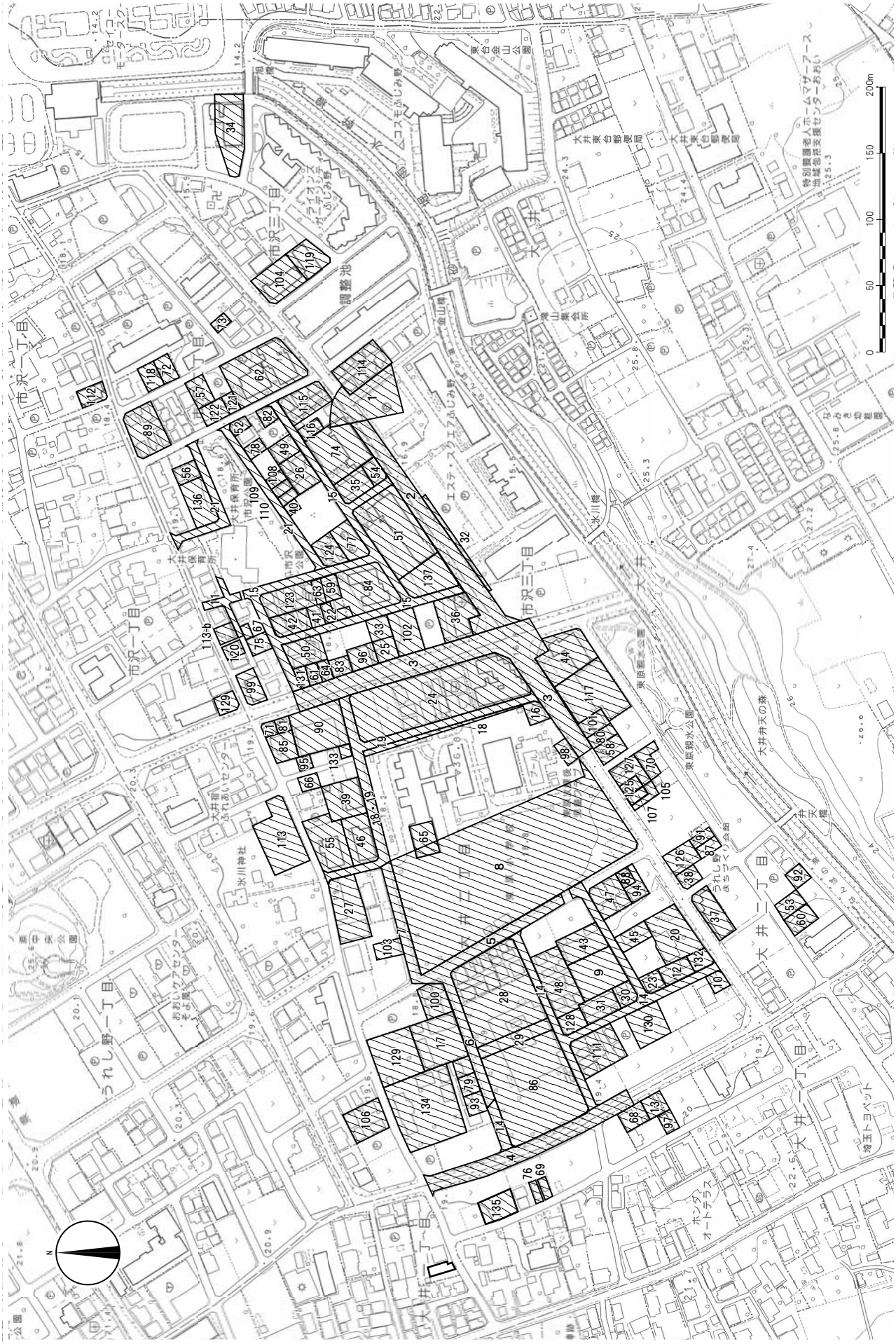
砂川堀の流域には多くの遺跡で、旧石器時代からの人々の活動の跡をみることが出来る。現在においても砂川の果たす役割は当時にも増して大きいものであるが、残念ながらその役割は大きく異なり、用水機能としての砂川から排水機能の砂川堀と言うのが現在の状況である。市内を流れる砂川堀も河川改修により、その姿を都市下水路に変え、往時を忍ばせる面影は残されていない。

周辺の遺跡では、砂川堀を挟んで縄文時代中期の大集落と奈良平安時代の製鉄関連遺跡である東台遺跡、旧石器時代の大井戸上遺跡と西台遺跡が位置する。左岸には旧石器時代～縄文時代の小田久保遺跡、旧石器時代～近世の大井氏館跡遺跡が位置する。本遺跡が中世から近世にかけての中心的な集落とするならば、大井氏館跡遺跡は近世川越街道整備以後の中心的な宿場及び、集落とみることができる。 いずれにしても、町内における砂川堀流域の本村遺跡周辺は、旧石器時代より良好な生活・住環境であったことがわかる。

2020 年 4 月現在、137 地点で調査を行い、旧石器時代の礫群・石器集中、縄文時代の落とし穴・炉穴、中世～近世の掘立柱建物跡・方形竪穴状遺構・井戸・溝・柵列・地下式壙・荼毘跡などを多数検出している。

第 72 表　本村遺跡調査一覧表

地区地点	所在地	調査期間 ( ) は試掘調査	開発面積 (㎡)	調査面積 ( ) は試掘	調査原因	確認された遺構と遺物	備考	所収報告書
113-b	市沢 2-2-3	(2005.5.9・10)	162	(27)	個人住宅	ピット、柵列		市内 2
114	市沢 3-2-1・12	(2005.10.21 ～ 28)	887	(129)	分譲住宅	遺構遺物なし		市内 2
115	市沢 2-10-6	(2005.11.21 ～ 29) 2005.12.19～2006.1.31	573	(170) 170	分譲住宅	中世掘建柱建物跡 4、土坑、ピット、溝、井戸、中世陶磁器 等		市内 2
116	市沢 2-10-4 の一部	(2006.1.17)	168	(9)	個人住宅	遺構遺物なし		市内 2
117	大井 2-11-4・6	(2006.3.22 ～ 4.14)	1,582	(1,487)	店舗	土坑、溝、ピット、柵列、近世陶磁器		市内 2・3
118	市沢 2-12-13	(2006.5.24・25) 2006.5.25	257	(80) 80	個人住宅	落とし穴、遺物なし		市内 3
119	市沢 3-4-24	(2008.5.27 ～ 6.4) 2008.6.4 ～ 25	559	(245) 245	共同住宅	土坑、ピット、地下式坑、カワラケ 等		市内 5・6
120	市沢 2-2-2	(2008.12.18)	141	(15)	個人住宅	遺構遺物なし		市内 6
121	市沢 2-11-9	(2009.4.22)	150	(15)	個人住宅	遺構遺物なし		市内 8
122	市沢 2-11-26・27	(2009.5.25 ～ 6.3)	301	(121)	宅地造成	地下式坑、カワラケ 等		市内 8
123	市沢 2-7-2	(2010.7.5 ～ 9)	619.57	(218)	宅地造成	遺構遺物なし		市内 10
124	市沢 2-6-1	(2010.7.8 ～ 12)	428	(80)	宅地造成	土坑		市内 10
125	大井 2-12-17	(2010.9.6)	143	(40)	個人住宅	遺構遺物なし		市内 10
126	大井 2-12-2	(2010.10.4 ～ 6)	611	(126)	個人住宅	遺構遺物なし		市内 10
127	大井 2-12-5・16・18	(2010.11.4 ～ 8)	417	(112)	分譲住宅	旧流路、遺構遺物なし		市内 10
128	大井 2-18-1	(2014.11.17 ～ 27)	327	(103.5)	分譲住宅	ピット、溝、井戸、遺物なし		市内 20
129	市沢 1-1-8	(2012.8.28)	262		個人住宅	遺構遺物なし		市内 15
129	大井 2-20-4	(2015.11.5 ～ 13)	1,253.9	(397.3)	宅地造成	ピット、陶磁器		市内 22
130	大井 2-16-17	(2015.11.16 ～ 20)	776	(263.3)	分譲住宅	土坑、ピット、土器		市内 22
131	市沢 2-8-2	(2016.3.4 ～ 8)	135.18	(22.18)	共同住宅	遺構遺物なし		市内 22
132	大井 2-17-9	(2016.8.4・5)	212	(63.2)	分譲住宅	溝、陶磁器		市内 24
133	大井 2-7-6	(2016.10.11)	107.54	(18.75)	個人住宅	ピット、遺物なし		市内 24
134	大井 2-20-2・3・9	(2017.6.5 ～ 16)	2,670.6	(655.4)	宅地造成 開発道路築造	ピット、溝、磁器		市内 24
135	大井 1-4-9・10 の一部	(2018.9.19)	698	(52.52)	分譲住宅	遺構なし、陶磁器		市内 25
136	市沢 2-4-7	(2018.10.17 ～ 19) 2019.4.11 ～ 23	651	(140.7) 60	分譲住宅	旧石器礫群、落とし穴、土坑、ピット、溝、地下式坑、段切、石器		市内 24
137	市沢 2-9-1・8・9	(2019.4.8・9)	843	181.99	分譲住宅	ピット、遺物なし		市内 25



第 148 図　本村遺跡の地形と調査区 (1/4,000)

Ⅱ　本村遺跡第 135 地点

（1）調査の概要

調査は分譲住宅建設に伴うもので、原因者より 2018 年 9 月 4 日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の西部に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため 2018 年 9 月 19 日に試掘調査を実施した。

試掘調査は幅約 1.5m のトレンチ 4 本を設定し、重機による表土除去後人力による表面精査を行った。現地表面から地山ローム層までの深さは約 100 ㎝である。

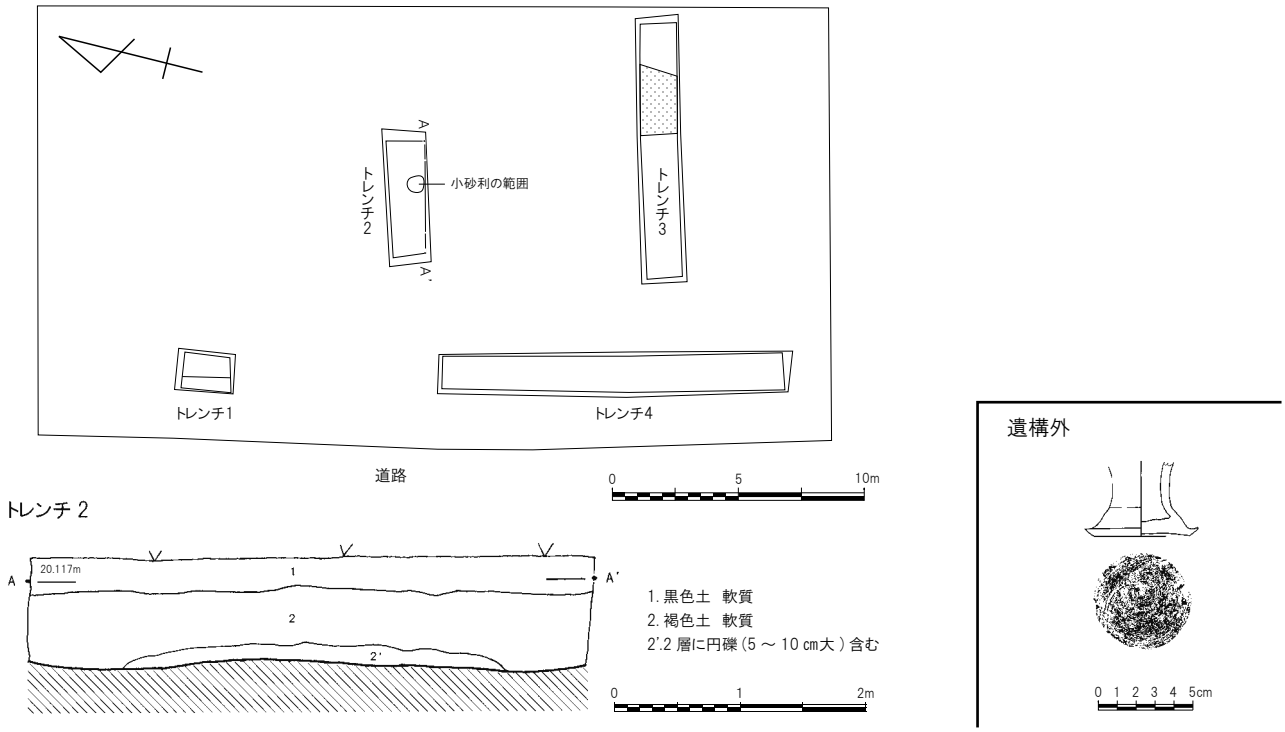
調査の結果、遺構は確認されなかったため、写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえで埋戻し、調査を終了した。

（2）遺構と遺物

遺物は表土より出土した。図化できたものは 1 点のみで、信楽焼の脚付受付皿。19 世紀以降のもので、外面に透明釉を施す。

Ⅲ　本村遺跡第 136 地点

調査は分譲住宅建設に伴い、2018 年 10 月 17 ～ 19 日に試掘調査、2019 年 4 月 11 ～ 23 日に本調査を実施した。詳細については、ふじみ野市埋蔵文化財調査報告第 25 集『市内遺跡群 24』（2020 年 3 月刊行）にて報告済みのため、本書では割愛した。



第 149 図　本村遺跡第 135 地点調査区域図 (1/300)、土層 (1/60)、出土遺物 (1/4)

Ⅳ　本村遺跡第 137 地点

（1）調査の概要

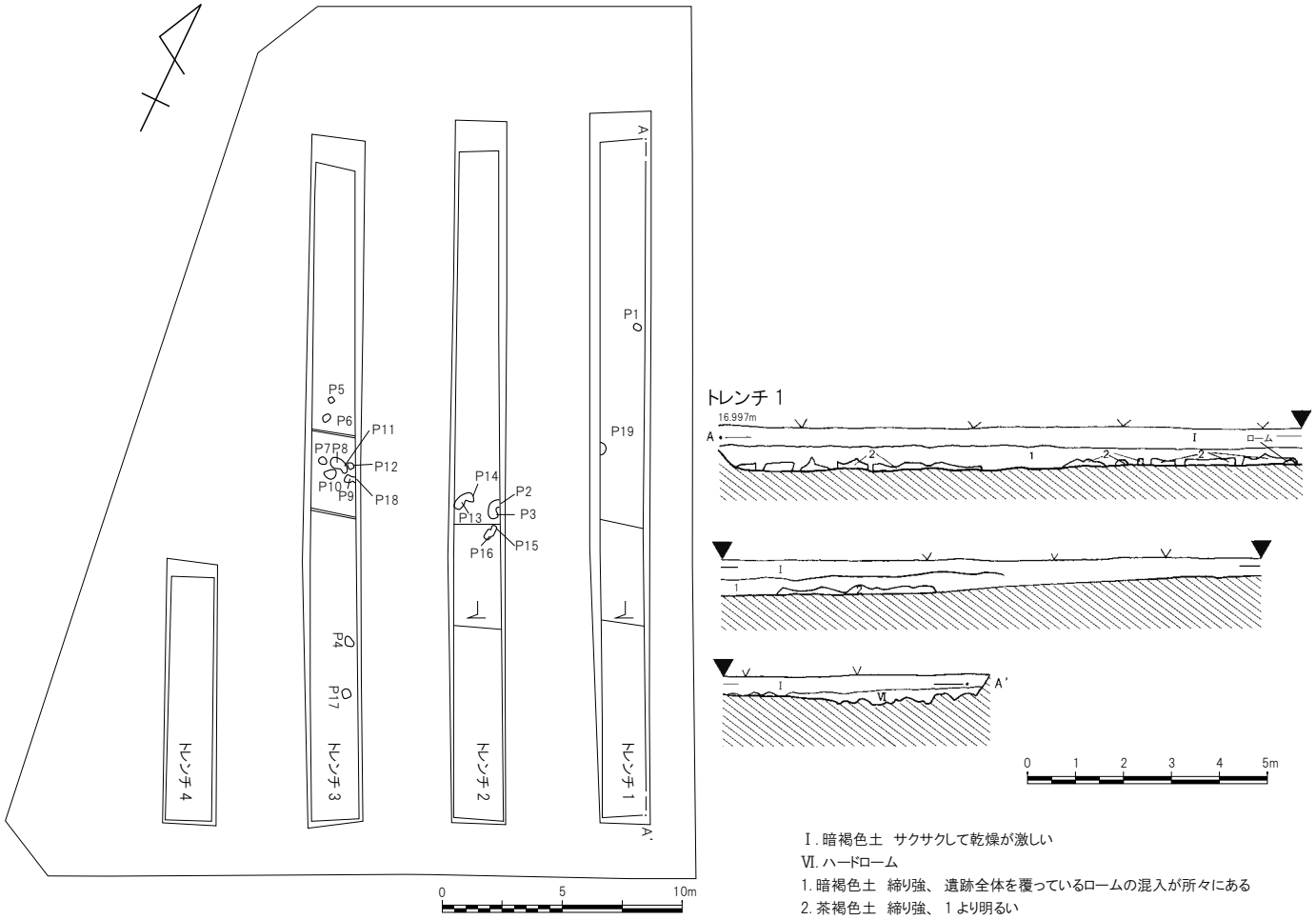
調査は分譲住宅建設に伴うもので、原因者より 2019 年 3 月 18 日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の中央部やや西寄りに位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため 2019 年 4 月 8・9 日に試掘調査を実施した。

試掘調査は幅約 2m のトレンチ 4 本を設定し、重機による表土除去後人力による表面精査を行った。現地表面から地山ローム層までの深さは約 30 ～ 90 ㎝である。

調査の結果、ピット 19 基を検出した。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえで埋戻し、調査を終了した。

（2）遺構と遺物

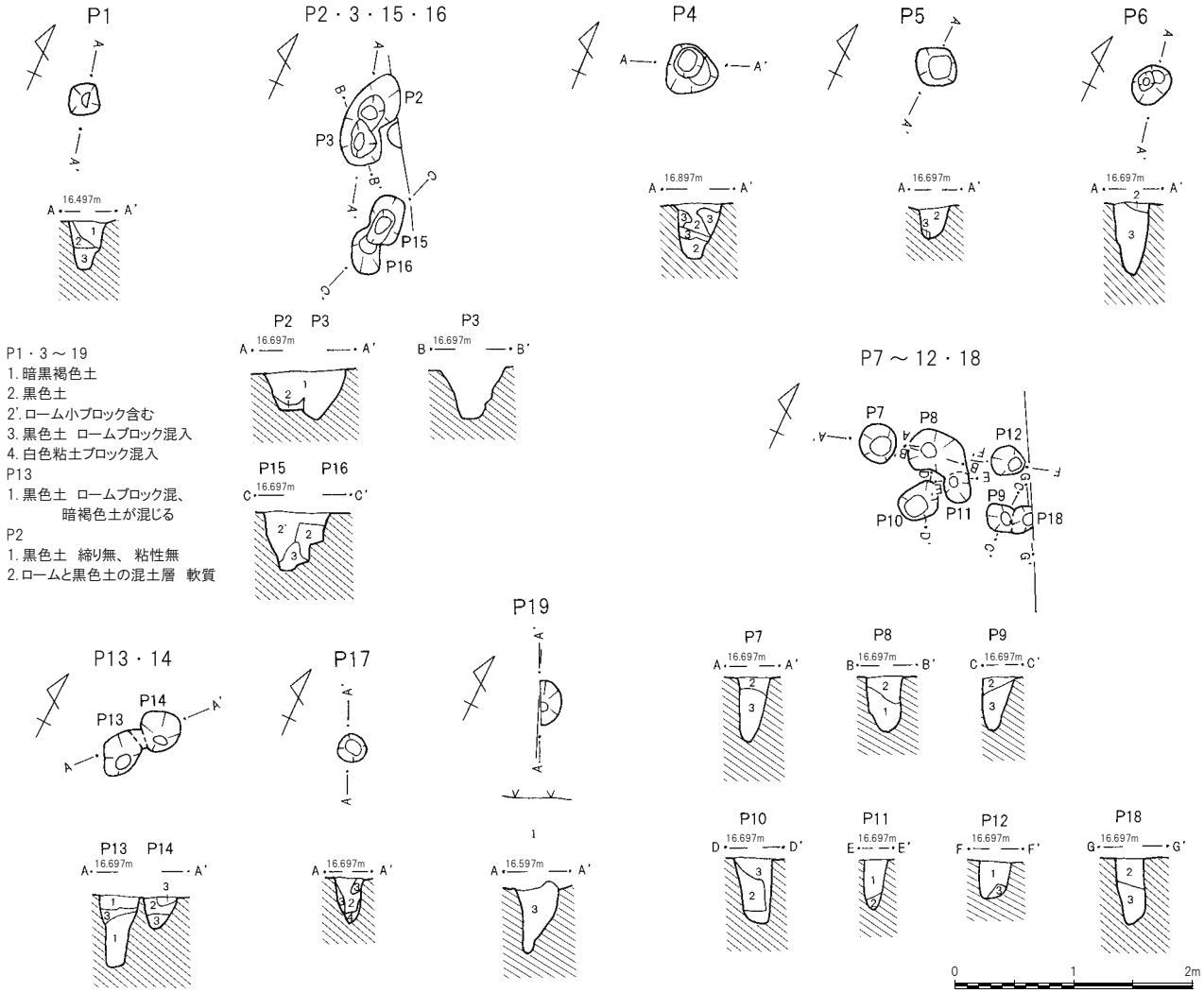
遺構は調査区の中央部を中心にピット 19 基を検出した。各ピットの詳細については第 151 図及び第 73 表に掲載した。いずれも出土遺物はなく、時期の特定は困難である。覆土に黒色土を含むピット 4 ～ 6、9、10、14 ～ 19 については、比較的古いものである可能性が高い。



第 150 図　本村遺跡第 137 地点遺構配置図 (1/300)、土層 (1/150)

第 73 表　本村遺跡第 137 地点ピット一覧表 (単位 cm)

No.	平面形態	確認面径	底径	深さ
1	方形	25 × 25	114 × 7	43.8
2	不明	(46) × 38	13 × 11	36.0
3	不明	(38) × 32	17 × 7	47.1
4	楕円形	44 × 44	18 × 13	52.5
5	方形	32 × 31	18 × 18	41.0
6	楕円形	36 × 26	6 × 6	57.1
7	円形	32 × 30	19 × 16	67.3
8	不明	54 × 38	14 × 12	60.5
9	不明	(23) × 23	11 × 7	45.0
10	楕円形	37 × 28	18 × 16	56.3
11	不明	(24) × 22	9 × 6	42.4
12	円形	28 × 27	11 × 10	32.2
13	方形	31 × (31)	12 × 11	66.8
14	方形	(39) × 35	11 × 8	25.6
15	不明	(42) × 26	14 × 9	40.3
16	不明	39 × 24	13 × (9)	40.4
17	円形	24 × 24	14 × 10	38.8
18	不明	23 × (18)	11 × (7)	55.7
19	不明	38 × (18)	8 × (5)	46.9



第 151 図　本村遺跡第 137 地点ピット (1/60)

第 27 章　大井戸上遺跡の調査

Ⅰ　遺跡の立地と環境

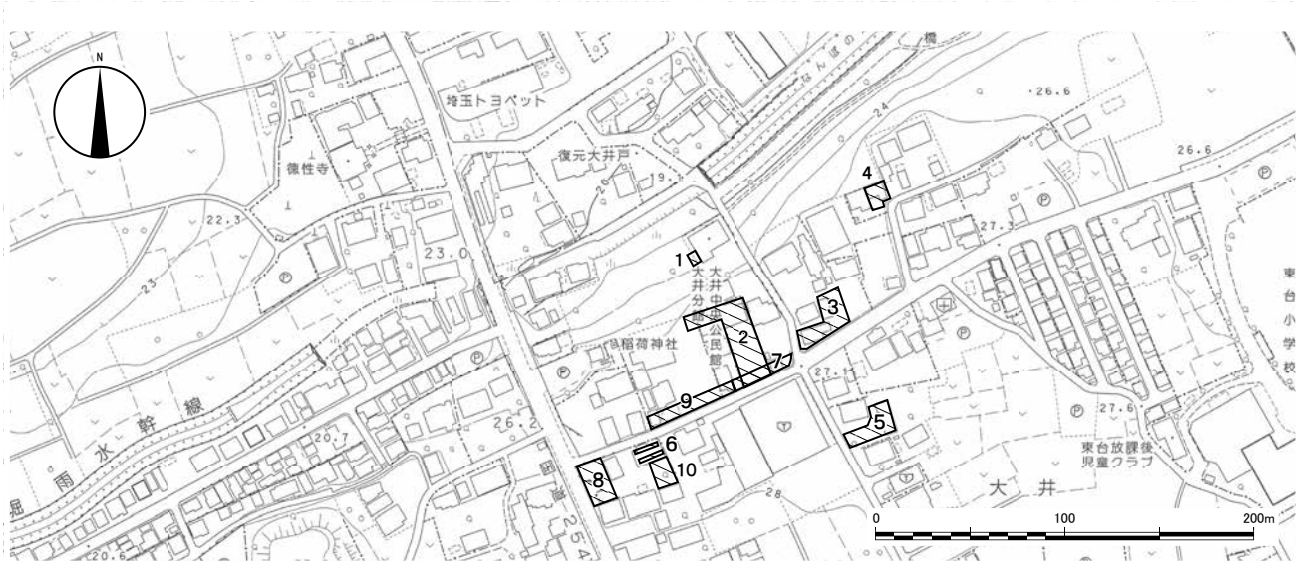
大井戸上遺跡は、東武東上線ふじみ野駅の南西約 1.4km、砂川堀の右岸で標高 26 ～ 28 mの台地上に位置する。砂川堀は狭山丘陵外縁に湧水を成し、武蔵野台地上を南西から北東に流れて新河岸川に合流する。東台遺跡同様砂川堀との比高差は約 7 ～ 8 mで急崖をなし、左岸は緩やかな傾斜をなす。遺跡の範囲は東西 200 m、南北 100 m、遺跡面積約 25,000 ㎡である。

周辺の遺跡は、砂川堀の対岸に大井氏館跡遺跡、同一崖線上の上流に西台遺跡、下流に東台遺跡と続く。

本遺跡は 1989 年に初調査以来、2020 年 4 月現在、10 地点で試掘調査が行われた。第 1・2・4 地点の調査では旧石器時代の礫群と石器群を検出した。西台遺跡から東台遺跡まで崖線上に連綿と旧石器時代の遺跡が存在していることになる。また、第 2・3 地点では崖線に沿って時期不明の溝跡を検出している。

第 74 表　大井戸上遺跡調査一覧表

地区地点	所在地	調査期間 ( ) は試掘調査	開発面積 (㎡)	調査面積 ( ) は試掘	調査原因	確認された遺構と遺物	備考	所収報告書
1	大井字東台 234	(1989.2.15 ～ 21)	10		公民館増改築	遺構なし、縄文土器 等		東部Ⅸ
2	大井字東台 231・232	(1989.6.22 ～ 7.20)	974		会社寮	ピット、溝、柱穴、井戸、礫群		東部Ⅹ
3	大井 701-1	(1993.6.11 ～ 15)	350		個人住宅	遺構遺物なし		町内Ⅲ
4	大井字東台 689-3	(2004.5.27)	128		個人住宅	礫群、土坑、焼礫		町内Ⅻ
5	大井字東台 739-14	(2006.7.10)	326	(10)	個人住宅	遺構遺物なし		市内 3
6	大井字東台 798-1	(2008.3.25 ～ 28)	889	(30)	個人住宅	ピット、遺物なし		市内 4
7	大井 231-1・2・8	(2017.9.27)	123	(23.5)	道路拡幅	ピット、遺物なし		市内 24
8	大井字東台 798-4、799-3	(2018.5.11)	200.01	(43.4)	駐車場	ピット、遺物なし		市内 25
9	大井 229-2、232-8 ～ 10	(2018.8.6 ～ 13)	225	(60.66)	道路拡幅	遺構遺物なし		市内 25
10	大井字東台 798-1 の一部	(2020.2.4)	497.58	(36.64)	個人住宅	遺構遺物なし		市内 25



第 152 図　大井戸上遺跡の地形と調査区 (1/4,000)

Ⅱ　大井戸上遺跡第 8 地点

（1）調査の概要

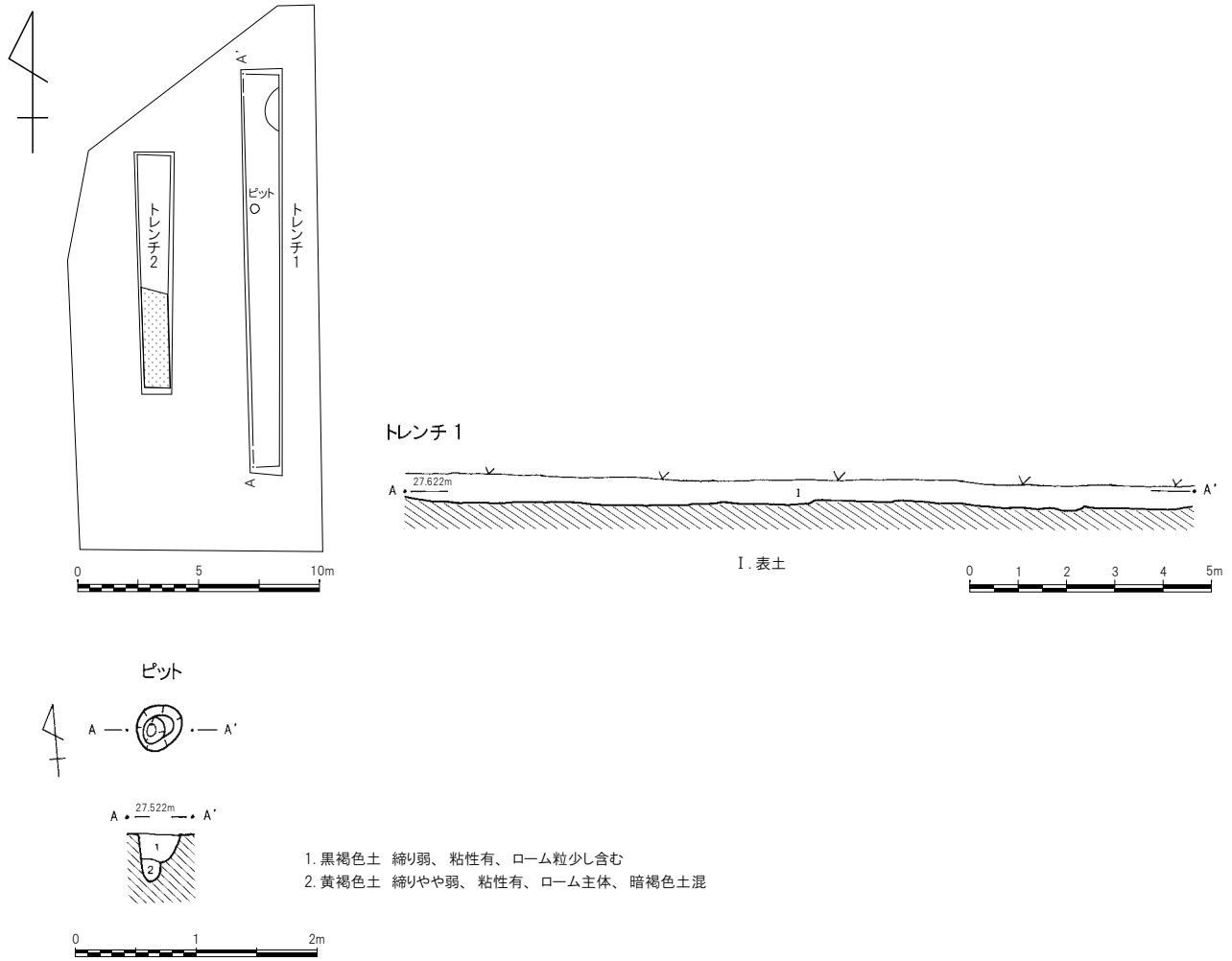
調査は駐車場造成に伴うもので、原因者より 2018 年 4 月 23 日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の南西部に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため 2018 年 5 月 11 日に試掘調査を実施した。

試掘調査は幅約 1.5m のトレンチ 2 本を設定し、重機による表土除去後人力による表面精査を行った。現地表面から地山ローム層までの深さは約 45 ㎝である。

調査の結果、ピット 1 基を検出した。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえで埋戻し、調査を終了した。

（2）遺構と遺物

調査区中央部やや北側のトレンチ 1 よりピット 1 基を検出した。平面形態は円形を呈し、確認面径 38 × 35 ㎝、底径 11 × 7 ㎝、深さ 41.5 ㎝を測る。土層の特徴から中世以降と考えられるが、時期の詳細は不明である。出土遺物はない。



第 153 図　大井戸上遺跡第 8 地点遺構配置図 (1/300)、土層 (1/150)、ピット (1/60)

Ⅲ　大井戸上遺跡第 9 地点

（1）調査の概要

調査は道路拡幅工事に伴うもので、原因者より 2018 年 7 月 3 日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の南西部に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため 2018 年 8 月 6 ～ 13 日に試掘調査を実施した。

試掘調査は幅約 1.5m のトレンチ 2 本を設定し、重機による表土除去後人力による表面精査を行った。現地表面から地山ローム層までの深さは約 30 ～ 40 ㎝である。

調査の結果、遺構・遺物は確認されなかったため、さらに旧石器時代の遺構確認を行うため、1m 四方のグリッドを 6 ヶ所設定し、人力で掘削を実施したが、遺構・遺物は確認できなかったため、写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえで埋戻し、調査を終了した。

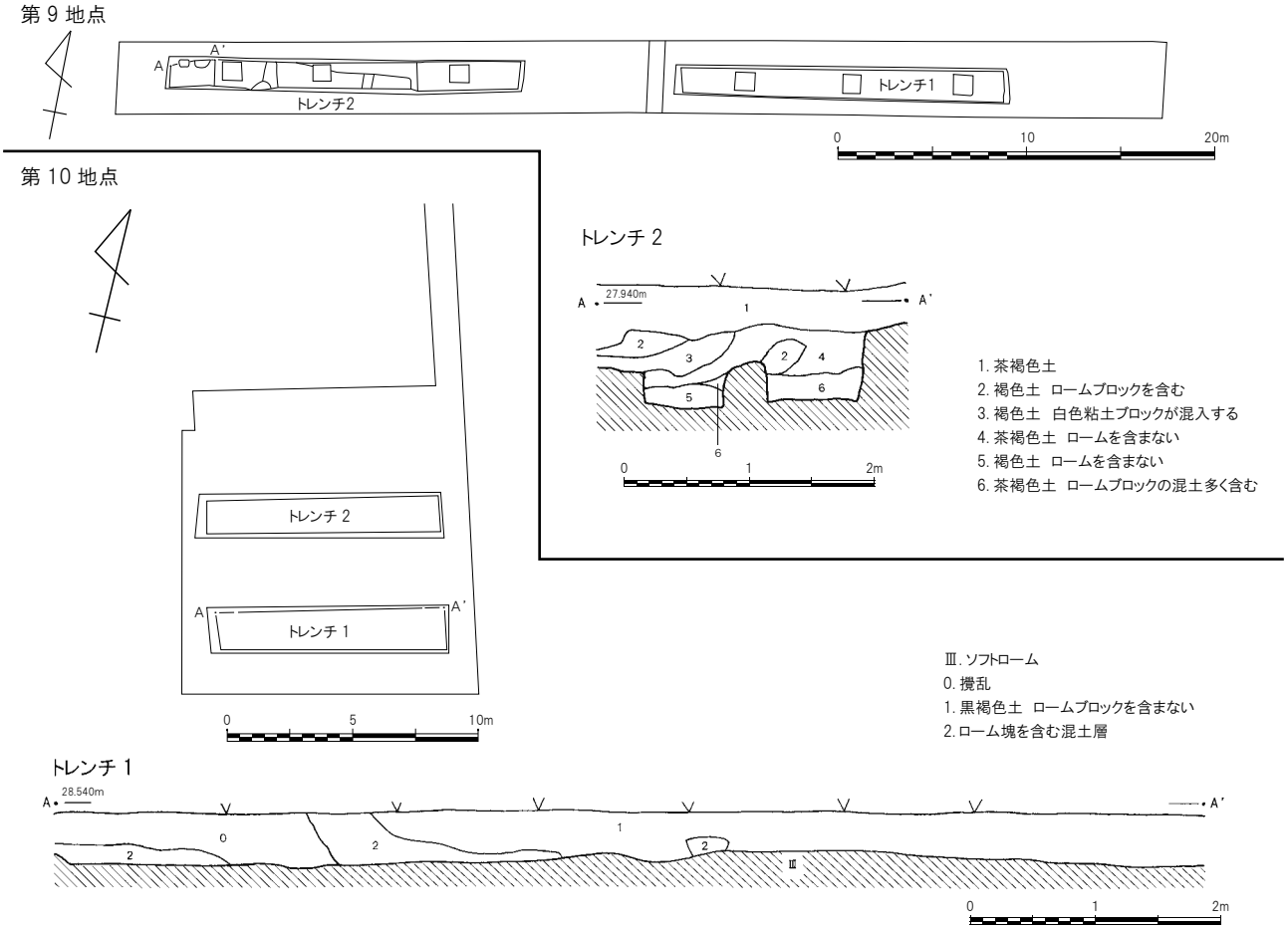
Ⅳ　大井戸上遺跡第 10 地点

（1）調査の概要

調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者より 2019 年 11 月 26 日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡範囲の南西部に位置する。申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するため 2020 年 2 月 4 日に試掘調査を実施した。

試掘調査は幅約 2m のトレンチ 2 本を設定し、重機による表土除去後人力による表面精査を行った。現地表面から地山ローム層までの深さは約 40 ㎝である。

調査の結果、遺構・遺物は確認されなかったため、写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえで埋戻し、調査を終了した。



第 154 図　大井戸上遺跡第 9・10 地点調査区域図 (1/400・1/300)、土層 (1/60)

第 28 章　東京第一陸軍造兵廠川越製造所（火工廠）跡に関する調査

Ⅰ　遺跡の立地と環境

東京第一陸軍造兵廠川越製造所跡 (以下「造兵廠 (火工廠) 跡」) は、東武東上線上福岡駅の北東約 400 m に位置する。東西 500 ～ 600 m、南北約 1,100 mの長方形に近い約 168,000 坪 (550,000 ㎡以上) の広大な敷地であった。

造兵廠 (火工廠) 跡の位置する武蔵野台地縁辺は、南から北に標高 19.5 ～ 16.5 mと緩く傾斜する。中央部の東側には台地の縁辺部から埋没谷の抉りが入り、現在でも福岡中学校の校庭にその痕跡がみられ

第 155 図　東京第一陸軍造兵廠川越製造所 (火工廠) 跡の地形と調査区 (1/6,000)

る。また、工事以前には敷地の北端部で 160 × 280 mの卵形の窪地がみられた。台地裾部の荒川低地には、北から東に新河岸川が流れる。武蔵野段丘面と荒川低地の現比高差は約 9 ～ 10 m、新河岸川の水面からでは約 12 mの急崖を成す。東側にはかつて新河岸川に流れ込む小河川が東流していたが、現在は暗渠の下水路となっている。

周辺の遺跡は、敷地の北東部に上福岡貝塚、権現山古墳群が含まれ、北側にはハケ遺跡、東側には滝遺跡が隣接する。考古学史に残る昭和 12 年の山内清男、関野克両先生による上福岡貝塚の発掘調査と調査成果に伴う研究報告の功績も、造兵廠 (火工廠) 跡の工事に伴うものであることはあまりにも有名である。

Ⅱ　東京第一陸軍造兵廠川越製造所 (火工廠) 跡の概略

昭和 11 年の建設当初から昭和 12 年 10 月までは「陸軍造兵廠東京工廠福岡派出所」、昭和 12 年 11 月から昭和 15 年 3 月までは「陸軍造兵廠東京工廠火具製造所福岡工場」、昭和 15 年 4 月から昭和 17 年 7 月までは「東京第一陸軍造兵廠第三製造所福岡工場」、その後は 20 年 8 月の終戦まで「東京第一陸軍造兵廠川越製造所」が正式名称である。地元では通称として「造兵廠」や「火工廠」と呼んでいたため、本書では「造兵廠 (火工廠) 跡」の名称を使用する。

造兵廠 (火工廠) 跡は、一貫して東京工廠 (のちに東京第一陸軍造兵廠へ改称) の隷下にあり、建設当初から終戦時まで変更は無かった。

造兵廠 (火工廠) 跡は大きく北から南に第 1・2・3 工場 (終戦時は 2 工場制) に分けられていた。

新河岸川・福岡河岸にあるハケ地区に接する最も北側の第 1 工場は、雷汞〔らいこう〕、爆粉、雷管等の生産を行っている。また、生産弾薬の試射を行う射場もこの地区にある。

第 2 工場は造兵廠 (火工廠) 跡の中枢部機能が集中した地区であり、最も広い面積を有する。爆薬填実室が建ち並び、焼夷実包工室、汽缶室等が配置されている。

第 3 工場は最も従業員の多い地区である。各種 7.7mm 銃弾・機関砲弾、信号弾等を製造していた。また、特徴的な窪地があり、現在も福岡中学校グラウンドとして活用されている。

第 1・2・3 工場共通の特徴として、大量の爆発物が保管されている倉庫の四方を土塁で囲い、火薬を取り扱う建物には防爆壁を設け爆発時の被害防止に努めている点があげられる。

昭和 12 年 12 月の操業から昭和 20 年 8 月の終戦まで稼働し、昭和 17 年の「川越製造所構内配置図」には約 600 棟の建物が記載されている。最盛期の就業者数は約 6,000 人～ 7,000 人と言われているが、終戦時には 4,694 人であった。敷地内の就労者以外にも福岡村内や近隣住民で荷物の運搬等を請負う者もいた。操業時の製造品は小銃・重機関銃用弾薬、航空機関銃・機関砲弾薬 (徹甲榴弾・曳光弾等)、火具類 (点火具、雷管・信管等)、火薬類 (起爆剤、雷汞、爆粉等) や信号弾・手榴弾・地雷・風船爆弾の部品等様々で、また製造品の試験、開発なども行っていた。

ふじみ野市内には造兵廠 (火工廠) 跡に関連する施設として、工場敷地外に川越製造所福岡第一宿舎 (官舎) と川越製造所福岡第二宿舎 (徴用工舎〔福岡村〕)、川越倉庫 (大井倉庫〔大井村〕) などが存在した。

造兵廠 (火工廠) 跡の工場から国鉄南古谷駅に通じる軍用道路 (現県道 180 号南古谷停車場線と同 335 号並木川崎線) が整備されたほか、東武東上線上福岡駅からの引き込み線も計画されたが実現に至らなかった。

昭和 20 年の終戦後、造兵廠 (火工廠) 跡地は大きく 3 つの土地利用がされた。北側の約 4 割は民間会社の大規模な工場群などが建ち、中央部の約 2 割強は市役所や小中学校などの公共用地、残る南側は大規模団地や公園などの住居空間として利用されてきた。

昭和 32 年福岡村郷土史刊行会による『福岡村史』の刊行、昭和 45 年川越市による『川越市史資料集聞き書き集』の刊行に伴う調査などが行われている。旧上福岡市では、昭和 57 年から平成 4 年まで上福

岡歴史民俗資料館の展示資料調査及び平和事業に伴う調査を実施、平成 5 年から 9 年までは市史編纂事業の一環として調査・研究を行い、概報の刊行と併せて特別展を開催、教育委員会では模型の制作や普及活動などを行ってきた。

また、平成 17 年より上野台団地建替工事が始まり、工事区域内から製造品である弾薬類を含む多数の造兵廠 (火工廠) 跡の遺物が発見された。この工事に伴う発掘調査の成果についてはふじみ野市埋蔵文化財調査報告第 9 集市内遺跡群 8 に掲載されている。

Ⅲ　旧上野台給食センター解体工事に伴う立会

（1）調査の概要

調査は旧上野台給食センターの解体工事に伴うものである。2018 年 7 月 10 日、工事立会を行っていた学校給食課より連絡を受けて現地確認を行ったところ、敷地の南側で火工廠の水溜 1 基を検出した。水溜は半分ほどが検出された状態で、南側の対象地外へと広がる。中には昭和 40 年代頃と考えられる廃棄物が大量に投入されている状態であったため、完掘はしていない。水溜の直径は約 300 ㎝、厚さ約 30 ㎝である。昭和 17 年の構内配置図と照らし合わせると、水槽塔 (給水塔) より約 100m 南の焼夷実包工室脇にあった水溜と一致する。記録用写真撮影を行って調査を終了した。

第 75 表　東京第一陸軍造兵廠川越製造所 (火工廠) 跡調査一覧表

地点名		所在地	調査・立会い期間	面積㎡ (本調査)	調査原因	旧地点名・旧遺構名	【新遺構名・番号】確認された遺構と遺物	所収報告書
旧第 2 小学校跡		上福岡一丁目 1 番 3 号	2004.10.22	―	旧市立第 2 小学校解体、上野台団地建替	旧第 2 小学校跡第 1 水槽	水溜 1 基	
		上福岡一丁目 1 番 3 号	2004.10.22	―		旧第 2 小学校跡第 2 水槽	水溜 1 基	
		上福岡一丁目 1 番 3 号	2004.12.1	―		旧第 2 小学校跡防空壕	防空壕 1 基、陶器製手榴弾 11 点、ガラス瓶 1 点 等	
上福岡貝第 1 地点		福岡 2-1500-23・63	2007.4.26 ～ 5.17、5.21 ～ 6.12	(124)	変電所増築		【水溜】1 基【不凍消火栓】1 基【防爆土塁跡】1 基【1･2 号住居跡】縄文前期住居跡 2 軒 (貝層有)【炉穴】縄文時代 1 基【堀跡】中近世 1 本、水溜 (直径 280 ㎝×深さ 198 ㎝×厚さ 25 ㎝)	市内 4
造兵廠 (火工廠) 跡第 1 地点	A 区	上福岡一丁目	2005.3.15	―	上野台団地建替 (第 1 ブロック先行区)	旧火工廠防空壕	【防空壕 1】1 基	
	B 区	上福岡二丁目	2009.6.5	―	上野台団地建替 (第 1 ブロック後工区、第 2 ブロック)	99 号棟下地中障害物	【水溜 4】1 基 (直径 350 ㎝×深さ 150 ㎝×厚さ 25 ㎝、底の厚さ 15 ㎝) 解体済みで破片のみ確認	市内 8
	C 区	上福岡三丁目	2009.6.17、8.20・21	25		防空壕	【防空壕 1】1 基	
	D 区	上福岡二丁目	2009.6.22	―		ヒューム管	【ヒューム管】	
	E 区	上福岡二丁目	2009.6.25・26	70		穴蔵、弾丸廃棄土坑	【穴蔵】1 基【土坑】1 基、土坑から弾丸多数出土	
	F 区	上福岡二丁目	2009.7.2・3	―		排水枡 (雨水・下水枡)	【排水枡】1 基	
	G 区	上福岡二丁目	2009.7.7 ～ 9	25		水溜 A	【水溜 5】1 基、スコップ痕有、直堀の流し込み成型、直径 1 ㎝以下の鉄筋僅かに有、直径 360 ㎝	
	H 区	上福岡二丁目		25		水溜 B	【水溜 2】1 基	
	I 区	上福岡三丁目		25		水溜 C	【水溜 6】1 基、下部直掘り流し込み成型、上部木枠流し込み成型、鉄筋なし、直径 360 ㎝×厚さ 25 ～ 35 ㎝	
	J 区	上福岡三丁目		25		水溜 D	【水溜 7】1 基、鉄筋なし、直径 360 ㎝×厚さ 10 ～ 22 ㎝	
	K 区	上福岡三丁目	2009.7.8・9	8		防空壕 (144 号棟付近)	【防空壕 2】1 基	
	L 区	上福岡二丁目	2009.7.8 ～ 8.3	105		2 号防空壕	【防空壕 3】1 基	
	M 区	上福岡一丁目	2009.8.6・7	42		3 号防空壕 (配水管)	【ヒューム管】直径 70 ㎝ (内径 80 ㎝) ×高さ 105 ㎝×厚さ 5 ㎝	
	N 区	上福岡二丁目	2010.1.26	25		水溜 (86 号棟下)	【水溜 3】1 基、直径 350 ㎝×深さ 201 ㎝×厚さ 28 ㎝	
	O 区	上福岡二丁目	2010.1.26・27	25		水溜 (83 号棟下)	【水溜 1】1 基、直径 350 ㎝×厚さ 33 ～ 35 ㎝	
2018 年度工事立会		福岡一丁目 1500-81	2018.7.10	―	旧上野台給食センター解体工事	水溜 (306 号棟脇)	1 基、直径 (300) ㎝×厚さ 30 ㎝、ヒューム管、レンガ、ガイシ、瓦	市内 25
2019 年度工事立会		福岡二丁目	2020.1.27	―	福岡二丁目地内ガス管新設工事		レンガ 1	市内 25

(上福岡市立歴史民俗資料館所蔵「杉本須恵子家文書」より作成。原図は昭和17年のものであるが、加筆されており昭和19年春頃の姿と思われる。)

第 156 図　東京第一陸軍造兵廠川越製造所 (火工廠) 跡構内配置図 (1/4,500)

（２）遺構と遺物

第 157 図 1 は陶製ヒューム管の破片である。極暗赤褐色 (7.5R　2/2) を呈し、ソケット部分で (58.0) ㎝、内径 (50.0) ㎝を測る。他にも接合しない破片が数点出土した。2 は磁器製碍子である。完形で、直径 7.3 ㎝、高さ 6.3 ㎝を測る。透明釉施釉、上面にクロムで「K.K」と記銘する。3 は耐火レンガである。淡黄色 (2.5Y　8/3) を呈し、長さ 22.7 ㎝、幅 11 ㎝、厚さ 5.8 ㎝、重さ 2543.75g を測る。両面に 5 ㎜四方の布目が施され、片面に「C.K.R」の刻印が確認できる。第 157 図 4 ～ 6 はすべて桟瓦である 41 は長さ (18.8) ㎝、幅 (14.2) ㎝、厚さ 1.7 ㎝を測る。5 は長さ (24.4) ㎝、幅 (21.1) ㎝、厚さ 1.8 ㎝で、径 4 ㎜の孔が 1 ヶ所開く。6 は長さ (19.2) ㎝、幅 (14.0) ㎝、厚さ 1.8 ㎝を測る。四隅の 1 ケ所が約 3 ㎝四方で欠ける。いずれも完形のものはなく、また銘が入るものもない。造兵廠 (火工廠) 跡の建物に使用された瓦である可能性が考えられる。

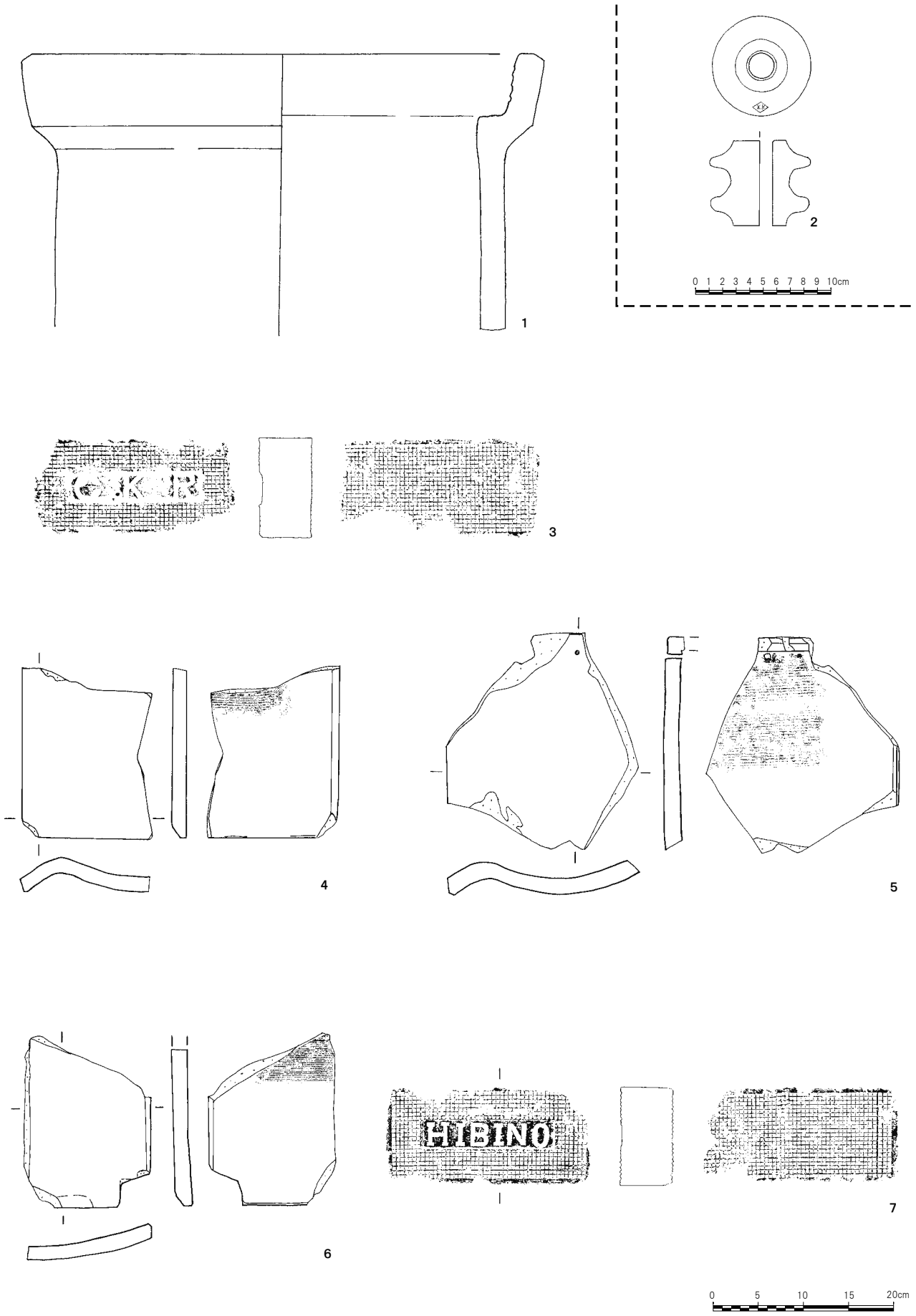
Ⅳ　福岡二丁目地内ガス管新設に伴う工事立会

（１）調査の概要

調査はガス管新設工事に伴うものである。当該地域は埋蔵文化財包蔵地に該当していないが、2020 年 1 月 27 日、作業中の現場を職員が通りかかった際に、複数のレンガがまとめて廃棄されていたため、急遽工事立会を実施した。工事は既に掘削済みで、出土位置や出土状況は確認できなかった。工事担当者に出土位置を確認し、遺物の回収をして終了した。

（２）遺構と遺物

出土したレンガは小さな破片まで含めると十数点確認できたが、今回は完形に近い 1 点を報告する。第 157 図 7 の耐火レンガは、灰白色 (2.5Y 8/2) を呈し、長さ 11 ㎝、幅 22.7 ㎝、厚さ 5.7 ㎝、重量 2,508.31g を測る。両面ともに 5 ㎜四方の布目が施され、片面に「HIBINO」の刻印が確認できる。刻印を正面にして上方側面のみ黒色である。これまでの近隣の調査では「HIBINO」刻印のレンガは見つかっていないが、他の白色耐火レンガと規格が共通している。上福岡貝塚第 2 地点の調査の際に出土した同様の規格のレンガは排水施設であったと考えられるため、今回のレンガについても排水施設の一部であった可能性は十分に考えられる。



第 157 図　東京第一陸軍造兵廠川越製造所 (火工廠) 関連工事立会出土遺物 (1/6・1/4)

第 29 章　まとめ

2018・2019 年度の調査について

2018 年度は試掘調査が 39 件、うち本調査に至ったものが 3 件であった。また、2019 年度は試掘調査が 38 件、うち本調査に至ったものが 4 件であった。松山遺跡第 99 地点及び本村遺跡第 136 地点については、ふじみ野市埋蔵文化財調査報告第 24 集『市内遺跡群２３』（2019 年 3 月刊行）及びふじみ野市埋蔵文化財調査報告第 25 集『市内遺跡群２４』（2020 年 3 月刊行）にて報告済みであるため割愛する。よって今回は上記以外の地点について時代ごとに概観する。

【縄文時代】

縄文時代の遺構としては、まず浄禅寺跡遺跡第 54 地点の土坑 1 が挙げられる。共伴する遺物が少ないため遺構の正確な時期は不明であるが、袋状にオーバーハングする形状を見ても縄文時代の落とし穴である可能性が高い。浄禅寺跡遺跡や小河川を挟んだ対岸の苗間東久保遺跡では縄文時代早期以降、複数の落とし穴や炉跡が確認されている。第 54 地点は立地からしてもなだらかに落ちる台地の際に位置することから、良好な狩場であったと推測できる。

川崎遺跡では第 48 地点と第 52 地点で縄文時代前期の住居跡を確認した。第 48 地点の J26 号住居跡は壁溝を伴う住居である。出土遺物が少ないため時期の特定が難しいが、関山式の土器片を含むため、前期である可能性が高い。第 52 地点で検出した J27 号住居跡は、川崎遺跡でこれまで確認された縄文住居の中でも比較的大型である。本遺跡では、確認されている住居数に比して全容が判明している住居が少ない。今回の調査で完掘に近い調査ができたことは非常に貴重であるといえる。

中期の遺構は、西ノ原遺跡第 175 地点で確認された住居跡 2 軒である。68 号住居跡は過去の 2 回の調査で、加曽利ＥⅡ式期の住居跡であることが判明している。今回の調査で未調査であった 1/4 を調査し完掘した。今回も出土遺物の中心は加曽利ＥⅡ式であることから、本住居跡の帰属時期の裏付けとなろう。217 号住居跡は、68 号住居跡と比べ掘り込みがしっかりと残っている。遺物は比較的覆土上層に集中しており、自然礫を多く含んでいた。そのため破片が多く、また住居跡の一部しか調査できていないことから、時期の特定が難しい。しかし、出土土器が中期後半でも加曽利ＥⅡ～Ⅲの時期に集中する傾向にある。また、加曽利ＥⅡ式期以降に形成されたと考えられる環状集落の北西部縁辺に立地していることから、68 号住居跡同様に加曽利ＥⅡ式期の住居跡である可能性が高いものと考えられる。今回の第 175 地点の周辺では未調査の部分もあり、今後調査事例が増加すればより一層西ノ原遺跡の環状集落の状況が鮮明になるであろう。

また、北野遺跡第 48 地点と神明後遺跡第 57 地点からは、明確な遺構は確認されなかったがどちらも遺物包含層から多量の土器片が出土した。北野遺跡第 48 地点では、出土土器の大半が中期の勝坂～加曽利ＥⅠ式である。立地的にも遺跡中央に入る小支谷の南側縁辺部で、標高約 19m と台地の中でも比較的高位に位置している。周辺では明確な同時期の遺構は確認されていないが、この周辺に集落が存在した可能性は否定できない。

神明後遺跡第 57 地点の遺物は加曽利ＥⅠ～Ⅱ式期に集中している。これまでの調査で判明している集落の時期と一致しており、隣接する第 28 地点及び第 55 地点の調査でも、同時期の住居跡や屋外埋甕が検出されていることから、今回確認された遺物についても周辺の集落からの流れ込みである可能性が考えられよう。

【古代】

古代の遺構としてはまず松山遺跡第 100 地点の H53 号住居跡が挙げられる。遺構の北側は調査区外であったため竈の確認はできなかったが、出土遺物から 7 世紀後半～ 8 世紀初頭に帰属するものと考えられる。また、床面直上で検出した炭化物について樹種同定と年代測定を行ったところ、樹種はクリで、7 世紀後半から 8 世紀後半という暦年代と比定された。年代については出土遺物との齟齬がなく、住居の年代を支持するものであり、松山遺跡の中でも比較的古い時代の住居跡であるといえる。クリの炭化物については、住居の構築材である可能性が高いが、どういった部材であったか判別できるほどは見つかっていないため、今後の課題といえよう。

川崎遺跡第 52 地点及びハケ遺跡第 26 地点では共に墨書土器と須恵器転用紡錘車が出土した。川崎遺跡第 52 地点は H73 号住居跡からの出土で、墨書土器については本文中でも述べたとおり、今回の調査にあたって北側の第 36 地点で出土した遺物の再検討を行ったところ、新たに確認したものである。ハケ遺跡第 26 地点の墨書土器と転用紡錘車については溝の覆土中より出土した。

まず墨書土器について述べる。最初に文字についてであるが、いずれもこれまで確認されている中に類例はない。川崎遺跡 H73 号住居跡出土のものは、須恵器坏の体部外面に「前南」と読める。ハケ遺跡第 26 地点の墨書土器は須恵器坏の底部に書かれているが文字が薄く判然としない。「馬□」と二文字のようであるが、二文字目は欠損により不明である。全体の傾向としては、これまでに市内で 36 点の墨書土器が出土しており、中でも川崎遺跡と松山遺跡で多数確認されている。松山遺跡では 8 世紀後半、川崎遺跡は 9 世紀代に集中する傾向にある。特に川崎遺跡では掘立柱建物跡や古代瓦片、瓦塔、灰釉陶器等が見つかっており、古代において重要な集落であった可能性が示唆されているが、今回の調査結果はそれをさらに補強するものといえる。ハケ遺跡での出土は 2 例目であるが、地理的条件を鑑みると川崎遺跡の影響を受けている可能性もあろう。今後の調査に期待する。

次に須恵器転用紡錘車について概観する。川崎遺跡出土の紡錘車は外形が非常に丁寧に磨かれており、孔内についても使用痕が認められることから、製品であったと推測される。対してハケ遺跡出土のものは、外形が打ち欠いたままの状態で調整が認められないため、未成品である可能性も考えられる。土器を再利用した紡錘車は、関東地方では 8 世紀後半より増加するといい（坂野 2010）、今回出土した 2 地点とも年代的には一致している。市内での出土例が少ないため未だ断片的な情報のみであるが、今後の調査が進めば遺跡全体の性格や当時の手工業生産について解明されるであろう。

【中近世・近代】

中近世以降の遺構としては堀跡が挙げられる。本報告書では川崎遺跡第 53 地点、亀久保堀跡第 33 地点、駒林遺跡第 40 地点の 3 カ所で確認した。中世の堀跡としているが、近年の覆土の土壌サンプルにおける自然科学分析の結果から、12 世紀初頭以前の掘削が示唆されるものもある。

まず川崎遺跡第 53 地点で確認された堀跡は、その立地や形状、規模から第 2 次調査で確認された L.N.15 の堀跡に繋がるものであると考えられる。また同じく第 2 次調査の A 区西側で確認された L.N.9 の堀跡は南北方向に走行するが、形状や規模からして同一の堀である可能性が高い。今回確認した第 53 地点の堀跡は、本地点より西側で北に走行方向を変える。土層の観察から滞水の痕跡は認められなかったことから空堀であったと考えられる。土地を区画する堀であろう。また、今回は堀覆土の土壌サンプル分析を実施した。川崎遺跡で確認された堀跡及び溝における科学的分析は初めてである。その結果、堀の掘削が 12 世紀以前であった可能性が示され、中世より遡る可能性が出てきた。

亀久保堀跡遺跡は、隣接する江川南遺跡、東久保遺跡も含めて全長約 600m に及ぶ長大な堀跡で、第 33 地点の堀跡もその一部である。他地点同様、出土遺物は少ないため遺物から時期を限定するのは困難

であるといえる。今回の分析では平安時代の天仁元年（1108 年）に噴火した浅間山の噴出物は確認されなかったため時期を絞り込むことは難しいが、堀の埋没が 12 世紀初頭以前である可能性も含まれる。

駒林遺跡第 40 地点の堀跡は東西方向に走行する。西側に隣接する第 28 地点では南北方向に走行する堀跡を確認しているが、東側の立ち上がりが未調査であるため今回の堀との関係性が不明瞭である。しかしながら、両者の堀跡は合流する可能性が想定される。堀の時期については、今回の調査では撹乱部分が非常に多かったため、土壌サンプルの採取には至らなかった。そのため、時期を限定することは困難である。これまでの駒林遺跡の堀跡の調査で実施した自然科学分析の結果によると、12 世紀初頭の浅間山噴火よりも後に掘削されたものと考えられる。今回確認された堀跡も、駒林遺跡でこれまで確認されている一連である可能性が高く、12 世紀初頭以降に掘削されたものと考えるのが妥当である。

市内でこれまでに発見された堀跡は、形状や規模が近似しているものが多く、一見すると同一時期の堀であるように見えるが、自然科学分析の結果を踏まえて概観すると、川崎遺跡や亀久保堀跡遺跡では古代までさかのぼる可能性があり、駒林遺跡、神明後遺跡の堀跡がそれに後出するような様相がだんだんと浮き彫りになってきた。これらの遺跡では未調査部分が多くあるため、今後調査が進むと古代末期から中世にかけての集落の有り方がより鮮明になってくるであろう。

滝遺跡第 35 地点では中近世遺構群が確認され、井戸跡から板碑が出土した。詳細及び考察については第 6 章Ⅳに掲載した。滝遺跡では第 8 次と第 11 次の調査で中近世の遺構が確認されている。特に第 11 次の段切り遺構と集石 2 基は出土遺物からその下限が 19 世紀になると推測される。第 35 地点の井戸内の板碑の廃棄状況や年代、その他の出土遺物の年代を踏まえ、17 ～ 18 世紀が遺構の年代の下限であると考えられる。

近代では、造兵廠（火工廠）跡の遺物が挙げられる。特に出土した 2 点の耐火レンガは、これまでに確認しているものとは異なる刻印を持つものである。「C.K.R」は中京耐火煉瓦株式会社製の刻印で、昭和 15 年以降に生産されたものである。「HIBINO」は日比野耐火煉瓦製造所製のレンガであると想定される。いずれも愛知県産である。上福岡貝塚第 2 地点の調査時に出土した耐火レンガは、大半が「SHINAGAWA」の刻印がある品川煉瓦株式会社製のものであったが、複数の工場で生産されたレンガを使用していた様子がうかがえる。今回掲載した 2 点はいずれも使用状況が不明であるため、製作会社の違いがどのような差異であるのかまでは明らかにできないが、今後の調査の一助になれば幸いである。

〈参考文献〉

今井堯・高﨑直成・坪田幹男　2008 『ふじみ野市埋蔵文化財調査報告第 4 集　市内遺跡群 3』 ふじみ野市教育委員会

今井堯・鍋島直久　2005 『東久保の遺跡』 大井町遺跡調査会

上福岡市教育委員会・上福岡市史編纂委員会編　1999 『上福岡市史　資料編第 1 巻　自然史・考古』 上福岡市

川崎遺跡調査団編　1976 『川崎遺跡　第 2 次調査概報』 上福岡市教育委員会

鍋島直久・越村篤　2015 『ふじみ野市埋蔵文化財調査報告第 15 集　市内遺跡群 14』 ふじみ野市教育委員会

鍋島直久・清水理史・宅間清公　2016 『ふじみ野市埋蔵文化財調査報告第 18 集　市内遺跡群 17　上福岡貝塚第 2 地点』 ふじみ野市教育委員会

坂野千登勢　2010 「資源の再利用と古代社会－土器再利用と基礎研究－」

坂野千登勢　2012 「須恵器の分類手法と編年の予察　- 奈良時代武蔵国における須恵器坏 -」『埼玉大学紀要（教養学部）』第 48 巻第 1 号　埼玉大学

水野信太郎　1999 『日本煉瓦史の研究』 法政大学出版局

宮瀧交二　1992 「板碑の廃棄に関する基礎的検討（一）- 埼玉県内における井戸跡出土の板碑をめぐって -」『研究紀要』第 9 号　財団法人埼玉県埋蔵文化財調査事業団

ハケ遺跡 1 号墳出土の不明埴輪について

ハケ遺跡古墳群は新河岸川右岸に展開する 6 世紀代の古墳群である。現在、4 基の円墳を確認している（第 42 図参照）。2014 年度に実施した調査では、市内で初めてとなる人物埴輪が出土した。詳細については『市内遺跡群 21』（2018 年刊行）に所収している。その中で器種不明としていた埴輪 1 点について、新たな知見を得たのでここで簡単ではあるがまとめておく。きっかけは 2019 年（平成 31 年）1 月に 1 号墳出土の人物埴輪 7 点が市の指定文化財となったことを記念して、2020 年 10 月に大井郷土資料館で「ふじみ野の古墳と埴輪～ハケ遺跡古墳群と埴輪～」を開催した。その際、日高慎東京学芸大学教授に記念講演会をお願いするにあたり、1 号墳の出土埴輪を実見していただいたことによる。図 1 の形象埴輪について、日高教授より「スカート状着衣の破片」ではないかとの指摘を受け、再検討に至った。

図 1 の形象埴輪はコの字状のパーツで、正面から見ると直立するようだが、横から見ると傾斜していることがわかる。上から見ると不自然にうねっており、1 ～ 1.8 ㎝程の器厚を踏まえても家形埴輪等建物の一部である可能性は低いと考えた。しかしながら、当時はそれ以上の言及は出来ずに「器種不明の形象埴輪」として報告したものである。上記の指摘を受けて再度見直したところ、不自然なうねりについては布状の表現であった可能性が高いことがわかった。しかし内面を観察しても剥離痕等は確認できず、また足のパーツについて現在のところ確認されていないため、積極的に裏付け出来る資料がない。この点については今後の調査の進展に期待する。

では図 1 の形象埴輪がスカート状の衣服を身に着けた人物であると仮定した場合、どのような人物像であったのだろうか。

まず前提として、人物埴輪の中で「座る」表現については以下の通りに分類することができる。（塚田 2007 より）

・腰を掛け、足を垂らす…「椅座」
・足を組んで座る…「胡坐（胡座）」
・足の裏を向かい合わせて座る…「楽座」
・両膝を地面に付け跪き、両手を付く…「跪座（跪坐）」
・両膝を地面に付けて座る…「正座」

椅座以外はすべて基本的には地面に直接腰を下ろす座り方である。楽座は弾琴埴輪に特徴的な座り方、正座は埴輪の中では女子像に見られる座り方であるとされる。今回の埴輪は、比較的直線的な表現であることから、足を曲げて座るような表現ではなく椅座の人物像であったと考えるのが自然である。椅座の人物については男女差がないため、性別を限定することは現段階では不可能である。腰掛に座る人物としては首長と思しき男子像、巫女、弾琴人物が挙げられる。首長と思しき男子は人物埴輪群像の中心的人物である。すなわち高位の人物像であると言える。巫女と思われる女子像については群像の中でも複数並べられることが多いが、椅座の巫女については女子像の中でも位が高い人物である可能性が考えられる。弾琴埴輪は楽座、椅座の両方で表現される。埴輪を持つ古墳に必ずしも立てられるわけではなく、全国的に見ても出土数は多くない。

上記のような人物像であった可能性は大いに考えられるが、1 号墳の調査自体がごく一部に限られているため、推測の域を出ない。今後周辺の調査が進めば、この「椅座の人物像」についても明らかになることであろう。

〈参考文献〉

岡崎裕子他　2018 『ふじみ野市埋蔵文化財調査報告第 22 集　市内遺跡群 21』 ふじみ野市教育委員会

澁谷麻友子　2020 「弾琴埴輪の様相と意義」『駒澤考古』第 45 号　駒澤大学考古学研究室

塚田良道　2007 『人物埴輪の文化史的研究』 雄山閣

日高慎　2020 「人物埴輪群像が表す世界－ハケ遺跡第 16 地点 1 号墳の女性像の所作をめぐって－」『ふじみ野の古墳と埴輪～ハケ遺跡古墳群と埴輪～』 ふじみ野市立大井郷土資料館

（岡崎裕子）

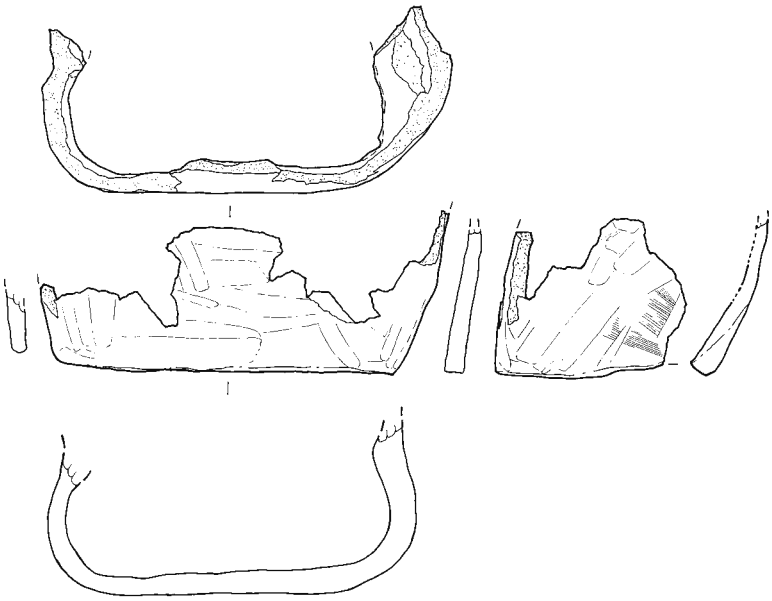


図 1　ハケ遺跡 1 号墳出土埴輪「スカート状着衣の破片」

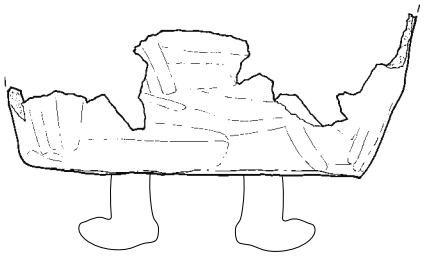


図 2　復元想定図

太田市塚廻り3号墳

太田市塚廻り3号墳

神奈川県蓼原古墳

（出典：『国宝武人ハニワ、群馬へ帰る！』）

図 3　椅座人物例（首長・巫女・弾琴人物）

附　編

亀久保堀跡遺跡第 33 地点の自然科学分析

パリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

ふじみ野市域の地形的な位置は、武蔵野台地の北端部付近にある。遠藤ほか (2019) による武蔵野台地の地形面区分に従えば、武蔵野台地を古多摩川水系が形成した東側に広がる扇状地としてみると、扇の北側の縁に相当する。狭山丘陵を挟んで扇の南側の縁にあたる立川市周辺に立川面が広がっているのに対応して、北側の縁のふじみ野市域周辺にも立川面が広く分布している。また、市内には、扇状地形成時に削り残されたと考えられる一段高い武蔵野面の M2 面に区分される段丘も分布している。本報告で対象とされた滝遺跡、亀久保堀跡遺跡は、いずれも立川面に区分される台地上に位置する。

本報告では、亀久保堀遺跡第 33 地点を対象として、覆土中の火山灰 (テフラ) の産状を明らかにし、堀跡にかかわる年代資料を作成する。

Ⅰ. 亀久保堀跡遺跡の堀跡覆土のテフラ分析

1. 試料

試料は、亀久保堀跡遺跡第 33 地点で作成された西壁 SPA-A' と SPB-B' の 2 箇所の堀跡断面と松山遺跡第 99 地点の堀ベルトとされた堀跡断面の 3 箇所から採取された合計 6 点の堀跡覆土である。

亀久保堀跡遺跡第 33 地点西壁 SPA-A' では、覆土層は上位より 1 層から 10 層まで分層され、覆土層のほぼ中部に相当する 5 層より採取された試料番号 2 と 3 の 2 点を分析の対象とする。同遺跡同地点の SPB-B' では、覆土層は上位より 1 層から 9 層まで分層され、覆土層中部の 4 層から採取された試料番号 8、覆土層下部の 6 層と 7 層から採取された試料番号 11、覆土層最下部の 8 層から採取された試料番号 14 の計 3 点を分析の対象とする。各断面の試料採取位置を図 2、3 に示す。

表 1　テフラ分析結果

遺跡名	箇所名	層名	試料番号	スコリア			火山ガラス		軽石
				量	色調・発泡度	最大粒径	量	色調・形態	量
亀久保堀跡第 33 地点	西壁 SPA-A'	5	2	＋＋	B・b,B・sb,Br・sb,R・b	1.2	＋	cl・bw,cl・pm	－
			3	＋＋	B・b,B・sb,Br・sb,R・b>GBr・sb	1.5	＋	cl・bw,cl・pm	－
	SPB-B'	4	8	＋	B・b,B・sb,Br・sb,R・b	2.0	＋	cl・bw,cl・pm	－
		6・7	11	＋＋	B・b,B・sb,Br・sb,R・b	1.5	＋	cl・bw,cl・pm	－
		8	14	－			＋	cl・bw,cl・pm	－
松山第 99 地点	堀ベルト土		No.3	(+)	B・sb	0.8	＋	cl・bw,cl・pm	－

凡例　－ : 含まれない．(+): きわめて微量．＋ : 微量．＋＋ : 少量．＋＋＋ : 中量．＋＋＋＋ : 多量．
B: 黒色．Br: 褐色．DGBr: 暗灰褐色．R: 赤色．
g: 良好．sg: やや良好．sb: やや不良．b: 不良．最大粒径は mm.
cl: 無色透明．br: 褐色．bw: バブル型．md: 中間型．pm: 軽石型．

2. 分析方法

試料約 20 g を蒸発皿に取り、水を加え泥水にした状態で超音波洗浄装置により粒子を分散し、上澄みを流し去る。この操作を繰り返すことにより得られた砂分を乾燥させた後、実体顕微鏡下にて観察する。観察は、テフラの本質物質であるスコリア・火山ガラス・軽石を対象とし、その特徴や含有量の多少を定性的に調べる。

火山ガラスは、その形態によりバブル型・中間型・軽石型の 3 タイプに分類した。各型の形態は、バブル型は薄手平板状、中間型は表面に気泡の少ない厚手平板状あるいは破砕片状などの塊状ガラスであり、軽石型は小気泡を非常に多く持った塊状および気泡の長く伸びた繊維束状のものとする。

さらに火山ガラスについては、その屈折率を測定することにより、テフラを特定するための指標とする。屈折率の測定は、古澤 (1995) の MAIOT を使用した温度変化法を用いた。

3. 結果

結果を表 2 に示す。スコリアは、亀久保堀跡遺跡第 33 地点西壁 SPA-A' の試料番号 2 と 3、SPB-B' の試料番号 11 に少量含まれ、SPB-B' の試料番号 8 には微量含まれるが、同断面の試料番号 14 には含まれない。亀久保遺跡第 33 地点の試料のスコリアの特徴は、最大径 1.5mm 前後であり、黒色で発泡不良、黒色で発泡やや不良、褐色で発泡やや不良、赤色で発泡不良などのスコリアが混在する。

火山ガラスは、全試料に微量含まれ、いずれも無色透明のバブル型と無色透明の軽石型が混在する。各試料の火山ガラスの屈折率測定結果を図 4 に示す。6 点の試料が示す火山ガラスの屈折率は、ほぼ同様のレンジを示し、概ね n1.497-1.503 という比較的広い幅を有する。レンジの中での最頻値 (モード) は、試料によって異なるが、n1.499 付近あるいは n1.501 付近となる傾向がある。なお、軽石は、いずれの試料においても認められなかった。

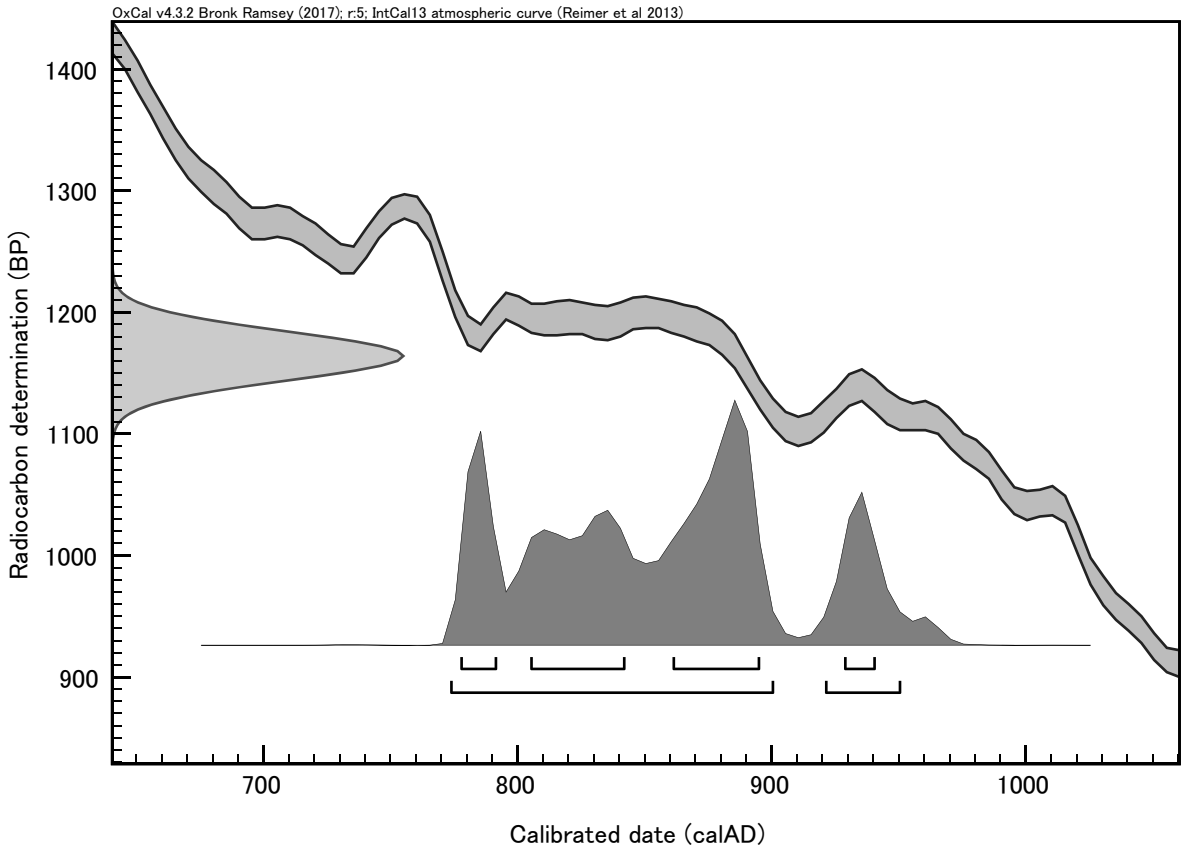


図 1　暦年代較正結果

4. 考察

各遺跡の堀跡覆土から検出されたスコリアは、遺跡の地理的位置とスコリアの特徴とから、完新世に富士山より噴出したテフラである新期富士テフラに由来すると考えられる。新期富士テフラは、上杉 (1990) による記載では、富士黒土層中の S-0 から宝永スコリアの S-25 まで記載されており、さらにこの中のテフラによっては、細分されているものもあることから、50 枚近くのテフラにより構成されている。ただし、給源から離れた神奈川県東部や東京都の低地の調査例では、検出される新期富士テフラの枚数は極端に少なくなり、縄文時代後期から晩期のテフラである S-10・11(湯船第一スコリア (Yu-1))、S-13(砂沢スコリア (Zu))、弥生時代前期頃の S-22(湯船第二スコリア (Yu-2))、奈良～平安時代の噴火で多量のスコリアを噴出したとされている S-24-6 ～ 8、さらには江戸時代の宝永 4 年 (1707 年) に噴出した宝永スコリア (F-Ho) などにほぼ限定される。当社では、これまでにも神奈川県東部や東京都の低地の調査例により、上述した各テフラの試料を得ており、それらの観察から、各テフラにはスコリアの粒径や色調および発泡度や斑晶の包有状況などの異なるスコリアが複数種混在しており、それら複数種の混在の度合いが異なることでテフラの特徴を把握している。

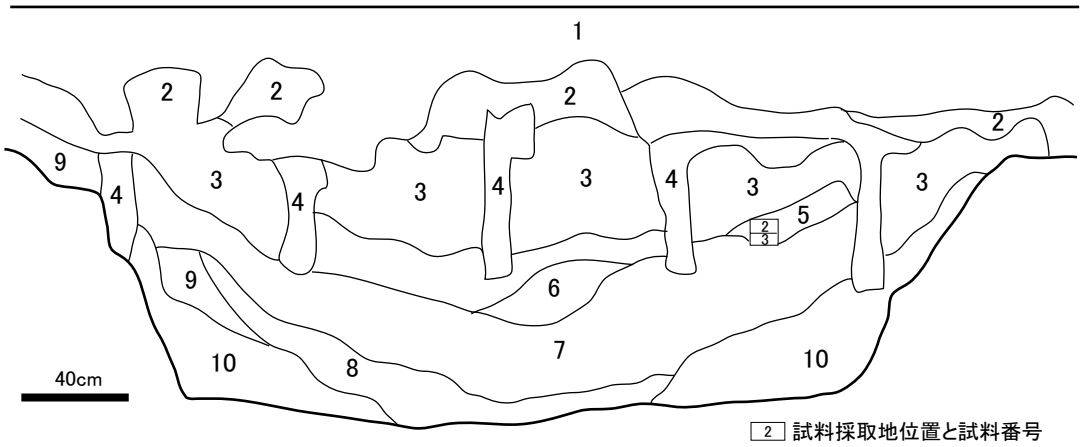


図 2　亀久保堀跡遺跡第 33 地点西壁 SPA-A’ の試料採取位置

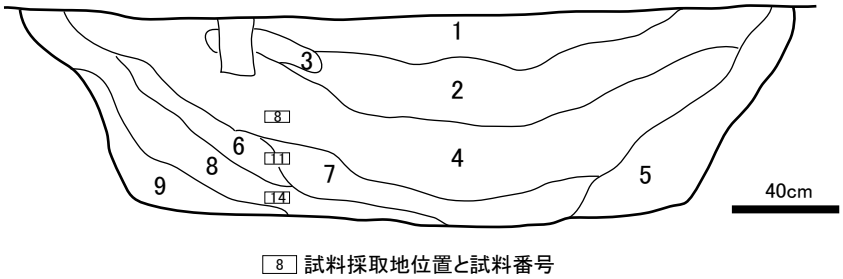


図 3　亀久保堀跡遺跡第 33 地点 SPB-B’ の試料採取位置

ただし、逆にスコリアの特徴からテフラを特定するためには、試料が単独のテフラの降下堆積層であり、複数のテフラが混在しないことが前提条件となる。今回の試料の場合、覆土中におけるスコリアの相対的な量比は少量以下であることから、いずれの試料もテフラの降下堆積層準からの採取である可能性は低い。おそらく、覆土中のスコリアは、堀の廃絶後に堀内に流れ込んだ周囲の土壌中に元々含まれていたものと考えられる。その場合、覆土中のスコリアは複数のテフラに由来するスコリアが混在している可能性が高いため、その特徴から由来するテフラを特定することは難しい。したがって、今回のテフラ分析結果からは、堀の構築年代や埋積年代に関わる資料を得ることはできない。

なお、試料中から微量検出された火山ガラスについては、その形態と屈折率の値とから、姶良 Tn テフラ (AT: 町田・新井 ,1976) と立川ローム層上部ガラス質テフラ (UG: 山崎 ,1978) の両テフラに由来する火山ガラスが混在していると考えられる。町田・新井 (2003) による記載では、AT の火山ガラスの屈折率は n1.498-1.501 であり、UG の火山ガラスの屈折率は n1.500-1.503 であることから、今回の各試料における両テフラの混在は、屈折率測定結果にもよく表れている。また、AT の降灰層準は立川ローム層の中部付近にあり、UG の降灰層準は立川ローム層最上部にあることから、いずれのテフラの火山ガラスも立川ローム層の上部には比較的多く含まれている。堀跡の側壁を構成するローム層は立川ローム層の上部付近と考えられるから、堀跡覆土の埋積時に側壁のローム層が流れ込んだことを示唆している。

ところで、これまでの分析例とふじみ野市の地理的位置とを考慮すると、ふじみ野市周辺の台地表層の黒ボク土層の上部からは径 0.5 ～ 1.0mm ほどの細粒の軽石が検出されることが多い。この軽石は、色調や発泡度と包有される斑晶鉱物の種類および屈折率から平安時代の天仁元年 (1108 年) に浅間火山から噴出した浅間 B テフラ (As-B: 新井 ,1979) に由来すると考えられる。今回の分析では、軽石が全く検出されなかったことから、堀跡埋積時の周囲の黒ボク土層中には As-B の軽石が含まれていなかった可能性が高い。すなわち As-B の降灰以前にすでに堀跡は廃絶され、ある程度の埋積も進行していたことになる。したがって、堀跡の構築年代は新しくとも As-B の降灰した 12 世紀初頭よりは古い可能性がある。

引用文献

新井房夫 ,1979, 関東地方北西部の縄文時代以降の指標テフラ層 . 考古学ジャーナル ,157,41-52.

Bronk RC., 2009, Bayesian analysis of radiocarbon dates. Radiocarbon ,51, 337-360.

遠藤邦彦・千葉達朗・杉中佑輔・須貝俊彦・鈴木毅彦・上杉 陽・石綿しげ子・中山俊雄・舟津太郎・大里重人・鈴木正章・野口真利江・佐藤明夫・近藤玲介・堀 伸三郎 ,2019, 武蔵野台地の新たな地形区分 . 第四紀研究 ,58,353-375.

古澤 明 ,1995, 火山ガラスの屈折率測定および形態分類とその統計的な解析に基づくテフラの識別 . 地質学雑誌 ,101,123-133.

町田 洋・新井房夫 ,1976, 広域に分布する火山灰－姶良 Tn 火山灰の発見とその意義－ . 科学 ,46,339-347.

町田 洋・新井房夫 ,2003, 新編 火山灰アトラス . 東京大学出版会 ,336p.

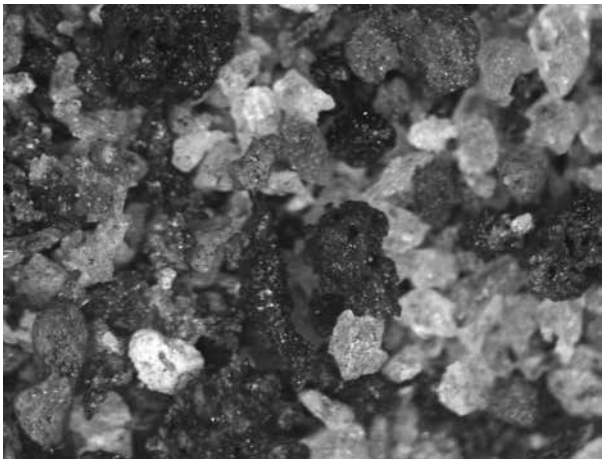
Reimer PJ., Bard E., Bayliss A., Beck JW., Blackwell PG., Bronk RC., Buck CE., Cheng H., Edwards RL., Friedrich M., Grootes PM., Guilderson TP., Haflidason H., Hajdas I., Hatté C., Heaton TJ., Hoffmann DL., Hogg AG., Hughen KA., Kaiser KF., Kromer B., Manning SW., Niu M., Reimer RW., Richards DA., Scott EM., Southon JR., Staff RA., Turney CSM., van der Plicht J., 2013, IntCal13 and Marine13 radiocarbon age calibration curves 0–50,000 years cal BP. Radiocarbon, 55, 1869–1887.

Stuiver M. & Polach AH., 1977, Radiocarbon 1977 Discussion Reporting of 14C Data. Radiocarbon, 19, 355-363.

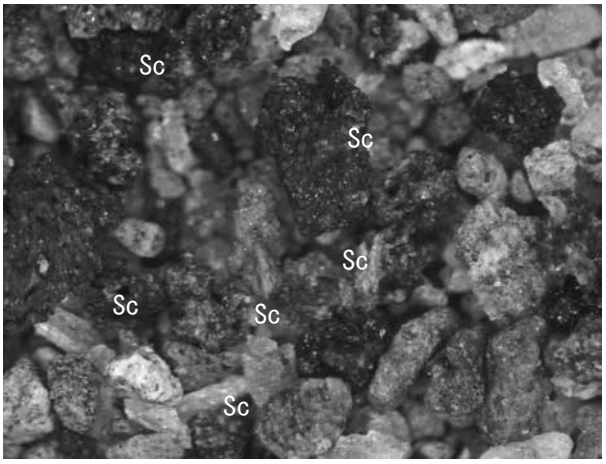
上杉 陽 ,1990, 富士火山東方地域のテフラ標準柱状図－その 1:S-25 ～ Y-114 － . 関東の四紀 ,16,3-28.

山崎晴雄 ,1978, 立川断層とその第四紀後期の運動 . 第四紀研究 ,16,231-246.

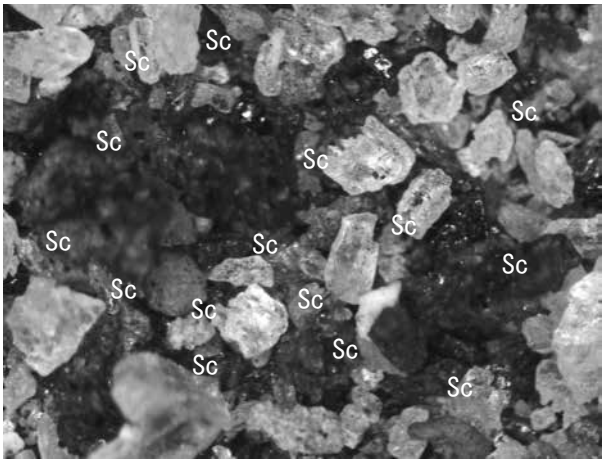
図版1　テフラ・砂分の状況



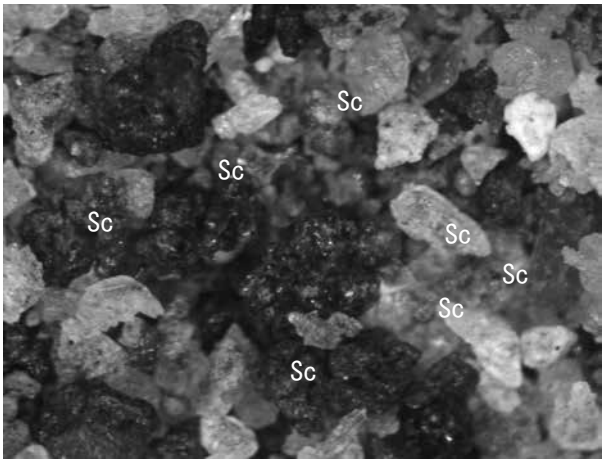
1. 新期富士テフラのスコリア(亀久保堀跡遺跡第33地点西壁SPA-A'5層;2)



2. 新期富士テフラのスコリア(亀久保堀跡遺跡第33地点西壁SPA-A'5層;3)

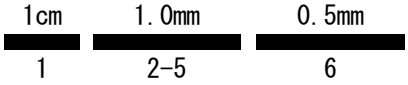


3. 新期富士テフラのスコリア(亀久保堀跡遺跡第33地点SPB-B'4層;8)



4. 新期富士テフラのスコリア(亀久保堀跡遺跡第33地点SPB-B'6・7層;11)

Sc:スコリア.



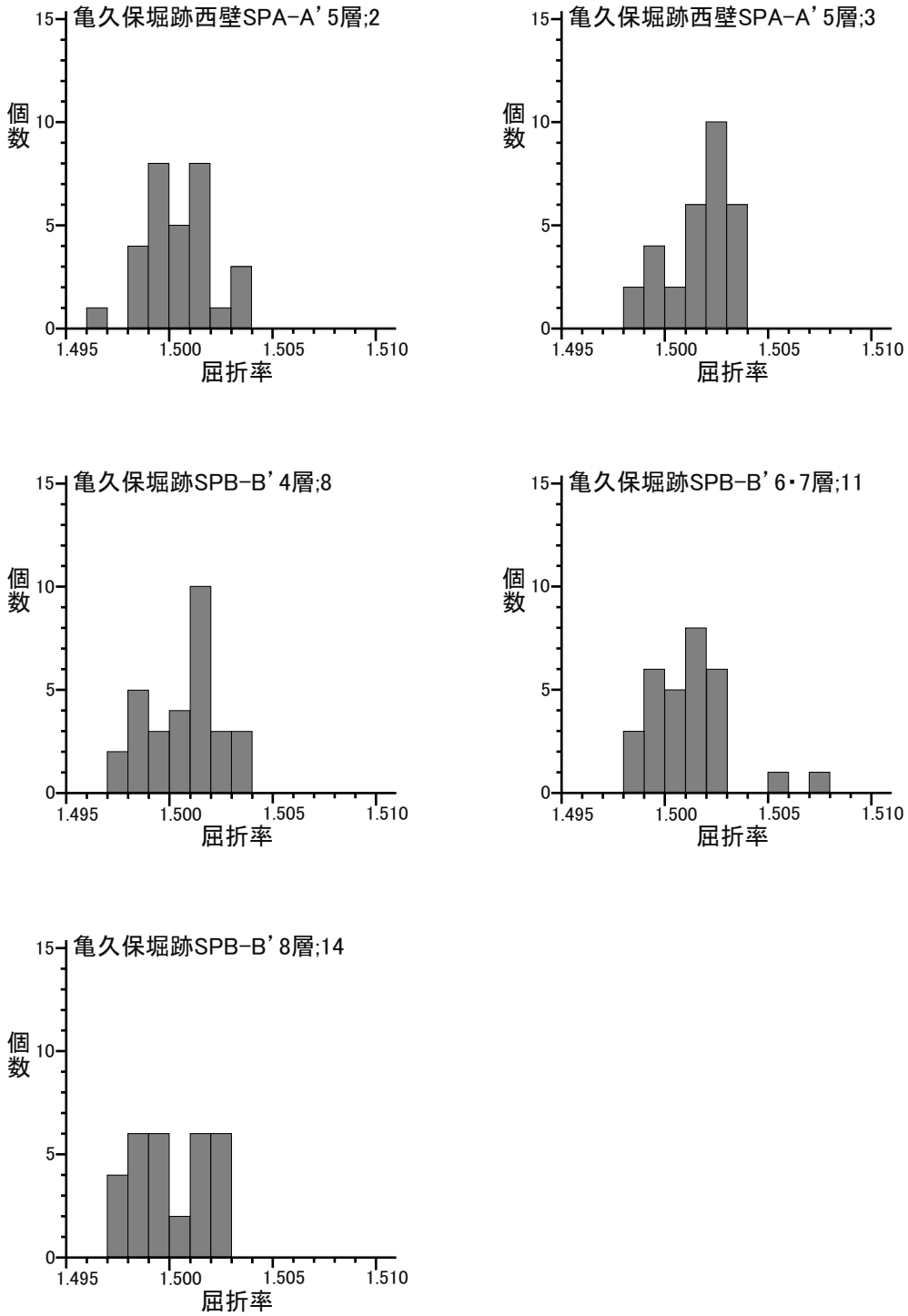


図 4 火山ガラスの屈折率測定結果

市内遺跡出土遺物および検出遺構の分析

パリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

本報告では、ふじみ野市に所在する松山遺跡および川崎遺跡において検出された遺物と遺構を対象とした自然科学分析を行い、当該遺跡に係る資料を作成する。

松山遺跡は、武蔵野台地北西部の新河岸川右岸の沖積低地を望む台地平坦面上に位置する。この台地の地形面は、遠藤ほか (2019) により立川 (Tc) 面に区分されている。これまでの発掘調査により、古代の住居跡を中心として縄文時代および中・近世の遺構や遺物が確認されている。本分析調査では、2019 年に発掘調査の行われた第 100 地点の古代の住居跡より出土した炭化材の放射性炭素年代測定を行うことにより、住居跡の年代を検証する。

川崎遺跡は、武蔵野台地北西部の崖下に蛇行した新河岸川を望む台地平坦面上に位置する。この台地の地形面は、遠藤ほか (2019) により 8 ～ 7 万年前に形成された M2 面に区分されている。これまでの発掘調査により、縄文時代および古代の遺構や遺物が確認されている。本分析調査では、2019 年に発掘調査の行われた第 53 地点で検出された古代の堀跡とされる遺構の覆土を対象として火山灰 (テフラ) の産状を確認し、噴出年代の明らかにされている指標テフラと対比することにより、遺構の年代に関わる資料を作成する。

Ⅰ. 松山遺跡出土炭化材の分析

1. 試料

試料は、第 100 地点で検出された H53 号住居跡より出土した炭化材 1 点である。試料名は「スミ 1」とされ、住居跡の壁際床面直上から出土した長さ約 70cm ほどの炭化材である。その出土状況からおそらく住居構築材の一部であった可能性があると考えられる。分析には出土した炭化材の破片が供試されている。

2. 分析方法

(1) 放射性炭素年代測定

炭化材は、形状を観察し、小さなものは全量、大きなものは最外年輪付近から約 50mg の年代測定用試料を切り出す。切り出した破片から、メス・ピンセットなどにより、根や土壌など後代の付着物を、物理的に除去する。

次に塩酸 (HCl) により炭酸塩等酸可溶成分を除去、水酸化ナトリウム (NaOH) により腐植酸等アルカリ可溶成分を除去、塩酸によりアルカリ処理時に生成した炭酸塩等酸可溶成分を除去する (酸・アルカリ・酸処理 AAA:Acid Alkali Acid)。濃度は塩酸、水酸化ナトリウム共に 1mol/L であるが、試料が脆弱な場合や少ない場合は、アルカリの濃度を調整して試料の損耗を防ぐ (AaA と記載)。試料がさらに少ない場合、アルカリ処理を行うと測定に必要な炭素が得られなくなるため、1mol/L の塩酸処理のみにとどめている (HCl と記載)。

試料の燃焼、二酸化炭素の精製、グラファイト化 (鉄を触媒とし水素で還元する) は Elementar 社の vario ISOTOPE cube と Ionplus 社の AGE3 を連結した自動化装置を用いる。処理後のグラファイト・鉄粉混合試料を NEC 社製のハンドプレス機を用いて内径 1mm の孔にプレスし、測定試料とする。

測定はタンデム加速器をベースとした 14C-AMS 専用装置 (NEC 社製) を用いて、14C の計数、13C 濃度 (13C/12C)、14C 濃度 (14C/12C) を測定する。AMS 測定時に、米国国立標準局 (NIST) から提供される標準試料 (HOX- Ⅱ)、国際原子力機関から提供される標準試料 (IAEA-C6 等)、バックグラウンド試料 (IAEA-C1)

の測定も行う。

δ 13C は試料炭素の 13C 濃度 (13C/12C) を測定し、基準試料からのずれを千分偏差 (‰) で表したものである。放射性炭素の半減期は LIBBY の半減期 5568 年を使用する。また、測定年代は 1950 年を基点とした年代 (BP) であり、誤差は標準偏差 (One Sigma;68%) に相当する年代である。測定年代の表示方法は、国際学会での勧告に従う (Stuiver & Polach,1977)。また、暦年較正用に一桁目まで表した値も記す。暦年較正は、大気中の 14C 濃度が一定で半減期が 5568 年として算出された年代値に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の 14C 濃度の変動、その後訂正された半減期 (14C の半減期 5730 ± 40 年) を較正することによって、暦年代に近づける手法である。暦年較正に用いるソフトウエアは、Oxcal4.4(Bronk,2009) である。較正曲線は Intcal20 (Reimer et al.,2020) を用いる。

(2) 樹種同定

剃刀を用いて木口 (横断面)・柾目 (放射断面)・板目 (接線断面) の各割断面を作成、走査型電子顕微鏡 (SEM) で写真撮影を行う。同定には現生標本および独立行政法人森林総合研究所の日本産木材識別データベース等を用いる。

なお、木材組織の名称や特徴は、島地・伊東 (1982)、Wheeler 他 (1998)、Richter 他 (2006) を参考にする。また、日本産木材の組織配列は、林 (1991) や伊東 (1995,1996,1997,1998,1999) を参考にする。

3. 結果

(1) 放射性炭素年代測定

結果を表 1 に示す。今回は加速器質量分析計による年代測定に必要な炭素量は十分回収できている。同位体補正を行ったスミ 1 の測定値は、1290 ± 20BP である。

表 1 および図 1 には暦年較正値も示す。スミ 1 の測定誤差 2 σの暦年代は、7 世紀後半～ 8 世紀後半である。

表 1　放射性炭素年代測定結果

試料	種別 / 性状	方法	補正年代 (暦年較正用) BP	δ 13C (‰)	暦年較正年代														Code No.	
					年代値													確率 %		
H53 号 住居跡 スミ 1	炭化材 (クリ)	AAA	1290 ± 20 (1290 ± 21)	-27.70 ± 0.25	σ	cal	AD	675	-	cal	AD	704	1275	-	1247	cal	BP	31.6	YU-12432	pal-13029
						cal	AD	739	-	cal	AD	771	1211	-	1179	cal	BP	36.7		
					2 σ	cal	AD	667	-	cal	AD	774	1284	-	1176	cal	BP	95.4		

1) 年代値の算出には、Libby の半減期 5568 年を使用。

2)BP 年代値は、1950 年を基点として何年前であるかを示す。

3) 付記した誤差は、測定誤差σ（測定値の 68.2% が入る範囲）を年代値に換算した値。

4)AAA は、酸・アルカリ・酸処理を示す。AaA は試料が脆弱なため、アルカリの濃度を薄くして処理したことを示す。HCl は塩酸処理のみを示す。

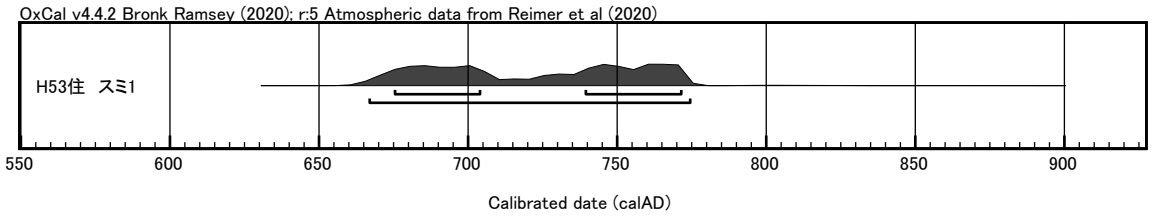
5) 暦年の計算には、Oxcal v4.4 を使用

6) 暦年の計算には、補正年代に () で暦年較正用年代として示した、一桁目を丸める前の値を使用している。

7)1 桁目を丸めるのが慣例だが、較正曲線や較正プログラムが改正された場合の再計算や比較が行いやすいように、1 桁目を丸めていない。

8) 統計的に真の値が入る確率は、σが 68.2%、2 σが 95.4% である

図 1　暦年較正結果



(2) 樹種同定

観察の結果、クリに同定された。以下に検出された分類群の解剖学的特徴を記す。

・クリ (Castanea crenata Sieb. et Zucc.)　ブナ科クリ属

環孔材で、孔圏部は 3-4 列、孔圏外で急激に管径を減じたのち、漸減しながら火炎状に配列する。道管は単穿孔を有し、壁孔は交互状に配列する。放射組織は同性、単列、1 ～ 15 細胞高。なお、炭 1 は、道管がやや放射孔材になっており、放射組織が 2 列になっている部分もあるので、根に近い部分ではないかと思われる。

4. 考察

H53 号住居跡は、発掘調査所見では出土遺物から、7 世紀末～ 8 世紀初頭頃に帰属すると考えられている。スミ 1 の年代測定から得られた暦年代は、発掘調査所見による年代とほぼ一致している。

炭化材の樹種はクリであった。クリは、重硬な木材であり、建物の構造材をはじめ、家具、建具、器具等様々な用途で使われる。この他、火持ちが良いことから薪炭材としても使われる。クリは、コナラ節やクヌギ節などと共に人里に多い樹木であり、里山林を構成する。里山林は、適度な伐採や粗朶の収奪などが行われることにより維持管理される森林 (二次林) であり、萌芽による更新が容易な陽樹で構成される。おそらく、当時 (古墳時代末～古代始め頃) 人里近くにこのような二次林が存在し、住居の構築材として利用されたものと思われる。

木製品用材データベース (伊東・山田編 ,2012) をみると、県内では、古墳時代～古代にかけて、クリの炭化材が住居構築材や燃料材として多数出土しており、県内で広く使われていたことが窺える。

Ⅱ . 川崎遺跡検出遺構の分析

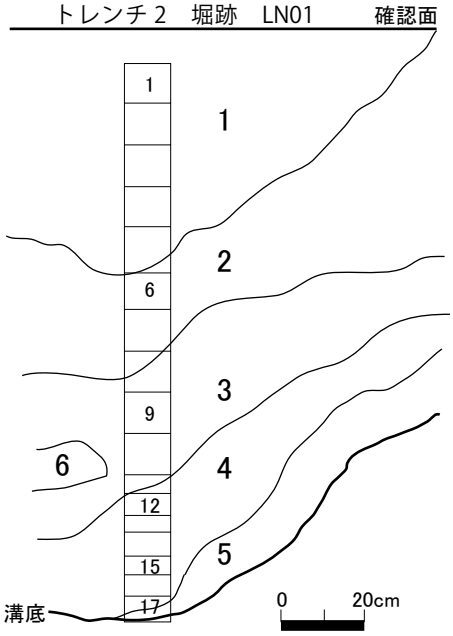
1. 試料

試料は、第 53 地点のトレンチ 2 で検出された古代の堀跡とされる溝状遺構の覆土である。溝は確認面からの深さ約 140cm、現地表面からの深さは 200cm を超えるとされている。覆土層は、発掘調査所見により上位から 1 ～ 5 層の層名が付されており、1 層から 3 層までは概ね暗褐色を呈する黒ボク土であり、4 層と 5 層は黒褐色を呈する黒ボク土である。また 3 層中のロームブロックは 6 層とされている。

試料は、1 層から 3 層までは厚さ 10cm で連続に、4 層と 5 層では厚さ 5cm で連続にそれぞれ採取され、上位より 1 ～ 17 までの試料番号が付されている。分析には試料番号 6、9、12、15、17 の 5 点が選択された。

図 2 には試料採取位置周囲の遺構断面と試料採取層位を示す。

図 2　テフラ分析試料の採取位置



2. 分析方法

試料約 20 g を蒸発皿に取り、水を加え泥水にした状態で超音波洗浄装置により粒子を分散し、上澄みを流し去る。この操作を繰り返すことにより得られた砂分を乾燥させた後、実体顕微鏡下にて観察する。観察は、テフラの本質物質であるスコリア・火山ガラス・軽石を対象とし、その特徴や含有量の多少を定性的に調べる。火山ガラスについては、その形態によりバブル型と中間型、軽石型に分類する。各型の形態は、バブル型は薄手平板状あるいは泡のつぎ目をなす部分であるＹ字状の高まりを持つもの、中間型は表面に気泡の少ない厚手平板状あるいは塊状のもの、軽石型は表面に小気泡を非常に多く持つ塊状および気泡の長く延びた繊維束状のものとする。

また、火山ガラスあるいは軽石が検出された場合には、それらの屈折率を測定することにより、テフラの同定のための指標とする。屈折率の測定は、古澤 (1995) の MAIOT を使用した温度変化法を用いた。

3. 結果

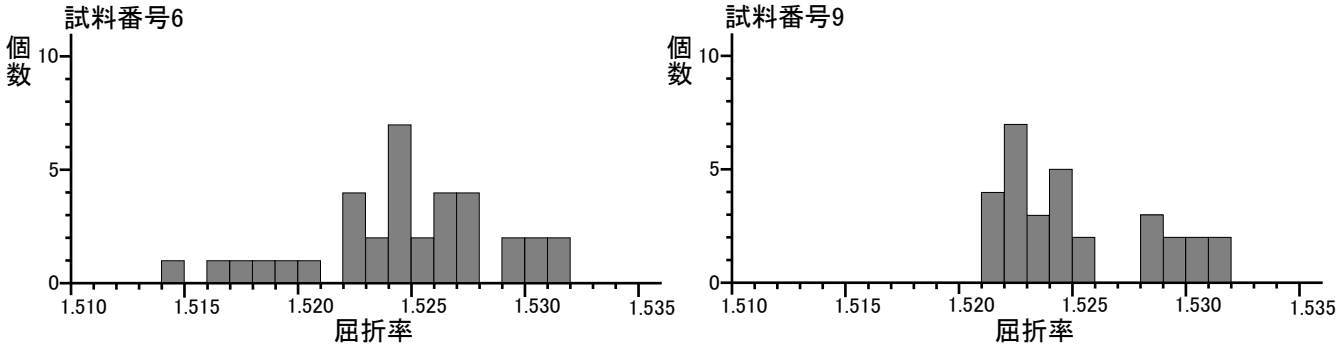
分析結果を表 2 に示す。スコリアは試料番号 6 と 9 に極めて微量認められた。試料番号 6 のスコリアは最大径約 0.6mm、黒色で発泡不良であり、試料番号 9 のスコリアは最大径約 1.5mm、黒色で発泡不良のスコリアのほかに褐色で発泡やや不良のスコリアも混在する。火山ガラスは、5 点の試料に極めて微量含まれ、無色透明のバブル型と同軽石型とが混在する。軽石は試料番号 6 に少量、試料番号 9 に微量認められた。いずれの試料の軽石も特徴は同様であり、最大径約 1.0mm、灰褐色を呈し、発泡はやや不良、斜方輝石の斑晶を包有する。また、各試料の軽石の屈折率を図 3 に示す。試料番号 6 のレンジは n1.514-1.531 であり、n1.524 前後にモードがあり、試料番号 9 のレンジは n1.521-1.531 であり、n1.522-1.524 付近にモードがある。

表 2　テフラ分析結果

遺構名	層名	試料番号	スコリア			火山ガラス		軽石		
			量	色調・発泡度	最大粒径	量	色調・形態	量	色調・発泡度	最大粒径
トレンチ 2 堀跡 LN01	2	6	(+)	B･b	0.6	(+)	cl･bw,cl･pm	＋＋	GBr･sb(opx)	1.0
	3	9	(+)	B･b,Br･sb	1.5	(+)	cl･bw,cl･pm	＋	GBr･sb(opx)	1.0
	4	12	－			(+)	cl･bw,cl･pm	－		
		15	－			(+)	cl･bw,cl･pm	－		
	5	17	－			(+)	cl･bw,cl･pm	－		

凡例　－ : 含まれない．(+): きわめて微量．＋ : 微量．＋＋ : 少量．＋＋＋ : 中量．＋＋＋＋ : 多量．
B: 黒色．Br: 褐色．
g: 良好．sg: やや良好．sb: やや不良．b: 不良．最大粒径は mm．(opx): 斜方輝石斑晶包有．
cl: 無色透明．bw: バブル型．pm: 軽石型．

図 3　軽石の屈折率測定結果



4. 考察

試料番号６と９から検出された軽石は、その色調と発泡度と斑晶鉱物および屈折率がほぼ同様であることから、同一のテフラに由来すると判断される。屈折率も含めた軽石の特徴と川崎遺跡の地理的位置により、軽石の由来するテフラは、平安時代の天仁元年 (AD1108 年) に浅間火山から噴出した浅間 B テフラ (As-B: 新井 ,1979) に同定される。

ここで As-B の軽石の産状をみると、覆土下部の４層と５層には含まれていないことと、２層に比較的多く含まれていることがその特徴として指摘できる。この産状からは、覆土の２層が堆積していた頃に As-B の降下のあったことが窺える。３層中の As-B の軽石については微量であることから、覆土層における撹乱により降灰後に下位の土層中に移動したと考えることができる。したがって、遺構の廃棄後に埋積が進行し、覆土層の３層が堆積するまでの時間が経過した後に As-B の噴火があったと考えられる。すなわち、遺構の構築年代は、As-B の噴火のあった 12 世紀初頭よりも古いと考えられる。

なお､試料番号６と９に極めて微量認められたスコリアは､As-Bに伴うものである可能性がある。ただし、試料番号９のスコリアについては、As-B の軽石の径よりも大きい径約 1.5mm の褐色スコリアが含まれており、このようなスコリアは、これまでの埼玉県下の分析事例における As-B には認められたことはなく、As-B とは異なるテフラに由来する可能性がある。川崎遺跡の地理的位置を考慮すれば、富士山を給源とするテフラも降灰した可能性があると考えられる。富士山は平安時代の延暦 19 ～ 20 年 (AD800 ～ 801 年) に多量の降下スコリアを噴出する噴火をしており (宮地 ,2011)、試料番号９のスコリアの中にこのテフラ由来のスコリアも混在している可能性は充分にあると考えられる。そのスコリアの降灰が覆土の３層堆積時であった場合には、遺構の構築年代は９世紀初頭よりもさらに古くなることが示唆される。

引用文献

新井房夫 ,1979, 関東地方北西部の縄文時代以降の指標テフラ層 . 考古学ジャーナル ,157,41-52.

Bronk RC., 2009, Bayesian analysis of radiocarbon dates. Radiocarbon ,51, 337-360.

遠藤邦彦・千葉達朗・杉中佑輔・須貝俊彦・鈴木毅彦・上杉　陽・石綿しげ子・中山俊雄・舟津太郎・大里重人・鈴木正章・野口真利江・佐藤明夫・近藤玲介・堀　伸三郎 ,2019, 武蔵野台地の新たな地形区分 . 第四紀研究 ,58,353-375.

古澤　明 ,1995, 火山ガラスの屈折率測定および形態分類とその統計的な解析に基づくテフラの識別 . 地質学雑誌 ,101,123-133.

林　昭三 ,1991, 日本産木材顕微鏡写真集 . 京都大学木質科学研究所 .

伊東隆夫 ,1995, 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅰ. 木材研究・資料 ,31, 京都大学木質科学研究所 ,81-181.

伊東隆夫 ,1996, 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅱ. 木材研究・資料 ,32, 京都大学木質科学研究所 .66-176.

伊東隆夫 ,1997, 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅲ. 木材研究・資料 ,33, 京都大学木質科学研究所 ,83-201.

伊東隆夫 ,1998, 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅳ. 木材研究・資料 ,34, 京都大学木質科学研究所 ,30-166.

伊東隆夫 ,1999, 日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅴ. 木材研究・資料 ,35, 京都大学木質科学研究所 ,47-216.

伊東隆夫・山田昌久 (編),2012, 木の考古学　出土木製品用材データベース . 海青社 ,449p.

宮地直道 ,2011, 過去 1 万 1000 年間の富士火山の噴火史と噴出率 , 噴火規模の推移 . 荒牧重雄・藤井敏嗣・中田節也・宮地直道編　富士火山 , 日本火山学会 ,79-95.

Reimer P., Austin W., Bard E., Bayliss A., Blackwell P., Bronk Ramsey, C., Butzin M., Cheng H.,
Edwards R., Friedrich M., Grootes P., Guilderson T., Hajdas I., Heaton T., Hogg A., Hughen K.,
Kromer B., Manning S., Muscheler R., Palmer J., Pearson C., van der Plicht J., Reimer R.,
Richards D., Scott E., Southon, J. Turney, C. Wacker, L. Adolphi, F. Buentgen U., Capano M.,
Fahrni S., Fogtmann-Schulz A., Friedrich R., Koehler P., Kudsk S., Miyake F., Olsen J., Reinig F.,Sakamoto M., Sookdeo A., & Talamo S., 2020, The IntCal20 Northern Hemisphere radiocarbon

age calibration curve (0–55 cal kBP). Radiocarbon, 62,1-33.

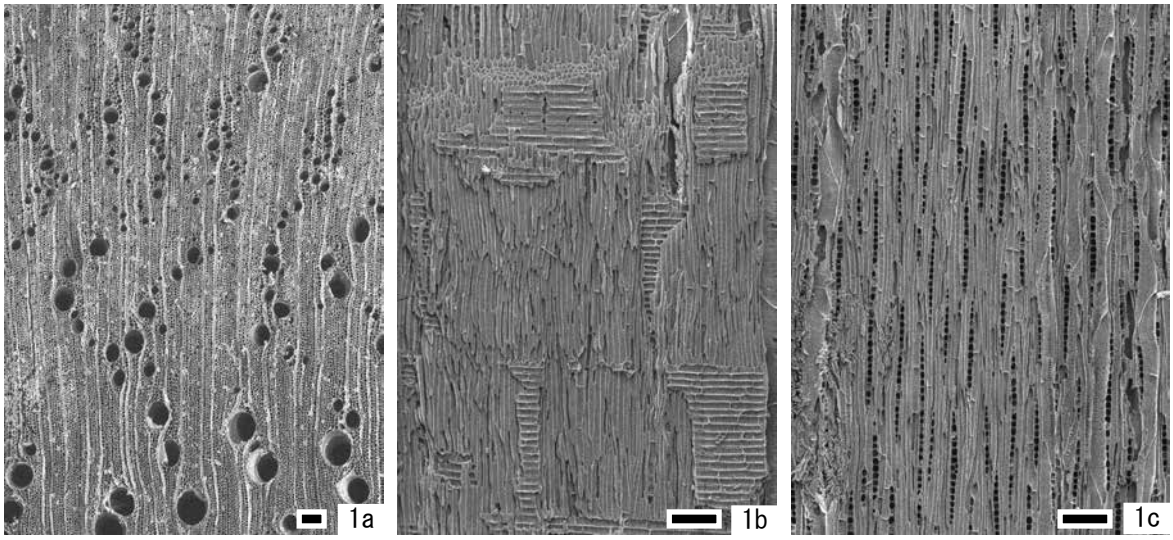
Richter H.G.,Grosser D.,Heinz I. and Gasson P.E.（編）,2006, 針葉樹材の識別　IAWA による光学顕微鏡的特徴リスト . 伊東隆夫・藤井智之・佐野雄三・安部　久・内海泰弘 (日本語版監修), 海青社 ,70p.［Richter H.G.,Grosser D.,Heinz I. and Gasson P.E.(2004)IAWA List of Microscopic Features for Softwood Identification］.

島地　謙・伊東隆夫 ,1982, 図説木材組織 . 地球社 ,176p.

Stuiver M., & Polach AH., 1977, Radiocarbon 1977 Discussion Reporting of 14C Data. Radiocarbon, 19, 355-363.

Wheeler E.A.,Bass P. and Gasson P.E.（編）,1998, 広葉樹材の識別　IAWA による光学顕微鏡的特徴リスト . 伊東隆夫・藤井智之・佐伯　浩（日本語版監修）, 海青社 ,122p.［Wheeler E.A.,Bass P. and Gasson P.E. (1989) IAWA List of Microscopic Features for Hardwood Identification］.

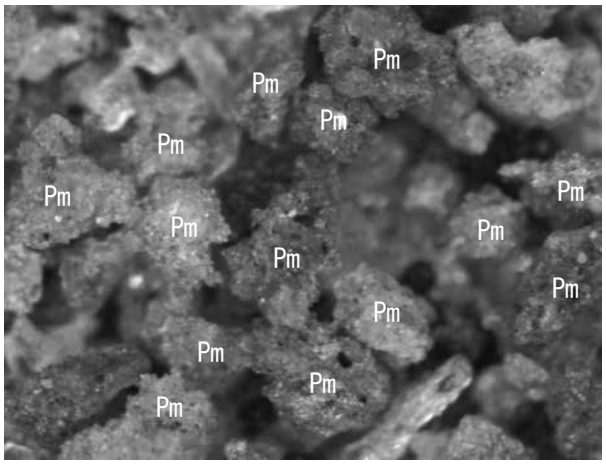
図版1　炭化材



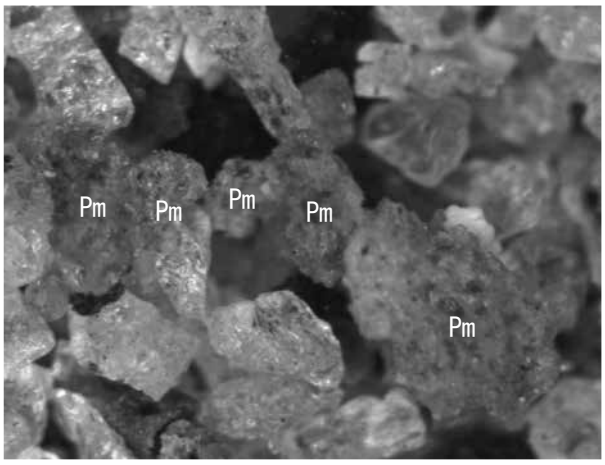
1. クリ (H53号住居跡　スミ1)

a:木口　b:柾目 c:板目
スケールは100μm

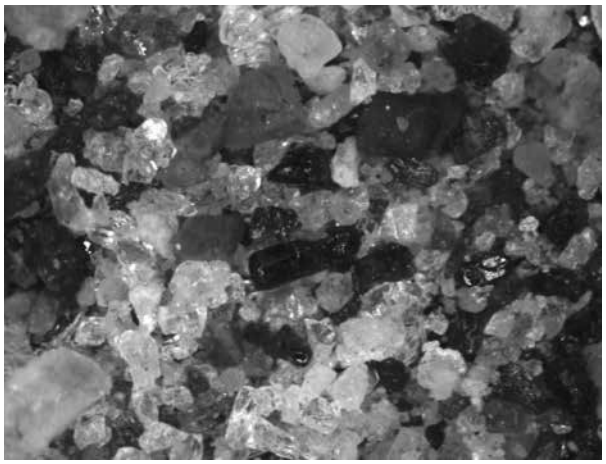
図版2　テフラ・砂分の状況



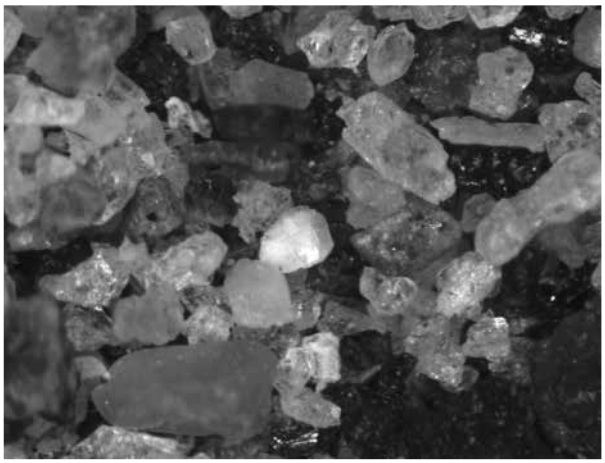
1.As-Bの軽石(トレンチ2堀跡LN01　2層;6)



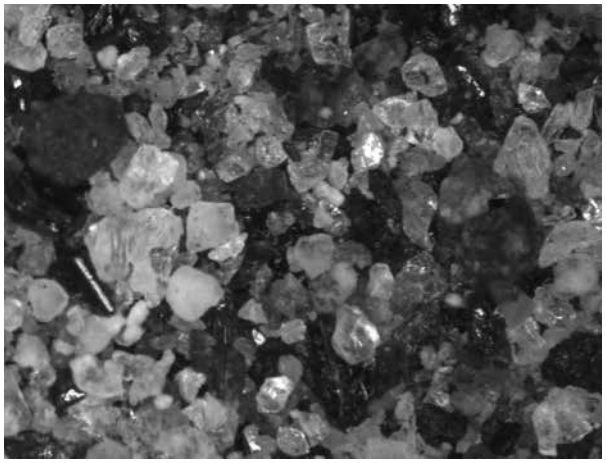
2.As-Bの軽石(トレンチ2堀跡LN01　3層;9)



3.砂分の状況(トレンチ2堀跡LN01　4層;12)



4.砂分の状況(トレンチ2堀跡LN01　4層;15)



5.砂分の状況(トレンチ2堀跡LN01　5層;17)

Pm:軽石.　0.5mm　1.0mm
1,2　3-5

北野遺跡第 45 地点トレンチ

北野遺跡第 46 地点トレンチ

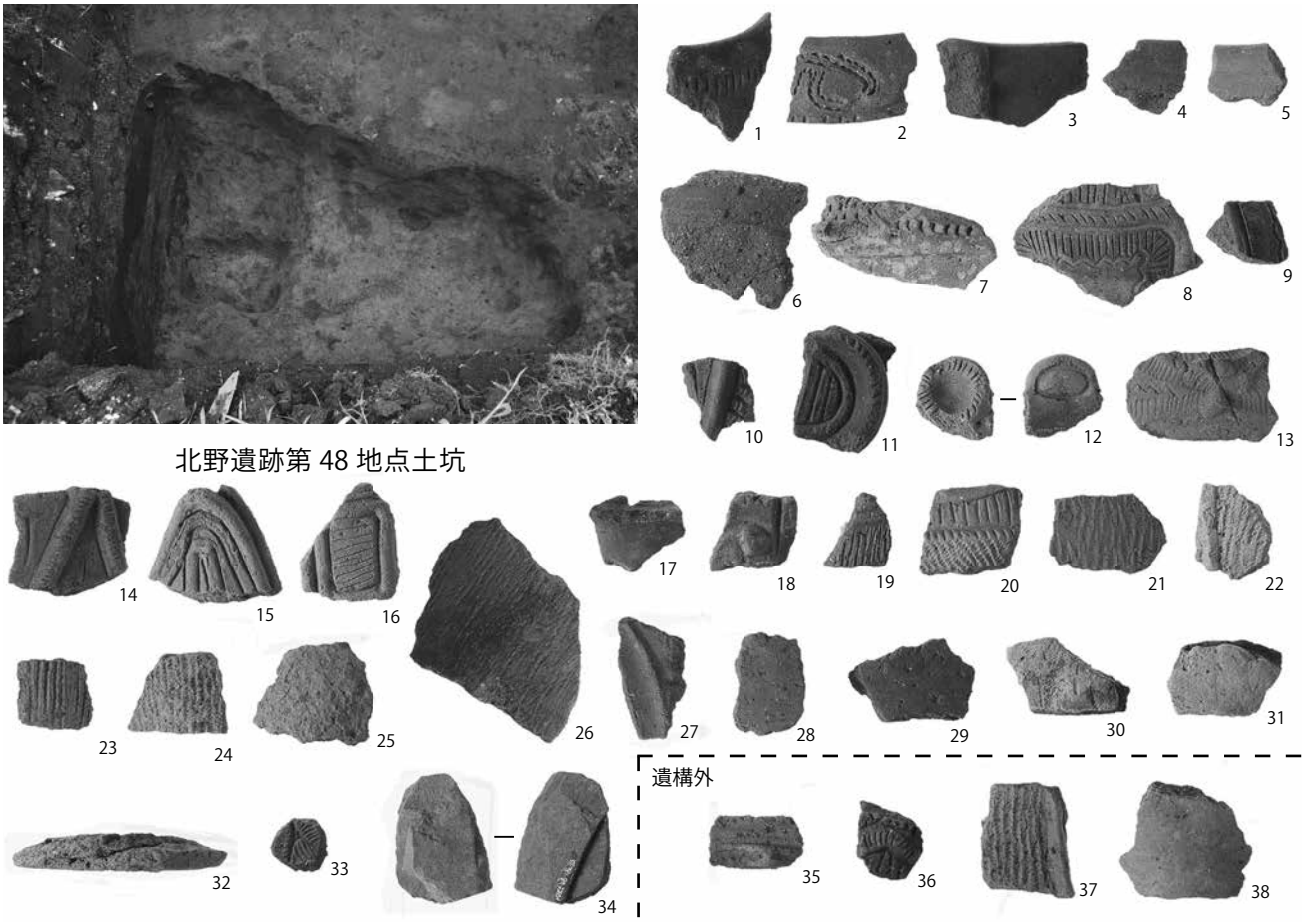
北野遺跡第 47 地点トレンチ

北野遺跡第 47 地点調査風景

北野遺跡第 48 地点トレンチ 1

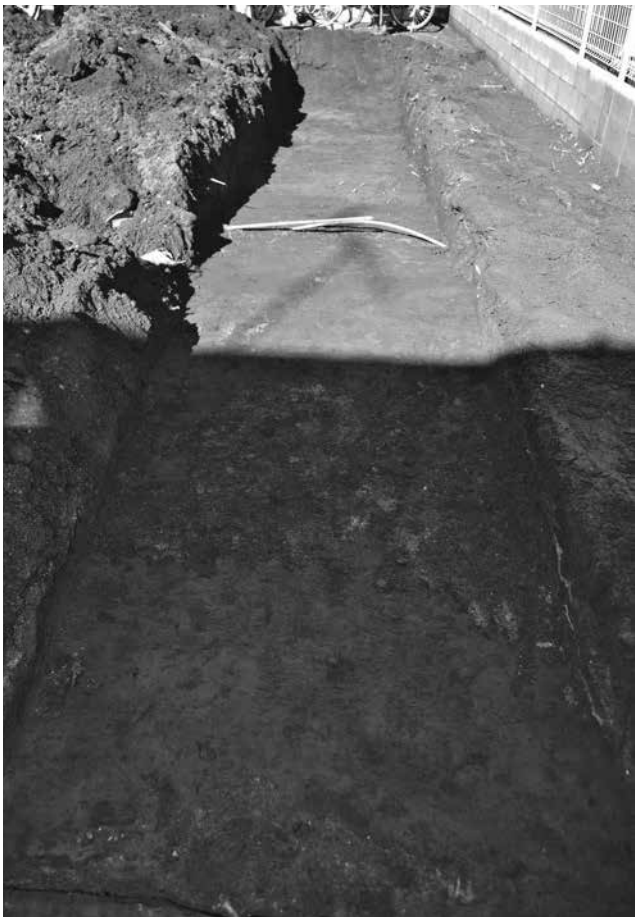
北野遺跡第 48 地点トレンチ 2

北野遺跡第 48 地点土坑



北野遺跡第 48 地点出土遺物

北野遺跡第 49 地点トレンチ 1



北野遺跡第 49 地点トレンチ 2

北野遺跡第 49 地点土坑

北野遺跡第 49 地点調査風景

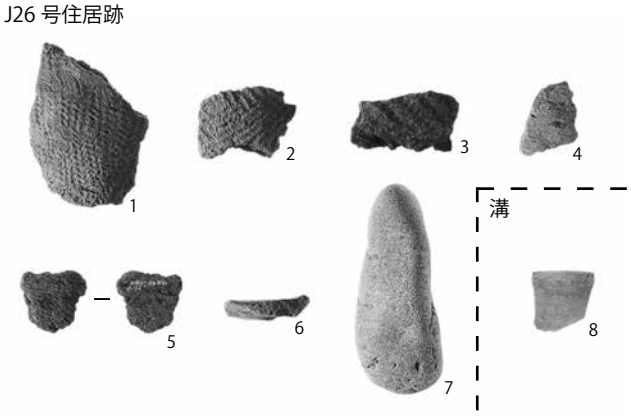
北野遺跡第 49 地点職業体験 (福岡中)

北野遺跡第 49 地点職業体験 (福岡中)

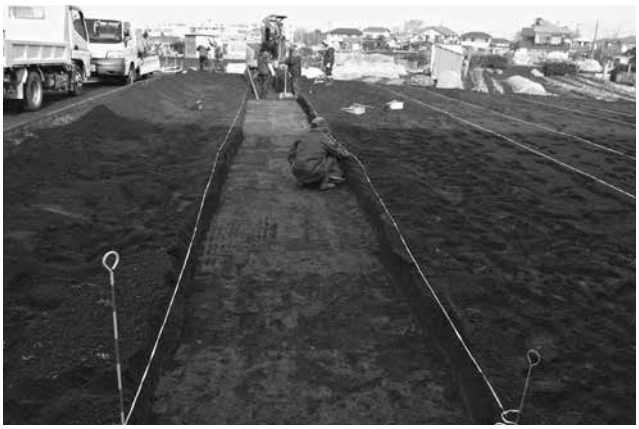
北野遺跡第 49 地点職業体験 (福岡中)

川崎遺跡第 48 地点 J26 号住居跡検出状況

川崎遺跡第 48 地点掘方



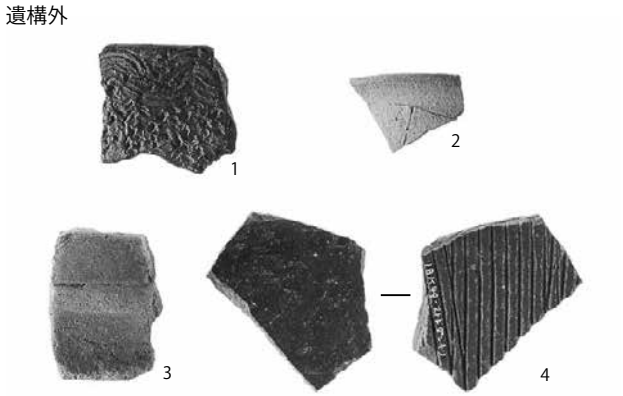
川崎遺跡第 48 地点出土遺物



川崎遺跡第 49 地点トレンチ 1

川崎遺跡第 49 地点トレンチ 2

川崎遺跡第 49 地点トレンチ 3



川崎遺跡第 49 地点出土遺物

川崎遺跡第 51 地点トレンチ 1

川崎遺跡第 51 地点調査風景

川崎遺跡第 51 地点トレンチ 5

川崎遺跡第 52 地点 J27 号住居跡完掘 1

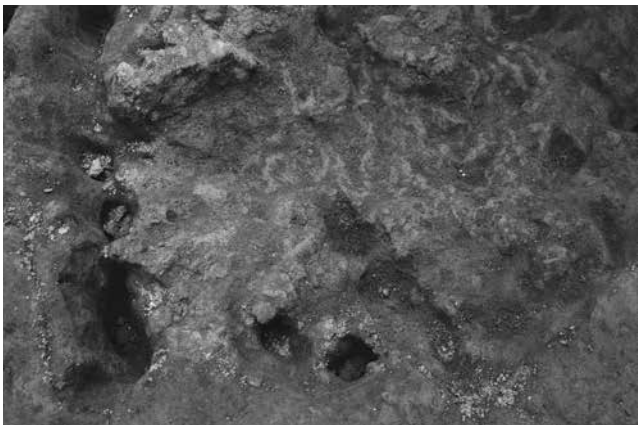
川崎遺跡第 52 地点 J27 号住居跡完掘 2

川崎遺跡第 52 地点 J27 号住居跡検出状況

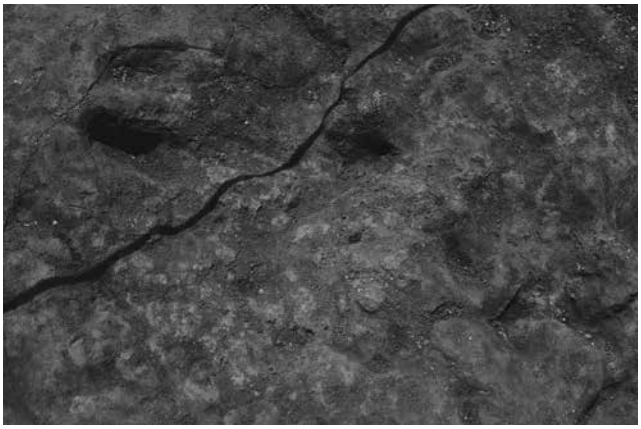
川崎遺跡第 52 地点 J27 号住居跡遺物出土状況 1

川崎遺跡第 52 地点 J27 号住居跡遺物出土状況 2

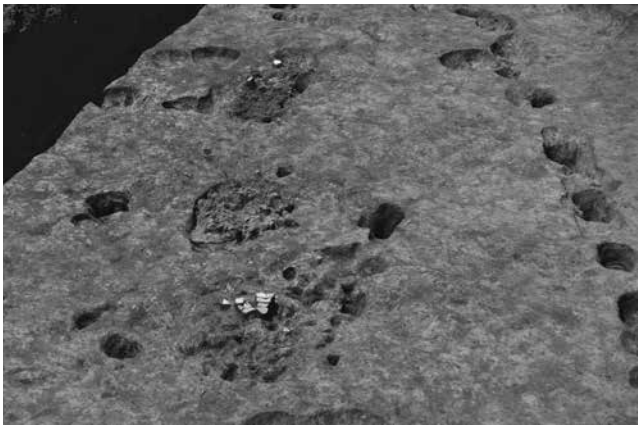
川崎遺跡第 52 地点 J27 号住居跡炉 1



川崎遺跡第 52 地点 J27 号住居跡炉 2



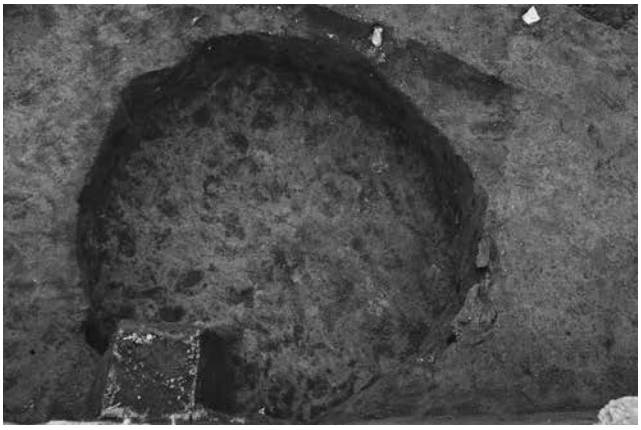
川崎遺跡第 52 地点 J27 号住居跡炉 3



川崎遺跡第 52 地点 J27 号住居跡炉検出状況

川崎遺跡第 52 地点 H73 号住居跡完掘

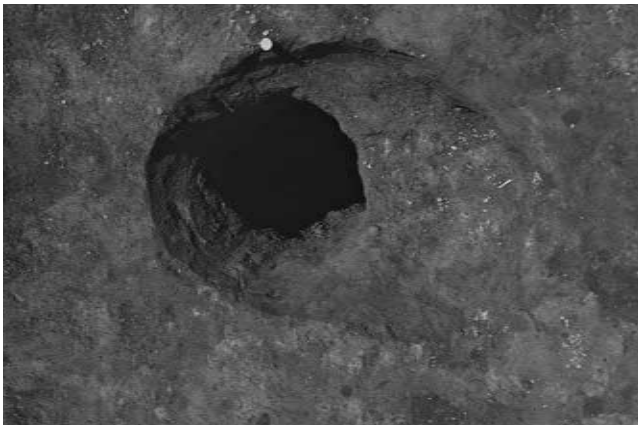
川崎遺跡第 52 地点 H73 住居跡遺物出土状況



川崎遺跡第 52 地点土坑 1

川崎遺跡第 52 地点土坑 3

川崎遺跡第 52 地点ピット 18



川崎遺跡第 52 地点ピット 22

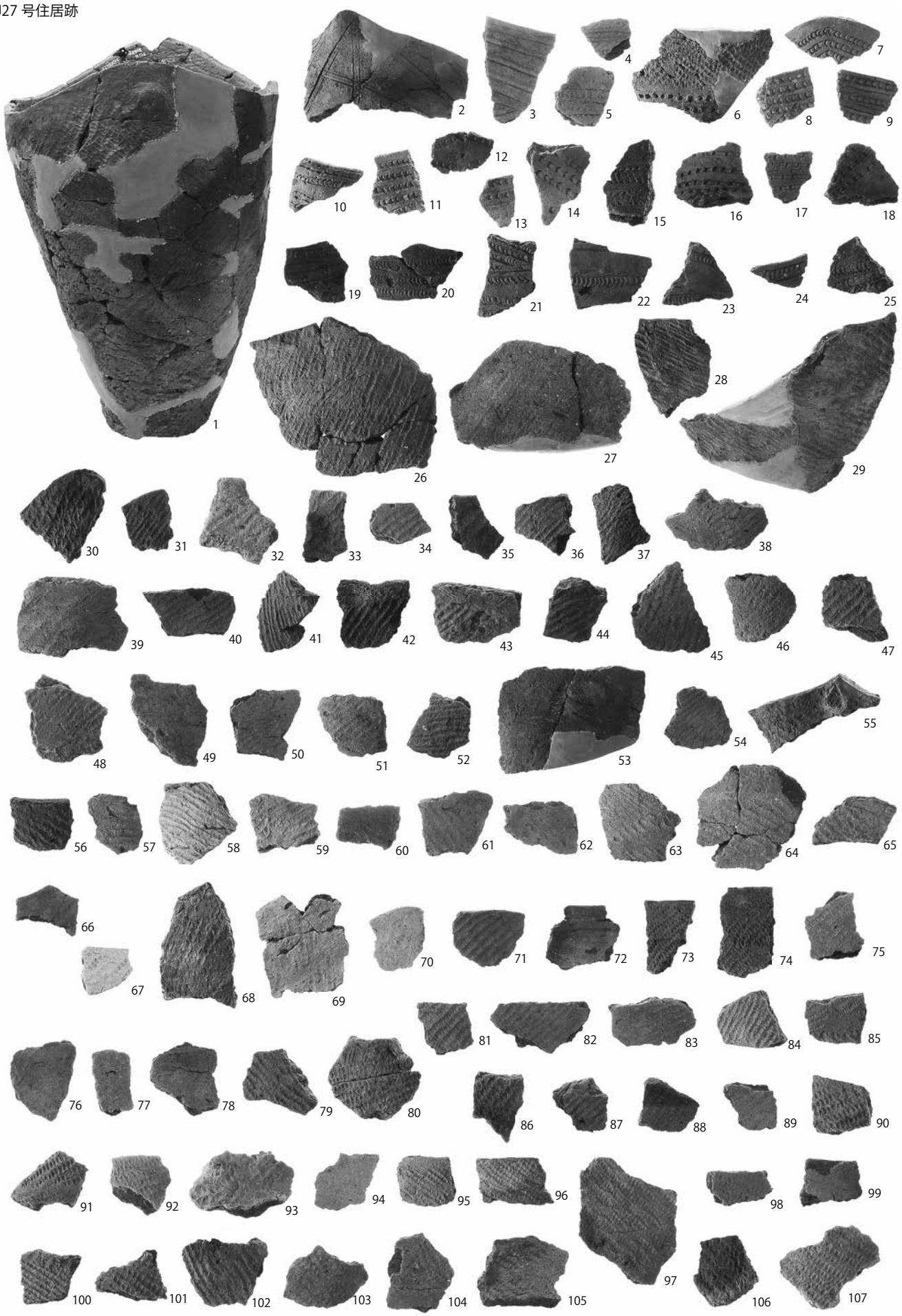
川崎遺跡第 52 地点ピット 1・2・28 ～ 31

川崎遺跡第 52 地点調査風景 1

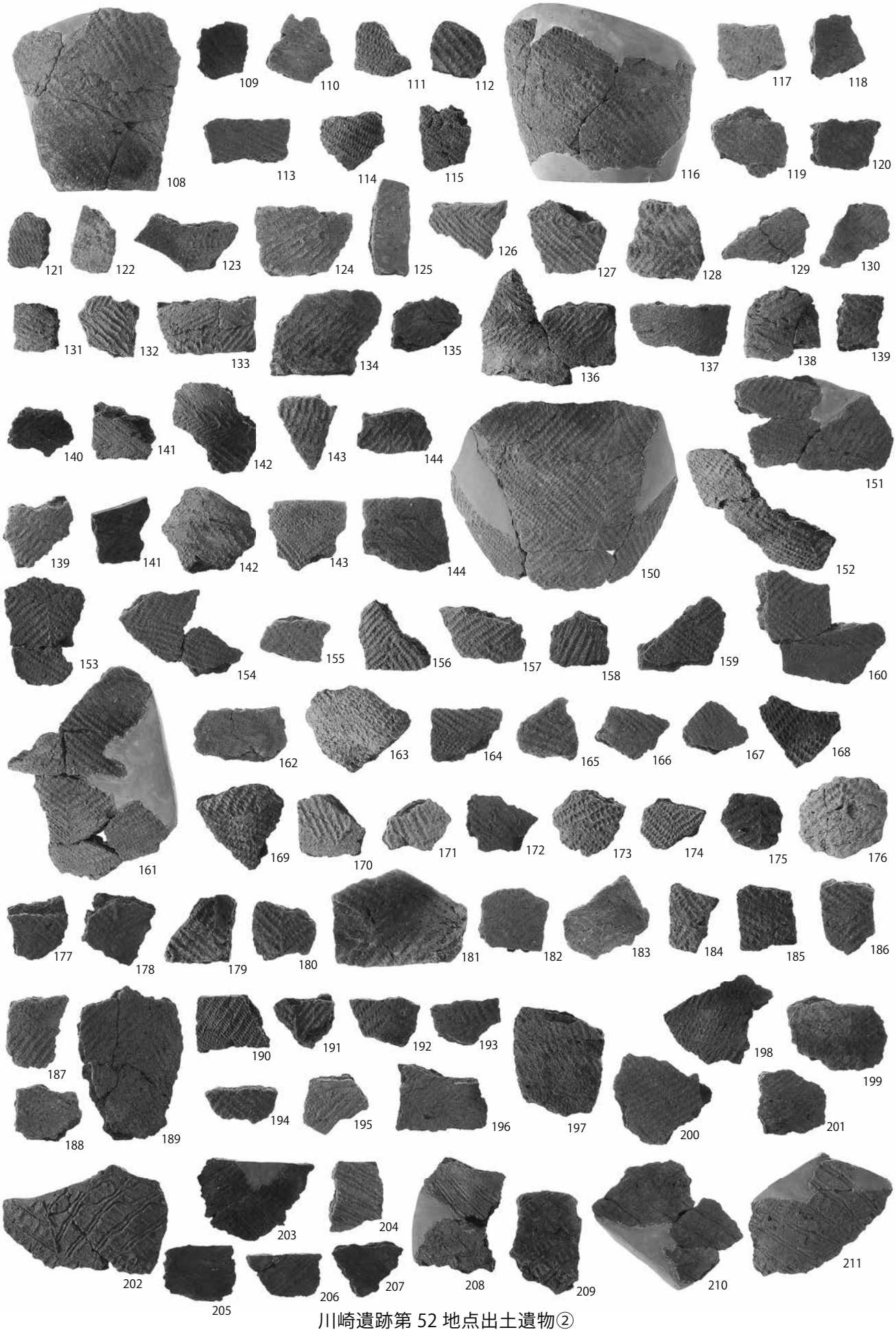
川崎遺跡第 52 地点調査風景 2

川崎遺跡第 52 地点調査風景 3

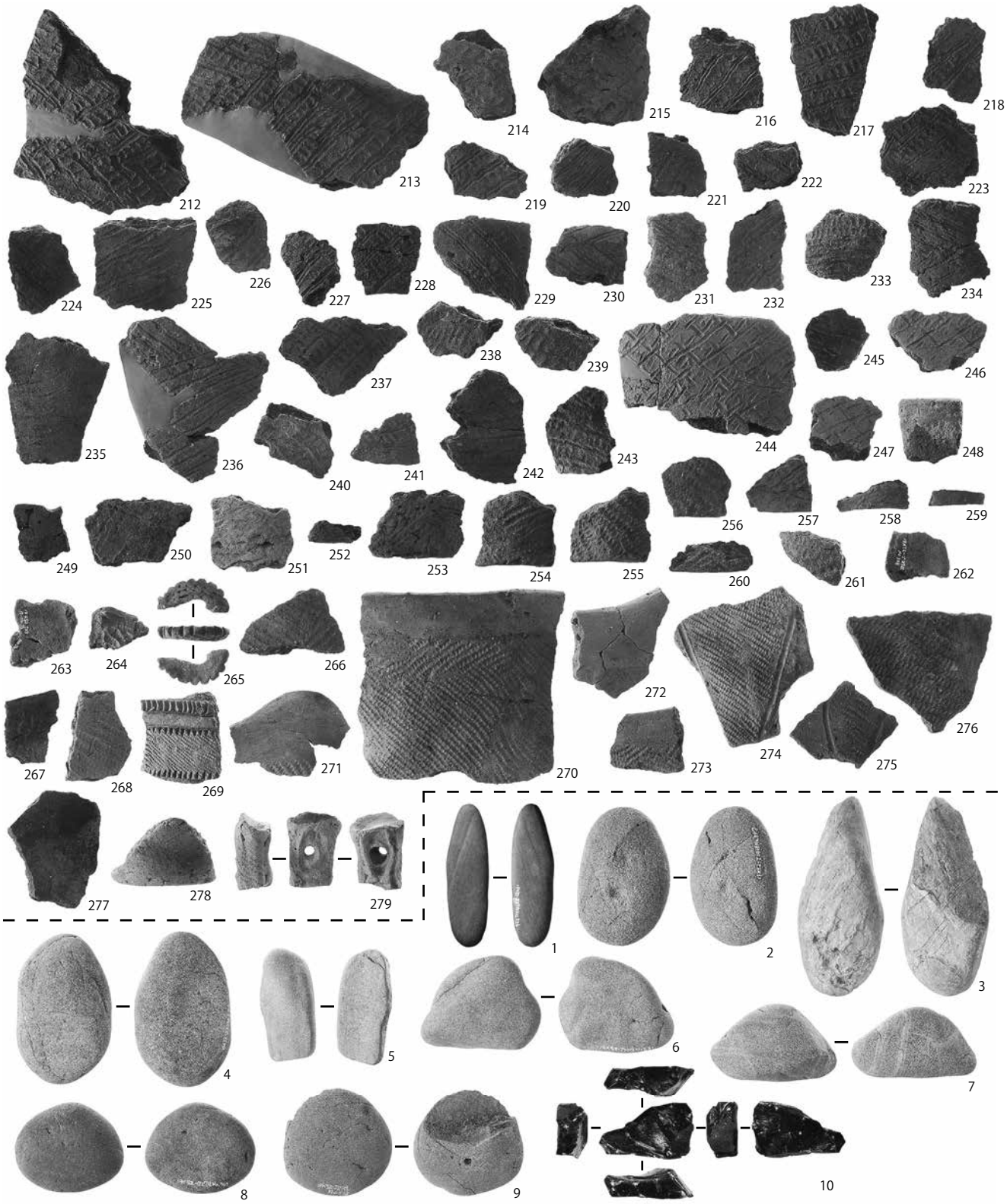
J27 号住居跡



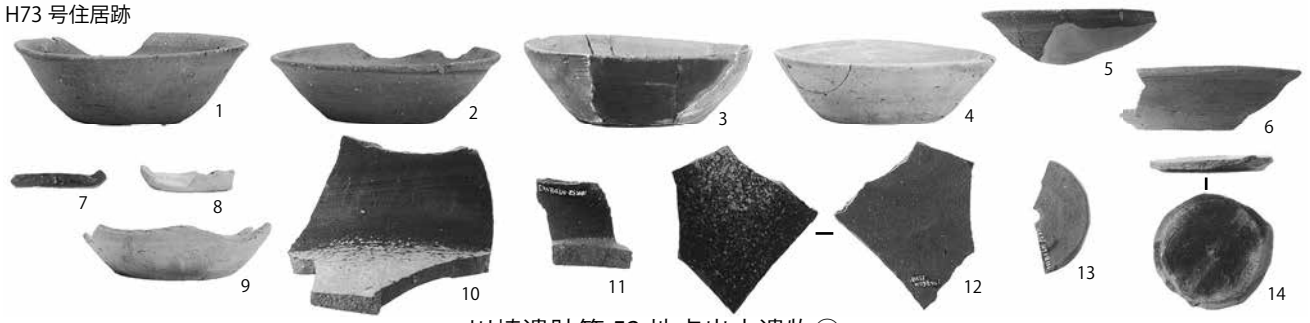
川崎遺跡第 52 地点出土遺物①



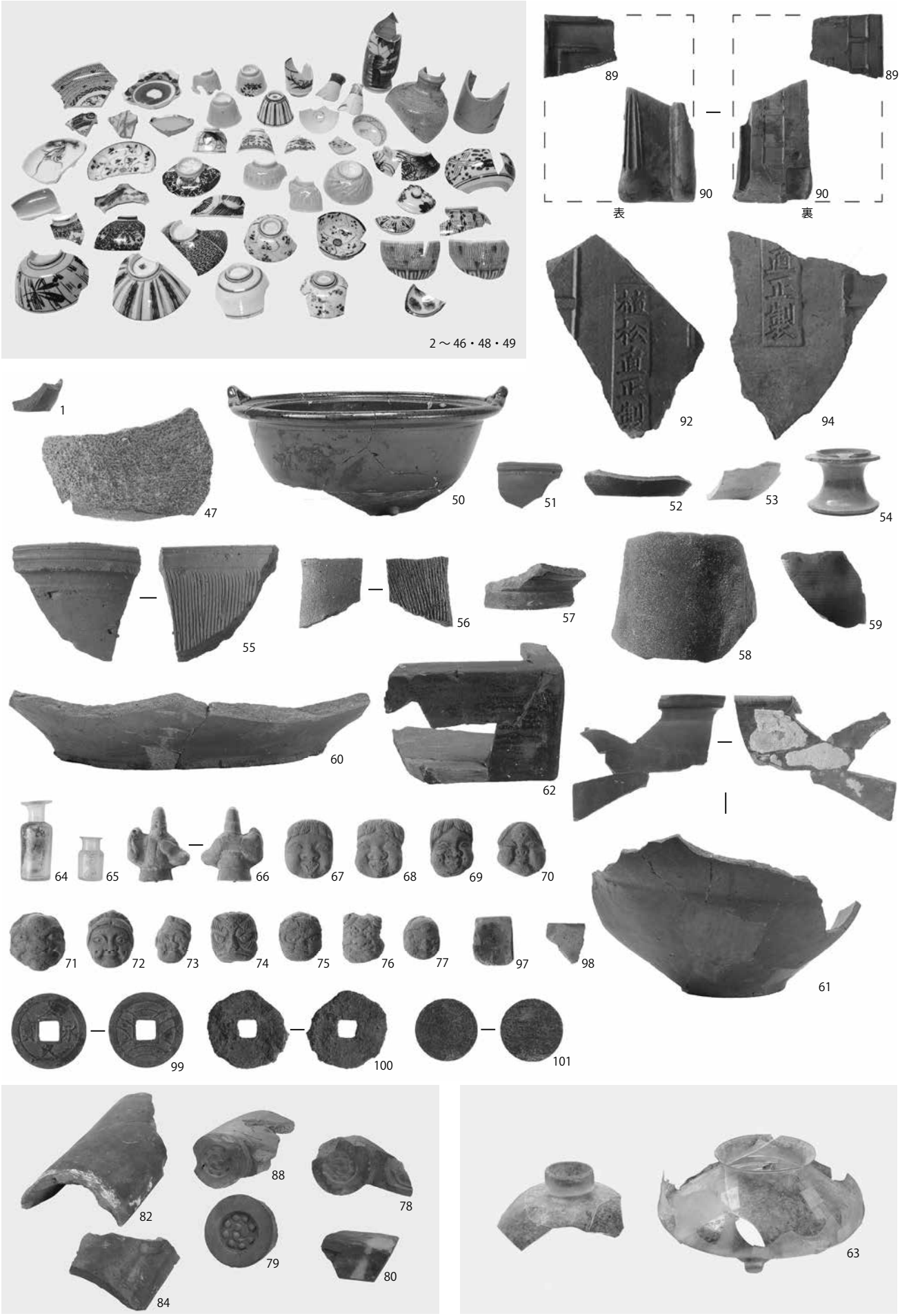
川崎遺跡第 52 地点出土遺物②



H73 号住居跡

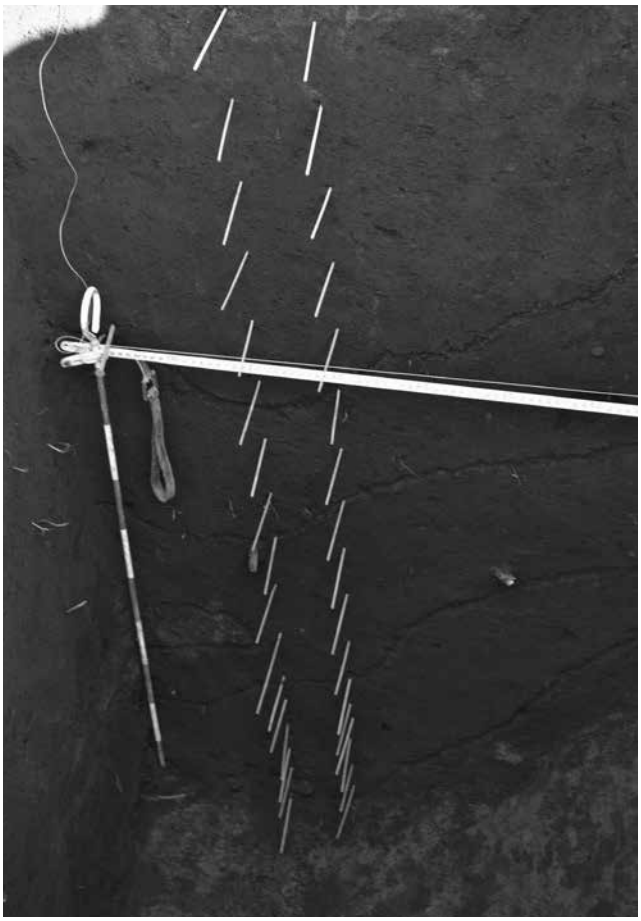


川崎遺跡第 52 地点出土遺物③



川崎遺跡第 52 地点出土遺物

川崎遺跡第 53 地点トレンチ 1



川崎遺跡第 53 地点土層サンプル

川崎遺跡第 53 地点堀跡

川崎遺跡第 53 地点出土遺物

川崎遺跡第 54 地点トレンチ 2

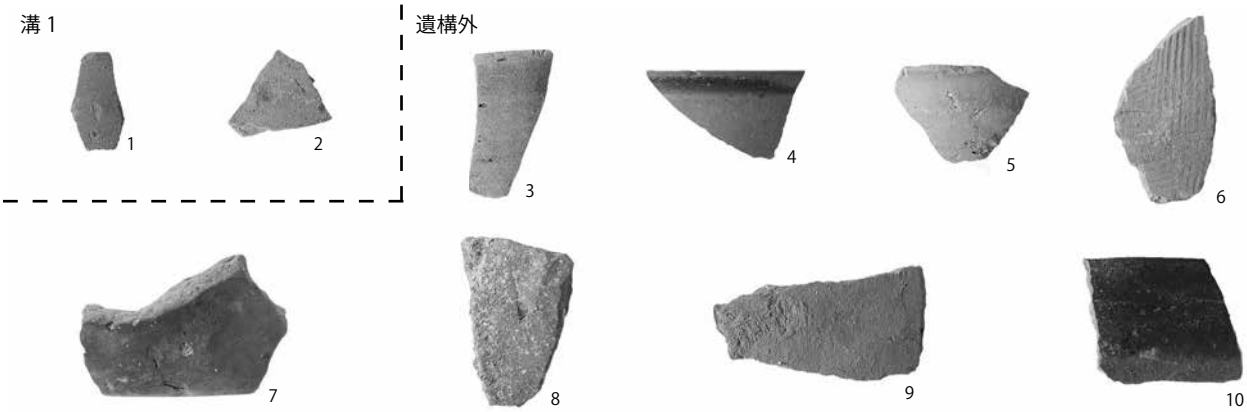
川崎遺跡第 55 地点トレンチ 1 溝検出

遺構外

川崎遺跡第 54 地点出土遺物

川崎遺跡第 55 地点トレンチ 1 溝

川崎遺跡第 55 地点調査風景



川崎遺跡第 55 地点出土遺物

ハケ遺跡第 25 地点トレンチ 4

ハケ遺跡第 26 地点トレンチ 2 遺物出土状況

ハケ遺跡第 26 地点トレンチ 3 溝

ハケ遺跡第 26 地点トレンチ 2 溝

ハケ遺跡第 26 地点土坑 2

ハケ遺跡第 26 地点出土遺物 No.3 墨書土器

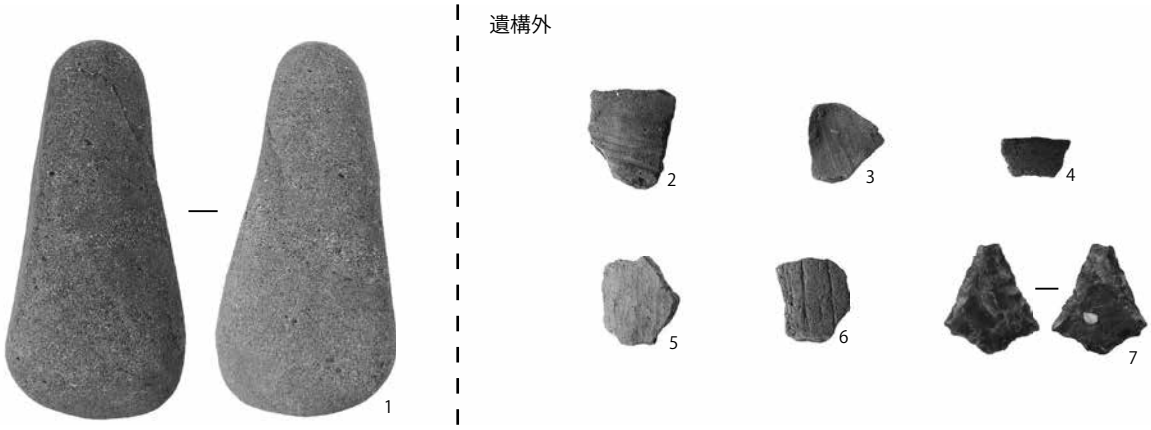
ハケ遺跡第 26 地点出土遺物

ハケ遺跡第 27 地点トレンチ全景

ハケ遺跡第 27 地点トレンチ 1 旧石器出土状況

ハケ遺跡第 27 地点トレンチ 1 旧石器確認

ハケ遺跡第 27 地点調査風景

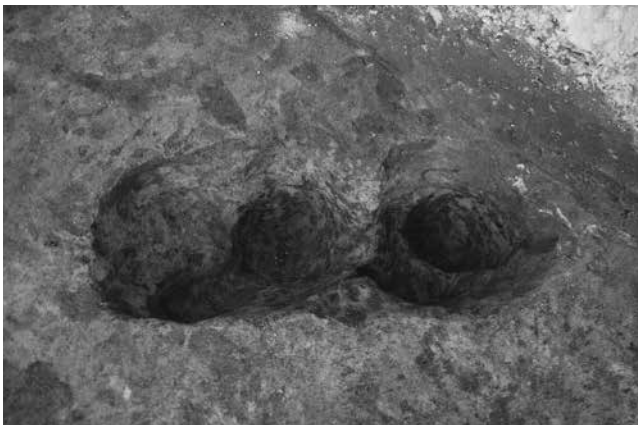


ハケ遺跡第 27 地点出土遺物

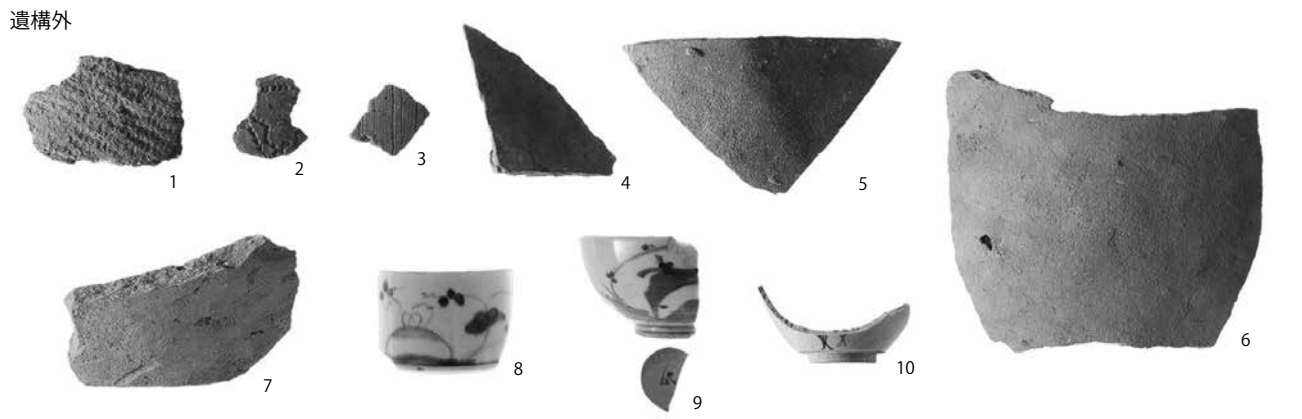
権現山遺跡第 28 地点トレンチ 1

権現山遺跡第 28 地点トレンチ 3

権現山遺跡第 28 地点トレンチ 5

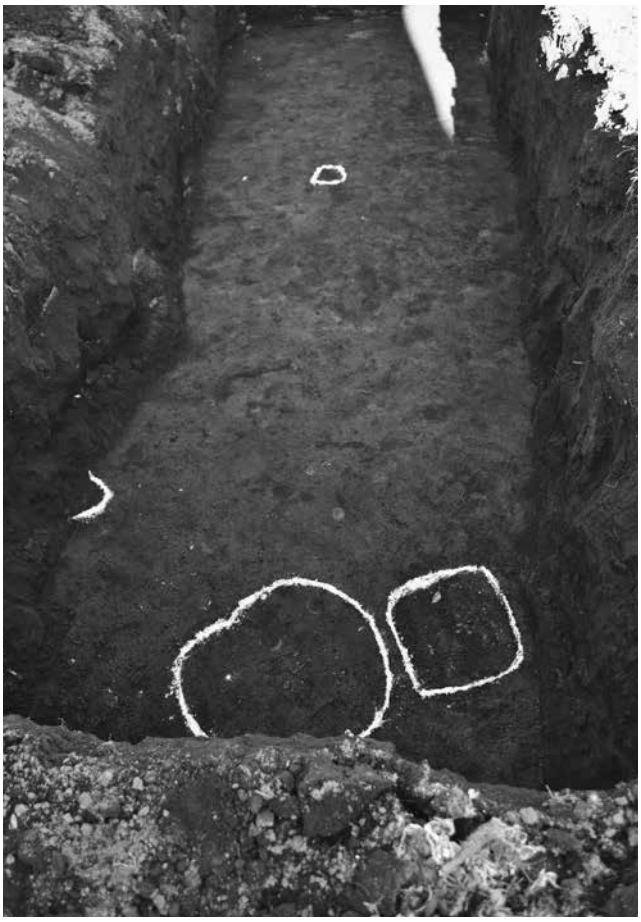


権現山遺跡第 28 地点ピット 4・5



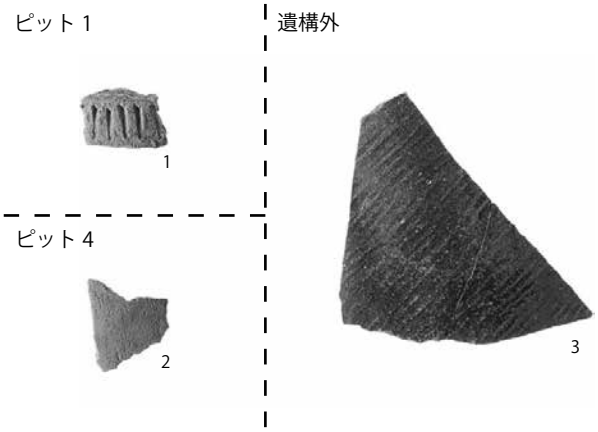
権現山遺跡第 28 地点出土遺物

滝遺跡第 33 地点トレンチ 1



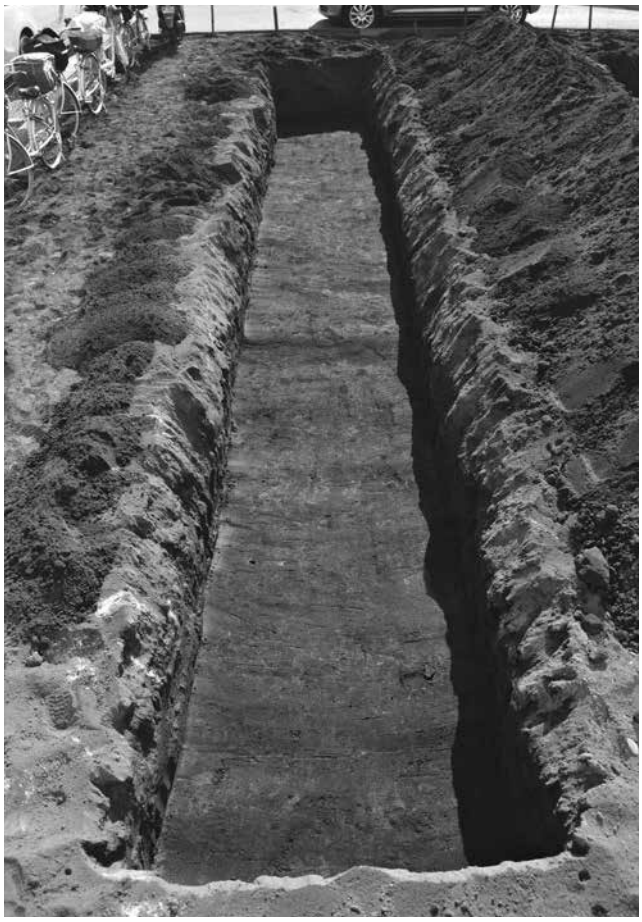
滝遺跡第 33 地点トレンチ 2

滝遺跡第 33 地点ピット 4



滝遺跡第 33 地点出土遺物

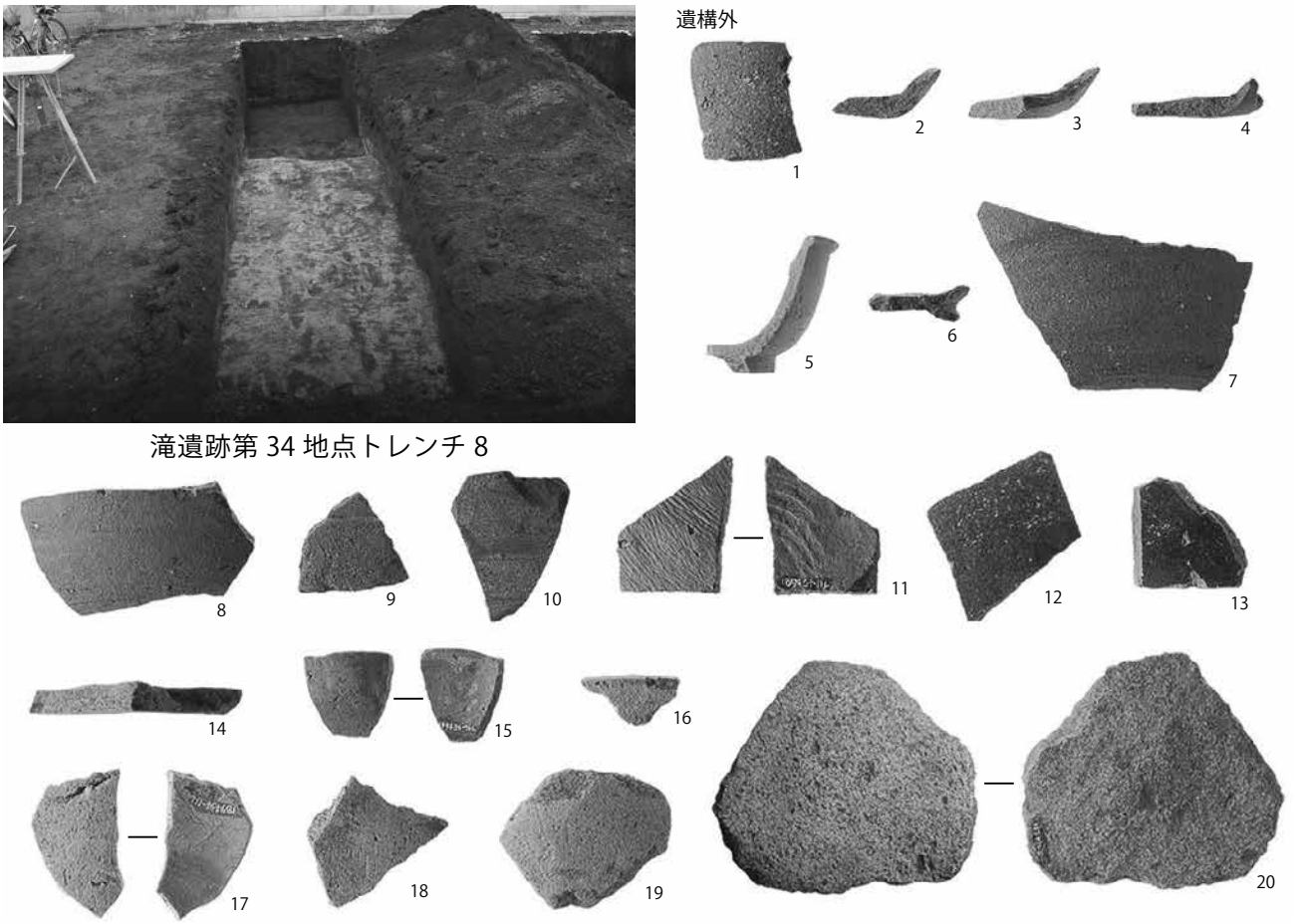
滝遺跡第 33 地点調査風景



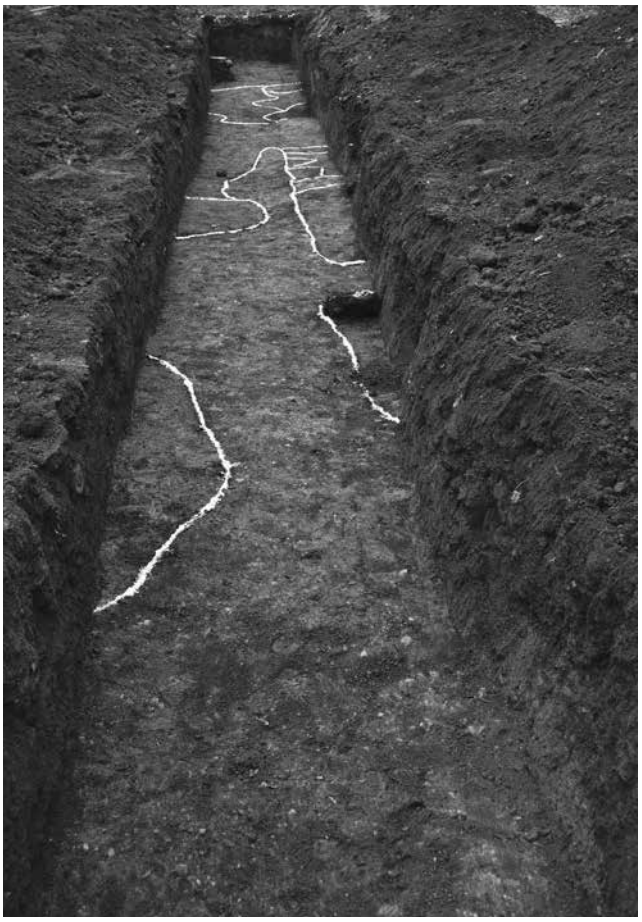
滝遺跡第 34 地点トレンチ 1

滝遺跡第 34 地点トレンチ 4

滝遺跡第 34 地点トレンチ 8



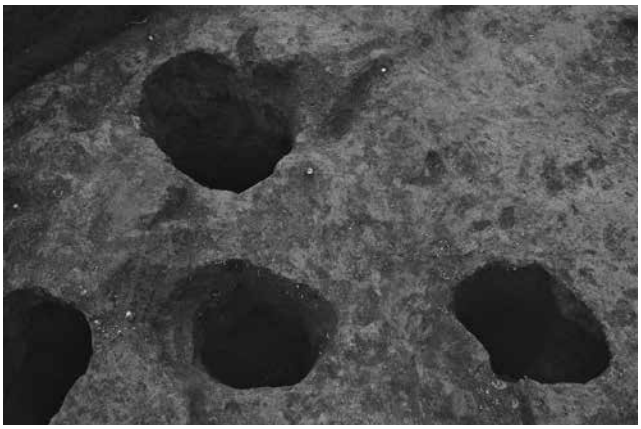
滝遺跡第 34 地点出土遺物



滝遺跡第 35 地点トレンチ 1 遺構検出状況

滝遺跡第 35 地点調査区全景

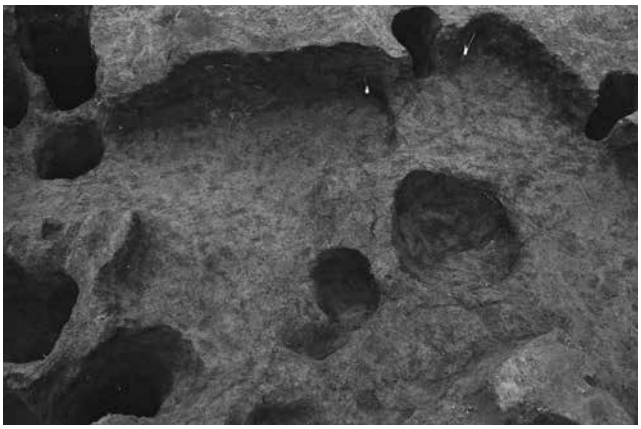
滝遺跡第 35 地点本調査遺構検出状況



滝遺跡第 35 地点土坑 6

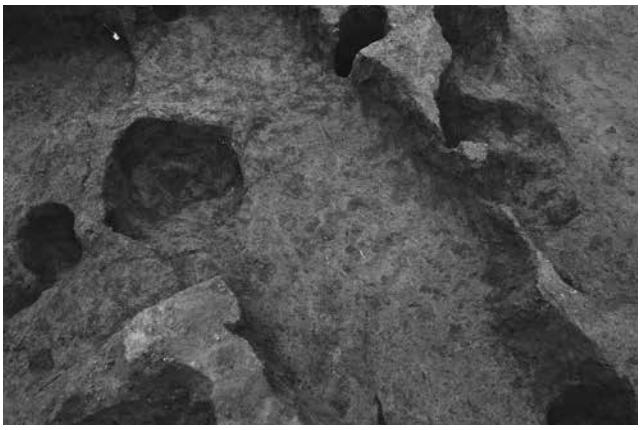
滝遺跡第 35 地点土坑 7・8・14

滝遺跡第 35 地点土坑 9



滝遺跡第 35 地点土坑 10

滝遺跡第 35 地点土坑 10・11



滝遺跡第 35 地点土坑 11

滝遺跡第 35 地点土坑 13 遺物出土状況

滝遺跡第 35 地点土坑 13

滝遺跡第 35 地点土坑 14

滝遺跡第 35 地点土坑 15

滝遺跡第 35 地点板碑 2 出土状況

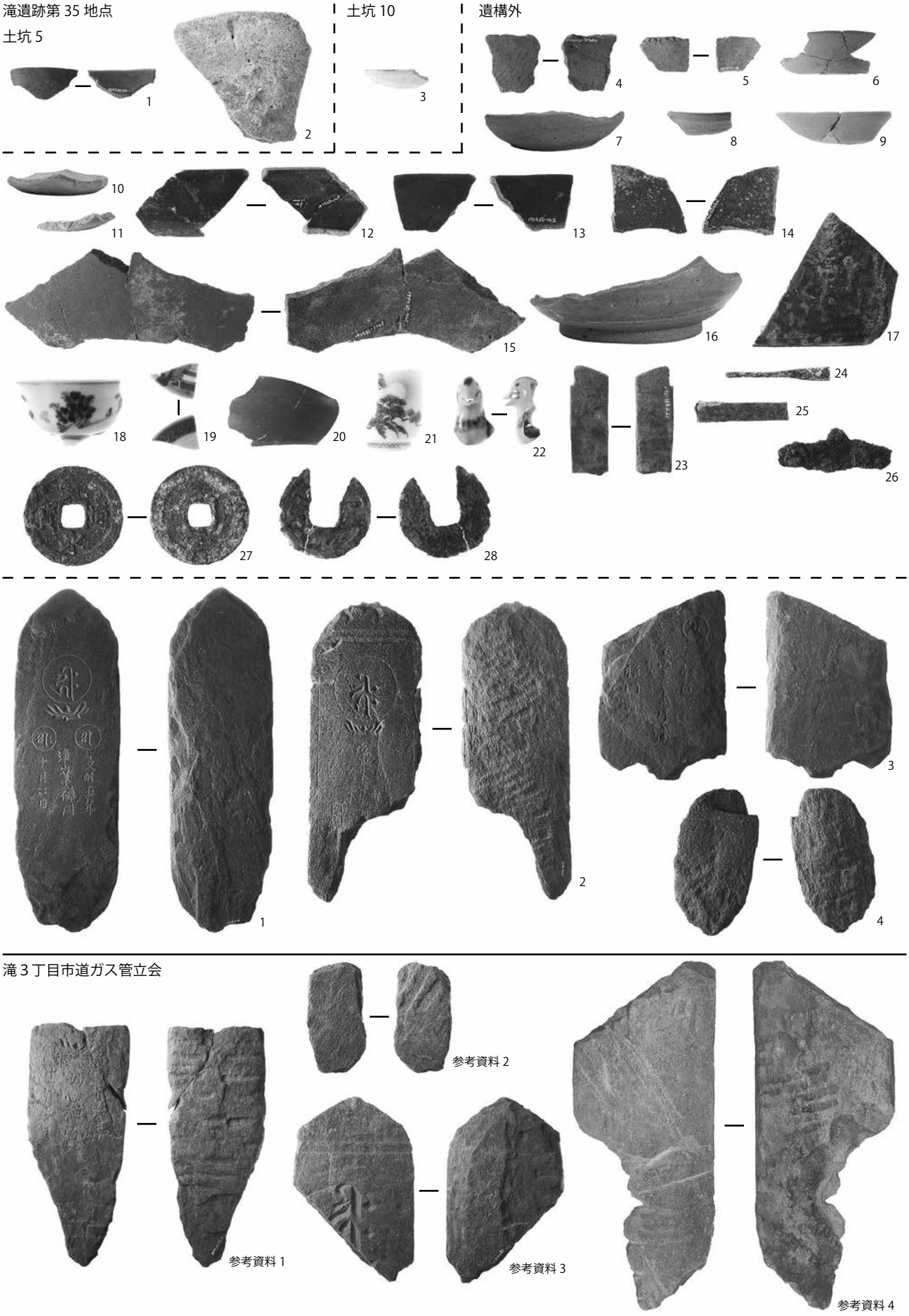
滝遺跡第 35 地点板碑 3 出土状況 1

滝遺跡第 35 地点板碑 3 出土状況 2

滝遺跡第 35 地点土坑 12(地下式抗) 完掘

滝遺跡第 35 地点調査風景 1

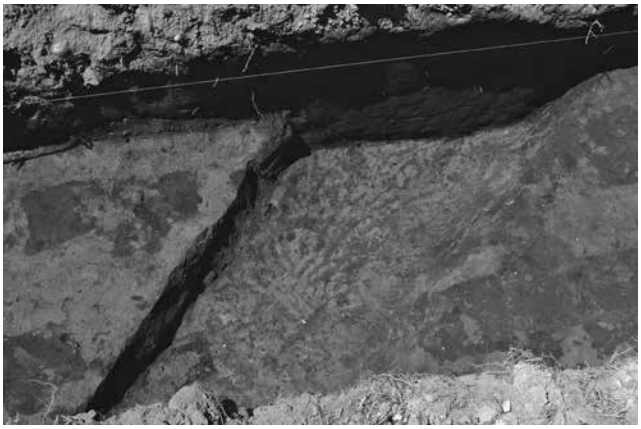
滝遺跡第 35 地点調査風景 2



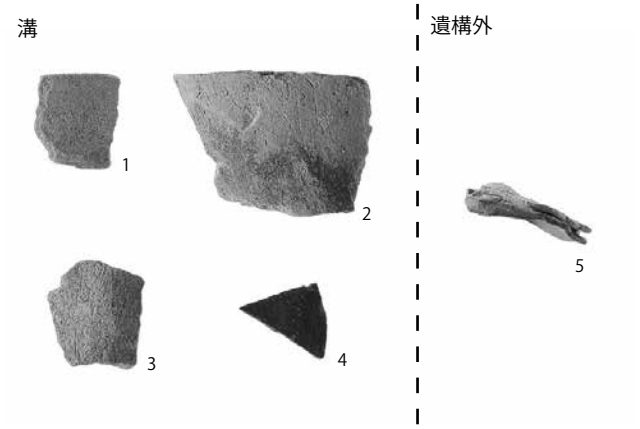
滝遺跡第 35 地点・滝 3 丁目市道ガス管立会出土遺物

長宮遺跡第 58 地点トレンチ 1

長宮遺跡第 58 地点トレンチ 3

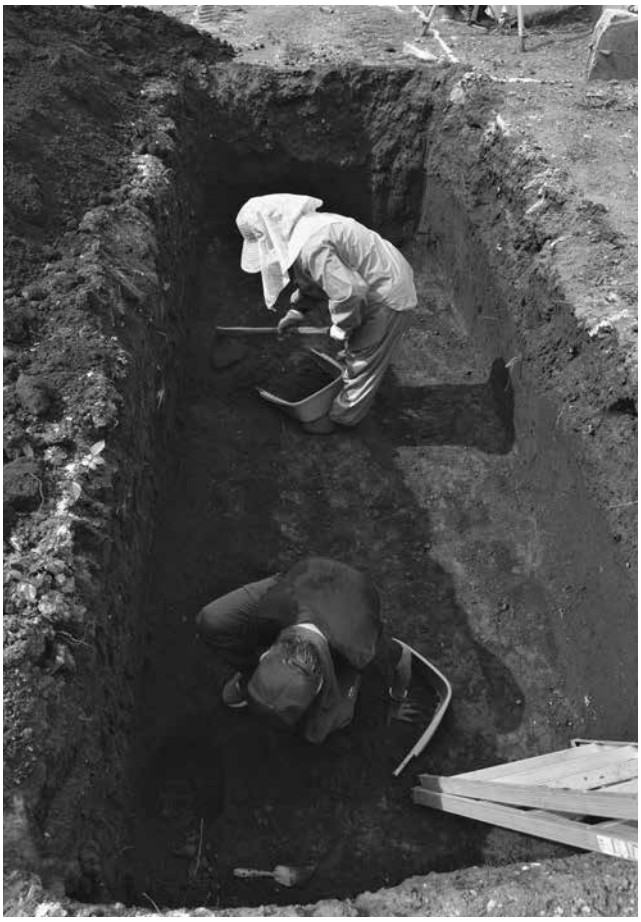


長宮遺跡第 58 地点溝



長宮遺跡第 58 地点出土遺物

亀居遺跡第 79 地点トレンチ 1



亀居遺跡第 79 地点調査風景

亀居遺跡第 80 地点トレンチ 1

亀居遺跡第 80 地点トレンチ 3

亀居遺跡第 80 地点トレンチ 2

鶴ケ舞遺跡第 30 地点トレンチ 1

鶴ケ舞遺跡第 30 地点トレンチ 2

鶴ケ舞遺跡第 31 地点トレンチ 1

鶴ケ舞遺跡第 32 地点トレンチ

鶴ケ舞遺跡第 33 地点トレンチ

鶴ケ舞遺跡第 33 地点トレンチ

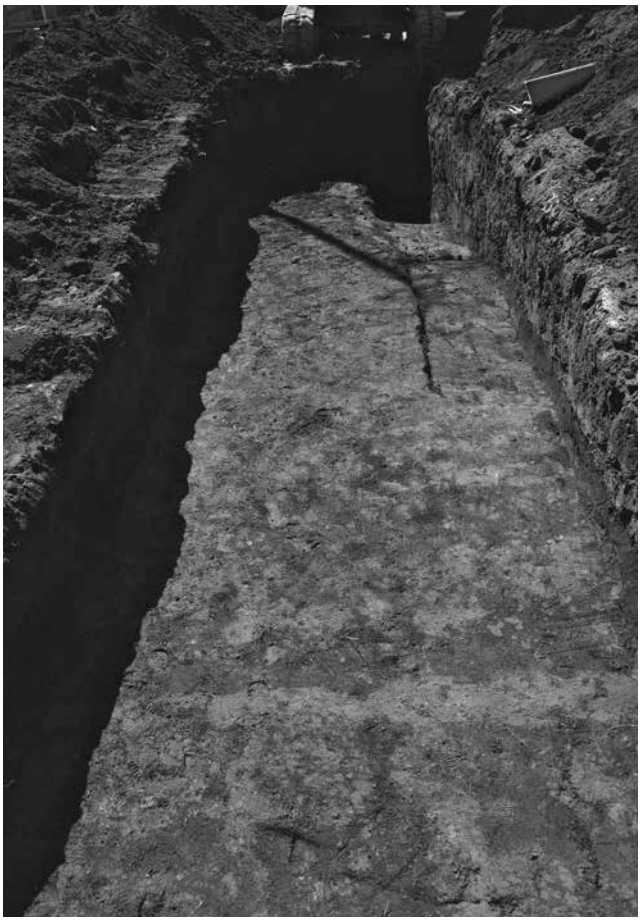
鶴ケ舞遺跡第 33 地点トレンチ全景

鶴ケ舞遺跡第 34 地点トレンチ 1

鶴ケ舞遺跡第 34 地点トレンチ 2

鶴ケ舞遺跡第 35 地点トレンチ 1

鶴ケ舞遺跡第 35 地点トレンチ 2



鶴ケ舞遺跡第 36 地点トレンチ

鶴ケ舞遺跡第 37 地点トレンチ

鶴ケ舞遺跡第 37 地点調査風景

松山遺跡第 95 地点トレンチ 4

松山遺跡第 96 地点トレンチ 1

松山遺跡第 96 地点堀跡

松山遺跡第 97 地点トレンチ 1

松山遺跡第 98 地点トレンチ 1

松山遺跡第 98 地点トレンチ 2

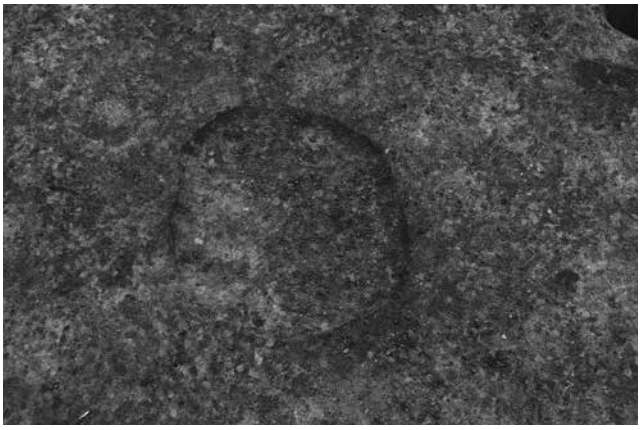
遺構外

松山遺跡第 98 地点出土遺物

松山遺跡第 100 地点 H53 号住居跡完掘

松山遺跡第 100 地点遺物出土状況 1

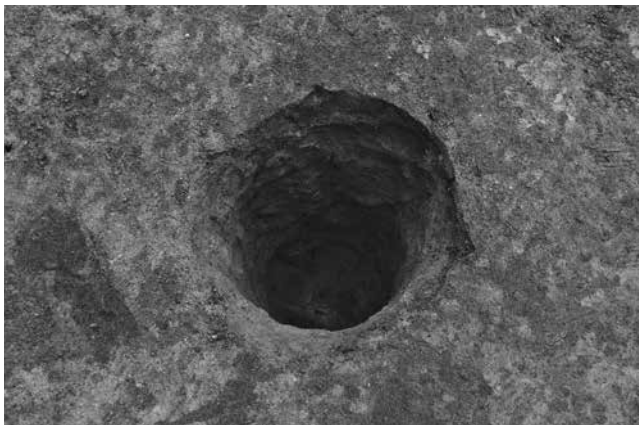
松山遺跡第 100 地点遺物出土状況 2



松山遺跡第 100 地点住居内炉完掘

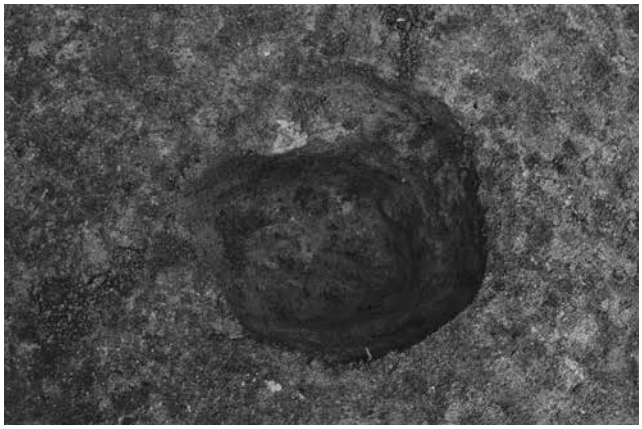
松山遺跡第 100 地点 H53 号住居跡掘方完掘

松山遺跡第 100 地点遺構検出状況



松山遺跡第 100 地点ピット 3

松山遺跡第 100 地点ピット 4



松山遺跡第 100 地点ピット 5

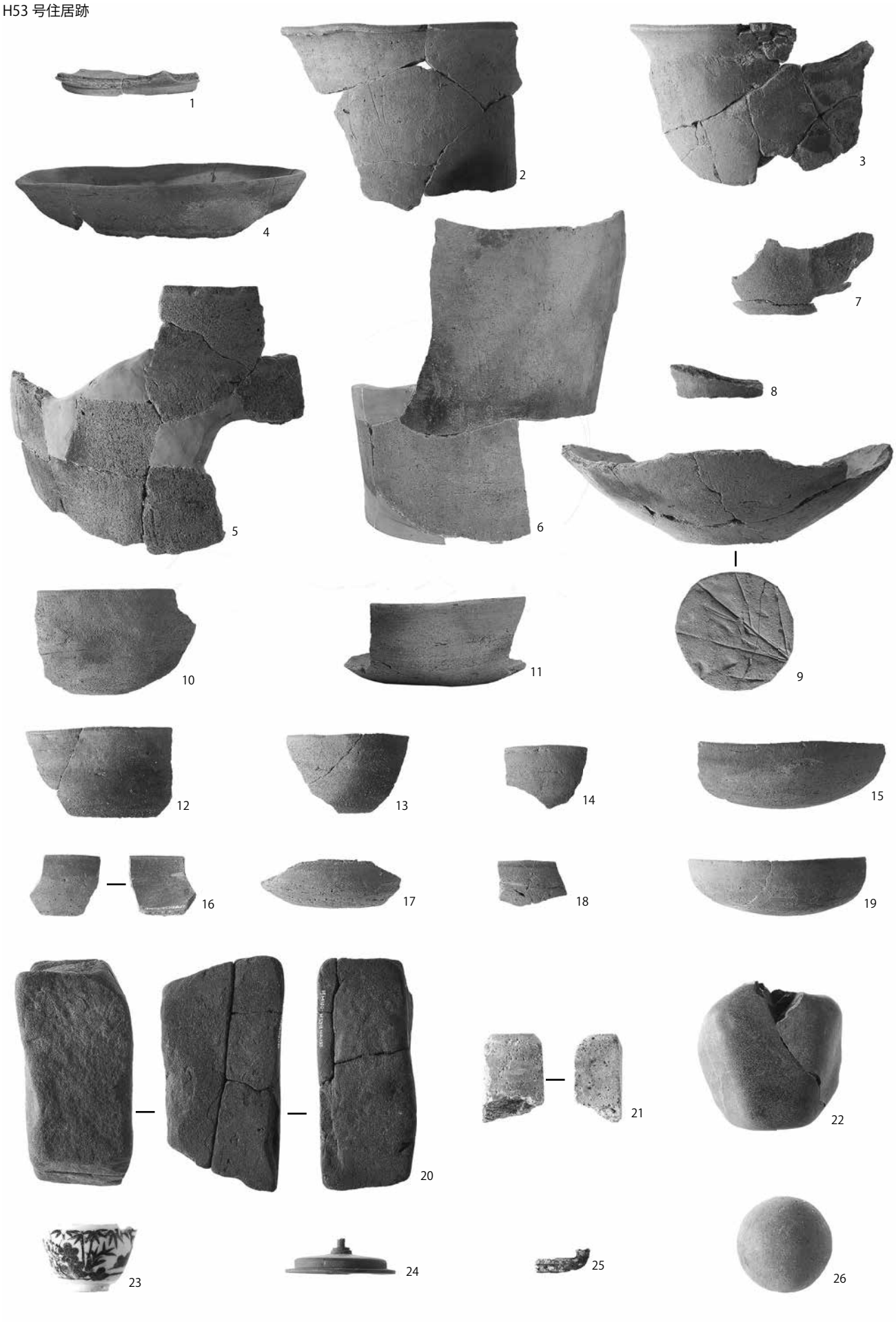
松山遺跡第 100 地点炭化物出土状況

松山遺跡第 100 地点調査風景

松山遺跡第 100 地点調査風景②

松山遺跡第 100 地点調査風景③

H53 号住居跡



松山遺跡第 100 地点出土遺物

松山遺跡第 101 地点トレンチ 1

松山遺跡第 101 地点トレンチ 6

松山遺跡第 101 地点土坑 1

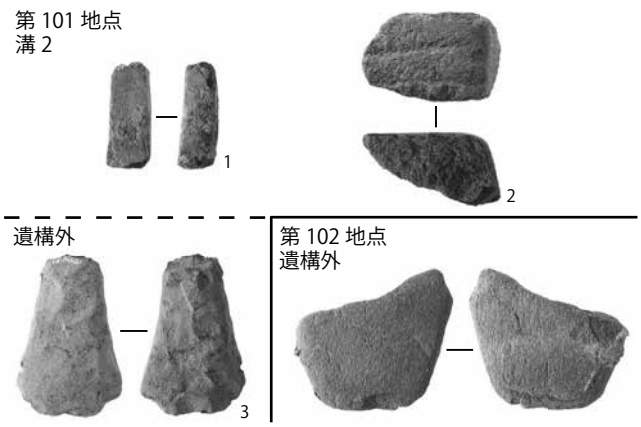
松山遺跡第 101 地点土坑 2

松山遺跡第 101 地点土坑 3

松山遺跡第 101 地点土坑 4・5

松山遺跡第 101 地点トレンチ 4 溝

松山遺跡第 101 地点トレンチ 7 溝



松山遺跡第 101・102 地点出土遺物

松山遺跡第 102 地点トレンチ

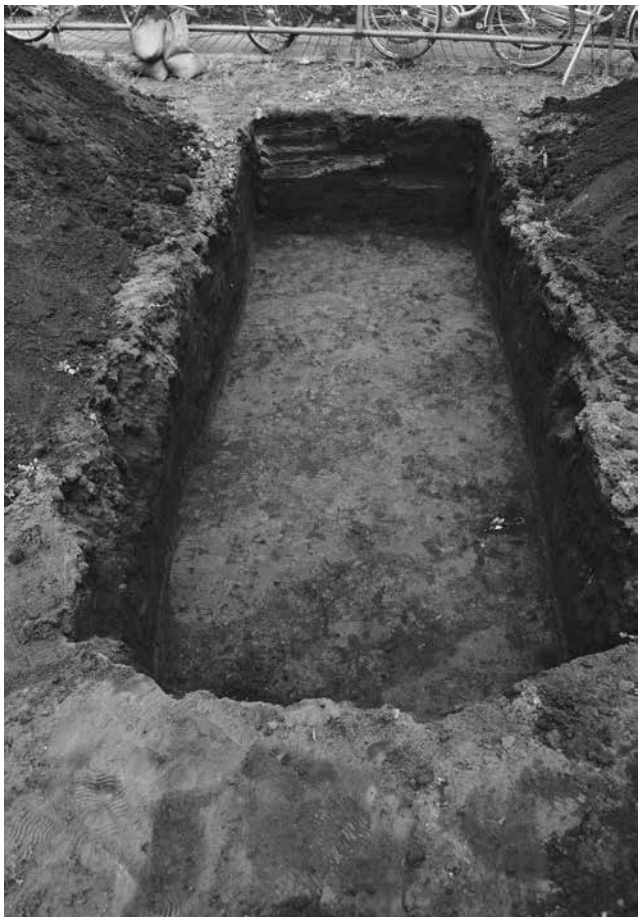
江川南遺跡第 28 地点トレンチ 5

江川東遺跡第 25 地点トレンチ

江川東遺跡第 26 地点トレンチ 1

江川東遺跡第 26 地点トレンチ 2

江川東遺跡第 26 地点調査風景



東久保遺跡第 76 地点トレンチ 1

東久保遺跡第 76 地点トレンチ 2

東久保遺跡第 76 地点トレンチ 4

東久保遺跡第 76 地点トレンチ 2 溝

東久保遺跡第 77 地点トレンチ 1

東久保遺跡第 77 地点トレンチ 2

亀久保堀跡遺跡第 33 地点トレンチ

亀久保堀跡遺跡第 33 地点堀跡土層

亀久保堀跡遺跡第 33 地点堀跡全景

東久保西遺跡第 24 地点トレンチ 4

東久保西遺跡第 24 地点トレンチ 5

東久保西遺跡第 25 地点トレンチ 1

東久保西遺跡第 25 地点トレンチ 3

東久保西遺跡第 25 地点トレンチ 4

東久保西遺跡第 25 地点トレンチ 5

東久保西遺跡第 25 地点トレンチ 6

東久保西遺跡第 25 地点トレンチ 7

駒林遺跡第 38 地点トレンチ 1

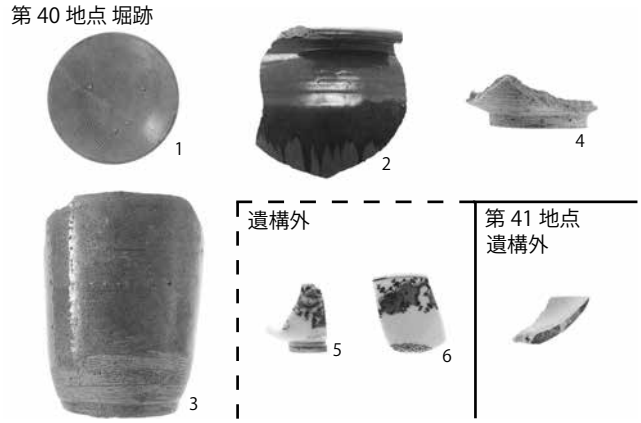
駒林遺跡第 39 地点トレンチ 1

駒林遺跡第 40 地点トレンチ 1

駒林遺跡第 40 地点トレンチ 2

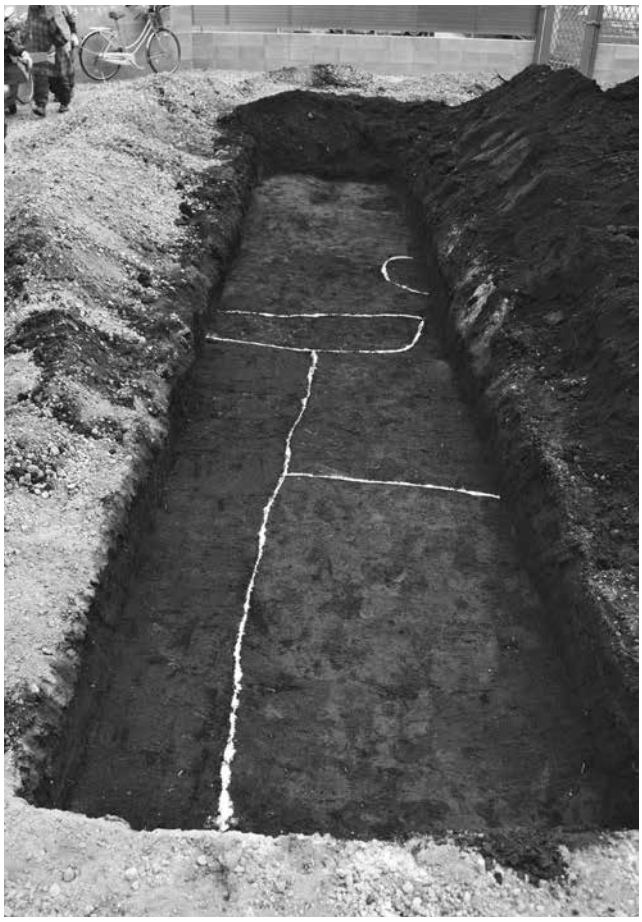
駒林遺跡第 40 地点トレンチ 3

駒林遺跡第 40 地点トレンチ 5



駒林遺跡第 40・41 地点出土遺物

駒林遺跡第 40 地点堀跡完掘



駒林遺跡第 41 地点トレンチ 1

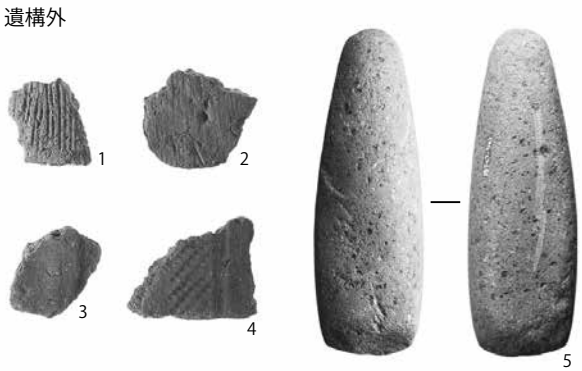
駒林遺跡第 41 地点トレンチ 2

福岡新田遺跡第 7 地点トレンチ 2

福岡新田遺跡第 7 地点ピット 1

福岡新田遺跡第 7 地点ピット 2

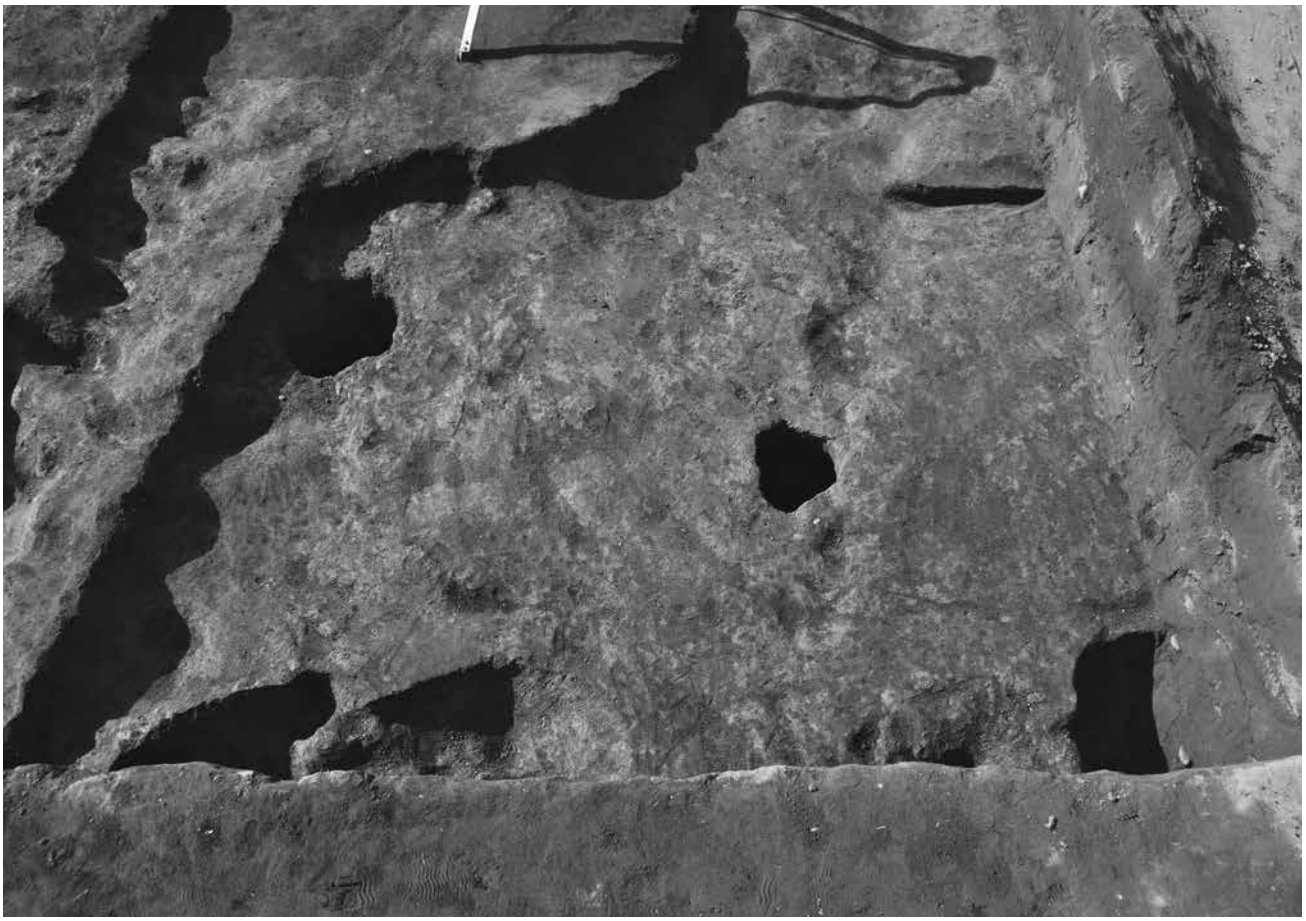
福岡新田遺跡第 7 地点ピット 3



福岡新田遺跡第 7 地点出土遺物

東久保南遺跡第 44 地点トレンチ 1

東久保南遺跡第 44 地点出土遺物



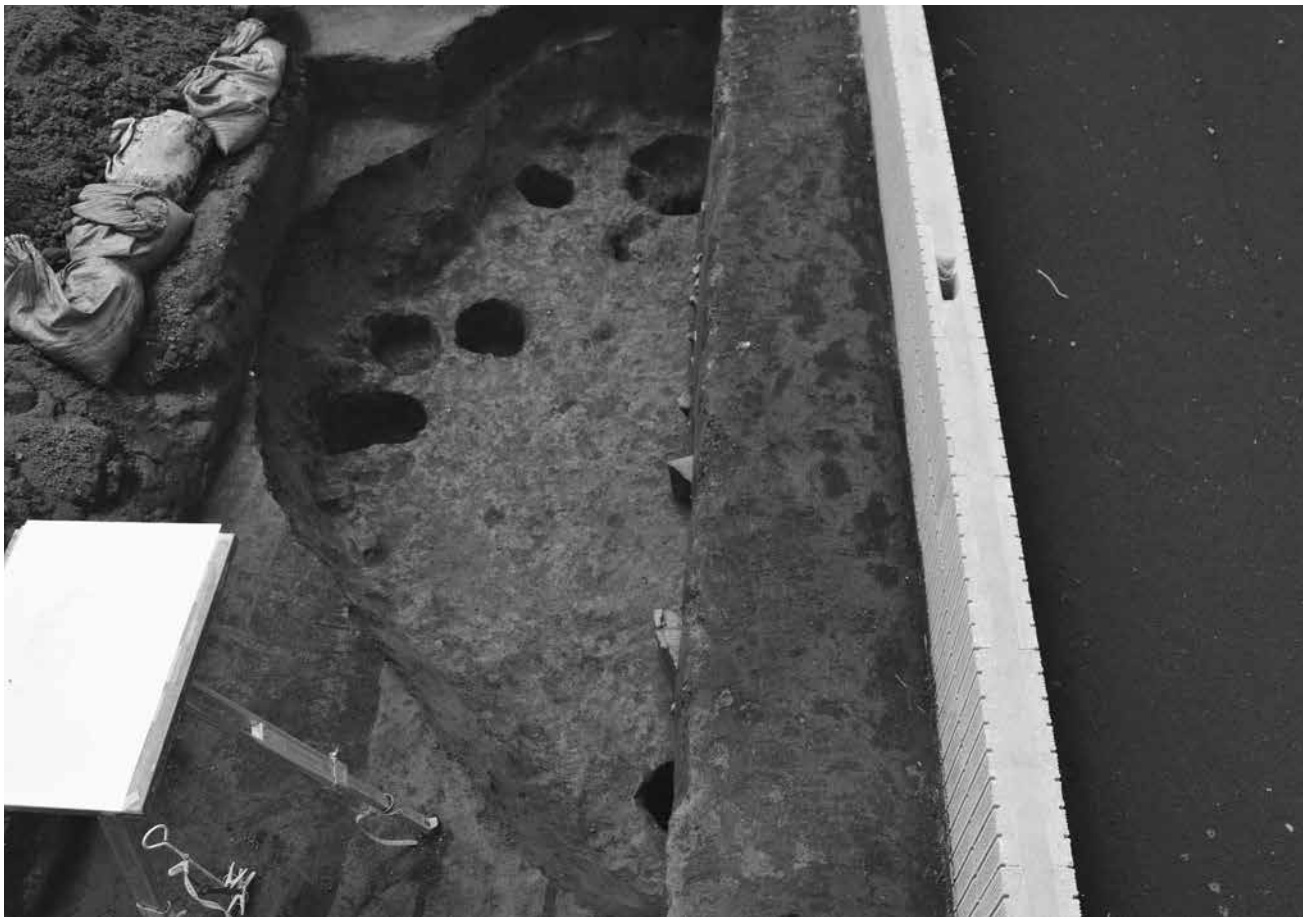
西ノ原遺跡第 175 地点 68 号住居跡完掘

西ノ原遺跡第 175 地点 68 号住居跡遺物出土状況

西ノ原遺跡第 175 地点 68 号住居炉完掘

西ノ原遺跡第 175 地点 68 号住居跡ピット 1

西ノ原遺跡第 175 地点 68 号住居跡ピット 2



西ノ原遺跡第 175 地点 217 号住居跡完掘

西ノ原遺跡第 175 地点 217 号住居跡遺物出土状況

西ノ原遺跡第 175 地点 217 号住居跡

西ノ原遺跡第 175 地点 217 号住居跡ピット 5

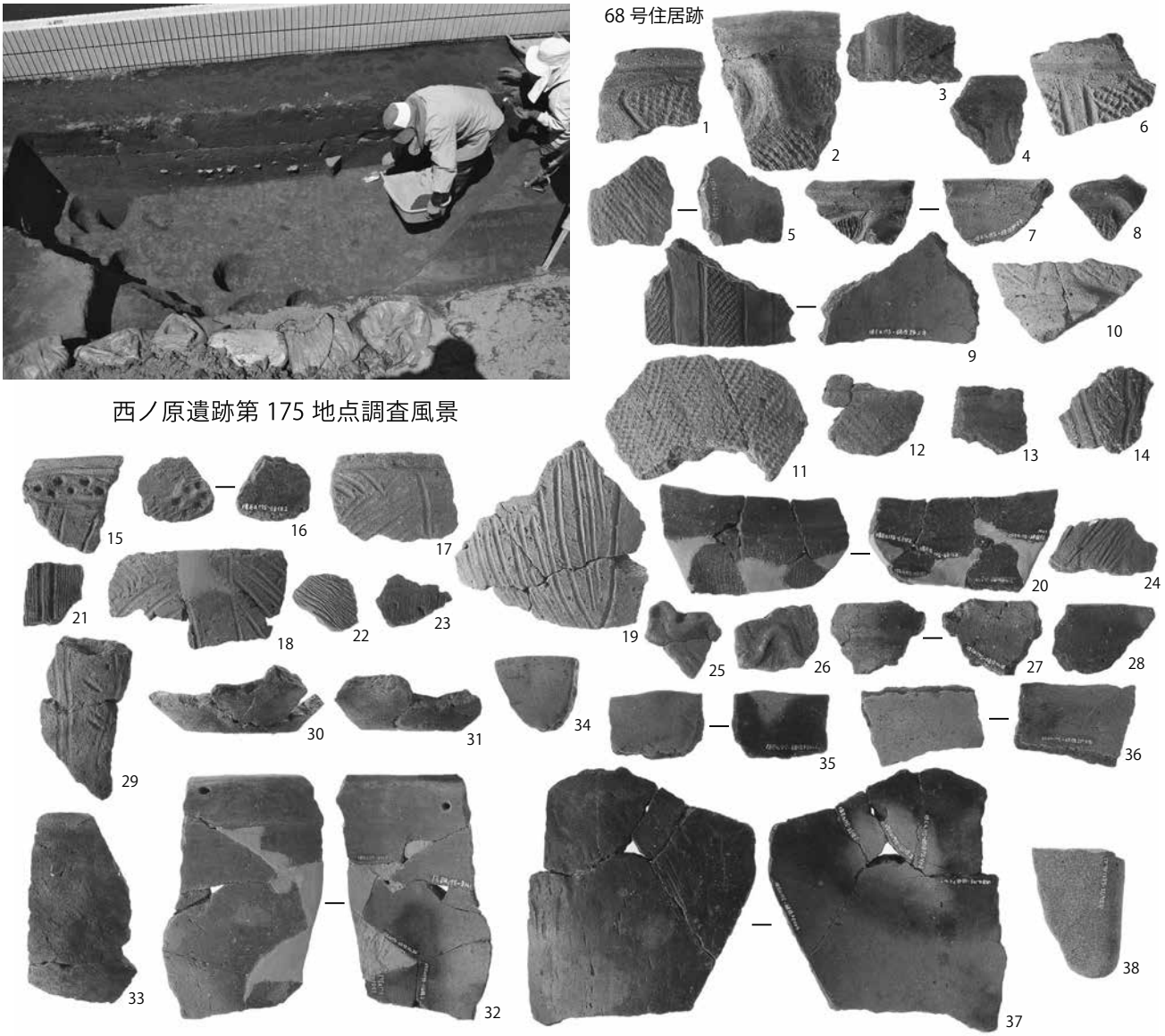
西ノ原遺跡第 175 地点 217 号住居跡ピット 6

西ノ原遺跡第 175 地点溝

西ノ原遺跡第 175 地点本調査

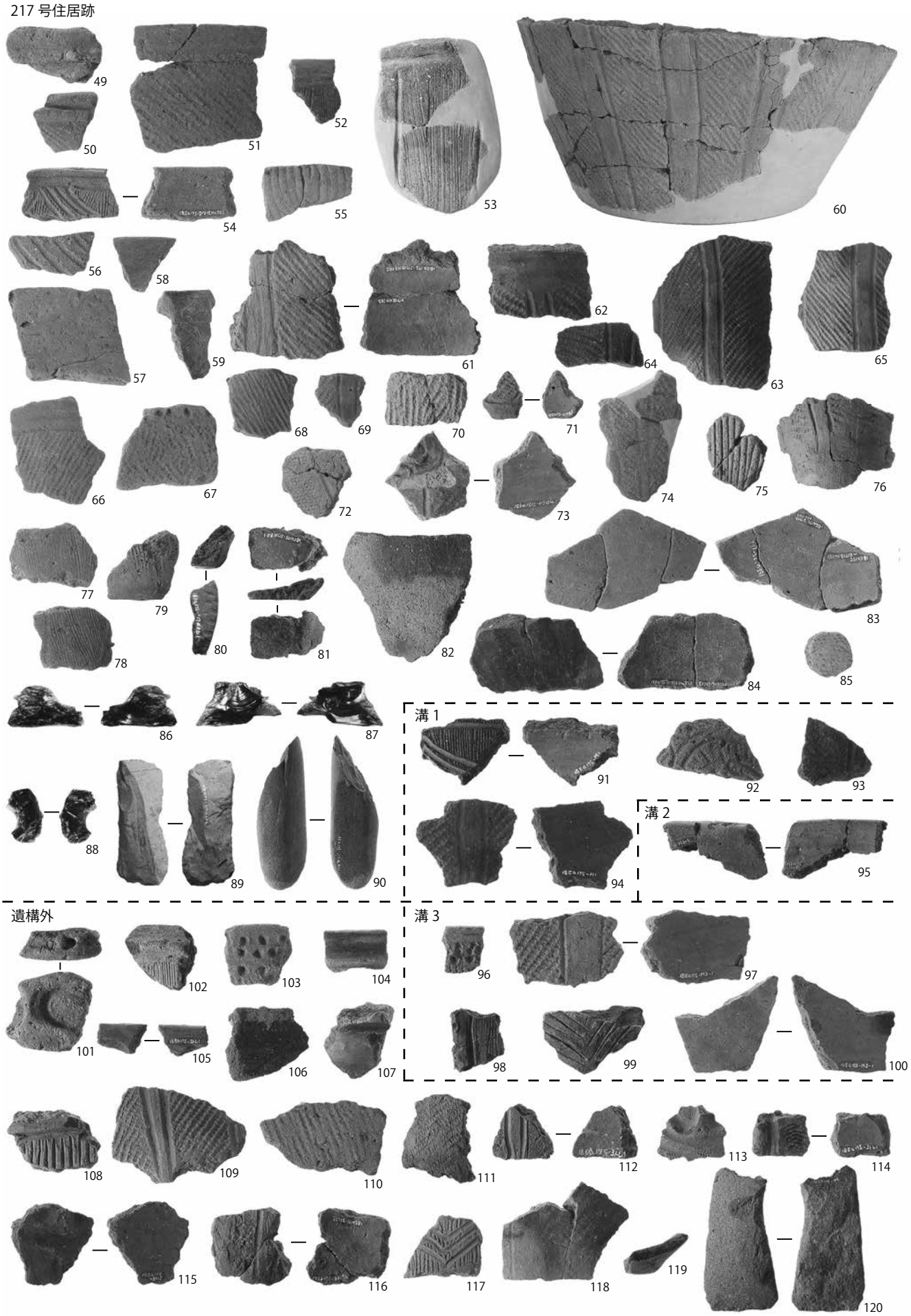
西ノ原遺跡第 175 地点調査風景

68 号住居跡



217 号住居跡

西ノ原遺跡第 175 地点出土遺物



西ノ原遺跡第 175 地点出土遺物

西ノ原遺跡第 176 地点トレンチ 2

西ノ原遺跡第 176 地点トレンチ 3

西ノ原遺跡第 177 地点トレンチ 2

遺構外

西ノ原遺跡第 177 地点出土遺物

西ノ原遺跡第 178 地点トレンチ 4

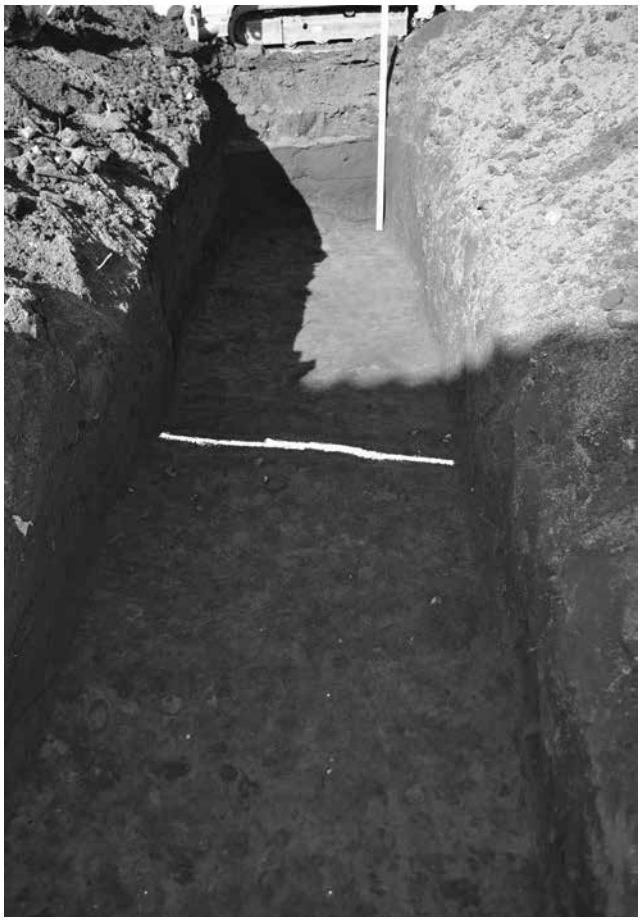
中沢前遺跡第 32 地点トレンチ 1

中沢前遺跡第 32 地点トレンチ 2

中沢前遺跡第 33 地点トレンチ 1

神明後遺跡第 56 地点トレンチ 1

神明後遺跡第 56 地点トレンチ 2

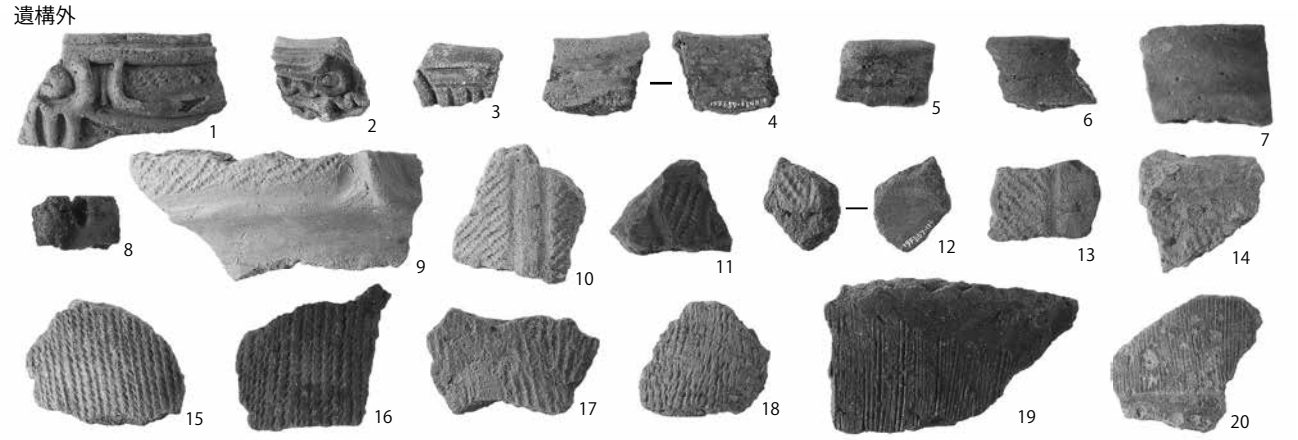


神明後遺跡第 57 地点トレンチ 1

神明後遺跡第 57 地点遺物出土状況

神明後遺跡第 57 地点調査風景

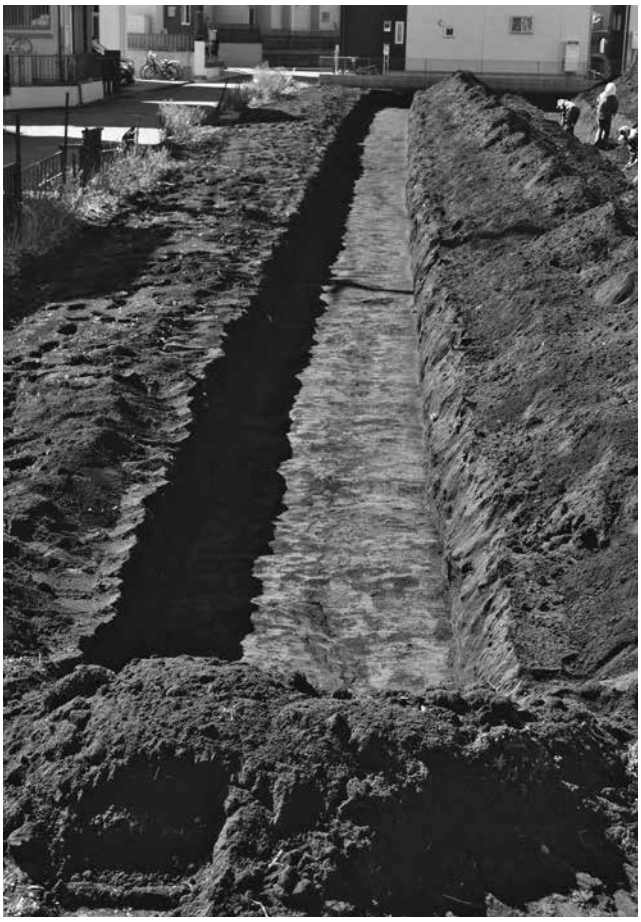
遺構外



神明後遺跡第 57 地点出土遺物

苗間東久保遺跡第 34 地点トレンチ 2

浄禅寺跡遺跡第 51 地点トレンチ



浄禅寺跡遺跡第 52 地点トレンチ 1

浄禅寺跡遺跡第 52 地点ピット 1

浄禅寺跡遺跡第 52 地点ピット 2

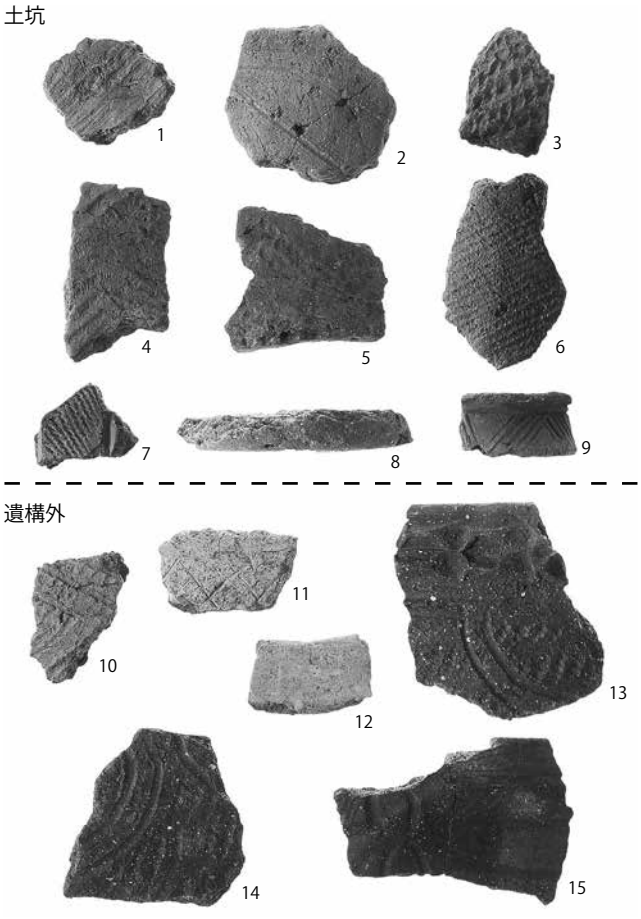
浄禅寺跡遺跡第 53 地点トレンチ 1

浄禅寺跡遺跡第 53 地点トレンチ 2

浄禅寺跡遺跡第 54 地点トレンチ 1

浄禅寺跡遺跡第 54 地点トレンチ 6

浄禅寺跡遺跡第 54 地点トレンチ 8



浄禅寺跡遺跡第 54 地点出土遺物

浄禅寺跡遺跡第 54 地点土坑 1・2

小田久保遺跡第 13 地点トレンチ 1

小田久保遺跡第 13 地点トレンチ 4

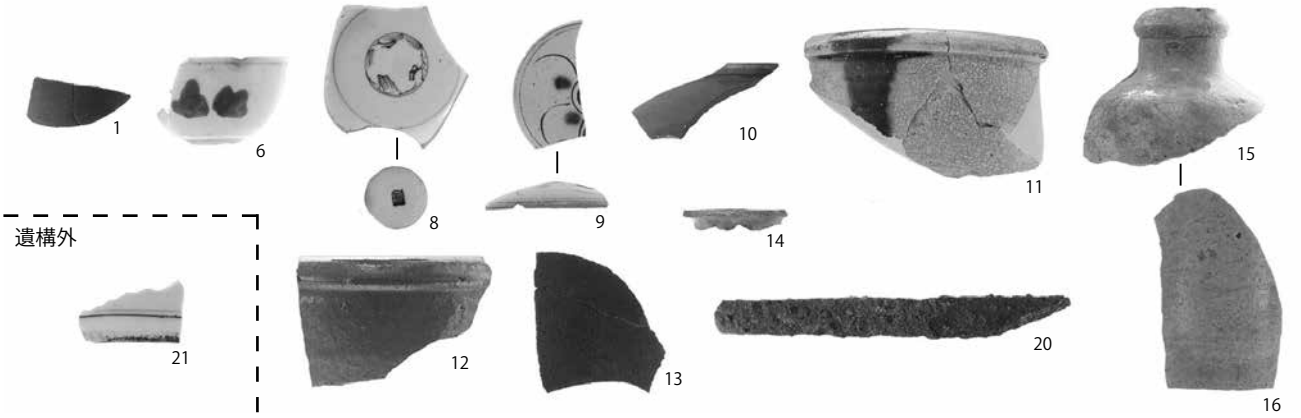
小田久保遺跡第 13 地点トレンチ 2

小田久保遺跡第 14 地点トレンチ

大井宿遺跡第 19 地点トレンチ

大井宿遺跡第 19 地点土坑

大井宿遺跡第 19 地点調査風景

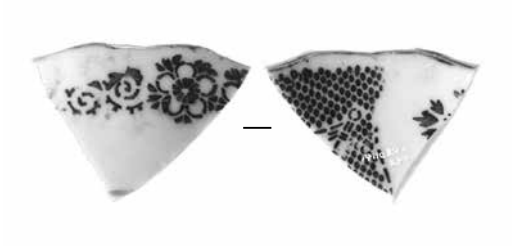


大井宿遺跡第 19 地点出土遺物

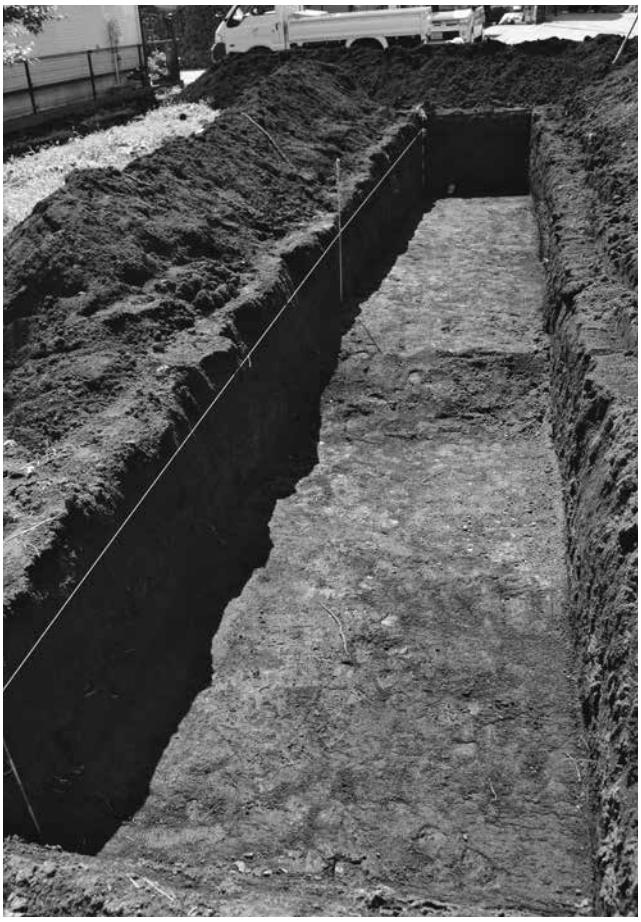
大井宿遺跡第 20 地点トレンチ 2

大井宿遺跡第 20 地点調査風景

遺構外



大井宿遺跡第 20 地点出土遺物



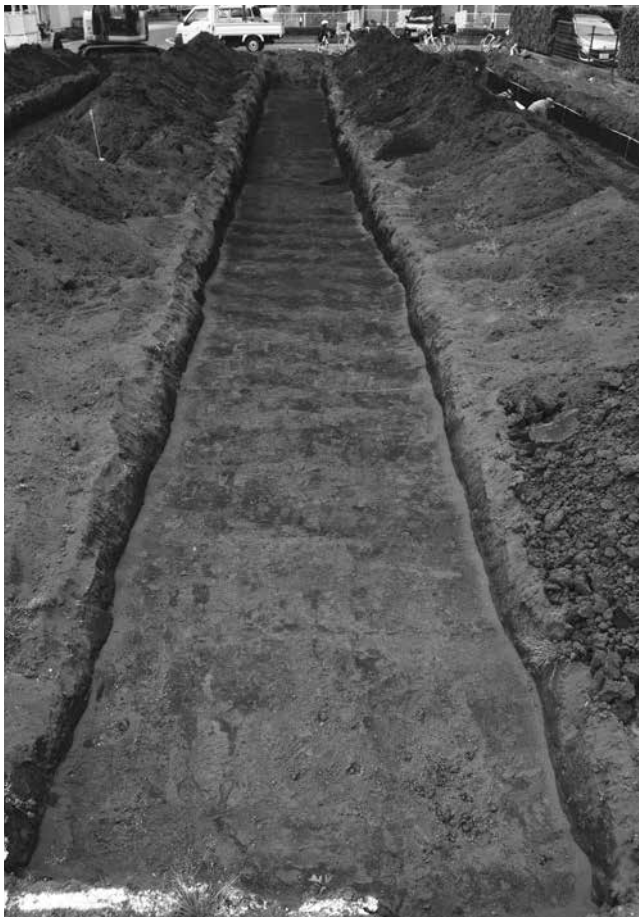
本村遺跡第 135 地点トレンチ 3

本村遺跡第 135 地点調査風景

遺構外

本村遺跡第 135 地点出土遺物

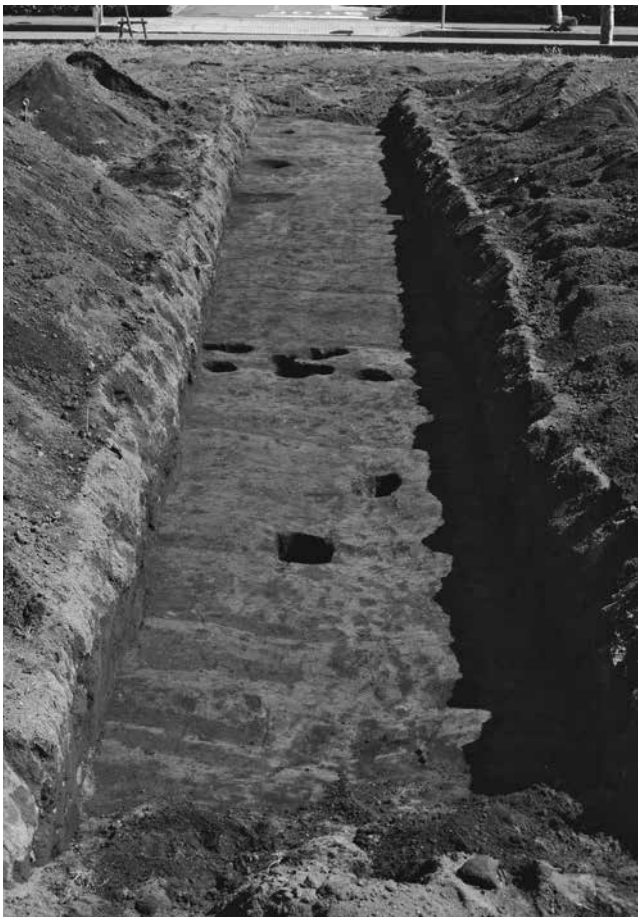
本村遺跡第 137 地点トレンチ 1



本村遺跡第 137 地点トレンチ 2

本村遺跡第 137 地点トレンチ 4

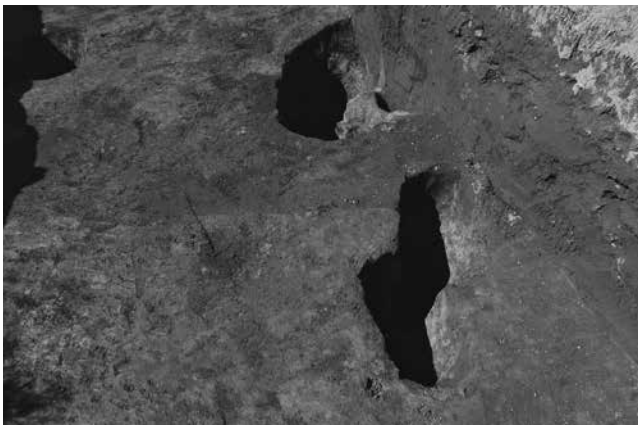
本村遺跡第 137 地点トレンチ 1 ピット全景



本村遺跡第 137 地点トレンチ 3 ピット全景

本村遺跡第 137 地点トレンチ 2 ピット全景

本村遺跡第 137 地点ピット 1



本村遺跡第 137 地点ピット 2・3・15・16

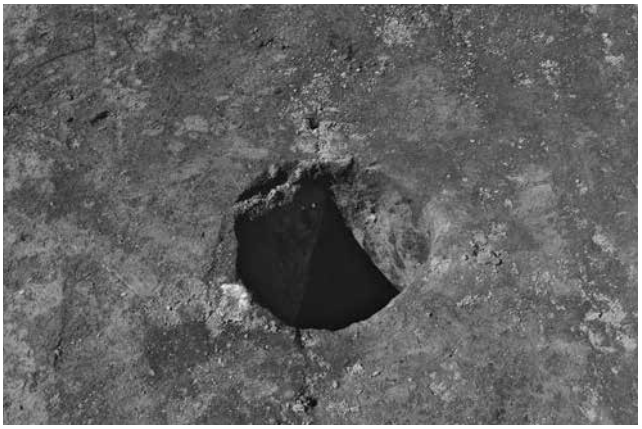
本村遺跡第 137 地点ピット 4

本村遺跡第 137 地点ピット 5

本村遺跡第 137 地点ピット 6

本村遺跡第 137 地点ピット 7 ～ 12・18

本村遺跡第 137 地点ピット 13・14

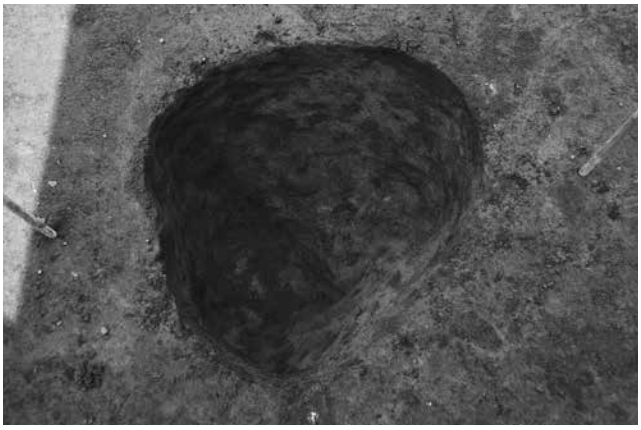


本村遺跡第 137 地点ピット 17

本村遺跡第 137 地点ピット 19

大井戸上遺跡第 8 地点トレンチ 1

大井戸上遺跡第 8 地点トレンチ 2



大井戸上遺跡第 8 地点ピット

大井戸上遺跡第 8 地点トレンチ 1

大井戸上遺跡第 9 地点トレンチ 1

大井戸上遺跡第 9 地点トレンチ 2

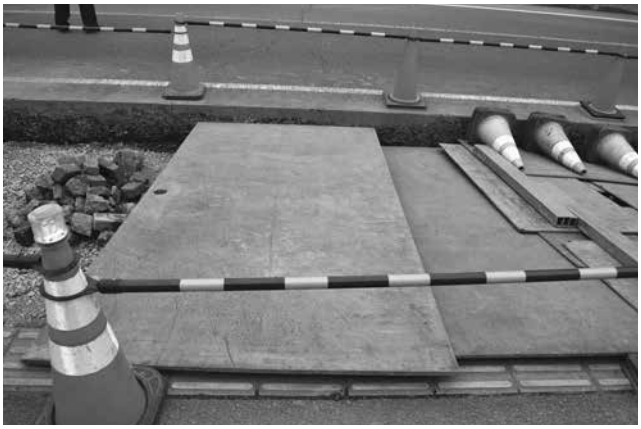
大井戸上遺跡第 9 地点トレンチ 2 堀込み

大井戸上遺跡第 10 地点トレンチ 1

大井戸上遺跡第 10 地点トレンチ 2

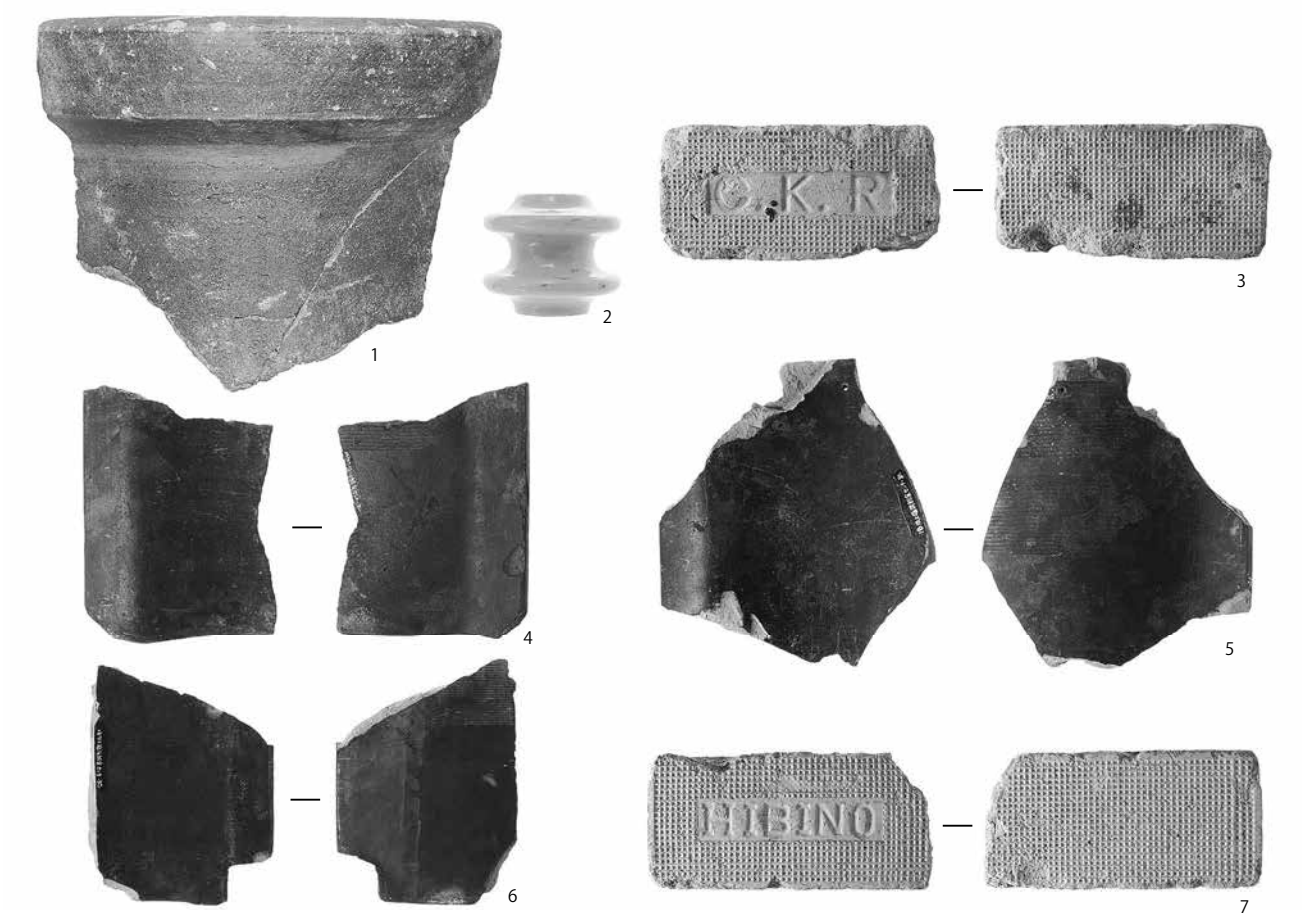
防火水槽検出状況

旧上野台給食センター調査風景



福岡二丁目地内ガス管工事風景

レンガ出土状況



東京第一陸軍造兵廠川越製造所 (火工廠) 関連工事立会出土遺物

報告書抄録

書　　名	市内遺跡群 25	シリーズ名	ふじみ野市埋蔵文化財調査報告第 26 集
編　集　者	岡崎裕子	著　者	岡崎裕子・長谷川義行・坪田幹男
編集機関	ふじみ野市教育委員会	所在地	〒 356-8501 ふじみ野市福岡一丁目 1 番 1 号 TEL 049（261）2611
発　行　日	2021 年（令和 3 年）3 月 25 日		

所収遺跡（しょしゅういせき） 地点名（ちてんめい）	所 在 地	市町村コード	北緯	調査開始	調査面積	調査原因
		遺跡コード	東経	調査終了	㎡	調査担当者
	種別 / 主な時代 / 主な遺構 / 主な遺物					
	特記事項					
北野遺跡（きたのいせき） 第 48 地点	埼玉県ふじみ野市北野（きたの）二丁目	112453	35°52'40"	20190828	55.5	共同住宅
	2130-1	25-002	139°30'45"	20190828		坪田幹男
	散布地 / 縄文時代 / 土坑 / 縄文土器片					
	確認された遺物は、当地域の集落範囲を知る上で貴重である。					
北野遺跡（きたのいせき） 第 49 地点	埼玉県ふじみ野市北野（きたの）一丁目	112453	35°52'38"	20200129	71.96	分譲住宅
	3109-8・15	25-002	139°30'39"	20200129		坪田幹男
	散布地 / 縄文時代 / 土坑 / 遺物なし					
	確認された土坑は、当地域の遺構の広がりを知る上で貴重である。					
川崎遺跡（かわさきいせき） 第 48 地点	埼玉県ふじみ野市川崎字宅地添（かわさきあざたくちぞえ）	112453	35°53'18"	20180827	41	個人住宅
	234-1	25-003	139°31'10"	20180830		坪田幹男
	集落跡 / 縄文時代 / 縄文時代住居跡 1 軒、溝状遺構 / 縄文土器片・須恵器・石器					
	確認された縄文時代住居跡は、当地域の集落範囲を知る上で貴重である。					
川崎遺跡（かわさきいせき） 第 52 地点	埼玉県ふじみ野市川崎字宮前（かわさきあざみやまえ）	112453	35°53'10"	20190522	172.4	個人住宅
	99-1	25-003	139°31'10"	20190619		岡崎裕子・坪田幹男
	集落跡 / 縄文時代 / 縄文時代住居跡 1 軒、古代住居跡 1 軒、土坑 / 縄文土器・土師器・須恵器・陶磁器・瓦片					
	確認された縄文時代住居跡は、当地域の集落範囲を知る上で貴重である。					
川崎遺跡（かわさきいせき） 第 53 地点	埼玉県ふじみ野市川崎字宮後（かわさきあざみやうしろ）	112453	35°53'15"	20191105	47.5	分譲住宅
	166-1・9・10・11	25-003	139°31'06"	20191106		坪田幹男
	集落跡 / 奈良・平安時代 / 堀跡 / 縄文土器・須恵器・陶器片					
	確認された堀跡は、当地域の土地利用を知る上で貴重である。					
川崎遺跡（かわさきいせき） 第 55 地点	埼玉県ふじみ野市川崎字宅地添（かわさきあざたくちぞえ）	112453	35°53'17"	20200316	22.35	個人住宅
	232-4、233-1 の各一部	25-003	139°31'11"	20200317		坪田幹男
	集落跡 / 古代以降 / 溝 2 条 / 須恵器・焙烙					
	確認された古代以降の溝跡は、当地域の土地利用を知る上で貴重である。					
ハケ遺跡（いせき） 第 26 地点	埼玉県ふじみ野市福岡（ふくおか）三丁目	112453	35°53'02"	20190625	41.13	分譲住宅
	1228-48	25-005	139°31'24"	20190626		坪田幹男
	集落跡 / 縄文時代・奈良平安時代・近代 / 土坑、溝 / 須恵器坏・墨書土器・須恵器転用紡錘車					
	確認された溝は、当地域の土地利用を知る上で貴重である。また、出土した墨書土器及び須恵器転用紡錘車は、当時の生活について知る上で貴重な資料である。					
ハケ遺跡（いせき） 第 27 地点	埼玉県ふじみ野市福岡（ふくおか）三丁目	112453	35°53'06"	20200325	61.80	共同住宅
	2061-2	25-005	139°31'23"	20200327		坪田幹男
	集落跡 / 縄文時代 / 遺構なし / 縄文土器・石器					
	確認された遺物は、当地域の土地利用と集落形成を知る上で貴重である。					

所収遺跡 地点名	所 在 地	市町村コード	北緯	調査開始	調査面積	調査原因
		遺跡コード	東経	調査終了	㎡	調査担当者
	種別 / 主な時代 / 主な遺構 / 主な遺物					
	特記事項					
権現山遺跡 第 28 地点	埼玉県ふじみ野市滝一丁目 3-3	112453	35°52'45"	20190225	131.99	分譲住宅
		25-007	139°31'34"	20190226		岡崎裕子
	集落跡 / 時期不明 / ピット 5 基 / 縄文土器片・陶器					
	確認された遺構は、当地域の土地利用を知る上で貴重である。					
滝遺跡 第 33 地点	埼玉県ふじみ野市滝一丁目 1-9 の一部	112453	35°52'43"	20181214	38.15	個人住宅
		25-008	139°31'34"	20181214		坪田幹男
	集落跡 / 時期不明 / ピット 4 基 / 縄文土器片・土師器・須恵器					
	確認された遺構は、当地域の集落範囲及び集落形成を知る上で貴重である。					
滝遺跡 第 34 地点	埼玉県ふじみ野市滝一丁目 1-8	112453	35°52'42"	20190220	95.29	個人住宅兼診療所
		25-008	139°31'35"	20190412		坪田幹男
	集落跡 / 時期不明 / 遺構なし / 土師器・須恵器・石器					
	確認された遺物は、当地域の集落範囲及び土地利用を知る上で貴重である。					
滝遺跡 第 35 地点	埼玉県ふじみ野市滝一丁目 6-3	112453	35°52'47"	20200217	85.5	個人住宅
		25-008	139°31'39"	20200221		坪田幹男
	集落跡 / 中近世 / 土坑 (井戸・地下式坑)/ 縄文土器片・カワラケ・板碑・焙烙					
	確認された遺構は、当地域の集落範囲及び土地利用を知る上で貴重である。					
長宮遺跡 第 58 地点	埼玉県ふじみ野市長宮一丁目 1-7	112453	35°52'31"	20180702	58.7	寄宿舎
		25-009	139°31'42"	20180702		岡崎裕子
	集落跡 / 時期不明 / 溝 / 土師器・須恵器					
	確認された溝跡は、当地域の土地利用を知る上で貴重である。					
松山遺跡 第 96 地点	埼玉県ふじみ野市仲一丁目 1-34	112453	35°52'23"	20180820	31.95	分譲住宅
		25-010	139°31'56"	20180820		岡崎裕子
	集落跡 / 中近世 / 堀跡 / 遺物なし					
	確認された堀跡は、当地域の土地利用を知る上で貴重である。					
松山遺跡 第 100 地点	埼玉県ふじみ野市築地三丁目 1-5 の一部	112453	35°52'20"	20190808	45	個人住宅
		25-010	139°31'44"	20190823		坪田幹男
	集落跡 / 古代 / 古代住居跡 1 軒 / 須恵器・土師器・砥石・磁器・キセル					
	確認された古代住居跡は、当地域の集落範囲を知る上で貴重である。					
松山遺跡 第 101 地点	埼玉県ふじみ野市仲一丁目 2-52・54	112453	35°52'26"	20191030	222	分譲住宅
		25-010	139°31'58"	20191101		坪田幹男
	集落跡 / 近世 / 土坑 5 基・溝 2 条 / 石器・石製品					
	確認された遺構は、当地域の集落範囲と土地利用を知る上で貴重である。					
東久保遺跡 第 76 地点	埼玉県ふじみ野市ふじみ野二丁目 15-7	112453	35°51'45"	20190516	37.13	分譲住宅
		30-009	139°30'53"	20190516		坪田幹男
	集落跡 / 中近世以降 / 中近世以降の溝 1 条・ピット 7 基 / 遺物なし					
	確認された遺構は、当地域の土地利用を知る上で貴重である。					
亀久保堀跡遺跡 第 33 地点	埼玉県ふじみ野市ふじみ野二丁目 15-24	112453	35°51'45"	20181210	28.6	個人住宅
		30-006	139°30'51"	20181221		坪田幹男
	集落跡 / 中世 / 堀跡 / 遺物なし					
	確認された堀跡は、当地域の土地利用を知る上で貴重である。					

所収遺跡 地点名	所 在 地	市町村コード	北緯	調査開始	調査面積	調査原因
		遺跡コード	東経	調査終了	㎡	調査担当者
	種別 / 主な時代 / 主な遺構 / 主な遺物					
	特記事項					
駒林遺跡 第 40 地点	埼玉県ふじみ野市駒林元町一丁目 3-17・18	112453	35°52'01"	20190826	41.2	分譲住宅
		25-013	139°31'42"	20190826		坪田幹男
	集落跡 / 中近世 / 堀跡 / 陶磁器					
	確認された堀跡は、当地域の集落範囲と土地利用を知る上で貴重である。					
福岡新田遺跡 第 7 地点	埼玉県ふじみ野市駒林字寺脇 883-1	112453	35°52'13"	20190314	27.2	個人住宅
		25-015	139°32'04"	20190326		坪田幹男
	集落跡 / 縄文時代 / ピット 3 基 / 縄文土器片・石器					
	確認されたピット群は、当地域の集落範囲を知る上で貴重である。					
西ノ原遺跡 第 175 地点	埼玉県ふじみ野市旭一丁目 15-7	112453	35°51'23"	20180409	34.35	個人住宅
		30-001	139°31'09"	20180420		岡崎裕子
	集落跡 / 縄文時代 / 縄文時代住居跡 2 軒・溝 3 条 / 縄文土器・石器					
	確認された縄文時代住居跡は、当地域の集落範囲及び集落形成を知る上で貴重である。					
神明後遺跡 第 57 地点	埼玉県ふじみ野市苗間字神明後 310-9	112453	35°51'41"	20200121	15.46	個人住宅
		30-041	139°31'42"	20200121		坪田幹男
	集落跡 / 縄文時代 / 遺構なし / 縄文土器					
	確認された遺物は、当地域の集落範囲及び集落形成を知る上で貴重である。					
浄禅寺跡遺跡 第 54 地点	埼玉県ふじみ野市苗間 584	112453	35°51'42"	20191016	140.13	分譲住宅
		30-022	139°31'59"	20191021		坪田幹男
	集落跡 / 縄文時代 / 土坑 / 縄文土器片					
	確認された遺構は、当地域の集落範囲及び集落形成を知る上で貴重である。					
大井宿遺跡 第 19 地点	埼玉県ふじみ野市大井字西原 1069-3	112453	35°51'02"	20190123	18	個人住宅
		30-010	139°31'00"	20190123		坪田幹男
	集落跡 / 近世・近代 / 土坑 2 基 / 陶磁器					
	確認された近世近代土坑のは、当地域の集落範囲及び集落形成を知る上で貴重である。					
本村遺跡 第 137 地点	埼玉県ふじみ野市市沢二丁目 9-1・8・9	112453	35°51'08"	20190408	181.99	分譲住宅
		30-034	139°31'22"	20190409		坪田幹男
	集落跡 / 旧石器時代・中近世 / ピット 19 基 / 遺物なし					
	確認された礫群は、当地域の土地利用を考える上で貴重である。					
東京第一陸軍造幣廠川越製造所(火工廠)	埼玉県ふじみ野市福岡一丁目 1500-81	112453	35°52'42"	20180710	—	旧上野台給食センター解体工事
			139°31'21"	20180710		岡崎裕子・坪田幹男
	集落跡 / 縄文時代 / 遺構なし / ヒューム管・レンガ・瓦・碍子					
	確認されたピット及び縄文土器は、当地域の集落範囲及び集落形成を把握する上で貴重である。					
東京第一陸軍造幣廠川越製造所(火工廠)	埼玉県ふじみ野市福岡二丁目	112453	35°52'45"	20200127	—	福岡二丁目地内ガス管新設工事
			139°31'19"	20200127		岡崎裕子・長谷川義行
	集落跡 / 縄文時代 / 遺構なし / レンガ					
	確認されたピット及び縄文土器は、当地域の集落範囲及び集落形成を把握する上で貴重である。					

ふじみ野市埋蔵文化財調査報告　第 26 集

埼玉県ふじみ野市　市内遺跡群 25

2021 年 3 月 20 日印刷
2021 年 3 月 25 日発行

発　行　ふじみ野市教育委員会

〒 356-8501　埼玉県ふじみ野市福岡一丁目 1 番 1 号
TEL　049-261-2611
FAX　049-261-5100

印　刷　関東図書株式会社